

外国語学部 英米学科 (2017年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 PLS110F 小林 道彦	1学期	1	2	1
	1年				
	異文化理解の基礎 ANT110F 神原 ゆうこ	1学期	1	2	2
	1年				
	ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子	1学期	1	2	3
	1年				
	国際学入門 IRL100F 伊野 憲治	2学期	1	2	4
	1年				
	生活世界の哲学 PHR110F 伊原木 大祐	2学期	1	2	5
	1年				
	日本の防衛 PLS111F 戸蒔 仁司	2学期	1	2	6
	1年				
	生命と環境 BIO100F 日高 京子 他	1学期	1	2	7
	1年				
	情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	8
	1年				
	環境問題概論 ENV100F 廣川 祐司	1学期	1	2	9
	1年				
	可能性としての歴史 HIS200F 小林 道彦	2学期	2	2	10
	2年				
現代社会と文化 ANT210F 神原 ゆうこ	2学期	2	2	11	
2年					
言語と認知 LIN210F 漆原 朗子 他	2学期	2	2	12	
2年					
共生社会論 SOW200F 伊野 憲治	2学期	2	2	13	
2年					
共同体と身体 PHR210F 伊原木 大祐	2学期	2	2	14	
2年					
戦争論 PLS210F 戸蒔 仁司	2学期	2	2	15	
2年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	生命科学と社会 BIO200F 日高 京子 他	1学期	2	2	16
		2年			
	情報社会を読む INF200F 浅羽 修丈	2学期	2	2	17
		2年			
	地域資源管理論 ENV200F 廣川 祐司	2学期	2	2	18
		2年			
■教養演習科目	教養基礎演習I GES101F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	教養基礎演習II GES102F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	教養演習A I GES201F 伊原木 大祐	1学期	2	2	
		2年			
	教養演習A I GES201F 稲月 正	1学期	2	2	19
		2年			
	教養演習A I GES201F 神原 ゆうこ	1学期	2	2	
		2年			
	教養演習A I GES201F 小林 道彦	1学期	2	2	
		2年			
	教養演習A I GES201F 徳永 政夫	1学期	2	2	
		2年			
	教養演習A I (防衛セミナー) GES201F 戸蔭 仁司	1学期	2	2	20
		2年			
	教養演習A I GES201F 日高 京子	1学期	2	2	
		2年			
教養演習A I (発達障がいセミナー) GES201F 伊野 憲治	1学期	2	2		
	2年				
教養演習A I GES201F 石川 敬之	1学期	2	2	21	
	2年				
教養演習A II GES202F 伊原木 大祐	2学期	2	2		
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習 AII GES202F 稲月 正	2学期	2	2	22
	2年				
	教養演習 AII GES202F 神原 ゆうこ	2学期	2	2	
	2年				
	教養演習 AII GES202F 小林 道彦	2学期	2	2	
	2年				
	教養演習 AII GES202F 徳永 政夫	2学期	2	2	
	2年				
	教養演習 AII (防衛セミナー) GES202F 戸蒔 仁司	集中	2	2	23
	2年				
	教養演習 AII GES202F 日高 京子	2学期	2	2	
	2年				
	教養演習 AII (発達障がいセミナー) GES202F 伊野 憲治	2学期	2	2	
	2年				
	教養演習 AII GES202F 石川 敬之	2学期	2	2	24
	2年				
	教養演習 B I GES301F 伊原木 大祐	1学期	3	2	
	3年				
	教養演習 B I GES301F 稲月 正	1学期	3	2	
	3年				
教養演習 B I GES301F 神原 ゆうこ	1学期	3	2		
3年					
教養演習 B I GES301F 小林 道彦	1学期	3	2		
3年					
教養演習 B I GES301F 徳永 政夫	1学期	3	2		
3年					
教養演習 B I (防衛セミナー) GES301F 戸蒔 仁司	1学期	3	2	25	
3年					
教養演習 B I GES301F 日高 京子	1学期	3	2		
3年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習BI (発達障がいセミナー) GES301F 伊野 憲治	1学期	3	2	26
		3年			
	教養演習BI GES301F 石川 敬之	1学期	3	2	26
		3年			
	教養演習BII GES302F 伊原木 大祐	2学期	3	2	
		3年			
	教養演習BII GES302F 稲月 正	2学期	3	2	
		3年			
	教養演習BII GES302F 神原 ゆうこ	2学期	3	2	
		3年			
	教養演習BII GES302F 小林 道彦	2学期	3	2	
		3年			
	教養演習BII GES302F 徳永 政夫	2学期	3	2	
		3年			
教養演習BII (防衛セミナー) GES302F 戸蔭 仁司	集中	3	2	27	
	3年				
教養演習BII GES302F 日高 京子	2学期	3	2		
	3年				
教養演習BII (発達障がいセミナー) GES302F 伊野 憲治	2学期	3	2		
	3年				
教養演習BII GES302F 石川 敬之	2学期	3	2	28	
	3年				
■テーマ科目	自然学のまなざし ENV002F 竹川 大介 他	1学期	1	2	29
		1年			
	動物のみかた ZOL001F 到津の森公園、文学部 竹川大介	2学期	1	2	30
		1年			
地球の生いたち GOL001F 閉講	2学期	1	2		
	1年				
自然史へのいざない BIO001F 日高 京子 他	2学期	1	2	31	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	くらしと化学 CHM001F 秋貞 英雄	1学期	1	2	32
		1年			
	現代人のこころ PSY003F 税田 慶昭 他	1学期	1	2	33
		1年			
	人間と生命 BIO002F 日高 京子	2学期	1	2	34
		1年			
	環境都市としての北九州 ENV001F 日高 京子 他	2学期	1	2	35
		1年			
	未来を創る環境技術 ENV003F 上江洲 一也 他	1学期	1	2	36
		1年			
	私たちと宗教 PHR006F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	思想と現代 PHR004F 伊原木 大祐	1学期	1	2	37
		1年			
	文化と表象 MCC001F 真鍋 昌賢	1学期	1	2	38
		1年			
	言語とコミュニケーション LIN001F 休講	2学期	1	2	
		1年			
	芸術と人間 PHR001F 真武 真喜子	2学期	1	2	39
		1年			
文学を読む LIT001F 閉講	1学期	1	2		
	1年				
現代正義論 PHR003F 重松 博之	1学期	1	2	40	
	1年				
民主主義とは何か PLS002F 中井 遼	2学期	1	2	41	
	1年				
社会学的思考 SOC002F 稲月 正	1学期	1	2	42	
	1年				
政治のなかの文化 ANT001F 神原 ゆうこ	2学期	1	2	43	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	人権論 SOC004F 柳井 美枝	1学期	1	2	44
		1年			
	ジェンダー論 GEN001F 力武 由美	1学期	1	2	45
		1年			
	障がい学 SOW001F 伊野 憲治	1学期	1	2	46
		1年			
	共生の作法 LAW001F 高橋 衛 他	1学期	1	2	47
		1年			
	法律の読み方 LAW002F 小野 憲昭	2学期	1	2	48
		1年			
	社会調査 SOC003F 稲月 正	2学期	1	2	49
		1年			
	市民活動論 RDE001F 西田 心平	2学期	1	2	50
		1年			
	企業と社会 BUS001F 山下 剛	1学期	1	2	51
		1年			
	現代社会と倫理 PHR002F 伊原木 大祐	1学期	1	2	52
		1年			
現代社会と新聞ジャーナリズム SOC001F 西日本新聞社、基盤教育センター 稲月正	1学期	1	2	53	
	1年				
都市と地域 RDE002F 奥山 恭英	2学期	1	2	54	
	1年				
地域防災への招待 SSS001F 加藤 尊秋 他	1学期	1	2	55	
	1年 (2015年度以降入学生)				
現代の国際情勢 IRL003F 下野 寿子 他	1学期	1	2	56	
	1年				
開発と統治 IRL002F 三宅 博之 他	2学期	1	2	57	
	1年				
グローバル化する経済 ECN001F 田中 淳平 他	1学期	1	2	58	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	テロリズム論 PLS001F 戸蒔 仁司	1学期	1	2	59
		1年			
	国際紛争と国連 IRL005F 休講	2学期	1	2	
		1年			
	国際社会と日本 IRL004F 中野 博文 他	2学期	1	2	60
		1年			
	韓国の社会と文化 ARE010F 金 貞愛	2学期	1	2	61
		1年			
	エスニシティと多文化社会 IRL001F 久木 尚志 他	1学期	1	2	62
		1年			
	歴史の読み方I HIS004F 八百 啓介	1学期	1	2	63
		1年			
	歴史の読み方II HIS005F 小林 道彦	1学期	1	2	64
		1年			
	そのとき世界は HIS002F 伊野 憲治 他	2学期	1	2	65
		1年			
戦後の日本経済 ECN002F 土井 徹平	2学期	1	2	66	
	1年				
ものと人間の歴史 HIS003F 中野 博文 他	1学期	1	2	67	
	1年				
人物と時代の歴史 HIS001F 山崎 勇治 他	1学期	1	2	68	
	1年				
ヨーロッパ道徳思想史 PHR005F 伊原木 大祐	2学期	1	2	69	
	1年				
■教職関連科目	日本史 HIS110F 古賀 康士	2学期	1	2	70
		1年			
	東洋史 HIS120F 植松 慎悟	2学期	1	2	71
	1年				
西洋史 HIS130F 疇谷 憲洋	1学期	1	2	72	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教職関連科目	人文地理学 GEO110F 外柙保 大介	2学期	1	2	73	
		1年				
	土地地理学 GEO111F 野井 英明	1学期	1	2	74	
		1年				
	地誌学 GEO112F 外柙保 大介	2学期	1	2	75	
		1年				
	日本国憲法 LAW120F 中村 英樹	1学期	1	2	76	
		1年				
	■ライフ・スキル科目	メンタル・ヘルスI PSY001F 寺田 千栄子	1学期	1	2	77
			1年			
		メンタル・ヘルスII PSY002F 寺田 千栄子	2学期	1	2	78
			1年			
フィジカル・ヘルスI HSS001F 柴原 健太郎		1学期	1	2	79	
		1年				
フィジカル・ヘルスI HSS001F 徳永 政夫		1学期	1	2	80	
		1年				
フィジカル・ヘルスI HSS001F 高西 敏正		1学期	1	2	81	
		1年				
フィジカル・ヘルスI HSS001F 柴原 健太郎		2学期	1	2	82	
		1年				
フィジカル・ヘルスI HSS001F 高西 敏正		2学期	1	2	83	
		1年				
フィジカル・ヘルスII HSS002F 閉講	2学期	1	2			
	1年					
自己管理論 HSS003F 日高 京子 他	1学期	1	2	84		
	1年					
フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) HSS081F 黒田 次郎	1学期	1	1	85		
	1年					
フィジカル・エクササイズI (バレーボール) HSS081F 倉崎 信子	1学期	1	1	86		
	1年					

外国語学部 英米学科 (2017年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・スキル科目	フィジカル・エクササイズI (テニス) HSS081F 黒田 次郎	1学期	1	1	87
	1年				
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール) HSS081F 小幡 博基	1学期	1	1	88
	1年				
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 鯨 吉夫	1学期	1	1	89
	1年				
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 山本 浩二	1学期	1	1	90
	1年				
	フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) HSS081F 休講	1学期	1	1	
	1年				
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 梨羽 茂	2学期	1	1	91
	1年				
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 黒田 次郎	2学期	1	1	92
	1年				
	フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) HSS082F 黒田 次郎	2学期	1	1	93
1年					
フィジカル・エクササイズII (バレーボール) HSS082F 小幡 博基	2学期	1	1	94	
1年					
フィジカル・エクササイズII (サッカー) HSS082F 梨羽 茂	2学期	1	1	95	
1年					
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 美山 泰教	2学期	1	1	96	
1年					
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 徳永 政夫	2学期	1	1	97	
1年					
■キャリア科目	キャリア・デザイン CAR100F 眞鍋 和博	1学期	1	2	98
	1年				
	キャリア・デザイン CAR100F 石川 敬之	1学期	1	2	99
	1年				
	キャリア・デザイン CAR100F 見館 好隆	1学期	1	2	100
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■キャリア科目	コミュニケーション実践 CAR111F 眞鍋 和博	2学期	1	2	101
		1年			
	グローバル・リーダーシップ論 CAR112F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	プロフェッショナルの仕事I CAR210F 見館 好隆	1学期	2	2	102
		2年			
	プロフェッショナルの仕事II CAR211F 見館 好隆	2学期	2	2	103
		2年			
	地域の達人 CAR212F 眞鍋 和博	2学期	2	2	104
		2年			
	サービスラーニング入門I CAR110F 石川 敬之	1学期	1	2	105
		1年			
	サービスラーニング入門II CAR180F 石川 敬之	2学期	1	2	106
		1年			
プロジェクト演習I CAR280F 後藤 宇生	1学期	2	2	107	
	2年				
プロジェクト演習II CAR281F 柳井 雅人	2学期	2	2	108	
	2年				
プロジェクト演習III CAR380F 後藤 宇生	1学期	3	2	109	
	3年				
プロジェクト演習IV CAR381F 柳井 雅人	2学期	3	2	110	
	3年				
■教養特講	教養特講I (教養を磨く『新聞のちから』) SPL001F 読売新聞西部本社、基盤教育センター 永末 康介、稲月正	2学期	1	2	111
		1年			
	教養特講II (現代社会とエシカル消費) SPL002F 大平 剛	2学期	1	2	112
		1年			
教養特講III SPL003F 休講	1学期	1	2		
	1年				
教養特講IV SPL004F 休講	2学期	1	2		
	1年				

外国語学部 英米学科 (2017年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■地域科目	地域の文化と歴史 HIS170F 南 博	1学期	1	2	113
		1年 (2016年度以降入学生)			
	地域の社会と経済 ECN170F 柳 永珍	1学期	1	2	114
		1年 (2016年度以降入学生)			
	地域のにぎわいづくり RDE270F 南 博	2学期	2	2	115
		2年 (2016年度以降入学生)			
	北九州市の都市政策 PLC270F 内田 晃	1学期	2	2	116
	2年 (2016年度以降入学生)				
まなびと企業研究I CAR270F 小林 敏樹	2学期	2	2	117	
	2年 (2016年度以降入学生)				
まなびと企業研究II CAR370F 見館 好隆	1学期	3	2	118	
	3年 (2016年度以降入学生)				
■情報教育科目	データ処理 INF101F 休講	1学期	1	2	
		1年			
	情報表現 INF230F 浅羽 修丈	2学期	2	2	119
	2年				
	情報メディア演習 INF330F 浅羽 修丈	1学期	3	2	120
		3年			
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I (英 1 - A) ENG101F ポール・ガラフ・スティール	1学期	1	1	121
		英 1 - A			
	英語I (英 1 - B) ENG101F 木原 謙一	1学期	1	1	122
		英 1 - B			
	英語I (英 1 - C) ENG101F 伊藤 健一	1学期	1	1	123
		英 1 - C			
	英語I (英 1 - D) ENG101F クリストファー・オサリバン	1学期	1	1	124
	英 1 - D				
英語II (国 1 - A、英 1 - A) ENG111F 永末 康介	2学期	1	1	125	
	国 1 - A、英 1 - A				
英語II (国 1 - B、英 1 - B) ENG111F 相原 信彦	2学期	1	1	126	
	国 1 - B、英 1 - B				

外国語学部 英米学科 (2017年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語II (国 1-C、英 1-C、D) ENG111F 漆原 朗子	2学期	1	1	127
		国 1-C、英 1-C、D			
	英語III (英 1-A) ENG102F 未定	1学期	1	1	128
		英 1 - A			
	英語III (英 1-B) ENG102F ホロウエイ グレゴリー キース	1学期	1	1	129
		英 1 - B			
	英語III (英 1-C) ENG102F 未定	1学期	1	1	130
		英 1 - C			
	英語III (英 1-D) ENG102F ロジャー・ウィリアムソン	1学期	1	1	131
		英 1 - D			
	英語IV (国 1-A、英 1-A) ENG112F ダンカン・ウォトリイ	2学期	1	1	132
		国 1-A、英 1-A			
	英語IV (国 1-B、英 1-B) ENG112F デビット・ニール・マクレラン	2学期	1	1	133
		国 1-B、英 1-B			
	英語IV (国 1-C、英 1-C、D) ENG112F デビット・アダム・ストット	2学期	1	1	134
		国 1-C、英 1-C、D			
	英語V (英 2-A) ENG201F 寺田 真一郎	1学期	2	1	135
		英 2 - A			
	英語V (英 2-B) ENG201F 齊藤 園子	1学期	2	1	136
		英 2 - B			
英語V (英 2-C) ENG201F 松田 智	1学期	2	1	137	
	英 2 - C				
英語V (英 2-D) ENG201F 酒井 秀子	1学期	2	1	138	
	英 2 - D				
英語VI (英 2-A) ENG211F 船方 浩子	2学期	2	1	139	
	英 2 - A				
英語VI (英 2-B) ENG211F 下條 かおり	2学期	2	1	140	
	英 2 - B				
英語VI (英 2-C) ENG211F 齊藤 園子	2学期	2	1	141	
	英 2 - C				

外国語学部 英米学科 (2017年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語VI (英 2 - D) ENG211F 廣田 恵美	2学期	2	1	142
	英 2 - D				
	英語VII (英 2 - A) ENG202F デビット・ニール・マクレラン	1学期	2	1	143
	英 2 - A				
	英語VII (英 2 - B) ENG202F アルバート・オスカー・モウ	1学期	2	1	144
	英 2 - B				
	英語VII (英 2 - C) ENG202F ポール・ガラフ・スティール	1学期	2	1	145
	英 2 - C				
	英語VII (英 2 - D) ENG202F ダンカン・ウォトリイ	1学期	2	1	146
	英 2 - D				
	英語VIII (英 2 - A) ENG212F アルバート・オスカー・モウ	2学期	2	1	147
	英 2 - A				
	英語VIII (英 2 - B) ENG212F ポール・ガラフ・スティール	2学期	2	1	148
	英 2 - B				
英語VIII (英 2 - C) ENG212F ダンカン・ウォトリイ	2学期	2	1	149	
英 2 - C					
英語VIII (英 2 - D) ENG212F ジェイムズ・ヒックス	2学期	2	1	150	
英 2 - D					
英語IX (英中国比人 3 年) ENG301F 葛西 宏信	1学期	3	1	151	
英中国比人 3 年					
英語X (英中国比人 3 年) ENG311F 葛西 宏信	2学期	3	1	152	
英中国比人 3 年					
英語XI (英中国比人 3 年) ENG302F ダンカン・ウォトリイ	1学期	3	1	153	
英中国比人 3 年					
英語XII (英中国比人 3 年) ENG312F デビット・ニール・マクレラン	2学期	3	1	154	
英中国比人 3 年					
■第二外国語	中国語I CHN101F 板谷 秀子	1学期	1	1	155
	英 1 - 1・ 1 - 2				
	中国語I CHN101F 小椋 吾郎	1学期	1	1	156
英 1 - 3・ 1 - 4					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	中国語II CHN111F 板谷 秀子	2学期	1	1	157
		英 1 - 1・ 1 - 2			
	中国語II CHN111F 小椋 吾郎	2学期	1	1	158
		英 1 - 3・ 1 - 4			
	中国語III CHN102F 陳 青鳳	1学期	1	1	159
		英 1 - 1・ 1 - 2			
	中国語III CHN102F 肖 婷婷	1学期	1	1	160
		英 1 - 3・ 1 - 4			
	中国語IV CHN112F 陳 青鳳	2学期	1	1	161
		英 1 - 1・ 1 - 2			
	中国語IV CHN112F 肖 婷婷	2学期	1	1	162
		英 1 - 3・ 1 - 4			
	中国語V CHN201F 有働 彰子	1学期	2	1	163
		英済営人律政群 2年			
	中国語VI CHN211F 有働 彰子	2学期	2	1	164
		英済営人律政群 2年			
	中国語VII CHN202F 肖 婷婷	1学期	2	1	165
		英済営人律政群 2年			
	中国語VIII CHN212F 肖 婷婷	2学期	2	1	166
		英済営人律政群 2年			
上級中国語I CHN301F 唐 雋	1学期	3	1	167	
	英国済営比人 3年				
上級中国語II CHN311F 唐 雋	2学期	3	1	168	
	英国済営比人 3年				
上級中国語III CHN302F 王 晨	1学期	3	1	169	
	英国済営比人 3年				
上級中国語IV CHN312F 王 晨	2学期	3	1	170	
	英国済営比人 3年				
朝鮮語I KRN101F 金 貞愛	1学期	1	1	171	
	英中 1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	朝鮮語II KRN111F 金 貞愛	2学期	1	1	172
		英中1年			
	朝鮮語III KRN102F 金 貞淑	1学期	1	1	173
		英中1年			
	朝鮮語IV KRN112F 金 貞淑	2学期	1	1	174
		英中1年			
	朝鮮語V KRN201F 金 貞愛	1学期	2	1	175
		英中2年			
	朝鮮語VI KRN211F 金 貞愛	2学期	2	1	176
		英中2年			
	朝鮮語VII KRN202F 金 貞淑	1学期	2	1	177
		英中2年			
	朝鮮語VIII KRN212F 金 貞淑	2学期	2	1	178
		英中2年			
	上級朝鮮語I KRN301F 金 貞淑	1学期	3	1	179
		英中国済営比人3年			
	上級朝鮮語II KRN311F 金 貞淑	2学期	3	1	180
		英中国済営比人3年			
	上級朝鮮語III KRN302F 金 貞愛	1学期	3	1	181
		英中国済営比人3年			
上級朝鮮語IV KRN312F 金 貞愛	2学期	3	1	182	
	英中国済営比人3年				
ロシア語I RUS101F 芳之内 雄二	1学期	1	1	183	
	英中国済営比人律政1年				
ロシア語II RUS111F 芳之内 雄二	2学期	1	1	184	
	英中国済営比人律政1年				
ロシア語III RUS102F ナタリア・シエストコーワ	1学期	1	1	185	
	英中国済営比人律政1年				
ロシア語IV RUS112F ナタリア・シエストコーワ	2学期	1	1	186	
	英中国済営比人律政1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ロシア語V RUS201F 芳之内 雄二	1学期	2	1	187
		英中国済営比人律政 2年			
	ロシア語VI RUS211F 芳之内 雄二	2学期	2	1	188
		英中国済営比人律政 2年			
	ロシア語VII RUS202F ナタリア・シェスタコーワ	1学期	2	1	189
		英中国済営比人律政 2年			
	ロシア語VIII RUS212F ナタリア・シェスタコーワ	2学期	2	1	190
		英中国済営比人律政 2年			
	ドイツ語I GRM101F 山下 哲雄	1学期	1	1	191
		英中国 1年			
	ドイツ語II GRM111F 山下 哲雄	2学期	1	1	192
		英中国 1年			
	ドイツ語III GRM102F 山下 哲雄	1学期	1	1	193
		英中国 1年			
	ドイツ語IV GRM112F 山下 哲雄	2学期	1	1	194
		英中国 1年			
	ドイツ語V GRM201F 山下 哲雄	1学期	2	1	195
		英中国済営比人律政 2年			
	ドイツ語VI GRM211F 山下 哲雄	2学期	2	1	196
		英中国済営比人律政 2年			
ドイツ語VII GRM202F 山下 哲雄	1学期	2	1	197	
	英中国済営比人律政 2年				
ドイツ語VIII GRM212F 山下 哲雄	2学期	2	1	198	
	英中国済営比人律政 2年				
フランス語I FRN101F 山下 広一	1学期	1	1	199	
	英中国 1年				
フランス語II FRN111F 山下 広一	2学期	1	1	200	
	英中国 1年				
フランス語III FRN102F 坂田 由紀	1学期	1	1	201	
	英中国 1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	フランス語Ⅳ FRN112F 坂田 由紀	2学期	1	1	202
		英中国 1年			
	フランス語Ⅴ FRN201F 坂田 由紀	1学期	2	1	203
		英中国済営比人律政 2年			
	フランス語Ⅵ FRN211F 坂田 由紀	2学期	2	1	204
		英中国済営比人律政 2年			
	フランス語Ⅶ FRN202F 小野 菜都美	1学期	2	1	205
		英中国済営比人律政 2年			
	フランス語Ⅷ FRN212F 小野 菜都美	2学期	2	1	206
		英中国済営比人律政 2年			
	スペイン語Ⅰ SPN101F 青木 文夫	1学期	1	1	207
		英 1 - 1・ 1 - 2・ 1 - 3			
	スペイン語Ⅰ SPN101F 岡住 正秀	1学期	1	1	208
		英 1 - 4・ 1 - 5・ 1 - 6			
	スペイン語Ⅱ SPN111F 青木 文夫	2学期	1	1	209
		英 1 - 1・ 1 - 2・ 1 - 3			
	スペイン語Ⅱ SPN111F 岡住 正秀	2学期	1	1	210
		英 1 - 4・ 1 - 5・ 1 - 6			
	スペイン語Ⅲ SPN102F 辻 博子	1学期	1	1	211
		英 1 - 1・ 1 - 2・ 1 - 3			
スペイン語Ⅲ SPN102F ミヨコ・ フジヨシ	1学期	1	1	212	
	英 1 - 4・ 1 - 5・ 1 - 6				
スペイン語Ⅳ SPN112F 辻 博子	2学期	1	1	213	
	英 1 - 1・ 1 - 2・ 1 - 3				
スペイン語Ⅳ SPN112F ミヨコ・ フジヨシ	2学期	1	1	214	
	英 1 - 4・ 1 - 5・ 1 - 6				
スペイン語Ⅴ SPN201F 青木 文夫	1学期	2	1	215	
	英中国済営比人律政 2年				
スペイン語Ⅵ SPN211F 青木 文夫	2学期	2	1	216	
	英中国済営比人律政 2年				

外国語学部 英米学科 (2017年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	スペイン語VII	1学期	2	1	217
	SPN202F 辻 博子	英中国済営比人律政2年			
	スペイン語VIII	2学期	2	1	218
	SPN212F 辻 博子	英中国済営比人律政2年			
■留学生特別科目	日本語I	1学期	1	1	219
	JSL101F 清水 順子	留学生1年			
	日本語II	1学期	1	1	220
	JSL102F 則松 智子	留学生1年			
	日本語III	1学期	1	1	221
	JSL103F 徐 暁輝	留学生1年			
	日本語IV	2学期	1	1	222
	JSL111F 清水 順子	留学生1年			
	日本語V	2学期	1	1	223
	JSL112F 則松 智子	留学生1年			
	日本語VI	2学期	1	1	224
	JSL113F 吉嶺 加奈子	留学生1年			
	日本語VII	1学期	2	1	225
	JSL104F 小林 浩明	留学生2年			
	日本語VIII	2学期	2	1	226
	JSL114F 清水 順子	留学生2年			
	日本事情(人文)A	1学期	1	2	227
	JPS101F 清水 順子	留学生1年			
	日本事情(人文)B	2学期	1	2	228
	JPS102F 則松 智子	留学生1年			
日本事情(社会)A	1学期	1	2	229	
JPS103F 則松 智子	留学生1年				
日本事情(社会)B	2学期	1	2	230	
JPS104F 小林 浩明	留学生1年				
■専門教育科目 ■選択科目 ■法経科目群	国際法I	1学期	2	2	231
	LAW250M 二宮 正人	2年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目 ■法経科目群	国際法II LAW251M 二宮 正人	2学期	2	2	232
		2年			
	国際貿易論I ECN345M 水戸 康夫	1学期	3	2	233
		3年			
	国際貿易論II ECN346M 水戸 康夫	2学期	3	2	234
		3年			
	国際取引法 LAW350M 大隈 一武	集中	3	2	235
		3年			
	国際私法 LAW252M 中林 啓一	集中	3	2	236
		3年			
	アメリカ経済 ECN351M 山崎 好裕	2学期	3	2	237
		3年			
■英米文学・文化科目群	イギリス文学概論 LIT231M 田部井 世志子	1学期	2	2	238
		2年			
	アメリカ文学概論 LIT230M 前田 譲治	2学期	2	2	239
		2年			
	イギリスの現代文学 LIT234M 田部井 世志子	1学期	2	2	240
		2年			
	アメリカの現代文学 LIT232M 江頭 理江	2学期	2	2	241
		2年			
	イギリスの18-19世紀文学 LIT235M 村里 好俊	2学期	2	2	242
		2年			
	アメリカの18-19世紀文学 LIT233M 江頭 理江	1学期	2	2	243
		2年			
アメリカ文化史 ARE227M 寺田 由美	1学期	2	2	244	
	2年				
アメリカの社会と文化 ARE222M ODU教員	集中	2	2	245	
	2年				
アメリカの都市文化 ARE224M 寺田 由美 他	1学期	2	2	246	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目 ■英米文学・文化科目群	アメリカの大衆文化 ARE221M 前田 譲治	2学期	2	2	247
	2年				
■中国ビジネス科目群	中国社会経済史I HIS220M 山本 進	1学期	2	2	248
	2年				
	中国社会経済史II HIS221M 山本 進	2学期	2	2	249
	2年				
	中国経済論I ECN253M 白石 麻保	1学期	2	2	250
	2年				
	中国経済論II ECN254M 白石 麻保	2学期	2	2	251
	2年				
	中国文化論 ARE110M 板谷 秀子	1学期	2	2	252
	2年				
	国際経済論I ECN240M 魏 芳	1学期	2	2	253
	2年				
	国際経済論II ECN241M 魏 芳	2学期	2	2	254
	2年				
	途上国開発論 PLC215M 三宅 博之	1学期	2	2	255
	2年				
ビジネス中国語A CHN360M 野村 和代	1学期	3	2	256	
3年					
ビジネス中国語B CHN361M 野村 和代	2学期	3	2	257	
3年					
■演習・研究科目 ■ビジネス・コミュニケーション科	異文化間コミュニケーション概論 MCC212M 山崎 和夫	2学期	1	2	258
	1年				
	ビジネス英語概論 ENG230M 寺田 真一郎	2学期	1	2	259
	1年				
通訳基礎演習I ENG234M 伊藤 健一	1学期	2	2	260	
2 - 1					
通訳基礎演習I ENG234M ノリス 志津代	1学期	2	2	261	
2 - 2					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・研究科目 ■ビジネス・コミュニケーション科	通訳基礎演習I ENG234M ノリス 志津代	1学期	2	2	262
		2 - 3			
	通訳基礎演習I ENG234M ノリス 志津代	1学期	2	2	263
		2 - 4			
	通訳基礎演習II ENG235M 伊藤 健一	2学期	2	2	264
		2 - 1			
	通訳基礎演習II ENG235M ノリス 志津代	2学期	2	2	265
		2 - 2			
	通訳基礎演習II ENG235M ノリス 志津代	2学期	2	2	266
		2 - 3			
	通訳基礎演習II ENG235M ノリス 志津代	2学期	2	2	267
		2 - 4			
	ビジネス英語演習 ENG231M 松田 智	1学期	2	2	268
		2年			
	英日翻訳演習 MCC219M 鮫島 千明	2学期	2	2	269
		2 - 1・2 - 2			
英日翻訳演習 MCC219M 鮫島 千明	2学期	2	2	270	
	2 - 3・2 - 4				
英日翻訳演習 MCC219M 未開講	1学期	2	2		
	2年				
異文化間コミュニケーション演習 MCC213M 山崎 和夫	1学期	2	2	271	
	2 - 1・2 - 2				
異文化間コミュニケーション演習 MCC213M 十時 康	1学期	2	2	272	
	2 - 3・2 - 4				
異文化フィールドワーク MCC214M ロジャー・ウィリアムソン	1学期	2	2	273	
	2年				
ビジネス英語研究 ENG232M 松田 智	2学期	2	2	274	
	2年				
■英語学・英語教育科目群 英文法I LIN230M 廣田 恵美	1学期	1	2	275	
	1年				

外国語学部 英米学科 (2017年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・研究科目 ■英語学・英語教育科目群	英文法I LIN230M 休講	1学期	1	2	276
	1年				
	英文法II LIN231M 廣田 恵美	2学期	1	2	276
	1年				
	英文法II LIN231M 休講	2学期	1	2	276
	1年				
	英語学概論 LIN232M ホロウェイ グレゴリー キース	2学期	2	2	277
	2年				
	英語学研究I (音声学・音韻論) LIN233M ジェニファー・ラーソンホール	1学期	2	2	278
	2年				
	英語学研究II (英語教育) LIN234M 雪丸 尚美	2学期	2	2	279
	2年				
英語史 LIN330M ホロウェイ グレゴリー キース	2学期	2	2	280	
2年					
社会言語学研究 LIN310M 平野 圭子	2学期	2	2	281	
2年					
■英米研究・メディア科目群	メディア英語演習 MCC215M アダム・ヘイルズ	1学期	2	2	282
	2 - 1・2 - 2				
	メディア英語演習 MCC215M アーノルド・ウェイン	1学期	2	2	283
	2 - 3・2 - 4				
	アメリカ劇文化研究 MCC216M アーノルド・ウェイン	2学期	2	2	284
	2年				
	イギリス研究 MCC217M 木原 謙一	1学期	2	2	285
	2年				
	アメリカ研究 MCC218M アーノルド・ウェイン	2学期	2	2	286
	2年				
英米文化研究 MCC311M 伊藤 健一	2学期	3	2	287	
3年					
イギリス劇文化研究 MCC310M アダム・ヘイルズ	1学期	3	2	288	
3年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■ゼミ・卒業課題科目	異文化間コミュニケーションゼミAⅠ SEM411M ロジャー・ウィリアムソン	1学期	3	2	289
		3年			
	異文化間コミュニケーションゼミAⅠ SEM411M フィオナ・クリーサー	2学期	3	2	290
		3年			
	異文化間コミュニケーションゼミAⅡ SEM412M ロジャー・ウィリアムソン	2学期	3	2	291
		3年			
	異文化間コミュニケーションゼミAⅡ SEM412M フィオナ・クリーサー	2学期	3	2	292
		3年			
	通訳ゼミAⅠ SEM411M 伊藤 健一	1学期	3	2	293
		3年			
	通訳ゼミAⅡ SEM412M 伊藤 健一	2学期	3	2	294
		3年			
	翻訳ゼミAⅠ SEM411M 鮫島 千明	1学期	3	2	295
		3年			
	翻訳ゼミAⅠ SEM411M 休講	1学期	3	2	
		3年			
	翻訳ゼミAⅡ SEM412M 鮫島 千明	2学期	3	2	296
		3年			
	翻訳ゼミAⅡ SEM412M 休講	2学期	3	2	
		3年			
ビジネス英語ゼミAⅠ SEM411M 松田 智	1学期	3	2	297	
	3年				
ビジネス英語ゼミAⅠ SEM411M 寺田 真一郎	1学期	3	2	298	
	3年				
ビジネス英語ゼミAⅡ SEM412M 松田 智	2学期	3	2	299	
	3年				
ビジネス英語ゼミAⅡ SEM412M 寺田 真一郎	2学期	3	2	300	
	3年				
メディア英語ゼミAⅠ SEM411M アダム・ヘイルズ	1学期	3	2	301	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■ゼミ・卒業課題科目	メディア英語ゼミAII SEM412M アダム・ヘイルズ	2学期	3	2	302
		3年			
	アメリカ研究ゼミA I SEM411M アーノルド・ウェイン	1学期	3	2	303
		3年			
	アメリカ研究ゼミA I SEM411M 齊藤 園子	1学期	3	2	304
		3年			
	アメリカ研究ゼミA II SEM412M アーノルド・ウェイン	2学期	3	2	305
		3年			
	アメリカ研究ゼミA II SEM412M 齊藤 園子	2学期	3	2	306
		3年			
	イギリス研究ゼミA I SEM411M 木原 謙一	1学期	3	2	307
		3年			
	イギリス研究ゼミA II SEM412M 木原 謙一	2学期	3	2	308
		3年			
	英語学ゼミA I SEM411M ジェニファー・ラーソンホール	1学期	3	2	309
		3年			
	英語学ゼミA II SEM412M ジェニファー・ラーソンホール	1学期	3	2	310
		3年			
	英語教育ゼミA I SEM411M 雪丸 尚美	2学期	3	2	311
		3年			
英語教育ゼミA II SEM412M 雪丸 尚美	2学期	3	2	312	
	3年				
社会言語学ゼミA I SEM411M 平野 圭子	1学期	3	2	313	
	3年				
社会言語学ゼミA II SEM412M 平野 圭子	2学期	3	2	314	
	3年				
異文化間コミュニケーションゼミB I SEM413M フィオナ・クリーサー	2学期	4	2	315	
	4年				
異文化間コミュニケーションゼミB I SEM413M ロジャー・ウィリアムソン	1学期	4	2	316	
	4年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■ゼミ・卒業課題科目	異文化間コミュニケーションゼミBII	2学期	4	2	317
	SEM414M フィオナ・クリーサー	4年			
	異文化間コミュニケーションゼミBII	2学期	4	2	318
	SEM414M ロジャー・ウィリアムソン	4年			
	通訳ゼミBI	1学期	4	2	319
	SEM413M 伊藤 健一	4年			
	通訳ゼミBII	2学期	4	2	320
	SEM414M 伊藤 健一	4年			
	翻訳ゼミBI	1学期	4	2	321
	SEM413M 鮫島 千明	4年			
	翻訳ゼミBI	1学期	4	2	
	SEM413M 休講	4年			
	翻訳ゼミBII	2学期	4	2	322
	SEM414M 鮫島 千明	4年			
	翻訳ゼミBII	2学期	4	2	
	SEM414M 休講	4年			
	ビジネス英語ゼミBI	1学期	4	2	323
	SEM413M 松田 智	4年			
	ビジネス英語ゼミBII	2学期	4	2	324
	SEM414M 松田 智	4年			
メディア英語ゼミBI	1学期	4	2	325	
SEM413M アダム・ヘイルズ	4年				
メディア英語ゼミBII	2学期	4	2	326	
SEM414M アダム・ヘイルズ	4年				
アメリカ研究ゼミBI	1学期	4	2	327	
SEM413M アーノルド・ウェイン	4年				
アメリカ研究ゼミBII	2学期	4	2	328	
SEM414M アーノルド・ウェイン	4年				
イギリス研究ゼミBI	1学期	4	2	329	
SEM413M 木原 謙一	4年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■ゼミ・卒業課題科目	イギリス研究ゼミBII SEM414M 木原 謙一	2学期	4	2	330
		4年			
	英語学ゼミBI SEM413M ジェニファー・ラーソンホール	1学期	4	2	331
		4年			
	英語学ゼミBII SEM414M ジェニファー・ラーソンホール	1学期	4	2	332
		4年			
	英語教育ゼミBI SEM413M 雪丸 尚美	2学期	4	2	333
		4年			
	英語教育ゼミBII SEM414M 雪丸 尚美	2学期	4	2	334
		4年			
	社会言語学ゼミBI SEM413M 平野 圭子	1学期	4	2	335
		4年			
社会言語学ゼミBII SEM414M 平野 圭子	2学期	4	2	336	
	4年				
■演習・スキル科目	基礎演習I ENG100M 木原 謙一	1学期	1	2	337
		1 - 1			
	基礎演習I ENG100M 木原 謙一	1学期	1	2	338
		1 - 2			
	基礎演習I ENG100M 鮫島 千明	1学期	1	2	339
		1 - 3			
	基礎演習I ENG100M 鮫島 千明	1学期	1	2	340
		1 - 4			
	基礎演習II ENG110M ロジャー・ウィリアムソン	2学期	1	2	341
		1 - 1			
	基礎演習II ENG110M ロジャー・ウィリアムソン	2学期	1	2	342
		1 - 2			
基礎演習II ENG110M ロドルフォ デルガド	2学期	1	2	343	
	1 - 3				
基礎演習II ENG110M ロドルフォ デルガド	2学期	1	2	344	
	1 - 4				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・スキル科目	英会話演習 A ENG251M ポール・ ガラフ・ スティール	1学期	1	2	345
		1年			
	英会話演習 A ENG251M 休講	1学期	1	2	
		1年			
	英会話演習 A ENG251M 休講	1学期	1	2	
		1年			
	英会話演習 A ENG251M 休講	1学期	1	2	
		1年			
	英語リスニング演習 A ENG255M 平野 圭子	1学期	1	2	346
		1年			
	英語リスニング演習 A ENG255M 休講	1学期	1	2	
		1年			
	英語リスニング演習 A ENG255M 休講	1学期	1	2	
		1年			
	英語リスニング演習 A ENG255M 休講	1学期	1	2	
		1年			
	英会話演習 B ENG252M ポール・ ガラフ・ スティール	2学期	2	2	347
		2 - 1			
	英会話演習 B ENG252M ポール・ ガラフ・ スティール	2学期	2	2	348
		2 - 2			
英会話演習 B ENG252M ホロウェイ グレゴリー キース	2学期	2	2	349	
	2 - 3				
英会話演習 B ENG252M ホロウェイ グレゴリー キース	2学期	2	2	350	
	2 - 4				
英語リスニング演習 B ENG256M ジェイムズ・ ヒックス	1学期	2	2	351	
	2 - 1				
英語リスニング演習 B ENG256M ジェイムズ・ ヒックス	1学期	2	2	352	
	2 - 2				
英語リスニング演習 B ENG256M ポール・ ガラフ・ スティール	1学期	2	2	353	
	2 - 3				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・スキル科目	英語リスニング演習B ENG256M クリストファー・オサリバン	1学期	2	2	354
		2 - 4			
	Reading and Discussion I ENG253M ロドルフォ テルガド	1学期	2	2	355
		2 - 1			
	Reading and Discussion I ENG253M ロドルフォ テルガド	1学期	2	2	356
		2 - 2			
	Reading and Discussion I ENG253M ジェイムズ・ヒックス	1学期	2	2	357
		2 - 3			
	Reading and Discussion I ENG253M ジェイムズ・ヒックス	1学期	2	2	358
		2 - 4			
	Reading and Discussion I ENG253M 未開講	2学期	2	2	
		2年			
	Reading and Discussion I ENG253M 未開講	2学期	2	2	
		2年			
	Reading and Discussion I ENG253M 未開講	2学期	2	2	
		2年			
	Reading and Discussion II ENG254M シェーン・ドイル	2学期	2	2	359
		2 - 1			
	Reading and Discussion II ENG254M シェーン・ドイル	2学期	2	2	360
		2 - 2			
Reading and Discussion II ENG254M シェーン・ドイル	2学期	2	2	361	
	2 - 3				
Reading and Discussion II ENG254M シェーン・ドイル	2学期	2	2	362	
	2 - 4				
Reading and Discussion II ENG254M 未開講	1学期	2	2		
	2年				
Reading and Discussion II ENG254M 未開講	1学期	2	2		
	2年				
Reading and Discussion II ENG254M 未開講	1学期	2	2		
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・スキル科目	日英翻訳演習 ENG233M ブルック 前田	1学期	2	2	363
		2 - 1			
	日英翻訳演習 ENG233M ロッシェル カップ	1学期	2	2	364
		2 - 2			
	日英翻訳演習 ENG233M ブルック 前田	1学期	2	2	365
		2 - 3			
	日英翻訳演習 ENG233M ロッシェル カップ	1学期	2	2	366
		2 - 4			
	日英翻訳演習 ENG233M 未開講	2学期	2	2	
		2年			
	日英翻訳演習 ENG233M 未開講	2学期	2	2	
		2年			
	日英翻訳演習 ENG233M 未開講	2学期	2	2	
		2年			
	Presentation and Writing A ENG250M ジェイムズ・ヒックス	2学期	2	2	367
		2 - 1			
	Presentation and Writing A ENG250M ジェイムズ・ヒックス	2学期	2	2	368
		2 - 2			
	Presentation and Writing A ENG250M ジェイムズ・ヒックス	2学期	2	2	369
		2 - 3			
Presentation and Writing A ENG250M ジェイムズ・ヒックス	2学期	2	2	370	
	2 - 4				
Presentation and Writing B ENG350M ホロウェイ グレゴリー キース	2学期	3	2	371	
	3 - 1				
Presentation and Writing B ENG350M ホロウェイ グレゴリー キース	2学期	3	2	372	
	3 - 2				
Presentation and Writing B ENG350M ホロウェイ グレゴリー キース	2学期	3	2	373	
	3 - 3				
Presentation and Writing B ENG350M ポール・ガラフ・スティール	2学期	3	2	374	
	3 - 4				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・スキル科目	英語リーディング演習I ENG351M 木下 善貞	1学期	3	2	375
		3 - 1			
	英語リーディング演習I ENG351M 木下 善貞	1学期	3	2	376
		3 - 2			
	英語リーディング演習I ENG351M 原田 昂	1学期	3	2	377
		3 - 3			
	英語リーディング演習I ENG351M 原田 昂	1学期	3	2	378
		3 - 4			
	英語リーディング演習II ENG352M 原田 昂	2学期	3	2	379
		3 - 1			
	英語リーディング演習II ENG352M 原田 昂	2学期	3	2	380
		3 - 2			
	英語リーディング演習II ENG352M 木下 善貞	2学期	3	2	381
		3 - 3			
	英語リーディング演習II ENG352M 木下 善貞	2学期	3	2	382
		3 - 4			
	ビジネスコミュニケーション演習 ENG330M アーノルド・ ウェイン	1学期	3	2	383
		3 - 1			
	ビジネスコミュニケーション演習 ENG330M アーノルド・ ウェイン	1学期	3	2	384
		3 - 2			
ビジネスコミュニケーション演習 ENG330M アーノルド・ ウェイン	1学期	3	2	385	
	3 - 3				
ビジネスコミュニケーション演習 ENG330M ポール・ ガラフ・ スティール	1学期	3	2	386	
	3 - 4				
Advanced English I ENG353M ロジャー・ ウィリアムソン	1学期	4	2	387	
	4 - 1				
Advanced English I ENG353M デニス・ ジョーンズ	1学期	4	2	388	
	4 - 2				
Advanced English I ENG353M デニス・ ジョーンズ	1学期	4	2	389	
	4 - 3				

外国語学部 英米学科 (2017年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■演習・スキル科目	Advanced English I ENG353M デニス・ジョーンズ	1学期	4	2	390
		4 - 4			
	Advanced English II ENG354M デニス・ジョーンズ	2学期	4	2	391
		4 - 1			
	Advanced English II ENG354M デニス・ジョーンズ	2学期	4	2	392
		4 - 2			
	Advanced English II ENG354M デニス・ジョーンズ	2学期	4	2	393
		4 - 3			
	Advanced English II ENG354M デニス・ジョーンズ	2学期	4	2	394
		4 - 4			
■教職に関する科目 ■必修科目	教職論 EDU111M 楠 凡之	1学期	1	2	395
		1年			
	教育原理 EDU110M 見玉 弥生	1学期	1	2	396
		1年			
	発達心理学 PSY222M 税田 慶昭	1学期	2	2	397
		2年			
	教育制度論 EDU227M 見玉 弥生	1学期	3	2	398
		3年			
	教育課程論 EDU360M 見玉 弥生	2学期	3	2	399
		3年			
	英語科教育法 A EDU250C 森 千鶴	1学期	3	2	400
		3年			
	英語科教育法 B EDU251C 森 千鶴	2学期	3	2	401
		3年			
英語科教育法 C EDU252C 休講	1学期	3	2		
	3年				
英語科教育法 D EDU253C 休講	2学期	3	2		
	3年				
道徳教育指導論 EDU262M 田中 友佳子	2学期	2	2	402	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■教職に関する科目 ■必修科目	特別活動論	2学期	2	2	403
	EDU263M 楠 凡之	2年			
	教育方法学	2学期	2	2	404
	EDU260M 下地 貴樹	2年			
	生徒・進路指導論	2学期	2	2	405
	EDU261M 楠 凡之	2年			
	教育相談	1学期	2	2	406
	EDU264M 楠 凡之	2年			
	教育実習 1	2学期	3	2	
	EDU380C 休講	3年			
	教育実習 2	1学期	4	2	
	EDU480C 休講	4年			
	教育実習 3	1学期	4	2	
	EDU481C 休講	4年			
教職実践演習 (中・高)	2学期	4	2		
EDU490C 休講	4年				
■選択科目	教育心理学	2学期	2	2	407
	PSY220M 山下 智也	2年			
	障害児の心理と指導	2学期	2	2	408
	PSY223M 税田 慶昭	2年			
	教育社会学	集中	2	2	409
	EDU225M 作田 誠一郎	2年			
	人権教育論	1学期	2	2	410
EDU228M 河嶋 静代	2年				
生涯学習学	1学期	2	2	411	
EDU220M 恒吉 紀寿	2年				
教育工学	2学期	2	2		
EDU265M 休講	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 PLS110F 小林 道彦	2学期	1	2	412
	1年				
	異文化理解の基礎 ANT110F 神原 ゆうこ	1学期	1	2	413
	1年				
	ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子	1学期	1	2	414
	1年				
	国際学入門 IRL100F 伊野 憲治	2学期	1	2	415
	1年				
	生活世界の哲学 PHR110F 伊原木 大祐	2学期	1	2	416
	1年				
日本の防衛 PLS111F 戸蒔 仁司	2学期	1	2	417	
1年					
生命と環境 BIO100F 日高 京子 他	1学期	1	2	418	
1年					
情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	419	
1年					
環境問題概論 ENV100F 廣川 祐司	2学期	1	2	420	
1年					
■テーマ科目	地球の生いたち GOL001F 閉講	2学期	1	2	
	1年				
	現代人のこころ PSY003F 福田 恭介	1学期	1	2	421
	1年				
	人間と生命 BIO002F 休講	2学期	1	2	
	1年				
	思想と現代 PHR004F 伊原木 大祐	1学期	1	2	422
1年					
文学を読む LIT001F 閉講	1学期	1	2		
1年					
現代正義論 PHR003F 休講	2学期	1	2		
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	民主主義とは何か PLS002F 中井 遼	2学期	1	2	423
		1年			
	人権論 SOC004F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	ジェンダー論 GEN001F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	障がい学 SOW001F 休講	1学期	1	2	
		1年			
	社会調査 SOC003F 稲月 正	2学期	1	2	424
		1年			
	市民活動論 RDE001F 西田 心平	2学期	1	2	425
		1年			
	企業と社会 BUS001F 山下 剛	1学期	1	2	426
		1年			
	現代社会と倫理 PHR002F 休講	1学期	1	2	
		1年			
	現代の国際情勢 IRL003F 下野 寿子 他	1学期	1	2	427
		1年			
	開発と統治 IRL002F 三宅 博之 他	2学期	1	2	428
		1年			
グローバル化する経済 ECN001F 休講	1学期	1	2		
	1年				
国際紛争と国連 IRL005F 二宮 正人	2学期	1	2	429	
	1年				
国際社会と日本 IRL004F 休講	2学期	1	2		
	1年				
歴史の読み方I HIS004F 休講	1学期	1	2		
	1年				
歴史の読み方II HIS005F 休講	1学期	1	2		
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	そのとき世界は	2学期	1	2	
	HIS002F 休講	1年			
	人物と時代の歴史	1学期	1	2	
	HIS001F 閉講	1年			
	ヨーロッパ道徳思想史	2学期	1	2	
	PHR005F 休講	1年			
■ライフ・スキル科目	メンタル・ヘルスI	1学期	1	2	430
	PSY001F 中島 俊介	1年			
	メンタル・ヘルスII	2学期	1	2	
	PSY002F 休講	1年			
	フィジカル・ヘルスI	1学期	1	2	431
	HSS001F 山本 浩二	1年			
	フィジカル・ヘルスII	2学期	1	2	
	HSS002F 閉講	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン)	1学期	1	1	
	HSS081F 閉講	1年			
フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	432	
HSS082F 山本 浩二	1年				
■情報教育科目	データ処理	1学期	1	2	433
	INF101F 佐藤 貴之	1年			
	情報表現	1学期	2	2	434
	INF230F 浅羽 修丈	2年			
■専門教育科目 ■選択科目 ■法経科目群	国際法I	1学期	2	2	
	LAW250M 休講	2年			
	国際法II	2学期	2	2	
	LAW251M 休講	2年			
	国際貿易論I	1学期	3	2	
	ECN345M 休講	3年			
	国際貿易論II	2学期	3	2	
	ECN346M 休講	3年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目 ■法経科目群	国際金融論I ECN363M 前田 淳	1学期	3	2	435
		3年			
	国際金融論II ECN364M 前田 淳	2学期	3	2	436
		3年			
	アメリカ経済 ECN351M 休講	2学期	3	2	
		3年			
■教職に関する科目 ■必修科目	教職論 EDU111M 楠 凡之	1学期	1	2	437
		1年			
	教育原理 EDU110M 見玉 弥生	1学期	1	2	438
		1年			
	発達心理学 PSY222M 税田 慶昭	1学期	2	2	439
		2年			
	教育制度論 EDU227M 見玉 弥生	1学期	3	2	440
		3年			
	教育課程論 EDU360M 見玉 弥生	2学期	3	2	441
		3年			
	英語科教育法 A EDU250C 森 千鶴	1学期	3	2	442
		3年			
	英語科教育法 B EDU251C 森 千鶴	2学期	3	2	443
		3年			
	英語科教育法 C EDU252C 休講	1学期	3	2	
		3年			
英語科教育法 D EDU253C 休講	2学期	3	2		
	3年				
道徳教育指導論 EDU262M 田中 友佳子	2学期	2	2	444	
	2年				
特別活動論 EDU263M 楠 凡之	2学期	2	2	445	
	2年				
教育方法学 EDU260M 下地 貴樹	2学期	2	2	446	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■教職に関する科目 ■必修科目	生徒・進路指導論 EDU261M 楠 凡之	2学期	2	2	447
		2年			
	教育相談 EDU264M 楠 凡之	1学期	2	2	448
		2年			
	教育実習 1 EDU380C 児玉 弥生 他	2学期	3	2	449
		3年			
	教育実習 2 EDU480C 恒吉 紀寿 他	1学期	4	2	450
	4年				
教育実習 3 EDU481C 恒吉 紀寿 他	1学期	4	2	451	
	4年				
■選択科目	教育心理学 PSY220M 山下 智也	2学期	2	2	453
		2年			
	障害児の心理と指導 PSY223M 休講	2学期	2	2	
		2年			
	教育社会学 EDU225M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	人権教育論 EDU228M 休講	1学期	2	2	
	2年				
生涯学習学 EDU220M 休講	1学期	2	2		
	2年				
教育工学 EDU265M 大塚 一徳	2学期	2	2	454	
	2年				

歴史と政治【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と歴史との関係性を政治学的視点から総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史について政治学的視点から総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史と政治に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史と政治
			PLS110F

授業の概要 /Course Description

明治維新（1868年）から敗戦（1945年）までの日本近代史を概説していきます。明治憲法の下でなぜ、政党政治が発展できたのか。それにもかかわらず、なぜ、昭和期に入ると軍部が台頭したのか。この二つの問題を中心に講義を進めていきます。日本のことを知らないで、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『児玉源太郎』（ミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 「文明国」をめざして - 憲法制定・自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第3回 明治憲法体制の成立【伊藤博文】【山県有朋】【児玉源太郎】【統帥権】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 憲法改革の頓挫【伊藤博文】【児玉源太郎】【韓国併合】
- 第8回 大正政変【桂太郎】【尾崎行雄】【21カ条要求】
- 第9回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【加藤高明】
- 第10回 二大政党の時代【浜口雄幸】【田中義一】【統帥権干犯問題】
- 第11回 軍部の台頭【満州事変】【皇道派】【統制派】
- 第12回 2・26事件【高橋是清】【永田鉄山】【「満州国」】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】【西園寺公望】【近衛新体制】
- 第14回 太平洋戦争 - 明治憲法体制の崩壊【昭和天皇】【日独伊三国軍事同盟】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。授業終了後はノートを読み直し、授業中に紹介した参考文献を読んでおくこと。各自積極的に受講して下さい。

歴史と政治【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義では歴史的事項の暗記は重視しません。歴史の流れを史料に即して論理的に理解することが大切です。

キーワード /Keywords

異文化理解の基礎【昼】

担当者名 /Instructor 中原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			異文化理解の基礎
			ANT110F

授業の概要 /Course Description

本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。（おそらく大部分が）北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。文化に関する日常的な知識は、応用的なものばかりなので、基礎をしっかりと学び、総合的な理解力、思索力を身につけることをめざす。

講義中に何回か指定するトピック（次回のテーマに関するもの）についての記述を求め、次回の講義の冒頭で、提出された内容から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進める。本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既成概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身につける手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。なお、講義に関する映画を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書も用いた課題などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

異文化理解の基礎【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 伝統的家族の多様性

第3回 近代以降の家族・親族関係の変容

第4回 親族という認識

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと伝統文化

第7回 文化相対主義の考え方

第8回 伝統文化について：構築主義と本質主義

第9回 中間テスト

第II部 文化と世界観

第10回 儀礼と世界観

第11回 宗教と近代化

第12回 さまざまな信仰心

第13回 不幸への対処としての呪術

第14回 政教分離と世俗化

第15回 中間テストの解説

※出張などの理由で休講が入った場合、内容を変更することがある。具体的なスケジュールについては初回の講義で説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト+課題など40%、期末テスト60%を基本に、各自の授業貢献を適宜加点する。

※中間テストを予定しているが、受講者の数によってはレポートにすることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。

・ Moodleで適宜ミニ課題を出します。締め切りまでに提出してください。

・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。

履修上の注意 /Remarks

・ 評価方法やテキストとなる電子ブックや講義資料の閲覧方法など重要事項は第一回の講義で説明しますので、第一回目の講義は必ず出席してください。

・ 中間テストの無断欠席者や、授業態度が目に見える受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

・ 講義に出席していても、テストやレポートの評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義中に指示した関連文献を読むなど、復習にも真剣に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

〇〇人に××を贈るのはタブーである、といった個別具体的な異文化理解のマニュアルは、全く役に立たないわけではないですが、そのような情報は必要な時にちょっとお金を払えば入手できます。この授業では、そのような小手先の異文化理解でなく、文化が異なるとはそもそもどういうことかについて、もっと根本に立ち戻って考えたいと思います。あなたは、人間関係をマニュアルで対応しようとする人と、あなたの考えを知りたいと思う人と、どちらを友人として信頼しますか？

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係

ことばの科学 【昼】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語の様々な側面についての基本的知識を身につけ、言語学の課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語学に関する課題を発見し、言語学の手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語に関心を持ち、言語および言語学の課題についての意識を高める。
	コミュニケーション力		
			ことばの科学 LIN110F

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータをもとに、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

漆原 朗子（編著）『形態論』（朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻）。朝倉書店、2016年。
配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大津 由紀雄（編著）『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
- スティーヴン・ピンカー（著）椋田 直子（訳）『言語を生みだす本能（上）・（下）』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ことばの不思議
- 第2回 ことばの要素
- 第3回 ことばの習得
- 第4回 普遍文法と個別文法
- 第5回 ことばの単位(1)：音韻
- 第6回 連濁
- 第7回 鼻濁音
- 第8回 ことばの単位(2)：語
- 第9回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第10回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第11回 ことばの単位(3)：文
- 第12回 動詞の自他
- 第13回 日本語と英語の受動態
- 第14回 数量詞
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度・参加度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業時に指示した文献の講読
事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、総合的に理解する能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、地域研究的視点からの理解を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際問題に関して、地域研究的視点から見直す能力を獲得する。
	コミュニケーション力		
			国際学入門 IRL100F

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	哲学の知識に基づいて人間と生活世界との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生活世界に関する課題を哲学的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生活世界に関する問題を哲学的に解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生活世界の哲学
			PHR110F

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、フッサール現象学からフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明しつつ、生活世界の変容とその問題点を確認したあと、21世紀の今日でもなお哲学的思索の糧となりうる「古代」の分析に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- フッサール『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』（細谷恒夫・木田元訳）、中公文庫、1995年。
 - ハイデガー『存在と時間（一～四）』（熊野純彦訳）、岩波文庫、2013年。
 - ホルクハイマー/アドルノ『啓蒙の弁証法—哲学的断想』（徳永恂訳）、岩波文庫、2007年。
 - ハンナ・アーレント『イェルサレムのアイヒマン』（大久保和郎訳）、みすず書房、1969年。
 - ハンナ・アーレント『人間の条件』（志水速雄訳）、ちくま学芸文庫、1994年。
- その他は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 近代とは何か【概説】
- 2回 近代の勃興【ガリレイと科学革命】
- 3回 生活世界の概念（1）【フッサールの科学批判】
- 4回 生活世界の概念（2）【ハイデガーの世界論】
- 5回 生活世界の変容（1）【工場労働】
- 6回 生活世界の変容（2）【近代産業社会】
- 7回 確認テスト
- 8回 生活世界の変容（3）【戦争の美学】
- 9回 生活世界の変容（4）【政治の美学】
- 10回 生活世界の変容（5）【ホロコースト】
- 11回 生活世界の変容（6）【全体主義と思考能力】
- 12回 生活世界の二元性【アーレントの近代批判】
- 13回 古代世界の公共空間（1）【古代文明と戦争】
- 14回 古代世界の公共空間（2）【アテナイ民主政】
- 15回 古代世界の公共空間（3）【古代ギリシャの公と私】

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...40% 学期末試験...60%
(第7回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。)

生活世界の哲学【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。スライドの内容はもちろんのこと、担当者が口頭で述べた内容についても、こまめにノートを取る習慣を身につけてほしい。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。

キーワード /Keywords

科学技術 生活世界 活動 ポリス

日本の防衛【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	安全保障や防衛と国民との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	わが国の防衛上の諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	わが国の防衛上の課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本の防衛
			PLS111F

授業の概要 /Course Description

わが国の防衛に関する概説を通じて、その必要性や意義について理解し、防衛一般についての知識や理解に基づいて、広く安全保障一般に対する思考を促すことを目的とする。具体的には、安全保障とは何か、防衛とは何か、といった基礎概念の提示を行い、防衛の必要性や意義を論ずることになるが、これらを理解するためには、前提として、わが国が置かれた環境および目下の脅威を把握する作業（状況認識）が欠かせない。一方で、わが国は憲法9条のもと「平和主義」を標榜していることから、その防衛も様々な制約を受けることになる。従って、わが国の防衛を考えるには、そうした「制度」面での知識も欠かせない。以上を踏まえ、本講義では、日本の防衛について、現実的な視点と制度的な視点の双方を重視し、総論、各論を通じて、現状と課題の理解と思考を促す。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、『防衛ハンドブック』、その他は適宜指示する。

日本の防衛【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 安全保障(1)
安全保障を学ぶことの重要性、
- 第3回 安全保障(2)
安全保障とは何か、安全保障の目標、安全保障のスペクトラム
- 第4回 安全保障(3)
脅威とは何か、脅威の定義、安全保障の非軍事的側面と総合安全保障、国土安全保障
- 第5回 日本の安全保障(1)
安全保障の非軍事的側面 (エネルギー、資源、食糧、備蓄をめぐる安全保障)
- 第6回 日本の安全保障(2)
安全保障の軍事的側面 (国防、日米同盟、国際貢献)
- 第7回 日本の防衛(1)
防衛出動、個別的自衛権と集団的自衛権
- 第8回 日本の防衛(2)
海上警備、対領空侵犯措置、BMD対処、機雷除去、対外邦人輸送等
- 第9回 日本の防衛(3)
平和安全法制の概要
- 第10回 日本の防衛(4)
平和安全法制の論点
- 第11回 日本の脅威(1)
北朝鮮の脅威① 兵力の特徴、特殊部隊、江陵事案、わが国の防衛に対する意味、島嶼防衛とゲリコマ対処
- 第12回 日本の脅威(2)
北朝鮮の脅威② 弾道ミサイル及び大量破壊兵器
- 第13回 日本の脅威(3)
中国海空軍の脅威① 中国軍の不透明性、軍事態勢、海軍の動向
- 第14回 日本の脅威(4)
中国海空軍の脅威② 中国軍の戦略と行動
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読み、安全保障・防衛関連の記事をチェックする習慣を身に着けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

安全保障や防衛問題に関心があれば、誰でも履修してみてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

併せて特講 (テロリズム論) を履修すると、より体系的に理解できる。

キーワード /Keywords

生命と環境 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /1st Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 1年 /1st Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	多様な生命とそれを生み出した環境についての基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命およびそれを生み出した環境について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生命と環境
			BI0100F

授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。そもそも生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、(1)宇宙と生命がどのような物質からできているか、(2)生物の多様性と影響を与えてきた環境とはどのようなものか、(3)進化の原動力となった突然変異とは何かなどについて広く学び、生命と環境に関する身近な課題を自ら発見・解決するための基礎的な力を身につける。また、(4)生命や宇宙がこれまでどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方の大切さについて理解することを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2015年(羊土社)3024円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- 宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)903円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|----------------------------|-----------------|
| 1回 | ガイダンス(日高・中尾) | |
| 2回 | 自然科学の基礎(1)ミクロとマクロ(日高・中尾) | 【物質の単位】【自然科学】 |
| 3回 | 自然科学の基礎(2)宇宙で生まれた物質(中尾) | 【元素】【原子】【超新星爆発】 |
| 4回 | 自然科学の基礎(3)生命と分子(日高) | 【DNA】【タンパク質】 |
| 5回 | 生物の多様性(1)生物の分類と系統(日高) | 【種】【学名】【系統樹】 |
| 6回 | 生物の多様性(2)単細胞生物と多細胞生物(日高) | 【細胞膜】【共生説】 |
| 7回 | 生物の多様性(3)生態系と進化(日高) | 【食物連鎖】【絶滅】【進化】 |
| 8回 | 遺伝子の多様性(1)遺伝子の名前(日高) | 【突然変異】【遺伝学】 |
| 9回 | 遺伝子の多様性(2)多様性を生む生殖(日高) | 【有性生殖】【減数分裂】 |
| 10回 | 遺伝子の多様性(3)多様な生命の紹介(外部講師) | |
| 11回 | 科学的な方法とは(1)科学と疑似科学(日高・中尾) | 【血液型】【星座】 |
| 12回 | 科学的な方法とは(2)太陽と地球の環境(中尾) | 【太陽活動】【地球温暖化問題】 |
| 13回 | 科学的な方法とは(3)人類の起源を調べるには(日高) | 【ミトコンドリア】 |
| 14回 | 関連ビデオ鑑賞(日高) | |
| 15回 | 質疑応答とまとめ(日高) | |

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加(課題提出を含む)100%

生命と環境 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中の課題に沿って学習し、Moodle (e-learningシステム) で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

・ 高校で生物を履修していない者は教科書または参考書入手し、授業に備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高（生物担当）および中尾（物理担当）による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード /Keywords

情報社会への招待【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			情報社会への招待
			INF100F

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、情報社会を総合的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎として、変化し続ける情報技術と正しくつき合って適応できる能力を身につけることを目指します。

また、この授業で学ぶICT（情報通信技術）の基礎は、国連が定めた「SDGs」（持続可能な開発目標）のうち、「4．質の高い教育をみんなに」「8．働きがいも経済成長も」「9．産業と技術革新の基盤をつくろう」「10．人や国の不平等をなくそう」「17．パートナーシップで目標を達成しよう」に関連していると考えています。授業を通じて、これらの目標についても考えを深めてみてください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』（浅羽 修丈他著）FOM出版

情報社会への招待【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル, 炎上, 個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光, 音, 匂い, 味, 触覚, 電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数, ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置, 出力装置, 解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU, メモリ, 記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS, 拡張子とアプリケーション, 文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換, パケット交換, LAN, IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名, DNS, サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン, 位置情報, GPS, GIS, プライバシ】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス, スパイウェア, 不正アクセス, 詐欺, なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信, ファイアウォール, クッキー, セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア, 防犯カメラ, ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン, Wikipedia, フリーミアム, クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権, コンテンツのデジタル化, クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に随時提示する課題 ... 75%
 日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」を使って、授業の資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、授業中に配布した課題プリントを持ち帰って、次回の授業時に提出したり、Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます（必要な学習時間の目安は予習60分、復習60分）。その他、ICTに関するニュースなどの世の中の動きを注視して情報収集することをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会, ネットワーク, セキュリティ

環境問題概論 【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と「自然・環境」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題の根本的な省察、総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が所属する社会が抱える環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		環境問題概論 ENV100F	

授業の概要 /Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。本授業で基本的な環境に対する見方・考え方を身に付ける事によって、その後、環境問題に対し自立的に課題を発見し分析、解決することができる知識の充足を目指す。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション -環境問題を見る視点について-
- 第2回 資源の在り方を問う
- 第3回 日本の捕鯨の行方
- 第4回 日本人の自然観
- 第5回 環境と経済の関係性
- 第6回 山を管理するとは？
- 第7回 環境問題の原因と焼畑農業
- 第8回 里山の開発① -なぜ里山の宅地開発問題が生じるのか？-
- 第9回 里山の開発② -映画監督 高畑勲氏からのメッセージ-
- 第10回 里山の開発③ -動物視点で見る真の共生の形-
- 第11回 「農業」と SATOYAMA イニシアティブ① -農業の多面的機能-
- 第12回 「農業」と SATOYAMA イニシアティブ② -「共生」社会の在り方-
- 第13回 復習
- 第14回 レポート試験の実施 (※レポート試験は日程が前後する可能性があります)
- 第15回 総括 -おわりに-

成績評価の方法 /Assessment Method

不定期に何回か実施する小レポート：30%
最終試験：70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本授業は、最終試験での成績評価をするウエイトが高くなっている。そのため、各自で毎回の授業後に最終試験に向けた復習をすることが求められる。また、授業で使用するスライド資料は、学習支援フォルダに掲載しているため、事前の予習も試みてもらいたい。

環境問題概論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学（食物連鎖等）的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

キーワード /Keywords

可能性としての歴史【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 /Credits 2単位 /Semester 2学期 / 2学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史的過去の可能性に満ちた構造を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史的過去の可能性を発見し、歴史認識の多様性を理解することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史的過去の可能性を自立的に発見・分析し、解決への学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			可能性としての歴史
			HIS200F

授業の概要 /Course Description

歴史の転換点において、ありえた別の政策的選択肢を選んでいたら、日本は、そして世界はどうなっていただろうか。この講義では、おもに日本外交史を講義する中で、いくつかの政策選択上のイフを導入して、第二次世界大戦史の諸相を提示していきます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、講義の中で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 学説の整理【15年戦争】【ファシズム】【ナチズム】【共産主義】【軍国主義】
- 3回 政党内閣と満州事変【「満州国」】【関東軍】【五・一五事件】
- 4回 軍部の台頭【二・二六事件】【国体明徴運動】【高橋是清】
- 5回 日中戦争【近衛文麿】【大政翼賛会】
- 6回 ヒトラーの台頭【暴力】【国民社会主義ドイツ労働者党】
- 7回 日独伊ソの体制比較【政軍関係】【全体主義】
- 8回 ヒトラーと第二次世界大戦1【オーストリア併合】【ミュンヘン会談】【独ソ不可侵条約】
- 9回 ヒトラーと第二次世界大戦2【独ソ戦】【「最終的解決」】
- 10回 日独伊三国軍事同盟の成立【ノモンハン事件】【ユーラシア大陸ブロック構想】【日ソ中立条約】
- 11回 日米戦争は不可避だったのか【北進論】【南進論】【日米交渉】
- 12回 太平洋戦争1【東条英機】【戦時体制】
- 13回 太平洋戦争2【「戦後秩序構想」】
- 14回 敗戦【「本土決戦」】【日ソ戦争】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...10%、期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに高校教科書（「日本史」「世界史」）レベルの文献の該当箇所を目を通して置いて下さい。授業終了後にはその日のノートをもう一度読み返して下さい。参考文献は講義の中で指示いたします。メモはこまめにとるように心がけて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

可能性としての歴史【昼】

キーワード /Keywords

現代社会と文化【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 2学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と社会に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化と社会に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代社会と文化
			ANT210F

授業の概要 /Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義では、現代社会が抱える文化に関する問題を取り上げながら、判断のための基礎知識を身につけることを目的とする。

講義の前半は、「文化を知る」という行為そのものが持つ政治的意味について講義を行う。後半は、私たちが異なる文化を持つ人々とも認識を共有していると考えがちな身体に関する文化についての講義を行う。外国の文化については解説を無批判にうのみにしてしまいがちであるが、文化を理解することについての前提が正しいか常に問い返すことができるような総合的な知識の獲得をめざす。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。ただし、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を買う必要はありません。また、講義に関する映画を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書を用いた課題などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 池田光穂・奥野克巳編 2007『医療人類学のレッスン』学陽書房
- 太田好信編 2012『政治的アイデンティティの人類学』
- 陳天璽 2005『無国籍』新潮社
- 本多俊和ほか 2011『グローバル化の人類学』放送大学教育振興会
- 塩原良和 2010『変革する多文化主義へ』法政大学出版局

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

現代社会と文化【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか

第I部 現代社会において異文化を理解すること

第2回 文化を「知る」とはどういうことか？

第3回 ナショナリズムと文化

第4回 「未開の人々」へのエキゾチズム

第5回 植民地主義と文化

第6回 先住民・少数民族の文化の保護と多文化主義

第7回 多文化主義の可能性と限界

第8回 分類の不明瞭さ①：国籍・人種

第9回 分類の不明瞭さ②：移動する人々

第10回 中間テスト

第II部 文化の違いを超えて？

第11回 近代・ポスト近代という時代の認識と文化

第12回 身体の近代化

第13回 医療の持つ権力と文化

第14回 中間テストの解説

第15回 癒しの多様性 / 講義全体の総括

※出張や学生大会などで休講が入った場合、内容を変更することがある。具体的なスケジュールは初回の講義で説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト+課題40%、期末テスト60%

そのほか講義中に課したコメントカードなども平常点として適宜評価に加える。受講人数によってはテストをレポートに変更することもある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など(いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能)の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。
- ・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。
- ・ Moodleで適宜課題を課します。締め切りまでに提出してください。
- ・ 高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておきましょう。高校の教科書は図書館にあります。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 評価方法や電子ブックの閲覧方法などは第一回の講義で説明します。第一回目の講義を欠席しても履修はできるかもしれませんが、不利になることは覚悟してください。
- ・ 講義に出席していても、テスト(またはレポート)の評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義に真剣に取り組んでください。
- ・ 中間テストの無断欠席者や、授業態度が目に見える受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 講義で自分が学んだことを用いて、現代の文化に関する問題を自分なりに理解しようとするのが重要です。意欲的な学生の受講を歓迎します。
- ・ 「異文化理解の基礎」や「政治のなかの文化」を受講済み・受講中の学生は理解が深まると思います。

キーワード /Keywords

文化、ナショナリズム、マイノリティ、グローバリゼーション、多文化主義、身体

言語と認知【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 中溝 幸夫 / NAKAMIZO SACHIO / 非常勤講師
杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター, 長 加奈子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語と認知に関する学際的領域についての基本的知識を身につけ、課題を理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動や文献講読を通して言語と認知に関する課題を発見し、言語学・心理学・生物学などの手法を用いて分析する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	生涯にわたって言語と認知に関心を持ち、それらを取り巻く課題についての意識を高める。	
			言語と認知	LIN210F

授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に認知言語学)、認知科学、心理学の側面から学際的に考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。

- 第1回 序 (漆原・全員)
- 第2回 眼はどのように動いているか、それをどう測定するか (中溝)
- 第3回 文を読むとき、眼はどのように動いているのか (中溝)
- 第4回 言語活動時、脳のどこが働いているか (中溝)
- 第5回 ことばはどのように身につけられるのか (言語習得) (漆原)
- 第6回 ことばはどのように失われるのか (失語症・失文法) (漆原)
- 第7回 脳と心のなりたち (脳のはたらきを支配する遺伝子) (日高)
- 第8回 ことばはなぜヒトに特有なのか (言語と遺伝子) (日高)
- 第9回 特別講義 (外部講師) : 2016年度実績 東京大学教授 大堀 壽夫氏
- 第10回 文の形と意味をつなぐもの (文法形式と意味の類像性) (杉山)
- 第11回 左右の区別がなかったら (ことばと思考・言語相対論) (杉山)
- 第12回 概念と言葉 (概念におけるプロトタイプ効果など) (ストラック)
- 第13回 隠喩とは何か (隠喩論) (ストラック)
- 第14回 詩とほのめかし (アイコン性、phonaesthemesなど) (ストラック)
- 第15回 まとめ : 担当者によるパネル・ディスカッション (全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 20% レポート 16% x 5 = 80%
(すべての教員のレポートを提出しない限り評価不能(-)となります。)

言語と認知【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：担当教員あるいはコーディネーターが指示した文献等の講読
事後学習：担当教員ごとの課題・レポートの提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。
* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	共生社会の成立を阻む要因に関して、様々な視点から考える能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会の様々なレベルの共生社会の成立を阻む要因の中で、何が最も問題となるかを理解する能力を養う。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	共生社会の実現に向けての新たな視座を習得する。
	コミュニケーション力		
		共生社会論 SOW200F	

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探ってみる。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げながら、この問題に迫っていきたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】
- 第3回：異文化共存の方法【一元論的理解VS.多元論的理解】
- 第4回：異文化共存の阻害要因①【オリエンタリズム関連DVD視聴】
- 第5回：異文化共存の阻害要因②【オリエンタリズムとは】
- 第6回：オリエンタリズムの克服方法【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回：自閉症とは【自閉症】
- 第9回：自閉症関連DVDの視聴（医療モデル的作品）【医療モデル】
- 第10回：医療モデル的作品の評価【医療モデル的作品の特徴】
- 第11回：自閉症関連DVDの視聴（文化モデル的作品）【文化モデル】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【文化モデル的作品の特徴】
- 第13回：両作品の比較【3つのモデルとの関連で】
- 第14回：共生社会から共活社会へ【共生社会】【共活社会】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

本講義受講に当たっては、「国際学入門」や「障がい学」を既に受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共同体と身体 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	共同体と身体との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	共同体と身体について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	共同体と身体に関する問題を解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			共同体と身体
			PHR210F

授業の概要 /Course Description

人間が自分（たち）の体について抱いている観念は、歴史や社会を通じて必ずしも一貫しているわけではない。身体に対するイメージは、その人間が生きている時代の共同体によって微妙に変化してゆく。この授業では、共同体と身体という二つの「体」がどのように関係してきたのかを社会哲学的な観点から考察する。継続的な受講により、共同体と身体との関係、さらには生活世界と自己との関係が総合的に理解できるようになるだろう。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業時にそのつど指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 日本的身体の哲学
- 3回 日本的身体のイメージ
- 4回 近代哲学における心身二元論の成立【デカルト】
- 5回 古代ギリシャの身体観 1【プラトン】
- 6回 古代ギリシャの身体観 2【概観】
- 7回 キリスト的共同体の身体
- 8回 身体としての共同体 1【表現主義】
- 9回 身体としての共同体 2
- 10回 身体・家族・社会 1【精神分析的アプローチ】
- 11回 身体・家族・社会 2【脳科学的アプローチ】
- 12回 身体・家族・社会 3【シミュレーバー症例】
- 13回 身体の社会的統制 1【政治と規律】
- 14回 身体の社会的統制 2【統制される身体】
- 15回 身体の社会的統制 3【処罰される身体】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

授業で扱われる内容は、1年生向けビジョン科目「生活世界の哲学」の続編である。「生活世界の哲学」の単位を取得している場合は、本講義についていくことが比較的容易なはずである。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。

キーワード /Keywords

心身二元論 身体像 精神病理 規律と監視

戦争論 【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と戦争との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	戦争について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			戦争論
			PLS210F

授業の概要 /Course Description

戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。「日本の防衛」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

なし。レジユメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ホモサピエンスと戦争の起源(1)サルからヒトへ
- 第3回 ホモサピエンスと戦争の起源(2)ヒトの組織的戦争と定住の始まり
- 第4回 戦争概論～戦争の定義
- 第5回 戦争の経歴(1)絶対主義時代の戦争
- 第6回 戦争の経歴(2)革命戦争
- 第7回 戦争の経歴(3)近代戦争
- 第8回 両大戦の特徴(1)総力化
- 第9回 両大戦の特徴(2)イデオロギー化、(3)全面化
- 第10回 日本と原爆～原爆の開発過程、完成、投下
- 第11回 核兵器の構造
- 第12回 核兵器出現に伴う変化(1)時間的文脈における変化
- 第13回 核兵器出現に伴う変化(2)空間的文脈における変化
- 第14回 核兵器の役割(抑止概念、抑止条件、相互確証破壊)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業計画に沿って時系列的に講義を進めるので、該当する時代の高校世界史について再度確認しておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生命科学と社会 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	生命科学の進歩およびその社会との関わりについて総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会の中の生命科学に関する課題について総合的に分析し、自らがとるべき行動を客観的に判断できる素養を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の中の生命科学に関する課題を自ら発見し、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生命科学と社会
			BI0200F

授業の概要 /Course Description

遺伝情報であるDNAの構造が決定され、それから半世紀の間、生命科学は大きく進歩し、医療、食生活や健康など我々の社会に深く浸透している。生命科学は我々の生活をこれまでにどのように変えてきたか、これからどのように変えるのだろうか。そこで本講義では、(1)生命科学の基礎や考え方について学ぶとともに、(2)DNAや遺伝子を調べることで何がわかり、どのように役に立つのか、(3)食や健康を考える上で我々が知っておくべきことは何か、(4)遺伝子や生命を操作するとは具体的にはどのようなことであり、どこまで許されることなのかなど、人間の社会や他の生物との関わりから生命科学を捉えることを目指し、そのための知識を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 3024円 羊土社 (2015年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 生命科学の基礎 (1) 遺伝子の概念 【DNA二重らせん】
- 3回 生命科学の基礎 (2) 生命活動の実行役 【タンパク質】
- 4回 生命科学の基礎 (3) ゲノム 【ヒトゲノム計画】
- 5回 DNAでわかること (1) 遺伝と疾患 【メンデル遺伝】
- 6回 DNAでわかること (2) 個性と体質 【遺伝子検査】
- 7回 DNAでわかること (3) DNA鑑定 【多型】
- 8回 安心・安全とは (1) 食品と医薬品 【健康食品】
- 9回 安心・安全とは (2) 遺伝子組換え作物 【カルタヘナ法】
- 10回 安心・安全とは (3) 人体と放射線 【確率の影響】 【がん】
- 11回 生命の倫理 (1) 生命と遺伝子操作1 【再生医療】 【iPS細胞】
- 12回 生命の倫理 (2) 生命と遺伝子操作2 【ゲノム編集】
- 13回 生命の倫理 (3) 生命科学と家族 【遺伝的つながり】
- 14回 関連ビデオ鑑賞
- 15回 質疑応答・まとめ

* タイトルとスケジュールは変更になることがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加 (課題提出を含む) 100%

生命科学と社会 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中の課題に沿って学習し、Moodle (e-learningシステム) により提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

・ 高校で生物を履修していない者は教科書または参考書入手し、授業に備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

さまざまな角度から生命と社会の問題を取り上げたいと思います。ニュースで扱われるような話題を自分で理解し、考える力を身につけましょう。

キーワード /Keywords

情報社会を読む【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会の現在、及び、未来についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			情報社会を読む
			INF200F

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、最新のICTやそれを応用したサービスについての理解を深めることで、現在の情報社会について概観し、その先の未来で待ち受けている情報社会の課題や可能性について考える力を身に付けることである。具体的には、以下のような項目について理解する。

- 情報社会を構成している最新のICTに関する基礎知識
- 最新のICTを応用したサービスと人間との関係性
- 未来の情報社会で起こりうる課題とその解決策
- 未来の情報社会で期待できるサービスの可能性

本授業では、講義（教員が教壇に立って説明することが中心）と演習（学生が与えられた課題に沿って主体的に学習活動することが中心）とを組み合わせながら進めていく。ときには、グループディスカッションを行いながら課題に取り組んでもらう。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 身の回りにあるICTと情報社会 【ガイダンス】【ICT活用サービスの光と影】
- 2回 位置情報を利用したサービス 【ジオメディア】【GPS】
- 3回 演習1：位置情報を利用した未来のサービスを読む
- 4回 コンピュータは持ち歩くから着る時代へ 【ウェアラブルコンピュータ】
- 5回 近未来の入力装置 【モーショントラッキング】
- 6回 演習2：ウェアラブルコンピュータ・モーショントラッキングを利用した未来のサービスを読む
- 7回 画像認識の仕組み 【画像処理】【ドット】【解像度】
- 8回 顔画像認識の応用と危険性 【マーケティング】【個人情報】
- 9回 画像認識技術はどこまで人間に近づけるか 【形状認識】【機械学習】
- 10回 演習3：画像認識を利用した未来のサービスを読む
- 11回 IoT【センサー】【クラウドコンピューティング】
- 12回 演習4：IoTを利用した未来のサービスを読む
- 13回 自律型ロボットと人工知能【AI】【ディープラーニング】【技術的特異点】
- 14回 人工知能が人間社会に及ぼす影響【雇用問題】【法整備】
- 15回 演習5：人工知能の発展とこれから求められる能力

情報社会を読む【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する個人課題・・・ 50%、授業中に実施するグループワーク課題・・・ 40%、レポート・・・ 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、普段の生活において、どのようなICT活用サービスがあれば生活が豊かになるかを常に思考しておくこと。そうすることで、授業中に提示する課題に取り組みやすくなる。

事後学習として、授業中に説明した内容に関する未来のICTサービスを提案する課題を提示することがある。積極的に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

「情報社会への招待」を先に受講して、情報社会に関連する知識や技術をある程度把握していると受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

分からないところがある場合は、積極的に質問してもらいたい。授業中に実施する演習において、グループディスカッションを求めることもあるので、その時は積極的に議論に参加してもらいたい。また、この科目は、専門用語を覚えることに重点を置くのではなく、情報社会の未来はどうなるのかという発想やアイデアに重点を置くので、「未知のことについて考える力」を磨くことにチャレンジしてもらいたい。また、受講者数が多数の場合は、受講者数調整を行う場合もある。

キーワード /Keywords

情報社会の未来、ICT活用サービス、ICTと人間

地域資源管理論 【昼】

担当者名
 /Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	「地域資源の管理」に関わる総合的な理解と、持続可能な社会づくりに関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域資源を管理しようとする際の根本的かつ総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	各自が所属する地域社会において、地域資源との望ましい関わり方を自ら発見し、持続可能な社会づくりのための学びを継続することができる。
			地域資源管理論
			ENV200F

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域資源を住民が主体となって管理していくための手法について、詳細に解説する。
 本授業で扱う事例は大きく分けて、以下の3点である。
 ①漁業権（漁業法）・草地環境（入会権）の維持に向けた住民主体の地域資源管理手法について。
 ②地域資源を有効に活用する手法 - フットパス事業に見る住民主体の地域資源管理 -
 ③まちづくり会社（TMO）の役割と権利の集約 - 滋賀県長浜市における黒壁スクエア事業と問題提起としての国立マンション訴訟について -
 上記の事例を、いくつかの紛争事例・裁判事例を検証することで、地域資源を管理する、活用するための具体的手法について、法社会学の知見を活かし、分析する。
 法社会学における基礎的な専門知識の習得とともに、地域住民が共同で地域資源を管理していくために必要な具体的知識を習得することを目的としている。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○鈴木龍也、富野暉一郎編著（2006）『コモンズ論再考』晃洋書房
 角谷 嘉則著（2009）『株式会社黒壁の起源とまちづくりの精神』創成社
 神谷由紀子編著（2014）『フットパスによるまちづくり - 地域の小径を楽しみながら歩く - 』水曜社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 地域資源の考え方
- 第3回 行き過ぎた市場主義経済の弊害
- 第4回 生業とは何か？
- 第5回 適応した共助の仕組み
- 第6回 静岡県伊東市地区の草地景観管理の仕組み① - 日本の伝統的な茅資源の利用方法について -
- 第7回 静岡県伊東市地区の草地景観管理の仕組み② - 株式会社制度を利用した現代的な地域資源の共同管理システム -
- 第8回 地域資源の過剰利用問題を越えて
- 第9回 地域資源を活用したまちづくりの実践 - フットパスとは何か？ -
- 第10回 外部講師の講演 「フットパスはどうやって創るのか？」
- 第11回 フットパスのまとめ
- 第12回 地域資源としての都市環境 - 景観問題の観点から -
- 第13回 都市の特徴と管理組織
- 第14回 総括と復習
- 第15回 おわりに

地域資源管理論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に複数回実施する小レポートの出来：20%
最終試験：80%（持ち込み不可）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本授業の成績評価方法は、期末に実施する試験のウエイトがかなり高い。
また、持ち込み不可のために、授業中担当教員の発言などをメモを取り、事後学習として深く復習する作業が必要となる。また、授業中に使用するスライド資料は学習支援フォルダに掲載しているため、それを活用して事前学習も必要となる。そうしなければ、流れについてこれず、授業を理解できない可能性が高い。深い理解を得なければ、単位修得ができないと推察されるため、授業時間以外で学習することのできる人の履修を求む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業では、法社会学の基礎的な知見の習得を目指す。そのため、裁判の話（判例）や法律の話に言及する機会が多々ある。
平易な説明や解説を試みるため、あらかじめ必要な知識はないが、基礎的な法的思考能力を鍛える必要があるため、その旨、履修する者は理解してほしい。

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 AI
			GES201F

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法によって論文（レポート）を書くことをめざす。それゆえ「教養演習AI」「教養演習AII」の通年受講（1・2学期受講）が望ましい。

AI（1学期）では、まず、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 自らの関心に沿った「問い」の立て方
- (2) 論証戦略（実証方法の道筋）の設定
- (3) 情報収集の方法
- (4) 文献レビューの方法（レジユメの作り方）
- (5) 論文（レポート）の書き方

その上で、自らが書く論文について関連する文献のリストを作成し、テキスト批評を行う。

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかけることがある）。

なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』、河野哲也、慶応義塾大学出版会、2018年、¥1080
 - 『よくわかる質的社会調査 - 技法編』、谷富夫・芦田徹郎編著、ミネルヴァ書房、2009年、¥2700
- その他、適宜、紹介する。

教養演習 AI 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「テーマ」について考える
- 第3回 「問い」を立てる
- 第4回 論証戦略を考える（方法を検討する）
- 第5回 情報を集める1 - 北九大図書館
- 第6回 情報を集める2 - CiNii, 国立国会図書館（NDL-OPAC）、日本社会学会文献データベース、政府統計の総合窓口（e-Stat）、電子政府の総合窓口（e-Gov）
- 第7回 論文検討会1
- 第8回 文献レビュー（テキスト批評）1
- 第9回 文献レビュー（テキスト批評）2
- 第10回 文献レビュー（テキスト批評）3
- 第11回 文献レビュー（テキスト批評）4
- 第12回 文献レビュー（テキスト批評）5
- 第13回 文献レビュー（テキスト批評）6
- 第14回 文献レビュー（テキスト批評）7
- 第15回 論文検討会2

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...40% レポート...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。（必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。）
文献レビューの際、報告者は、（1）文献概要、（2）内容要約、（3）論点整理、（4）議論等を記したレジュメを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

「教養演習AI」「教養演習AII」の通年受講（1・2学期受講）が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習 AI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 AI
			GES201F

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ（少人数・対話型）として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

また、本授業を履修した者を対象に、授業終了後の夏季休業期間中に3回の学外研修（バス）予定しており、それについては、別科目扱いとなるため、別途、教養演習A「II」のシラバスを参照してください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス（戸蒔）
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

教養演習 AI (防衛セミナー) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

教養演習 A I 【昼】

履修上の注意 /Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Class 2年 /2 Year クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によってレポート（論文）を書くことをめざす。したがって、「教養演習AI」「教養演習AII」の通年（1学期・2学期）受講が望ましい。

AII（2学期）では、まず、教養演習AIで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回2名ずつ、関連文献について内容報告（テキスト批評）をしてもらい、議論を行う。なお、1～2ヶ月に1度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。

また、必要に応じて、量的方法（アンケート調査など）、質的方法（インタビューなど）についても説明する。

AIと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「論文執筆計画書」の報告
- 第2回 文献レビュー（テキスト批評）1
- 第3回 文献レビュー（テキスト批評）2
- 第4回 文献レビュー（テキスト批評）3
- 第5回 文献レビュー（テキスト批評）4
- 第6回 論文検討会1
- 第7回 調査法の検討1
- 第8回 調査法の検討2
- 第9回 文献レビュー（テキスト批評）5
- 第10回 文献レビュー（テキスト批評）6
- 第11回 論文検討会2
- 第12回 文献レビュー（テキスト批評）7
- 第13回 文献レビュー（テキスト批評）8
- 第14回 レポート報告会
- 第15回 まとめ

教養演習AII【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% レポート(論文)...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。)
文献レビューの際、報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論を記したレジユメを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

「教養演習AI」「教養演習AII」の通年(1学期・2学期)受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習 A II (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 集中
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

教養演習AIIの受講者を対象に、講義で学んだ防衛問題の知識を補完するため、バスで学外の自衛隊基地等に赴き、施設見学、訓練見学、講話の聴講を行う。内容は、以下の通り。

- ①この科目を受講できるのは、防衛セミナーI(教養基礎演習I、あるいは、教養演習AI、教養演習BI)を受講した者に限られる。「I」を受講しないで、「II」だけ受講することはできない。詳細は、「I」で説明するので、希望者は必ず初回授業に出席すること。
- ②研修は、夏季休業期間中の集中講義期間(8月中下旬～9月上旬)に、3回実施する。3回の日程は、現在未定であり、別途指示する。陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地、海上自衛隊基地まで、大学からチャーターしたバスで移動し、そこで研修を行い、大学で解散する。よって、交通費等はいかならない。ただし、昼食は、隊員食堂で体験喫食を行うことを予定しており、その分の費用は集金する(500円程度+αのみがかかります)。
- ③バスの定員の関係から、受講者は50名を最大とする。希望者が50名を超える場合、抽選を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

防衛白書

教養演習 AII (防衛セミナー) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は、「I」の初回授業時のガイダンスで説明する。

計3回の学外研修時間の総計は、23時間以上とする(90分授業に換算し、15回分の時間)。詳細は、計画確定時に説明する。目安としては、以下のような行程となる。

例

学内事前研修(3時間)

第1回研修 海上自衛隊・佐世保基地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

第2回研修 航空自衛隊・築城基地見学(5時間)
現地での研修(5時間)

第3回研修 陸上自衛隊・健軍駐屯地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%+レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。

「I」を履修後、研修が始まるまでの期間に、「I」の研修関連事項をよく復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

かならず、「I」の初回授業に出席すること。

他の集中講義の科目を履修しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておく必要があります。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

教養演習 A II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

本演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習BI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習BI
			GES301F

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ（少人数・対話型）として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

なお、本授業の履修者を対象に、3回の学外研修（夏季休業期間中にバスで陸海空自衛隊の見学を行う）を行う。これは、別科目の教養演習B「II」として実施するので、別途、そちらのシラバスを参照してください。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス（戸蒔）
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

教養演習BI(防衛セミナー)【昼】

履修上の注意 /Remarks

将来、自衛隊の幹部候補生試験を受ける可能性のある者は、受講を強く勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

教養演習BI【昼】

履修上の注意 /Remarks

本演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習B II (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 集中
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

教養演習B Iの受講者を対象に、講義で学んだ防衛問題の知識を補完するため、バスで学外の自衛隊基地等に赴き、施設見学、訓練見学、講話の聴講を行う。内容は、以下の通り。

- ①この科目を受講できるのは、防衛セミナーI (教養基礎演習I、あるいは、教養演習AI、教養演習BI) を受講した者に限られる。「I」を受講しないで、「II」だけ受講することはできない。詳細は、「I」で説明するので、希望者は必ず初回授業に出席すること。
- ②研修は、夏季休業期間中の集中講義期間 (8月中下旬～9月上旬) に、3回実施する。3回の日程は、現在未定であり、別途指示する。陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地、海上自衛隊基地まで、大学からチャーターしたバスで移動し、そこで研修を行い、大学で解散する。よって、交通費等はいかならない。ただし、昼食は、隊員食堂で体験喫食を行うことを予定しており、その分の費用は集金する (500円程度 + αのみがかかります)。
- ③バスの定員の関係から、受講者は50名を最大とする。希望者が50名を超える場合、抽選を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

防衛白書

教養演習BII (防衛セミナー) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は、「I」の初回授業時のガイダンスで説明する。

計3回の学外研修時間の総計は、23時間以上とする(90分授業に換算し、15回分の時間)。詳細は、計画確定時に説明する。目安としては、以下のような行程となる。

例

学内事前研修(3時間)

第1回研修 海上自衛隊・佐世保基地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

第2回研修 航空自衛隊・築城基地見学(5時間)
現地での研修(5時間)

第3回研修 陸上自衛隊・健軍駐屯地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%+レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。

「I」を履修後、研修が始まるまでの期間に、「I」の研修関連事項をよく復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

かならず、「I」の初回授業に出席すること。

他の集中講義の科目を履修しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

教養演習 B II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

本演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	自然と人間の営みに関する基本的な視野を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文系・理系の視点を超えた自然学の論点から環境を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自然に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			自然学のまなざし
			ENW002F

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま（文化）」と「からだ（自然）」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。教室の中の講義だけではなく、講義中に紹介するさまざまな活動に参加してほしい。大学生生活を変え、自分の生き方を考えるための入り口となればと願っています。

自然環境と人間の営みに対する総合的な理解をすることが達成目標となる。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『風の谷のナウシカ』1-7宮崎 駿 徳間書店
- 『イルカとナマコと海人たち』NHKブックス
- 「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
- 「自然学の未来」黒田未寿

自然学のまなざし【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
- 第1講 自然学で学ぶこと
- 第2講 今西錦司という人がいた
- 第3講 バックミンスターフラーという人がいた
- 第4講 人類の進化と狩猟採集生活
- 第5講 自然学における日常実践
- 第6講 カボチャ島の自然学【食と資源】
- 第7講 風の谷のナウシカの自然学【闘争と共存】
- 第8講 自然学の視点の重要性
- 岩松
- 第9講 近世の旅と自然
- 第10講 山村暮らしと故郷
- 第11講 山と森の自然観
- 第12講 竹の産業史
- 第13講 竹の文化
- 第14講 木の文化
- 第15講 第9～14講のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (竹川)
- 講義で紹介するさまざまな活動に参加する . . . 15%
 - 講義で紹介するさまざまな本を読み考える . . . 15%
 - 講義の内容を元に人間の生き方について小論を書く . . . 20%
- (岩松)
- 小レポート...25% 試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前半の講義では、専用のウェブサイトを設置し、講義の補足や双方向的なやりとりを進め、課題の提示と提出をおこないます。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

履修上の注意 /Remarks

学ぶことはまねること。さまざまな活動に参加するなかで、ソーシャルスキルは伸びていきます。
講義は教室の中だけでは終わりません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人の暮らしと自然の関わりに興味がある人。好奇心が旺盛な人、ぜひ受講してください。
大学のもっとも大学らしい、自由で驚きのある講義を心がけています。
そして教えられるのでも覚えるのでもなく、自分から学ぶことを重視します。
講義では、行動すること、考えること、楽しむことを一番に心がけて下さい。

キーワード /Keywords

人類学
環境学
フィールドワーク

動物のみかた 【昼】

担当者名 /Instructor 到津の森公園、文学部 竹川大介

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人と動物の関わりに関する諸問題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における自然のあり方を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生命との関わりを多様な視点で考え、人間の営みを再考する。
	コミュニケーション力		
			動物のみかた
			ZOL001F

授業の概要 /Course Description

動物園とそのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。動物園の本来的な姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

動物にかんする知識を深め、自然環境に関する知見を広げることが到達目標となる

教科書 /Textbooks

テキストなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『戦う動物園』島泰三編 小菅正夫・岩野俊郎共著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 動物園学概論1 (動物園の歴史)
- 2回 動物園学概論2 (人と公園の歴史)
- 3回 キーパーの仕事1 (動物の飼育と歴史)
- 4回 キーパーの仕事2 (動物園のみかた)
- 5回 キーパーの仕事3 (動物の接し方と飼育員のもう一つの小さな役割)
- 6回 キーパーの仕事4 (どうぶつと人間のくらい)
- 7回 キーパーの仕事5 (動物園とデザイン)
- 8回 キーパーの仕事6 (動物園の植栽)
- 9回・10回 校外実習(到津の森公園)
- 11回 獣医の仕事1 (どうぶつの病気)
- 12回 獣医の仕事2 (どうぶつたちとくらそう)
- 13回 動物園学まとめ1 (動物園を振り返る)
- 14回 動物園学まとめ2 (新しい動物園とは)
- 15回 まとめ(外部講師講演)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 80% 平常の学習状況... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め動物園関連の参考書籍をよんでおき、授業終了後にはその日の講義内容をまとめておくこと。

動物のみかた 【昼】

履修上の注意 /Remarks

講義では実際の動物園施設の見学もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

動物のことだけでなく、動物を知ることによって人間のことも考えてみましょう。
自然のことや地球のことも考えてみましょう

動物園の園長・獣医・飼育員らがオムニバス形式で、動物園のあり方、人と動物の関係性について講義をする。

キーワード /Keywords

動物園、実務経験のある教員による授業

自然史へのいざない【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19~)
柳川 勝紀 / Katsunori YANAGAWA / 環境生命工学科 (19~), 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	自然と生物の関わりについて総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自然と生物について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自然の中の生物に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			自然史へのいざない
			BI0001F

授業の概要 /Course Description

北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）の学芸員、および北方・ひびきの両キャンパスの教員によるオムニバス講義です。北九州市は化石の一大産地であり、多様な自然に囲まれた都市であり、古くより交通の要衝として栄えてきた都市でもあります。北九州の自然と歴史の魅力、それを展示している博物館を、まず皆さんに知ってもらうことがこの講義の大きな目的です。講義では、地球の歴史、生物の歴史、人間の歴史に関する基礎的な知識を身につけながら、各学芸員や教員による調査・研究を通して、それぞれの分野の最先端の話聞いていただきます。北方・ひびきの両キャンパスの交流を通して、より多角的な視点から自然と歴史について学んでもらいたいと思います。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義のテーマは下記の通りです (【 】内はキーワード、()内は担当者)。

- 1回 ガイダンス (日高・柳川)
博物館1日目
2回 石の音が聞こえる (森) 【岩石】【鉱物】【大地のダイナミクス】
3回 生命の起源を探る (柳川) 【微生物】【極限環境】【地球外生命体】
4回 館内見学 (1回目)
5回 アンモナイトの古生物学 (御前) 【化石】【古生態学】【異常巻アンモナイト】
6回 昆虫の多様性と進化 (養島) 【新種発見】【完全変態】【甲虫】
博物館2日目
7回 魚類分類学と多様性 (日比野) 【ホロタイプ】【分類学の歴史】
8回 両生類の多様性と保全 (江頭) 【絶滅危惧】【ホットスポット】
9回 館内見学 (2回目)
10回 フィールドの地学と歴史を楽しむ (野井) 【地学と歴史のかかわり】【ジオパーク】
11回 人新世におけるヒトと植物の関係 (河野) 【科学史】【地球環境】【植物】【人新世】
博物館3日目
12回 哺乳類に関するトピック (未定)
13回 北九州の埋蔵文化財 (宮元) 【考古学】【古墳時代】
14回 北九州の歴史と文化 (日比野) 【近現代史】【地域の歴史意識】
15回 まとめ (日高)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 積極的な授業への参加 (課題提出を含む) 100%

自然史へのいざない【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前に【 】内のキーワードについて自分で調べておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、Moodle（e-learning システム）で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第1回目（ガイダンス）に欠席した場合は受講を認めない。10月2日に両キャンパスにて予備ガイダンスを予定しているので掲示物に注意すること。
- ・ 第2回～第15回の授業は10月19日（土）、10月26日（土）、11月16日（土）の3回に分けて博物館で行う予定（いずれも終日）。
- ・ 博物館までの交通費は自己負担とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

くらしと化学 【昼】

担当者名 /Instructor 秋貞 英雄 / Akisada Hideo / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	基礎的な化学知識と身近な問題との関わりを理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	基礎的な化学知識を用いて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な化学に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			くらしと化学
			CHM001F

授業の概要 /Course Description

現代社会は、科学技術の社会生活分野への適用を科学・技術者の判断に任せられないほど、多様化複雑化しています。地球環境汚染など否定的現象やエセ科学を利用した詐欺的商法もあります。そのため、市民は、生活を豊かにするため、身近な問題の科学・技術情報の理解のため、教養としての基礎的な化学知識を必要としています。化学の知識は、興味の赴くまま学んでも、根付きません。一方、系統的に学ぶことでその知識を根付かせることができますが、学習の意欲を育てるとは限りません。これらを両立させることが教育の課題です。高校の化学教育を基礎に、化学への興味の促進、身近な現象への理解力の向上がこの授業のねらいです。その学習を進めるために、身近な現象と学習事項の関連を講義の中で示します。

身近な物質や現象を通して、物質の構造（原子・分子・化学結合）、物質の状態すなわち物質三態（気・液・固、コロイド）や物性（酸塩基、酸化還元など）など、さらに一般化学物質（無機物、有機物）や生命に関わる生体物質（糖、脂質、タンパク質、核酸など）を、生活に関わる問題、環境問題、原子力・放射能問題との関連で解説します。

これらの学習で化学現象の系統性をつかみ、自然現象と物性や化学物質の関係を理解することをねらいます。

教科書 /Textbooks

新版 教養の現代化学(第2版)

著者：多賀光彦、片岡正光、早野清治、沼田ゆかり 著

出版社：三共出版

定価2592円（本体2400円＋税8%） / 2016年4月発行

ISBN 978-4-7827-0734-0

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「逆説・化学物質 - あなたの常識に挑戦する」 John Emsley著、渡辺正訳（丸善）¥2200円、ISBN 978-4-621-04227-4

○「沈黙の春」 R. Carson著、青木 梁一訳（新潮社）

○「奪われし未来」 T. Colbon, D. Dumanoski, P. Myers著、長尾 力著（翔泳社）

「ゼロからはじめる化学」 立屋敷 哲著(丸善) ¥2200+税 ISBN978-4-621-08016-0 演習用として

くらしと化学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1, 2コマ： 1) 身近な元素と周期律と化学結合
1章 原子の成り立ちと周期律
2章 化学結合と物質の結合
- 第3, 4コマ： 2) 化学物質はどう造られるか。化学の言葉での表現
化学式、化学反応式の説明。
11章 無機物質と無機化学 補足：石灰岩(北九州市の資源)
- 第5, 6コマ： 3) 物質の存在状態は身の回りの現象とどう関わるか。
気体、液体、固体、溶液そしてコロイド
3章 物質の三態と相平衡
- 第7, 8コマ： 4) 酸や酸化などの現象と生活の関わり。健康と酸塩基、電池
5章 酸と塩基、6章 酸化と還元
- 第9, 10コマ： 5) 有機物とは何、身の回りの有機物の特性と分類
第7章 簡単な有機化合物
第10章 生活の中の有機物質
- 第11, 12コマ： 6) 生命と健康への生体物質の関わり
第8章 生体を構成する物質
第9章 生命を支える物質
- 第13コマ： 7) エネルギー源と原子力問題
第13章 原子力エネルギーとクリーンエネルギー
- 第14コマ： 8) 人間生活と地球環境問題
第14章14-7節 放射能汚染
第14章 大気と環境
第15章 水と環境
- 第15コマ： 9) まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業内容の基礎的な部分を理解しているか。その理解を授業で出たり、一般に見られる化学的現象に結びつけることができるかを見る。簡単レポート・小テスト(演習、質問など)20%、期末試験80%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に、教科書・プリントの該当部に目を通して、学習事項が定着するよう努める。教科書やプリントの要点をメモや強調(しるし)することで復習がやりやすいので行うことを勧める。テレビ・新聞等の科学関連ニュースには注目して欲しい。その注目点や、授業の疑問点は授業の理解を深めるので質問すると良い。

履修上の注意 /Remarks

教科書外の内容も講義する。補足資料(プリント)を必ず受け取る(翌週も配る)。ノートはきちんととること。やむを得ない欠席時はノート模写をしておくこと。教科書は事前事後どちらでもよいが目を通して置く。ただ事前の方が、授業への興味が持ちやすい。事後学習としては、ノートの整理、重要事項の整理をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

章末問題は、学習したことを整理するのに役立つので取り組んでください。新聞、雑誌、放送機関、インターネット等の科学情報に関心を持ち、質問するような姿勢が好ましい。質問には即答できないときは後日に答えるようにします。

キーワード /Keywords

基礎化学、生活の化学、環境の化学、化学結合。気体、液体、固体、コロイド、表面、酸、塩基、酸化、還元、電池、化学反応、糖、脂質、アミノ酸、タンパク質、核酸、大気汚染、地球温暖化物質、原子力、放射能

現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科, 田島 司 / 人間関係学科
 松本 亜紀 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	心理学についての教養的基礎知識を身につける。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	心理学的観点から課題の発見、解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	社会の諸問題を心理学的観点から解決するために学習を続けることができる。	
	コミュニケーション力			
			現代人のこころ	PSY003F

授業の概要 /Course Description

現代の心理学では、人間個人や集団の行動から無意識の世界に至るまで幅広い領域での実証的研究の成果が蓄えられている。この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察する。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、心理学的に考察し、現代人を取り巻く世界について、心理学的な理論と知見から理解する。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 動物のもつ自己意識【自己像認知、マークテスト】
- 第3回 自己の発見【自己意識、自己概念】
- 第4回 他者への気づき【アニマシー、バイオリジカルモーション】
- 第5回 他者の心を読む【共感、心の理論】・まとめと小テスト
- 第6回 こころの科学1【心理学、統計】
- 第7回 こころの科学2【進化、行動主義】
- 第8回 こころと行動【本能、生得的プログラム】
- 第9回 こころと他者【愛着、葛藤】
- 第10回 まとめと小テスト
- 第11回 脳とこころ1【脳とこころの関係】
- 第12回 脳とこころ2【心身の発達と脳】
- 第13回 脳とこころ3【薬物の影響】
- 第14回 脳とこころ4【睡眠の影響】
- 第15回 まとめと小テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

課題(複数の小テストまたはレポート)・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、シラバスに記載されているキーワードについて調べておく。
 事後学習として、内容の理解を深めるため配布資料やノートをもとに授業の振り返りを行う。

履修上の注意 /Remarks

現代人のこころ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

臨床心理士としての実務経験のある教員が、日常生活や臨床場面に関わる心理学の理論や各時期の心理的・発達の特徴、人間関係などについてオムニバス形式で解説する。

キーワード /Keywords

実務経験のある教員による授業

人間と生命【昼】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	生命科学の基礎知識を獲得し、身近な問題との関わりを総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命科学に関する基礎知識を用いて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	体や健康など、生命科学に関する身近な課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			人間と生命
			BI0002F

授業の概要 /Course Description

ヒトの体は約60兆個の細胞からなり、生命の設計図である遺伝子には2万数千もの種類がある。近年、「ヒトゲノム計画」が完了し、すべての遺伝情報が明らかとなった。個々の遺伝情報のわずかな違いが体質の違いや個性につながり、これを利用した個の医療が行われる時代も近い。そこで(1)体はどのような物質からできているか、(2)遺伝子は体の何をどのように決めているのか、(3)細胞の社会とはどういうものでそれが破綻するとどのような疾患につながるのか、(4)体を維持し守るしくみは何かなど、人体を構成する細胞と遺伝子の不思議を学ぶことによって、新しい時代を生き抜くための生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2015年(羊土社)3024円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 体を作る物質(1)細胞の構成成分 【多糖・脂質・タンパク質・核酸】
- 3回 体を作る物質(2)食物分子と代謝 【酵素】【触媒】
- 4回 体を作る物質(3)遺伝物質DNA 【二重らせん】
- 5回 体を作るしくみ(1)遺伝子発現 【セントラルドグマ】
- 6回 体を作るしくみ(2)遺伝子でできること【ゲノム】【体質】
- 7回 体を作るしくみ(3)発生と分化 【転写因子】【胚】
- 8回 細胞の社会(1)細胞の増殖 【細胞周期】【細胞死】
- 9回 細胞の社会(2)シグナル伝達 【受容体】【シグナル分子】
- 10回 細胞の社会(3)社会の反逆者・がん 【がん遺伝子】
- 11回 体を守るしくみ(1)寿命と老化 【染色体】【テロメア】
- 12回 体を守るしくみ(2)細菌とウイルス 【ウイルス】【細菌】
- 13回 体を守るしくみ(3)免疫 【自然免疫】【抗体】
- 14回 関連ビデオ鑑賞
- 15回 質疑応答・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加(課題提出を含む)100%

人間と生命【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、Moodle (e-learning システム) で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していなかった者は教科書または参考書を入手して備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人体を構成する細胞やその働きを操る遺伝子について、ここ数十年程の間で驚く程いろいろなことがわかってきました。その緻密で精巧なしくみは知れば知るほど興味深いものですが、ヒトの体について良く知ること、生命科学の基礎を学ぶことは、これから皆さんが生きて行く上でも非常に大切です。苦手だからと怯まずに、一緒に頑張りましょう。

キーワード /Keywords

環境都市としての北九州【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程
村江 史年 / 地域共生教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	環境に関する幅広い基礎知識を獲得する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境にはさまざまな立場からの意見・考え方があることを理解し、自らがとるべき環境行動を判断できる素養を身につける。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	卒業後も誰もが身近なところから環境行動に取り組むことができることを理解する。	
	コミュニケーション力			
			環境都市としての北九州	ENV001F

授業の概要 /Course Description

環境問題の全体像を把握し、持続可能な社会作りに向けた行動の重要性を理解する。そのために、学内の専門分野の異なる教員、学外からは行政・企業・NPO等の実務担当者を講師として迎え、オムニバス形式で様々な視点（自然・経済・市民）から環境問題とそれに対する取り組みについて学習する。北九州市はかつてばい煙に苦しむ街であったが、公害を克服した歴史を踏まえ、現在は環境モデル都市として世界をリードしている。北九州市の実施する「環境首都検定」の受検を通して、市のさまざまなプロジェクトや環境についての一般知識を広く学ぼうが、環境関連施設（環境ミュージアム、エコタウンなど）見学により、その体験を講義での学習につなげる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

北九州市環境首都検定公式テキスト 999円(税込み)
http://www.city.kitakyushu.lg.jp/kurashi/menu01_0438.html

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(日高)
- 2回 持続可能な社会をめざして～ESD～(法学部・三宅)
- 3回 北九州の自然と環境(日高・村江)
- 4回 北九州における環境政策(外部講師)
- 5回 環境問題と市民の関わり(外部講師)
- 6回 環境ビジネスとエコタウン事業(マネジメント研究科・松永)
- 7回 施設見学・エコタウン
- 8回 北九州の環境経済(経済学部・牛房)
- 9回 施設見学・環境ミュージアム
- 10回 環境首都検定に向けて(外部講師)
- 11回 小テスト(日高)
- 12回 環境問題とソーシャルビジネス(外部講師)
- 13回 環境問題と企業の取り組み(外部講師)
- 14回 環境問題と学生の取り組み(421Lab・村江)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

環境首都検定の成績(40%)、小テストおよび授業中の課題(60%)

環境都市としての北九州【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：北九州市環境首都検定公式テキストで関連する箇所を学習しておくこと。

事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、Moodleで提出すること。

<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

環境首都検定受検および施設見学（環境ミュージアムとエコタウン）は原則として必須とする。スケジュールは変更となる場合があるので、第1回ガイダンスに必ず出席すること。

- ・エコタウン（バスツアー）は12月25日（水）の予定。参加できない場合は各自で代替施設を見学すること。
- ・環境ミュージアム見学は11月23日（土）午前または午後の予定。参加できない場合は後日各自で見学すること。
- ・環境首都検定は12月15日（日）の予定。

*授業スケジュールは変更の可能性もある。第1回目ガイダンス時に確認すること。

*環境ミュージアム、首都検定会場までの交通費は自己負担とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は副専攻「環境ESD」と深く関連しています。この講義をきっかけに副専攻にもトライしてみませんか。

<https://www.kitakyu-u.ac.jp/kankyo-esd>

キーワード /Keywords

環境、ESD、SDGs、北九州市

未来を創る環境技術 【昼】

担当者名 /Instructor 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19~), 白石 靖幸 / Yasuyuki SHIRAIISHI / 建築デザイン学科 (19~)
永原 正章 / Masaaki NAGAHARA / 環境技術研究所, 松本 亨 / Toru MATSUMOTO / 環境技術研究所
牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科, 金本 恭三 / Kyoza KANAMOTO / 環境技術研究所
河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	環境問題や環境技術に関する正しい知識など、21世紀の市民として必要な基本的事項を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	授業で学ぶ環境技術の現状や展望を踏まえながら、社会・地域・生活など身の回りに隠れている環境的課題を発見し、課題の重要性や本質を明確化する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	環境問題について自主的・継続的に学習するための、環境技術に対する深い関心と環境への鋭敏な感受性を持つ。
	コミュニケーション力		
			未来を創る環境技術
			ENV003F

授業の概要 /Course Description

環境問題は、人間が英知を結集して解決すべき課題である。環境問題の解決と持続可能な社会の構築を目指して、環境技術はどのような役割を果たし、どのように進展しているのか、今どのような環境技術が注目されているのか、実践例を交えて分かりやすく講義する（授業は原則として毎回担当が変わるオムニバス形式）。
具体的には、北九州市のエネルギー政策、特に洋上風力発電に関する取り組みと連動して、本学の特色のある「環境・エネルギー」研究の拠点化を推進するための活動を、様々な学問分野の視点で紹介する。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス、社会における環境技術の役割、北九州市のエネルギー政策
- 第2回：再生可能エネルギーに関する世界の潮流
- 第3回：世界における風力発電
- 第4回：日本における風力発電（その1）
- 第5回：日本における風力発電（その2）
- 第6回：日本における風力発電（その3）
- 第7回：再生可能エネルギーの産業（風力発電）
- 第8回：再生可能エネルギーの産業（エネルギーマネジメント）
- 第9回：都市の環境とエネルギー（経済学からのアプローチ）
- 第10回：都市の環境とエネルギー（機械工学からのアプローチ）
- 第11回：都市の環境とエネルギー（情報学からのアプローチ）
- 第12回：都市の環境とエネルギー（建築学からのアプローチ）
- 第13回：都市の環境とエネルギー（環境工学からのアプローチ）
- 第14回：都市の環境とエネルギー（化学・生物工学からのアプローチ）
- 第15回：まとめ

「日本における風力発電」では、外部講師による集中講義や北九州市の風力発電施設の見学を予定しています。

未来を創る環境技術 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 30%
レポートおよび小テスト70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後学習については担当教員の指示に従うこと。また、新聞・雑誌等の環境技術に関連した記事にできるだけ目を通すようにすること。期末課題に備えるためにも、授業で紹介された技術や研究が、社会・地域・生活などの身の回りの環境問題解決にどのようにつながり、活かされているか、授業後に確認すること。

履修上の注意 /Remarks

私語をしないこと。ノートはこまめにとること。都合により、授業のスケジュールを変更することがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

文系学生にもわかりやすい授業内容です。

キーワード /Keywords

持続可能型社会、エネルギー循環、機械システム、建築デザイン、環境生命工学、超スマート社会、Society5.0、人工知能、自動制御、エネルギー経済、環境経済、実務経験のある教員による授業

思想と現代【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の人間と思想との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の思想について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の思想に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		思想と現代	PHR004F

授業の概要 /Course Description

サブタイトルを「教養としてのユダヤ思想」と題し、主に19世紀末から20世紀にかけて登場したエポックメイキングなユダヤ文化と思想との関わりを紹介する。まずは「ユダヤ人」という存在に対する、フェアで中立的な考え方を身に付けてもらうべく、その来歴と特徴について詳しく解説した後、心理療法・文学・倫理・映画などのジャンルで革新的な業績を残した現代ユダヤ人について、若干の作品分析を通しながらユダヤ性の拡がりと豊かさを確認する。以上の考察をヒントにしつつ、最終的には現代の人間と思想との関係について複眼的な思索を可能にすることが、本授業の狙いである。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 沼野充義編『ユダヤ学のすべて』、新書館、2009年。
 - 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』、講談社現代新書、2002年。
 - 合田正人『入門 ユダヤ思想』、ちくま新書、2017年。
- その他の基本文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 ユダヤ人の原点【概説】
- 3回 ユダヤ人の歴史(1)【民族の起源】
- 4回 ユダヤ人の歴史(2)【古代から中世へ】
- 5回 ユダヤ人の歴史(3)【中世から近代へ】
- 6回 ユダヤ人の歴史(4)【近代から現代へ】
- 7回 補足回【紛争と現代】
- 8回 精神分析の思想(1)【概説】
- 9回 精神分析の思想(2)【一神教の精神】
- 10回 文学の思想【カフカ】
- 11回 音楽の思想【シェーンベルク】
- 12回 心理療法の思想【フロイト】
- 13回 倫理の思想【ヨナス】
- 14回 映画の思想【ハリウッドとユダヤ人・前半】
- 15回 映画の思想【ハリウッドとユダヤ人・後半】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 100%
(不定期に実施されるMoodle上での課題内容をもとに評価する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化と表象【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と表象の関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	表象について課題を発見し、分析・解決することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	表象についての課題に向かい合い、その課題を解決するための学びを継続する態度を身につけている。
	コミュニケーション力		
		文化と表象	MCC001F

授業の概要 /Course Description

本講義では、表象概念の基礎を理解し、表象論の視点・テーマのひろがりを知ることを目的としている。受講者は、講義を受けるなかで各自の生活環境を「表象」という視点から見つめ直すことが求められる。
まず前半の講義では表象論事始めとして、理論的背景の説明をおこなう。その後イメージとしての〈日本〉について歴史的視点から多様な素材を用いて言及するなかで、表象研究の導入をおこなう。
次に比較分析の例として映画を原作と比べて、その差異について論じる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 【表象論事始め】 理論的背景
- 3回 【表象の歴史的追尾】 イメージとしての〈日本〉①【風刺画】
- 4回 イメージとしての〈日本〉②【オリエンタリズム】
- 5回 イメージとしての〈日本〉③【演劇】
- 6回 イメージとしての〈日本〉④【映画】
- 7回 イメージとしての〈日本〉⑤【テクノミュージック】
- 8回 イメージとしての〈日本〉⑥【CM】
- 9回 イメージとしての〈日本〉⑦【オリンピック】
- 10回 イメージとしての〈日本〉⑧【まとめ】
- 11回 【特別講義】
- 12回 【表象分析事始め】 映画を事例として①【活字から映像へ】
- 13回 映画を事例として②【原作とテーマ設定】
- 14回 映画を事例として③まとめ
- 15回 全体総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点（課題・コメントカードなど） ... 20% 期末レポート ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：配布物を読んでおく
事後：講義内容を復習し、事例について必要であれば調べておく

履修上の注意 /Remarks

毎回の授業を復習するなかで、各自の身近な生活環境から問題をつねに内省的に「発見」することが求められる。それゆえに、緊張感をもった態度で受講してほしい。授業時間外では、授業で取り上げたトピックについての情報収集をまめにおこない、それを授業時間内でのコメントカード執筆に活かしてほしい。単位取得のためには、期末レポートにおいて十分な準備が要求されるので、受講においては積極的な姿勢が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

芸術と人間【昼】

担当者名 /Instructor 真武 真喜子 / Makiko Matake / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と芸術との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	芸術について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	芸術に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			芸術と人間
			PHR001F

授業の概要 /Course Description

20世紀後半から現在まで、生き存在し活躍する芸術家の人物像に焦点をあて、その活動する時代背景や社会との関係を浮かび上がらせ、また美術の歴史の中での位置を確認し、同様の主題によって広がる同時代の動きにつなげてみる。
毎回一人のアーティストを選び、作品や展覧会活動を追って紹介しながら、美術一般や現代社会との関係を探り、表現の原動力となるものを考察する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「現代アート事典 モダンからコンテンポラリーまで...世界と日本の現代美術用語集」 美術手帖編集部 美術出版社 2009
 「現代美術史日本篇 1945-2014」 著・中ザワヒデキ アートダイバー 2014
 「20世紀末・日本の美術—それぞれの作家の視点から」 編著・中村ケンゴ アートダイバー 2015

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 浜田知明 戦争の目撃者
2. ボルトンスキー「暗闇のレッスン」で生と死を見つける
3. ジャン・デュビュッフェ ART BRUTの世界を開いて
4. 寺山修司 劇的想像力について
5. 中平卓馬 なぜ植物図鑑か
6. フランク・ステラ ミニマルからプロジェクトまで
7. ロバート・スミッソン 大地の改造計画
8. 青木野枝 鉄と生きる 鉄と遊ぶ
9. ソフィー・カル フィクションとしての写真
10. 白川昌生 生涯にわたるマイナーとして
11. 山口圭介 原発に抗する
12. 奈良美智 コドモの領分
13. ヤノベケンジ 失われた遊園地
14. ナデガタ・インスタント・パーティ 人々を巻き込むプロジェクト
15. 会田誠 道程

成績評価の方法 /Assessment Method

- 小テスト 2回 50%
 レポート(学期末) 40%
 日常の取組(出欠など) 10%

芸術と人間【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (1)自主練習を行い、授業の内容を反復すること。
- (2)随時、課題を学習支援フォルダに挙げるので、参照し準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

小テストやレポートは、授業の内容を把握しているかどうかよりも、むしろ授業で得た知識を自身の関心においてどのように展開したか、また、展開させたいか、を問うものである。
近隣の展覧会を見て回るなど、日常的にも美術の環境に親しんでいただきたい。

キーワード /Keywords

現代正義論【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と正義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における正義の問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代社会における正義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代正義論
			PHR003F

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。
 まずは、現代正義論の流れを概観する。次に、現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題を取りあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的な身近な生命倫理にかかわる諸問題を取りあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房、2010年）
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』（早川書房、2010年）
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房、2006年）
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社、1995年）
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』（講談社、1997年）
- 瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）

現代正義論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概観
- [第3回~第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ~ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ~ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ~ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ~ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ~ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ~ ノージックのリパタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ~ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ~ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ~ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ~ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、当該回に扱うテーマについて、自ら予習をしておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解の役にたつと思います。

キーワード /Keywords

ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と民主主義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	民主主義について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			民主主義とは何か
			PLS002F

授業の概要 /Course Description

民主主義 / デモクラシー / 民主制とは何か。まずそれは単に選挙で物事を決めるだけの事ではない。選挙は独裁国家でも実施されている。またそれは善なる無謬のイズムでもない。近現代において多くの抑圧や圧政は「民意」や「国民の意思」の美名のもとに執行されてきた（そして「みんなのためだから」「多数決だから」の名のもとに行われる他者への抑圧は我々の日常でも見られる行為である）。民主主義とは強いていえば決定を権威づける一つのメカニズムに過ぎず、社会的実体の一類型でなければ道徳的目的でもない。

では近代的な自由民主主義はいかにして民主主義の害悪を最小化しつつ実際の決定メカニズムとして運用してきたのか。本講義では、理念とデータの両面から検討する。様々な民主体制がある中で、どのような状況においてその決定の品質が保たれたり、そもそも政治的安定性を維持できるのか、様々な先行研究に基づいて講義・検討する。近年の研究は、理念的には優れた制度と思われていたものが実際には劣った現実をもたらしていた（理念とデータにギャップがあった）事なども示している。また、民主主義が何かを知るためには民主主義ではないものが何なのかも知らなければならない。本講義の射程は非民主主義体制にも及ぶ。これらを知ることを通じてこそ、我々は多様な人々の間において適切な集会的決定を下すことが可能となるはずだ。

教科書 /Textbooks

指定教科書はない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マクファーソン, C.B. (田口訳 1978) 『自由民主主義は生き残れるか』岩波新書
- 待鳥聡史 (2015) 『代議制民主主義-「民意」と「政治家」を問い直す』中公新書
- 坂井豊貴 (2015) 『多数決を疑う-社会的選択理論とは何か』岩波新書
- シュンペーター, J (大野訳 2016) 『資本主義, 社会主義, 民主主義』日経BP
- ダール, R. (高島・前田訳) 『ポリアーキー』岩波文庫
- 杉田敦 (2001) 『デモクラシーの論じ方-論争の政治』筑摩書房
- 久保慶一, 末近浩太, 高橋百合子 (2016) 『比較政治学の考え方』有斐閣

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション
2. 基礎的概念整理【民主制】【独裁制】【共和制】【君主制】
3. 近代的分類法【防衛民主主義】【均衡民主主義】【人民民主主義】
4. 民主主義の暴走【立憲主義】【司法独立】【指揮権】
5. 実証的民主体制論【ポリアーキー】【ダール】
6. デモクラシーの指標化【PolityIV】【Freedom House】
7. 民主制の多様性とその生存・品質 1：制度【議会制】【大統領制】
8. 民主制の多様性とその生存・品質 2：選挙【SMD】【PR】
9. 民主制の多様性とその生存・品質 3：運用【ウエストミンスター型】【コンセンサス型】
10. 民主制の多様性とその生存・品質 4：社会【コンソリデーション・モラリティー】【民族問題】
11. 公正な意思決定の不可能性【社会的選択】【選挙制度】【サイクル】
12. 民主制と独裁制の間で【経済成長】【社会厚生】
13. 権威主義体制とその分類【軍事独裁】【政党独裁】【個人・君主独裁】
14. 権威主義体制と選挙・政党【選挙の独裁強化機能】
15. 民主制⇄独裁制の体制変動【民主化】【独裁化】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験:100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回において参考文献を授業スライドに提示する。復習やさらなる学習のためにそれを用いる事。また、各回の最後に次回授業のキーワードや前提知識となる単語を示すので、それらについては事前予習してくる事。

履修上の注意 /Remarks

【重要】2019年度より本科目の担当者が代わっております。履修に際しては本シラバスの情報のみを参考にしてください。また、本シラバスをご覧になった学生諸君は、本科目の履修を検討している学友とも本情報の共有に努めてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教養科目ですので込み入った法学・政治学の知識は必要ありません（それがない人を想定して授業を行います）。ただし、高校卒業程度の英語・世界史、中学程度の数学の知見は必要です。これらについては授業において逐一補足しませんので、各自で能力を維持してください。

キーワード /Keywords

社会学的思考 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる個人と社会との関係について総合的に分析し、現代社会が直面する課題を発見する。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自らが帰属する社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
			社会学的思考
			SOC002F

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方や概念を身につけ、人間と社会との関係性を総合的に理解することにある。
そのために、以下の2点について講義する。
(1) 社会学の基本的な考え方について、E.デュルケム、M.ウェーバーなどの古典的著作を例にとりながら紹介していく。その中で、社会的行為、社会規範、社会制度、社会構造、社会的役割、社会集団等の基本概念についても説明する。
(2) 現代の社会問題を社会的に考えていく。とりあげる問題としては「大衆社会とファシズム」「社会的排除と貧困」などを予定している。

教科書 /Textbooks

使用しない。
適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 社会学的な考え方とは
- 第3回 社会的な要因による説明とは
- 第4回 個人と社会をつなぐ1 - デュルケム1 【自殺論 - 集合意識と行為】
- 第5回 個人と社会をつなぐ2 - デュルケム2 【自己本位的自殺】
- 第6回 個人と社会をつなぐ3 - デュルケム3 【アノミー的自殺】
- 第7回 個人と社会をつなぐ4 - ウェーバー1 【理解社会学】
- 第8回 個人と社会をつなぐ5 - ウェーバー2 【プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神】
- 第9回 機能主義とシンボリック相互作用論
- 第10回 現代の社会的解読1 - ファシズム1 【社会的性格とファシズム】
- 第11回 現代の社会的解読2 - ファシズム2 【デモクラシーと大衆社会】
- 第12回 現代の社会的解読3 - 社会的排除と貧困1 【社会的排除と生活困窮の現状】
- 第13回 現代の社会的解読4 - 社会的排除と貧困2 【生活困窮化のメカニズム】
- 第14回 現代の社会的解読5 - 社会的排除と貧困3 【社会的な支援のあり方】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題... 15% 期末試験... 85%
(総合的に判断する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。授業の内容を反復学習すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。)

社会学的思考 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活の中で生じているさまざまな出来事を、いろいろな立場や視点から考える習慣を身につけてもらえるとうれしいです。

キーワード /Keywords

社会的行為、エスノグラフィー、社会集団、社会構造、集合意識、社会規範、自己本位主義、アノミー、理解社会学、合理性、社会的性格、ファシズム、社会的排除、社会的包摂、社会的孤立、貧困、戦後日本型循環モデル

政治のなかの文化【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と政治に関する知識を学び、人間と「思想・文化」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化と政治に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化と政治に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			政治のなかの文化
			ANT001F

授業の概要 /Course Description

政治や経済に関する現象は世界の多くの地域で共通する事項が多いと考えられがちである。しかしながら、実際には多くの地域に多様な独自性が広がる。近代的な政治体制や経済体制が世界中に広がる以前から、さまざまな共同体において独自の統治の方法があり（これもまた文化のひとつである）、近代国家に特有の制度が共有されるようになってからも、その受け入れられ方は様々である。

本講義では、その土地に住む人々の政治や経済に関する固有の価値観や習慣について、過去と現在の状況を学ぶ。しかし、それは学問的な知識を蓄えることが目的なのではない。民主主義、資本主義、公共性、といった現在、世界共通に使用されているようにみえるこれらの概念の理解が地域依存的なものであることを知ることで、現代の世界への総合的な理解と考察を深めることが目的である。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。ただし、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）、授業中に指示した資料には目を通すこと。また、講義に関する映画を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれませんが（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書を用いた課題などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ヘンドリー・ジョイ2002『社会人類学入門』法政大学出版局
- 織田竜也ほか(編)2009『経済からの脱出』春風社
- 春日直樹(編)2008『人類学で世界をみる』ミネルヴァ書房
- ピエール・ブルデュー1993『資本主義のハビトゥス』藤原書店
- 本多俊和ほか編2011『グローバリゼーションの人類学』

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

政治のなかの文化【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入/グローバル化の時代と文化
- 第2回 理念の土着化は可能か？
- 第3回 伝統社会のなかの政治の始まり
- 第4回 互酬と社会
- 第5回 伝統的社会における支配と近代的な社会における支配
- 第6回 資本主義への対抗
- 第7回 異なる社会の価値観を図る
- 第8回 中間テスト
- 第9回 政治体制の変化が文化に与える影響①：社会主義と近代化
- 第10回 政治体制の変化文化に与える影響②：体制転換と民主主義
- 第11回 開発の現場における公共性と文化
- 第12回 地域通貨の可能性
- 第13回 市民参加の時代における実践の土着化
- 第14回 中間テストの解説
- 第15回 グローバルな連帯という想像力 / 講義全体の総括

※出張などの理由で休講が入った場合、内容を変更することがある。具体的なスケジュールについては初回の講義で説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 中間テスト+課題など40%、期末テスト60%
- ※受講人数によってはテストをレポートに変更することもある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』など(いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能)の関連項目へのリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で購入する必要はありません。
- ・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。
- ・ Moodleで適宜課題を課します。締め切りまでに提出してください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 評価方法や、電子ブックの閲覧方法などは第一回の講義で説明します。欠席しても履修できるかも知れませんが、不利になるかもしれないことを覚悟してください。
- ・ 講義に出席していても、テストやレポートで評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。真剣に取り組んでください。
- ・ 中間テストの無断欠席者(または代替提出課題の未提出者)、授業態度が目に見えて余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 人々はどうやって意思決定をしてきた(いる)か、どうやって経済活動をしてきた(いる)かということに興味があると、講義の内容は面白いのではないかと思います。
- ・ 「異文化理解の基礎」または「現代社会の文化」を受講済み・受講中の学生は、授業の理解度が高まります。

キーワード /Keywords

政治、公共性、文化、互酬、国家

人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会と人権との関係・歴史や社会の中における人権の重要性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる人権の意義・重要性について総合的に分析し、直面する課題を発見するとともに解決を模索する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	社会の中での人権について、自ら課題を発見し、解決のための学びを継続する。	
	コミュニケーション力			
			人権論	SOC004F

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害しているということがある。

本講義では「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察する。その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問う。

目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題についての認識を深める。
4. 自分自身にとっての人権課題を明確にする。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / (公社) 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な参考書は授業時に紹介する。

人権論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 「自分にとっての人権課題」：自分と人権との関わりを考える。
 - 2 「人権とは何か」：人権とは何かについて解説する。
 - 3 「人権獲得の歴史」：人権獲得の歴史を近代革命を中心に解説する。
 - 4 「世界人権宣言と人権条約」：世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
 - 5 「部落問題について」：現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
 - 6 「部落問題について」：当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
 - 7 「在日外国人と人権課題」：在日外国人の現状と人権課題を解説する。
 - 8 「在日コリアンについて」：在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
 - 9 「ハンセン病について」：ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く社会の現状を解説する。
 - 10 「教育と人権～識字問題」：読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
 - 11 「教育と人権～夜間中学」：教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
 - 12 「障害者と人権」：障害者の立場からみる人権課題を知る。
 - 13 「平和と人権」：戦争・平和についての解説。
 - 14 「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
 - 15 「まとめ」：現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのが、共に考える。
- ※5～14については、状況により授業順序が入れ替わる場合あり。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業に対して取り組む姿勢【50%】と前期末試験（またはレポート）【50%】により評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

さまざまな人権課題に関心を持ち、毎回の授業に反映させることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁、授業態度は重視する。
出席率が基準を満たした学生のみ、前期末試験の受験（またはレポート提出）を許可する。
代筆や代返などを含む不正行為を行った場合は、即座に出席が停止され、単位取得は不可となる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分と他者の学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」
「人間らしく生きる」

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会とジェンダーとの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会の理解に必要とされるジェンダーの考え方について総合的に分析し、課題を発見するとともに、解決策を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が帰属する社会においてジェンダーにかかわる課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
			ジェンダー論
			GEN001F

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのか—そのような日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を理解し、使えるようになることを目標にする。また、社会や文化に潜むジェンダーを可視化するツールとしての統計を分析する方法を学ぶ。

教科書 /Textbooks

牟田和恵編『ジェンダー・スタディーズ—女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2015）
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納美紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

ジェンダー論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本語とジェンダー-戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学-村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー-映画『ロダンを愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ-アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
- 5回 ジェンダー家族を超えて-週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える-あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
- 7回 学校教育の今昔-学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー-津村記久子作・小説『ポトスライムの舟』【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業-エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【農業経営】
- 10回 アジア現代女性史の試み-ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権-絵本『世界中のみまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学-女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場-国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
- 14回 デートDV-TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の積極的な発言...25%、プレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、授業の各回に予定されている章を読み、それに関連した日常生活でみられる事象例を探して、授業に臨むこと。事後学習としては、期末課題の作成に向けて、資料等を探して読み、レポートの構想を練るなど、準備を進めること。

履修上の注意 /Remarks

- (1)法制度改正の動きを新聞等で把握しておくこと。
- (2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プレゼンにはパワーポイント使用のためPPT資料作成スキルズを身につけておくこと。

キーワード /Keywords

「セックス」「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「ジェンダー統計」

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	障がいについての様々な捉え方を理解し、多角的に考えていく能力を養う。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	障がいの捉え方に関する3つのモデルの関係性について理解する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	障がい観を見直す視座を習得する。
	コミュニケーション力		
			障がい学
			SOW001F

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、具体的には発達障害である自閉症スペクトラム障害を取り上げながら、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。
障害をテーマとした映画等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障害」に対するイメージ、ディスカッションも含む【障害イメージ】
- 第3回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回：自閉症スペクトラム障害とは①自閉症の特性【自閉症観の変遷】
- 第6回：自閉症スペクトラム障害とは②自閉症観の変遷【自閉症】
- 第7回：自閉症スペクトラム障害支援方法①構造化の意味【構造化】
- 第8回：自閉症スペクトラム障害支援方法②コミュニケーション支援【コミュニケーション】
- 第9回：合理的配慮とは【合理的配慮】
- 第10回：文化モデル的作品DVDの視聴①前半【文化モデル的作品】
- 第11回：文化モデル的作品DVDの視聴②後半【文化モデル的作品】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【3つのモデルとの関連で】
- 第13回：3つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
- 第14回：共生社会へ向けての課題、自己への問いとしての障がい学【共生社会】【自己への問い】
- 第15回：質問日。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

障害関連の報道等に常に関心をもって接すること。具体的には、授業で、その都度、支持する。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生の作法【昼】

担当者名 /Instructor
 高橋 衛 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科, 堀澤 明生 / Akio Horisawa / 法律学科
 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科, 土井 和重 / Kazushige Doi / 法律学科
 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科, 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
 中村 英樹 / 法律学科, 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
 水野 陽一 / 法律学科, 石塚 壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科
 今泉 恵子 / 法律学科, 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	共生という観念と法との関係や共生における法の役割を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における共生の問題について、法の観点を踏まえ、総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	現代社会における共生に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			共生の作法	LAW001F

授業の概要 /Course Description

現代社会は、国家としても個人としても、極めて複雑な様々な関係から成り立っている。
 そのため、私たちは個人としてどのような関係の中で生活しているのか、そして、どのような関係の中で生活すればよいのかを考えていく必要がある。
 すなわち、私たちの生活が、およそ一人では成り立たない以上、人と人との関係、人と国家との関係、国家と国家との関係、世代と世代との関係、人と自然との関係など、様々な関係の中で成り立っていることを、改めて認識しなければならない。
 そのうえで、「他者との共存（共生）」は我々の生活には不可欠であり、そのためお互いの良好な関係を維持し、これを発展させるためには、お互いを守るべきルールやマナー（作法）があることを知る事が重要である。
 そこで、本講義では、以下の各回の個別テーマを素材にしながら、今現在、上記の意味での他者との関係がどのようになっているのか、どのようなルールが設けられているのか（法の役割）を理解したうえで、これらの共生関係をどのように維持し、あるいは改善しなければならないかを考えていくことにする。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜指示する。

共生の作法【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 民主主義の限界と立憲主義
- 第 3 回 政教分離と叙任権闘争
- 第 4 回 変化する社会と行政
- 第 5 回 国際社会と法—国際行政の観点から
- 第 6 回 刑罰とは何か
- 第 7 回 刑事裁判とは何か
- 第 8 回 契約とは何か
- 第 9 回 担保とは何か
- 第10回 商取引における不正競争と法
- 第11回 民事訴訟とは何か
- 第12回 「働く=労働」について考える
- 第13回 法と道徳について
- 第14回 家族とは何か
- 第15回 まとめ

※なお、講義計画・担当者等については一部変更があり得るので、詳細についてはガイダンスの際に説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートによる（100%、ただし④に注意）。

- ① 受講者は学籍番号に応じて指定されたテーマ群の中から、テーマを1つ選び、レポートを1本作成して提出すること。
- ② レポートの書式等は掲示により別途指示する。レポートは3000字以上とする。
- ③ レポートには、所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名等を明記した所定の表紙を必ず添付すること。
- ④ 出席状況や授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

シラバスを事前に確認してテーマに関わる用語を調べておく。（次の履修上の注意の項を参照のこと）
授業を受講して理解できなかった点について、図書館の参考文献を利用して、調査する。

履修上の注意 /Remarks

講義全体のキーワードだけでなく、各回のテーマに「直接」に関連すると思われるキーワードをいくつか、受講者が自ら想定した上で、それらについて「事前に」新聞・雑誌・本などで情報を収集して、予習しておくこと、各回の理解がいつそう深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

レポート課題は、学籍番号に応じて選択することができる範囲（テーマ群）が決まります。
全ての授業に出席していないと書けないことになるので注意して下さい。
各人が選択できる範囲（テーマ群）は、試験期間開始よりも前の適切な時期に掲示により指定します。

キーワード /Keywords

【現代社会】 【共生】 【作法】 【ルール】

法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と法との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法的課題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	法と社会とのつながりを再確認し、その深い理解をもって社会において積極的に行動できる。
	生涯学習力	●	社会における法的課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			法律の読み方
			LAW002F

授業の概要 /Course Description

六法全書や法律書を開いてみても難しい。裁判所の判例を読んでもどうしてそういう判断をするのかわからない。法律はどういう仕組みになっているのかわからない。そういう疑問に少しでも応え、法律の世界を理解するために必要なスキルを提供します。法律に興味や関心を抱き、社会生活を円滑に営むための指針、心構えをつくる助けになればと思っています。

教科書 /Textbooks

教科書は特に指定しません。毎回、レジユメ、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス-法律を読むために
- 2回 憲法の役割と基本原則を知る① 【最高法規】 【個人の尊厳】 【基本的人権】 【国民主権】
- 3回 憲法の役割と基本原則を知る② 【平和主義】 【権力分立】 【違憲法令審査制】 【個人と国家】
- 4回 民法の役割と基本原則を知る① 【私的自治】 【所有権の絶対】 【過失責任】 【家族法の特質】
- 5回 民法の役割と基本原則を知る② 【公共の福祉】 【信義誠実の原則】 【権利濫用】 【取引の安全】
- 6回 刑法の役割と基本原則を知る① 【罪刑法定主義】 【犯罪の要件】 【刑罰】
- 7回 刑法の役割と基本原則を知る② 【刑事手続】 【裁判員制度】 【刑事責任と民事責任】
- 8回 法の特性と構造、機能を知る① 【社会規範】 【法規範の特性】 【社会統制】 【活動促進】
- 9回 法の特性と構造、機能を知る② 【紛争解決】 【行為規範】 【裁判規範】 【法源】
- 10回 法の適用と解釈の仕方を知る 【裁判所】 【裁判の役割】 【法解釈の方法】 【文理解釈】 【類推解釈】
- 11回 判例の読み方を知る 【判例集】 【判例の調べ方】 【事実の概要】 【判旨】 【参照条文】
- 12回 判例を読む① 【判例部分の抽出】 【判例研究の意義】 【判例研究の仕方】
- 13回 判例を読む② 【判例評価の方法】 【判例と学説】 【特別受益】 【生命保険金】
- 14回 法律の視点から社会を読む 【相続】 【親子関係】 【婚姻】 【離婚】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 40 % 定期試験... 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義に臨む際は、事前にレジユメや参考文献の該当部分を読んでおいてください。事後は、講義の内容や資料、紹介する参考文献を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

履修上の注意 /Remarks

六法を持参してください。法学部生以外の受講生には、石川明他編『法学六法'19』信山社(1,000円)をお勧めします。

法律の読み方 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解するため、社会調査の知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル	●	社会的事象に関する量的・質的調査の基本的な考え方を身につける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会的な課題の発見、データに基づく解説、解決策の提示を可能とするための方法を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が所属する社会における課題を自ら発見し、解決策を提示するための調査方法を継続して考える。
	コミュニケーション力		
			社会調査
			SOC003F

授業の概要 /Course Description

社会調査（量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。
社会調査の目的は、さまざまな社会現象の中から、社会にとって「意味がある」と思われる現象を見つけ出し、「どうなっているのか」「なぜそうなるのか」を、データに基づいて解釈することにある。この授業では、（１）意味のある「問い」をたてること、（２）その「問い」への「答え」を導くための手順（論証戦略）をたてること、（３）論証戦略に基づいて適切な調査票を作成すること、（４）データを統計的に処理すること、（５）データを解釈すること、について学ぶ。

教科書 /Textbooks

使用しない。（適宜、資料・プリントを配布する。）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004、¥2592
入門・社会調査法（第3版）：2ステップで基礎から学ぶ、有斐閣、2017、¥2700
- 『ガイドブック社会調査（第2版）』、森岡清志編著、日本評論社、2007、¥3132

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 社会調査の種類と倫理
- 第3回 調査と研究の進め方
- 第4回 社会調査を企画する
- 第5回 ワーディング1【質問文を作る】
- 第6回 ワーディング2【選択肢を作る】
- 第7回 調査票の構成
- 第8回 サンプリングの考え方と方法
- 第9回 実査とデータファイルの作成
- 第10回 度数分布、代表値、分散と標準偏差
- 第11回 検定の考え方
- 第12回 平均値の差の検定
- 第13回 変数間の関連1【クロス表】
- 第14回 変数間の関連2【相関係数】
- まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 30% 日常の授業への取り組み... 10% レポート... 60%
(総合的に判断する。)

社会調査【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自主的な学習を行い、授業の内容を反復すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。)
課題がある場合、指定された期限までに提出すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通して「実証研究の考え方」を学んで欲しいと思います。

キーワード /Keywords

量的調査、質的調査、解釈、論証戦略、記述、説明、基本仮説、作業仮説、ワーディング、ランダムサンプリング、度数分布、検定、推定、クロス表、相関係数

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	企業と社会に関する諸問題を歴史、思想・文化との関連で理解するための基本的な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史、思想・文化等の総合的理解を通して、企業と社会に関する諸問題を発見し、主体的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自の生活世界から企業と社会に関する諸問題に常に興味を持ち、直面する課題を発見し、解決する力を継続的に涵養することができる。
	コミュニケーション力		
			企業と社会
			BUS001F

授業の概要 /Course Description

企業は、現代社会においてそれなしでは成り立たない存在です。諸個人は一生を通じて何らかの形で企業と関わっていかざるをえません。企業を経営するとは、企業の経営者だけの問題ではなく、企業に関わるすべての人間にとっての問題です。この授業の狙いは、社会の中で企業がどのような原理で存在し、これまで歴史的にどのような側面を有してきたのが、また逆にそのような企業が社会に対してどのような影響を与えているか、現代社会においてこれからの企業はどのように経営されていくべきかを考えることにあります。

教科書 /Textbooks

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論 第4版』有斐閣アルマ、2018年、2268円（税込）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三戸公『会社ってなんだ』文真堂、1991年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス 【企業観の変遷】【6つの企業観】
- 第2回企業と「豊かな社会」【現代における財・サービスの豊かさ】
- 第3回「株式会社」の仕組み① 【株式会社の歴史】【株式会社の機能と構造】
- 第4回「株式会社」の仕組み② 【株式会社の機能と構造】【上場と非上場】
- 第5回社会における「大企業」の意味① 【大企業とは何か】【所有と支配】
- 第6回社会における「大企業」の意味② 【商業社会と産業社会】【企業の性格の変化】
- 第7回社会における「大企業」の意味③ 【官僚制】【科学的管理の展開】
- 第8回社会における「大企業」の意味④ 【環境問題】【随伴的結果】
- 第9回社会における「大企業」の意味⑤ 【コーポレート・ガバナンス】【企業倫理】
- 第10回「家」としての日本企業① 人事における日本企業特有の現象【日本企業と従業員】【契約型と所属型】
- 第11回「家」としての日本企業② 日本企業特有の組織原理【階級制】【能力主義】【企業別組合】
- 第12回「家」としての日本企業③ 日本企業の行動様式【日米の株式会社の違い】【企業結合様式の独自性】
- 第13回「家」としての日本企業④ 「家」の概念 【日本企業の独自性】【家の論理】
- 第14回「家」としての日本企業⑤ 今後の日本の経営 【原理と構造】【家社会】
- 第15回総括

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・70% レポート・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を読んでおいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習しておいてください。また、適宜、レポート課題を出します。

履修上の注意 /Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

財・サービス 株式会社 大企業 家の論理 社会的器官

現代社会と倫理【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代社会と倫理との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の倫理について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の倫理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代社会と倫理
			PHR002F

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理 新版』（山内友三郎・塚崎智監訳）、昭和堂、1999年。
- ピーター・シンガー『あなたが救える命』（児玉聡・石川涼子訳）、勁草書房、2014年。
- 加藤尚武・飯田巨之編『バイオエシックスの基礎』、東海大学出版会、1988年。
- 江口聡編・監訳『妊娠中絶の生命倫理』、勁草書房、2011年。
- 安彦一恵『「道徳的である」とはどういうことか—要説・倫理学原論』、世界思想社、2013年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 20世紀の倫理学【規範倫理学とメタ倫理学】
- 3回 現代における人命の価値（1）【生命の神聖説】
- 4回 現代における人命の価値（2）【積極的行為と消極的行為】
- 5回 現代における人命の価値（3）【最大幸福原理】
- 6回 現代における人命の価値（4）【不完全義務】
- 7回 現代における人命の価値（5）【自己意識】
- 8回 現代における差別の問題（1）【人種差別】
- 9回 現代における差別の問題（2）【差別反対論】
- 10回 現代における差別の問題（3）【優生学】
- 11回 現代における公平性の意義（1）【人口問題】
- 12回 現代における公平性の意義（2）【貧困問題】
- 13回 現代における公平性の意義（3）【公平主義】
- 14回 現代における公平性の意義（4）【援助義務論】
- 15回 予備回

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考書に挙げた『バイオエシックスの基礎』および『妊娠中絶の生命倫理』に収められた論文を一部授業の素材にするので、授業の前に目を通しておくことが望ましい。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理し、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

授業予定の詳細と参考文献の紹介は、第1回もしくは第2回の授業時に行なう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生命 義務論 功利主義 貧困 公平性

現代社会と新聞ジャーナリズム 【昼】

担当者名 西日本新聞社、基盤教育センター 稲月正
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	● 新聞を通して人間、社会、マスメディアの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー	
	数量的スキル	
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 新聞を通して人間理解に必要とされる個人と社会との関係について総合的に分析し、現代社会が直面する課題を発見する。
関心・意欲・態度	自己管理能力	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	● 新聞をはじめとするマスメディアを通して現代社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力	
		現代社会と新聞ジャーナリズム
		SOC001F

授業の概要 /Course Description

多様な情報メディアが錯綜する現代における「新聞」について学び、情報を評価・識別する力（メディアリテラシー）を身につけることを目的としています。同時に、「新聞」を通して現代社会の諸側面について理解を深めることも目指します。

インターネットが普及した中で、情報や言論の発信・伝達役としての「新聞」の存在感は低下しているという指摘も聞かれます。しかし、社会に流布している情報の出所の多くは新聞です。また、ネットメディアが独自に発する情報は、断片的であったり、信頼性に欠けていたりすることも少なくありません。

新聞社は、24時間、洪水のように情報が飛び交う中、内容を整理して信頼性のある情報として発信することを基本に、①社会の出来事を客観的に伝える、②その背景や問題点を深く掘り下げる、③社会が抱える課題の解決策を提供する、④権力者などの不正追及など健全な批判や言論を通じ民主主義を守ることに取り組んできました。この講義では、そうした新聞社が培ってきた長い経験と実績を基盤に、新聞社のデスクや第一線の記者などが取材や報道体験を話すことを通して、新聞の役割や新聞コンテンツの活用法などについて考えます。なお、本講義は西日本新聞社の提供講座です。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回目から14回目までは、新聞ジャーナリズムの第一線で活躍している記者、カメラマン、デスク、編集委員らが交代で講師を務めます。ただし、事件・事故の発生や講師の都合などにより順番・内容が変わることがあります。

【第1回】オリエンテーション / 電子メディアへの挑戦 (編集企画委員長 / 西日本新聞メディアラボ メディア事業担当部長)

【第2回】災害被災者に寄りそう (社会部記者)

【第3回】地方の視線で政治と向き合う (都市圏総局デスク)

【第4回】アジアと九州を読み解く (国際部デスク)

【第5回】調査報道・キャンペーン報道 (西日本新聞メディアラボ デジタル報道部デスク)

【第6回】新聞デザインの展開 / ビジュアル発信を目指して (デザイン部デスク)

【第7回】地域文化をみつめて / 文化部記者の仕事 (文化部デスク)

【第8回】報道写真の力 / カメラマンの心得とは (写真部記者)

【第9回】九州経済をどう見るか (経済部デスク)

【第10回】分かりやすさの追求 / こども向け紙面 (こどもタイムズ編集長)

【第11回】スポーツ報道の世界 / 運動記者は何を伝えるか (運動部デスク)

【第12回】新聞の作り方・読み方 (編集センターデスク)

【第13回】暮らしの視点で社会見つめる (生活特報部長)

【第14回】北九州の現場から (北九州本社編集部)

【第15回】社会学者は新聞をどのように「使う」のか (稲月)

現代社会と新聞ジャーナリズム 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(3回提出が必要です)・・・100%
ただし、出席回数が一定回数以下の受講生はレポートの出来にかかわらず、成績を不可(D)とします。
詳細は第1回目の講義で説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

新聞や雑誌などに目を通し、現代社会や地域が直面する課題やその解決の方法について考えてください。(必要な学習時間の目安は、90分以上。)

履修上の注意 /Remarks

「成績評価の方法」にも記したように、この授業では、出席回数が一定回数以下の受講生はレポートの出来にかかわらず、成績を不可(D)とします。就職活動や実習などで欠席する予定がある者はよく考えて履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現代人に欠かせない能力である「メディアリテラシー」(メディアの特性を理解した上で情報を選別して読み解く力)を身につけてください。

西日本新聞社の記者・デスクが、取材や報道の体験等をもとに、現代社会の諸問題、新聞の役割、新聞コンテンツの活用法等について解説する(西日本新聞社の提供講座)。

キーワード /Keywords

メディアリテラシー、新聞、ジャーナリズム、現代社会、実務経験のある教員による授業

都市と地域【昼】

担当者名 /Instructor 岡山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	都市と地域について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	都市と地域について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	都市と地域に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			都市と地域 RDE002F

授業の概要 /Course Description

日本や海外における都市や地域についての紹介や、それらを捉えるための概念や枠組み、現状での課題や将来の展望などについて講義する。より幅広く俯瞰的な視点を持つことにより都市や地域を様々な形でまた複眼的に捉え、そこから社会に対する新しい視点が生まれることを促す。都市と地域という概念の多様さを学びながら実際の事例を通して都市・地域の形状、規模、その成り立ちを考察する。また、その延長として都市・地域間の係わりを社会、経済、交通などの視点から分析する枠組みや手法を紹介する。「都市と地域」の最終的な目的としては、都市と地域の概念の理解と個人々での定義の形成、それらを基にした柔軟な着想を習得することにある。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 共通 : クラス紹介および注意事項
- 2回 地域1 : 地域概念: 『地域』とは何か?
- 3回 地域2 : 地域学と地域科学
- 4回 地域3 : 地域開発とは
- 5回 地域4 : 地域間という視点
- 6回 地域5 : 地域を分析する
- 7回 地域6 : 地域事例 (LQによる分析)
- 8回 地域7 : 地域最終クイズ
- 9回 都市1 : 『都市』はなぜ存在するか?
- 10回 都市2 : 都市の理論
- 11回 都市3 : 都市開発 (再開発)
- 12回 都市4 : 都市の変遷・動態
- 13回 都市5 : 都市を分析する
- 14回 都市6 : 都市事例
- 15回 都市7 : 都市最終クイズ

成績評価の方法 /Assessment Method

クイズ (合計) ... 30% 授業内貢献... 20% 最終クイズ (2回合計) ... 50%

都市と地域【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日頃から「都市」や「地域」という言葉がどのように使われているかを注意深く観察・考察して授業に臨んで下さい。新聞やTVニュース、もしくはインターネットニュースサイトなどで使われている「都市」や「地域」という言葉の意味を考えて下さい。授業で紹介した様々な「都市」や「地域」の概念を授業後に自らの考えと照らし合わせて考察し、身近な事例に当てはめて次回の授業に臨んで下さい。

履修上の注意 /Remarks

本授業は毎週行われ、講義および討論の形式をとります。授業に毎回出席すること、予習・復習等の準備を行うこと、授業内討論への活発な参加を行うことなどに付け加え、不定期・複数の(Moodleによる)クイズへの回答、および2回の最終クイズへの回答が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業貢献は授業内ディスカッションでの発言回数および発言内容を評価します。発言の無いもしくは回答のない学生は授業貢献の点数が芳しくなくなるので、活発に発言をしてください。

また、不正行為が発覚した場合は、当該項目だけでなくすべての点数(授業貢献を含む)が0点になります。

キーワード /Keywords

地域科学、地域学、都市構造、都市政策

地域防災への招待【昼】

担当者名 /Instructor 加藤 尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科 (19~), 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19~)
村江 史年 / 地域共生教育センター, 城戸 将江 / Masae KIDO / 建築デザイン学科 (19~)
南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所, 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 1年 (2015年度以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
							○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	地域防災に必要な事項をさまざまな視点から学び、地域の持続可能性を高めるための総合的な知識を身につける。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	災害に備えて自ら課題を見だし、改善するための技法を身につける。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観	●	いざ災害が起きた際に自分および周囲の人の身を守るべく最大限の努力をする責任感を身につける。	
	生涯学習力	●	災害時に必要な情報を日頃から集め、いざという時に必要な情報を選別できる能力を生涯にわたって身につける。	
	コミュニケーション力			

地域防災への招待	SSS001F
----------	---------

授業の概要 /Course Description

本講義では、防災の基礎知識及び自治体の防災体制・対策等を学ぶことを通じ、学生自身の防災リテラシーと地域での活動能力を向上させることを目的とする。
地震や風水害などの代表的な災害のメカニズム、自然災害に対する北九州市の防災体制・対策について、本学および北九州市役所を中心とする専門家が全15回にわたって講義し、防災の基礎、自治体の防災、市民・地域主体の防災の3つの知識を身につける。講義の中で避難所運営などのワークショップを行い、手を動かし、北方・ひびきのの学生同士、また、学生と講師が協力しながら地域防災のあり方を考える。
さまざまな分野を担当する北九州市役所の職員が講師として参画するため、防災を軸としつつ地方自治体の業務の実際を幅広く知るためにも役立つ。

教科書 /Textbooks

なし、授業で必要に応じて資料を配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡田恒男、土岐憲三(2006)：地震防災のはなし、朝倉書店
京都大学防災研究所編(2011)：自然災害と防災の事典、丸善出版
金吉晴(2006)：心的トラウマの理解とケア、第2版、じほう
片田敏孝(2012)：人が死なない防災、集英社新書

地域防災への招待【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス：災害を「自分ごと」としてとらえる（北九大・南）
- 2 気象と地震（北九州市危機管理室又は福岡管区气象台）
- 3 北九州市の防災体制と減災への取組み（北九州市危機管理室）
- 4 防災と河川：降雨を安全に流すために（北九州市建設局）
- 5 大災害と消防：最前線で戦う消防をとりまく環境と現状（北九州市消防局）
- 6 学校における防災教育：災害時に主体的に行動する力を育む取組み（北九州市教育委員会）
- 7 産官学連携による消防技術の革新（北九大・上江洲）
- 8 組織の防災能力見える化と改善のための訓練（北九大・加藤）
- 9 都市防災：建物の耐震性とは何か（北九大・城戸）
- 10 ジェンダーと防災：地域での実践（北九大・二宮）
- 11 災害時のこころのケア（北九州市保健福祉局）
- 12 大学生にもできる防災：災害ボランティア活動（地域共生教育センター）
- 13 避難所運営訓練HUG（北九州市危機管理室）
- 14 地域協働によるまちづくり（外部講師）
- 15 防災が地域を変える、社会を変える（外部講師）

なお、最後の3時限分は、北九州市が主催する大学生を対象とした防災講座に合わせて実施予定。
(7月の土曜日に実施。小倉駅周辺の会場を予定。)

成績評価の方法 /Assessment Method

活発な授業参加 30%
レポートおよび小テスト 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に関連する社会的・技術的事項について予習をしておくこと。授業の後は、学んだ内容の活かし方について考察を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

授業終了時に復習や次回の講義に向けた予習として読むべき資料を提示するので、各自学習を行うこと。
北方 - ひびきの間での遠隔講義を実施予定のため、受講人数制限あり。
最後3回分の講義は、7月に1回小倉駅周辺の会場に集まり実施予定。交通費は受講者の負担となる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者は、授業終了後も地域防災について各自が取り組めることを続けて欲しい。そのための学習や活動の機会を北九州市役所と連携して継続的に提供する。

キーワード /Keywords

地域防災、危機管理、大学生の役割、実務経験のある教員による授業

現代の国際情勢【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科, 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
大平 剛 / 国際関係学科, 白石 麻保 / 中国学科
松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科, 寺田 真一郎 / Shinichiro Terada / 英米学科
アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際情勢について理解を深める。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会における問題を認識した上で、分析を行い、解決方法を考察する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の国際情勢に対して、継続的な関心を持ち、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代の国際情勢
			IRL003F

授業の概要 /Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解きます。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進めます。

教科書 /Textbooks

使用しない。必要に応じてレジュメと資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 下野 日中台関係：ボーダーエリア
- 第3回 下野 日中台関係：国家の枠組みと社会
- 第4回 ウェイン The Role of Public Spaces in Cities
- 第5回 大平 変容するアジア情勢（1）中国とインドの台頭
- 第6回 大平 変容するアジア情勢（2）日本の防衛力強化
- 第7回 大平 変容するアジア情勢（3）開発協力における熾烈な争い
- 第8回 金 日本の「戦後」の終わり
- 第9回 金 日本の対外関係の諸問題
- 第10回 金 戦後の国体、永続敗戦
- 第11回 白石 中国の持続的発展の可能性：経済成長・SNA・投資
- 第12回 寺田 インターネットを巡る国際情勢
- 第13回 松田 日本総合商社と海外インフラプロジェクト【世銀保証、IFC、Bローン、商社】
- 第14回 下野 台湾：歴史
- 第15回 下野 台湾：社会

※都合により変更もあり得る。変更がある場合は授業で指示する。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト（7～14回）100% ※小テストは原則として各回実施しますが、詳細は各担当者が指示します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の担当者の指示に従ってください。授業終了後には復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

この授業は、複数の教員が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業です。授業テーマと担当者については初回授業で紹介します。

授業の最後に小テストを受けます。授業中は集中して聞き、質問があればその回のうちに出してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では今の国際情勢を様々な角度から取り上げていきます。授業を通じて自分の視野を広げていくきっかけにしてください。

キーワード /Keywords

開発と統治【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	海外及び国内地域社会のガバナンス（協治）について総合的理解が可能となる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国内外のガバナンス（協治）の在り方を通しての課題を発見でき、その課題を解決するための方策が学習できる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	大学卒業後、地域社会で生活するにあたって積極的に社会作りに関わり、生涯学習としてその実践活動に携わることが可能となる。
	コミュニケーション力		
			開発と統治
			IRL002F

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス（協治）」の意味を世界各国(ミャンマー、韓国、米国と日本が対象国)や日本の地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループワークを通じて解答してもらいます。

以上の概要を通して、開発とは何か、そこにおけるガバナンス概念の知識を吸収すると同時に理解し、地域においては課題を発見・理解し、自らもガバナンスの一翼を担えるような能力を付けてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

その都度、資料を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

*『○○を知るための○章』シリーズ(明石書店)、特にミャンマー、韓国を参照のこと。

*大原悦子『フードバンクという挑戦～貧困と飽食のあいだで』現代岩波文庫、2016年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	「開発と統治」をはじめめるにあたって		担当：三宅
第2回	民主化問題を考える視座(1)	【民主化問題】	担当：伊野
第3回	民主化問題を考える視座(2)		担当：伊野
第4回	理論と現実～ミャンマーの民主化をめくって	【ミャンマー】	担当：伊野
第5回	韓国の民主化とガバナンスの形成過程	【韓国】	担当：申
第6回	米国におけるガバナンスと環境～オバマ政権とトランプ政権に焦点をあてて	【米国】	担当：申
第7回	エネルギー問題を通してのガバナンス形成	【エネルギー問題】	担当：申
第8回	世界と日本のフードバンク	【フードバンク】	担当：原田正樹・三宅
第9回	NPOフードバンク北九州ライフアゲインとは？	【ライフアゲイン】	担当：原田・三宅
第10回	子ども食堂「もがるか」の運営と人々	【子ども食堂】	担当：原田・三宅
第11回	フードバンク運動に関わる学生の取組みと討論	【大学生】	担当：原田・三宅
第12回	グループワーク(アクティビティ作り)を通じたガバナンス概念の把握	【グループワーク】	担当：三宅
第13回	日本の子ども会を取り巻く環境	【子ども会】	担当：三宅
第14回	教員の「開発と統治」の概念提示を考える		担当三宅・伊野・申
第15回	まとめ(グループ・ディスカッション)		

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度...30% 小課題の提出...20% 試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習はガバナンスに関する情報を収集し、日ごろから自らのガバナンスの概念を考えておいてください。事後学習はその都度授業で習ったガバナンスの事例をノートに整理しておいてください。最後の授業のグループワークで使います。

開発と統治【昼】

履修上の注意 /Remarks

各授業に際して、日頃から世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報を得ていること。また、時々、小課題を出すので、授業で習ったこと以外に日頃からの情報を書き込み、提出すること。試験の結果が良くても、出席をあまりしなかった受講生はD判定になる可能性が大きいと思ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。担当教員は様々な国々を知り尽くしています。できるだけ、海外に出かけ、また、本をどんどん読んでください。

キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー フードバンク 貧困 韓国 米国 地域社会 子ども会 グループワーク

グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科, 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程
鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際経済の諸問題を社会・文化と関わらせつつ理解するための基本的な知識を持っている。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際経済の諸問題を発見し、解決策を自立的に提示することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際経済の諸問題に常に関心と興味を持ち、知識を自立的に探求する姿勢が身につけている。
	コミュニケーション力		
			グローバル化する経済
			ECN001F

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション-グローバル化とは何か
- 2回 自由貿易【比較優位】【貿易の利益】【保護貿易】
- 3回 地域貿易協定【自由貿易協定】【関税同盟】【経済連携協定】
- 4回 企業の海外進出と立地(1)【直接投資】
- 5回 企業の海外進出と立地(2)【人件費】【為替レート】
- 6回 海外との取引の描写【経常収支と資本移動について】
- 7回 先進国と途上国間の資本移動【経済成長と資本移動について】
- 8回 企業の国際展開(1)【グローバル企業の類型】【グローバル統合】【ローカル適応】
- 9回 企業の国際展開(2)【イノベーション】【ブランド】
- 10回 グローバル化と人材(1)【JIT】【海外生産】【熟練】
- 11回 グローバル化と人材(2)【派遣・請負】【OJT】【Off-JT】
- 12回 国際労働移動(1)【移民と所得分配】【移民の移動パターン】
- 13回 国際労働移動(2)【移民と財政】【移民の経済的同化】【日本における外国人労働の受け入れ】
- 14回 グローバル化の要因とメリット【消費者余剰】
- 15回 グローバル化のデメリット【所得格差】【金融危機の伝染】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行うこと、また授業の理解に有益な読者や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけてほしい。授業で使用するプリントは北方Moodleにアップするので、きちんと復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

テロリズム論 【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間とテロリズムとの関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	テロリズムについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	テロリズムに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			テロリズム論	PLS001F

授業の概要 /Course Description

911以降の国際社会を考える上で、もはやテロリズム問題を避けて通ることはできない状況ですが、テロは当然、911以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

なお、この科目では、テロリズムに関する総合的な知識の獲得、理解、この分野に関する課題発見・分析能力の獲得により、および生涯にわたりこの問題と向き合っていく基盤を提供します。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

テロリズム論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 テロリズムとは何か(1)
定義が困難な理由について
①「自由の戦士」という問題（祖国解放のための暴力使用はテロか？）
②テロの犯罪性の問題（佐賀散弾銃乱射事件や秋葉原連続殺傷事件はテロか？）
③テロの政治性の問題（テロリストが身代金目的で行った誘拐事件はテロか？）
- 3回 テロリズムとは何か(2)
テロリズムの定義
①911の特殊性と国土安全保障の考え方
②アメリカ国内でのテロの定義の統一化
③テロリズムの定義
- 4回 テロリズムとは何か(3)
テロリズムの特徴 ①テロの目的 ②テロの標的 ③テロの主体
テロと犯罪のグレーゾーンについて
- 5回 テロの歴史(1)
テロの起源、19世紀のテロとアナキズム
- 6回 テロの歴史(2)
ナショナリズムとテロ（国粋主義、民族解放）
- 7回 現代テロ(1)
国際テロの登場（1968年エルアル機ハイジャック、スカイマーシャル）
反米テロの登場（TWA機ハイジャック）
補論（ハイジャックとは何か）
- 8回 現代テロ(2)
無差別・自爆テロの登場（日本赤軍、ロッド空港事件）
劇場型テロの登場（ミュンヘンオリンピック事件とGSG9、ダッカ事件とSAT）
- 9回 反近代・脱近代のテロ
オクラホマシティー連邦ビル爆破テロ、ユナボマー、環境テロなど
- 10回 無差別大量殺戮テロ(1)
「大量」殺戮テロの始まり
化学テロと生物テロ
化学兵器の特徴
- 11回 無差別大量殺戮テロ(2)
地下鉄サリン事件の概要
サリンについて
- 12回 無差別大量殺戮テロ(3)
地下鉄サリン事件の動機
- 13回 911米国同時多発テロ(1)
911の特異性
911の概要と計画性
- 14回 911米国同時多発テロ(2)
ビンラディンのプロファイル
アルカイダとテロ、米国の対応
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会の動向と日本の関係について総合的な理解力を有している。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際社会に対する批判的省察をもとに、日本が直面する問題の分析を行い、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際社会と日本のあり方に関して課題を自ら発見し、解決していくために学び続けることができる。
	コミュニケーション力		
		国際社会と日本	IRL004F

授業の概要 /Course Description

戦後日本政治史を講じる。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『第3版補訂版 戦後日本外交史』(有斐閣 2014)、定価税込み2,160円を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンスの時、あるいは授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 戦後日本外交の構図
- 3回 占領下日本の外交1【日本国憲法】【占領改革】
- 4回 占領下日本の外交2【サンフランシスコ講和】【日米安保条約】
- 5回 独立国の条件1【自主外交】【二大政党制】
- 6回 独立国の条件2【日米安保条約改定】
- 7回 経済大国外交の原型1【高度経済成長】
- 8回 経済大国外交の原型2【沖縄復帰】
- 9回 自立的協調の模索1【デタント】
- 10回 自立的協調の模索2【石油危機】
- 11回 「国際国家」の使命と苦悩1【日米同盟】
- 12回 「国際国家」の使命と苦悩2【経済摩擦】
- 13回 冷戦後の外交1【軍縮】【湾岸戦争】
- 14回 冷戦後の外交2【テロとの戦い】
- 15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50% テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までにあらかじめ資料や教科書で授業内容を調べておくこと。授業終了後には、授業ノートと資料や教科書を照らしながら、理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

複数の先生の担当授業です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業前には予め教科書で該当箇所を学習し、終了後は復習を行うこと。

キーワード /Keywords

近現代 国際関係史 東アジア

韓国の社会と文化【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	韓国の社会と文化を理解するのに必要な知識を修得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	隣国理解に必要とされる総合的な考察をもとに日韓における諸問題を主体的に思考し、判断することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	韓国に対する興味関心を持続させ、隣国理解のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			韓国の社会と文化 ARE010F

授業の概要 /Course Description

適宜映像などを用いながら韓国全般、とりわけ現代韓国の社会と文化に関する基本的な知識を習得し、等身大の韓国について理解を深める。これをベースに異文化理解とは何かについても考えてみる。また、つねに日韓比較的な視点を念頭に入れながら自国文化について見つめなおす時間としたい。

教科書 /Textbooks

適宜プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業にて提示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 グローバル化するK-POP
- 3 韓国について概観
- 4 韓国(人)にとって日本(人)とは?
- 5 日本(人)にとって韓国(人)とは?
- 6 現代韓国社会と文化の特徴I(外部講師)
- 7 韓国における日本大衆文化の受け入れ
- 8 日本における「韓流」史
- 9 韓国人の名字と名前①【名字について】
- 10 韓国人の名字と名前②【名前について】
- 11 韓国の歴史
- 12 現代韓国社会と文化の特徴II(外部講師)
- 13 日韓の食文化について考える
- 14 現代韓国を知るVTR視聴/解説
- 15 まとめ

* 上記スケジュール及びテーマはあくまで目安であり、受講生の二ーズや進行状況などの都合により変更となる場合もある。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度(出席レポートや討論への参加)40%
中間レポート20%
期末テスト40%

韓国の社会と文化【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までには予め毎回のテーマについて参考文献を読み、授業終了後には各自の「考え」をまとめること

履修上の注意 /Remarks

- 初回の授業には必ず出席すること
- ・ 授業開始のチャイムが鳴るまでに着席していること。(チャイム以降の入室は遅刻とみなす。遅刻3回をもって1回の欠席とカウントする)
- ・ 欠席した回に配布されたプリントや資料については各自で解決すること
- ・ 調べ事や発表等を積極的に行うこと
- ・ ウィキペディアの丸写しに近いレポート、無断引用(コピペ等)が発覚したレポートは0点とする

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

エスニシティと多文化社会【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科, 篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	エスニシティと多文化主義・多文化社会に関する総合的な理解力を有している。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	エスニシティと多文化主義・多文化社会に関する考察をもとに、世界が直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	多様化する社会における課題を発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		エスニシティと多文化社会	
		IRL001F	

授業の概要 /Course Description

冷戦終了後、世界各地で民族紛争が激化している。また、移民をめぐる動きやエスニシティ、人種に関する議論も活発化している。これらは新しい政治現象であると思われるが、決してそうではない。この授業では、エスニシティ問題に関する史的・総合的な理解を目指すとともに、多文化主義に基づく社会の再編成がどのような経緯で進み、いかなる課題を負っているかを幅広い事例を取り上げて考察する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ヨーロッパにおけるエスニシティと多文化主義【国民国家】
- 2回 連合王国イギリス【連合王国】【スコットランド】【ウェールズ】
- 3回 連合王国の終焉？【権限委譲】【自治】【独立】
- 4回 イギリスにおける文化摩擦【オルダム暴動】【ブリクストン暴動】
- 5回 イギリスにおける多文化主義【スカーマン報告】【イスラム嫌い】
- 6回 英仏のエスニシティ問題【同化主義】【スカーフ問題】
- 7回 英仏の国民統合【共和国原理】【ライシテ】
- 8回 前半のまとめ
- 9回 東南アジアの多文化社会とエスニシティ
- 10回 「本物・本質」探し：「マレー人」概念をめぐる包摂・排除
- 11回 「独立か否か」：インドネシア・アチエの事例
- 12回 文明の「本場」と「周縁」：東南アジアの華人
- 13回 「想像の共同体」の読み方
- 14回 共存のための区切り：マレーシアの民族概念
- 15回 後半のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験(中間50%、期末50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

エスニシティと多文化社会 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方I【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史の読み方 I
			HIS004F

授業の概要 /Course Description

ここでは私たちの身のまわりの歴史に関する知識や常識や見過ごしがちな細かな事柄に注目して歴史を見直すことを目的としています。

以上の理由から、この授業の内容は高校教科書より高い「歴史学入門」レベルとなっていますのでご了承ください。

- この授業は高校までの授業のような知識の習得を目的としたものではなく、考えることやものの見方を学ぶことを目的としています。したがって教科書のような通史を学ぶものではありません。
- この授業は一つの歴史的事実のさまざまな側面やさまざまな解釈から歴史の多様性の面白さを学ぶことを目的としているため、教科書のように事実の一つに限られてはいません。
- この授業では「日本」という国民国家が成立する以前の前近代の日本列島と東アジアの社会を学ぶため、今日の国家的枠組みとはことなる視点を必要とします。

注意：

この授業で使用する『ラスト・サムライ』『もののけ姫』の映像には一部残虐な暴力シーンが含まれているので、あらかじめご了承ください。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『想像の共同体』（NTT出版）
- 小熊英二『単一民族神話の起源』（新曜社）
- 池内敏『日本人の朝鮮観はいかにして形成されたか』（講談社2017）
- 新渡戸稲造『武士道』（岩波文庫）
- ルース・ベネディクト『菊と刀』（社会思想社）
- 野口実『武家の棟梁の条件』（中公新書）
- 佐伯真一『戦場の精神史』（NHKブックス）
- 勝田政治『廃藩置県～「明治国家」が生まれた日～』（講談社）
- イ・ヨンスク『国語という思想～近代日本の言語認識』（岩波書店）
- 網野善彦『日本社会の歴史（上）～（下）』（岩波新書）

歴史の読み方I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス①授業の進め方
- 2回 「東アジア」という視点
- 3回 日本の近代と国民国家の歴史観
- 4回 中国・韓国から見たアジアの近代
- 5回 『ラスト・サムライ』の誤解
- 6回 新渡戸稲造の『武士道』
- 7回 武士道の成立・・・『葉隠』と山鹿素行
- 8回 『平家物語』を読む①二つの平家物語
- 9回 『平家物語』を読む②言葉戦としての「川中島」
- 10回 県名を読む①国郡制と幕藩制
- 11回 県名を読む②県名と県庁所在地
- 12回 県名を読む③戊辰戦争を「見直す」
- 13回 「国語」とは何か
- 14回 網野善彦と日本史の多様性
- 15回 『もののけ姫』を読む-網野史学と【縄文文化】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業レポート・・・50%、筆記試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にシラバスの授業計画を確認しておくこと。
事後にノートを整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

シラバス・プリント・参考文献をよく読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史の読み方II
			HIS005 F

授業の概要 /Course Description

司馬遼太郎『坂の上の雲』で、「戦術的天才」として描き出された児玉源太郎（日露戦争時の満州軍総参謀長、台湾総督）の実像に実証的に迫り、その生涯をたどることを通じて、歴史小説と政治外交史研究との関係について思いをめぐらすきっかけを作りたい。要するに、「歴史認識とはいったい何か」という問題を考察していく。

教科書 /Textbooks

小林道彦『児玉源太郎 - そこから旅順港は見えるか』（ミネルヴァ書房、3000円税別）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎 - 予が生命は政治である』（ミネルヴァ書房）。その他、講義中に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 政治的テロルの洗礼 - 徳山殉難七士事件 - 佐賀の乱 -
- 第3回 危機管理者 - 神風連の乱・西南戦争 -
- 第4回 雌伏の日々 - 佐倉にて -
- 第5回 洋行と近代陸軍の建設
- 第6回 陸軍次官 - 英米系知識人との出会い -
- 第7回 台湾経営 - 後藤新平の登場 -
- 第8回 政治との関わり - 第一次桂内閣
- 第9回 陸軍改革の模索 - 大山巖・山県有朋との対立・協調 -
- 第10回 日露戦争 - 統帥権問題の噴出 -
- 第11回 旅順攻防戦 - 明治国家の危機 -
- 第12回 児玉は「天才的戦術家」だったか - 危機における人間像 -
- 第13回 「憲法改革」の頓挫
- 第14回 歴史小説と政治史研究の間
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の該当箇所を目を通しておくこと。授業終了後には講義ノートを参照しながら教科書を再読すること。

履修上の注意 /Remarks

歴史の読み方II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

そのとき世界は【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	世界史を同時代史として、グローバルに理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界史を同時代史として、グローバルに認識できる能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	世界史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			そのとき世界は HIS002 F

授業の概要 /Course Description

皆さんの祖父・祖母の世代の人々がどのような時代を生きたか、映像等を交えながら、世界と日本の状況を対比させ考えていく。その過程を通じて現代世界の特徴について学んでいく。対象となるのは、第2次世界大戦前から現代。日本の状況に関しては、小林先生に担当していただき、内容を充実させる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション(伊野担当)。【オリエンテーション】
- 第2回：第2次世界大戦以前の世界(伊野担当)。【世界大戦前の世界】
- 第3回：第2次世界大戦以前の日本(小林担当)。【世界大戦以前の日本】
- 第4回：第2次世界大戦と世界(伊野担当)。【第2次世界大戦】【世界】
- 第5回：第2次世界大戦と日本(小林担当)。【第2次世界大戦】【日本】
- 第6回：1950～60年代の世界(伊野担当)。【1950～60年代】【世界】
- 第7回：1950～60年代の日本(小林担当)。【1950～60年代】【日本】
- 第8回：1970年代の世界(伊野担当)。【1970年代】【世界】
- 第9回：1970年代の日本(小林担当)。【1970年代】【日本】
- 第10回：1980～90年代の世界(伊野担当)。【1980～90年代】【世界】
- 第11回：1980～90年代の日本(小林担当)。【1980～90年代】【日本】
- 第12回：現代の世界(伊野担当)。【現代】【世界】
- 第13回：現代の日本(小林担当)。【現代】【日本】
- 第14回：現代の世界再考(伊野担当)。【現代世界】【再考】
- 第15回：まとめ。【まとめ】
- 第15回：質問日。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の都度、指示する。

履修上の注意 /Remarks

そのとき世界は【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦後の日本経済【昼】

担当者名 土井 徹平 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	戦後の日本経済の発展過程と特徴を理解することができる。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本経済が抱える問題を発見し、分析する能力を身に付ける。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	日本経済が抱える問題を認識し、解決のための学習を継続する意欲を持つことができる。	
	コミュニケーション力			
			戦後の日本経済	ECN002 F

授業の概要 /Course Description

皆さんは、“Japan as No 1”と言われた時代、つまり、世界の国々が見習うべき世界No 1の経済大国と、日本が海外から称賛された時代があったことをご存知でしょうか。「バブル」以降に生まれた皆さんにとって、これは実感を抱けない言葉かもしれません。

しかし私たちは、この時代の「遺産」を引き継ぎ、この時代に形作られた社会的・経済的基盤のうえで現在を生きています。そしてそのことが、現代に生きる私たちの価値観や行動様式を規定しているのです。

したがって、“Japan as No 1”と言われた時代（あるいはそれ以降の変化）を知ることは、私たち自身や私たちが生きる現代を理解することでもあります。

このことをふまえ本講義では、主に1950年代から60年代に見られた「高度経済成長」と、その結果としての日本社会・文化の変化についてお話しします。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜紹介します。

戦後の日本経済【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 I. 現代社会の理想と現実
 - 1. 現代の若者の就職と結婚
- 第3回 2. キャリア形成を巡る理想と現実
- 第4回 II. 戦後文化の担い手
 - 1. 「団塊の世代」
- 第5回 2. 戦後文化と家族モデル
- 第6回 III. 「高度経済成長」への道程
 - 1. 戦後の人口問題と経済成長の蓋然性
- 第7回 2. 「高度経済成長」と「人口ボーナス」
- 第8回 3. 「高度経済成長」と人口移動
- 第9回 IV. 戦後家族モデルの成立
 - 1. 「豊かさ」の象徴
- 第10回 2. 「上昇志向」の時代と日本人の生活意識
- 第11回 3. 日本人の理想とモデル - 「ミッチーブーム」と「象徴天皇」
- 第12回 4. 日本人の理想とモデル - ブラウン管を通じて見たアメリカ -
- 第13回 V. 「ロスジェネレーション」
 - 1. 「幸せモデル」の確立
- 第14回 2. 「高度経済成長」の終焉と「団塊ジュニア」
- 第15回 2. モデルの喪失と新たな文化形成

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 80% 日常での授業への取り組み... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回、授業内容に沿ったレジユメを配布します。配布済みのレジユメを用い前回の講義内容を復習して授業に臨み、授業後には同じくレジユメをもとに、その日の授業内容を反復するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「歴史」と言えば「暗記科目」という印象を抱いている方も多いと思います。しかし大学で学ぶ「歴史」は「歴史学」であり、「歴史学」は、歴史をもとに過去そして現代について“考える”社会科学です。これまで「歴史」が苦手であった方、「歴史」に関する知識に自信がないという方であっても、「歴史」をもとに考える意思のある方であれば主体的にご参加ください。

キーワード /Keywords

日本経済史 戦後史 高度経済成長 団塊の世代

もの与人間の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	もの与人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	もの与人間との関係性について総合的に分析し、そこに内在する課題があれば、それについて自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	もの与人間との関係に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			もの与人間の歴史 HIS003F

授業の概要 /Course Description

特定の「モノ」を取り上げ、「モノ」の製造 / 生産、流通、そして使用など、モノ与人間の関わり方の現場に焦点を絞り、その「モノ」と関わることで、私たちの生活そして社会のあり方などがどのように変容してきたか、「モノ」をめぐる歴史を検討する。
今年度は自動車と原子力発電所をとりあげる。
なお、本年度は外部講師を数回、招くので、それによって各回の内容が変わる場合がある。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献リストは、ガイダンス時に配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 自動車がつくった社会【モータリゼーション】
- 第3回 力と近代【蒸気機関】、【内燃機関】、【原子力】
- 第4回 自動車の時代の終わり？【ICT】、【高付加価値生産】
- 第5回 自動車をめぐる国民文化【大衆社会】、【トクヴィル】、【ウェーバー】
- 第6回 自動車発明の前提1【職人文化】
- 第7回 自動車発明の前提2【互換性の思想】
- 第8回 自動車と20世紀文明【大衆社会、大量生産】
- 第9回 フォーティズムとは何か【ヘンリー・フォード】
- 第10回 自動車と道路【道路】
- 第11回 現代社会 - 「光の巨大」
- 第12回 環境問題の外部化・不可視化と社会的費用 - 「闇の巨大」
- 第13回 原子力政策と地域社会
- 第14回 情報化と外部問題 - 方法としての情報化
- 第15回 どのような社会を選択するのか - 情報化 / 消費化社会の転回

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 50% レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考文献を数多く読みますので、あらかじめ十分に学習してから授業に参加し、授業後は復習してください。

履修上の注意 /Remarks

授業前にあらかじめ指定された資料で学習を行い、授業後は復習をすること。
近代化をめぐる政治、経済、文化の議論を展開しますので、政治学や経済学、社会学、カルチュラル・スタディとあわせて勉強すると、よく授業内容が分かります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自動車と原子力発電所から開けていく様々な事柄を紹介しますので、多方面のことに興味を持って勉強して下さい。

キーワード /Keywords

大量生産システム、民主主義、比較文明論

人物と時代の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 北方キャンパス 非常勤講師, 新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史上著名な人物を通じて、歴史の流れを理解するために必要な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史上重要な人物を特定し、その人物が果たした歴史的役割を見出す能力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身の回りの歴史と著名人物に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		
			人物と時代の歴史
			HIS001 F

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。

なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。

二人の教員が、日本と欧米の代表的な人物について、人物と時代について語る。

まず、新村は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道 (Bushido) が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰 (アイヌや南方諸島に残る) や弥生信仰に代わって、聖徳太子 (厩戸皇子) は仏教を大和 (やまと) の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。

さらに、大英帝国の後を継いで100年にわたり世界を支配してきたアメリカ合衆国の歴代大統領のなかから、初代ワシントン大統領、第3代ジェファソン大統領、第7代ジャクソン大統領、第16代リンカン大統領、第26代セオドル・ルーズベルト大統領、第32代フランクリン・ルーズベルト大統領、第35代J・F・ケネディ大統領、第44代バラク・フセイン・Obama大統領について講義します。

次に山崎は、トランプ・アメリカ大統領、メイ・イギリス首相の2人について人物と時代を語る。その際、2人を語る上で必要な限り、プーチン・ロシア大統領、メルケル・ドイツ首相、習近平・中国国家主席についても言及する。

21世紀になって世界はグローバル化が促進されると予想していた。その予想に反してアメリカではアメリカ第1主義とメキシコからの移民排除のトランプが大統領に就任した。

イギリスでは1昨年からのEU離脱をめぐる国民投票の結果就任したメイ首相が完全なEU離脱を宣言した。ロシアではウクライナ地方のクリミア半島支配とシリアと手を組んでイラク地域への空爆をプーチン大統領は続けている。フランスでは異民族排除のルペン候補が有力視されている。ドイツでは移民受け入れのメルケル首相が敗退すればEU存続にも影響を与えかねない。

こうした背景も視野に入れながら、第2次世界大戦後に果たした世界のアメリカから後退したなかでトランプ大統領の意味を考える。同様にEU (ヨーロッパ連合) の形成過程において3度もEEC (とEC) に申請してやっと認められたイギリスがなぜEUから出て行くかと決意したのか。これを明らかにする。これらの問題を究明することによって、今後世界はどの方向を目指すのかを考察する。

教科書 /Textbooks

資料を配付します。(新村)

口述講義。その際資料を配布する。(山崎)

人物と時代の歴史【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 新渡戸稲造『武士道』(BUSHIDO)
- 藤沢周平『漆の実のみのる国』(文春文庫)
- 中村彰彦『保科正之』(中公新書)
- 『歴代アメリカ大統領』(プティック社)

毎日の新聞(朝日、毎日、読売などの新聞でも良い)を購読のこと。(山崎)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本、欧米の歴史の中からテーマを厳選し、講義をする。
(新村)

第1回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】

第2回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営

第3回 【3・11東日本大震災】同様の危機を乗り切ったり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之

第4回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】

第5回 聖徳太子(厩戸皇子)と【飛鳥・奈良時代】

第6回 アメリカ大統領I(初代ワシントン大統領、3代ジェファソン大統領、7代ジャクソン大統領、16代リンカン大統領)【独立戦争・建国・南北戦争時代】

第7回 アメリカ大統領II(第26代セオドル・ルーズベルト大統領、第32代フランクリン・ルーズベルト大統領、第35代J・F・ケネディ大統領、第44代バラク・フセイン・Obama大統領)第45代トランプ大統領【第一次・第二次世界大戦・ベトナム戦争・中東戦争・アフガン・湾岸戦争】

(山崎)

第8回 21世紀の世界を支配するトランプ・アメリカ大統領、メイ・イギリス首相、プーチン・ロシア大統領、メルケル・ドイツ首相、習近平・中国国家主席の特徴と共通点について

第9回 イギリスとEUの関係について

第10回 キャメロン首相と国民投票

第11回 なせEU離脱派の投票率が残留派より多かったのか

第12回 トランプ候補とクリントン候補との争点とは何か

第13回 トランプ候補が勝利した理由

第14回 トランプ大統領は何を目指しているのか-グローバル経済はどんな影響を受けるのか

第15回 総まとめレポート提出の要件、提出締切日などの説明

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(70%)と平常の学習状況(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講する前と後で、図書館等で参考文献を読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

* 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ヨーロッパ道徳思想史【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	ヨーロッパ道徳思想史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	ヨーロッパ道徳思想史について課題を発見し、総合的に分析することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	ヨーロッパ道徳思想史に関する問題を解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			ヨーロッパ道徳思想史
			PHR005 F

授業の概要 /Course Description

西欧における倫理思想の変遷を哲学・宗教・演劇・映画などを手がかりに読み解いてゆく。本授業は2年ごとに内容を入れ替えており、古代を中心とするか、近代を中心とするかで議論のポイントが異なってくる。今年度は古代世界における思想の展開に力点を置く。15回の講義を通して、一定の世界史的教養を獲得するとともに、倫理的価値観の多様なありかたを理解することが可能となるだろう。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業時にそのつど指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 古代ギリシャの倫理(1)【悲劇の誕生】
- 3回 古代ギリシャの倫理(2)【悲劇の生成】
- 4回 古代ギリシャの倫理(3)【悲劇の実例】
- 5回 古代ギリシャの倫理(4)【道徳哲学の誕生】
- 6回 古代ギリシャの倫理(5)【道徳哲学の完成】
- 7回 古代ローマの倫理
- 8回 古代ユダヤ教の倫理(1)【宗教民族史】
- 9回 古代ユダヤ教の倫理(2)【信仰の継承】
- 10回 ローマの中のユダヤ(1)【権力と隷属】
- 11回 ローマの中のユダヤ(2)【愛と憎悪】
- 12回 ローマの中のユダヤ(3)【新時代の萌芽】
- 13回 古代キリスト教の倫理(1)【イエスの思想】
- 14回 古代キリスト教の倫理(2)【原始キリスト教】
- 15回 古代キリスト教の倫理(3)【教義の生成】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

授業中に聞いたことのない日本語や英語に出会った場合は、かならず国語辞典もしくは英和辞典を引く癖をつけてほしい。最低でもこれらの辞典は自宅に常備しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。卒業予定の4年生に対しても、他と同じく厳しい採点態度で臨む。

キーワード /Keywords

日本史【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 康士 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	日本史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	日本史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	日本史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本史
			HIS110F

授業の概要 /Course Description

「歴史」を学ぶとはどういうことでしょうか？ それは単に過去の出来事を暗記するだけのことで、書かれた歴史を受動的に受け入れるだけのことでもありません。

この授業では、日本史に関係する重要なテーマ・トピックスを掘り下げ、歴史を学び / 教えるのに必要となる考え方を学習します。具体的には歴史学・日本史で使われる基礎的な知識・概念の習得を目指し、歴史の諸問題を主体的に考えられる能力を身に付けることを目標とします。

教科書 /Textbooks

各回でレジュメ、資料などを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：「歴史」を学ぶとはどういうことか？ —過去・史料・歴史家—
- 第2回：さまざまな「歴史」のとらえ方 —循環・進歩・システム—
- 第3回：ヒトはどこから来たのか？ —人類の拡散と日本列島—
- 第4回 狩猟採集経済と農耕経済 —気候変動と縄文・弥生人—
- 第5回：前方後円墳とヤマト王権 —初期国家の成立—
- 第6回：古代国家と天皇 —東アジアの律令国家—
- 第7回：日本の中世国家 —分権化する国家と社会—
- 第8回：越境するヒトとモノ —銭貨・倭寇・鉄砲—
- 第9回：世界史のなかの「近世」 —東アジアにおける伝統社会の形成—
- 第10回：歴史人口学の世界
- 第11回：結婚と離婚 —歴史のなかの男と女—
- 第12回：貨幣からみる近世社会
- 第13回：日本の「近代」 —世界史における明治日本—
- 第14回：「日本人」と戦争
- 第15回：まとめ —「歴史」を学ぶということ—

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み（50%、小レポートなどを含む）、期末試験（50%）によって評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業のなかで紹介する関係図書・文献を事前・事後学習として読む必要がある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【昼】

担当者名 /Instructor 植松 慎悟 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	東洋史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	東洋史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	東洋史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	東洋史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			東洋史
			HIS120F

授業の概要 /Course Description

近くて遠い国、中国。わが国の歴史とも密接な関係をもつ中国は、国際的な影響力も大きく、この中国について学ぶことは非常に重要であろう。しかしながら、中国について学ぶとき、多くの現代日本人に欠けている視点が歴史的な考察・分析といえる。
本講義では、「最初の中華帝国」秦王朝、「最長の中華帝国」漢王朝の歴史を主な内容として扱う。とくに、各時代に活躍した改革者を講義の中軸に据え、その人物像や時代背景、改革の内容・結果・影響などを中心に論じる。本講義は、専門的な基礎知識を習得したうえで、東洋史に対する理解・関心を深めることを目標としたものである。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。資料が必要な場合は、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義のガイダンス
 - 2回 秦(1) -戦国時代から中国統一へ-
 - 3回 秦(2) -始皇帝の統一政策-
 - 4回 前漢前期(1) -項羽と劉邦-
 - 5回 前漢前期(2) -高祖と冒頓単于-
 - 6回 前漢前期(3) -呂后-
 - 7回 前漢中期(1) -武帝-
 - 8回 前漢中期(2) -昭帝-
 - 9回 前漢中期(3) -宣帝-
 - 10回 前漢後期(1) -元帝-
 - 11回 前漢後期(2) -成帝-
 - 12回 前漢後期(3) -哀帝-
 - 13回 新の王莽 -王莽は「篡奪者」か-
 - 14回 後漢の光武帝と「漢委奴国王」
 - 15回 まとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・ 70% 日常の授業への取り組み・・・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本講義では、前回までの内容をふまえ、講義を進めていく。毎回、授業の板書やプリントを見直し、しっかりと復習すること。理解が不十分な部分は、初回で紹介した推薦図書などで確認をとっておくこと。(60分)
予習については、東洋史を含めて書籍・報道などで幅広く知識や教養を身に付けること。特に、大学生の名に恥ずかしくない読書量を確保すること。(60分)

履修上の注意 /Remarks

本講義は、板書を中心に進めるので、集中して受講すること。定期試験の際にはノートや配付資料の持ち込みは認めないので、意欲のある学生の受講を期待する。

また、講師および他の学生が円滑な授業を進めるうえで、これを阻害する一切の行為を禁止する。違反した学生に対しては厳正に対処する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義のテーマは、中国史を中心とした東洋史の概説です。なじみのない学生には少々難易度の高い授業になりますので、高校レベルの世界史を独自に学習しておくこと、理解が深まるでしょう。

キーワード /Keywords

中国 歴史 政治 社会 文化 皇帝支配

西洋史【昼】

担当者名 /Instructor 轟谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	西洋史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	西洋史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	西洋史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	西洋史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			西洋史
			HIS130F

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【ボックス・モンゴリカ】
 - 2回 ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界 【港市国家】
 - 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
 - 5回 新世界到達と「世界分割」【トルデシヤス条約】
 - 6回 ポルトガル海洋帝国の形成① 【香辛料】
 - 7回 ポルトガル海洋帝国の形成② 【点と線の支配】
 - 8回 スペインによる植民地帝国の形成① 【ポトシ】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成② 【モナルキア・イスパニカ】
 - 10回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
 - 11回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
 - 12回 環大西洋世界の展開① 【第二次英仏百年戦争】
 - 13回 環大西洋世界の展開② 【環大西洋革命】
 - 14回 ヨーロッパ勢力とアジアの海 【近代世界システム】
 - 15回 まとめ 【「コロンブスの交換」】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)。
毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

特にありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高校時代に世界史が苦手だった方、大歓迎です。

キーワード /Keywords

13世紀世界システム、中世の危機、「海洋帝国」、植民地化、環大西洋世界

人文地理学【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人文地理の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人文地理について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	人文地理の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	人文地理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			人文地理学
			GE0110F

授業の概要 /Course Description

本講義では、人文地理学の基礎的な理論や概念を概説する。
人文地理学は、地域、環境、空間に関する多様な対象を扱う学問領域である。
講義を5つのセクションに分け、「人文地理学の基礎」「社会・文化と地域」「経済発展と人口移動」「都市構造と都市システム」「産業立地と集積」について講義を行う。人文地理学の領域に含まれる社会地理学、文化地理学、人口地理学、経済地理学、都市地理学などから主要なトピックを取り上げる。
具体的な事例を通じて、人文地理学のキーコンセプトに対する理解を深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 人文地理学の基礎(1) 地理学の体系
- 第2回 人文地理学の基礎(2) 地理学の歴史、地域概念と重力モデル、環境決定論と環境可能論
- 第3回 人文地理学の基礎(3) 様々な距離、時間地理学、空間認識
- 第4回 社会・文化と地域(1) 言語と地域
- 第5回 社会・文化と地域(2) 町並み保存
- 第6回 経済発展と人口移動(1) 近世・近代日本の都市発展
- 第7回 経済発展と人口移動(2) 現代日本の都市発展
- 第8回 都市構造と都市システム(1) 世界都市、オフィスの立地、大都市の構造と動態(東京)
- 第9回 都市構造と都市システム(2) 都市の内部構造、大都市の構造と動態(大阪)
- 第10回 都市構造と都市システム(3) 都市と郊外、規制緩和と郊外商業地の拡大
- 第11回 都市構造と都市システム(4) 都市システム、広域中心都市、大都市の構造と動態(福岡)
- 第12回 産業立地と集積(1) チェーンストアの配送と立地
- 第13回 産業立地と集積(2) 産業集積、企業城下町
- 第14回 産業立地と集積(3) コンテンツ産業の集積
- 第15回 産業立地と集積(4) 空間分業

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(80%)、ミニレポート(20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の事前・事後に、授業の理解に有益な文献を精読すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

土地地理学 【昼】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と自然との関係性を地理学を通して理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地理学の概念の考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	倫理観を自覚し、社会において積極的に行動できる。
	生涯学習力	●	課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			土地地理学
			GE0111F

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面で起こる自然・人文の様々な現象を「地域的観点」から究明する科学です。そのため、地理学を学習・研究するためには、位置を示すための地図が必要になってきます。この科目では、地理学の言語ともいわれる地図を通じて、基礎的な地理学的知見を深めることを目的とします。あわせて、地図や空中写真を利用して地表の環境を読み取る実習を行い、地理学の研究手法も学びます。

この授業の学位授与方針に基づく主な到達目標は以下の通りです。

人間と自然の関係性を地理学を通して理解する。

地理学の概念の考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。

課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「日本列島地図の旅 付・地図の読み方入門 改訂」(大沼一雄著 東洋選書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理学では何を学ぶか
- 2回 地図の役割と地図の能力 【地理的情報を整理する働き】
- 3回 地図の歴史 【文字を持たない未開の民族も地図は持っていた】
- 4回 地図にはどのような種類があるか 【地図には様々な種類がある】
- 5回 地図は、どのように作られるか 【地図投影・図法と図式】
- 6回 地図記号と景観 【地図を読む楽しみ】
- 7回 山の地形を地形図から描く 1 (講義・実習) 【行ったことのない山の形を地図から描くことができる】
- 8回 山の地形を地形図から描く 2 (実習)
- 9回 地図を利用して地表を計測する
- 10回 地形図を利用して景観を読みとる 1 (実習) 【海岸砂丘の環境と土地利用。自然景観を読む】
- 11回 地形図を利用して景観を読みとる 2 (実習) 【中世の集落の立地。歴史景観を読む】
- 12回 リモートセンシングと空中写真の利用 【直接行けない場所の状態を知る】
- 13回 空中写真を利用して高さを測定する (講義・実習)
- 14回 衛星データを利用して地表の環境を調べる
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...30% 試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容に関連する新聞記事やインターネット情報を読む、関連するテレビ番組を見るなどするとより理解が深まります。授業後は、配付された資料等をよく読んで、ノートとともに整理しておきましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	地誌の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地誌について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	地誌の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	地誌に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			地誌学
			GE0112F

授業の概要 /Course Description

グローバル化と情報化が進行しつつある現代世界において、世界や日本の諸地域を正確に認識することがますます重要となっている。本年度は、様々な空間スケールにおける、先進国地域の地誌をテーマとする。欧米諸国や日本の諸地域は、近現代においてどのような変化・発展を遂げ、今日に至っているのか、それらの比較を通じて、動態的な地誌について理解を深めてもらいたい。必要に応じて、講義内容に關係する時事的事項を扱う。

教科書 /Textbooks

松原 宏編 『先進国経済の地域構造』 東京大学出版会 2003年
平岡昭利編 『地図で読み解く日本の地域変貌』 海青社 2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 欧米地誌(1) ヨーロッパ総論(1) : ヨーロッパの地形・気候と農業、ヨーロッパの諸民族と市民生活など
- 第3回 欧米地誌(2) ヨーロッパ総論(2) : ヨーロッパ統合の歩み、EUによる地域統合など
- 第4回 欧米地誌(3) イギリス地誌
- 第5回 欧米地誌(4) ドイツ地誌
- 第6回 欧米地誌(5) スペイン・フランス地誌
- 第7回 欧米地誌(6) イタリア・北欧地誌
- 第8回 欧米地誌(7) ベネルクス・スイス地誌
- 第9回 欧米地誌(8) アメリカ合衆国地誌
- 第10回 日本地誌(1) 近世城下町の変容 : 島根県松江市、鹿児島県鹿児島市
- 第11回 日本地誌(2) 干拓地域の変容 : 山口県防府市、県庁所在地の変容 : 宮崎県宮崎市
- 第12回 日本地誌(3) 軍事都市の変容 : 広島県呉市、熊本県熊本市
- 第13回 日本地誌(4) 鉱業地域の変容 : 福岡県筑豊地域、愛媛県新居浜市
- 第14回 日本地誌(5) 港湾都市の変容 : 山口県下関市
- 第15回 日本地誌(6) 工業都市の変容 : 福岡県北九州市

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%)、日常の授業の取り組み (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の事前・事後に、授業の理解に有益な文献を精読すること。

履修上の注意 /Remarks

授業の前後に適宜予習復習を行うこと。
高校で使用する程度の「地図帳」を持参しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本国憲法 【昼】

担当者名 中村 英樹 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	日本国憲法の意義を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	憲法的事象について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	主権者たる市民として必要とされる責任を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	●	憲法に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本国憲法
			LAW120F

授業の概要 /Course Description

国家の基本法といわれる憲法に関する基本的な考え方を学ぶ。
受講対象者を考慮して、日本国憲法全体を通観するのではなく、いくつかの重要テーマを取り上げて講義する中で、憲法学の基本的な考え方や社会との関係などを学べるように努める。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。
適宜、資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 駒村圭吾編『プレステップ憲法 第2版』(弘文堂、2018年)
- 斎藤一久・堀口悟郎編『図録 日本国憲法』(弘文堂、2018年)
- 芦部信喜『憲法 第6版』(岩波書店、2015年)
- 長谷部恭男『憲法 第7版』(新世社、2018年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法とは何か①-国家と憲法
- 第2回 憲法とは何か②-民主主義と立憲主義
- 第3回 平和主義①-平和主義と「正しい」戦争
- 第4回 平和主義②-日本国憲法の平和主義
- 第5回 表現の自由とその限界①-表現の自由の保障根拠
- 第6回 表現の自由とその限界②-規制の根拠と手段の妥当性
- 第7回 自己決定権とは何か①-憲法上の根拠と内容
- 第8回 自己決定権とは何か②-生命の自己決定?
- 第9回 自己決定権とは何か③-安楽死・尊厳死法制化の是非
- 第10回 議院内閣制①-国会と内閣の関係
- 第11回 議院内閣制②-国会の制度と運営
- 第12回 議院内閣制③-国会と選挙制度
- 第13回 憲法と死刑制度①-日本国憲法と死刑制度
- 第14回 憲法と死刑制度②-立法政策上の諸課題
- 第15回 全体まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内容の理解度をはかる期末試験による(100%)。

日本国憲法 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

上記参考書をはじめ、授業内容の理解に有益な読書を行ったり、講義内容を復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法史 立憲主義 基本的人権 統治機構

メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 寺田 千栄子 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルス I
			PSY001F

授業の概要 /Course Description

本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なところで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、まず、ライフサイクルを通して、メンタルヘルスに関する基礎知識や精神や行動の異変を理解するためのポイントを学習します。次に、セルフケアの重要性を理解し、自身がメンタルヘルスの問題と向き合うために必要な姿勢を獲得することを目的とします。

教科書 /Textbooks

なし。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 メンタルヘルスを学ぶ目的
- 第2回 メンタルヘルスに関する基礎知識(1)【日本における現状と課題】
- 第3回 メンタルヘルスに関する基礎知識(2)【問題の種類】
- 第4回 メンタルヘルスに関する基礎知識(3)【よくある誤解】
- 第5回 ライフサイクルとメンタルヘルス(1)【子ども】
- 第6回 ライフサイクルとメンタルヘルス(2)【大人】
- 第7回 精神と行動の異変(1)【精神症状】
- 第8回 精神と行動の異変(2)【精神疾患①】
- 第9回 精神と行動の異変(3)【精神疾患②】
- 第10回 自己分析
- 第11回 セルフケア①【ストレスの仕組み】
- 第12回 セルフケア②【ストレスマネジメント】
- 第13回 セルフケア③【相談の有用性】
- 第14回 セルフケア④【ソーシャルサポート】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、自身の心の健康管理に努めてください。

履修上の注意 /Remarks

本授業は、基本的には講義形式で進行しますが、内容に応じて演習形式の体験学習を行います。実際に他者とのコミュニケーションを行う作業を含みますので、履修生はこの点を理解し受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私たちが抱える悩みの多くには、メンタルヘルスに関する問題が関与しています。メンタルヘルスに関する問題に対して、「自分には関係ない。」、「気持ちの問題だ。」と考える人も少なくありません。しかし、誰も精神や行動の異変は起こりうる問題です。こころも体も健康に生活していくための方法を、一緒に考えていきましょう。

キーワード /Keywords

メンタルヘルス・セルフケア・ストレス・精神保健学

メンタル・ヘルスII【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 千栄子 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身及び社会的健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルスII
			PSY002F

授業の概要 /Course Description

本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なところで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、自己分析を通して、自らのを客観的に理解し、自己肯定感を高めるための方法について考えていきます。また、実際の事例を通し、メンタルヘルスが不調とはどういう事なのかを考えていきます。

教科書 /Textbooks

なし。適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 メンタルヘルスを学ぶ目的
- 第2回 自己分析①【心理テスト】
- 第3回 自己分析②【リフレーミング、ストレングス・パースペクティブ】
- 第4回 精神病理の紹介①【精神疾患、うつ、統合失調症】
- 第5回 精神病理の紹介②【人格障害】
- 第6回 自己覚知①【自己のイメージ、他者のイメージ】
- 第7回 自己覚知②【ライフストーリー】
- 第8回 自己覚知③【ジェノグラム、エコマップ】
- 第9回 リフレッシュ【感動、感謝】
- 第10回 事例検討①【非行】
- 第11回 事例検討②【虐待】
- 第12回 事例検討③【ホームレス】
- 第13回 事例検討④【孤立、社会的排除】
- 第14回 事例検討⑤【障害】
- 第15回 受援力、援助力

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、自身の心の健康管理に努めてください。

履修上の注意 /Remarks

本授業は、基本的には講義形式で進行しますが、内容に応じて演習形式の体験学習を行います。実際に他者とのコミュニケーションを行う作業を含みますので、履修生はこの点を理解し受講してください。
メンタルヘルスIを未受講でも、履修することは可能です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 ソフトバレーボール(実習)
- 4回 ストレッチの理論(講義)
- 5回 ストレッチの実際、ゲーム(実習)
- 6回 ふとる・やせる、適度な運動とは(講義)【体脂肪】
- 7回 軽運動、エアロビクス・ダンス(実習)
- 8回 フェアプレイ、スポーツマンシップとは(講義)
- 9回 球技を楽しもう①(卓球、バドミントン・ショートテニス)(実習)【スポーツマンシップ】
- 10回 球技を楽しもう②(卓球、バドミントン・ショートテニス)(実習)【スポーツマンシップ】
- 11回 これからの運動①(心臓の予備力、体力の変化)(講義)
- 12回 これからの運動②(体力の維持・向上、継続性)(講義)
- 13回 レッツ・スポーツ(講義)【計画・企画】
- 14回 レッツ・スポーツ(実習)【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実習を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、

この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなどを考えてみたい。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
授業内容（講義・実習）によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルス I	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。
 この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks
 授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 必要に応じて紹介

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
 - 3回 ソフトバレーボール(実習)
 - 4回 ストレッチの理論(講義)
 - 5回 ストレッチの実際、ゲーム(実習)
 - 6回 ふとる・やせる、適度な運動とは(講義)【体脂肪】
 - 7回 軽運動、エアロビクス・ダンス(実習)
 - 8回 フェアプレイ、スポーツマンシップとは(講義)
 - 9回 球技を楽しもう①(卓球、バドミントン・ショートテニス)(実習)【スポーツマンシップ】
 - 10回 球技を楽しもう②(卓球、バドミントン・ショートテニス)(実習)【スポーツマンシップ】
 - 11回 これからの運動①(心臓の予備力、体力の変化)(講義)
 - 12回 これからの運動②(体力の維持・向上、継続性)(講義)
 - 13回 レッツ・スポーツ(講義)【計画・企画】
 - 14回 レッツ・スポーツ(実習)【主体性】
 - 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method
 授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review
 理論を受けて実習を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

フィジカル・ヘルスI【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルス I	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

自己管理論 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康保持増進を行う。
	社会的責任・倫理観	●	人間の総合的理解を通して得られた責任感、倫理観を自覚し、その深い理解をもって社会で積極的に行動する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		自己管理論	HSS003F

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な考え方と自己管理に関する正しい知識を身に付けることである。様々な情報が氾濫し、次々と新たな問題が発生する現代社会においては、自分自身の意思で物事を決定しつつ、健康的で自立した生活を送ることは容易ではない。このため、様々な角度からの正しい知識を得て、自分だけでなく周囲の人たちも含めて安全で安心に暮らすための意識を高めることが大切である。本授業では、様々な分野の専門家に講義を展開してもらう。それらの講義を聴講して、今後の人生の指針となる考え方の習得を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 社会人マナーについて
- 3回 北九州市での生活について
- 4回 犯罪防止について ~被害者や加害者にならないように~
- 5回 自転車の交通安全について
- 6回 薬物乱用防止について ~飲酒との向き合い方~
- 7回 消費者トラブルについて
- 8回 ブラックバイトについて
- 9回 大学生とお金について
- 10回 いざという時のための消防と救急について
- 11回 災害への備えについて
- 12回 ハラスメント防止とデートDVについて
- 13回 地域で生きることについて
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加(ほぼ毎回実施する課題レポートを含む) ... 70%
まとめレポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに、予め授業テーマについて学習し、提出用のレポートを準備しておくこと。(必要な学習時間の目安は、60分。)授業終了後には、授業中に学んだことを振り返り、まとめておくこと。(必要な学習時間の目安は、60分。)振り返り内容は、レポートとして提出してもらうことがある。

履修上の注意 /Remarks

入学式で配布される資料や、北九州市立大学Webサイト上の「学生生活・就職」のページを参照しておいてほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

様々な分野の専門家に、それぞれのテーマについて講義を展開してもらう。このため、以下の注意点に留意すること。

- ① 第1回目の授業に出席すること。受講希望者多数の場合、受講者数調整を実施し、受講可能な学生を決定する。詳細は、第1回目の授業中に説明する。
- ② 遅刻することなく、毎回授業に出席すること。授業計画や授業内容等は、外部講師の都合により、変更になる可能性がある。その場合は、その都度授業中に説明する。
- ③ 質問や相談等は、指定する担当教員に行うこと。多くの外部講師が担当する授業になるため、担当教員が代表して窓口となる。毎回の授業は一見すると関係性のないテーマのように見えるが、全体を通じて首尾一貫した狙いがある。毎回の授業に積極的に参加し、授業が目指す考え方を習得して欲しい。

関連する自治体職員などが、大学生活を送る上での自己管理に関して解説する。

キーワード /Keywords

リスクマネジメント、セルフマネジメント、倫理観、公共性

実務経験のある教員による授業

フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 実技
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 キャッチボール (スローイング、キャッチング)
- 3回 ピッチング (ウインドミル)
- 4回 バッティング (トスバッティング)
- 5回 ゴロの捕球・フライの捕球
- 6回 守備練習
- 7回 フリーバッティング
- 8回 ベースランニング
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ゲーム(1) 内野の連係プレイ
- 12回 ゲーム(2) 内外野の連係プレイ
- 13回 ゲーム(3) 走者の進め方
- 14回 ゲーム(4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 倉崎 信子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 バス練習(1) <アンダーバス>
- 5回 バス練習(2) <オーバーバス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 実技
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要 /Course Description
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks
なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 ストロークの基礎練習 (球出しによるフォアハンド練習)
 - 3回 ストロークの基礎練習 (ラリーの中でのフォアハンド練習)
 - 4回 ストロークの基礎練習 (球出しによるバックハンド練習)
 - 5回 ストロークの基礎練習 (ラリーの中でのバックハンド練習)
 - 6回 サービスの基礎練習
 - 7回 ボレーの基礎練習
 - 8回 スマッシュの基礎練習
 - 9回 ルールの説明
 - 10回 戦術の説明・実践
 - 11回 シングルスゲーム (1) ゲーム法の解説
 - 12回 シングルスゲーム (2) ゲームの実践
 - 13回 ダブルスゲーム (1) ゲーム法の解説
 - 14回 ダブルスゲーム (2) ゲームの実践
 - 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review
 授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 小幡 博基 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 実技
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみることに。

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト②

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks
 なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
 - 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
 - 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
 - 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
 - 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
 - 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
 - 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
 - 9回 ルール説明
 - 10回 審判法
 - 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
 - 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
 - 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
 - 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
 - 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review
 授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バスケットボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 集団行動 (走る (ラン)・跳ぶ (ジャンプ)・投げる (スロー))
- 3回 ボールに慣れる (ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習 (レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習 (2対1)
- 6回 応用練習 (3対2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフense・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ (ドリブルシュート・リバウンド)
- 10回 スキルアップ (速攻、スクリーンプレイ)
- 11回 ゲーム (1) ゾーンディフェンス (2 - 3)
- 12回 ゲーム (2) ゾーンディフェンス (2 - 1 - 2)
- 13回 ゲーム (3) マンツーマンディフェンス
- 14回 ゲーム (4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 小幡 博基 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks
 なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
 - 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
 - 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
 - 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
 - 6回 サーブカット練習
 - 7回 アタック練習(1) <サイド>
 - 8回 アタック練習(2) <センター>
 - 9回 ルール説明
 - 10回 チーム練習
 - 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
 - 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
 - 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
 - 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
 - 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review
 授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks
なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
 - 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
 - 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
 - 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の説明
 - 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の習得と応用ゲーム
 - 7回 サッカーの戦術(オフense)の説明
 - 8回 サッカーの戦術(オフense)の習得と応用ゲーム
 - 9回 サッカーの戦術の応用説明
 - 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
 - 11回 審判法の習得と試しのゲーム
 - 12回 リーグ戦方式の試合(1)パスを意識して
 - 13回 リーグ戦方式の試合(2)戦術を意識して
 - 14回 リーグ戦方式の試合(3)まとめ
 - 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review
 授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

大学生生活をより充実させるための授業です。その為に、自己理解やコミュニケーションスキルの向上が必要と考えます。また、大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③コミュニケーションをとることに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間にしたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
- 2回 進路の現状【就職・公務員・教員等の進路準備スケジュール】
- 3回 学生生活とキャリア【社会人基礎力・学力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
- 4回 自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
- 5回 インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
- 6回 仕事をするとということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
- 7回 企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
- 8回 働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
- 9回 就職試験を体験する【SPI、一般常識】
- 10回 様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
- 11回 キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
- 12回 自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
- 13回 就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
- 14回 学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
- 15回 まとめ【授業全体を振り返る、総括】

キャリア・デザイン 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 授業内のレポート...20% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

初回の講義時に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に各テーマについて調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分自身のキャリア形成に向けて何をすべきかについて考えを深めてください。

履修上の注意 /Remarks

授業への積極的かつ主体的な参加、また自主的な授業前の予習と授業後の振り返りなど、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。外部講師と連携しての授業を予定しています。詳細は第1回の講義で説明しますので、必ず参加してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10カ条を守ってください。

①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

人材採用・マネジメントの経験を持つ教員が、卒業後に企業等で働く上で必要となる能力や経験等について解説する。

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動、実務経験のある教員による授業

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

木曜3限の「キャリア・デザイン」では、皆さんの来るべき将来に向けて、いま何を考え、何をすべきかということを考える授業を行います。皆さんの将来は未来に独立して存在しているわけではなく、現在の延長線上にあります。その意味で、大学生としての時間をいかに過ごすのかは皆さんの「キャリア」に直接つながってきます。この授業では、大学生として充実した時間を過ごすためのヒントや刺激を受けられるようなコンテンツをたくさん提供したいと思います。特に、本授業では、ゲストスピーカーによる講演会を数回開催します。各分野で活躍されている人生の先輩方のお話を聞くことで多くを学ぶことができると思います。また、様々な資料（映像・新聞記事・映画・webなど）を用い、それらを題材とすることで皆さんの進むべき道ややるべきことなども考えてもらいます。キャリア（人生デザイン）は他人から教えられるものではなく、自分で考えて切り拓いていくものだと思います。授業を通じてそのためのきっかけが提供できればと思います。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜お伝えします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 充実した大学生活（新生活）のためのリスクマネジメント
- 3回 大学の「使い方」
- 4回 「理想」の大学生活・なんてあるの？
- 5回 ゲストスピーカーによるご講演（世界の果てで子どもを救う）
- 6回 大学での勉強、どうする？
- 7回 健康的な大学生活（セルフカウンセリングについて）
- 8回 自分の可能性を広げるために
- 9回 「自分」はだれか？
- 10回 かわいい子には「旅」をさせるべき？
- 11回 ゲストスピーカーによるご講演（国際キャリアのつくりかた）
- 12回 変わりつつある世界の中でどう生きるか
- 13回 ゲストスピーカーによるご講演（他者のために生きる人生）
- 14回 ようこそ先輩
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

各回の授業内レポート50% 課題レポート50%

キャリア・デザイン 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業終了時に次回の授業内容を伝えますので、前もって関連する知識を学習しておいてください。
また、本授業は「答え」のない授業ですので、各回の授業が終わった後には、自分なりの「答え」を探してもらいたいと思います。

履修上の注意 /Remarks

たくさんの問いかけをしますので、自分の頭でしっかりと考える姿勢をもって授業に望んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年生だけでなく、2年生以上の学生の受講も歓迎します。

キーワード /Keywords

自分で考え、つくるキャリアデザイン

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

< 目的 >

我が国は少子高齢化に対峙し、生産年齢人口をカバーすることが急務となっています。その対策のため、未就業の状態にある人々の就業支援や、外国人労働者の受け入れに加え、近年注目されているのがRPA (Robotic Process Automation) です。RPAとは、ロボットによる業務自動化の取り組みを表す言葉で、「デジタルレイバー (Digital Labor) 」や「仮想的労働者」とも言い換えられ、人間の知能をコンピューター上で再現しようとするAIや、AIが反復によって学ぶ「機械学習」といった技術を用いて、主にバックオフィスにおけるホワイトカラー業務の自動化を指します。つまり、従来の高度成長時代に基本を置く、一般的なコミュニケーション能力や主体性、チームワークなどの力の習得だけでなく、「AIやロボットには代替されない力」の習得が大学に課せられていると言えるでしょう。

では、その「AIやロボットには代替されない力」とは何でしょうか。それは創造力です。AIやロボットは指示されたことしかできないのだから。

では、創造力を大学時代にどう身に付ければよいのでしょうか。創造力とは解決すべき課題にぶち当たった時、その課題と過去の学びとの関連性を見出す力です。具体的には、課題を一人で取り組むことはほぼないので「多様な人々と協働する力」は欠かせません。また、「幅広い視野・柔軟性」がなければ、課題を解決してくれるかもしれない新しい知識を得ることはできないし、「失敗を恐れず挑戦する力」がなければ、課題を解決する上で必要な能力を高めることもできません。そして「経験を振り返る力」がなければ、経験からの学びを記憶することはできません。さらに答えのない課題を解決する経験に取り組み、その課題と過去の学びとの関連性を見出す経験を積んで、「答えのない課題を解決する力」を高めなくてはならないのです。

大学時代は人生で最も時間を自由に使える時代です。自らが自らを成長させる機会を創り出し、試行錯誤を繰り返して、これら5つの力を身に付ける時間はたくさんあるのです。以上を念頭に、創造性を発揮する土台作りを本授業で学んでください。

< 進め方と目標 >

まずグループワーク・ペアワークを実践して「コミュニケーション能力」を獲得します。同時に、たくさんの先輩や社会人のゲスト (ロールモデル) との対話や、その他様々な課題を通して「幅広い視野・柔軟性」や「失敗を恐れない志向性」を理解し、毎回の小レポートなどで「経験を振り返る力」を身に付けます。そして、他の授業や課外活動、そして日常生活において授業での学びを実践し、これらの4つの力を高めつつ、夏休みには身の丈を超えた経験に挑戦し、「答えのない課題を解決する力」を身に付けていただきたいと思います。授業の途中で、様々なイベント (ボランティア活動やプロジェクト活動、海外インターンシップなど) の情報を提供しますので、楽しみにしてください。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。適宜資料をMoodleにアップしますので、印刷して精読し、持参してください。特に事前課題が含まれる時には、その課題をこなしていないと授業に参加できませんので注意してください。

キャリア・デザイン 【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。
以下書籍はその参考例です。
キャロル S.ドゥエック 『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』草思社
○金井寿宏 『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
大久保幸夫 『キャリアデザイン入門 1 基礎力編』日本経済新聞社
○渡辺三枝子 『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
○モーガン・マッコール 『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社
○エドガー・H.シャイン 『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房
○平木典子 『改訂版 アサーション・トレーニング-さわやかな自己表現のために』金子書房
○中原淳・長岡健 『ダイアログ 対話する組織』ダイヤモンド社
○香取一昭・大川 恒 『ワールド・カフェをやろう!』日本経済新聞出版社
○金井寿宏 『リーダーシップ入門』日本経済新聞社
○J.D.克蘭ボルツ、A.S.レヴィン 『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
スプツニ子! 『はみだす力』宝島社
アンジェラ・ダックワース 『やり抜く力 GRIT (グリット)-人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける』ダイヤモンド社
○リンダ グラットン 『ワーク・シフト-孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』プレジデント社
リンダ グラットン、アンドリュースコット 『LIFE SHIFT (ライフ・シフト)』東洋経済新報社
○見館好隆 『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社
○中原淳、見館好隆ほか 『人材開発研究大全』東京大学出版会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス・社会で求められる力
- 2回 振り返りの仕方
- 3回 幅広い視野・柔軟性を身に付けるには(先輩登壇)
- 4回 コミュニケーション技法①傾聴
- 5回 コミュニケーション技法②アサーション
- 6回 コミュニケーション技法③打ち合わせ
- 7回 働くということ(社会人登壇)
- 8回 新しい仕事を創る(ジヨブスタ)
- 9回 ケーススタディワーク(酒造メーカーの改革)
- 10回 自分らしい就職活動をするには(卒業生・内定者登壇)
- 11回 企業団体研究(面白い企業団体を知る)
- 12回 計画された偶発性(幸運は準備とチャンスの交差点)
- 13回 ロールモデルインタビュー(社会人を取材する)
- 14回 ロールモデルインタビュー(先輩を取材する)
- 15回 自らのキャリアをデザインする

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業への取り組み(予習・復習・メンバーからの相互評価)・・・78%
インタビューレポート・・・13%
最終レポート・・・9%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

<通常授業> Moodleに予習・相互評価・復習を掲示しますので毎週締め切りまでに行ってください。
<インタビューレポート> 提示する課題をもとに、各自インタビューを実施し、指定するフォーマットで、期日までに提出してください。
<最終レポート> 提示する課題をもとに、授業を振り返り、授業最終回に持参してください。

履修上の注意 /Remarks

【基本事項】
※月曜日と火曜日の授業の内容は同じです。
※本授業は必修ではありませんが、将来のために大学生活をどう営むかを考える、1年生向けの授業です。よって、私もしくは眞鍋和博先生ほかの「キャリアデザイン」のいずれかを履修することをお勧めします。
※曜日や時限を間違えて履修しても出席にはなりませんので注意してください。

【履修者調整について】
※グループワークの質を維持するために、受講人数の上限は160名とします。もし、上限を超える時は、1年生を優先とします。ただし、160名以内であれば2年生以上も受講できます。また、160名を超えた場合は、1年生であっても受講者数調整の対象になります。
※第1回の授業で受講人数を確認します。よって、第1回の授業に欠席した学生は履修できません(私のコマの中であれば、160名を超えない限り移動は可能です)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動がほぼ自由化され、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、夏季や春季の長期休暇などを活用したインターンシップや、長期の地域活動・ボランティア活動などが、将来の見通しを見出すために重要なファクターとなります。よって、できる

キャリア・デザイン 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

だけ早くそれらに挑戦してほしいのですが、そもそも「何がやりたいのか？」がわからなければ、探すことも選ぶこともできません。ゆえに、大学時代に寝食を忘れて取り組むテーマを見出してもらう仕組みと、そのために必要な力が獲得できるように設計しました。本授業での経験を手掛かりに将来の見通しのヒントを得て、そのヒントを今後の大学生活における学業や課外活動への取組に活かすことを切に願っています。

人事および販売促進、新規事業立ち上げなどの経験を持つ教員が、企業団体で働く上で必要とされる能力や、その能力の獲得の仕方について、アクティブ・ラーニング形式で運営。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、キャリア形成、大学生生活、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観、クリエイティブシンキング、ロジカルシンキング、問題解決、課題解決

実務経験のある教員による授業

コミュニケーション実践【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分の将来を切り拓いていくためのコミュニケーション能力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
			コミュニケーション実践
			CAR111F

授業の概要 /Course Description

日本経団連の調査では、大卒新卒者に求める能力として『コミュニケーション力』が常にトップとなっています。ダイバーシティと言われるように、多様な価値観を持った人と円滑なコミュニケーションができることが、仕事を進めていく上でのポイントになります。しかし、コミュニケーションが得意であると感じている人は少ないのではないのでしょうか。この授業では、コミュニケーションに対する考え方から基本的技術、ディスカッション技法など、コミュニケーションにおける実践的な知識、技術をテーマとします。コミュニケーションが苦手な人にとってはコミュニケーションへの抵抗感を軽減しコミュニケーションに慣れていただきます。それだけではなく、就職活動や将来社会で実践できるコミュニケーションについて体験します。講師は企業研修等の実務を行っている方が担当します。講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながらコミュニケーションのトレーニングをします。したがって1クラスの人数を限定した講義となります。

教科書 /Textbooks

レジユメを準備して進めていきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

コミュニケーション実践【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス 【授業の目的、授業のルール、カリキュラム説明、評価方法、持参物など】
- 2回 コミュニケーション上手になるために
【名札作成、自己紹介、コミュニケーションとは、自分の価値観・固定観念の気づき、ミスコミュニケーションの原因など】
- 3回 聴くことの重要性
【「きく」の種類と重要性、聴く技術を磨く、あいづち、興味、関心を与える態度、安心を与える距離と位置と姿勢など】
- 4回 話す・伝えるテクニック
【効果的な表現力、伝えるときの態度、声を出す、目線・アイコンタクト、発声法、ジェスチャー、身振り・手振りなど】
- 5回 マナーおもてなしの心
【挨拶、言葉、笑顔、態度、身だしなみ、ホスピタリティマインドなど】
- 6回 美しい敬語をマスターする
【正しい日本語で話す、二セ丁寧語、若者言葉とはなど】
- 7回 障害をお持ちの方へのコミュニケーション
【高齢者、視覚状態体験、肢体不自由な方、杖をお持ちの方への歩行など】
- 8回 プレゼンテーションを磨く
【プレゼンテーションとは、効果的な伝え方、姿勢、目線、声、表現方法、構成方法 (PREP法) など】
- 9回 質問応対力 (面接)
【面接力強化の為に必要な力、評価の高い応え方、授業で実践した表現復習など】
- 10回 グループディスカッション①
【ワンワード、ウィッシュポエム、ワールドカフェなど】
- 11回 グループディスカッション②
【グループディスカッションとは、ディスカッションの流れ、評価基準など】
- 12回 ディベート
【ディベートとは、目的、流れなど】
- 13回 授業の振り返り
【授業の振り返り、コミュニケーションとは、みなさんへのメッセージなど】
- 14回 発表
【1人プレゼンテーション】
- 15回 まとめ
【授業のまとめ、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50%、授業の成果物...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には、授業で取り扱う言葉の意味を理解しておいてください。また、授業後には学習した内容を振り返り、日常生活で活用できるように努めてください。

履修上の注意 /Remarks

特に準備することはありません。
講義の性格上、1クラス50名程度での開講となります。履修者調整の方法は掲示等でお知らせしますので、注意しておいてください。また、抽選に当たったにも関わらず、授業を履修しない学生が見られます。そうすると、本当に受講したくても受講できない学生に迷惑がかかります。受講したいという意思を強く持っている学生に履修登録をしていただきたいと思います。
授業開始前までに予め前回授業の内容を振り返っておいてください。授業終了後には学修したスキルについて自主練習を行い、授業の内容を反復してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーション、マナー、傾聴、プレゼンテーション

プロフェッショナルの仕事I【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	ロールモデルを参考に、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らを成長させるために、主体的・積極的に活動する力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	社会で働く上で必要となるマナーはもちろん、企業団体や自己の利益追求のみならず、自らの仕事で社会に何らかの形で貢献すべきことを学ぶ。
	生涯学習力	●	ロールモデルを参考に、将来自らが生き生きと働くことができる仕事や業界への見通しをつかみ、大学生活をデザインする力を身につける。
	コミュニケーション力		
			プロフェッショナルの仕事 I
			CAR210F

授業の概要 /Course Description

<目的> 現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立って頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した学生時代の物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの現状 ②仕事の現実 ③将来のために大学時代に何をすべきかを学びます。授業の流れは以下です。

1. 企業団体の概要（現在および今後の方向性について）
2. 仕事の概要（大卒の1年目、3年目、そして5年目の社員・職員が就く仕事内容と、仕事のやりがい）
3. 大学時代にすべきこと・してほしいこと
4. 学生へのメッセージ（学生が自分の将来を考えていく上でのアドバイス）

<進め方> 講演者の企業団体および仕事を予習して、講演を傾聴します。そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<目標> 様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くことです。そして、大学時代においてどんな大学生生活を過ごせば良いかを理解します。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。原則、当日企業団体のパンフレットを配布します（用意できない時もあります）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページをみて予習してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 全体ガイダンス
第2～15回 各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

※以下は過去の実績です（敬称略・順不同）。

<2018年度> ファミリア、日本航空（JAL）、メルカリ、ペンシル、ソニー、ヤフー、アサヒ飲料、三菱電機、星野リゾート・マネジメント、日立製作所、北九州市役所、マツダ、JTB、宇宙航空研究開発機構（JAXA）

<2017年度> サニーサイドアップ、ジンス（JINS）、JR九州エージェンシー、全日本空輸（ANA）、日本放送協会（NHK）、キャメル珈琲（カルデイ・コーヒーファーム）、ヒルトン福岡シーホーク、モスフードサービス（モスバーガー）、日本たばこ産業（JT）、ZOZO、京セラ、北九州市役所、西日本新聞社、近畿日本ツーリスト九州

<2016年度> 電通九州、studio-L、フジドリームエアラインズ、アイリスオーヤマ、福岡県庁、カの源ホールディングス（一風堂）、ジャパネットホールディングス、ワークスアプリケーションズ、福岡地方検察庁、エイチ・アイ・エス、西日本シティ銀行、星野リゾート・マネジメント、ウェザーニューズ、旭酒造（獺祭）

<2015年度> ムーンスター、日本放送協会（NHK）、ホテルオークラ福岡、宇宙航空研究開発機構（JAXA）、九州旅客鉄道（JR九州）、旭化成ホームズ、福岡銀行、タカギ、ソニーリージョナルセールス、阪急交通社、博報堂プロダクツ、日本航空（JAL）、ニトリ、北九州市

<2014年度> ストライプインターナショナル（earth music & ecologyなど）、北九州市、ジンス（JINS）、東急ハンズ、ハウステンボス、朝日新聞社、日本アクセス、東京海上日動火災保険、JTB九州、アイ・ケイ・ケイ、伊藤忠エネクス、山口フィナンシャルグループ（山口銀行・北九州銀行・もみじ銀行）、再春館製菓所、全日本空輸（ANA）

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課される予習と復習...91% 最終レポート...9%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前にMoodleにて、期日までに登壇企業団体の事前学習（予習）を提出すること。また、Moodleを確認し、授業で用いるレジュメやワークシートがあれば印刷して精読し持参すること。授業終了後にMoodleにて、期日までに授業の振り返り（復習）を提出すること。

履修上の注意 /Remarks

履修者人数の確認を行いますので必ず第1回は出席するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体に働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができない方ばかりです。また、本学の学生を是非採用したいと考える企業団体です。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

人事経験を持ち、全国の企業団体に人脈を持つ教員が、14団体の人事担当者を招致し、その企業紹介や求める力、そして大学時代の過ごし方についてお話しいただくようにコーディネートする。

キーワード /Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生活、将来の見通し、キャリアデザイン、キャリアプランニング、企業研究、実務経験のある教員による授業

プロフェッショナルの仕事II 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	アクティブラーニングを通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気付き、自らをコントロールする力を身につける。	
	社会的責任・倫理観	●	アクティブラーニングを通して、社会で働く上で必要となるマナーや素養、能力を身につける。	
	生涯学習力			
	コミュニケーション力			
			プロフェッショナルの仕事II	CAR211F

授業の概要 /Course Description

<目的> 社会で働くために必要とされる「答えの無い課題に多様な人々と協働しながら挑戦し、成果を出す力」を身につけるために、地元企業団体の現場の課題を題材に、グループで課題解決案を策定・発表し、その企業団体から評価をもらうことが目的です。通常、そのような力は課外におけるインターンシップやプロジェクト活動などで身に付けますが、本授業はそれを明確に単位化したものです。

<進め方> 以下の流れで企業団体（3団体）の課題に挑戦し、各チームで競います。課題解決のノウハウは、その他の回で講義します。

1. 企業団体の社会人にご登壇頂き、現場で対峙しているリアルな課題を提示していただきます。
2. 提示された課題についての解決プランを作成します。
3. 企業団体の社会人に対し、解決プランを中間発表します。
ここで社会人の方から直接、修正・改善のフィードバックを頂きます。
4. フィードバックを手掛かりに、提示された課題についての解決プランの最終案を作成します。
5. 企業団体の社会人に対し、解決プランの最終案を提示します。
社会人の方が直接評価を行い、その結果がそのまま成績に反映されます。

<目標> 現場で働く社会人から自らがプランした案に対してフィードバックを頂き、修正し、最終評価を頂くことで、企業団体にて実際に働くために必要とされる「答えの無い課題に多様な人々と協働しながら挑戦し、成果を出す力」を身につけます。そして、その経験を糧に、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解します。

教科書 /Textbooks

テキストはありませんが、企業団体の資料はその都度配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページの閲覧および企業団体訪問、統計資料の収集、アンケートの収集、インタビューなどを行い、中間および最終発表の準備をしてください。

また、以下書籍を参考にしてください。

- ジェームス W. ヤング 『アイデアのつくり方』 CCCメディアハウス
- 嶋浩一郎 『嶋浩一郎のアイデアのつくり方』 ディスカヴァー・トゥエンティワン
- 加藤昌治 『考具 - 考えるための道具、持っていますか?』 CCCメディアハウス
- 加藤昌治 『チームで考える「アイデア会議」 考具 応用編』 CCCメディアハウス
- 香取一昭・大川恒 『ワールド・カフェをやろう!』 日本経済新聞出版社
- 金井寿宏 『リーダーシップ入門』 日本経済新聞社
- J.D. クランボルツ、A.S. レヴィン 『その幸運は偶然ではないんです!』 ダイヤモンド社
- 大嶋祥誉 『マッキンゼー入社1年目問題解決の教科書』 SBクリエイティブ
- 大嶋祥誉 『マンガで読める マッキンゼー流「問題解決」がわかる本』 SBクリエイティブ
- スブツ二子! 『はみだすカ』 宝島社

プロフェッショナルの仕事II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ガイダンスと課題解決のノウハウ(その1)
- 第02回 【団体A】課題の提示とチームビルディング
- 第03回 【団体B】課題の提示とチームビルディング
- 第04回 【団体C】課題の提示とチームビルディング
- 第05回 クリエイティブシンキングのノウハウ
- 第06回 相談日
- 第07回 【団体A】中間発表とフィードバック
- 第08回 【団体B】中間発表とフィードバック
- 第09回 【団体C】中間発表とフィードバック
- 第10回 課題解決のノウハウ(その2) ※各班の発表を題材に
- 第11回 プレゼンテーションのノウハウ
- 第12回 相談日
- 第13回 【団体A】最終発表と総合評価、フィードバック
- 第14回 【団体B】最終発表と総合評価、フィードバック
- 第15回 【団体C】最終発表と総合評価、フィードバック

※参考

<2018年度の企業団体と課題>

■NHK北九州放送局

毎日見たくなる「ニュースブリッジ北九州」になるためには？

■株式会社タカギ

タカギの資産を利用した新提案

■株式会社スターフライヤー

新しい機内販売の提案

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業への取り組み(リフレクション)・・・56%

最終発表に対する評価(企業団体からの評価と相互評価)・・・30%

最終レポート・・・14%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページの閲覧および企業団体訪問、統計資料の収集、アンケートの収集、インタビューなどを行い、中間および最終発表の準備をしてください。また、授業終了後はMoodleで振り返りを行ってください。

履修上の注意 /Remarks

※第1回で履修人数を確認しますので、必ず出席してください。何らかの事情で出席できない場合は、事前に教員(mitate@kitakyu-u.ac.jp)までメールで連絡をしてください。

※第2~4回までの各企業団体の課題を理解した上で、挑戦する課題とグループを決めます。

※課題に対する取り組み(授業時間以外でのグループワークやフィールドリサーチ、統計資料収集など)による、最終発表が評価の3割を占めます。企業団体のリアルな課題に対し、企業団体の現役社員(職員)からの生のフィードバックが頂ける企業な経験を積むことができます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動のスケジュールが変わり、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、夏季や春季の長期休暇などを活用したインターンシップが、将来の見通しを見出すために重要なファクターとなります。しかし、インターンシップは必ずしも希望する学生全てが参加できません(受け入れ企業団体が少ないため)。ゆえに、「授業の中」に企業団体の課題に取り組む機会を作り込み、現場の仕事を体験することで、多くの学生が働くことをイメージすることを狙って設計した授業です。企業団体の方から、直接フィードバックをもらえる機会はなかなかありません。本授業での経験を手掛かりに将来の見通しのヒントを得て、そのヒントを今後の大学生活における学業や課外活動への取組に活かすことを切に願っています。

人事経験を持ち、全国の企業団体に人脈を持つ教員が、3~5団体の人事担当者と連携し、課題解決型授業を運営。

キーワード /Keywords

キャリア、成長、プレゼンテーション、フィールドリサーチ、マーケティング、クリエイティブシンキング、ロジカルシンキング、リーダーシップ、実務経験のある教員による授業

地域の達人【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	社会人からキャリアを構築するための思考様式、行動様式について学ぶ。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの必要性を理解し実践し続けることができる。
	コミュニケーション力		
		地域の達人	CAR212F

授業の概要 /Course Description

この授業のコンセプトは、「もうひとつの名刺を持つ」

- ・ 会社組織やNPO法人などで、仕事として社会貢献・地域貢献活動を行っている方
- ・ 仕事以外で社会貢献・地域貢献活動を行っている方
- ・ 雇われないで個人として仕事をしている方
- ・ 会社やお店を営んでいる方

このような社会人をお招きし、以下の点についてお話していただきます。

- ①どんな活動をしているのか
- ②活動のねらい、社会的意義、成果
- ③活動するときに乗り越えた壁
- ④人、組織をどう動かすのか
- ⑤将来ビジョン

企業に雇われて働くというキャリアが唯一のキャリアではありません。
また、パラレルワークや副業など、様々な働き方が広がってきています。
この授業ではサラリーマン以外の道を歩まれている方から、
自分でやること、社会や地域のためにやるべきこと、リーダーシップなどを学びます。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しません。

地域の達人【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～13回 地域の達人によるお話
第14回 達人を振り返る
第15回 まとめ

【これまでの登壇者】

海外ボランティアNPO法人代表、ソーシャル大学学長、公務員、ボーカリスト、障がい者自立団体代表、銀行員兼産学連携コーディネーター、照明デザイナー、物流・運送会社社長、総合交通産業社長、サラリーマン兼ギタリスト、IT企業起業家、不動産会社社長、まりづくりプロデューサー、教育NPO代表、といった方に登壇いただきました。どの「達人」も仕事がどうかにかかわらず、「社会に役立つこと」を考え、強い想いの下に実践をされている方ばかりでした、
2019年度も昨年度と同様に「熱い達人」たちをゲストにお招きする予定です。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

初回の講義時に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に話者について調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分のキャリアや将来展望にどのような影響があったのかについて考えを深めてください。

履修上の注意 /Remarks

外部から講師をお招きします。遅刻や授業途中の入退室はしないでください。
授業開始前までに予告された情報をもとに、登壇者について事前に調べておいてください。授業終了後にはお話をお聞きする中で生じた疑問について各自で調べ、疑問を解消するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

facebookに『地域の達人』ページを開いています。予告とアーカイブを掲載していますので、確認しながら授業を受講してください。

人材採用・マネジメントの経験を持つ教員が、働く意味や意義について理解してもらうための授業を企画する。また、ゲスト講師が自らの地域でのキャリアについて語ることで、学生のキャリア意識を醸成する。

キーワード /Keywords

NPO、NGO、地域貢献、社会貢献、ソーシャルビジネス、コミュニティビジネス、会社経営、起業、キャリア、まちづくり、個人事業主、実務経験のある教員による授業

サービスラーニング入門I【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の課題に関心を持ち、気づき、考えられるようになる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	地域で活動する上で求められる自己管理能力を身につける。	
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの重要性を理解する。	
	コミュニケーション力			
			サービスラーニング入門I	CAR110F

授業の概要 /Course Description

本講義は地域共生教育センター担当科目として開講します。
地域貢献活動に参加するための入門科目として、主に以下の点を目的とします。

- ・ サービスラーニングに向けた基本的知識の学習
- ・ サービスラーニングに向けた実践的方法論の習得
- ・ 地域活動に参加している学生との交流を通じた地域活動に対する参加意欲の向上
- ・ 地域活動の実践と学び

教科書 /Textbooks

レジメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 ガイダンス 講義の目的、受講に当たっての留意事項の説明、レポート課題の説明
- 第2回目 サービスラーニング概論①(サービスラーニングという概念と考え方)
- 第3回目 サービスラーニング概論②(サービスラーニングの理論と実践)
- 第4回目 地域活動概論①(地域活動の紹介)
- 第5回目 地域活動概論②(コミュニティワークの紹介と応用)
- 第6回目 地域活動参加学生とのワークショップ①
- 第7回目 地域活動参加学生とのワークショップ②
- 第8回目 サービスラーニング活動の紹介
- 第9回目 サービスラーニングに向けて①(マナー・ルール・手続き等について)
- 第10回目 サービスラーニングに向けて②(サービスラーニングを通じた学びへの姿勢)
- 第11回目 実践報告①
- 第12回目 実践報告②
- 第13回目 実践報告③
- 第14回目 実践報告④
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

「第一回講義時の事前レポート+講義中の課題」(60点) + 「実践報告レポート」(40点) = 合計100点評価

サービスラーニング入門I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたり、事前の綿密な準備や計画を必要とします。受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備も、そうした作業に含まれます。また「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

履修上の注意 /Remarks

本科目は、受講者による「サービス・ラーニング」への参加を前提としています。したがって受講生は、自ら「サービス・ラーニング」を受け入れてくれる団体を探し、受け入れの交渉と了解を得、その後、実際に活動をしてもらいます。このような意味から、本講義は受講者の積極性や自発性を必要とします。そのため、この科目の履修するにあたっての思いや学びに向けた考えなどを「事前レポート」(1500字程度)を書いてもらい、それを第二回目の講義の際に提出してもらいます。このレポートの提出は単位取得のための必須条件としています。本講義では、こうした課題などに積極的にコミットする受講生を求めています。さらに本講義では、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査や面談のためのアポイント、学習計画書の作成や実習に向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことが必要になります。詳細は第一回のガイダンスの際に説明しますので必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は、全学組織である地域共生教育センターが提供する科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。また、この講義は、第二学期開講の「サービス・ラーニング入門II」と連動していますので、続けて履修されることを望みます。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び

サービスラーニング入門II【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の課題に気づき、考え、解決に向けて行動が起こせるようになる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの重要性を理解する。
	コミュニケーション力	●	他者とともに円滑な活動ができるために必要な、基礎的な力を身につける。
			サービスラーニング入門II
			CAR180F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターが担当する科目です。この授業の目的は、受講生が実際に地域活動に参加し、その実践をふりかえることでより深い学びを得るところにあります。授業では、各学生が自らの参加が参加した「サービスラーニング」の活動内容とそこでの学びを報告し合い、互いの議論を通じて、学習と理解を深めていきます。この授業を通じて多くの学びと気づきを得られることを期待します。

教科書 /Textbooks

レジメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 サービス・ラーニング概論①(サービスラーニングの理論枠組み)
- 3 サービス・ラーニング概論②(実践としてのサービスラーニングについて)
- 4 サービス・ラーニングの実践と学び①(受入先の探索)
- 5 サービス・ラーニングの実践と学び②(実践にむけての心構えと準備)
- 6 サービス・ラーニングの実践に向けて①(実習先での学習計画の作成・提出)
- 7 サービス・ラーニングの実践に向けて②(学習計画書の修正・提出)
- 8 計画発表会①
- 9 計画発表会②
- 10 実践報告①
- 11 実践報告②
- 12 実践報告③
- 13 実践報告④
- 14 受講生による振り返り
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加貢献 (50点) + 活動報告書 (50点) = 100点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたり、事前の綿密な準備や計画を必要とします。受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また、「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

サービスラーニング入門II【昼】

履修上の注意 /Remarks

本科目は、前期の「サービス・ラーニング入門I」と連動しています。そのため講義内容も「サービス・ラーニング入門I」を履修した学生を対象にしたものとなります。ですので、受講希望者は、原則、1学期の「サービス・ラーニング入門I」を履修してから本科目を登録するようにしてください。「サービス・ラーニング入門I」の単位を取得していない学生の履修を認めないわけではありませんが、上述のように「サービス・ラーニング入門I」の内容を踏まえた講義になりますので、「サービス・ラーニング入門II」から履修しようとする学生に対しては、授業のはじめに別途課題を課します。そして、その課題+「サービス・ラーニング入門IIの課題」の両方を提出して、初めて単位を認めるかたちとします。以上の点を十分に留意し履修登録して下さい。

また本講義は、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査やアポイント、学習計画書の作成、実習に出向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことを望みます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「サービス・ラーニング入門I」で得られた学びをより深めていくことを目的としています。社会への貢献活動を通じて多くの学びと喜びを得てください。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び、ピアディスカッション

プロジェクト演習I【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らをコントロールする力を身につける。	
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	初対面の人でもすぐに打ち解ける力を身につけるために、多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとるスキルを獲得する。	
			プロジェクト演習 I	CAR280F

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポート（報告書）を提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組めます。
- 第15回 最終レポート（報告書）作成

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポート（報告書）での総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクトによって内容や時期が変わります。随時指示をします。

履修上の注意 /Remarks

- ※プロジェクト演習Iの履修対象者は、原則2年次です。
- ※プロジェクト演習IIIの履修対象者は、原則3年次です。
- ※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認してから履修登録してください。

プロジェクト演習I【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。

キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

プロジェクト演習II【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らをコントロールする力を身につける。	
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	初対面の人でもすぐに打ち解ける力を身につけるために、多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとるスキルを獲得する。	
			プロジェクト演習II	CAR281F

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポート（報告書）を提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組めます。
- 第15回 最終レポート（報告書）作成

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポート（報告書）での総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクトによって内容や時期が変わります。随時指示をします。

履修上の注意 /Remarks

- ※プロジェクト演習IIの履修対象者は原則2年次です。
- ※プロジェクト演習IVの履修対象者は原則3年次です。
- ※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認して、2学期の履修登録の修正登録期間に履修登録してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

プロジェクト演習II【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

プロジェクト演習Ⅲ【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会人との交流をヒントに、将来自らが生き生きと働くことができる仕事や業界への見通しをつかみ、大学生活をデザインする力を身につける。
	コミュニケーション力		
			プロジェクト演習Ⅲ
			CAR380F

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポート（報告書）を提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組めます。
- 第15回 最終レポート（報告書）作成

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポート（報告書）での総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクトによって内容や時期が変わります。随時指示をします。

履修上の注意 /Remarks

- ※プロジェクト演習Ⅰの履修対象者は、原則2年次です。
- ※プロジェクト演習Ⅲの履修対象者は、原則3年次です。
- ※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認してから履修登録してください。

プロジェクト演習III 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。

キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

プロジェクト演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会人との交流をヒントに、将来自らが生き生きと働くことができる仕事や業界への見通しをつかみ、大学生活をデザインする力を身につける。
	コミュニケーション力		
		プロジェクト演習Ⅳ	CAR381F

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポート（報告書）を提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組めます。
- 第15回 最終レポート（報告書）作成

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポート（報告書）での総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクトによって内容や時期が変わります。随時指示をします。

履修上の注意 /Remarks

- ※プロジェクト演習IIの履修対象者は原則2年次です。
- ※プロジェクト演習IVの履修対象者は原則3年次です。
- ※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認して、2学期の履修登録の修正登録期間に履修登録してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。

プロジェクト演習Ⅳ【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

教養特講I (教養を磨く『新聞のちから』) 【昼】

担当者名 /Instructor 読売新聞西部本社、基盤教育センター 永末 康介、稲月 正

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			教養特講 I
			SPL001 F

授業の概要 /Course Description

この授業では、社会を映す鏡として生きた教材になる新聞を活用し、将来の就職活動や社会人生活に役立つ「読む力」「書く力」「話す（伝える）力」とともに、時事問題の知識や教養を身につけます。グループワークも実施し、物事を深く考えて企画する力も身につけられるようアシストします。様々な学部の学生が集まり、共に学ぶことができる講座です。

「時事問題や正しい日本語の使い方に関するクイズ」「新聞への投稿」「流行語大賞や10大ニュースを予測してみよう」など、新聞を活用した演習やクイズを実施します。文章添削も行う予定です。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。新聞を授業時に配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館にある読売新聞以外の新聞も活用します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 新聞の基本的な読み方とまわしよみ新聞の作り方、グループ分け (※気になる記事を選んで作る「まわし読み新聞」は毎回作成します。)
- 第2回 新聞のちから①まわしよみ新聞を基にテーマを選択
- 第3回 新聞のちから②テーマと疑問点を詰める
- 第4回 新聞のちから③文章の書き方 (基礎編)
- 第5回 新聞のちから④文章の書き方 (応用編)
- 第6回 新聞のちから⑤模擬取材体験
- 第7回 新聞のちから⑥取材結果をまとめる
- 第8回 新聞のちから⑦発表と講評
- 第9回 社会人基礎力養成①深く考える力を高める新聞の読み方
- 第10回 社会人基礎力養成②課題解決へ思考を深める
- 第11回 社会人基礎力養成③課題解決へ思考を深める
- 第12回 社会人基礎力養成④課題解決へ思考を深める
- 第13回 社会人基礎力養成⑤就活突破と新聞活用術
- 第14回 まとめ①「わたしたちの新聞」作成
- 第15回 まとめ②「わたしたちの新聞」発表と講評

成績評価の方法 /Assessment Method

課題やグループワークへの取り組みの度合いで総合的に判断します (100%) 。詳しくは1回目の授業で説明します。

教養特講I (教養を磨く『新聞のちから』) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

新聞を毎回活用します。
就職活動に役立ちそうな簡単な演習などを課題として出題する予定です。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解度や講義の進捗に応じて授業計画等が変わる場合もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新聞社、大学、若い皆さんが力を合わせ、楽しみながら社会に通用する実践力を身につける講座にしたいと考えています。

新聞報道の現場経験者が、その経験を活かしながら「読む力」「書く力」「話す力」「考える力」を向上させる授業を担当する。

キーワード /Keywords

思考力、アクティブ・ラーニング、コミュニケーション能力、新聞、メディア、現代社会、情報リテラシー、就職活動、社会人基礎力、実務経験のある教員による授業

教養特講II (現代社会とエシカル消費) 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			教養特講II
			SPL002 F

授業の概要 /Course Description

グローバル化が進むことによって、人、モノ、カネ、情報の流れが加速化し、感覚的に私たちは地球を小さく感じるようになった。また、相互依存が深化したことで、今や遠い地の出来事を他人事として済ますことはできなくなってきた。私たちの豊かな暮らしは誰かの犠牲の上に成り立っているのではないが、そのような不正義は許されるのかという意識、すなわち「グローバルな倫理」が問われる時代になっている。

本講義では、具体的な事例をもとに、私たちの消費活動を倫理的観点から捉え直してみたい。そこで、「フェアトレード」「ファスト・ファッションとエシカル・ファッション」「紛争鉱物とエシカル・スマホ」「ペットボトルと水道水」「100円ショップ」を具体的事例として取り上げ、倫理的消費について学生とともに考えたい。

この講義を通して、受講生が日々の暮らしを見つめ直し、環境に負荷をかけない生活を考えるとともに、先進国の大量消費活動の裏側でどのような事態が進行しているのかを考える契機としたい。

教科書 /Textbooks

特に指定はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示しますが、次に挙げる文献はとても参考になります。

- 子島進他『館林発フェアトレード - 地域から発信する国際協力』上毛新聞社、2010年。
- アジア太平洋資料センター編『徹底解剖100円ショップ』コモンズ、2004年。
- 末吉里花『はじめてのエシカル』山川出版社、2016年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション(講義の目的、進め方、文献案内など)、「エシカル消費」とは何か?
- 第2回 【ファッション】『ザ・トゥルー・コスト』(DVD)前半の鑑賞
- 第3回 『ザ・トゥルー・コスト』(DVD)後半の鑑賞、論点整理
- 第4回 ファッション、綿花栽培に関するディスカッション
- 第5回 【食べ物】『甘いバナナの苦い真実』(DVD)の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第6回 『Food Inc.』(DVD)前半の鑑賞
- 第7回 『Food Inc.』(DVD)後半の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第8回 【プラスチック】ペットボトル、マイクロプラスチック、論点整理、ディスカッション
- 第9回 【鉱物資源】『スマホの真実』(DVD)の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第10回 【100円ショップ】『徹底解剖! 100円ショップ』の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第11回 【フェアトレード】『もっと! フェアトレード』(DVD)の鑑賞
- 第12回 フェアトレードの展開、役割、課題
- 第13回 グループ・ワーク
- 第14回 受講生によるプレゼンテーション1
- 第15回 受講生によるプレゼンテーション2、まとめ

教養特講II (現代社会とエシカル消費) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

数回のレポート (20%)、グループによるプレゼンテーション (80%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、各回のキーワードについてウェブサイトなどで調べておいてください。事後学習としては、実生活を通して学んだことの確認を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

数多くのDVDを視聴し、理解を深めます。その際、ディスカッションを行いますので、他人と議論するのを恐れずに、積極的に参加してください。また、第14回と第15回では、エシカル消費を促進するためのアイデアについて、個人ないしはグループでのプレゼンテーションを予定しています。それを念頭に受講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フェアトレード、エシカル

地域の文化と歴史【昼】

担当者名 /Instructor 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年(2016年度以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
									○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州・下関地域の文化と歴史を理解し、愛着を持って地域のことを考える力を持つ。	
技能	情報活用能力			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	北九州・下関地域の文化と歴史を知ることを通じ、地域の特長・課題を分析・考察できるようにする。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	北九州・下関地域など、自ら関わる地域の文化や歴史に対して継続的に関心を持つ意欲を涵養する。	
			地域の文化と歴史	HIS170F

授業の概要 /Course Description

北九州・下関地域のあゆみ、及びその過程で生まれた地域における様々な文化に関して、基本的な事項を学ぶ。そのことを通じ、北九州市等の地域への関心・愛着を深めるとともに、地域の特長や課題を分析・考察するきっかけをつかむことを目指す。
授業においては、各トピックに関する北九州・下関地域の第一人者をゲストとしてお招きする。北九州・下関地域出身者のみならず地域外出身者にとっても、学生生活や就職、社会での諸活動の充実に繋がる学びとなる内容を指向する。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

地域の文化と歴史【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回： ガイダンス、本授業で対象とする「地域」とは
- 第 2 回： 《歴史》現在の地域
- 第 3 回： 《歴史》原始の地域
- 第 4 回： 《歴史》古代の地域
- 第 5 回： 《歴史》中世・近世の地域
- 第 6 回： 《歴史》幕末期の地域
- 第 7 回： 《歴史》明治以降の日本の近代化と地域
- 第 8 回： 《歴史》戦前・戦中・戦後復興期の地域
- 第 9 回： 《文化》地域の美術、現代アート
- 第 10 回： 《文化》地域の漫画文化、ポップカルチャー
- 第 11 回： 《文化》地域の芸術、音楽、演劇
- 第 12 回： 《文化》地域の文学① 【総論】
- 第 13 回： 《文化》地域の文学② 【各論】
- 第 14 回： 《文化》地域の映画文化
- 第 15 回： 《文化》地域の文化財 ～「日本遺産」について

※ゲストの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。第 1 回授業において概ね確定した計画を提示する予定である。

※参考：前年度のゲストの所属組織等（今年度も概ね同様の予定）（順不同）

《北九州市文化企画課、北九州市世界遺産課、北九州市立いのちのたび博物館、北九州市立美術館、北九州市漫画ミュージアム、北九州フィルム・コミッション、北九州芸術劇場、北九州市立文学館、北九州市立松本清張記念館、下関市立土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム、下関市立考古博物館、下関市立歴史博物館》

成績評価の方法 /Assessment Method

- 日常の授業への取り組み： 30%
- 中間レポート： 35%
- 期末レポート： 35%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回授業のテーマに関し、各自、事前に自分自身が知りたい内容を考えて授業に臨むこと。
授業中に興味を持った事項について、各回授業後に各自が文献やインターネット情報等を用いて自主的に調べたり、北九州・下関地域の各種ミュージアム等を見学したりして理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

授業計画については、ゲストスピーカーの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さんが学生時代を過ごす北九州・下関地域の文化や歴史を学ぶことで、皆さんのこれからの学習やキャリア形成、また教養を深める活動等にとってプラスとなる知識を得ることができ、さらに、地域に対する関心が増して有意義な学生生活を送ることにつながる授業にしたいと考える。

北九州市・下関市の博物館等の学芸員や文化行政担当者が、オムニバス形式で各専門分野に関する北九州・下関地域の文化や歴史について解説し、地域への関心や愛着の醸成を図る。

キーワード /Keywords

北九州・下関地域（関門地域）、歴史、文化、文学、芸術

実務経験のある教員による授業

地域の社会と経済【昼】

担当者名 /Instructor 柳 永珍 / RYU Young-Jin / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年(2016年度以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
									○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州・下関地域の社会と経済を理解し、愛着を持って地域のことを考える力を持つ。
技能	情報活用能力		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	北九州・下関地域の社会と経済を知ることを通じ、現在の地域が抱える課題を分析・考察できるようになる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
			地域の社会と経済
			ECN170F

授業の概要 /Course Description

地域活性化や地域再生が日本における重要なキーワードになっている中、皆さんにおいて「地元」という言葉はどのように響くのか。1つの地域に愛情を持って、真剣に学習してみることは、自分の地元を考える良いきっかけとなる。この授業は、北九州・下関地域の社会的・経済的特性について様々な観点から学び、理解を深めることを通じて、地域の課題を発見し、何をすべきか、自らの意思で考えることを目指している。本授業では、各トピックに関して現場での経験や造詣が深い方々をゲストスピーカーとして招き、北九州・下関地域出身者、地域外出身の双方にとって学びとなるお話をさせていただく。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：北九州の産業・社会
- 第3回：北九州市政と市民
- 第4回：下関の産業・社会 【シンクタンク等の専門家による説明】
- 第5回：下関市の都市戦略 【シンクタンク等の専門家による説明】
- 第6回：北九州地域の貿易現状 【関連機関等の専門家による説明】
- 第7回：地域と情報発信力 【関連機関等の専門家による説明】
- 第8回：地域の企業① 【地元企業関係者等による説明】
- 第9回：地域の企業② 【地元企業関係者等による説明】
- 第10回：地域の企業③ 【地元企業関係者等による説明】
- 第11回：地域の企業④ 【地元企業関係者等による説明】
- 第12回：地域の起業環境 【関連機関等の専門家による説明】
- 第13回：北九州地域の都市戦略としての観光 【シンクタンク等の専門家による説明】
- 第14回：地域を新しく考えるための思考 【NPO等の専門家による説明】
- 第15回：まとめー地域の人口と未来

※講義のテーマ、順番、講師陣については若干の変更があることをご承知おきください。

成績評価の方法 /Assessment Method

九州・下関地域の社会的・経済的特性に対して理解し説明ができること。さらに地域に関する多様な課題について、独自の思考で提言ができること。
・各講義ごとのシヨートレポート(14回)：100%

地域の社会と経済【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

北九州・下関地域の社会や経済に関する情報は常にアップデートされ、メディアでも多く扱われています。日ごろから新聞、TV、インターネット等を通じて、アンテナを張って情報収集に努めてください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 遅刻、私語は他の受講生やゲストスピーカーの方の迷惑になるため、厳禁とします。
- ・ ゲストスピーカーの都合等により、トピックの順番・内容が一部変更する場合があります。
- ・ 授業中に興味を持った事項について、各授業後に各自調べて理解を深めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さんがこれから学生時代を過ごす北九州・下関地域の社会や経済を学ぶことで、皆さんがこれからの学習やキャリア形成にとってプラスとなる知識等を得ることができ、地域に対する関心が増やして有意義な学生生活を送ることにつながる授業になると考えます。また、地域の現状と事情に密着した人材として、創造性の持つ人材として、地域での活躍ができる一歩であるとも考えています。

キーワード /Keywords

シビックプライド、地域愛着、グローカル化、地域活性化

地域のにぎわいづくり【昼】

担当者名 /Instructor 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年(2016年度以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
									○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州・下関地域におけるにぎわいづくりの可能性や意義を理解し、地域に対する愛着を高める。	
技能	情報活用能力			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	北九州・下関地域におけるにぎわいづくりに関する課題を現状に則して把握・分析し、課題解決に向けた方策の検討を行える力を身につける。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力			
			地域のにぎわいづくり	RDE270F

授業の概要 /Course Description

観光やイベントの振興等を通じ北九州・下関地域をにぎわい溢れる地域とするために必要な視点や方策について学ぶ。学生の主体的な学びを重視し、地域に求められるにぎわいづくりに向けた現状と課題を把握・分析し、それを踏まえた「にぎわいづくりプラン」を自ら立案すること等を通じ、地域課題の解決に向けた基礎的な力を得ることを目指す。

2019年度授業の前半は、にぎわいづくり政策の意義や課題等についてゲスト講話や事例紹介などを通じて学び、政策に対する学生の意見発表も行う。

授業の後半は、「スタジアムをいかした街の活性化」の観点から、日本における先駆的な「まちなかスタジアム」であるミクニワールドスタジアム北九州（小倉駅から徒歩約7分）（愛称：ミクスタ）を題材とし、小倉駅周辺の活性化を視野に入れた「ミクスタ集客プラン」をグループワークで作成する。作成に際し、ゲスト講話やフィールドワークも実施する。

本授業は、北九州市役所、およびギラヴァンツ北九州（Jリーグ）等の協力のもとで実施する。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

・九州経済調査協会『2019年版九州経済白書 ～スポーツの成長産業化と九州経済～』
その他、授業中に適宜紹介する。

地域のにぎわいづくり【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 ガイダンス ～講義の目的、履修上の注意など
- 第 2 回 にぎわいづくり政策の意義①【観光政策】
- 第 3 回 にぎわいづくり政策の意義②【MICE誘致政策】
- 第 4 回 北九州市の観光・MICE誘致政策に関する意見発表
- 第 5 回 にぎわいづくり政策の意義③【スポーツイベント政策】
- 第 6 回 にぎわいづくりとスタジアム(スタジアム・アリーナ改革)
- 第 7 回 フィールドワーク ギラヴァンツ北九州試合観戦①
 【試合前の各種イベントや飲食店舗等の状況視察】
- 第 8 回 フィールドワーク ギラヴァンツ北九州試合観戦②
 【試合中の来場者動向等の状況視察】
- 第 9 回 フィールドワーク ギラヴァンツ北九州試合観戦③
 【試合後の観客の小倉駅周辺回遊動向等の状況視察】
- 第 10 回 プラン作成①【現状分析、課題抽出】
- 第 11 回 Jリーグ・ギラヴァンツ北九州の社会的存在意義と集客戦略、課題
- 第 12 回 プラン作成②【アイデア検討】
- 第 13 回 プラン作成③【アイデア検討の深化】
- 第 14 回 プラン作成④【プランとりまとめ】
- 第 15 回 集客プラン発表会

※ 受講者数、ゲストのスケジュール、天候の状況等に応じ、授業計画を一部変更する場合がある。

※ 第7～9回のフィールドワークは同一日に実施する。日程は11月24日(日)を予定する。当日に欠席するは12月1日(日)に参加すること。11月24日、12月1日の双方を欠席することは原則として認めない。フィールドワークの場所は、ミクニワールドスタジアム北九州(小倉駅から徒歩7分程度)とする。

※ 以下の日にちは、北方・ひびきのキャンパスの一方が金曜休講日等の指定があるため、北方・ひびきの連携である本授業は実施しない予定である。詳細は第1回授業において説明する。

→ 9月27日、11月8日、12月26日、1月17日

成績評価の方法 /Assessment Method

- 日常の授業への取り組み(グループワークへの取り組み姿勢等) : 35%
- 集客プランの内容に対する評価(外部審査員等による評価) : 40%
- 期末レポート : 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

課題への取り組み(プラン作成)に向けては、講義時間以外において各自による情報収集・考察や、必要に応じた受講者間の意見交換が求められる。メンバーで協議の上、事前・事後学習に計画的に取り組むことが必要となる。

また、休日等に小倉駅周辺を散策するなどして、にぎわいづくりのあり方を考えることも事前・事後学習の一助となる。

履修上の注意 /Remarks

原則としてフィールドワークへの参加を必須とする。日程は11月24日(日)を予定する。その日に欠席するは12月1日(日)に参加すること。詳細は第1回授業において提示する。

フィールドワークでは試合観戦料(500～1,500円程度)および小倉駅までの交通費が必要となり、受講者の自己負担となる。

グループワークを行う班はクジ引きで決定する予定であるが、受講者数の状況等に応じ変更する場合がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州を中心とする地域のにぎわいづくりに関し、現実に即した政策を学ぶことに加え、学生の皆さん自身が「にぎわいづくりプラン」(2019年度はミクニワールドスタジアム北九州集客プラン)をグループワークで検討することにより、皆さんのこれからの多様な学習やキャリア形成にとってプラスとなる知識や経験を得ることが出来る授業をめざす。

民間シンクタンクでまちづくりのコンサルタント実務経験のある教員が、地域企業や行政職員をゲストに招くと共に北九州市内でのフィールドワーク、グループワークを実施し、にぎわいづくりプラン作成を指導する。

キーワード /Keywords

観光、イベント、MICE、集客、スタジアム、スポーツをいかしたまちづくり

実務経験のある教員による授業

北九州市の都市政策【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年(2016年度以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
									○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州市の都市政策全般についての知識を習得し、分野ごとの個別政策について理解を深めることで、地域への愛着を高める。
技能	情報活用能力		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	北九州市の都市政策を知り、地域の政策課題を見極めることで、課題解決に向けた総合的な判断力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	北九州市の都市政策を知り、現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高めることで、社会的責任と倫理観を持って行動することができる素養を身につける。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
			北九州市の都市政策
			PLC270F

授業の概要 /Course Description

北九州市の都市政策について、都市づくり、港湾、産業、保健福祉、環境など分野ごとの政策、及び個別プロジェクトに至るまで包括的に学ぶことで、地域への愛着を深めるとともに、地域の課題を考察するきっかけをつかむことを目指す。

本授業においては、各テーマに関して精通している北九州市役所の担当者等をゲストスピーカーとしてお招きし、北九州市出身者のみならず、市外出身者の双方にとって学びとなるお話をしていただく。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス / 北九州市の都市政策の歴史【五市合併、ルネッサンス構想、「元気発進！北九州」プラン】
- 第2回 北九州市のコミュニティ施策【まちづくり協議会、自治会、市民センター】
- 第3回 北九州市の都市計画【都市計画マスタープラン、立地適正化計画】
- 第4回 北九州市の都市交通政策【環境首都総合交通戦略、モビリティマネジメント】
- 第5回 都心・副都心のまちづくり【紫川マイタウンマイリバー事業、再開発事業】
- 第6回 大規模未利用地を活かしたまちづくり【土地区画整理事業、城野ゼロカーボン地区、エリアマネジメント】
- 第7回 市民に親しまれる道づくり【バリアフリー、国家戦略特区を活用した賑わいづくり】
- 第8回 北九州市の港湾政策【響灘コンテナターミナル、北九州空港、インバウンド】
- 第9回 北九州市の産業・雇用政策【新成長戦略、企業誘致】
- 第10回 北九州市の保健福祉政策【子育て支援、高齢者支援】
- 第11回 公害克服と環境協力・環境学習【公害克服、環境国際協力、環境ビジネス、ESD、環境首都検定】
- 第12回 環境保全の幅広い取組み【公害防止法令、環境監視、PCB処理、リスクマネジメント、生物多様性】
- 第13回 ごみの適正処理と資源循環【ごみ分別と有料化、資源循環、北九州工コタウン事業、環境未来助成】
- 第14回 地球温暖化と環境エネルギー対策【地球環境問題、京都議定書、再生可能エネルギー】
- 第15回 まとめ / 期末レポートの説明

※ゲストスピーカーは主に行政施策を担当している北九州市役所の担当部局職員の方を想定しています。なお、ゲストスピーカーの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の授業レポート：30%
- ・ 期末レポート：70%

北九州市の都市政策 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義で習得する都市政策に関する知見や情報は、皆さんが普段から居住、通学している市街地に常に存在しています。普段から都市政策やまちづくりの事を意識しながら、まちを観察してみてください。講義中に興味を持った事は、事後に各自調べて理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州市のこれまでの都市づくり、これからの都市づくりを理解する上で、大変参考となる話を聞くことができます。本講義を受けることで、北九州市への愛着が増し、将来的に北九州市に定住する意向を強めてくれることを期待します。

北九州市の都市政策に従事する市職員が、各担当の施策について解説する。

キーワード /Keywords

実務経験のある教員による授業

まなびと企業研究I【昼】

担当者名 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年(2016年度以降入学生)
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
									○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州・下関地域の企業特性や現況を認識し、地域企業の動向を総合的に理解する。
技能	情報活用能力		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域企業の課題を認識し、論理的に考察・分析を行い、課題解決を図る基礎力を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	仕事や人生で実現したいことを自己認識し、目的意識をもって主体的に行動する力を身に付ける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
			まなびと企業研究 I
			CAR270F

授業の概要 /Course Description

北九州・下関地域の企業、団体について現状、課題、展望を認識し、考察することで理解を深めることがねらいです。特に本講義では、さまざまな業界の地域づくり、まちづくり、地域貢献といった分野についての事業や取り組みに焦点を当てます。本講義で取り上げる業界、分野の視点としては、「経済・産業」、「福祉」、「交通」、「都市計画」、「地域経済」、「まちづくり」、「文化・芸術」、「金融」などを取り上げます。身近な地域企業や地域人材について学ぶことを通じ、働くことの価値、キャリア、幅広い視点から社会動向や自らの将来のビジョンを考える契機になることを期待します。

実際に講義していただく企業・団体については、本講義のmoodleに掲載予定です。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・北九州市立大学地域戦略研究所・キャリアセンター(2018)「学生による学生のための北九州・下関地域 業界MAP」
<https://manabitopia.jp/pdf/businessmap.pdf> から入手可
- 大室悦賀(2016)「サステイナブル・カンパニー入門: ビジネスと社会的課題をつなぐ企業・地域」学芸出版社
- 饗庭伸ほか(2016)「まちづくりの仕事ガイドブック: まちの未来をつくる63の働き方」学芸出版社
- 日本都市計画学会関西支部(2011)「いま、都市をつくる仕事: 未来を拓くもうひとつの関わり方」学芸出版社
- 山崎亮(2015)「ふるさとを元気にする仕事」筑摩書房
- 山崎亮ほか(2014)「ハードワーク! グッドライフ! 新しい働き方に挑戦するための6つの対話」学芸出版社
- ・北九州・下関まなびとびあホームページ (<https://manabitopia.jp/>)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2~15回 企業・団体等によるプレゼンテーション、質疑、議論、レポート記述
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 各回の講義で書くミニレポート・・・60%
- 最終レポート・・・30%
- 質疑応答、議論・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の講義前に、その企業、団体についてホームページ等で調べ、全体像を把握しておく。
毎回の講義後に、その企業、団体についてさらに調べてみる。また、関連する企業や団体についても調べてみる。さらに、講義内で知った取り組み、事業内容を各自が担当してさらに展開すると想定した場合、どういった展開の可能性、方向性があるか検討してみる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一般的な企業説明会ではなかなか聞くことができない、業界や企業、団体の地域創生、地域（社会）貢献、まちづくりなどについての事業や取り組みについて重点的に学ぶことができる貴重な機会です。

キーワード /Keywords

企業研究、就職、まちづくり、地域創生、地方創生、地域貢献、社会貢献、CSR、SDGs、地域づくり、地域活性化、関門地域、地域志向

まなびと企業研究II 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年(2016年度以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
									○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州・下関地域の企業実習を通して企業特性や現況を実践的に捉え、地域企業(現場)の動向を総合的に理解する。
技能	情報活用能力		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域企業の事象から問題を見抜き、課題を発見し、論理的に考察・分析を行い、解決策を表現することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	仕事や人生で実現したいことに目的意識をもち、主体的に行動することで、成果に結びつく力を身に付ける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地域や社会の情勢に関心を抱き、的確に捉え、課題解決のための学びを持続することができる。
	コミュニケーション力	●	自己の考えを他者に分かりやすく説明する意欲を高め、積極的に相互関係を築く力を身に付ける。

まなびと企業研究II

CAR370F

授業の概要 /Course Description

<目的> 本授業の目的は「主に北九州市や下関市の企業団体を視野に入れた、就職活動のプランニング」です。具体的には、北九州市や下関市の企業団体をリサーチしながら、代表的なキャリアに関する理論やモデルを学び、大学時代の活動を、自らのキャリア形成に繋がります。

<進め方> 形式は問題基盤型学習 (Problem-based-Learning) です。履修人数にも寄りますが、グループ単位で授業を進めます。

【個人課題】動画セッション

あらかじめ視聴する動画を指示しますので、各自以下の2点についてまとめておいてください。

1. 動画から学んだこと、2. その学びを就職活動にどう活かすか? 期間は1週間です。

【グループ課題】シナリオセッション

課題に対し、グループで問題解決のストーリーを考え、役割分担をします。

役割は、1. 文献収集、2. 物語を練る、3. パワポ作成、4. 発表練習も含めた管理など。

授業でパワーポイントを使ってプレゼンします。発表は全員で行ってください。期間は2週間です。

【フィールドワーク課題】フィールドワークセッション

最終プレゼンテーションの課題です。北九州市や下関市の企業団体を一つ選び、取材し、

取材したからこそ理解したことを、最終授業でプレゼンします。期間は3カ月です。

<目標> 大学時代の活動を自らのキャリア形成につなげる理論を学び、それを日々実践することによって、本授業の目的を達成するために、大学時代における自らの活動を、自らが輝ける豊かな将来のつながるようにキャリア・プランニングすること。

教科書 /Textbooks

なし。資料を随時配布します。

まなびと企業研究II【昼】

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 課題を解く時の参考にしてください。
- キャロル S.ドゥエック『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』草思社
- 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
- 金井寿宏『リーダーシップ入門』日本経済新聞社
- 渡辺三枝子『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
- エドガー・H.シャイン『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房
- 中原淳ほか『企業内人材育成入門』ダイヤモンド社
- 中原淳・長岡健『ダイアログ 対話する組織』ダイヤモンド社
- 高尾隆・中原淳『Learning×Performance インプロする組織 予定調和を超え、日常をゆさぶる』三省堂
- モーガン・マッコール『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社
- 香取一昭・大川恒『ワールド・カフェをやろう!』日本経済新聞出版社
- 松尾睦『「経験学習」入門』ダイヤモンド社
- 児美川孝一郎『キャリア教育のウソ』筑摩書房
- デイヴィッド A.プライス『メイキング・オブ・ピクサー 創造力をつくった人々』早川書房
- 本田由紀『教育の職業的意義-若者、学校、社会をつなぐ』筑摩書房
- J.D.クランボルツ・A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
- 赤尾勝己『生涯学習理論を学ぶ人のために-欧米の成人教育理論、生涯学習の理論と方法』世界思想社
- 嶋浩一郎『嶋浩一郎のアイデアのつくり方』ディスカヴァー・トゥエンティワン
- 田尾雅夫『モチベーション入門』日本経済新聞社
- 山崎亮『コミュニティデザイン:人がつながるしくみをつくる』学芸出版社
- スブツニ子!『はみだすカ』宝島社
- アンジェラ・ダックワース『やり抜く力 GRIT (グリット)-人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける』ダイヤモンド社
- リンダ グラットン『ワーク・シフト-孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』プレジデント社
- リンダ グラットン、アンドリュー スコット『LIFE SHIFT (ライフ・シフト)』東洋経済新報社
- 見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社
- 中原淳、見館好隆ほか『人材開発研究大全』東京大学出版会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス
- 2回 動画セッション① 「時間は限りあるもの」
- 3回 シナリオセッション① アイデンティティ (自分を知る)
- 4回 動画セッション② 「やる気に関する驚きの科学」
- 5回 シナリオセッション② 計画された偶発性
- 6回 動画セッション③ 「成功のカギは、やり抜く力」
- 7回 シナリオセッション③ インターンシップの意義や目的
- 8回 動画セッション④ 「自動化で人間の仕事はなくなるのか？」
- 9回 シナリオセッション④ アイデアの作り方
- 10回 動画セッション⑤ 「将来に備えるために今できること」
- 11回 動画セッション⑥ 「未来を語る (前編・後編)」
- 12回 シナリオセッション⑤ 本気の企業団体研究 (相手を知る)
- 13回 動画セッション⑦ 「社会で働く上で必要なこと」
- 14回 シナリオセッション⑥ 新しい大学生の就職活動
- 15回 最終プレゼンテーション: フィールドワークで何を学んだのか?

※期間中、フィールドリサーチを実施します。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 毎回の授業のプレゼンテーション...75% 最終プレゼンテーション...20% 最終レポート...5%
- ※プレゼンテーションと最終レポートは必須です。
- ※授業および、授業時間以外でのグループワークやフィールドリサーチの参加が必須となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【動画セッション】については、事前に指定する動画を閲覧し、ワークシートを仕上げておいてください。
- 【シナリオセッション】については、事前に提示する課題をもとに、参考文献の収集およびグループメンバーとの議論を重ねて、発表の準備をしてください。
- 【フィールドワーク課題】については、フィールドワーク先のアポイントメントを取り、取材し、グループメンバーとの議論を重ねて、発表の準備をしてください。
- なお、アポイントメントについては教員がフォローアップしますので、安心してください。

履修上の注意 /Remarks

- ※第1回目の授業でグループを決めますので、第1回目は必ず出席してください。何らかの事情で出席できない場合は、事前に教員 (mitate@kitakyu-u.ac.jp) までメールで連絡をしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、将来のキャリアプランについていろいろ悩んでいると思います。本授業ではその悩みを払拭し、就職活動への見通しを立て、自信をもって本番を迎えられるようにします。奮ってご参加ください。また、結果的に北九州市や下関市以外の企業を志望しても問題ありません。

キーワード /Keywords

キャリア、成長、アイデンティティ、キャリア発達、キャリア形成、キャリアデザイン、プレゼンテーション、フィールドリサーチ、問題基盤型学習、経験学習

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / Credits 2単位 / Semester 2学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / Class クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。
		情報表現	INF230F

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける。

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

情報表現【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題... 90%、積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後には、必要に応じてパソコン自習室や自宅のパソコン等を用いて授業内容を反復すること。授業で提示された課題や演習に取り組む際は、授業時間外を積極的に活用し、特に、グループ活動においては、グループメンバーとよく議論を重ねること。

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによるアクティブ・ラーニングを導入している。グループのメンバーで互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

情報メディア演習【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	書籍やインターネット、新聞・雑誌、テレビ・ラジオといったメディアの特性を理解し、そこから得た情報を活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	直面する課題を発見し、分析・解決・表現を自立的に行った結果に対して、省察を行うことができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		情報メディア演習 INF330F	

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、情報を伝達する媒介・媒質としての情報メディアの特性を概観し、情報メディアが人間社会に与える影響について考える力を身に付けることである。特に、本授業ではソーシャルメディアに着目し、その成り立ちや技術、社会的な課題を学ぶことで、一人ひとりがメディアへの関わり方を考え、人や社会とのつながりを再設計することで、新たなメディア環境を生きていくための力(メディア・リテラシー)を身に付けることを目的としている。そのことを踏まえて、本授業では、以下のような項目について学ぶ。

- ソーシャルメディアの歴史
- ソーシャルメディアの現在
- ソーシャルメディアの未来
- メディア・リテラシー

本授業では、チューター方式を用いる。すなわち、受講学生が与えられたテーマについて事前に調べ、その内容を授業の中の一部で発表・問題提起する方式である。発表・問題提起された内容を中心に、教員と受講学生とが議論を深めていく。また、場合によっては、グループを組んでひとつのテーマに取り組んでもらう。

教科書 /Textbooks

藤代裕之 編著：ソーシャルメディア論 改訂版 - つながり再設計する -、青弓社、2019年、1,800円(税抜)。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

情報メディア演習【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目：情報メディアとは何か【ガイダンス】【情報メディア】
- 2回目：ソーシャルメディアの登場による影響と問題点【SNS】【マスメディア】【メディア・リテラシー】
- 3回目：ディスカッションのまとめ方1【ザ・マインドマップ】
- 4回目：ソーシャルメディアの歴史を知る1【歴史】
- 5回目：ソーシャルメディアの歴史を知る2【技術】
- 6回目：ソーシャルメディアの歴史を知る3【法】
- 7回目：ソーシャルメディアの現在を知る1【ニュース】
- 8回目：ソーシャルメディアの現在を知る2【広告】
- 9回目：ディスカッションのまとめ方2【ブレインストーミング】【KJ法】
- 10回目：ソーシャルメディアの現在を知る3【政治】【キャンペーン】
- 11回目：ソーシャルメディアの現在を知る4【都市】【コンテンツ】
- 12回目：ソーシャルメディアの現在を知る5【モノ】
- 13回目：ソーシャルメディアの未来を考える1【地域】【共同規制】
- 14回目：ソーシャルメディアの未来を考える2【システム】
- 15回目：ソーシャルメディアの未来を考える3【教育】【人】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題・・・40%、レポート・・・30%、授業への参加態度・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、授業開始前までに必ず教科書を読んで、その内容を理解しておくこと。また、チューター方式で授業を行うので、与えられたテーマについては授業時間外を含めて積極的に学習し、チューターとしての準備をしっかりと行うこと。
事後学習として、授業内容を反復すること。また、チューターが終わったあとは、そこから学んだことをレポートとしてまとめること。

履修上の注意 /Remarks

「情報表現」を先に受講して、情報収集、情報加工、情報発信に関する知識や技術について学んでいると受講しやすい。
「情報社会への招待」や「情報社会を読む」を先に受講して、情報社会に関連する知識や技術、情報社会の未来に関する内容がある程度把握していると受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では、毎回のようにグループディスカッションを展開する予定である。ディスカッションには積極的に参加し、グループ活動に貢献してもらいたい。また、受講者数が多数の場合は、受講者数調整を行う場合もある。

キーワード /Keywords

ソーシャルメディア、メディア・リテラシー、ザ・マインドマップ、ブレインストーミング、KJ法

英語I (英 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー 数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (英 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英 1 - B
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (英 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
コミュニケーション力		●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (英 1 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (国 1-A、英 1-A) 【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1-A、英 1-A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込む場合があります。

教科書 /Textbooks

特になし。
学習管理システムMoodle内にある資料や配布プリントを用いる。
(Moodle上のデータをダウンロードしたりするために、インターネット接続通信費がかかる場合がある。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業時やMoodleにて紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自分の好きな仕事
- 3回 やり抜く力
- 4回 成功の秘訣
- 5回 メディア・リテラシー
- 6回 英語とのつきあい方(1)【英語とつきあう前に】
- 7回 TOEIC演習(1)【リスニング問題】
- 8回 環境
- 9回 TOEIC演習(2)【文法問題】
- 10回 Internet of things (IoT)
- 11回 TOEIC演習(3)【長文問題】
- 12回 読解力
- 13回 仕事を創る
- 14回 英語とのつきあい方(2)【英語とつきあう時に】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...30%、平常の学習状況 (小テストを含む)...70%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したりMoodle上に情報を掲載したりするので、その指示に従うこと。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

キーワード /Keywords

英語II (国 1-B、英 1-B) 【昼】

担当者名 /Instructor 相原 信彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1-B、英 1-B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込む場合があります。

教科書 /Textbooks

Surprising Japan! 2 (松柏社) 1850円 (税別)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方の説明と諸注意
- 第2回 高級牛肉
- 第3回 ランドセル
- 第4回 七味
- 第5回 Tマーク
- 第6回 ハラン
- 第7回 5時のチャイム
- 第8回 指差呼称
- 第9回 海苔
- 第10回 マスク
- 第11回 賞味期限
- 第12回 血液型占い
- 第13回 蚊取り線香
- 第14回 おみそ汁のモヤモヤ
- 第15回 テトラポッド

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 30%
定期試験 70%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

第1回の授業で説明します。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC TOEFLを受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

違った視点で日本の「文化」を見つめなおすとともに、英語の特徴について再認識してください。

キーワード /Keywords

Enjoy

英語II (国 1-C、英 1-C、D) 【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1-C、英 1-C、D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。

また、授業の一部にTOEIC (R)L&Rテストの演習などを取り込む場合があります。

The purpose of this course is to enhance students' communicative ability and skills.
The class is conducted both in English and Japanese.

Students are required to look up a dictionary before the class for any words or phrases in the textbook that they do not know or have forgotten.
They are also expected to work on exercises in the textbook before the class.

Active participation in the class is expected.

この授業の目的は、総合的な教科書および補助教材を用いて受講生のコミュニケーション能力とスキルを向上させることです。
この授業は英語および日本語で行われます。

受講生は教科書で分からない、あるいは忘れてしまった語句の意味は授業前に必ず調べておいて下さい。また、教科書の練習問題も授業前に必ず取り組んでおいて下さい。

授業への積極的な参加を期待します。

教科書 /Textbooks

Gordenker, A. et al. 2017. Surprising Japan! 2 / 『ニッポンの不思議2』. Tokyo: Shohakusha. ¥ 1,998

Supplementary materials (to be distributed in the class)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Will be introduced in the class. 授業中に適宜紹介。

英語II (国 1-C、英 1-C、D) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction Unit 1
2. Units 1 and 2
3. Units 2
4. Unit 3
5. Unit 4
6. Unit 5
7. Unit 6
8. Unit 7
9. Unit 8
10. Unit 9
11. Unit 10
12. Unit 11
13. Unit 12
14. Unit 13
15. Unit 14

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation in the class 授業への参加度 20%

Final examination 期末試験 80%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Before the class:

1. Look up a dictionary for any words or phrases in the textbook and supplementary material that you do not know or have forgotten.
教科書・補助教材で分からない、あるいは忘れてしまった語句の意味を調べておく。
2. Work on exercises in the textbook.
教科書・補助教材の練習問題に取り組んでおく。

After the class:

1. Review the reading material and grasp the content, vocabulary and grammar.
教科書・補助教材を復習し、内容、語彙、文法を把握する。
2. Review the exercises, focusing on the questions that you did not get right.
練習問題を復習し、特に間違えた問題を再確認する。

履修上の注意 /Remarks

No chatting allowed. 私語をしない。

No activities unrelated to the class allowed. 授業に関係ないことをしない。

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅲ (英 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー 数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅲ (英 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor: ホロウエイ グレゴリー キース / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 英 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅲ (英 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー 数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語III (英 1 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

Communicative English III aims to improve students' reading and writing ability in English for academic purposes. Students are expected to actively participate in all class activities and are responsible for a short research paper as well as for taking a midterm and final exam. During the course we will ask students to learn academic vocabulary in order to prepare for academic work in English during their course of study at this university.

教科書 /Textbooks

Pathways: Reading, Writing and Critical Thinking 3A: Split 3A Second Edition with Online Workbook Access Code (Cengage Learning) ISBN 978-1-337-62492-3 Becky, Mari Vargo, Laurie Blass et, al

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

We will give students access to a Quizlet account and provide study cards from which they should study 50 vocabulary words per week, which will include 45 words from Gardner and Davies' Academic Vocabulary List (AVL) with their English/Japanese translations, and 5 phrasal verbs (such as 'give up' or 'go away').

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.Introduction Class: Course outline and introductions.
- 2.Textbook Lessons 1A. "Social Relationships"
- 3.Textbook Lessons 1B. "Social Relationships"
- 4.Textbook Lessons 2A. "Science and Investigation"
- 5.Textbook Lessons 2B. "Science and Investigation"
- 6.Textbook Lessons 3A. "City Solutions"
- 7.Textbook Lessons 3B. "City Solutions"
8. Midterm Exam
- 9.Textbook Lessons 4A. "Danger Zones"
- 10.Textbook Lessons 4B. "Danger Zones"
- 11.Textbook Lessons 5A. "The Travel Business"
- 12.Textbook Lessons 5B. "The Travel Business"
- 13.Presentations about Paper Topics Group A
- 14.Presentations about Paper Topics Group B
- 15.Presentations about Paper Topics Group C

成績評価の方法 /Assessment Method

TOEIC Score (40%) + ※Class Activity (60%)
 ※As to the evaluation of class activity, refer to the following description.
 Paper/Presentation : (40%) Exams : (40%) Homework Activities : (10%) Quizzes : (10%)

英語III (英 1-D) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should prepare for each lesson in advance by reading the assigned text beforehand. Students should work on weekly writing assignments for submission. Students should access the Quizlet application to review vocabulary weekly.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

成績評価の方法 /Assessment Method

15% Journal
20% Powerpoint Presentation
30% Final mini-test
15% Project work
20% Class participation

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please bring a lined notebook size A4 or B5 for your weekly journal.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck and I look forward to meeting all of you

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (国 1-B、英 1-B) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1-B、英 1-B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅳ	ENG112F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

Content and Language Integrated Learning: this course will present materials on various contemporary issues for discussion in class. The main focus will be on developing critical thinking skills and academic presentation in English. Students will learn and practice; oral discussion and academic presentation in class, and academic writing through homework assignments

教科書 /Textbooks

Pathways 2B - Listening, Speaking and Critical Thinking (National Geographic Learning)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Electronic Dictionary and Internet use

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：Orientation
- 第2回：Health & Nutrition 1
- 第3回：Health & Nutrition 2
- 第4回：Presentation 1
- 第5回：Earth Science 1
- 第6回：Earth Science 2
- 第7回：Presentation 2
- 第8回：Anthropology 1
- 第9回：Anthropology 2
- 第10回：Presentation 3
- 第11回：Life Science 1
- 第12回：Life Science 2
- 第13回：Presentation 4
- 第14回：Innovation 1
- 第15回：Innovation 2

成績評価の方法 /Assessment Method

Final grades will combine class participation and homework assignments

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

As instructed by teacher

履修上の注意 /Remarks

Check the Moodle site for this course

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's have fun learning English together

キーワード /Keywords

Content-based language learning

英語Ⅳ (国 1-C、英 1-C、D) 【昼】

担当者名 /Instructor デビッド・ アダム・ ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1-C、英 1-C、D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅳ	ENG112F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

None. The instructor will design and distribute all materials.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 Student Presentations - Summer Holidays
- 2 China, Beyond the Lost Horizon
- 3 Egypt, Damming the Nile
- 4 Africa, The Curse of Gold
- 5 USA, Trump's New America
- 6 Libya, The Gaddafi Years
- 7 Kenya, School of Olympic Dreams
- 8 Philippines, Living with Slums
- 9 Indonesia, Rainforest Warriors
- 1 0 Asia, The Spratly Islands
- 1 1 Japan, Sayonara Baby
- 1 2 New Zealand, Adrenalin Nation
- 1 3 Australia's Hidden Valley
- 1 4 European Union, Joining the Club
- 1 5 Student Presentations – Travel Plans

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み = 50% プレゼンテーション = 30% 学期末試験 = 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please review all content after the class.

英語IV (国 1-C、英 1-C、D) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

Discussing hot topics.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck this year. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

キーワード /Keywords

Politics; international relations; social studies; development; environment; presentation skills

政治; 国際関係; 社会科; 開発; 環境; プレゼンテーション能力

英語V (英 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 真一郎 / Shinichiro Terada / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year
 単位 /Credits 1単位 / 1 Credit
 学期 /Semester 1学期 / 1 Semester
 授業形態 /Class Format 講義 / Lecture
 クラス /Class 英 2 - A / Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー 数量的スキル		
	英語力 ●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	自己管理能力		
関心・意欲・態度	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力 ●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
		英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

米国のプレゼンテーション素材 (TED TALKS) を利用し、興味を持って英語のリーディングとリスニングの能力を伸ばすことを目標とします。テキスト及びTED TALKSビデオ素材をもとに、事前、事後の学習が可能です。意欲のある学生は、関連するビデオや記事等に触れることで、さらに英語及びトピックの理解を深めることが期待できます。

教科書 /Textbooks

"21st Century Reading - Creative Thinking and Reading with TED TALKS" Level 1
 National Geographic Learning / CENGAGE Learning
 ISBN 978-1-305-26459-5 (¥2,840+税)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な場合、授業の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 インTRODククション
- 第 2 回 Life Changes
- 第 3 回 Team Power
- 第 4 回 Ocean Wonders
- 第 5 回 What We Wear
- 第 6 回 Moments and Memories
- 第 7 回 Building Solutions
- 第 8 回 Roads to Fame
- 第 9 回 Face Off
- 第 10 回 Community Voices
- 第 11 回 Robots and Us
- 第 12 回 TBD
- 第 13 回 TBD
- 第 14 回 TBD
- 第 15 回 まとめ

(授業の進度により、修正する場合があります)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度 50%、課題の提出 25%、授業での発表 25%により評価します。
 また、最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：該当するリーディング素材及びビデオ素材に目を通しておくと、理解が深まります。
 事後学習：該当するビデオ (TED TALKS) をフルに視聴したり、自ら関連するビデオや資料に接することにより、さらに理解が深まります。

英語V (英 2 - A) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一緒に英語能力を伸ばしましょう。

キーワード /Keywords

Reading, Listening, Presentation, Discussion, English

英語V (英 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
		英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

グローバル化が進む社会における英語によるコミュニケーション力を総合的に高めることを目指す。合わせて、日本の文化や技術を多面的に捉えるとともに、効果的に英語で発信する方法を考える機会とする。NHKの番組『Cool Japan』を題材にした教材を使用する。

教科書 /Textbooks

『発掘！ かわいいニッポン』津田晶子他著、成美堂、2019年。[2,500円+税]

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション (テキスト、授業内容、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
- 第2回 Unit 1: Long-Established Businesses
- 第3回 Unit 2: Uniforms
- 第4回 Unit 3: Volunteer Work
- 第5回 Unit 4: High-Tech Living (Automobiles)
- 第6回 Unit 5: Japanese Tableware
- 第7回 Unit 6: Homemakers of Japan
- 第8回 Unit 7: Seafood
- 第9回 Unit 8: Voice Actors
- 第10回 Unit 9: Japanized Foreign Dishes
- 第11回 Unit 10: Bags
- 第12回 Unit 11: Senior Citizens (Medical Checkups)
- 第13回 Unit 12: Money
- 第14回 Unit 13: Monkeys
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テスト、課題提出等) 50%、期末試験 50%
 最終評価にはTOEICスコアが反映される。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること
 また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられている。第1回の授業に必ず出席すること。

英語V (英 2 - B) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から英語による新聞や雑誌に親しんでいただきたい。

キーワード /Keywords

コミュニケーション力、批判的思考力、英語の多様性

英語V (英 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 2 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー 数量的スキル			
	英語力 ●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。		
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

講義内容は「異文化マネジメント」です。
国際経営論の学習を通じて、将来、国際的なビジネスに携わりたいと希望する学生諸君に関連英文資料を輪読することで、必要な異文化マネジメントに関する基礎知識を提供し、ビジネスに関連する単語を習得してもらおう。
英語を学ぶ理由は個人々異なると思うが、この講義では「企業と英語」というテーマから実用的な英語について考えてもらう。その為にグローバルの是非についても論じる。あくまで英語はビジネス遂行の為にツールであることに注目する。講義では適宜テーマに沿って英文テキストやケース（英文の事例研究）を輪読し、国際経営の専門用語を含んだ英語で討論できる実力を養成します。そのために、英文を日本語に訳す力養成、英文法の再確認、専門用語を含んだリスニング訓練（英日、日英）を行います。ビジネスに関する専門的知識の獲得、英語プレゼンテーション技法、論理的思考能力、日本語力、コミュニケーション能力を高めることを目標とします。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しませんが、複数のテキストより引用します。詳しくは開講時に指示します。
ケース配布資料

1. 多様な従業員から構成されるグローバル企業におけるマネジメント
2. 欧米型企業が中国へ初めて進出する際のマネジメント
3. 日本企業がアメリカ企業を併合した場合のマネジメント

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Edward T. Hall. "Hidden Differences" Anchor Books.
八代京子他. "異文化コミュニケーションワークブック". 三修社
Mary Munter. "Guide to Managerial communication". Prentice Hall.
ゴチャール. 「地球市場時代の企業戦略」 日本経済新聞社

英語V (英 2 - C) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1 回	グローバル化の本質	日本企業、海外企業動向
第 2 回	-上記テーマについてケース討論	国際ビジネス外観
第 3 回	企業と英語	国際語としての英語
第 4 回	-上記テーマについての英文輪読	グローバルビジュアル
第 5 回	異文化理解 (1)	コミュニケーションの目的
第 6 回	異文化理解 (2)	コミュニケーションのスタイルと信頼性の評価と強化
第 7 回	異文化理解 (3)	聞き手の選択と動機付け
第 8 回	異文化理解 (4)	メッセージ戦略の立案
第 9 回	異文化理解 (5)	言語障壁の克服、適切な非言語行動
第 10 回	中間試験	内容理解確認テスト
第 11 回	カントリープレゼン	異国で働く場合の留意点
第 12 回	国際買収、合併ケース輪読	課題討論
第 13 回	-上記についてのプレゼン	
第 14 回	中国でのビジネスケース輪読	課題討論
第 15 回	-上記についてのプレゼン	

成績評価の方法 /Assessment Method

プロジェクトへの参加、貢献度 (20%)、中間試験 (40%)、プレゼンテーション (40%)

「基盤教育センターの科目であり、最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。」

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義内容は全て学習支援システムmoodleに配置しますので予習、復習にご活用ください。特に講義内容の要旨を事前に掲載しますのでクラスに参加する前に一読するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

授業はパワーポイントのスライドを用いた講義形式をとります。講義中に適宜質問や意見等を求めます。事例研究やディスカッションも頻繁に行います。

学生には、「ビジネス英語/国際経営論基礎」「ビジネス英語研究/国際経営論応用」を併せて履修するを強く勧めます。これら3科目を総合して履修することで国際ビジネスに関わる概念や用語に精通することになることが期待できます。

授業時間には英文テキストを輪読することもあります。報告者が担当箇所の訳文や要約をつくり、その訳文の意味がただしいかをゼミ全員で確認しながら、英文を理解します。国際語としての英語力も磨くよう指導します。

「基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。」

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私自身企業出身者 (大手総合商社) ですので、現実的で時事的な話題を各テーマに沿って講義にできるだけ盛り込むように努めております。

キーワード /Keywords

boundary spanner, high power distance, uncertainty avoidance, high/low context culture, individualism/collectivism, internal/external control, foreign direct investment (FDI), State capitalism,

英語V (英 2 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 2 - D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
			英語V
			ENG201F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込む場合があります。

教科書 /Textbooks

『Solve the Mystery 3 and Improve Your English Skills 3; : ミステリーを読んで英語のスキルアップ3』吉村俊子、時岡ゆかり他編著 英宝社 2200円 + 税 ISBN: 978-4-269-02151-8

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 4』国際コミュニケーション協会
- 『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 3』国際コミュニケーション協会
- 『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 2』国際コミュニケーション協会
- 『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 1』国際コミュニケーション協会
- 『TOEICテスト新公式問題集 vol. 6』国際コミュニケーション協会
- 『TOEICテスト新公式問題集 vol. 5』国際コミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス・授業の進め方、TOEIC Listening 習熟度確認
- 2回 Unit 1 The Case of the Hitchhiker (予習60分、復習60分)
- 3回 Unit 2 The Case of the Looklut (予習60分、復習60分)
- 4回 Unit 3 The Case of the Spilledd Brandy (予習60分、復習60分)
- 5回 Unit 4 The Cadse of the Locked Wine Cellar (予習60分、復習60分)
- 6回 Unit 5 The Case of the Silk Mantle (予習60分、復習60分)
- 7回 Unit 6 The Case of the Home Bakery (予習60分、復習60分)
- 8回 復習 TOEIC 習熟度確認 (予習60分、復習60分)
- 9回 Unit 7 The Case of the Cave Paintings (予習60分、復習60分)
- 10回 Unit 8 The Case of Lakeside Murder (予習60分、復習60分)
- 11回 Unit 9 The Case of the Hero Dog (予習60分、復習60分)
- 12回 Unit 10 The Case of the Million-to-One Shot (予習60分、復習60分)
- 13回 Unit 11 The Case of the Missing Button (予習60分、復習60分)
- 14回 Unit 12 The Case of the Gold Brick (予習60分、復習60分)
- 15回 復習 (復習60分)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 40%、習熟テスト 20%、小テスト 20%、単語テスト 10%、授業への参加度 10%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

英語V (英 2 - D) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習... (予習) 課題は必ず事前に学習して授業に臨んでください。
事後学習... (復習) 授業で指定された箇所を必ず学習してください。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL)を受験することが義務付けられています。第1回授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (英 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 2 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー 数量的スキル		
	英語力 ●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力 ●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
		英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込む場合があります。

教科書 /Textbooks

“Challenges of Global Enterprises” (著者) 塩見佳代子他共著 金星堂 12,268
ISBN978-4-7647-4082-2
単語等はプリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、語彙演習
- 2回 1 Zara's Recipe for Success: More Data, Fewer Bosses、小テスト : Day 1
- 3回 2 Airbnb's Challenge and New Direction、小テスト : Day 2
- 4回 3 Augmented Reality Ecosystem in Facebook、小テスト : Day 3
- 5回 4 Adidas Brings the Fast Shoe Revolution One、小テスト : Day 4
- 6回 5 At Toyota, the Automation Is Humane-Powered、小テスト : Day 5
- 7回 6 How Starbucks Became a Successful Worldwide Brand、小テスト : Day 6
- 8回 TOEIC練習問題、小テスト : Day 7
- 9回 TOEIC練習問題、小テスト : Day 8
- 10回 7 McDonald's Modern Marketing Methods、小テスト : Day 9
- 11回 8 How TED Evolves and Where It Wants to Go Next、小テスト : Day 10
- 12回 9 Why Amazon Is the World's Most Innovative Company、まとめ小テスト : Day1~10
- 13回 10 Sony Comes Back from the Brink
- 14回 11 IKEA's New Business Move for Millennials
- 15回 12 How Google Has Changed the World、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。期末試験 : 80%、日常の授業への取り組み (小テスト、宿題) : 20%

英語VI (英 2 - A) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回授業のreadingは必ず読んでおくこと。また、配布したプリントを覚えてくること。(学習時間の目安は、60分)

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (英 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 英 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込む場合があります。

教科書 /Textbooks

Educational Testing Service、公式TOEIC Listening & Reading 問題集 4、国際ビジネスコミュニケーション協会、3,024円、ISBN: 9784906033546

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TEX加藤、TOEIC L & R TEST 出る単特急銀のフレーズ、朝日新聞出版、961円、ISBN:9784023316843
小石裕子、TOEIC TEST 英単語出るとこだけ！、株式会社アルク、1,944円、ISBN: 9784757428430
TEX加藤、TOEIC L & R TEST 出る単特急金のフレーズ、朝日新聞出版、961円、ISBN: 9784023315686

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Course Introduction
Week 2: Part 1, Part 2 (1)
Week 3: Part 2 (2)
Week 4: Part 5 (1)
Week 5: Part 5 (2)
Week 6: Part 6
Week 7: Part 7 (1)
Week 8: Part 7 (2)
Week 9: Part 3 (1)
Week 10: Part 3 (2)
Week 11: Part 4 (1)
Week 12: Part 4 (2)
Week 13: Part 4 (3)
Week 14: Listening Section Review
Week 15: Reading Section Review

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み (50%) 及び期末試験 (50%) に基づいて行う。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業計画欄の各回の授業内容に記載されている教科書の該当ページを、授業前に必ず解答し、学習してくる。この予習を行うことを前提として授業を進めることを了解した上で、授業に臨むこと。教科書の音声は無料でダウンロードすることができますので、必ず予習・復習に活用してください。予習・復習の際、教科書に出てきた知らない単語・フレーズは、日本語の意味を辞書で調べて、単語・フレーズ・日本語の意味を語彙ノートに書き溜めていくこと。各授業の最初に語彙ノートを見せてもらいます。空き時間に語彙ノートを使って学習ができます。語彙テストに際しては、計画的に学習すること。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

必ず辞書を授業に持参すること。発音を確認するため電子辞書が望ましい。携帯電話を辞書として使用することはできません。

理由なく4回欠席した場合は、単位は取れません。正当な欠席の理由がある場合は、理由を証明する文書 (病院の領収書など) を見せてください。遅刻3回で、欠席1回の扱いとします。30分以上遅刻した場合は、欠席とみなします。公共交通機関が遅れて遅刻した場合は、必ず遅延証明書を貰ってきて見せてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (英 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 2 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

ビジネスコミュニケーションに焦点をあてて、英語によるコミュニケーション力を総合的に伸長することを目指す。ビジネスで実際に遭遇することが多い場面を選んで編纂された教材を使用する。

教科書 /Textbooks

Go Global: English for Global Business
Garry Pearson, Graham Skerritt, Hiroshi Yoshizuka 著, 成美堂, 2019年. [2,400円+税]

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション, Unit 1: Introducing Yourself
- 第2回 Unit 2: Introducing Companies
- 第3回 Unit 3: Explaining Your Role
- 第4回 Unit 4: Introducing Products
- 第5回 Unit 5: Checking Information
- 第6回 Unit 6: Giving Your Opinion
- 第7回 Unit 7: Making Requests
- 第8回 Unit 8: Asking Permission
- 第9回 Unit 9: Making Invitations
- 第10回 Unit 10: Making Appointments
- 第11回 Unit 11: Cancelling and Rescheduling
- 第12回 Unit 12: Describing Locations
- 第13回 Unit 13: Looking after a Visitor
- 第14回 Unit 14: Making a Phone Call
- 第15回 Unit 15: Taking Messages

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テスト、課題提出等） 50%、 期末試験 50%
最終評価にはTOEICスコアが反映される。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること
また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられている。第1回の授業に必ず出席すること。

英語VI (英 2 - C) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から英語による新聞や雑誌に親しんでいただきたい。

キーワード /Keywords

ビジネスコミュニケーション

英語VI (英 2 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 廣田 恵美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー 数量的スキル			
	英語力 ●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。		
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

この授業ではTOEICに基づくテキストを使用しますが、単に問題を解くだけに留まらず、その中から日常会話やビジネス会話などでよく使われる語句や言い回しを拾い出して用法を覚えたり、文法項目の再確認を行うなどして、自分自身の英語力の全般的upにつながっていくような内容を提供したいと思います。また、TOEICを受験する際に身に付けておくべき知識なども紹介していきます。なお、原則として、1つのunitを1.5回の授業ペースで進めていく予定です。

教科書 /Textbooks

朝日出版社 「STEP-UP SKILLS FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST : Level 3」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 授業および成績評価等に関する説明、Unit 1 Eating Out
- 第 2 回 Unit 1の続き 時制の考え方、Unit 2 Travel
- 第 3 回 Unit 2の続き 動詞の選択
- 第 4 回 Unit 4 Meeting
- 第 5 回 Unit 4の続き 分詞の使い方、Unit 5 Personnel
- 第 6 回 Unit 5の続き 不定詞と動名詞の使い分け
- 第 7 回 Unit 7 Advertisement
- 第 8 回 Unit 7の続き 仮定法の用法、Unit 9 Office Work
- 第 9 回 Unit 9の続き 長いpassageの読み解き方
- 第 10 回 Unit 10 Business
- 第 11 回 Unit 10の続き 数量詞の扱い、Unit 11 Traffic
- 第 12 回 Unit 11の続き 接続詞の使い分け
- 第 13 回 Unit 12 Finance and Banking
- 第 14 回 Unit 12の続き 前置詞の用法、Unit 13 Media
- 第 15 回 Unit 13の続き メディア用語、今学期のまとめ

なお、受講者の学力等に応じて、予定内容を適宜変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 80%、日常の授業への取り組み(小テスト等含む) 20%
最終評価には、TOEICスコアが反映されます。詳しくは第 1 回の授業で文書を配布して説明します。

英語VI (英 2 - D) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の学習予定箇所の語句等を必ず確認しておいてください。また、板書にて説明した内容をきちんと復習し、自分が間違った問題を再び解き直すなどして、自身の英語力upにつながるよう、努力してください。

履修上の注意 /Remarks

必ず辞書(紙または電子)を持参すること。スマートフォンの辞書アプリの使用は認められません。また、基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分自身の「my goal score」を設定し、スケジュールを考えて自己学習を進めて行ってください。

キーワード /Keywords

英語VII (英 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year 単位 /Credits 1単位 / 1 Credit 学期 /Semester 1学期 / 1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 / Class クラス 英 2 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG202F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

Content and Language Integrated Learning: this course will present materials on various contemporary issues for discussion in class. The main focus will be on developing critical thinking skills and academic presentation in English. Students will learn and practice; oral discussion and academic presentation in class, and academic writing through homework assignments

教科書 /Textbooks

Pathways 3A - Listening, Speaking and Critical Thinking (National Geographic Learning)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Electronic Dictionary and Internet use

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：Orientation
- 第2回：Science of Shopping 1
- 第3回：Science of Shopping 2
- 第4回：Presentation 1
- 第5回：Mother Nature 1
- 第6回：Mother Nature 2
- 第7回：Presentation 2
- 第8回：Migration 1
- 第9回：Migration 2
- 第10回：Presentation 3
- 第11回：Earth Science 1
- 第12回：Earth Science 2
- 第13回：Presentation 4
- 第14回：Cooperative Business 1
- 第15回：Cooperative Business 2

成績評価の方法 /Assessment Method

Final grades will combine class participation and homework assignments

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

As instructed by teacher

履修上の注意 /Remarks

Check the Moodle site for this course

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's have fun learning English together

キーワード /Keywords

Content-based language learning

英語VII (英 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 2 - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG202F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

教科書 /Textbooks

Becky Tarver Chase and Christien Lee / Pathways 3A Second Edition
National Geographic Learning / ISBN: 978-1-337-56259-1 / 2,970 yen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable. Extra materials, which have been written by the lecturer, will also be provided.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Course Introduction: Meeting People
Week 2: Unit 2: Mother Nature – Cycle of Life
Week 3: Speaking Skills: Cloning an animal from an adult cell
Week 4: Listening and Video Activities – Turtles Under Threat
Week 5: Group Discussion
Week 6: Presentation Preparation
Week 7: Presentation
Week 8: Unit 3: On the Move – Human Migration
Week 9: Speaking Skills: A Lecture About Migration
Week 10: Listening and Video Activities – What Ellis Island Means Today
Week 11: Group Discussion
Week 12: Presentation Preparation
Week 13: Presentation
Week 14: Unit 5: Making a Living, Making a Difference
Week 15: Speaking Skills: Summarizing

成績評価の方法 /Assessment Method

Speaking and Quizzes: 60 percent / Final Examination 40 percent

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your lecturer.

履修上の注意 /Remarks

No credit will be given to students who are absent four or more times. If a student is late for class thirty minutes, that will equal one absence. Therefore, the student who was absent must provide a document to the lecturer as to why said student will be or was late or absent.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII (英 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 2 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG202F

授業の概要 /Course Description

This course uses high interest themes to integrate speaking, grammar, vocabulary, pronunciation, listening, reading and writing. There is a strong focus on both accuracy and fluency. the underlying philosophy of the course remains that language is best learned when it is used for meaningful communication.

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

教科書 /Textbooks

Smart Choice 3rd edition 3A Wilson and Healy; OUP

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

-Please use a dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Course introduction, schedule, course requirements for the students, guidance for attendance, being late, absent, and end-of-term exam. Students will do a short self-introduction in pairs.

Week 2: Unit 1: Hobbies. 'I've been running'. Homework set.

Week 3: Check homework. Speaking task p9. Personal profiles p84,96. At the back of the book p1-5

Week 4: Unit 2: Entertainment programs. 'I wonder what it's about'. Homework set.

Week 5: Check homework. Speaking task p15. What's on Channel 2? P85, 97. At the back of the book p6-10.

Week 6: Unit 3: Art Styles. 'It was painted by Banksy'. Homework set.

Week 7: Check homework. Speaking task p21. Amazing art facts, p86, 98. At the back of the book, p11-15.

Week 8: Review of units 1-3. (p16-19) Extra speaking tasks given. At the back of the book, p16-19.

Week 9: Unit 4: Personality adjectives. 'Who's your best friend?' Homework set.

Week 10: Check homework. Speaking task p29. She's the one...p87, 99. At the back of the book, p20-24.

Week 11: Unit 5: Technology. 'Got to have it!' Homework set.

Week 12: Check homework. Speaking task p35. Product comparison p88,100. At the back of the book, p25-29.

Week 13: Unit 6: Adjectives and adverbs. 'He'd never been abroad'. Homework set.

Week 14: Check homework. Speaking task p41. Before they were 20, p89, 101. At the back of the book, p30-34.

Week 15: Review

成績評価の方法 /Assessment Method

50% exam and 20% peer journal and participation 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are expected to write a weekly peer journal about what they have done over the last week and in the class exchange it with their partner.

英語VII (英 2 - C) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

成績評価の方法 /Assessment Method

15% Journal
15% Project work
20% Powerpoint Presentation
20% Class participation
30% Final mini-test

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please bring a lined notebook for your weekly journal. It should be A4 or B5 size

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck and I look forward to meeting all of you

キーワード /Keywords

英語VIII (英 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 2 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

教科書 /Textbooks

Becky Tarver Chase and Christien Lee / Pathways 3B Second Edition
National Geographic Learning / ISBN: 978-1-337-56260-7 / 2,970 yen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable. Extra materials, which have been written by the lecturer, will also be provided.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Course Introduction: Meeting People
Week 2: Unit 7: Inspired to Protect
Week 3: Speaking Skills: Considering Other Views
Week 4: Listening and Video Activities
Week 5: Group Discussion
Week 6: Presentation Preparation
Week 7: Presentation
Week 8: Unit 9: Uncovering the Past
Week 9: Speaking Skills: Evaluating and Reflecting
Week 10: Listening and Video Activities
Week 11: Group Discussion
Week 12: Presentation Preparation
Week 13: Presentation
Week 14: Unit 10: Emotions and Personality
Week 15: Speaking Skills: Summarizing

成績評価の方法 /Assessment Method

Speaking and Quizzes: 60 percent / Final Examination 40 percent.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your lecturer.

履修上の注意 /Remarks

No credit will be given to students who are absent four or more times. If a student is late for class thirty minutes, that will equal one absence. Therefore, the student who was absent must provide a document to the lecturer as to why said student will be or was late or absent.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII (英 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 2 - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
思考・判断・表現	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
関心・意欲・態度	課題発見・分析・解決力		
	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

Students have the opportunity to develop the four skills of listening, writing, reading and communicating all in one class. Each class is highly focused and goal orientated. Students will be able to focus on the final activity, by presenting and practising the language required. Then inviting the student to perform in an activity at the end of the class. The students will also have the opportunity to express themselves through a peer journal with a partner out of class.

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

教科書 /Textbooks

Smart Choice 3rd edition 3B Wilson and Reily; OUP

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A good English and Japanese dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Course introduction, schedule, course requirements for the students, guidance for attendance, being late, absent, and end-of-term exam. Students will do a short self-introduction in pairs.

Week 2: Unit 7: Physical appearance. 'Time for a new look!' Homework set.

Week 3: Check homework. Speaking task p49. Before and after p90,102. At the back of the book, p39-43.

Week 4: Unit 8. Problems and concerns. 'My life would be great!' Homework set.

Week 5: Check homework. Speaking task p55. What would he do? P91,103. At the back of the book, p44-48.

Week 6: Unit 9. Behavior and emotion adjectives. 'What would you have done?' Homework set.

Week 7: Check homework. Speaking task p61. My biggest regret, p92, 104. At the back of the book, p49-53.

Week 8: Review of units 7-9. (p62-63). At the back of the book, p54-57.

Week 9: Unit 10. Mysterious phenomena. 'Anything's possible'. Homework set.

Week 10: Check homework. Speaking task p69. Mysterious places p93, 105. At the back of the book, p58-62.

Week 11: Unit 11. Discoveries and inventions. 'What would have happened?' Homework set.

Week 12: Check homework. Speaking task p75. Who invented it? P94, 106. At the back of the book, 63-67.

Week 13: Unit 12. The news. 'He said he was a movie star!' Homework set.

Week 14: Check homework. Speaking task p81. What did she say? P95, 107. At the back of the book, 68-72.

Week 15: Review

成績評価の方法 /Assessment Method

50% exam 20% peer journal and 30% participation

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

In preparation for each lesson, students should review the last lesson and preview the next lesson topic. Following each lesson you need to do any homework that has been given and review what you learned in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

成績評価の方法 /Assessment Method

15% Journal
20% Powerpoint Presentation
30% Final mini-test
15% Project work
20% Class participation

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please bring a lined notebook size A4 or B5 for your weekly journal.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck and I look forward to meeting all of you

キーワード /Keywords

英語VIII (英 2 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 2 - D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

Students will explore topics related to contemporary social issues through a variety of listening and speaking activities. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at an intermediate level of English. All students will complete assignments to improve vocabulary skills. Students will also improve their listening, discussion, and critical thinking skills.

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

教科書 /Textbooks

Pathways 3B: Listening, Speaking, and Critical Thinking, (2nd ed.), Chase & Lee, National Geographic Learning, ISBN-13: 978-1-337-56260-7

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus and Introductions
- 2回 Topic 1 – Explore, Listening & Discussion
- 3回 Topic 1 – Video, Listening & Critical Thinking
- 4回 Topic 2 – Explore, Listening & Discussion
- 5回 Topic 2 – Video, Listening & Critical Thinking
- 6回 Environmental Problem Presentation Preparation
- 7回 Environmental Problem Presentations
- 8回 Topic 3 – Explore, Listening & Discussion
- 9回 Topic 3 – Video, Listening & Critical Thinking
- 10回 Topic 4 – Explore, Listening & Discussion
- 11回 Topic 4 – Video, Listening & Critical Thinking
- 12回 Topic 5 – Explore, Listening & Discussion
- 13回 Topic 5 – Video, Listening & Critical Thinking
- 14回 Personality and Emotions Research Preparation
- 15回 Personality and Emotions Research Presentations and Test Preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks 25%, Participation 25%, Homework 10%, Presentations 20%, Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will complete assignments to build vocabulary. Some research will be required both inside and outside of class. Students will make two presentations in class either as an individual or in groups. Regular review of all class materials is highly encouraged in preparation for the final exam. Weekly preparation and review should take from 20 to 25 minutes.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅸ (英中国比人 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年次
単位 /Credits 1単位 1単位
学期 /Semester 1学期 1学期
授業形態 /Class Format 講義 講義
クラス /Class 英中国比人 3年 英中国比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅸ	ENG301F

授業の概要 /Course Description

英語の読解力の向上だけでなく、教科書で扱われているトピックに対する理解を深めることを目標とする。毎回、教科書の中からUnitを二つ選び、それぞれの担当者に、内容をレポートしてもらいながら授業を進めていく。他の受講者は、十分に予習をし、積極的にディスカッションに参加することが求められる。また、授業で扱ったテーマに関して、受講生にプレゼンテーションをしてもらう。

教科書 /Textbooks

最新科学の知見 Science Updates 成美堂 978-4-7919-4783-6 2052円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教科書のUnit 二つ分
- 3回 教科書のUnit 二つ分
- 4回 教科書のUnit 二つ分
- 5回 教科書のUnit 二つ分
- 6回 教科書のUnit 二つ分
- 7回 教科書のUnit 二つ分
- 8回 教科書のUnit 二つ分
- 9回 教科書のUnit 二つ分
- 10回 教科書のUnit 二つ分
- 11回 教科書のUnit 二つ分
- 12回 教科書のUnit 二つ分
- 13回 教科書のUnit 二つ分
- 14回 プレゼンテーション
- 15回 プレゼンテーション

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...15% 教科書の課題...30% レポート...40% プレゼンテーション...15%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：指定された範囲の予習
事後学習：授業で扱った内容の復習

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語X (英中国比人 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語X	ENG311F

授業の概要 /Course Description

言語に関するエッセイを読みながら、英語の読解力の向上だけでなく、言語そのものに対する理解を深めることを目標とする。毎回、一人ないし、二人の担当者が教科書の内容をレポートしながら授業を進めていく。他の受講者は、十分に予習をし、積極的にディスカッションに参加することが求められる。また、授業で扱ったテーマに関して、受講生にプレゼンテーションをしてもらう予定である。

教科書 /Textbooks

クリスタルのことばの世界 成美堂 978-4-7919-3096-8

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1
- 3回 Chapter 2
- 4回 Chapter 3
- 5回 Chapter 4
- 6回 Chapter 5
- 7回 Chapter 6
- 8回 Chapter 7
- 9回 Chapter 8
- 10回 Chapter 9
- 11回 Chapter 10
- 12回 Chapter 11
- 13回 Chapter 12
- 14回 プレゼンテーション
- 15回 プレゼンテーション

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...15% 教科書の課題...30% レポート...40% プレゼンテーション...15%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：指定された範囲の予習
事後学習：授業で扱った内容の復習

履修上の注意 /Remarks

英語X (英中国比人 3 年) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

成績評価の方法 /Assessment Method

15% Journal
20% Powerpoint Presentation
30% Final mini-test
15% Project work
20% Class participation

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please bring a lined notebook size A4 or B5 for your weekly journal.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck and I look forward to meeting all of you

キーワード /Keywords

英語XII (英中国比人 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅱ	ENG312F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

Active learning式の英語プレゼンクラスです。英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、英語会話コミュニケーション能力とピアレビュー能力、更に作文能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing
- 第2回 Love-Introductions
- 第3回 Love-Building Skills (Group work)
- 第4回 Love-Essay Composition (Group work)
- 第5回 Presentations and Peer Assessment
- 第6回 Upgraded Presentations and Peer Assessment
- 第7回 Justice-Introduction
- 第8回 Justice-Building Skills (Group work)
- 第9回 Justice-Essay Composition (Group work)
- 第10回 Presentations and Peer Assessment
- 第11回 Upgraded Presentations and Peer Assessment
- 第12回 About “Active Learning”-Introduction
- 第13回 About “Active Learning” (Group work)
- 第14回 Presentations and Peer Assessment
- 第15回 Discussion and test preparations

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各25% (計3回) 試験(essay) 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Active Learning式で学ぶプレゼン作りとプレゼン発表の授業ため、授業外（教室外）でのGroup work又は一人での下準備がほぼ毎回必要です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。Group workを行いながら、お互いにアイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード /Keywords

English Presentations, Active Learning, Group Work, Peer Assessment, Solo Assessment

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英1-1・1-2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅰ	CHN101 F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
- (2)课文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【軽声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 小椋 吾郎 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英1-3・1-4
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅰ	CHN101 F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
- (2)课文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英1-1・1-2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語 II	CHN111F

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 - (2)课文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 - (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可以】など
- 2回 第九課 田中さんが病気になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回 第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回 第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回 第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってください【要】【“把”構文】など
- 8回 第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回 第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学してほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回 第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回 第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回 第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回 第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回 第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 小椋 吾郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - 3・ 1 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語 II	CHN111 F

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 - (2)课文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 - (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可以】など
- 2回 第九課 田中さんが病気になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回 第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回 第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回 第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってください【要】【“把”構文】など
- 8回 第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回 第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学してほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回 第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回 第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回 第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回 第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回 第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅲ【昼】

担当者名 陳 青鳳 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英1-1・1-2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅲ	CHN102F

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
 - (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
 - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
 - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・ 40% 暗誦・ 30% 日常の授業への取り組み・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 肖 婷婷 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - 3・ 1 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅲ	CHN102F

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
 - (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
 - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
 - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 陳 青鳳 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英1-1・1-2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅳ	CHN112F

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
 - (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
 - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
 - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物をする・義烏と横店紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 お金を両替・西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルに泊まる・成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話を掛ける・昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 興味について語る・広州紹介
- 10回 第十三課 興味、練習問題
- 11回 第十四課 見方について語る・大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 肖 婷婷 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英 1 - 3・ 1 - 4
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅳ	CHN112F

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
 - (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
 - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
 - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物をする・義烏と横店紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 お金を両替・西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルに泊まる・成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話を掛ける・昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 興味について語る・広州紹介
- 10回 第十三課 興味、練習問題
- 11回 第十四課 見方について語る・大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅴ	CHN201 F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

(1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。

(2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。

(3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 ポイント説明 日本紹介(本文)
- 2回 第二課 ポイント説明
- 3回 第二課 東京(本文)
- 4回 第三課 ポイント説明
- 5回 第三課 横浜(本文)
- 6回 第四課 ポイント説明
- 7回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 8回 第五課 ポイント説明
- 9回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 10回 第六課 ポイント説明
- 11回 第六課 京都(本文)
- 12回 第七課 ポイント説明
- 13回 第七課 奈良(本文)
- 14回 第八課 ポイント説明
- 15回 第八課 大阪(本文)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語VI	CHN211F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 ポイント説明
- 2回 第九課 宮島と下関(本文)
- 3回 第十課 ポイント説明
- 4回 第十課 九州(本文)
- 5回 第十一課 ポイント説明
- 6回 第十一課 福岡(本文)
- 7回 第十二課 ポイント説明
- 8回 第十二課 佐賀(本文)
- 9回 第十三課 ポイント説明
- 10回 第十三課 長崎(本文)
- 11回 第十四課 ポイント説明
- 12回 第十四課 四国(本文)
- 13回 第十五課 ポイント説明
- 14回 第十五課 仙台と北海道(本文)
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず予習と復習すること。

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語Ⅶ【昼】

担当者名 肖 婷婷 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英済営人律政群
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			中国語Ⅶ	CHN202 F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。

(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(会話) 練習
- 2回 第二課 東京(会話)
- 3回 第二課 練習
- 4回 第三課 横浜(会話)
- 5回 第三課 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(会話)
- 7回 第四課 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(会話)
- 9回 第五課 練習
- 10回 第六課 京都(会話)
- 11回 第六課 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(会話)
- 13回 第七課 練習
- 14回 第八課 大阪(会話)
- 15回 第八課 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 肖 婷婷 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅷ	CHN212 F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。

(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関(会話)
- 2回 第九課 練習
- 3回 第十課 九州(会話)
- 4回 第十課 練習
- 5回 第十一課 福岡(会話)
- 6回 第十一課 練習
- 7回 第十二課 佐賀(会話)
- 8回 第十二課 練習
- 9回 第十三課 長崎(会話)
- 10回 第十三課 練習
- 11回 第十四課 四国(会話)
- 12回 第十四課 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道(会話)
- 14回 第十五課 練習
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

上級中国語I 【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			上級中国語 I	CHN301 F

授業の概要 /Course Description

上級中国語Iは、中国語初・中級をひととおり終えた学習者のために、さらに一步上の段階で学ぶ講義である。
本講義は初・中級に続き、単語練習、聴解練習、短文作文、応用練習などすることによって、中国語の聴解と会話、作文力を身につけることを目標とする。
主に聴く、話す、文章の作成能力に重点を置く。
世界共通中国政府公認のビジネス中国語試験（BCI初級テスト）の内容も同時に指導する。
参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。

教科書 /Textbooks

第1回の授業で指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて参考資料を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1学期
- 第1回 授業説明、基礎復習
 - 第2回 第1課文法、聴解練習
 - 第3回 第1課読む、会話、作文練習
 - 第4回 第2課文法、聴解練習
 - 第5回 第2課読む、会話、作文練習
 - 第6回 第3課文法、聴解練習
 - 第7回 第3課読む、会話、作文練習
 - 第8回 場面の体験1
 - 第9回 第4課文法、聴解練習
 - 第10回 第4課読む、会話、作文練習
 - 第11回 第5課文法、聴解練習
 - 第12回 第5課読む、会話、作文練習
 - 第13回 第6課文法、聴解練習
 - 第14回 第6課読む、会話、作文練習
 - 第15回 場面の体験2

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み30% 発表30% 定期試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示する。

履修上の注意 /Remarks

予習および復習する必要がある。
できるだけ欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一緒に楽しく中国語を学びましょう。

就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験(BCIT初級テスト)に挑戦してほしい。

キーワード /Keywords

日常生活用語　ビジネス用語、　会話力、　翻訳力　作文力

上級中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			上級中国語II	CHN311 F

授業の概要 /Course Description

上級中国語IIは、中国語初・中級をひととおり終えた学習者のために、さらに一歩上の段階で学ぶ講義である。
本講義は初・中級に続き、単語練習、聴解練習、短文作文、応用練習などを行うことによって、中国語の聴解と会話、作文力を身につけることを目標とする。
主に翻訳、話す、文章の作成能力に重点を置く。
参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。

中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（BCT初級テスト）の内容も同時に指導する。

教科書 /Textbooks

前期の上級中国語Iと同じ教科書を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて参考資料を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第2学期
- 第1回 第7課文法、聴解練習
 - 第2回 第7課読む、会話、作文練習
 - 第3回 第8課文法、聴解練習
 - 第4回 第8課読む、会話、作文練習
 - 第5回 場面の体験1
 - 第6回 第9課文法、聴解練習
 - 第7回 第9課読む、会話、作文練習
 - 第8回 第10課文法、聴解練習
 - 第9回 第10課読む、会話、作文練習
 - 第10回 場面の体験2
 - 第11回 第11課文法、聴解練習
 - 第12回 第11課読む、会話、作文練習
 - 第13回 第12課文法、聴解練習
 - 第14回 第12課読む、会話、作文練習
 - 第15回 場面の体験3

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み30% 発表30% 定期試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示する。

履修上の注意 /Remarks

予習する必要がある。
できるだけ欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一緒に楽しく中国語を学びましょう。

就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験(BCI初級テスト)に挑戦してほしい。

キーワード /Keywords

日常生活用語 ビジネス用語、 会話力、考え力、ビジネス文章

上級中国語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			上級中国語Ⅲ	CHN302 F

授業の概要 /Course Description

授業は中国語と日本語、混合で行う。

グループワークを課し、全員がプレゼンテーションする機会を設け、話す力および聞く力の磨きを通じて、さまざまな場面における中国語会話力を向上させる。

教科書 /Textbooks

プリント配布 (『中国語口語速成 基礎編』第二版 馬箭飛 主編 李徳君、成文 編著 北京言語大学出版社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『精彩漢語 遊走中国』(日本語版) 中国・高等教育出版社
『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 第1課 「认识一下」新出単語 本文会話1 2
- 2回目 第2課 「吃点儿什么」新出単語 本文会話1 2
- 3回目 第1課、第2課会話練習
- 4回目 第3課「在校园里」新出単語 注釈 本文会話1
- 5回目 第3課「在校园里」注釈 本文会話2
- 6回目 第4課「住的麻烦」新出単語 注釈 本文会話1
- 7回目 第4課「住的麻烦」注釈 本文会話2
- 8回目 中間復習
- 9回目 第5課「做客」新出単語 注釈 本文会話1
- 10回目 第5課「做客」注釈 本文会話2
- 11回目 第6課「旅行计划」新出単語 注釈 本文会話1
- 12回目 第6課「旅行计划」注釈 本文会話2
- 13回目 第7課「生活服务」新出単語 注釈 本文会話1
- 14回目 第7課「生活服务」注釈 本文会話2
- 15回目 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

成績評価
平常点60% (授業時の応答や取り組み、予習、復習、小テストなど)
定期試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前には必ず新出単語、および本文会話にわからない単語を調べ、発音と日本語意味を覚えておくこと。
毎回学習した単元の単語・本文会話等を復習する。

履修上の注意 /Remarks

予習および復習は必ず行ってから授業に参加ください。また、授業中の学生の積極的な発言、参加を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国語のみの授業を目指しましょう。

キーワード /Keywords

中国語 コミュニケーション 会話 リスニング

上級中国語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級中国語Ⅳ	CHN312F

授業の概要 /Course Description

授業は中国語と日本語、混合で行う。

グループワークを課し、全員がプレゼンテーションする機会を設け、話す力および聞く力の磨きを通じて、さまざまな場面における中国語会話力を向上させる。

教科書 /Textbooks

プリント配布 (『中国語口語速成 基礎編』第二版 馬箭飛 主編 李徳君、成文 編著北京言語大学出版社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『精彩漢語 遊走中国』(日本語版)中国・高等教育出版社
- 『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 一回目 第11課「购物」新出単語 注釈 本文会話1
- 二回目 第11課「购物」注釈 本文会話2
- 三回目 第12課「谈论朋友」新出単語 注釈 本文会話1
- 四回目 第12課「谈论朋友」注釈 本文会話2
- 五回目 第14課「体育健身」新出単語 注釈 本文会話1
- 六回目 第14課「体育健身」注釈 本文会話2
- 七回目 中間復習
- 八回目 第15課「各有所爱」新出単語 注釈 本文会話1
- 九回目 第15課「各有所爱」注釈 本文会話2
- 十回目 第16課「理想的职业」新出単語 注釈 本文会話1
- 十一回目 第16課「理想的职业」注釈 本文会話2
- 十二回目 第17課「业余爱好」新出単語 注釈 本文会話1
- 十三回目 第17課「业余爱好」注釈 本文会話2
- 十四回目 第18課「中国家庭」新出単語 注釈 本文会話1
- 十五回目 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点60% (授業時の応答や取り組み、予習、復習、小テストなど)
定期試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前には必ず新出単語、および本文会話にわからない単語を調べ、発音と日本語意味を覚えておくこと。
毎回学習した単元の単語・本文会話等を復習する。

履修上の注意 /Remarks

予習および復習は必ず行ってから授業に参加ください。また、授業中の学生の積極的な発言、参加を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国語のみの授業を目指しましょう。

キーワード /Keywords

中国語 コミュニケーション 会話 リスニング

朝鮮語Ⅰ【昼】

担当者名 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英中1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅰ	KRN101 F

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階である1学期はハングル文字と発音を正確に習得することが重要である。したがって、この講義では一言会話とともに正確に読み書きができることを目指す。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩』（巖 基珠他、白水社、2,200円）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

辞典（必携）
『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 文字と発音【単母音】【鼻音】
- 3回 文字と発音【単母音その2】【流音】
- 4回 文字と発音【平音】【半母音】
- 5回 文字と発音【激音】【濃音】
- 6回 文字と発音【合成母音】まとめと復習
- 7回 文字と発音【パッチム】
- 8回 発音の規則【有声音化】【連音化】
- 9回 発音の規則【濃音化】【激音化】
- 10回 発音の規則【流音化】【口蓋音化】【その他】
- 11回 まとめと復習
- 12回 第11課 指定詞の丁寧形【～です】
- 13回 第12課 指定詞の丁寧な否定表現【～ではありません】
- 14回 第11課と第12課の復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題...30% 期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回の授業時に指定した課題を確実に履行する。また、学習した語彙・文法・意味を確実に理解し、暗記すること。

履修上の注意 /Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

朝鮮語Ⅲと並行して受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅱ	KRN111F

授業の概要 /Course Description

初級段階で必要な文法や基本文型、語彙を学習し、同等レベルの作文と読解ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩』（巖 基珠他、白水社、2,200円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)
『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 前期の復習
- 3回 第13課 どこで習っていますか？【かしまった丁寧形①】
- 4回 第14課 暑くありませんか？【かしまった丁寧形の否定表現】
- 5回 フリートークキング
- 6回 数詞のまとめ
- 7回 第15課 誕生日はいつですか？【指定詞の打ち解けた丁寧形】
- 8回 第16課 どこに住んでいますか？【指定詞以外の打ち解けた丁寧形】
- 9回 復習とフリートークキング
- 10回 第17課 先生いらっしゃいますか？【特殊な尊敬語】
- 11回 第18課 何をお探しですか？【打ち解けた丁寧形の尊敬表現】
- 12回 第19課 何をしましたか？【過去形】
- 13回 復習とフリートークキング
- 14回 何を召し上がりますか？【好みを言ってみよう】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題...30% 期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回の授業時に指定した課題を確実に履行する。また、学習した語彙・文法・意味を確実に理解し、暗記すること。

履修上の注意 /Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

朝鮮語Ⅳと並行して受講するほうが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅲ	KRN102F

授業の概要 /Course Description

基本となる文字と発音の訓練に力を注ぎ、正確な読み書きができることを第一の目標とする。同時に簡単なあいさつ表現や初歩的な会話表現なども学びたいと思う。

教科書 /Textbooks

金順玉 他 『最新チャレンジ！韓国語』、白水社（2017年3月）、2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【韓国語入門の予備知識】
- 2回 基本母音字とその発音【基本母音】
- 3回 基本子音字(平音)とその発音【基本子音】
- 4回 基本子音字(平音)とその発音【基本子音】
- 5回 子音(激音)字とその発音【派生子音1】
- 6回 子音(濃音)字とその発音【派生子音2】
- 7回 合成母音字とその発音【派生母音】
- 8回 終声子音字とその発音【バッチム】
- 9回 終声子音字とその発音【バッチム】
- 10回 連音化、激音化、濃音化【音の変化】
- 11回 連音化、激音化、濃音化【音の変化】
- 12回 辞典を引いてみよう【辞典の引き方】
- 13回 自己紹介【指定詞の丁寧形】【～です/ですか】
- 14回 自己紹介【指定詞の丁寧形】【～といます】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50%(小テスト・課題・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を確かめながら、どのくらい理解できたのか復習する。

履修上の注意 /Remarks

予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう！

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅳ	KRN112F

授業の概要 /Course Description

初級文法に基づいた会話表現を中心に、聞き取り・発話の練習を反復し、またペアなどを組んで応答練習を多く行う。習った表現を活用して、自分自身の身の回りのことなど、基礎レベルでの会話をなめらかに表現できるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

金順玉 他 『最新チャレンジ！韓国語』、白水社（2017年3月）、2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 時間ありますか【存在の有無】【助詞】
- 3回 時間ありますか【存在の有無】【助詞】
- 4回 それは何ですか【指示代名詞】【疑問代名詞】
- 5回 それは何ですか【指示代名詞】【疑問代名詞】
- 6回 何時ですか【固有数詞】【時間】【助数詞】
- 7回 初デートの約束【漢数詞】【年月日】【電話番号】
- 8回 初デートの約束【漢数詞】【年月日】【電話番号】
- 9回 何が好きですか【うちとけた丁寧形】【用言の否定形】【願望形】
- 10回 何が好きですか【うちとけた丁寧形】【用言の否定形】【願望形】
- 11回 週末には何をしましたか【過去形】【接続語1】
- 12回 週末には何をしましたか【過去形】【接続語1】
- 13回 スープが冷たくておいしいです【接続語2】【逆接】
- 14回 スープが冷たくておいしいです【接続語2】【逆接】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50% (小テスト・課題・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を確かめながら、どのくらい理解できたのか復習する。

履修上の注意 /Remarks

予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう！

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅴ	KRN201 F

授業の概要 /Course Description

韓国語の基礎的な文法・語彙・表現力などをさらに深め、初級文法の完成を目指す。テキストの他、応用作文の練習を多く行い、簡単な手紙、日記などの文章が書けるようになること、また同程度の読解ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

おはよう韓国語2 (崔柄珠著、朝日出版社、978-4-255-55638-3 : B5判) 2,400円 (税抜き)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 『朝鮮語I・II』の復習
- 第3回目 第1課 フランスから来ました【文法、単語】
- 第4回目 第1課 フランスから来ました【練習問題、スキット】
- 第5回目 第2課 家族は何名様ですか【文法、単語】
- 第6回目 第2課 家族は何名様ですか【練習問題、スキット】
- 第7回目 第3課 キム・ミンスさんのお宅ですよね【文法、単語】
- 第8回目 第3課 キム・ミンスさんのお宅ですよね【練習問題、スキット】
- 第9回目 【復習】
- 第10回目 第4課 野菜が多くて体にもいいです【文法、単語】
- 第11回目 第4課 野菜が多くて体にもいいです【練習問題、スキット】
- 第12回目 第5課 夏休みに何をするつもりですか【文法、単語】
- 第13回目 第5課 夏休みに何をするつもりですか【練習問題、スキット】
- 第14回目 【復習】
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・小テスト 30% 定期試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までにその日の授業内容を確認し、知らない単語などは調べること。
また、授業終了後は復習や暗記を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す。
朝鮮語Ⅶと並行して受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英中 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語VI	KRN211F

授業の概要 /Course Description

初級レベルでは学習しなかった、より高度な会話や文章の読解を目指す。1学期に引き続き、主として表現・文法の学習を中心とし、その学習を効果的に行うため、会話や読解、作文練習などに力を入れる。

教科書 /Textbooks

おはよう韓国語2 (崔柄珠著、朝日出版社、978-4-255-55638-3 : B5判) 2,400円 (税抜き)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 『朝鮮語V』の復習
- 第3回目 第6課 どのように行けばいいですか【文法、単語】
- 第4回目 第6課 どのように行けばいいですか【練習問題、スキット】
- 第5回目 第7課 写真を添付しますよ【文法、単語】
- 第6回目 第7課 写真を添付しますよ【練習問題、スキット】
- 第7回目 第8課 みんな一緒に歌を歌いましょう【文法、単語】
- 第8回目 第8課 みんな一緒に歌を歌いましょう【練習問題、スキット】
- 第9回目 【復習】
- 第10回目 第9課 どんなアルバイトをしていますか【文法、単語】
- 第11回目 第9課 どんなアルバイトをしていますか【練習問題、スキット】
- 第12回目 第10課 何にも聞いていませんが【文法、単語】
- 第13回目 第10課 何にも聞いていませんが【練習問題、スキット】
- 第14回目 【復習】
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・小テスト 30% 定期試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までにその日の授業内容を確認し、知らない単語などを調べること。
また、次回までに復習や暗記を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す。

朝鮮語VIIと並行して受講するほうが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英中2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅶ	KRN202 F

授業の概要 /Course Description

毎回、先週の出来事などを報告してもらい、自然な日常会話に慣れるよう心がける。日常生活の様々な場面で使える実用的な会話を中心に暗記や発話の練習を反復し、またペアなどを組んで応答練習を多く行う。この際は、受講者自らの表現による会話なども演じさせ、実際に自分の言葉で表現できるよう訓練していく。学習事項にこだわらず、その時期の韓国の若者の流行語なども紹介し、朝鮮語の表現をより豊かにしたい。

教科書 /Textbooks

金順玉 他 『ちょこっとチャレンジ! 韓国語 改訂版』、白水社 (2017年3月)、2,400円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 お名前なんとおっしゃいますか?【インタビューする】
- 3回 お名前なんとおっしゃいますか?【インタビューする】
- 4回 朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
- 5回 朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
- 6回 朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
- 7回 魚は焼かないでください。【決まりを言う】
- 8回 魚は焼かないでください。【決まりを言う】
- 9回 ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
- 10回 ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
- 11回 ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
- 12回 道を渡って左にずっと行ってください。【道案内をする】
- 13回 道を渡って左にずっと行ってください。【道案内をする】
- 14回 道を渡って左にずっと行ってください。【道案内をする】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50% (発表・課題・小テスト・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を確かめながら、どのくらい理解できたのか復習する。

履修上の注意 /Remarks

毎回、先週のできことを報告してもらおう。
予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう！

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅷ	KRN212 F

授業の概要 /Course Description

毎回、先週の出来事を報告してもらい、自然な会話に慣れるよう心懸ける。日常生活の様々な場面で使える実用的な会話を中心に暗記や発話の練習を反復し、またペアなどを組んで応答練習を多く行う。この際は、受講者自らの表現による会話なども演じさせ、実際に自分の言葉で表現できるよう訓練していく。学習事項にこだわらず、その時期の韓国の若者の流行語なども紹介し、朝鮮語の表現をより豊かにしたい。

教科書 /Textbooks

金順玉 他 『ちょこっとチャレンジ! 韓国語 改訂版』、白水社 (2017年3月)、2,400円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自由会話【夏休みの出来事】
- 2回 ファンの集いへ行ってみたんですけど。【感想を言う】
- 3回 ファンの集いへ行ってみたんですけど。【感想を言う】
- 4回 少し安くしてください。【買い物をする】
- 5回 少し安くしてください。【買い物をする】
- 6回 少し安くしてください。【買い物をする】
- 7回 私の気持ちですから受け取ってください。【プレゼントをする】
- 8回 私の気持ちですから受け取ってください。【プレゼントをする】
- 9回 咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
- 10回 咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
- 11回 咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
- 12回 字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
- 13回 字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
- 14回 字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50% (発表・課題・小テスト・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を確かめながら、どのくらい理解できたのか復習する。

朝鮮語VIII 【昼】

履修上の注意 /Remarks

毎回、先週のできことを報告してもらおう。
予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので、必ずノートを作ること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう！

キーワード /Keywords

上級朝鮮語I 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級朝鮮語 I	KRN301 F

授業の概要 /Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時にテーマに沿った応用作文の練習を多く行い、文章力の養成を目指す。学習事項にこだわらず、慣用句や韓国独自の表現なども紹介し、韓国語による文章力をより高めていきたい。授業中の言葉は原則として朝鮮語を使う。

教科書 /Textbooks

曹喜澈 『ウリマル』、白帝社（2006年2月）、2,600円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』（小学館）など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己紹介【講読】
- 3回 自己紹介【作文】
- 4回 私の家【講読】
- 6回 私の家【作文】
- 7回 私の学校【講読】
- 8回 私の学校【作文】
- 9回 病院と薬局【講読】
- 10回 病院と薬局【作文】
- 11回 手紙【講読】
- 12回 手紙【作文】
- 13回 趣味【講読】
- 14回 趣味【作文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50% (作文・小テスト・課題・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を確かめながら、どのくらい理解できたのが復習する。

履修上の注意 /Remarks

毎回、訳を作成してもらうので必ず辞書を持参すること。
予習の課題が多いのでノートを作ること。
テキストに出る文型や語句を覚えること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

キーワード /Keywords

上級朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級朝鮮語II	KRN311 F

授業の概要 /Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時にテーマに沿った応用作文の練習を多く行い、文章力の養成を目指す。学習事項にこだわらず、慣用句や韓国独自の表現なども紹介し、韓国語による文章力をより高めていきたい。授業中の言葉は原則として朝鮮語を使う。

教科書 /Textbooks

曹喜澈 『ウリマル』、白帝社 (2006年2月)、2,600円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』(小学館)など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 映画【講読】
- 3回 映画【作文】
- 4回 地下鉄【講読】
- 5回 地下鉄【作文】
- 6回 感想文【講読】
- 8回 感想文【作文】
- 9回 日記【講読】
- 10回 日記【作文】
- 11回 試験【講読】
- 12回 試験【作文】
- 13回 韓国と日本【講読】
- 14回 韓国と日本【作文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻、私語、無断欠席などで注意さらた場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50% (作文・小テスト・課題・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を確かめながら、どのくらい理解できたのか復習する。

履修上の注意 /Remarks

毎回、訳を作成してもらうので必ず辞書を持参すること。
予習の課題が多いのでノートを作ること。
テキストに出る文型や語句を覚えること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅲ 【昼】

担当者名 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英中国済営比人
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級朝鮮語Ⅲ	KRN302 F

授業の概要 /Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典 (必携)
『朝鮮語辞典』(小学館、8,000円)、『韓国語上級表現ノート』(前田、明石書店、1890円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 『朝鮮語V/VI』の復習
- 第3回目 学校生活【スキットを読んでみよう】
- 第4回目 学校生活【文法、練習問題】
- 第5回目 アルバイト【スキットを読んでみよう】
- 第6回目 アルバイト【文法、練習問題】
- 第7回目 私の一日【スキットを読んでみよう】
- 第8回目 私の一日【文法、練習問題】
- 第9回目 プレゼント【スキットを読んでみよう】
- 第10回目 プレゼント【文法、練習問題】
- 第11回目 風邪【スキットを読んでみよう】
- 第12回目 風邪【文法、練習問題】
- 第13回目 休日【スキットを読んでみよう】
- 第14回目 休日約束【文法、練習問題】
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までにその日の授業内容を確認し、知らない単語などを調べること。
また、授業後は学習内容の理解や暗記を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			上級朝鮮語Ⅳ	KRN312F

授業の概要 /Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)
『朝鮮語辞典』(小学館、8,000円)、『韓国語上級表現ノート』(前田、明石書店、1890円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 前期の復習
- 第3回目 夏休み【スキットを読んでみよう】
- 第4回目 夏休み【文法、練習問題】
- 第5回目 趣味【スキットを読んでみよう】
- 第6回目 趣味【文法、練習問題】
- 第7回目 大学祭【スキットを読んでみよう】
- 第8回目 大学祭【文法、練習問題】
- 第9回目 仕事【スキットを読んでみよう】
- 第10回目 仕事【文法、練習問題】
- 第11回目 日記【スキットを読んでみよう】
- 第12回目 日記【文法、練習問題】
- 第13回目 外国語の勉強【スキットを読んでみよう】
- 第14回目 外国語の勉強【文法、練習問題】
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までにその日の授業内容を確認し、知らない単語などを調べること。
また、授業後は学習内容の理解や暗記を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅰ	RUS101 F

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣などについて解説することにより、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社、2000年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社、1997年
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社、1994年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音(1)、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方(1)
- 3回 子音(2)、疑問詞のある疑問文と答え方(2)、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方(3)、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化(対格)、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化(前置格)、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化(生格)、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト・和文露訳課題 ... 20% 予習復習状況...20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業後、授業前に、前回習った重要な文法事項、語彙などの復習をすること。小テスト、或は和文露訳の問題を課するので復習と合わせて準備を怠らぬように。

履修上の注意 /Remarks

最初数回の授業でアルファベットの読み書きを学習するので、スタート時期に欠席するのは好ましくない。

ロシア語I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅱ	RUS111 F

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣などについて解説し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社、2000年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社、1997年
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社、1994年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト・和文露訳課題 ... 20% 予習復習状況 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業後、授業前に、前回習った重要な文法事項、語彙などの復習をすること。小テスト、或は和文露訳の問題を課するので復習と合わせて準備を怠らぬように。

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語I」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ【昼】

履修上の注意 /Remarks

できるだけロシア語の音声資料などで耳慣らしをして発音練習をすること、また毎回、授業の前と後で単語・表現、挨拶言葉などの予習・復習を怠らないこと。正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコーワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 英中国済営比人律
/Class 政1年

対象入学年度
/Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅳ	RUS112F

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ￥1,400
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第4課① 【一日の生活】、【過去の表現】
- 2回 第4課② 【時間表現】
- 3回 第4課③ 【動詞の体】、【昨日あなたは何をしましたか】
- 4回 第4課④ 【不完了体と完了体】、【あなたは宿題をしてしまいましたか】
- 5回 第5課① 【休日】、【動詞の未来】
- 6回 第5課② 【曜日名】、【明日あなたは何をしますか】
- 7回 第5課③ 【名詞の造格】、【命令形】
- 8回 第5課④ 【どうぞ、午後私に電話してください】
- 9回 第6課① 【交通】、【運動の動詞】
- 10回 第6課② 【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
- 11回 第6課③ 【電話】、【出発と到着の表現】
- 12回 第6課④ 【あなたはどこから来ましたか】
- 13回 会話 【どこへ】、【どこに】、【どこから】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

ロシア語Ⅳ【昼】

履修上の注意 /Remarks

できるだけロシア語の音声資料などで耳慣らしをして発音練習をすること、また毎回、授業の前と後で単語・表現、挨拶言葉などの予習・復習を怠らないこと。正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅴ	RUS201 F

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、書き言葉に特徴的な複文（関係代名詞、関係副詞、分詞構文）の「文法・語法」学習、動詞の体の用法・派生、運動の動詞など、より複雑な文法の学習を行う。到達目標は、文章語の読解力を養うこと。

教科書 /Textbooks

学習用プリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

佐藤純一著『NHK新ロシア語入門』日本放送出版協会
○ブリキナ著『新ロシア語文典』我妻書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 定動詞・不定動詞(1)、完了体・不完了体
- 2回 関係代名詞(1)、形容詞・副詞の比較級と最上級
- 3回 個数詞と名詞句の結合、年齢表現、値段表現
- 4回 時間表現、不定使用法、不規則変化動詞
- 5回 不定人称文、仮定法(1)、複文(1)
- 6回 移動動詞の派生、曜日表現
- 7回 関係副詞、関係代名詞(2)、勧誘法表現、年月日表現
- 8回 相互代名詞、述語生格、仮定法(2)、普遍人称文
- 9回 無人称動詞、定動詞・不定動詞(2)、再帰所有代名詞、「春の祝日について」
- 10回 副動詞、形動詞現在
- 11回 完了動詞・不完了動詞の派生、祝辞表現
- 12回 時刻表現、概数、姓の格変化
- 13回 複文(2)、存在状態を表す動詞と動作動詞(「横たわっている」と「横になる・横たわせる」)
- 14回 形動詞過去、間接命令法
- 15回 定代名詞、特殊変化動詞、「呼格について」

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト・課題・学習状況 ... 40%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修者には、テキストの読み、練習問題の課題を課すので準備が必要。なお、授業後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。

ロシア語V【昼】

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語I」「ロシア語II」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ロシア語の参考書、学習教材は図書館に相当点数（数十冊以上）あるので利用してください。

キーワード /Keywords

ロシア語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語VI	RUS211 F

授業の概要 /Course Description

ロシア文化領域のテキストの読解、および会話テキストを読み、訳、練習問題をこなすことで、ロシア語運用力の向上を目指す。到達目標は、書き言葉の文章読解力を向上させること、およびノーマルなスピードのやさしい会話ができるようになること。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」など数万語以上の見出し語を持つロシア語辞書が必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ГОСТИНИЦА その1	読み、訳、練習問題	ロシアのことわざ「自己抑制について」
2回	ГОСТИНИЦА その2	読み、訳、練習問題	ロシアの白樺
3回	СТОЛОВАЯ その1	読み、訳、練習問題	ロシア人メンタリティ特徴
4回	СТОЛОВАЯ その2	読み、訳、練習問題	新居祝い
5回	ГАСТРОНОМ	読み、訳、練習問題	民族言語教育について
6回	УНИВЕРМАГ	読み、訳、練習問題	異民族間婚姻
7回	ТРАНСПОРТ	読み、訳、練習問題	ベテルブルグへの旅
8回	ПОЧТА	読み、訳、練習問題	パブロフ「若者への書簡」
9回	ТЕЛЕФОН	読み、訳、練習問題	若いジャーナリストとの出会い
10回	ВОКЗАЛ	読み、訳、練習問題	「花束」
11回	ПОЛИКЛИНИКА	読み、訳、練習問題	「イワン・ベトロ-ピッチとの対話」
12回	ПАРИКМАХЕРСКАЯ	読み、訳、練習問題	チェーホフ短編「別荘で」
13回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その1	読み、訳、練習問題	春の洪水
14回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その2	読み、訳、練習問題	ロシア人の名前
15回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その3	読み、訳、練習問題	シベリアの蒸し風呂

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 50%、授業での発表 50%
(全授業回数の三分の一以上の欠席者は期末試験の受験資格はありません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので授業前に準備が必要。なお、授業後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語I」「ロシア語II」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅶ【昼】

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語Ⅲ」「ロシア語Ⅳ」を履修しておくこと。
正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅷ	RUS212 F

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練習しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ¥ 1,400
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 第9課① 【年齢】、【年月日の表現】、【КОГДА ВЫ РОДИЛИСЬ ?】 物】、【値段】	2回 第9課② 【買い物】、【値段】
3回 第9課③ 会話練習	
4回 ビデオ学習① 【В ГОСТЯХ】	
5回 ビデオ学習② 会話練習【В ГОСТЯХ】	
6回 ビデオ学習③ 作文【КАК ПРИГЛАШАЮТ В ГОСТИ В ЯПОНИИ】	
7回 第10課① 【モスクワの町】	
8回 第10課② 【関係代名詞 КОТОРЫЙ】、【КАКАЯ ГОРА САМАЯ ВЫСОКАЯ?】	
9回 第10課③ 【モスクワの町】、【単文と複文】	
10回 第10課④ 【ことわざ】、【МОЙ РОДНОЙ ГОРОД】	
11回 読み物①	12回 読み物②
13回 読み物③	
14回 練習	
15回 まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 60% 平常の学習状況(小テスト含む)... 10% 宿題... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので授業前までに準備が必要。なお、授業終了後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語Ⅲ」「ロシア語Ⅳ」を履修しておくこと。正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅰ	GRM101 F

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

CD付き『独検5級・4級・3級対応 ドイツ語文法』三修社、著者：在間進、亀ヶ谷 昌秀

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音・つづり・母音の長短】(5級対応)
- 2回 自己紹介。【動詞の現在人称変化】
- 3回 ハンスは今、テニスをしています。【分の作り方。平叙文、疑問文】
- 4回 その母親はワインを飲みます。【名詞の性と冠詞】
- 5回 その犬のその名前はタロウです。【名詞と冠詞の格】
- 6回 フランクはアナのために10本のバラを買います。【複数形の作り方】(4級対応)
- 7回 その子供達はサッカーをするのが好きです。【複数形の使い方】
- 8回 ケンはこのスポーツカーを買います。【定冠詞類】
- 9回 私の犬はタロウという名前です。【不定冠詞類】
- 10回 その息子はその犬と遊ぶのが好きです。【前置詞の格支配】
- 11回 私達は今日、ケンとその学食に行きます。【3・4格支配の前置詞】
- 12回 彼は彼女に一通の手紙を書きます。【人称代名詞】
- 13回 私は私の歯をみがきます。【再帰代名詞】
- 14回 私は明日、ドイツ語を学ぶつもりです。【助動詞】
- 15回 彼は週末に何をするのでしょうか。【未来形】

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

ドイツ語I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語II【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			ドイツ語II	GRM111F

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

CD付き『独検5級・4級・3級対応 ドイツ語文法』三修社、著者：在間進、亀ヶ谷昌秀

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。ハンスはパーティーを開きました。【過去形】(3級対応)
- 2回 私達は寿司を食べに行きます。【動詞の特殊な使い方】
- 3回 君達は何をしましたか。【完了形】
- 4回 私達は食べてしまっていました。【過去完了形】
- 5回 アナはいつも先生にほめられます。【受動文】
- 6回 私は昨日、先生にほめられました。【受動の過去形と完了形】
- 7回 ハンスはオーストリアあるいはスペインへ行きます。【並列接続詞】
- 8回 彼は仕事に行く前に、いつも新聞を読みます。【従属接続詞と副文の作り方】
- 9回 フランクはカナを愛しています、しかしお金を持っていない、と言いました。【接続法第1式】
- 10回 もし僕がとても金持ちならば、僕はカナと世界旅行をするでしょうに。【接続法第2式】
- 11回 私は私の学友達よりもずっと勤勉でした。【比較変化】
- 12回 その車は私が期待したと同じように速く走ります。【同等の比較】
- 13回 あそこで歌っているその少年は、私の孫です。【関係文】
- 14回 それを主張する人は、嘘をついています。【不定関係代名詞】
- 15回 彼等は冷たい飲み物を飲みます。【形容詞の格変化】

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

ドイツ語II【昼】

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun (発音：ツアウン、「垣根」) と town です。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に活かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅲ	GRM102 F

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン 1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅳ	GRM112 F

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン 1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅴ	GRM201 F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン 2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他 (Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
- 2回 駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
- 3回 私達は注文したいのですが。【レストランで】
- 4回 部屋は空いていますか？【ホテルで】
- 5回 郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
- 6回 円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
- 7回 フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
- 8回 ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
- 9回 どこが悪いのですか？【病気】
- 10回 頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
- 11回 君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
- 12回 ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生日祝い】
- 13回 ドイツ語でクロスワード遊び。
- 14回 一日の活動を日記に書く。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

ドイツ語Ⅴ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語VI	GRM211F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パーティーに何を着ますか？【服装】
- 2回 このグレーのスラックスはいいかですか？【お店で】
- 3回 家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
- 4回 ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
- 5回 ここで犬を放してはいけません。【禁止】
- 6回 何歳になったら何ができますか？【選挙権】
- 7回 ドイツの学校制度。【教育】
- 8回 パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
- 9回 あなたは何に興味がありますか？【職業】
- 10回 イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
- 11回 イースターのウサギが語ります【祭り】
- 12回 君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
- 13回 君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
- 14回 クリスマスクッキーの作り方。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 クラス 英中国済営比人律政2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅶ	GRM202 F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
- 2回 人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
- 3回 軽く詫言いで話しかけると、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
- 6回 相手の言うことが聞き取れないとき
- 7回 理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞くと
- 8回 綴りを聞くと、英語の分る人を探すと、いい直しをするとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 場所を聞くと、道順・方向を聞くと、距離を聞くと
- 11回 時刻を聞くと、時間を聞くと、曜日を聞くと、日付を聞くと
- 12回 値段を聞くと、数量を聞くと、方法を聞くと、理由を聞くと
- 13回 目的を聞くと、住所を聞くと、出身地を聞くと、生年月日を聞くと
- 14回 ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅷ	GRM212F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事情を聞くとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
- 2回 両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
- 3回 服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
- 6回 自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞くとき、相手の感想を聞くとき
- 7回 相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
- 8回 予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 病状を言うとき、身体の具合を聞くとき、体調を言うとき
- 11回 会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞くとき
- 12回 自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
- 13回 贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞くとき、料理を勧めるとき
- 14回 ドイツビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

ドイツ語VIII 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語 I	FRN101 F

授業の概要 /Course Description

初級文法の習得をととしてフランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。

教科書 /Textbooks

『新・彼女は食いしん坊！1』（藤田裕二著 朝日出版社 ￥2400＋税）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って原則二回で1課進み、1学期は第6課まで終了。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 フランス語の発音とつづり字
- 2回 国籍・職業をいう
- 3回 主語人称代名詞と動詞 être の使い方
- 4回 名前・持ち物をいう
- 5回 動詞 avoir と冠詞の使い方
- 6回 友人・家族を紹介する
- 7回 第一群規則動詞と所有形容詞の使い方
- 8回 疑問文の作り方
- 9回 人・物を説明する
- 10回 形容詞の使い方
- 11回 電話をかける、近い未来・過去についていう
- 12回 指示形容詞、人称代名詞強勢形の使い方
- 13回 人、物、場所、時についてたずねる
- 14回 疑問詞の使い方
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキスト各課の本文(会話文)を付属CDをつかって聴き取りと発音練習をしてください。

事後学習：毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

フランス語I【昼】

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること(紙・電子どちらでもよい)
遅くとも2回目の講義までには教科書を用意しておくこと(事情により入手が遅れる場合は、講義開始前に申し出ること)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

連続して欠席すると、講義内容についていくのが困難となります。
正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

はじめて学ぶフランス語

フランス語II 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語II	FRN111F

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。

教科書 /Textbooks

『新・彼女は食いしん坊！1』（藤田裕二著 朝日出版社 ￥2400＋税）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って2学期は第7課から第12課まで。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 食べ物・飲み物について
- 2回 部分冠詞、数量の表現について
- 3回 時刻・天候について
- 4回 疑問形容詞と命令形
- 5回 非人称構文と第二群規則動詞について
- 6回 人・物を比較する
- 7回 比較級と最上級の表現
- 8回 人を紹介する
- 9回 補語人称代名詞の使い方
- 10回 代名動詞について
- 11回 過去のことを話す
- 12回 複合過去の作り方
- 13回 未来のことを話す
- 14回 単純未来の作り方
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキスト各課の本文（会話文）を付属のCDをつけて聴き取りと発音練習をしてください。

事後学習：毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること（紙・電子どちらでもよい）
教科書は1回目の講義から用意しておくこと。
1学期に最低1科目はフランス語の講義を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

フランス語を生きた言葉として実感

フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅲ	FRN102 F

授業の概要 /Course Description

初歩的な文法を学び、簡単な日常会話の練習とそれに関する文章を読むことによって知識を定着させます。

教科書 /Textbooks

『パリ・ボルドー フランスの世界遺産と食文化を巡る旅』藤田裕二著（朝日出版社 2016年 2500円）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 発音の仕方
- 2回目 綴り字の読み方（1課終了）
- 3回目 主語人称代名詞
- 4回目 国籍を表す形容詞（2課終了）
- 5回目 名詞と不定冠詞
- 6回目 名詞と形容詞（3課終了）
- 7回目 第1群規則動詞の活用
- 8回目 定冠詞 疑問文（4課終了）
- 9回目 指示形容詞
- 10回目 動詞 <avoir> の活用 否定文（5課終了）
- 11回目 動詞 <aller> の活用
- 12回目 疑問代名詞 不規則動詞（6課終了）
- 13回目 所有形容詞と疑問形容詞
- 14回目 人称代名詞強勢形（7課終了）
- 15回目 il y a の表現

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点：オラル・ペーパーの小テスト：40% 定期試験：60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としてあらかじめテキスト準拠のホームページでディアログと文化の映像を見て何を学ぶかを確認しておくこと。事後学習として、専用ノートに文法項目ごとに整理をし、単語帳や例文リストを日本語・フランス語で作成し「発音する・書く」を繰り返して暗記すること。

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典（電子でも紙でもよい）必携のこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅳ	FRN112F

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、基本文法を会話表現を通して学び、簡単な文章を読むことによってそれらを確認します。

教科書 /Textbooks

『パリ・ボルドー フランスの世界遺産と食文化を巡る旅』藤田裕二著（朝日出版 2016年 2500円）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 定冠詞の縮約
- 2回目 補語人称代名詞 (8課終了)
- 3回目 代名動詞
- 4回目 中性代名詞 y (9課終了)
- 5回目 非人称構文
- 6回目 命令形 感嘆文 (10課終了)
- 7回目 部分冠詞
- 8回目 中性代名詞 en (11課終了)
- 9回目 比較級
- 10回目 単純未来形 (12課終了)
- 11回目 複合過去 1
- 12回目 複合過去 2
- 13回目 半過去 (13課終了)
- 14回目 条件法現在
- 15回目 接続法現在 (14課終了)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点：オラル・ペーパーの小テスト40% 定期試験：60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としてテキスト準拠のホームページでディアログと文化の映像を見て何を学ぶかを確認すること。事後学習としては、文法項目ごとにノート整理をし、単語帳や例文のリストを作成し「発音する・書く」を繰り返して暗記すること。

履修上の注意 /Remarks

仏和辞書(紙でも電子でもよい)必携

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅴ	FRN201 F

授業の概要 /Course Description

初級で学んだ文法で特にむづかしかった時制や代名詞などの事項を会話文、アクティビテ、練習問題を通して復習し、知識の定着を図ります。

教科書 /Textbooks

『クワワッサン2 もっと知りたいフランス語』松村博史 著 2017年 朝日出版社 2300円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『フラ語入門 わかりやすいにもホドがある』清岡智比古著 白水社
『ケータイ万能 フランス語文法』久松健一著 駿河台出版社
『中級をめざす人のフランス語文法』杉山利恵子著 NHK出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 アルファベ 数字 綴り字と発音のルール
- 2回目 動詞の現在形と複合過去の復習
- 3回目 頻度に関する表現 (1課終了)
- 4回目 直接・間接目的語と強勢形の代名詞
- 5回目 コミュニケーションに関する表現 (2課終了)
- 6回目 代名動詞の使い方
- 7回目 一日の行動に関する表現 (3課終了)
- 8回目 中性代名詞と指示代名詞
- 9回目 程度に関する表現 (4課終了)
- 10回目 単純未来
- 11回目 「~と言う」「~と思う」などの表現 (5課終了)
- 12回目 Lecture 1 (6課終了)
- 13回目 現在分詞とジェロンディフ
- 14回目 過去分詞と受動態
- 15回目 所有代名詞

成績評価の方法 /Assessment Method

オラル・ペーパーの小テスト：40% 定期試験：60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としてはテキストに目を通してあらかじめ学ぶ文法項目を確認しておくこと。また会話文の発音練習をしておくこと。事後学習としては、専用ノートに文法項目を整理し、単語帳と日本語・フランス語による例文リストを作成し、書いたり発音して暗記すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語VI	FRN211F

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き既習の文法を復習しながら、複文を構成する叙法等を学んで、表現力のレベルアップを目標とします。

教科書 /Textbooks

『クロワッサン2 もっと知りたいフランス語』 松村博史著 2017年 朝日出版社 2300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『中級フランス語 叙法の謎を解く』 渡邊淳也著 2018年 白水社
『中級をめざす人のフランス語文法』 杉山利恵子著 2012年 NHK出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 1学期の復習
- 2回目 半過去
- 3回目 活動に関する表現 (7課終了)
- 4回目 時・理由・条件を表す接続詞
- 5回目 大学生生活に関する表現 (8課終了)
- 6回目 条件法
- 7回目 レストランに関する表現 (9課終了)
- 8回目 関係代名詞
- 9回目 観光地に関する表現 (10課終了)
- 10回目 接続法
- 11回目 いろいろな相づち (11課終了)
- 12回目 lecture 2 (12課終了)
- 13回目 話法と時制の一致
- 14回目 単純過去
- 15回目 覚えておきたいフランス語の基本動詞80について

成績評価の方法 /Assessment Method

オラル・ペーパーの小テスト40%、定期試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前準備としては、テキストに目を通してあらかじめ何を学ぶかを確認しておくこと。事後学習としては、専用ノートに文法項目を整理し、単語、例文を日本語・フランス語でリストアップして、書いたり発音して暗記すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅶ	FRN202 F

授業の概要 /Course Description

日常的なシーンでのフランス語会話を養うことを中心に、発音や聞き取り、読解の力をつけることも目指します。ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。授業は主に教科書に沿って進めますが、適宜プリントや映像を用いて、リスニングやリーディングの練習も行います。

教科書 /Textbooks

Rythmes & communication

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) unité 1 : 自己紹介 (前半)
- 2) unité 1 : 自己紹介 (後半)
- 3) unité 1 : 自己紹介 (復習)
- 4) unité 2 : 質問する (前半)
- 5) unité 2 : 質問する (後半)
- 6) unité 2 : 質問する (復習)、小テスト
- 7) unité 3 : 買い物をする (前半)
- 8) unité 3 : 買い物をする (後半)
- 9) unité 3 : 買い物をする (復習)
- 10) unité 4 : いつ (前半)
- 11) unité 4 : いつ (後半)
- 12) unité 4 : いつ (復習)、小テスト
- 13) unité 5 : どこ (前半)
- 14) unité 5 : どこ (後半)
- 15) 前期の復習、小テスト

上記は目安であり、受講生の理解度や関心に合わせて変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の取り組み・・・ 20%
小テスト(3回)・・・ 60%
期末テスト・・・ 20%
授業中の「取り組み」は20%ですが、出席が評定の前提となっています。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

フランス語VII 【昼】

履修上の注意 /Remarks

すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英中国済営比人律 政 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅷ	FRN212F

授業の概要 /Course Description

日常的なシーンでのフランス語会話を養うことを中心に、発音や聞き取り、読解の力をつけることを目指します。ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。授業は主に教科書に沿って進めますが、適宜プリントや映像を用いて、リスニングやリーディングの練習も行います。

教科書 /Textbooks

Rythmes & communication

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) 前期の復習、unité 6 : 誰 (前半)
 - 2) unité 6 : 誰 (後半)
 - 3) unité 6 : 誰 (復習)、リスニング
 - 4) unité 7 : 何 (前半)
 - 5) unité 7 : 何 (後半)
 - 6) unité 7 : 何 (復習)、小テスト
 - 7) unité 8 : どのように (前半)
 - 8) unité 8 : どのように (後半)
 - 9) unité 8 : どのように (復習)、読解
 - 10) unité 9 : 過去について (前半)
 - 11) unité 9 : 過去について (後半)
 - 12) unité 9 : 過去について (復習)、小テスト
 - 13) unité 10 : 仮定、条件 (前半)
 - 14) unité 10 : 仮定、条件 (後半)
 - 15) 後期の復習、プレゼンテーション
- 上記は目安であり、受講生の理解度や関心に合わせて変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の取り組み・・・ 20%
小テスト(2回)・・・ 40%
プレゼンテーション・・・ 20%
レポート・・・ 20%
授業中の「取り組み」は20%ですが、出席が評定の前提となっています。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

フランス語VIII 【昼】

履修上の注意 /Remarks

すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語I【昼】

担当者名 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英 1 - 1・
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 1 - 2・ 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語 I	SPN101 F

授業の概要 /Course Description

スペイン語を公用語とする国は、ヨーロッパに1つ、アフリカに1つ、中南米に19（含む1自治領）あり、その話者の数は、アメリカ合衆国にいる hispanicの人たちも含めると4億をはるかに超え、英語、中国語、ヒンズー語に続くと言われていています。ラテン語（ローマ帝国の言語）を起源とし、イタリア語、ポルトガル語、フランス語、ルーマニア語とともにロマンス語と呼ばれる仲間にも属します。コロンブスのアメリカ大陸発見（1492年）以降、スペイン語は中南米の植民地の言語になったので、現在のように多くの中南米の国で使われています。その特徴は、これだけ広い地域で用いられているのに、コミュニケーションの妨げになるほどの差がないことです。その広大な文化圏のドアを開けるための第1歩として、スペイン語の基礎を学びましょう。未知の世界が広がっていくはずですよ。

具体的には、スペイン語の初級から中級程度の文法を学びながら基本的な表現をマスターします。

教科書 /Textbooks

和佐敦子『初級スペイン語文法』（朝日出版社）を使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典：

スペイン語中辞典（小学館）

新スペイン語（研究社）

現代スペイン語辞典（白水社）

プログレッシブスペイン語辞典（小学館）

パスポート初級スペイン語辞典（白水社）

他多数有。

白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。

和西辞典：

和西辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）

クラウン和西辞典（三省堂）

その他

図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）

スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）

スペイン（増田監修：新潮社）

スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）

スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）

スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）

スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）

スペイン語基礎文法（口ボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）

電子辞書も奨めます。これについては、シラバス作成の段階で4月からの新製品のカタログが届いていないため、最初の講義で詳しく説明するので、辞書の購入はそれまで待っててください。

スペイン語【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン、スペイン語世界を眺める
- 第2回 発音
- 第3回 音節の分け方、アクセントなど
- 第4回 発音まとめ
- 第5回 名詞の性数、冠詞、形容詞
- 第6回 直説法現在形(規則活用)の活用と用法)
- 第7回 直説法現在形といくつかの文を作る重要な文法
- 第8回 上記の続き
- 第9回 上記の続き
- 第10回 動詞serとestar
- 第11回 上記の続き
- 第12回 上記の続き
- 第13回 hayの表現
- 第14回 総復習
- 第15回 上記の続き

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は下で述べる平常点を一切加味せず定期試験の点数だけで評価します。その1/3の条件を満たしている範囲での欠席は構いません。なお、クラブ活動など一切欠席届は認めません。

定期試験が60点以上ならば無条件で単位を認定しますが、60点を下回る場合にも平常点を加味して評価します。もちろん60点を超えている場合も平常点を加算して、成績を決めます。平常点は普通の教室でのやりとり(読む、書くなど)や小テストの点数を半期に亘って数値化します。その年度によって若干の差異はありますが、最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合(例えば小テストを受けていないとか、授業中答えていないなど)は平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

動詞の活用を中心として、学習したことをしっかりと復習して、次回の授業の臨みましょう。(復習重視で、30分程度は必要になります)。また小テストがある場合はしっかり準備しましょう(30分程度)。

履修上の注意 /Remarks

語学は基本的には演習科目なので出席は必要条件だけど、十分条件ではないので、そのことを自覚してしっかりと取り組んで欲しい。

最初の数回は基礎になる重要な事項が多いので、休まずに理解して下さい。

北九大ポータル(moodle)からプリントなどの補助教材を送りますので、各自ダウンロードして、プリントアウトして下さい。詳しくは授業開始時に説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学、学習その他なんでも相談OKです!
メール: faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう!

スペイン語I【昼】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 1 - 4・1 - 5・1 - 6 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			スペイン語 I	SPN101 F

授業の概要 /Course Description

スペイン語はヨーロッパの諸言語のなかでも、われわれ日本人には「やさしい」言語です。単語一つ一つは5つの母音字（ア・エ・イ・オ・ウ）と子音字の組み合わせなので、発音はいたって簡単です。この授業では、アルファベットから単語の発音・アクセントの法則から始めて、スペイン語の初歩的文法を中心に学びます。学んだ文法事項を応用して、平易な短文を読めるようにします。またスペインおよびスペイン語圏の国々・地域の事情についても適宜お話しします。

教科書 /Textbooks

『初級スペイン語文法』改訂版（朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

口ボ、大森ほか『スペイン語基礎文法』（ピアソンエデュケーション）
『スペイン語とつきあう本』（寿里、東洋書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語の歴史について簡潔な説明、アルファベット
- 2回 5つの母音と子音について、正書法による発音とアクセント
- 3回 名詞と冠詞、性と数、簡単なあいさつ表現
- 4回 人称代名詞、一般動詞の活用（3つのタイプ）：直説法現在
- 5回 一般動詞の活用（1）と基本文例、肯定文、否定文
- 6回 一般動詞の活用（2）と基本文例、否定文、疑問文
- 7回 一般動詞の活用（3）と基本文例、目的語と前置詞
- 8回 一般動詞の復習、形容詞
- 9回 ser動詞とestar動詞（1）
- 10回 ser動詞とestar動詞（2）およびhayについて
- 11回 疑問詞を用いた疑問文（1）
- 12回 疑問詞を用いた疑問文（2）
- 13回 不規則動詞の活用、指示詞について
- 14回 短文を読む（プリント）
- 15回 復習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

外国語の学習には辞書が必須です。毎回の授業前には単語の意味を調べておきましょう。また、テキストの各課には「練習問題」がありますが、回答を正しく表記できるか問題文（スペイン語）を含めて、自分で書いてください。強制ではありませんが、毎回提出すれば、教員が「赤」を入れて返却します。

スペイン語I【昼】

履修上の注意 /Remarks

第二外国語はそれなりの忍耐も必要です。毎回出席し、予習・復習をしましょう。辞書は必要不可欠です。授業中に質問の時間を設けています。わからないことがあれば、いつでも質問しましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外国語の学習は新しい世界観につながります。

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 1 - 1・1 - 2・1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅱ	SPN111F

授業の概要 /Course Description

初級から中級程度のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします。具体的にはスペイン語Ⅰのテキストの続きをある程度複雑な文や、スペイン語に独特な文を作れるようなレベルまで進みます。英語にない文のパターンも、最初は複雑だと思かもしれませんが、慣れてくると簡潔な表現で多くの情報が伝わる面白さが理解できるでしょう。

教科書 /Textbooks

和佐敦子『初級スペイン語文法』（改訂新版、朝日出版社）前期のテキストの続きをします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
 スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
 スペイン（増田監修：新潮社）
 スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
 スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
 スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
 スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）
 辞書についてはスペイン語Ⅰで述べたのを参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 直説法現在形（不規則活用）1【語根母音変化】
- 第3回 感嘆文と序数詞
- 第4回 直説法現在形（不規則活用）2【一人称単数が不規則なもの】
- 第5回 所有詞と接続詞
- 第6回 直説法現在形（不規則活用）3【完全な不規則】
- 第7回 ここまでのまとめ
- 第8回 目的格人称代名詞
- 第9回 前置詞と前置詞格人称代名詞
- 第10回 gustar型動詞
- 第11回 ここまでのまとめ
- 第12回 再帰動詞
- 第13回 無人称表現
- 第14回 総復習
- 第15回 総復習（2）

スペイン語II【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

語学は基本的には演習科目なので出席は必要条件だけど、十分条件ではないので、そのことを自覚してしっかりと取り組んで欲しい。定期試験に授業中の評価（小テスト、口頭での答え、作文など）も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。定期試験に今述べた平常点を最大20点まで加算します。もちろん60点を超えている場合でも、平常点を加味して成績を算定します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

動詞の活用が複雑になります。活用をしっかりと復習、暗記して次回の授業の臨みましょう。（復習重視で、30分程度は必要になります）。また小テストがある場合はしっかりと準備しましょう（30分程度）。

履修上の注意 /Remarks

前期に比べて少し複雑な内容になると思いますが、ロマンス語（スペイン語、イタリア語、ポルトガル語、フランス語など）に共通する文法の基礎にもなるので、しっかりと取り組んで、将来の学習につなげましょう。

北九大ポータル(moodle)からプリントなどの補助教材を送りますので、各自ダウンロードして、プリントアウトして下さい。詳しくは授業開始時に説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう！

スペイン語Ⅱ【昼】

担当者名 岡住 正秀 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英 1 - 4・
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 1 - 5・ 1 - 6

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅱ	SPN111F

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅰの続編です。基本は直説法現在時制です。一般動詞（規則動詞）に加え、重要な不規則動詞の活用とその基本的な文例を学び、命令法まで学び、一通りスペイン語文法の基礎を終了します。授業では平易な短い文章を読めるようにし、同時にスペインの歴史や文化、およびスペイン語圏の国々と地域にも触れて、進めたいと思います。

教科書 /Textbooks

和佐敦子『初級スペイン語文法』改訂版（朝日出版）
短文のプリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ロボ、大森『スペイン語基礎文法』（ピアソンエデュケーション）
『スペイン語とつきあう本』（寿里、東洋書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語Ⅰの復習
- 2回 直説法現在一不規則動詞活用（1）
- 3回 指示代名詞と基本文例
- 4回 指示形容詞と基本文例
- 5回 不規則動詞の活用（2）
- 6回 所有形容詞と文例、人称代名詞目的格
- 7回 不規則動詞の活用（3）直接目的格
- 8回 不規則動詞の活用（4）間接目的格
- 9回 前置詞と基本文例
- 10回 gustar型の動詞
- 11回 再帰代名詞と再帰動詞
- 12回 再帰代名詞seと無人称表現
- 13回 天候表現、曜日・日付の表現
- 14回 命令文、不定詞などについて
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず授業の前に、辞書で単語の意味を調べてください。毎回授業には辞書を持参しましょう。また、教科書の各課には練習問題があります。授業で終わった段階で、問題文（スペイン語）を含めて、回答を正確に表記できるか確かめましょう。できれば、毎回提出すれば、「赤」を入れて返却します。

スペイン語II【昼】

履修上の注意 /Remarks

辞書は必要不可欠です。初めての単語は必ず辞書で調べましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペインもイバナアメリカも「情熱の国です!」。熱意でスペイン語に挑戦!

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 クラス 英 1 - 1・1 - 2・1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅲ	SPN102 F

授業の概要 /Course Description

この授業では日常会話に必要な語彙や言い回し・会話表現に有効な文法事項を学びながら、簡単なコミュニケーションを取ることを目指します。教科書に従い、モデルとなる短い会話例をまず暗記します。その後、語彙を増やしながら応用の会話もすぐ口から出てくるように何度も練習します。その際、ペアで、あるいは3 - 4人のグループでの会話練習を行います。スペイン語の知識が全くない人を対象に、スペイン語の読み方・発音・アクセントの規則からはじめます。スペイン語の発音は日本語話者に易しく、発音しやすいのでどんどん単語や文を発音し慣れていきましょう。

教科書 /Textbooks

坂東省次、泉水浩隆、Alejandro CONTRERAS著『対話で学ぶスペイン語 改訂版』三修社、2016第1版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。開講前に慌てて購入することはありません。
西和辞書として薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語とスペイン語圏について、教室での表現、スペイン語のアルファベット「スペイン語で何といますか？」
- 2回 スペイン語の発音とアクセントの位置、挨拶「おはよう。」
- 3回 1課 主語とser動詞、肯定文・否定文。名前・国籍・職業を言う「私はソニアです。」
- 4回 estar動詞、疑問文「元気ですか？」
- 5回 2課 名詞の性と数、冠詞、指示詞、他人の紹介「こちらはファンです。」
- 6回 数字1 - 100「消防の電話番号は？」
- 7回 3課 規則活用動詞1 「わたしは文学を学んでいます。」
- 8回 規則活用動詞2 「スペイン語を話しますか？」
- 9回 4課 ser, estar, hayの使い方「近くにレストランはありますか？」
- 10回 ir動詞 「どこに行きますか？」
- 11回 5課 gustar動詞 「好きな食べ物は？」
- 12回 料理の注文 「メキシコ料理は好きですか？」
- 13回 6課 家族について 「私の祖父はホルヘです。」
- 14回 家族について tener動詞 「兄弟はいますか？」
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、小テスト 30%、日常の授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

履修上の注意 /Remarks

スペイン語I(文法)の授業を履修しながら(あるいはすでに過去に履修など)であれば、理解度が深まりますし、より多くのスペイン語に接する機会が増えるので、効果的にスペイン語会話が学べます。必修でなくてもぜひ文法の方も履修することを勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

初めて接する言語ですから、何度も声を出して発音しましょう。自身で発音し、その音を耳にすることも立派な学習です。また、スペイン語の音に慣れていくためにインターネット上の素材をどんどん聞いて有効活用しましょう。

参考サイト：

<http://www.rtve.es/> (スペイン国営放送 TVE)

<http://los40.com/> (スペイン語圏に広がるFMラジオ放送のサイト。音楽が中心。)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFMラジオ放送のサイト。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor ミヨコ・フジヨシ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 1 - 4・1 - 5・1 - 6 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅲ	SPN102 F

授業の概要 /Course Description

この授業は、アルファベットと発音の対応から始め、スペイン語の基礎的文法の確実な習得を目指す。また、現在形を用いながら基本的な会話(自己紹介、など)、を修得するとともに、スペイン語圏の文化習慣等も併せて学習する。

スペイン語は、スペイン人だけでなく、ラテンアメリカの19カ国の人々やアメリカ合衆国に在住のヒスパニックの人々等を含む4億人以上の人々が母語として使っている言語である。また、国連で公用語の一つとして使われている言語でもある。スペイン語を通じて多くの人とコミュニケーションができるようになって、新しい、興味深い文化などに会うきっかけになることを期待している。

教科書 /Textbooks

山道佳子、 Jesús M.Martínez Astudillo 「¡En español, por favor! (スペイン語でお願いします)」
同学社、ISBN 4-8102-0362-X

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

和西一西和辞典や電子辞書の指定は特にありませんが、用意して、授業に臨むこと。

スペイン語Ⅲ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(直接法現在形)

- 第1回 ガイダンス
授業の目標と進め方。基本的な挨拶。
- 第2回 発音
アルファベット・発音・アクセントの位置。
- 第3回 名詞の作り方
男性名詞、女性名詞、単数名詞、複数名詞。
冠詞+名詞+形容詞
- 第4回 名詞 (2)
指示・所有、形容詞・代名詞
- 第5回 つなぎのSER動詞、
自己紹介、国籍、職業等。物や人物の描写
- 第6回 つなぎのESTAR動詞
健康状態、場所の説明。0~15の基数。
- 第7回 HAY動詞、
SER/ESTAR/HAY動詞の使い分け
- 第8回 規則活用動詞
~AR、~ER、~IR動詞の活用、重要な表現。
- 第9回 前置詞、疑問詞
前置詞の意味、使い方。
- 第10回 不規則動詞変化形 1 (e→ie)
~したい、~する予定、~し始める。
16~100の基数。
- 第11回 不規則動詞変化形 2 (o→ue)
~できる、~かもしれない。
時刻の表現。予定を言う。
- 第12回 不規則動詞変化形 3 (e→i)
頼み方、依頼するための表現、
101~億の基数。曜日、月日、季節。
- 第13回 不規則動詞変化形 4 (1人称単数だけ)
~しなければならない。~できる。
- 第14回 不規則動詞変化形 5
近い未来の表現。
- 第15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の受講状況・授業中の積極的な発言等(20%)、定期試験の成績(60%)、宿題・レポート・小テスト等(20%)を総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には意味が分からない単語を辞書で引くなどの予習、復習を確実にしてください。
事後には、その回次での不明点をなくすように復習して次回の授業へ備えてください。
分からないところはいつでも質問してください。

履修上の注意 /Remarks

教科書の予習復習

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英 1 - 1・ 1 - 2・ 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅳ	SPN112F

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅲの続きから、更に表現を学んでいきます。Ⅲと同様、会話表現の文法事項を学びながら、モデル会話を覚え、語彙を増やして行きましょう。会話の応用練習をペアで、あるいは3 - 4人のグループで行います。口に出して発音をすることでフレーズを覚えましょう。

教科書 /Textbooks

Ⅲと同じテキストを使用。

坂東省次、泉水浩隆、Alejandro CONTRERAS著『対話で学ぶスペイン語 改訂版』三修社、2016第1版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞書についてはⅢの開講時に指示したものと同じです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期の復習、7課「これはスペイン語で何といいますか？」
- 2回 7課 店での会話「こんな上着がほしいんですが。」
- 3回 8課 「カルロスの家は3部屋で、トイレは2つあります。」
- 4回 「住まいはどんなですか？」
- 5回 9課 時間表現「何時ですか？」
- 6回 再帰動詞「何時におきますか？」
- 7回 1週間のスケジュール「週末は何をしますか？」
- 8回 10課 大学で「ガルシア先生の研究室はどこですか？」
- 9回 肯定命令「クラスメートと会話をしなさい。」
- 10回 大学の時間割「週に何度スペイン語の授業がありますか？」
- 11回 11課 現在完了「週末はどうでしたか？」
- 12回 「美術館はどうでしたか？」
- 13回 12課 休暇の予定「夏にはどこへ行きますか？」
- 14回 「タンゴを踊りたいですか、それともフラメンコ？」
- 15回 2学期まとめ

* テキストの順に従い記していますが、進度に応じ多少変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、 小テスト 30%、 日常の授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

履修上の注意 /Remarks

スペイン語Ⅱ(文法)の授業を履修しながら(あるいはすでに過去に履修など)であれば、理解度が深まりますし、より多くのスペイン語に接する機会が増えるので、効果的にスペイン語会話が学べます。必修でなくてもぜひ文法の方も履修することを勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

何度も声に出して発音しましょう。自身で発音し、その音を耳にすることも立派な学習です。また、スペイン語の音に慣れていくためにインターネット上の素材をどんどん聞いて有効活用しましょう。

参考サイト：<http://www.rtve.es/>

<http://los40.com/>

<http://www.cadena100.es/>

また、YoutubeやTwitter, Instagram, Facebookなど、気に入ったSNSを見つけいろいろなスペイン語に触れてみるのも勧めます。

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン語圏、スペイン、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor ミヨコ・フジヨシ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - 4・ 1 - 5・ 1 - 6

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			スペイン語Ⅳ	SPN112F

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅲに引き続き、直接法現在形の基礎文法、過去形や未来形などの時制も学びます。 現在形の動詞を用いた基本的な会話を基礎として、さらにスペイン語圏でサバイバルできる程度の会話能力を身につけることを目指します。

スペイン語は、スペイン人だけでなく、ラテンアメリカの人々やアメリカ合衆国在住のヒスパニックの人々等をなど4億人以上の人々が母語として使っている言語であり、第2言語や第1外国語として使う人も入れるとさらに多くの人々が使っている。また、国連で公用語の一つとして使われている言語でもある。スペイン語を通じて多くの人とコミュニケーションができるようになって、新しい、興味深い文化などに会おうきっかけになることを期待している。

また授業終了後も、サッカーなどスポーツのスペイン語中継や様々な分野のスペイン語でのインタビューなどへの興味を維持し、自主的にスペイン語学習を継続してスペイン語を使う国々や人々の理解へつながることを期待している。

教科書 /Textbooks

山道佳子、 Jesús M.Martínez Astudillo 「¡En español, por favor! (スペイン語でお願いします)」
同学社、 ISBN 4-8102-0362-X

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

和西一西和辞典や電子辞書の指定は特にありませんが、用意して、授業に臨むこと。

スペイン語Ⅳ 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
スペイン語Ⅲの復習。
- 第2回 直接目的格人称代名詞
[~を]の代名詞。前置詞格人称代名詞。
- 第3回 間接目的格人称代名詞
[~に]の代名詞。前置詞格人称代名詞。
- 第4回 GUSTAR形 動詞
~が好きだ、~と思う、~が痛い。
- 第5回 再帰動詞
他動詞の自動詞化、~し合う。
無人称・受身の表現
- 第6回 時刻表現と天候の表現。
- 第7回 比較級、絶対最上級
- 第8回 点過去形
過去の出来事を説明する。
- 第9回 線過去形
過去の習慣、祭り、など。
- 第10回 点過去形と線過去形比較対照
- 第11回 現在完了形
完了、経験、継続を表す。
- 第12回 現在進行形
~している。~してきた。~し続ける。
- 第13回 命令形
~してください。~しなさい。
- 第14回 未来形
~しようと思う。未来の計画について話す。
- 第15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の受講状況・授業中の積極的な発言等(20%)、定期試験の成績(60%)、宿題・レポート・小テスト等(20%)を総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には意味が分からない単語を辞書で引くなどの予習、復習を確実にしてください。
事後には、その回次での不明点をなくすように復習して次回の授業へ備えてください。
分からないところはいつでも質問してください。

履修上の注意 /Remarks

教科書の予習復習

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅴ	SPN201 F

授業の概要 /Course Description

中級程度以上のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします 授業を通じて随時スペイン語圏の文化に接することができるような教材も紹介します。

教科書 /Textbooks

初級スペイン語文法（和佐敦子著、朝日出版）昨年度のテキストの続きをします。改訂版なので3年生以上で使用したものととは違いますので、注意して下さい（現在生協で売っているものです）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典：
 スペイン語中辞典（小学館）
 新スペイン語（研究社）
 現代スペイン語辞典（白水社）
 プロGRESSIVEスペイン語辞典（小学館）
 パスポート初級スペイン語辞典（白水社）
 他多数有。
 白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
 和西辞典：
 和西辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）
 クラウン和西辞典（三省堂）
 その他
 図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
 スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
 スペイン（増田監修：新潮社）
 スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
 スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
 スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
 スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）
 スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）

スペイン語Ⅴ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 年次の進度が若干異なるため、最初に復習を多めにやります。
- 1 1年の復習(代名詞を中心に)
- 2 1年の復習(代名詞を中心に)
- 3 1年の復習(代名詞を中心に)
- 4 再帰動詞、無人称文など
- 5 再帰動詞、無人称文など
- 6 動詞の派生形とその用法(進行形、完了形、命令形など)
- 7 同上
- 8 点過去、現在完了の用法
- 9 同上
- 10 同上
- 11 線過去の用法
- 12 同上
- 13 同上
- 14 点過去と線過去の違いについてと、ここまでの復習
- 15 同上

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。平常点は普通の教室でのやりとり(読む、書くなど)や小テストの点数を年間に亘って数値化します。最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合(例えば小テストを受けていないなど)は平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

動詞の活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう(復習重視で、30分程度は必要になります)。また小テストがある場合はしっかりと準備しましょう(30分程度)。

履修上の注意 /Remarks

上記テキストに対するプリントなどの補助教材はポータル(moodle)から送ります。授業時に詳しく説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール : faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう!

スペイン語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語VI	SPN211F

授業の概要 /Course Description

スペイン語の中級から上級の文法を理解し使えるようにすることを目標にします。詳しくは授業計画を参照。前期のスペイン語Vに引き続き、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします

教科書 /Textbooks

初級スペイン語文法（和佐敦子著、朝日出版）昨年度のテキストの前期の続きをします。
最後にスペイン語版「となりのトトロ」を見ながら、表現の聞き取りの練習を楽しみながらやりましょう。
スペイン語Vのプリントもmoodleに残っているので、スペイン語VIから受講の場合も教材はすべてそろいます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スペイン語中辞典（小学館）
新スペイン語（研究社）
現代スペイン語辞典（白水社）
プログレッシブスペイン語辞典（小学館）
パスポート初級スペイン語辞典（白水社）
他多数有。
白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
和西辞典：
和西辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）
クラウン和西辞典（三省堂）
その他
図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
スペイン（増田監修：新潮社）
スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）
スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）

スペイン語VI 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 未来形とその関連時制の用法
 - 2 同上
 - 3 前期を含め、様々な構文のまとめ（受け身、使役、放任、比較など）
 - 4 同上
 - 5 過去完了と時制の一致
 - 6 受け身文、無人称文
 - 7 同上
 - 8 接続法の活用全般について
 - 9 接続法の用法
 - 10 接続法の用法
 - 11 スペイン語版トトロを理解する
 - 12 スペイン語版トトロを理解する
 - 13 スペイン語版トトロを理解する
 - 14 スペイン語版トトロを理解する
 - 15 まとめ
- 授業全体を通じて、スペイン語の表現を覚えるための会話・講読教材を随時学びます。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価（小テスト、口頭での答え、作文など）も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。平常点は普通の教室でのやりとり（読む、書くなど）や小テストの点数を年間に亘って数値化します。最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合（例えば小テストを受けていないなど）は平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう。（復習重視で、30分程度は必要になります）。また小テストがある場合はしっかりと準備しましょう（30分程度）。

履修上の注意 /Remarks

プリントなどの補助教材はmoodleから送ります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう！

スペイン語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅶ	SPN202 F

授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳ（会話表現）を更に発展させていきます。プリントとビデオでいろいろな場面に応じた会話表現を学んで行き、映像や音声などでネイティブの話すスペイン語理解を行います。そのうえで、実際の場面に応じた会話をペアやグループで行い、時折発表もします。会話表現内で、前年度学んでいない文法項目については適宜解説します。

教科書 /Textbooks

プリント配布（テキスト購入不要）
始めの方は前年度の教科書を持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。
西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。
和西辞書の利用も必要ですが、詳細は開講時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前年度スペイン語の復習、自己紹介
- 2回 他人の紹介、人についての表現
- 3回 一日のスケジュール
- 4回 日常の紹介(1)
- 5回 日常の紹介(2)
- 6回 買い物(1)
- 7回 買い物(2)
- 8回 好きなこと
- 9回 食事について(1) パエージャの作り方
- 10回 食事について(2)
- 11回 旅行
- 12回 休暇の過ごし方 どこへ?
- 13回 スペイン語圏について
- 14回 町の紹介
- 15回 まとめ

* 上記、理解度に応じ順番を多少前後することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、日常の授業への取り組み 50%

スペイン語Ⅶ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：会話のテキストを配るので、指定された箇所を予習してくる。また、指定されたWeb上の字幕付きビデオを見て、内容把握をしてもらうこと。

事後学習：授業中に行う和訳をもとに、もう一度、その日の授業内でのスペイン語会話（スクリプトや会話プリント）を全て読み、文法事項と内容の把握に努めること。

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。

スペイン語初級（I・II・III・IV）の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の1年目を終え、基礎的なことを理解した後は、会話テキストや実際の映像などをもとに、その会話使用例をどんどん覚えてもらいたいと考えています。授業の予習は大変ですが、目にする単語を引いて覚えること、イラストや映像の状況をもとにどんな会話がなされているか推測することも練習の一つです。また、出てきたフレーズを理解し、自分でも同じように発音することでスペイン語をより身につけることができるはず。

また、オンラインで見られるスペインの映像・音声も随時参考にしてください。

<http://www.rtve.es/>（スペイン国営放送 TVE）

<http://los40.com/>（スペイン語圏に広がる音楽FM放送）

<http://www.cadena100.es/>（スペインのFM放送ラジオ。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。）

また、YoutubeやTwitter, Instagram, Facebookなど、気に入ったSNSを見つけいろいろなスペイン語に触れてみるのも勧めます。

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

スペイン語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅷ	SPN212F

授業の概要 /Course Description

前期のスペイン語Ⅶをさらに発展させていきます。プリントとビデオでいろいろな場面に応じた会話表現を学んで行き、映像や音声などでネイティブの話すスペイン語理解を行います。そのうえで、実際の場面に応じた会話をペアやグループで行い、時折発表もします。会話表現内で、学んでいない文法項目については適宜解説します。

教科書 /Textbooks

プリント配布
(テキスト購入不要)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。
西和辞書で薦めるものは電子辞書、『クラウン西和辞典』三省堂、2005、『現代スペイン語辞典』白水社、1999などです。
詳細は開講時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期表現の復習、休暇中のこと
- 2回 さあ食べよう！今日の定食
- 3回 趣味の事(1)
- 4回 趣味のこと(2)
- 5回 仕事の紹介
- 6回 企業について
- 7回 旅行(1)
- 8回 旅行(2)
- 9回 過去の出来事(1)
- 10回 小さかった時
- 11回 過去の出来事(2)
- 12回 現在の推測
- 13回 スペイン語のDVDを理解する(1)
- 14回 スペイン語のDVDを理解する(2)
- 15回 まとめ、スペイン語の表現、動詞の時制のまとめ

* 上記、理解度に応じ順番を多少前後することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験50%、日常の授業への取り組み50%

スペイン語VIII 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：会話のテキストを配るので、指定された箇所を予習してくる。また、指定されたWeb上のビデオを見て、字幕を読み予習しておく。

事後学習：授業中に行う和訳をもとに、もう一度、その日の授業内でのスペイン語会話（スクリプトや会話プリント）を全て読み、文法事項と内容の把握に努める。

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。疑問に思ったことはどんどん辞書を引いてください。

スペイン語I・II・III・IV・V・VIIの単位履修は必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の2年目前期を終え、会話実例がどんどん出てくることに慣れてきたと思います。後期では過去形もふんだんに使用するビデオを見いきます。授業の予習は大変ですが、目にする単語を引いて覚えること、イラストや映像の状況をもとにどんな会話がなされているか推測することも訓練の一つです。また、出てきたフレーズを理解し、自分でも同じように発音することでスペイン語をより身につけることができます。また、オンラインで見られる映像・音声も随時参考にしてください。

<http://www.rtve.es/> など

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

日本語I【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Iでは、特に「大学生生活へのオリエンテーション」と「読み」に焦点を当てる。「大学生生活へのオリエンテーション」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。さらに、学期最後の1カ月は、チュートリアルを導入し、個別のニーズに応じた授業を提供する。

教科書 /Textbooks

『スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル - 改訂版 - 』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』(佐々木瑞枝他、The Japan Times)
- 『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 大学生生活(1)【自己紹介から始めよう】
- 3回 大学生生活(2)【高校と大学の違い/大学について学ぶ】
- 4回 大学生生活(3)【キャンパスツアー】
- 5回 大学生生活(4)【大学教員・職員との付き合い方】
- 6回 大学生生活(5)【図書館ツアー】
- 7回 大学生生活(6)【大学生生活のデザイン】
- 8回 大学生生活(7)【講義の上手な受け方】
- 9回 大学生生活(8)【演習に参加するコツ】
- 10回 大学生生活(9)【大学の定期試験】
- 11回 チュートリアル(1)【学習計画】
- 12回 チュートリアル(2)【振り返り】
- 13回 チュートリアル(3)【修正】
- 14回 チュートリアル(4)【評価】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 30 %
ポートフォリオ評価 ... 70%(学習者評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め授業範囲を予習し、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日本語Iと日本語IIと日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学に「適応」して、自分らしい大学生生活を送りましょう。

キーワード /Keywords

生活日本語 大学生生活日本語 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) チュートリアル

日本語II 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また日本語IIでは、実際に日本語を使う場面で、文字によるコミュニケーション(書く)の能力を伸ばす。「対人性」と「場面性」を理解することで、適切な文章構成・日本語表現ができるようになる。そして、「自己推敲能力」を伸ばすために、自分の書いたものを自己評価し、より良いものに修正する。

教科書 /Textbooks

『中級からの日本語プロフィシエンシーライティング』(由井紀久子他、凡人社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『日本語Eメールの書き方』(築晶子他、The Japan Times)
『外国人のためのケータイメール@につぼん』(笠井淳子他、アスク)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【文のスタイル】【配慮】【負担】【良好な関係】【今後のこと】
- 2回 アポイントをとる【PCメール】
- 3回 問い合わせる【PCメール】
- 4回 伝言する【メモ】
- 5回 誘う【携帯メール】
- 6回 誘われる【携帯メール】
- 7回 依頼する【PCメール】
- 8回 依頼される【PCメール】
- 9回 謝る【PCメール】
- 10回 お礼を言う【PCメール】
- 11回 報告する【PCメール】
- 12回 なぐさめる・一緒に喜ぶ【携帯メール】
- 13回 募集する【チラシ】【掲示】
- 14回 アドバイスを求める【PCメール】
- 15回 評価【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み(発表や課題を含む)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行い、提示された課題をメールで送ること。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当することがある。
日本語I、日本語II、日本語IIIは授業内容の関連が深いので同時受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロフィシエンシー 書く 対人性 場面性

日本語III 【昼】

担当者名 /Instructor 徐 暁輝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語IIIでは、大学生に求められる日本語文章表現能力の育成を目指す。具体的には、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い日常的な身体感覚を日本語で展開できるようになることを目標とする。留学生にとって、第二言語である日本語で自己表現を行い大学生活を過ごすためには、まず、自己の身体感覚を第二言語で言語化する経験が重要となる。

教科書 /Textbooks

『TAEによる文章表現ワークブック』(得丸さと子、図書文化)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
【フェルトセンス】 【リラックスのワーク】
- 2回 【色模様のワーク】
- 3回 【オノマトペのワーク】
- 4回 【比喩のワーク】
- 5回 【花束のワーク】
- 6回 【コツのワーク】 【共同詩のワーク】
- 7回 【励ます言葉のワーク】
- 8回 【マイセンテンス】
- 9回 【パターンを見つける】
- 10回 【パターンを交差させる】
- 11回 【自己PR文を作ろう】
- 12回 【資料を使って論じよう】
- 13回 【経験から論じよう】
- 14回 【感想文を書こう】
- 15回 評価【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・40% 発表・課題・・・30% 自己評価...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に学習目標を確認し、ワークの手順を読んで理解しておく。
学習活動終了後、学習目標に基づき、どんなことができたか、できなかったかなどを振り返る。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定です。
日本語I及び日本語II、日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払ってください。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋がります。
自主的に練習をすることで、授業内容の理解が深まるので、後日繰り返し練習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

TAE 身体を感じ 日本語の私 母語の私

日本語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Ⅳでは、特に口頭でのコミュニケーション力「スピーチ」に焦点を当てる。ともすれば似通った内容になりがちなスピーチから脱却するために、自分なりの興味や考え、相手の興味を「発見」し、協働で学びながら、スピーチの幅を広げる。さらに、日本語Ⅰ同様、学期最後の一カ月はチュートリアルを導入し、個別のニーズに応じた授業を提供する。

教科書 /Textbooks

『協働学習で学ぶスピーチ』(渋谷実希他、凡人社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『アカデミック・プレゼンテーション』(三浦香苗他、ひつじ書房)
- 『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション/聴衆分析と話題選び【戦略】
- 2回 話し手の心得/聞き手の役割【思い込み・相互評価】
- 3回 自己紹介【オリジナリティ】
- 4回 食べたい、あのお昼ご飯【説明力・伝える力】
- 5回 失敗から学ぶ教訓(1)【伝える力】
- 6回 失敗から学ぶ教訓(2)【内容の価値】
- 7回 情報探索【内容の深化・語彙力】
- 8回 質疑応答【内容の深化】
- 9回 責任を持って自慢する(1)【責任を伴った発信力】
- 10回 責任を持って自慢する(2)【学びと社会とのつながり】
- 11回 チュートリアル(1)【学習計画】
- 12回 チュートリアル(2)【振り返り】
- 13回 チュートリアル(3)【修正】
- 14回 チュートリアル(4)【評価】
- 15回 総括【一年間を振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め授業範囲を予習すること、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。
日本語Ⅳと日本語Ⅴ、日本語Ⅵは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の興味関心の方向を知っておくと、スピーチに取り組みやすいと思います。

キーワード /Keywords

相互評価・内容の価値・多様な視点

日本語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。
日本語Ⅴでは、特に「スタディスキル」と「日本語発想力・読解力・表現力」に焦点を当てる。
「スタディスキル」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。
「日本語発想力・読解力・表現力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、学校や社会で必要な論理的思考力を身につけることを目指す。

教科書 /Textbooks

『考える・理解する・伝える力が身につく 日本語口ジカルトレーニング 中級』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ・トレーニング 改訂版 - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐々木瑞枝他『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』The Japan Times
○石黒圭『この1冊できちんと書ける! 論文・レポートの基本』日本実業出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	オリエンテーション	
2回	スタディスキル(1)アクティブラーニングをやってみよう	発想力(1)リストアップ
3回	スタディスキル(2)テーマからトピックを取り出そう	発想力(2)マッピング
4回	スタディスキル(3)インターネットで情報を探そう	読解力(1)イラストを見て考える
5回	スタディスキル(4)本を手にして読んでみよう	読解力(2)文章を読んで図や表にしてみる
6回	スタディスキル(5)図解で考えよう	読解力(3)表・グラフの内容を読み取る
7回	スタディスキル(6)表・グラフを使って考えよう	読解力(4)表・グラフ以外の内容を読み取る
8回	スタディスキル(7)議論の方法を知ろう	読解力(5)マッピングしながら読む
9回	スタディスキル(8)レポートの文章の特徴を知ろう	読解力(6)登場人物になったつもりで読む
10回	スタディスキル(9)レジュメを作成してみよう	読解力(7)理由を考えながら読む
11回	スタディスキル(10)レポートの基本を知ろう	読解力(8)意味を考えながら読む
12回	スタディスキル(11)発表の資料を作ろう	表現力(1)理由を考えて書いてみる
13回	スタディスキル(12)発表をやってみよう	表現力(2)論理的に考えて書いてみる
14回	スタディスキル(13)パソコンを使ったプレゼン発表	
15回	総括 1年間(半期)の学びをふりかえろう	

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み(発表や課題を含む)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本文を読んで予習し、目標や身につけるスキルを確認しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する場合がある。
日本語Ⅳと日本語Ⅴと日本語Ⅵは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的思考力 読解力 発想力 表現力 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) スタディスキル

日本語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 吉嶺 加奈子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIでは、学生が学び手として互いに協力し合い、課題達成に向けて取り組めるようになることを目指す。具体的には、「自己目標の明確化」を目指すために活動(1)「自己PR」を行う。そして、「能動的読解」のために活動(2)「ブック・トーク」を行い、「外部から得た情報や知識を適切に配列し、引用表現を用いて自分の意見と区別しながら書く」ことを目指すために活動(3)「ブック・レポート」を行う。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション：プレゼンテーションとライティング』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己PR(1)【自分を伝える】
- 3回 自己PR(2)【情報を整理する】
- 4回 自己PR(3)【スピーチの準備をする】
- 5回 自己PR(4)【スピーチをする】
- 6回 自己PR(5)【志望動機書 / 学習計画書を読みあう】
- 7回 ブック・トーク(1)【情報を探す】
- 8回 ブック・トーク(2)【情報を読んで伝える】
- 9回 ブック・トーク(3)【アウトラインを書く】
- 10回 ブック・トーク(4)【ポスター発表を準備する】
- 11回 ブック・トーク(5)【発表する】
- 12回 ブック・レポート(1)【書く】
- 13回 ブック・レポート(2)【内容を検討する】
- 14回 ブック・レポート(3)【表現や形式を点検する】
- 15回 総括【全体を振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...40%
課題評価...30%
自己評価...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に学習目標を確認し、日本語エクササイズのワークシートを使って各課に必要な日本語表現を勉強しておく。
学習活動終了後、学習目標に基づき、どんなことができたか、できなかったかなどを振り返る。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。
日本語IVと日本語Vと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
テキストに付属する「日本語エクササイズ」は、授業外での自主学習とする。なお、2つの課題を発表する際、ビジターを交える可能性がある。
また、ポートフォリオを作成して学習の軌跡を保存することで、自己評価に繋がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・ラーニング 相互リソース化 批判的思考の獲得 社会的関係の構築

日本語VII【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 留学生 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIIでは、日本語で読むことを中心とする。特に、大学で必要なクリティカル・リーディング(批判的な読み)ができるようになることを目標とする。書かれたテキストに対して正確に読み取った上で、さらに複眼的な視点から検討するための思考技術を養成する。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらおう。

教科書 /Textbooks

『読む力(中上級)』(奥田純子他、くろしお出版)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『ひとりで読むことからピア・リーディングへ：日本語学習者の読解過程と対話的協働学習』(館岡洋子、東海大学出版会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【クリティカル・リーディング/複眼思考レッスン】
- 2回 私のニュースの読み方【主張や論点、問題提起、意図】
- 3回 価値の一律性【主張や論点、問題提起、意図】
- 4回 言葉の起源をもとめて【研究動機と仮説の概要】
- 5回 経済学とは何か【分野の概要】
- 6回 思いやり【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 7回 住まい方の思想【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 8回 決まった道はない。ただ行き先があるのみだ【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 9回 メディアがもたらす環境変容に関する意識調査【研究論文の概要】
- 10回 改訂 介護概論【目次から読む】
- 11回 ことばの構造、文化の構造【入門書】
- 12回 観光で行きたい国はどこ【調査結果】
- 13回 化粧する脳【現状、展望、原因、問題点】
- 14回 クリティカル・リーディングを磨こう
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...40% 課題...40% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は、課題の予習を全体として進めます。ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋がります。

履修上の注意 /Remarks

日本語VII及びVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えておくと、授業での学びがより効果的になる。

キーワード /Keywords

クリティカル・リーディング ピア・ラーニング 複眼的思考

日本語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 留学生 2年 /Class 留学生 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIIIでは、日本語で書くことを中心とする。特に、論拠を基に意見を述べる「論証型レポート」を作成することを目標とする。レポートを作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけでなく、構想からレポートの完成に至る一連の過程を学ぶ。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポートの組み立て方』(木下是雄、筑摩書房)
- 『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』(二通信子他、東京大学出版会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の目的及び必要性を知る【知る/課題の条件を確認する】
- 2回 レポートとは何かを考える【論証型レポート/根拠の大切さを知る】
- 3回 レポートのテーマを考える【構想マップ/練る】
- 4回 情報をカード化する【情報の信頼性/調べる】
- 5回 目標を仮に規定する【情報の整理/絞る】
- 6回 アウトラインを作る【序論・本論・結論】
- 7回 パラグラフライティング【中心文/説明文・指示文】
- 8回 パラグラフライティング【引用/引用文献リスト】
- 9回 文章を点検する【校正/表現の点検】
- 10回 文章を点検する【形式の点検/ピア・レスポンス】
- 11回 レポートの完成【体裁】
- 12回 発表を準備する【発表の意義・レジユメの作成】
- 13回 発表する【話し手/聴き手/司会】
- 14回 発表を踏まえてレポートを修正する【最終稿提出】
- 15回 学習プロセスを振り返る【自己評価・ピア評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...40% レポート・発表...40% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに自己のテーマに関する参考文献の収集や精読を行っておくこと、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日本語VII及びVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。
日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えてほしい。
日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論証型レポート ピア・ラーニング 論理的思考

日本事情 (人文) A 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日本事情(人文)Aでは、現代日本人に通ずる伝統文化「茶道」「歌舞伎」を通して、「日本社会・日本文化・日本人とは何か」を考える。そして、文化を理解する視点を持つことで、グローバル化した現代社会の中で、時代に流されない生き方を模索する。具体的には、日本の伝統芸能である「茶道」や「歌舞伎」を主たる題材として、体験学習を行う。その過程で立ち昇る日本文化について、クラス内で議論を重ねて行く。それらの過程で一人ひとりが、改めてそれぞれの文化を見つめ直し、気づきを得ることをもう一つのねらいとする。授業では、日本語の古語があまり得意ではない受講者のために、できるだけ視覚的聴覚的に工夫を凝らすことで理解を促進する。

教科書 /Textbooks

毎回プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『茶の湯六ヶ国語会話』(淡交社編集局、淡交社)
- 『「お茶」の学びと人間教育』(梶田勲一、淡交社)
- 『表千家茶道十二月』(千宗左、日本放送出版協会)
- 『歌舞伎入門事典』(和角仁・樋口和宏、雄山閣出版)
- 『歌舞伎登場人物事典』(古井戸秀夫、白水社)
- 『歌舞伎のびっくり満喫図鑑』(君野倫子、小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【伝統文化】【現代生活】
- 2回 茶道(1)茶道の世界をのぞく【茶室】【茶道具】【わびさびの世界】
- 3回 茶道(2)茶道から歴史を学ぶ【千利休】
- 4回 茶道(3)現代に続く伝統【工芸】【作法】
- 5回 茶道(4)体験する【薄茶をいただく】
- 6回 歌舞伎(1)歌舞伎の世界をのぞく【人間国宝】【女形】【大道具】
- 7回 歌舞伎(2)歌舞伎から歴史を学ぶ【江戸の町と町民文化】
- 8回 歌舞伎(3)演じる【竹本・義太夫】【現代に残る名台詞】
- 9回 歌舞伎(4)歌舞伎を観る【仮名手本忠臣蔵大序・三段目・四段目】
- 10回 歌舞伎(5)現代のサムライ【切腹】【武士道】
- 11回 歌舞伎(6)忠臣蔵と現代社会【世界観】【義】
- 12回 歌舞伎(7)魅力【大衆性】【芸術性】
- 13回 伝統文化と現代社会(1)日本へ与えた影響【文化の伝承】【サブカルチャー】
- 14回 伝統文化と現代社会(2)外国へ与えた影響【文化の融合】【新しい文化】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート...40% ポートフォリオ評価60%(自己評価...20% ピア評価...20% 教師評価...20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め指定された教材を視聴しておくこと、授業終了後には指示された課題を行い、復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学期の途中ではあるが、希望者を募り6月に博多座へ歌舞伎鑑賞に行く予定である。日頃から伝統的な文化(日本文化や自国文化を問わず)に興味を持っていると授業を楽しみやすいと思う。美しい所作(身のこなしや箸の持ち方、茶や菓子の頂き方)についても実践する。

キーワード /Keywords

茶道 歌舞伎 日本文化 自文化 異文化 伝統文化 現代生活 サブカルチャー 文化の伝承

日本事情 (人文) B 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

言語の学習と密接な関係にある文化について考える。文化とは何か、文化を学ぶとはいったいどのようなものであるのかを考えるにあたって、3つの読み物を題材とする。これらの題材をクラス内で議論しながら、最終的には一人ひとりが自分にとっての文化をレポートとしてまとめていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川上弘美『あるようなないような』中公文庫
河合隼雄「『母性』と『父性』の間をゆれる」『国語総合』大修館書店
○細川英雄『日本語教育と日本事情—異文化を超える—』明石書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 「境目」を読む
- 3回 「境目」について話し合う
- 4回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」を読む
- 5回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」について話し合う
- 6回 「ことばと文化を結ぶために」を読む
- 7回 「ことばと文化を結ぶために」について話し合う
- 8回 文化観を比較する
- 9回 その他の読み物を読む
- 10回 レポートの作成(1)「私にとって文化とは何か」
- 11回 ピア・リーディング クラスメイトンレポートを読んでコメントする
- 12回 レポートの作成(2)
- 13回 完成したレポートをクラス内でピア・リーディングする①
- 14回 完成したレポートをクラス内でピア・リーディングする②
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 50%
日常の授業への取り組み(発表や課題を含む)... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は課題の予習を前提として進める。配布された読み物を読み、分からない語句については事前に調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者が多数の場合、2年次以上の学生を優先します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化 比較 交換

日本事情 (社会) A 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

「日本事情 (社会)」は、実際に生活している日本社会がどのような社会であるかを理解するための授業である。そのため、常に幅広い分野から日本を知るリテラシーを身につけることを共通の目標に据える。
 ここでいう日本社会とは、過去から現在に、そして未来へと続く社会を想定している。また、日本社会を知るのは、当事者個々人であり、決して共通の見解を求めるものではなく、「日本社会で生活している私」「日本語を使う私」の意識化を試みる。
 「日本事情(社会)A」では、日本の社会を形作っている経済、政治、社会をめぐるさまざまな出来事を読み解き、理解する。また、そこから生まれる疑問や批判、さらには自分を取り巻く社会の未来について前向きに意見を交わすことで、分析能力やコミュニケーション能力の育成を図る。

教科書 /Textbooks

『大人のための社会科—未来を語るために』(井出英策・宇野重規・坂井豊貴・松沢裕作、有斐閣)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『財政から読み解く日本社会—君たちの未来のために』(井出英策、岩波書店)
 『「決め方」の経済学—みんなの意見のまとめ方を科学する』(坂井豊貴、ダイヤモンド社)
 『安心社会から信頼社会へ—日本型システムの行方』(山岸俊男、中央公論社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 私たちの生きる社会
- 3回 「GDP (社会の良さとはなんだろうか)」
- 4回 「勤労 (生きづらさを加速させる自己責任の社会)」
- 5回 「時代 (時代を分けることと捉えること)」
- 6回 「多数決 (私たちのことを私たちで決める)」
- 7回 「運動 (異議申し立てと正統性)」
- 8回 「私 (自分の声が社会に届かない)」
- 9回 「公正 (等しく扱われること)」
- 10回 「信頼 (社会を支えるベースライン)」
- 11回 「二重 (税を「取られるもの」から「みんなのたくわえ」に変える)」
- 12回 「歴史認識 (過去をひらき未来につなぐ)」
- 13回 「公 (「生活の場」「生産の場」「保障の場」を作りがえる)」
- 14回 「希望 (「まだ一ない」ものの力)」
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...50% 課題や提出物、発表...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は課題の予習を前提として進めます。テキストを読み、わからない内容や語句については事前に調べておくようにしてください。また、日頃からニュースや新聞などに目を通しておいください。

履修上の注意 /Remarks

外国人留学生対象の授業ではあるが、言語能力としての「読む」「書く」「話す」「聞く」に高い日本語能力が求められます。必ず初回のオリエンテーションには参加してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

内容言語統合学習 日本社会 対話

日本事情 (社会) B 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

「日本事情(社会)」は、実際に生活している日本社会がどのような社会であるのかを理解するための授業である。そのため、常に幅広い分野から日本を知るリテラシーを身につけることを共通の目標に据える。

ここでいう日本社会とは、過去から現在に、そして未来へと続く社会を想定している。また、日本社会を知るのは、当事者個々人であり、決して共通の理解を求めるものではなく、「日本で生活している私」「日本語を使う私」の意識化を試みる。

授業では、在日外国人、特に留学生を対象とした研究論文や調査研究を読み進め、単に知識を得るだけでなく、自分自身の過去及び現在を理解し、未来を描くことに繋がられるように、クリティカル・リーディングを行う。そして、留学生や元留学生にまつわる言説を分析し、自分の人生を自分で切り拓けるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岡益巳・深田博己『中国人留学生と日本』白帝社
- 坪谷美欧子『「永続的ソジヨナー」中国人のアイデンティティ-中国からの日本留学にみる国際移民システム』有信堂
- 葛文綺『中国人留学生・研修生の異文化適応』溪水社
- 吉沅洪『日中比較による異文化適応の実際』溪水社
- 榎本博明(2002)『<ほんとうの自分>のつくり方-自己物語の心理学』講談社現代新書
- 高松里(2015)『ライフストーリー・レビュー入門』創元社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業オリエンテーション
- 第2回 「研究論文を読む」「調査報告を読む」とは：クリティカル・リーディングの復習
- 第3回 クリティカル・リーディングの実践：研究論文を読む
- 第4回 留学生や元留学生にまつわる言説(1)日本社会の中の外国人という視点から
- 第5回 言説の考察(1)
- 第6回 留学生や元留学生にまつわる言説(2)留学の意義と留学に対する評価の視点から
- 第7回 言説の考察(2)
- 第8回 自己物語とアイデンティティ
- 第9回 自己物語を書こう(1)自己物語の実際
- 第10回 自己物語を書こう(2)自己物語の書き方
- 第11回 自己物語を読もう(1)論理実証モードと物語モード
- 第12回 自己物語を読もう(2)共感から共鳴へ
- 第13回 自己物語を語り直そう
- 第14回 留学生のキャリア発達
- 第15回 「ほんとうの自分」のつくり方

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...30% 課題...30% レポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前半は、研究論文、エッセイをリソースとした学習を行うため、予習タスクをします。
事後学習では、各研究論文、エッセイでの学習を統合するための作業をします。

履修上の注意 /Remarks

外国人留学生対象の授業ではあるが、言語技能としての「読む」「書く」「話す」「聞く」に高い日本語能力が求められ、かつ、情報リテラシーや批判的思考力に基づく理論構築を目指していくので、初回のオリエンテーションに必ず参加して、履修するかどうかを判断しよう。
授業は課題に対する予習を前提として進めます。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

言説 留学生のキャリア発達 自己物語

国際法I【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。	
	コミュニケーション力			

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法 I

LAW250M

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際法を一つのシステムとして捉え、国際法とは何か【法源論】【法の性質】、それはどのように形成され【法の定立】、実際に運用されていくのか【法の実施・履行】、【法の適用・解釈】、違反した場合どうなるのか【国際責任】、紛争はどのように処理されるのか【紛争解決】などの問題を取り扱っていきます。

教科書 /Textbooks

横田洋三編『国際社会と法』（有斐閣・2010） 2800円+税
位田隆一ほか編『コンサイス条約集（第2版）』（三省堂、2015年） 1500円+税
学習支援フォルダーにある講義レジュメ等は、各自、印刷して授業に持ってこようようにしてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際社会における法律作り，国内社会における国際法」

- 第2回 条約の締結
- 第3回 条約への留保
- 第4回 条約の国内的効力と国内適用
- 第5回 まとめ

第II部「特別法と一般法」

- 第6回 条約と第三国
- 第7回 慣習国際法の成立
- 第8回 慣習国際法の法典化
- 第9回 条約の無効
- 第10回 まとめ

第III部「国際社会における秩序の維持」

- 第11回 国際責任
- 第12回 紛争の平和的解決義務と武力行使の禁止
- 第13回 自衛権
- 第14回 国際司法裁判所(ICJ)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。

課題①...16.7% 課題②...16.7% 学期末試験...66.6%

なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意 /Remarks

予習、復習を前提とした講義を展開します。
詳細は、北方ムードルの情報で確認してください。
「国際法II」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

4つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国際法の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際法は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際法の定立】、【国際法の実施・履行】、【国際法の適用・解釈】、【国際責任】、【紛争解決】

国際法Ⅱ【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。	
	コミュニケーション力			

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法Ⅱ

LAW251M

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際社会の基本構成単位としての国家が有する「主権」に注目し、国際法上、国家とは何か【国家の要件】【承認】、国家にはどのような権利が認められ、義務が課されるのか【国家の基本的権利・義務】、それはどのように行使され、どこまで認められるのか【領域】【個人】【管轄権の競合と調整】【国際法によるコントロール】などを取り扱います。

教科書 /Textbooks

横田洋三編『国際社会と法』（有斐閣・2010） 2800円+税
位田隆一ほか編『コンサイス条約集（第2版）』（三省堂、2015年） 1500円+税
学習支援フォルダーにある講義レジュメ等は、各自、印刷して授業に持ってこようようにしてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際法上の国家」

- 第2回 国家と承認制度：国家承認・政府承認
- 第3回 国家の基本的権利
- 第4回 国家の基本的義務
- 第5回 まとめ

第II部「国際法主体としての個人」

- 第6回 人権の国際的保障：枠組み・基準設定
- 第7回 人権の国際的保障：監視・技術支援
- 第8回 国際犯罪
- 第9回 国際刑事裁判所(ICC)
- 第10回 まとめ

第III部「陸・海・空と国際法」

- 第11回 陸と国際法：領土取得の権原・領域主権
- 第12回 海と国際法：海上交通
- 第13回 海と国際法：海洋資源
- 第14回 空と国際法
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。

課題①...16.7% 課題②...16.7% 学期末試験...66.6%

なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況なども加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。

また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意 /Remarks

予習、復習を前提とした講義を展開します。

詳細は北方モデルの情報で確認してください。

「国際法I」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

5つの願いがあります。国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国家システム(state system)の現状と課題を把握してほしい。国際社会における主権国家の機能・役割を正しく理解してほしい。そして国益、共通利益、国際社会の公益について、積極的に考えてほしい。

キーワード /Keywords

【国家の要件】 【承認】 【国家の基本的権利・義務】 【領域】 【個人】 【管轄権の競合と調整】 【国際法によるコントロール】

国際貿易論I【昼】

担当者名 /Instructor 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 貿易に関する経済分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 貿易に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 身の回りの貿易に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	● 身の回りの貿易に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際貿易論 I ECN345M

授業の概要 /Course Description

現在の日本では、国際貿易と関係なく暮らすことはできない。朝食として、コメ、パン、お味噌汁、牛乳、卵、ベーコン、豆腐等を食べている人は多いと思う。コメを生産するには、トラクター等を使うが、輸入する原油が必要である。パンの原料の多くは輸入する小麦である。味噌や豆腐の原料の多くは、輸入大豆である。牛乳や卵やベーコンのためには、牛や豚や鶏の飼育が必要であり、そのためには輸入するトウモロコシからなる配合飼料が必要である。つまり、朝食を食べるときにも、貿易は関係している。

このような状況にありながら、保護貿易的な考えを持つ政治家や官僚などが存在する。例えば、アメリカのトランプ大統領である。なぜ、保護貿易が間違いであるのか、また、なぜ誤った考え方である保護貿易的な考え方を持つ人がなくなるのかを示し、自由貿易を推進すべき理由を示す。その際、小学校レベルの算数は使うが、それ以上のレベルのものは使わないように努力する。

この講義の目的は、国際経済関連のニュースに興味を持つようになり、ニュースを自分なりに判断できるようになることである。

テーマ：自由貿易と保護貿易

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

水戸康夫『海外子会社の意思決定-グローバル化時代の海外戦略-』創成社(2016年)
その他の国際貿易に関わる一般的な参考書は、最初の講義時に示す。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 貿易理論を学ぶべき理由【保護貿易のメリット・デメリット】
- 第3回 保護貿易主義者の主張【自由貿易理論における仮定への批判】
- 第4回 自由貿易の歴史【英仏戦争、第2次世界大戦】
- 第5回 重商主義の問題点【ヒュームの理論】
- 第6回 絶対優位【A.スミス、2国2財1生産要素モデル】
- 第7回 比較優位【D.リカード、2国2財1生産要素モデル】
- 第8回 比較優位成立の確認【数値例を通じて】
- 第9回 貿易利益1【計算を通じて】
- 第10回 貿易利益2【図を用いて】
- 第11回 ヘクシャー=オリーン理論【2国2財2生産要素モデル】
- 第12回 リプチンスキー理論【2国2財2生産要素モデル】
- 第13回 要素価格均等化定理【2国2財2生産要素モデル】
- 第14回 ストルパー=サムエルソン定理【2国2財2生産要素モデル】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート15% 学期末試験85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

最初に参考書を紹介するので、それらの参考書における対応する講義内容にあらかじめ目を通しておくと、授業をより理解しやすくなる。講義がわかりにくいと感じた場合には、参考書の対応する部分を精読すると、理解はより深まる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

出席は重視している。

キーワード /Keywords

自由貿易 保護貿易 比較優位 トランプ米国大統領

国際貿易論II 【昼】

担当者名 /Instructor 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 貿易に関する経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 貿易に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 身の回りの貿易に関する経済の諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	● 身の回りの貿易に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際貿易論II

ECN346M

授業の概要 /Course Description

各国政府は自由貿易をめざすべきであるが、自由貿易が実現しているとはいえない状況にある。自由貿易が実現していない理由については、国際貿易論Iにおいて講義している。自由貿易が実現しないとすれば、自由貿易未実現による国際経済の不効率を改善するものとして、対外直接投資が求められることになる。では、自由貿易を補完・代替するものである対外直接投資とはどのような特徴を持つのであろうか。

対外直接投資の結果として、海外子会社とともに海外孫会社の増加が見られる。海外子会社や海外孫会社の増加は、日本に何をもたらすのであろうか。その意味することともに、なぜ増加しているのかなども紹介する。

この講義の目的は、国際経済関連および海外に進出する日本企業にかかわるニュースに関心を持ち、ニュースに対して自分なりの判断ができるようになることである。

テーマ：海外子会社と海外孫会社

教科書 /Textbooks

水戸康夫『海外子会社の意思決定-グローバル化時代の海外戦略-』創成社、2016年出版。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回 直接投資理論を紹介1【直接投資】
- 3回 直接投資理論を紹介2【直接投資】
- 4回 対外直接投資概説【直接投資】
- 5回 中国概説
- 6回 中国における海外子会社と海外孫会社【中国】
- 7回 ASEAN4概説
- 8回 ASEAN4における海外子会社と海外孫会社【ASEAN4】
- 9回 アジアNIES概説
- 10回 アジアNIESにおける海外子会社と海外孫会社【アジアNIES】
- 11回 ヨーロッパ概説
- 12回 ヨーロッパにおける海外子会社と海外孫会社【ヨーロッパ】
- 13回 アメリカ概説
- 14回 アメリカにおける海外子会社と海外孫会社【アメリカ】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート15% 期末試験85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書はあらかじめ読んでおくことを前提としているので、講義に合わせて予習しておくこと。また、直接投資に関連する文献は多くあるので、講義に合わせて予習していることがより望ましい。

履修上の注意 /Remarks

出席を重視している。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃の国際(経済)関連ニュースに注目してほしい。

キーワード /Keywords

海外子会社 海外孫会社 直接投資理論

国際取引法【昼】

担当者名 大隈 一武 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際取引法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際取引法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際取引法

LAW350M

授業の概要 /Course Description

国際取引法は、単独法として存在するものではない。企業実務において展開されてきた実務先行で、学問としてはまだ確立していない分野である。企業実務における経験から、それを国際契約法、海外投資・企業経営関係法、通商法の3つに分類して授業を行う。

教科書 /Textbooks

なし。プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大隈一武『国際契約法入門』（中央経済社・1996）
外務省経済局監修『世界貿易機関を設立するマラケシュ協定WTO』（日本国際問題研究所・1997）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 国際契約：英米法契約理論-例えば、【約因】【コモンロー】【衡平法】理論・判例検討
- 2回 契約条件と国際貿易条件【インコタームズ】、契約約款などを検討
- 3回 国際取引と制限：OECD賄賂禁止条約、輸出管理ワッセナー取り決め、歴史的展開
- 4回 国際契約書の起草：海外工事請負契約UNCITRALガイド参照、契約書のドラフティング
- 5回 国際取引諸条約（国際海上物品運送・国際物品売買条約【CISG】など）や荷為替信用状規則【L/C】など
- 6回 海外進出：投資・企業経営-単独進出と企業買収・合併など実務的な展開と内容を検討
- 7回 企業経営：株式会社・パートナーシップの異同を理解し、海外合併事業の方法論、実務
- 8回 投資協定、投資保証、多国間投資保証機関【MIGA】
- 9回 OECD多国籍企業ガイドライン
- 10回 通商法：自由貿易地域と関税同盟の異同、実態、国際的動向、わが国の対応などを検討
- 11回 ブロック経済と世界貿易機関【WTO】：上記10との関連で、WTOの調整・問題点を検討
- 12回 GATTからWTOへ：WTO、TPPなど国際機関・協定
- 13回 WTOの組織、諸協定
- 14回 紛争解決のメカニズム
- 15回 OECD、IBRD、IMFなどの国際機関の機能と役割：WTO以外の重要な国際機関の機能と役割を理解し、わが国の対応のあり方についても検討

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験100%
なお、出席が授業回数の3分の2に満たない場合は期末試験の受験資格を認めない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習・復習その他正規の授業時間以外の学習に主体的に取り組むことが重要である。

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

集中講義修了次第、試験となる日程なので、特に毎日復習をすること。

キーワード /Keywords

国際私法【昼】

担当者名 /Instructor 小林 啓一 / NAKABAYASHI KEIICHI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際私法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際私法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際私法

LAW252M

授業の概要 /Course Description

現在では国境を越えることは比較的容易であるから、私法上の問題（契約や婚姻など）も国境を越えて生じることがある。たとえば、日本人同士がハワイへ行って結婚式を挙げた場合、その婚姻は日本でも有効となるだろうか。国際私法はこのような問題を解決するための法律である。この授業では、国際私法とはどのような法律か、いかなる問題が国際私法によって解決できるかという点について、できるだけ身近な具体例を用いながら考えてみたい。

教科書 /Textbooks

使用しません（レジュメを配布しますが、授業時に口頭や板書等で適宜補足する場合があります）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

松岡博編『国際関係私法入門（第3版）』（有斐閣、2012年）○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 国際私法序論【国際私法の意義と必要性、法的性質】
- 2回 国際私法総論(1)準拠法の決定【法性決定、連結点の意味】
- 3回 国際私法総論(2)準拠法の特定【反致、公序】
- 4回 国際家族法(1)属人法と、婚姻の準拠法【国際結婚と法】
- 5回 国際家族法(2)離婚、親子関係の準拠法【国際離婚と法】
- 6回 国際家族法(3)その他の問題【氏、相続など】
- 7回 国際財産法(1)契約の準拠法(1)【当事者自治の原則】
- 8回 国際財産法(2)契約の準拠法(2)【特徴的給付、消費者契約、労働契約】
- 9回 国際財産法(3)不法行為の準拠法【一般不法行為、生産物責任、名誉毀損】
- 10回 国際財産法(4)自然人、法人【渉外的法律関係の主体と準拠法】
- 11回 国際財産法(5)その他の問題【知的財産、物権、債権譲渡】
- 12回 国際民事訴訟法(1)【財産関係事件の国際裁判管轄】
- 13回 国際民事訴訟法(2)【身分関係事件の国際裁判管轄】
- 14回 国際民事訴訟法(3)【外国判決の承認執行】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に指示する課題等... 50% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前の学修は特に必要としないが、レジュメを中心にして事後の学修（集中講義なので特に迅速におこなう必要がある）をおこなうことが求められる。

履修上の注意 /Remarks

重要なポイントについては繰り返し言及するので、ノートをとること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生殖補助医療（代理出産）や親による子の奪い合いなど、国際私法に関連する時事的な話題にも言及したいと思っています。

キーワード /Keywords

国際私法、国際契約、国際家族法（国際結婚）

アメリカ経済【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 好裕 / Yoshihiro Yamazaki / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 米国経済の動向を理解するために必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 米国経済の動向に関連する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 身の回りの米国経済の動向に関連する経済の諸問題を発見し、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	● 身の回りの米国経済の動向に関連する経済の諸問題を発見し、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカ経済

ECN351M

授業の概要 /Course Description

トランプ大統領のアメリカ・ファーストの政策は、経済グローバリズムの流れを経済ナショナリズムへと反転させたかのように見えます。トランプ大統領の経済政策によってアメリカ経済は世界経済成長の牽引車となるのでしょうか？それとも、保護主義的な通商政策によって新興経済を不安定な状況に陥らせてしまうのでしょうか？アメリカの中央銀行にあたるフェッドは、QE政策からの出口戦略を確実に進めつつあります。このことはアメリカ経済や各国通貨の為替レートにどのような影響を及ぼすのでしょうか？学部を超えて、現代日本を生きていくうえで必須の知識がここにはあります。

この講義ではアメリカ経済の全体と、産業、金融、経済成長など各側面を、データを使って確認した上で、日本経済と比較しながら分かりやすく説明します。

前提となる経済学の知識も分かりやすく説明してきますので、いずれの学科の人たちでも無理なく受講できます。

教科書 /Textbooks

山崎好裕『目からウロコの経済学入門』ミネルヴァ書房、2004年11月。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

若林栄四『アメリカ経済の終焉 - 破裂する資産バブルと政治の墮落』集英社、2018年10月。

倉石灯・中野博『なぜ、トヨタはテキサスに拠点を移したのか？アメリカ経済の未来を左右する「テキサス州」の戦略』日本実業出版社、2018年12月。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 アメリカの産業と所得
- 2 アメリカの所得分配と社会保障
- 3 アメリカ家計の消費と貯蓄
- 4 アメリカの社会階層と失業
- 5 アメリカ企業と収益
- 6 アメリカ企業と投資
- 7 アメリカ政府と税制
- 8 アメリカの政府支出と財政
- 9 アメリカの通貨制度
- 10 アメリカの金融システム
- 11 アメリカ経済と金利
- 12 アメリカの国際収支
- 13 アメリカ経済と為替レート
- 14 アメリカ経済と物価
- 15 アメリカの経済成長と景気

アメリカ経済 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

定期試験では、アメリカ経済の制度的特徴についての穴埋め問題が6問、全体的特色についての○×問題が8問、テキストのコラムにある計算問題が2問出題されます。

試験の出題範囲は時期が来たらポータルサイトを通じて連絡します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習では、テキストの当該章を読んでください。

事後学習では、その日の講義内容を理解・記憶し、コラムの計算問題を解いて答え合わせをしておいてください。

履修上の注意 /Remarks

受講すれば、みんなの頭にアメリカ経済のはっきりしたイメージが浮かび、なおかつ、経済というものを身近に感じられます。経済学を学んだことがある人もない人も、安心して受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私は福岡大学教授（経済学部・大学院経済学研究科）なので、普段は北方キャンパスにいません。質問や相談はメール（yamazaki@kitakyu-u.ac.jp）に送ってください。

キーワード /Keywords

World Largest Economy 消費大国 サービス経済化 Fed 経常収支赤字 所得格差 投資銀行 ファンド 住宅投資 基軸通貨

イギリス文学概論【昼】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	イギリス文学を理解するための基礎的な知識を習得している。
技能	専門分野のスキル	●	イギリス文学の研究方法を身につけている。
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	イギリス文学に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

イギリス文学概論

LIT231M

授業の概要 /Course Description

今日、文学というどうしてもかたいイメージを持ってしまいがいるかもしれませんが、「おもしろくなければ文学じゃない」というイギリスの作家W.S.モームの言葉にもあるように、文学史上に残っている文学作品のほとんどすべては、古今東西の実に多くの人々の関心を集め、感動を与えてきた興味深いものばかりです。文学作品が敬遠されるようになったのは、読書感想文を書くための材料として扱われたり、画一的な解釈を強要されたりといった昨今の「読書」を取り巻く環境が変化してきたためであり、それが私たちから読書の本来の楽しさを奪っているのではないのでしょうか。人間同士のかかわり、絆が希薄になりつつあると言われる今、多くのすぐれた文学作品に触れ、人間とは何かを知ることは、他者に対する関心を今一度呼び起こしてくれることでしょう。

本講義では、長い歴史の中で詩から劇、そして小説へと発展してきた伝統あるイギリス文学の始まりから説き起こし、今日に至るまでの流れを追います。代表的な作品群については原作の豊かな英語表現にも触れることで、作品のおもしろさを共に味わえればと思います。その際、作品に関わるジャンルや技法、また読み解き方や批評方法などの基礎的な説明を加え、更には作品を生み出したイギリスの時代背景、文化背景との関わりをも探っていくことで、作品のより深い読みを目指します。

同時に、作品との関連で、人間に関する様々なテーマ（生、死、愛、宗教、想像力……）についても問題提起をします。一緒に考えていきましょう！！

授業の到達目標及びテーマ

- ①イギリス文学を理解するための基礎的な知識を習得していること。
- ②イギリス文学を読解し理解するための研究方法を身につけていること。
- ③イギリス文学に対する関心を高めること。

教科書 /Textbooks

- ・『イギリス小説入門』（川口喬一著）研究社出版
- ・その他、必要に応じて資料を配布します（An Outline of English Literature by G.C.Thornley and Gwyneth Roberts など）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入： 評価方法などの説明（文学の勤め、文学の面白さ）＜イギリスについて＞
- 2回 『ベオウルフ』（古英語、散文・韻文、頭韻、想像力）＜アングロサクソン七王国＞
- 3回 『キャンタベリー物語』 by チョーサー（中英語、脚韻、韻律分析）＜巡礼＞
- 4回 『エヴリマン』等（道徳劇、中英語、アレゴリー）＜教訓、死と人間＞
- 5回 ダン、ジョンソン、ベイコン等（詩の形式、奇想、逆説、機知、誇張、随筆等）＜王政＞
- 6回 4大悲劇（『ハムレット』『リア王』『マクベス』『オセロ』） by シェイクスピア（演劇）＜近代人の苦悩＞
- 7回 『失楽園』等 by ミルトン（無韻詩）＜キリスト教、宗教改革＞
- 8回 ビープス、イヴリン等（散文、日記文学）＜市民革命、自意識の芽生え＞
- 9回 『ロビンソン・クルーソー』 by デフォー（小説の勃興）＜コーヒーハウス＞
- 10回 『ガリヴァー旅行記』 by スウィフト（風刺）＜社会に対する怒り＞
- 11回 『パメラ』 by リチャードソン、『シャメラ』 by フィールドディング等（パロディ）＜フェミニズムの先駆け＞
- 12回 『高慢と偏見』 by オースティン、『テス』 by ハーディ（正統派小説）＜結婚事情、セクシュアリティ＞
- 13回 ロレンス、オプライエン、ドラブル、イシグロ（問題小説、伝統回帰）＜社会の批判と受容＞
- 14回 『不思議の国のアリス』 by キャロル（児童文学、ファンタジー、謎解き）＜子供とイギリス社会＞
- 15回 総括： イギリス文学の流れ、魅力等

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 or レポート（受講者数により決定します）・・・ 90%
平常点（課題、授業への参加度など）・・・ 10%（出席重視）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、テキストの該当箇所に目を通しておいください。また、授業の後は、ノートをもとに内容を整理し、復讐をしておいてください。

履修上の注意 /Remarks

授業で配布する資料は、よく目を通してください。また、本講義で扱う作品に限らず、様々な文学作品をたくさん読んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

イギリス文学の中でも現代に近い作品に関心を持っている人は「イギリスの現代文学」の受講をお勧めします。

キーワード /Keywords

「詩」「劇」「小説」「伝統」「文学のおもしろさ」「想像力」「風刺」「パロディ」「児童文学」「ファンタジー」

アメリカ文学概論【昼】

専門教育科目
選択科目
英米文学・文化科目群

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アメリカ文学を概括的に理解する上で必要な基礎的な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	アメリカ文学の基本的な研究方法を身に付ける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	アメリカ文学に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカ文学概論

LIT230M

授業の概要 /Course Description

本講義で取り扱うのはアメリカ文学である。そのアメリカ文学全体を時代を越えて貫いている複数の特徴を確認することにより、アメリカ文学の全体像を理解してもらう。さらには、アメリカ文学の特徴が、ハリウッド映画によっても共有されている事実も実際に映像を見ることにより明らかにする。次いで、そのような文学と映画との共通性が何ゆえに生じたのかを、アメリカの社会、歴史、文化の特質に目を向けることにより理解してもらう。文学と映画という、一見すると全く異質に見える存在が、実は、共に特定の社会の下に誕生した以上、同根の存在とならざるを得ない事実を理解してもらえたら幸いである。また、アメリカ文学を文化的背景と絡めて分析する視点も身につけてもらえたらと考えている。

教科書 /Textbooks

使用しない。必要に応じてアメリカ文学作品からの抜粋（日本語の翻訳）をプリントの形で配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『アメリカ文学思潮史』 福田陸太郎 中教出版
- 『アメリカ文学史 1、2、3』 亀井俊介 南雲堂
- 『アメリカ文学必須用語辞典』 スティーブン・マタソン 松柏社
- 『アメリカ文学案内』 寺門泰彦/渡辺信二 朝日出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方、参考文献の説明
- 2回 アメリカ文学に関する基礎知識
- 3回 アメリカ文学におけるアメリカ人としての自意識のあり方について
- 4回 ハリウッド映画にみるアメリカ人としての自意識のあり方と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景について
- 5回 アメリカ文学における暴力描写について
- 6回 ハリウッド映画における暴力描写と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景について
- 7回 アメリカ文学における移動描写について
- 8回 ハリウッド映画における移動描写と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景について
- 9回 アメリカ文学における恋愛・結婚描写について
- 10回 ハリウッド映画における恋愛・結婚描写と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景について
- 11回 アメリカ文学における超常現象描写について
- 12回 ハリウッド映画における超常現象描写と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景について
- 13回 アメリカ文学における社会意識について
- 14回 ハリウッド映画における社会意識と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景について
- 15回 補足説明、総括

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験100% 持ち込みは一切、不可とする。

アメリカ文学概論【昼】

専門教育科目
選択科目
英米文学・文化科目群

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前：講義で取り上げる作家と作品名は事前に知らせますので、参考書等を講義前に参照し、作者と作品に関する基礎的な情報を確認しておいてください。同様に、講義で取り上げる映画も事前に周知しますので、各自で事前に鑑賞しておいて下さい。講義で取り上げる映画の大半は、図書館にソフトがあります。

授業後：講義ノートと配布プリントを再度読み直し、可能な限り講義テーマと関連した書物を閲覧し、テーマに関する知識の更なる充実を図って下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリスの現代文学 【昼】

担当者名 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科
 /Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	イギリスの現代文学について理解している。
技能	専門分野のスキル	●	イギリスの現代文学の研究方法を身につけている。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	イギリスの現代文学に関する課題を自ら設定し、適切な研究方法を活用しながら、複眼的視野に立って考察し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	イギリスの現代文学に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

イギリスの現代文学

LIT234M

授業の概要 /Course Description

「幸福」について共に考えよう！！

文学作品の面白さの一つは、主人公を中心とする人物たちの様々な生き様を読むことで、読者がいつのまにかその世界にすっかり引き込まれ、自分自身がまるでactor, actressになったかのように別の人生を生きることができるところにあります。人間はともすると、居心地のよい自分だけの小さな世界の中で安穩と生きること、井の中の蛙になりがちです。そのような中、独りよがりな独善から解放され、より広く深い人間観を持つためには、文学作品を読むことはうってつけの方法と言えるでしょう。更に、より広い世界観を得るためには、自国の文学だけに満足することなく、様々な国々の文学作品に接することも必要です。

現代文学の始まりがいつなのかについては、研究者の間でも諸説入り混じっていますが、イギリス文学史においては20世紀初頭に大きな変化が見られるため、本講義では便宜上、20世紀以降の作品を主に扱うことにします。

イギリスの20世紀以降は、伝統を重んじる保守派の中から、様々な領域において刷新を望む新しい力が台頭してきた、とても興味深い時代です。そのような変化が如実に反映されている文学作品の中でも、この授業ではいくつかの短篇小説を読むことで、様々な人間の「幸福」の問題について一緒に考えていきましょう。授業を通して複眼的な幸福についての視点を持ちつつ議論をすることで、自ら幸福論についての課題を設定し、問題解決ができるようになることを目指してもらえればと思います。

★到達目標

- ①イギリスの現代文学のいくつかの作品を理解すること。
- ②イギリスの現代文学の研究方法を身につけること。（「幸福」のテーマで作品を比較検討すること）
- ③イギリスの現代文学に関する課題を自ら設定し、適切な研究方法を活用しながら、複眼的視野に立って考察し、解決できること。
- ④イギリスの現代文学に対する関心を更に高めること。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。（原則として翻訳を用いますが、英語で書かれた原作も準備します。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

イギリスの現代文学 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入 (テーマ、授業の勤め方、評価方法などについての説明)
- 2回 “The Happy Man” by W. S. Maugham、内容確認と理解
- 3回 “The Happy Man” by W. S. Maugham、議論【地位やお金と幸福】
- 4回 “The Happy Prince” by O. Wilde、内容確認と理解
- 5回 “The Happy Prince” by O. Wilde、議論【自己犠牲と幸福】
- 6回 “A Little Cloud” by James Joyce、内容確認と理解
- 7回 “A Little Cloud” by James Joyce、議論【自由や束縛と幸福】
- 8回 “Miss Brill” by K. Mansfield、内容確認と理解
- 9回 “Miss Brill” by K. Mansfield、議論【孤独の不幸】
- 10回 August Is a Wicked Month by E. O'Brien、内容確認と理解
- 11回 August Is a Wicked Month by E. O'Brien、議論【男女の愛の不毛性】
- 12回 Lady Chatterley’s Lover by D.H. Lawrence、内容確認と理解
- 13回 Lady Chatterley’s Lover by D.H. Lawrence、議論【自然との関係にみる救い】
- 14回 幸福についての議論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 or レポート...90% 平常点 (課題など) ...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に扱う短編については、配布する資料をあらかじめ授業の前に読んでおいてください。授業の理解に有益な読書等も積極的に行なってください。それぞれの作品が終わる度に「幸福と * * *」というテーマで、自分なりの幸福感を更新していってもらう予定です。

原作 (英語のオリジナル) のプリントも配布するので、英語を頑張りたい人は積極的にそれを活用して自分で訳す作業をすることをお勧めします。その作業をやった人については、評価に +α の配点をします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

普遍的な「幸福」は果たしてあるのでしょうか。もしあるとすれば、それは一体何なのでしょう……。みんなで一緒に考えましょう！

キーワード /Keywords

【地位やお金と幸福】、【自己犠牲と幸福】、【自由や束縛と幸福】、【孤独の不幸】、【男女の愛の不毛性】、【自然との関係にみる救い】

アメリカの現代文学 【昼】

専門教育科目
選択科目
英米文学・文化科目群

担当者名 /Instructor 江頭 理江 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アメリカの現代文学の特質を理解する上で必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	アメリカの現代文学の基本的な研究方法を身に付ける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	アメリカの現代文学に関する課題を見出し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	アメリカの現代文学に対する関心を高める。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカの現代文学

LIT232M

授業の概要 /Course Description

英米の現代文学に対する関心を高めるとともに、その特質を理解する上で必要な専門的知識を習得する。また、英米の現代文学の基本的な研究方法に加え、この分野に関する課題発見力、解決力を身につける。

まず、現代の第一次世界大戦後の荒廃をロス・ジェネレーションの世代としてゴビリズムの虚無と闘ったE・Hemingwayの作品をはじめ、そしてユダヤ系文学、南部文学、第二次世界大戦後のポストモダニズム・マイノリティの文学を読んで、現代アメリカ文学とその背景にある文化への理解を深めていく。

教科書 /Textbooks

『Let's Learn English from American Literature II』（英宝社） 早瀬博範・江頭理江 編著

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『楽しく読めるアメリカ文学』 高田賢一他編著 (ミネルヴァ書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：授業のイントロダクション
 - 第2回：Ernest Hemingway: A Short Happy Life of Francis Macomber
 - 第3回：Ernest Hemingway: The Old Man and the Sea
 - 第4回：John Steinbeck: Of Mice and Men
 - 第5回：John Steinbeck: Of Mice and Men テーマは何か？
 - 第6回：F・S Fitzgerald : The Great Gatsby
 - 第7回：F・S Fitzgerald : The Great Gatsby テーマは何か？
 - 第8回：William Faulkner: A Rose for Emily
 - 第9回：William Faulkner: A Rose for Emily テーマは何か
 - 第10回：Saul Bellow: Seize the Day
 - 第11回：Saul Bellow: Seize the Day テーマを何か？
 - 第12回：Hisae Yamamoto: Seventeen Syllables
 - 第13回：Leslie Maron Silko: テキストから
 - 第14回：ポストモダニズムの文学をいかに読むべきか
 - 第15回：授業全体のまとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% レポート 30% 日常の授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと (必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です)

アメリカの現代文学 【昼】

専門教育科目
選択科目
英米文学・文化科目群

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリスの18-19世紀文学【昼】

担当者名 /Instructor 村里 好俊 / YOSHITOSHI MURASATO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● イギリスの18-19世紀文学について理解している。
技能	専門分野のスキル	● イギリスの18-19世紀文学の研究方法を身につけている。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● イギリスの18-19世紀文学に関する課題を自ら設定し、適切な研究方法を活用しながら、複眼的視野に立って考察し、解決できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● イギリスの18-19世紀文学に対する関心を高める。
	コミュニケーション力	

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

イギリスの18-19世紀文学

LIT235M

授業の概要 /Course Description

イギリスの18-19世紀文学について、資料を元に講義する。

まず、18世紀初めころ始まったとされる近代小説発祥の時代背景として重要な産業革命について、その背景と歴史を説明し、それ以前の貴族や地主階級から市民階級の興隆から始めて、イギリスの社会背景の変化を論じ、市民階級に読まれる本として、近代小説が生まれたことを説明し、近代初期小説の特徴とその成り立ちを述べ、具体的作家と作品をいくつか取り上げて、粗筋と内容と主題を解明し、それ以後に生まれた作家・作品に続ける。

また、ゴシック小説の興隆を説明し、その代表的作品と作家を論じる。時代を超えて、最初のゴシック小説と言われる『オトランド城』から『フランケンシュタイン』を経て、19世紀末の『ドラキュラ』まで、連綿と続くゴシック小説について説明する。

イギリス小説の特徴の一つである、女性作家たちについても、その元祖ジェーン・オースティンから初めて、ブロンテ三姉妹、ジョージ・エリオットなどを取り上げて論じ、ヴィクトリア朝の大家とされるディケンズやハーディまで解説し、世紀末のオスカー・ワイルドについて、彼の風俗喜劇『理想の結婚』を取り上げて、解説する。

教科書や適宜配布する資料を元に、多数の作家・作品について、説明する。

これに加えて、代表的な詩人たちも取り上げ、特に、ロマン派の詩人たちについては、ワーズワスからキーツまで言及し、具体的に詩を読んでもみたい。

教科書 /Textbooks

村里好俊、『イギリス文学・文化の散歩道』、開文社、2,000円。

(あるいは、川口喬一、『イギリス小説入門』、研究社出版、2500円)

また、適宜プリントを資料として配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○田吹長彦『チャイルド・ハロルドの巡礼』、九州大学出版会

?大塚・村里、『イギリス・ルネサンスの恋愛詩集』、大阪教育図書

イギリスの18-19世紀文学 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①イギリスの18世紀の社会について資料を元に講義する。
- ②イギリス18世紀の市民生活について資料を元に講義する。
- ③イギリスの近代初期小説について講義し、具体的な作品の一部を読む。
- ④近代初期作家たちについて資料を元に講義し、作品の一部を読む。
- ⑤その他同時代の作家たちについて資料を元に講義し、作品の一部を読む。
- ⑥最初の女性作家ジェーン・オースティンとその作品について解説し、具体的な作品の一部を読む。
- ⑦ブロンテ姉妹について解説し、長女シャーロットの作風と作品について解説し、作品の一部を読む。
- ⑧ブロンテ姉妹の次女エミリーの特徴と作品について解説し、作品の一部を読む。
- ⑨大作家チャールズ・ディケンズの特徴と代表作について解説し、作品の一部を読む。
- ⑩もう一人の大作家で詩人のトマス・ハーディの特徴と作品について解説し、作品の一部を読む。
- ⑪18-19世紀の詩人たちについて、その特徴と作品について解説する。
- ⑫19世紀末に現れたロマン派の詩人たちについて、説明する。
- ⑬ロマン派の代表的な詩人ワーズワスについて、その作風と代表作『序曲』について解説する。
- ⑭もう一人のロマン派の詩人ジョン・キーツについて、その特徴と作品について解説し、一篇の詩を読む。
- ⑮ヴィクトリア朝の末期の詩人・劇作家・小説家・批評家オスカー・ワイルドについて解説し、その作品の一部を読む。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度・貢献度とレポート	50%
期末試験の成績	50%

以上を総合的に判断する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に予告された作家・詩人について、自ら調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

無断欠席をしないこと。
予習をして授業に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

産業革命。社会の変革。近代小説の始まり。女性作家たちの誕生。新古典派の詩人からロマン派の詩人たちへの変遷。
風俗喜劇。

アメリカの18-19世紀文学 【昼】

専門教育科目
選択科目
英米文学・文化科目群

担当者名 /Instructor 江頭 理江 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2nd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アメリカの18-19世紀文学の特質を理解する上で必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	アメリカの18-19世紀文学の基本的な研究方法を身に付ける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	アメリカの18-19世紀文学に関する課題を見出し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	アメリカの18-19世紀文学に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカの18-19世紀文学

LIT233M

授業の概要 /Course Description

英米の近代文学に対する関心を高めるとともに、その特質を理解するうえで必要な専門的知識を習得する。同時に英米の近代文学の基本的な研究方法や課題発見力及び解決力を身につける。
アメリカ文学の古典であり、アメリカ植民地時代のピューリタニズムとアメリカの独立の時代を見事に描いたNathaniel Hawthorneの文学、超絶主義（Transcendentalism）を唱え、アメリカの独自思想の構築に貢献したR.L.Emerson、民主主義の国アメリカの新しい、独立心の強い女を描いたHenry JamesのDaisy Miller、アメリカの国民的作家であり、Minorityの問題に真正面から取り組んだMark Twainなどの小説の一節を読んで、アメリカ文学の古典とその背景にある文化への理解を深めていく。

教科書 /Textbooks

『Let's Learn English from American Literature I』（英宝社） 早瀬博範・江頭理江 編著
適宜テキストの補充コピーなども配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『楽しく読めるアメリカ文学』 高田賢一編著（ミネルヴァ書房）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画
概要のとおり、授業回ごとに作品をピックアップし、作品の特徴や背景について学ぶ。また、文学作品特有の英語表現についても触れていく。
(【 】はキーワードを表す)
第1回：授業全体のイントロダクション
第2回：Nathaniel Hawthorne: Short Stories
第3回：Nathaniel Hawthorne: The Scarlet Letterをどう読むか？
第4回：Nathaniel Hawthorne: テーマは何なのか？
第5回：R・W・Emerson: 超絶主義とは？
第6回：R・W・Emerson: 超絶主義 Nature
第7回：Mark Twain: Adventures of Huckleberry Finn イン트로ダクション
第8回：Mark Twain: Adventures of Huckleberry Finn 31章をどう読むか
第9回：Mark Twain: Adventures of Huckleberry Finn 最終章をどう読むか？
第10回：Henry James: Daisy Miller イン트로ダクション
第11回：Henry James: Daisy Miller テーマは何なのか？
第12回：Edgar Allan Poe イン트로ダクション
第13回：Edgar Allan Poe The Black Cat
第14回：Edgar Allan Poe 他の作品の主題との関連
第15回：授業全体のまとめ
定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% レポート 30% 日常の従業への取り組み 20%

アメリカの18-19世紀文学 【昼】

専門教育科目
選択科目
英米文学・文化科目群

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を必ず行ってください。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ文化史【昼】

専門教育科目
選択科目
英米文学・文化科目群

担当者名 /Instructor 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アメリカ文化理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	アメリカ文化の理解に関わる資料を活用した調査研究能力を修得する。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	アメリカ文化に見られる諸問題について、発見・分析できる。
	プレゼンテーション力 実践力（チャレンジ力）		
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	アメリカ文化史に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカ文化史

ARE227M

授業の概要 /Course Description

21世紀に入り20年近くが経過した現在でも、アメリカ社会は相変わらず、人種や民族の問題を抱えている。人種や民族をめぐる問題は、アメリカ合衆国の原則ともいえる民主主義を揺るがしかねない深刻な一面をはらんでいる一方で、アメリカのダイナミズムの源にもなりうる。本講義では主に、アフリカ系アメリカ人、日系人、ヒスパニックを取り上げ、その歴史的背景を踏まえ、今日のアメリカ社会における人種や民族をめぐる問題を考える。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

開講時及び授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 アフリカ系アメリカ人の歴史：南北戦争以前の状況
- 第3回 アフリカ系アメリカ人の歴史：南北戦争後の南部社会
- 第4回 アフリカ系アメリカ人の歴史：「分離すれども平等」の原則の確立と黒人の抵抗運動
- 第5回 アフリカ系アメリカ人の歴史：「分離すれども平等」の原則の否定
- 第6回 アフリカ系アメリカ人の歴史：公民権運動の進展
- 第7回 アフリカ系アメリカ人の歴史：アフリカ系アメリカ人を取り巻く今日の状況
- 第8回 日系アメリカ人の歴史：前世紀転換期における移住の開始
- 第9回 日系アメリカ人の歴史：20世紀初頭の日本人移民制限の動き
- 第10回 日系アメリカ人の歴史：太平洋戦争の勃発と強制立ち退き
- 第11回 日系アメリカ人の歴史：第二次世界大戦における日系人部隊
- 第12回 日系アメリカ人の歴史：戦後の補償問題
- 第13回 ヒスパニック系アメリカ人の歴史：ブラセロ計画と1965年移民法
- 第14回 人種・民族をとりまく今日の状況
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、学期末試験(100%)で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に授業中に紹介された参考文献を積極的に読み、事後はノートや配布資料を見ながら各自で復習する。また、授業に関連するものを中心にニュースに目を通す。

履修上の注意 /Remarks

授業中に紹介する参考文献等を積極的に読むこと。

アメリカ文化史 【昼】

専門教育科目
選択科目
英米文学・文化科目群

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの社会と文化 【昼】

専門教育科目
選択科目
英米文学・文化科目群

担当者名 /Instructor ODU 教員 / 国際教育交流センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アメリカの社会と文化についての諸問題について、専門的知識を身に付けている。
技能	専門分野のスキル	●	アメリカの社会と文化の諸問題を正しく理解し、情報の収集や分析ができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力） 社会的責任・倫理観		
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	卒業後も、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

(英米) アメリカの社会と文化	ARE222M
(国関) 地域研究特講	ARE200M

授業の概要 /Course Description

後日揭示

教科書 /Textbooks

後日揭示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

後日揭示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

後日揭示

成績評価の方法 /Assessment Method

後日揭示

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

後日揭示

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの都市文化 【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科, 福田 展淳 / Hiroatsu FUKUDA / 建築デザイン学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Semester 学期 /Semester 1学期 /1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アメリカ都市文化理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	アメリカ都市文化の理解に関わる資料を活用した調査研究能力を修得する。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	アメリカ都市文化に関する諸問題について、発見・解決できる。
	プレゼンテーション力 実践力（チャレンジ力）		
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	アメリカ都市文化に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカの都市文化

ARE224M

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、20世紀前半を中心としたアメリカの近代建築と、それらが建ち並ぶ都市の歴史を学び、現代合衆国都市の文化や人びとのくらしの源流を探ることにある。本講義では、福田は、合衆国の1900年以降に建設されたモダニズム建築を取り上げ、映像や写真を中心に、デザインの裏側にあるアメリカの文化、建築家の思考、建築デザインが生み出される社会的な背景などを解説する。寺田は、19世紀末から20世紀前半の合衆国社会の変容と都市における居住空間の形成、およびそれに伴い発生する問題について解説する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Twentieth-Century American Architecture: The Buildings and Their Makers (W. W. Norton & Company, 2000) ; 竹田有『アメリカ労働民衆の世界』(ミネルヴァ書房、2010年) ; リチャード・プランツ『ニューヨーク 都市居住の社会史』(鹿島出版会、2005年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. はじめに(寺田)
2. シカゴの近代建築 1 : スカイスクレーパーの誕生 (福田)
3. シカゴの近代建築 2 : 世界の都市に影響を与えたシカゴの超高層建築(福田)
4. ニューヨークの近代建築 1 : ネオゴシックからアールデコ超高層へ(福田)
5. ニューヨークの近代建築 2 : モダニズムからポストモダニズム超高層へ(福田)
6. アメリカの巨匠建築家 : フランク・ロイド・ライト(福田)
7. 歩き回れる都市の変容 1 : 20世紀初頭アメリカにおける産業化・都市化(寺田)
8. 歩き回れる都市の変容 2 : 20世紀初頭アメリカにおける移民の流入 (寺田)
9. メトロポリスの形成 1 : エスニシティと階級(寺田)
10. メトロポリスの形成 2 : 人種と階級(寺田)
11. 都市における対立と隔離の発生 1 : 1919年シカゴ人種暴動(寺田)
12. 郊外における中産階級の再生産 : オークパーク(寺田)
13. 都市における対立と隔離の発生 2 : 1992年ロサンゼルス暴動 (寺田)
14. 都市の変容 : テロイトの衰退と再生 (寺田)
15. 学生レポート講評とまとめ(福田 / 寺田)

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、試験(福田)50%、試験(寺田)50%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に授業で紹介された参考文献等を積極的に読んだり見たりする。事後はノートや配布資料を見ながら各自で復習する。

履修上の注意 /Remarks

授業中に紹介する参考文献等を積極的に読むこと。

アメリカの都市文化 【昼】

専門教育科目
選択科目
英米文学・文化科目群

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの大衆文化 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アメリカの大衆文化の特質を理解する上で必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	アメリカの大衆文化の基本的な研究方法を身に付ける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	アメリカの大衆文化に関する課題を見出し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	アメリカの大衆文化の特質に対する関心を高める。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカの大衆文化

ARE221M

授業の概要 /Course Description

日本人も接する機会が多いハリウッド映画をアメリカ大衆文化の題材として取りあげ、映画の中にアメリカ人の精神性や、美意識、価値観がいかなる形で投映されているかを考察する。そのような分析を行うことによって、映画とアメリカ文化との関連性に対する理解を深めてもらう。講義では、アメリカ文化の特性を、映画を通して可能な限り具体的に把握できるよう工夫したい。このプロセスを通して、アメリカ人の価値観や美意識の独自性への理解も深めてもらいたい。最終的には、ハリウッド映画を文化的な文脈の中で分析的に鑑賞する視点を、授業を通して体得していただくことができたら幸いである。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『映画で学ぶアメリカ文化』、スクリーンプレイ出版（映画とアメリカ文化の関連性を様々な視点から）
- 『映画で楽しむアメリカ文学』、金星堂、（アメリカ文学と映画の比較の視点から）
- 『映画で楽しむアメリカの歴史』、金星堂（映画とアメリカ史の関連性を様々な視点から）
- 『サーカスが来た!』、亀井俊介先生、岩波書店、（指定図書コーナー）（サーカス、オペラハウス、ターザン、ハリウッド）
- 『アメリカンヒーローの系譜』、亀井俊介先生、研究社、クリーム色、（ランボー、ロッキー）
- 『アメリカの大衆文化』、明石書店、清水知久（映画、音楽、スポーツ、広告）
- 『アメリカの大衆文化』、研究社、亀井俊介、（テレビ、漫画、音楽、映画など）
- 『アメリカが見えてくる』、サイマル出版会、越智道雄（アメリカ社会の諸現象と映画の関連性）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方、参考文献の説明
- 2回 『ビッグ』を鑑賞
- 3回 『ビッグ』の子供描写の特徴
- 4回 『A.I.』、『ターミネーター2』、『バック・トゥ・ザ・フューチャー』の子供描写の概観
- 5回 アメリカ映画の子供描写の特徴とアメリカ史との関係
- 6回 『フェイス/オフ』、『ターミネーター2、3』、『マスク』、『ミッション・インポッシブル』の変身描写の特徴
- 7回 アメリカ映画に登場する変装描写の全体的特徴
- 8回 アメリカ映画の変身・変装へのこだわりと、アメリカ文化との関係
- 9回 『プラダを着た悪魔』に読み取れる金銭感覚の特徴
- 10回 『フォレスト・ガンプ』、『チャーリーとチョコレート工場』に読み取れる金銭感覚の特徴
- 11回 アメリカ映画に読み取れる金銭感覚と、アメリカ文化との関係
- 12回 『スタンド・バイ・ミー』、『スター・ウォーズ：シスの復讐』、『ダーティハリー2』の銃描写の特徴
- 13回 アメリカ映画の銃描写と、アメリカ史との関係
- 14回 『アナと雪の女王』、『モンスターズ・インク』、『タイタニック』、『魔法にかけられて』に見る階級制の位置づけ
- 15回 アメリカ映画における階級制の位置づけと、アメリカ文化との関係

アメリカの大衆文化 【昼】

専門教育科目
選択科目
英米文学・文化科目群

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験100% 持ち込みは一切、不可とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前：講義で取り上げる映画とテーマは事前に知らせますので、各自で映画を事前に鑑賞しておいて下さい。講義で取り上げる映画の大半は、図書館にソフトがあります。

授業後：講義ノートと配布プリントを再度読み直し、可能な限り講義のテーマと関連した書物を閲覧し、テーマに関する知識の更なる充実を図って下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国社会経済史I 【昼】

担当者名 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 中国の社会経済史に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル 中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 中国の社会経済史に関する諸問題について分析・解決できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 中国の社会経済史に対する関心を深めることができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国社会経済史 I

HIS220M

授業の概要 /Course Description

明代に成立した伝奇小説である『三国志通俗演義』を通して、中国の社会と文化、経済と政治を包括的に学ぶ。三国志に描かれている人物の行動様式から、中国人がいかなる社会を構成し、いかなる経済を営んでいたかを、事例研究的に学ぶ。特に日本社会との相違点について論じる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。ビデオとプリントを中心教材とする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山本進『清代社会経済史』創成社、2002年。
山本進『清代の市場構造と経済政策』名古屋大学出版会、2002年。
山本進『清代財政史研究』汲古書院、2002年。
山本進『明清時代の商人と国家』研文出版、2002年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス(三国志と三国演義との違い)
- 第2回 桃園の誓い(農村部における定期市)
- 第3回 桃園の誓い(伝統中国の地方政治)
- 第4回 三顧の礼(経済の要としての古代荊州)
- 第5回 三顧の礼(古代中国の書物)
- 第6回 三顧の礼(伝統中国の葬礼)
- 第7回 三顧の礼(三顧の礼が意味するもの)
- 第8回 三顧の礼(関羽に代表される中国人の面子)
- 第9回 赤壁の戦い(曹操の華北と孫権の江南との経済的相違)
- 第10回 赤壁の戦い(受禅台を通して見た貴族制への移行)
- 第11回 五丈原(中原と五胡との歴史的関係)
- 第12回 五丈原(蜀の棧道を通して見た交通と経済)
- 第13回 五丈原(兵法家孔明の評価)
- 第14回 晋の三国統一の社会経済的意味
- 第15回 まとめの回(小説を通して見た伝統中国の諸様相)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 第1回小テスト30%
- 第2回小テスト30%
- 第3回小テスト40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

三国志の話を知らない受講生は小説や漫画・映画でも構わないから事前にあらすじを予習しておくこと。事後の学習は特に必要ないが、他の講義を聞く時の参考とすべきこと。

履修上の注意 /Remarks

ビデオは中国語で放送するが、日本語字幕が付く。「東洋史」を履修していることが好ましい。
三国志のあらすじは小説などで事前に学んでおくこと。授業後は小テスト対策も兼ねてレジюме・口頭説明の内容を再確認すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国社会経済史II 【昼】

担当者名 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 中国の社会経済史に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル 中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 中国の社会経済史に関する諸問題について分析・解決できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 中国の社会経済史に対する関心を深めることができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国社会経済史II

HIS221M

授業の概要 /Course Description

韓国ドラマ『イ・サン』を通して中国・朝鮮のような官僚専制社会と日本のような共同体社会との相違点について論じる。また、朝鮮と中国・日本との関係に触れられた部分などを素材として、近世東アジア社会の外交関係と貿易関係について論ずる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。DVDと配布プリントを使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山本進『清代社会経済史』創成社、2002年。
山本進『清代の市場構造と経済政策』名古屋大学出版会、2002年。
山本進『清代財政史研究』汲古書院、2002年。
山本進『明清時代の商人と国家』研文出版、2002年。
山本進『環渤海交易圏の形成と変容』東方書店、2009年。
山本進『大清帝国と朝鮮経済』九州大学出版会、2014年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス(儒教社会としての中国と朝鮮)
- 第2回 中国や朝鮮の宮殿構造
- 第3回 中国や朝鮮の都市景観
- 第4回 清国使節団
- 第5回 中朝貿易
- 第6回 朝鮮における道遣い制の普及と銅銭不足
- 第7回 朝鮮の対中輸出品としての紅蔘開発
- 第8回 乱塵(商業独占権と特権商人の保護)
- 第9回 辛亥通共(乱塵の禁止)
- 第10回 中国・朝鮮・日本における火器の歴史
- 第11回 燕行使
- 第12回 中朝陸上交通路と沿辺都市の役割
- 第13回 承政院日記の洗草の意味するもの
- 第14回 朝鮮の対清外交
- 第15回 まとめの回(銀経済を維持した中国と銭経済に移行した朝鮮)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 第1回小テスト30%
- 第2回小テスト30%
- 第3回小テスト40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には概説書などにより近世東アジアの歴史を学んでおくこと。事後には定期的に小テストを行うので、復習も行うこと。

履修上の注意 /Remarks

「日本史」や「東洋史」を履修していることが好ましい。
概説書等を通して高等学校の世界史レベルの基礎知識を事前に学んでおくこと。授業後は小テスト対策も兼ねてレジュメ・口頭説明の内容を再確認すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国経済論I【昼】

担当者名 白石 麻保 / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 中国経済に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル 中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 中国経済に関する諸問題について分析・解決できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 中国経済に対する関心を深めることができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国経済論 I

ECN253M

授業の概要 /Course Description

中国の市場経済の特徴やそこでの人々の行動を理解することを本講義の目的とします。中国経済論Iでは、中国で行われてきた経済改革の回顧と改革に伴う中国経済・社会の変化を解説し、中国の市場経済が現在に至った経緯について理解を深めます。更にこれによって現在中国経済が抱える諸問題についてその問題が生じた経緯を理解し、それらの解決・解消の可能性を探ります。

教科書 /Textbooks

指定しない。資料は担当者より提示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

南亮進 牧野文夫『中国経済入門』第4版 日本評論社 2016年
岩崎一郎 『比較経済論講義』日本評論社 2018年
白砂堤津耶 『例題で学ぶ 初歩からの統計学』第2版 日本評論社 2015年
伊藤公一郎 『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』光文社新書 2018年
他の参考文献は授業中に提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 ガイダンス
 - 2回 経済発展とは【開発】
 - 3回 市場経済【価格】【所有】
 - 4回 さまざまなタイプの市場経済【制度】【政府】
 - 5回 中国の行政システム【「戸籍」】【都市】【農村】
 - 6回 中国経済を見る視点と枠組(1)【SNA】
 - 7回 中国経済を見る視点と枠組(2)【企業】【利潤最大化】【政府】
 - 8回 市場経済化(1)【計画経済】【市場経済】【インセンティブ】
 - 9回 市場経済化(2)【農業】【農村】【生産性】
 - 10回 市場経済化(3)【インセンティブ】【工業化】【民営化】
 - 11回 リーマンショック前後の中国経済(1)【国有企業】【民営企業】【規制緩和】
 - 12回 リーマンショック前後の中国経済(2)【国進民退】
 - 13回 リーマンショック前後の中国経済(3)【上場企業】【資本移動】
 - 14回 中国の労働市場【賃金】
 - 15回 まとめ

* 但し、講義の進捗状況等によって、内容には変更の可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

70% : 定期試験 15% : レポート 15% : 講義への取り組み

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：各回の講義内容に関して、開発経済学や途上国に関するトピックや事項に可能な限り触れてください。
事後学習：経済学のエッセンスも出来るだけ講義で触れていくので、実態経済でそれがどのように表れているか考えてください。

履修上の注意 /Remarks

経済問題に関するニュースを日ごろからチェックしてください。
配布資料を遺漏なく入手すること。講義後には自筆メモ・ノートもあわせて内容を整理してください。
講義中には中国経済事情とあわせて出来るだけ経済学等のエッセンスも伝えていくので、講義後には、それらの習得した知識を生かしながら日本経済新聞等を読んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国経済論II 【昼】

専門教育科目
選択科目
中国ビジネス科目群

担当者名 /Instructor 白石 麻保 / 中国学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 中国経済に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル 中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 中国経済に関する諸問題について分析・解決できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 中国経済に対する関心を深めることができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国経済論II

ECN254M

授業の概要 /Course Description

本講義では経済改革が多く分野について一応の終結をみた2000年以降に、中国で形成された市場経済の特徴、特質について、主として金融、為替の動向を例に挙げながら議論していきます。
またリーマンショック前後での相違点に付いても言及し、以上の議論を踏まえて中国経済が直面する課題を整理していきます。

教科書 /Textbooks

指定しない。資料は担当者より提示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

南亮進 牧野文夫『中国経済入門』第4版 日本評論社 2016年
岩崎一郎 『比較経済論講義』日本評論社 2018年
白砂堤津耶 『例題で学ぶ 初歩からの統計学』第2版 日本評論社 2015年
伊藤公一郎 『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』光文社新書 2018年
他の参考文献は授業中に提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 中国の経済発展の特徴(1)【改革開放】【市場経済化】
- 3回 中国の経済発展の特徴(2)【財政政策】【金融政策】
- 4回 政策の実行とその影響(1)【地方政府】【企業】
- 5回 政策の実行とその影響(2)【経済改革】
- 6回 金融政策と金融システム(1)【間接金融】【直接金融】【中央銀行】
- 7回 金融政策と金融システム(2)【引き締め政策】【緩和政策】
- 8回 金融政策と金融システム(3)【金融政策の方法と中国での効果】
- 9回 通貨・為替制度の変遷(1)【変動相場制】【為替レート】
- 10回 通貨・為替制度の変遷(2)【輸出】【輸入】【人民元】
- 11回 通貨・為替制度の変遷(3)【国際資本移動】【金融政策】
- 12回 為替の動向と金融政策の効果 【国際金融のトリレンマ】
- 13回 中国経済が直面する課題(1)
- 14回 中国経済が直面する課題(2)
- 15回 まとめ

* 但し、講義の進捗状況等によって、内容には変更の可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

70% : 定期試験 15% : レポート 15% : 講義への取り組み

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習 : 各回の講義内容に関して、開発経済学や途上国に関するトピックや事項に可能な限り触れてください。

事後学習 : 経済学のエッセンスも出来るだけ講義で触れていくので、実態経済でそれがどのように表れているか考えてみてください。

履修上の注意 /Remarks

経済問題に関するニュースを日ごろからチェックしてみてください。

配布資料を遺漏なく入手すること。講義後には自筆メモ・ノートもあわせて内容を整理してみてください。

講義中には中国経済事情とあわせて出来るだけ経済学等のエッセンスも伝えていくので、講義後には、それらの習得した知識を生かしながら日本経済新聞等を読んでみてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国文化論【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 中国文化に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル 中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 中国文化に関する諸問題について分析・解決できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 中国文化に対する関心を深めることができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国文化論

ARE110M

授業の概要 /Course Description

中国文化を古代文明から現代に至るプロセスの中で、キーワードを拾い、それを解明することで独自性と普遍性を見つけてみる。

教科書 /Textbooks

プリント教材を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『図説 中国文化百華』全18巻 農文協

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 古代文明遺跡が伝えるもの 「三星堆」に見る揚子江文明
- 第2回 中国シャーマニズムに現れる仮面劇
- 第3回 「十二支」という暦の考え方
- 第4回 古代楽器が伝えたもの
- 第5回 孔子の存在 儒教の意義
- 第6回 中国に於ける仏教文化の変遷
- 第7回 書道の意義
- 第8回 絵画の伝統
- 第9回 国技としての気功、太極拳
- 第10回 漢語のパワー
- 第11回 科学文明の受容 ①写真、映画
- 第12回 科学文明の受容 ②家電、携帯電話
- 第13回 科学文明の受容 ③IT産業
- 第14回 東洋医学の現況
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・・・20% レポート評価・・・80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された課題を予習し、毎回学習内容を復習すること。

履修上の注意 /Remarks

授業前に書物またはインターネット情報から該当事項に関する概要を捉えておく。授業後、講義中に指摘された項目についてノートにまとめておく。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経済論I【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際経済の分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	国際経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際経済に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの国際経済に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際経済論 I

ECN240M

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、自由貿易交渉、貿易摩擦、海外直接投資など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済理論の習得が必要不可欠である。

< 本講義の概要 >

- 1、国家間の貿易の発生する仕組みや貿易の利益など伝統的な貿易理論を学ぶ。
- 2、輸入関税、輸出補助金など貿易政策の経済効果を部分均衡分析を用いて学ぶ。
- 3、現実には保護主義的政策が多く実施されている理由について理解する。

< 本講義の主な到達目標 >

- 1、国際経済に関する諸問題を理解するために必要な専門知識を習得する。
- 2、貿易政策の経済効果を理解するために部分均衡分析の手法を身につける。
- 3、グローバル社会が抱える諸問題を考察し、いかに解決できるか経済学の視点から理解できるようになる。

教科書 /Textbooks

大川昌幸著『コア・テキスト国際経済学』（第2版）（新世社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

石川城太他著『国際経済学をつかむ』（有斐閣）
石井安憲他著『入門・国際経済学』（有斐閣）
阿部顕三・遠藤正寛著『国際経済学』（有斐閣アルマ）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 リカード・モデル（1）【絶対優位】【比較優位】
- 3回 リカード・モデル（2）【貿易パターン】【相対価格の決定】
- 4回 リカード・モデル（3）【貿易利益】
- 5回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（1）【要素賦存】【要素集約度】
- 6回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（2）【要素賦存と生産】【貿易パターン】
- 7回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（3）【財価格と要素価格】【要素価格均等化】
- 8回 貿易政策分析の基礎【部分均衡分析】【消費者余剰】【生産者余剰】
- 9回 小国の貿易政策（1）【関税】
- 10回 小国の貿易政策（2）【輸出補助金】【輸入数量制限】
- 11回 小国の貿易政策（3）【有効保護】
- 12回 大国の貿易政策（1）【関税】
- 13回 大国の貿易政策（2）【最適関税率】【近隣窮乏化】
- 14回 大国の貿易政策（3）【輸出補助金】【輸入数量制限】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常授業への取り組み 20% 課題提出 20 % 期末試験 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回予習・復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
主に図解分析で講義を進めるので、国際経済論の勉強を通じて論理的思考力を身につけてほしい。
部分均衡分析に関しては、清野著『ミクロ経済学入門』（日本評論社）を参照されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論II」と併せて履修することが望ましい。

キーワード /Keywords

比較優位、要素賦存、貿易政策、保護貿易

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際経済の分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	国際経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際経済に関する諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの国際経済に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際経済論II

ECN241M

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、自由貿易交渉、貿易摩擦、海外直接投資など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済理論の習得が必要不可欠である。

<本講義の概要>

- 1、不完全競争市場の下で、貿易政策の経済効果を学ぶ。
- 2、自由貿易協定、海外直接投資が起こる理由と経済的影響について学ぶ。
- 3、貿易政策と環境政策のお互いに与える影響を理解する。

<本講義の主な到達目標>

- 1、国際経済に関する諸問題を理解するために必要な専門知識を習得する。
- 2、貿易政策の経済効果を理解するために部分均衡分析の手法を身につける。
- 3、グローバル社会が抱える諸問題を考察し、いかに解決できるか経済学の視点から理解できるようになる。

教科書 /Textbooks

大川昌幸著『コア・テキスト国際経済学』（第2版）（新世社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

石川城太他著『国際経済学をつかむ』（有斐閣）
石井安憲他著『入門・国際経済学』（有斐閣）
阿部顕三・遠藤正寛著『国際経済学』（有斐閣アルマ）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 不完全競争と国際貿易（1）【国内独占】
- 3回 不完全競争と国際貿易（2）【ダンピング】
- 4回 不完全競争と国際貿易（3）【製品差別化】【産業内貿易】
- 5回 不完全競争と貿易政策（1）【関税】
- 6回 不完全競争と貿易政策（2）【輸入数量制限】
- 7回 不完全競争と貿易政策（3）【外国独占】
- 8回 不完全競争と貿易政策（4）【戦略的貿易政策】
- 9回 生産要素の国際移動（1）【海外直接投資】
- 10回 生産要素の国際移動（2）【国際労働移動】
- 11回 地域経済統合（1）【FTA】【CU】【EPA】
- 12回 地域経済統合（2）【貿易創出効果】【貿易転換効果】
- 13回 貿易と環境（1）【貿易政策から環境への影響】
- 14回 貿易と環境（2）【環境政策から貿易への影響】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常授業への取り組み 10% 課題提出 30 % 期末試験 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回予習・復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学、国際経済論Iをすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
主に図解分析で講義を進めるので、国際経済論の勉強を通じて論理的思考力を身につけてほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済論Iの履修済みが望ましい。

キーワード /Keywords

不完全競争、貿易政策、経済統合、海外直接投資、貿易と環境

途上国開発論 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 途上国が直面している諸課題と解決に関して体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 途上国において何が政策課題を見極め、政策的な分析と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 途上国が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、日本人の市民生活と日本政府の政策とどのようにつながっているかを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

途上国開発論

PLC215M

授業の概要 /Course Description

グローバル化の波によって、めまぐるしく変化している現在の世界において、今世紀は開発途上国がその中心舞台に躍り出ることが予想されています。そのテーマといえば、貧困問題、環境問題、人口問題、民族紛争、人権問題など枚挙にいとまがないほどです。本講義では、途上国の開発と環境に焦点を絞り（事例としてはインド・バングラデシュ）、数々のテーマと切り口で臨みます。日本の若者が海外に出ていくことを躊躇していると言われていますが（隣国の韓国とは大違い）、同じ地球に生きる人間として途上国の問題にも真正面からぶつかり、世間で言われる途上国の違った側面を捉えることに挑戦してください。最後に、本授業は、日本の過去・現在・将来において重要な関係を持つ途上国の諸問題の知識の吸収や理解に重点を置き、卒業以前に途上国そのものを自らの眼で見極めるといった実践力、卒業後も、途上国に関心を持ち学習するといった能力を培うことを主な目標としています。

教科書 /Textbooks

特に教科書は指定せずに各回に配布する資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ジェニファー・エリオット著、古賀正則訳『持続可能な開発』古今書院、2003年
- * 三宅博之『開発途上国の都市環境～バングラデシュ・ダカ 持続可能な社会の希求』明石書店、2008年、3800円
- * 菊地京子編『開発学を学ぶ人のために』世界思想社、2001年、1900円
- * Robert B.Potter et al., Geographies of Development 3rd ed. Pearson Education, Harlow, 2008
- * 太田和宏『貧困の社会構造分析～なぜフィリピンは貧困を克服できないのか』法律文化社、2018年、5500円
- * 村山真弓・山形辰史編『知られざる工業国 バングラデシュ』アジア経済研究所 IDE-JETRO、5400円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|---|-------------------|
| 第1回 「途上国開発論（途上国の開発政策）」のねらい、担当教員の途上国での体験からの受講生への問題提起 | |
| 第2回 開発概念の検討～歴史的推移（SDGsまで） | 【持続可能な開発（SD）】 |
| 第3回 成長概念と貧困概念～貧困線とアマルティア・セン考え方 | 【貧困概念】【アマルティア・セン】 |
| 第4回 急速の経済発展～インドのIT産業を事例として | 【IT産業】 |
| 第5回 人口問題～中国の1人っ子政策の転換と先進国の少子化対策 | 【一人っ子政策】【少子化】 |
| 第6回 都市産業問題～インフォーマルセクターの存在 | 【インフォーマルセクター】 |
| 第7回 居住問題～スラム・スクオッタ居住区 | 【スクオッタ居住区】 |
| 第8回 資源分配をめぐる（エネルギー技術のあり方） | 【資源分配】 |
| 第9回 環境問題～森林破壊、海洋汚染など | 【森林破壊】 |
| 第10回 環境問題～都市問題、特に廃棄物管理問題を中心に | 【廃棄物管理問題】 |
| 第11回 保健・医療問題～感染症、下痢を中心に | 【感染症】 |
| 第12回 途上国での農漁村での農業・漁業の在り方 | 【農業・漁業】 |
| 第13回 途上国の諸問題の解決への取り組みと結果～国連とODA | 【ODA】 |
| 第14回 台頭するNGO～インド・バングラデシュの事例より | 【NGO】 |
| 第15回 まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の内容にかかわる日常的姿勢...20% 小課題の提出 ... 20% 試験 ... 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は、日ごろから途上国に関心を持ち、新聞などから記事を抽出、また、関係文献を読んでおくこと、事後学習は、授業で習ったことをノートに再度まとめ、コメントを加えておくことなどの復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

時々小課題の提出を求めます。努めて途上国に関する様々な新聞記事を読み、テレビ番組を視聴してください。
英語の文章も少しは読むので、日頃から英語の勉強も怠りなりのないようになっています。
同時に、授業の反復練習をしつつ、それを参考に自主的に関係文献を読み、まとめる作業を行ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

途上国の現実を知り、興味深い事象を探し、もっと足を踏み入れてほしい。もっと本を読もう。

キーワード /Keywords

開発途上国 (インド・ バングラデシュなど)、アマルティイ・ セン、環境問題、持続可能な開発目標 (SDGs)

ビジネス中国語 A 【昼】

担当者名 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	
思考・判断・表現	その他言語力	● ビジネス中国語に関して、基礎レベルのコミュニケーション能力を身につけている。
	課題発見・分析・解決力	
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	
	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス中国語A

CHN360M

授業の概要 /Course Description

本授業では、
①基礎的な中国語コミュニケーション能力、さらにコミュニケーションを可能にする文法力の充実を目指す。
すでに中国語を1～2年間学び、一定の知識は身につけていると思うが、
中国語検定3級レベルの中国語をマスターできるよう、さらにブラッシュアップしていく。
②3年目の中国語として、ビジネス上必要な内容や基礎会話を知り、使えるようにしていく。
これまで学んだ中国語は学校や旅行の場面、或いは中国理解に役立つ内容を持つものだったので、この授業では、
今後、中華圏のみならず、シンガポールをはじめ、東南アジアや欧米の華人社会と関連のある仕事に就く可能性を感じる
学生諸君のニーズに応える「ビジネス中国語」の授業としていく。
③中国文化・中国事情に関する理解の深化。
これまでも中国や中国人に関する知識は習得してきたであろうが、
さらに中国人とコミュニケーションする際に知っておきたい知識にも触れる。
以上の3点を目標とする。

※授業科目名は「ビジネス中国語」ではあるが、まずは①を充実させることを主眼にして授業を進める予定である。

教科書 /Textbooks

『ストーリーで学ぶビジネス中国語』
山田留里子 賀南 于梅 長野由季 共著
駿河台出版社
¥2,200 + 税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回 概説 中国文化・中国事情を学ぶ
- 第二回 基礎文法確認 第1課(1) 本文「赴任のあいさつ」 文法ポイント
- 第三回 基礎文法確認 第1課(2) ビジネス豆知識；肩書き 練習問題
- 第四回 基礎文法確認 第2課(1) 本文「電話連絡」 文法ポイント
- 第五回 基礎文法確認 第2課(2) ビジネス豆知識；中国人の名前 練習問題
- 第六回 基礎文法確認 第3課(1) 本文「ランチタイム」 文法ポイント
- 第七回 基礎文法確認 第3課(2) ビジネス豆知識；中国料理 練習問題
- 第八回 中国文化・中国事情を学ぶ
- 第九回 基礎文法確認 第4課(1) 本文「面談の予約」 文法ポイント
- 第十回 基礎文法確認 第4課(2) ビジネス豆知識；電話の常用表現 練習問題
- 第十一回 基礎文法確認 第5課(1) 本文「Eメール」 文法ポイント
- 第十二回 基礎文法確認 第5課(2) ビジネス豆知識；中国の祝日 練習問題
- 第十三回 基礎文法確認 第6課(1) 本文「出張の準備」 文法ポイント
- 第十四回 基礎文法確認 第6課(2) ビジネス豆知識；出張の常用表現 練習問題
- 第十五回 一学期のまとめ

※進度は若干前後する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 定期テスト... 60%
- 提出物(宿題)... 21%
- 授業への取り組み(授業中の発音・発表)... 19%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

宿題をやり、当該の授業内容をしっかり復習すること。
文法に関して忘れていた部分があれば、1年時に使っていた教科書を見直し確認することが重要。
教科書の会話はCDを聞き、何度も音読し、中国語のリズムに慣れ、スムーズに発音できるように。

履修上の注意 /Remarks

原則として、1年次の第2外国語・中国語を履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中に教科書を聞くだけでは力にならないので、授業時間以外にも一定時間の中国語学習の時間を取らなければいけない。学生諸君には負担の大きい授業だという認識があるかも知れないが、しっかりマスターすれば、英語+αとして、職場でもプライベートでもとても役に立つ内容になると思われる。
せっかく1年2年で中国語を選択したのであれば、もう一歩レベルアップを目指してがんばろう。

キーワード /Keywords

中国語

ビジネス中国語 B 【昼】

担当者名 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	
	その他言語力	● ビジネス中国語に関して、基礎レベルのコミュニケーション能力を身につけている。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス中国語B	CHN361M
----------	---------

授業の概要 /Course Description

本授業では、
①基礎的な中国語コミュニケーション能力、さらにコミュニケーションを可能にする文法力の充実を目指す。
すでに中国語を1～2年間学び、一定の知識は身につけていると思うが、
中国語検定3級レベルの中国語をマスターできるよう、さらにブラッシュアップしていく。
②3年目の中国語として、ビジネス上必要な内容や基礎会話を知り、使えるようにしていく。
これまで学んだ中国語は学校や旅行の場面、或いは中国理解に役立つ内容を持つものだったので、この授業では、
今後、中華圏のみならず、シンガポールをはじめ、東南アジアや欧米の華人社会と関連のある仕事に就く可能性を感じる
学生諸君のニーズに応える「ビジネス中国語」の授業としていく。
③中国文化・中国事情に関する理解の深化。
これまで中国や中国人に関する知識は習得してきたであろうが、
さらに中国人とコミュニケーションする際に知っておきたい知識にも触れる。
以上の3点を目標とする。

※授業科目名は「ビジネス中国語」ではあるが、まずは①を充実させることを主眼にして授業を進める予定である。

教科書 /Textbooks

『ストーリーで学ぶビジネス中国語』
山田留里子 賀南 于梅 長野由季 共著
駿河台出版社
¥2,200 + 税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回 概説 中国文化・中国事情を学ぶ
- 第二回 基礎文法確認 第7課(1) 本文「空港出迎え」 文法ポイント
- 第三回 基礎文法確認 第7課(2) ビジネス豆知識；タクシー乗車の際の常用表現 練習問題
- 第四回 基礎文法確認 第8課(1) 本文「歓迎宴」 文法ポイント
- 第五回 基礎文法確認 第8課(2) ビジネス豆知識；外食の常用表現 練習問題
- 第六回 基礎文法確認 第9課(1) 本文「工場の視察」 文法ポイント
- 第七回 基礎文法確認 第9課(2) ビジネス豆知識；環境汚染や食品安全に関する流行語 練習問題
- 第八回 中国文化・中国事情を学ぶ
- 第九回 基礎文法確認 第10課(1) 本文「ビジネスレター」 文法ポイント
- 第十回 基礎文法確認 第10課(2) ビジネス豆知識；手紙 練習問題
- 第十一回 基礎文法確認 第11課(1) 本文「価格交渉」 文法ポイント
- 第十二回 基礎文法確認 第11課(2) ビジネス豆知識；買い物の常用表現 練習問題
- 第十三回 基礎文法確認 第12課(1) 本文「苦情処理」 文法ポイント
- 第十四回 基礎文法確認 第12課(2) ビジネス豆知識；お土産に関する常用表現 練習問題
- 第十五回 二学期のまとめ

※進度は若干前後する場合あり。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 定期テスト... 60%
- 提出物(宿題)... 21%
- 授業への取り組み(授業中の発音・発表)... 19%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

宿題をやり、当該の授業内容をしっかり復習すること。
文法に関して忘れていた部分があれば、1年時に使っていた教科書を見直し確認する事が重要。
教科書の会話はCDを聞き、何回も音読し、中国語のリズムに慣れ、スムーズに発音できるように。

履修上の注意 /Remarks

原則として、1年次の第2外国語・中国語を履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中に教科書を開くだけでは力にならないので、授業時間以外にも一定時間の中国語学習の時間を取らなければいけない。学生諸君には負担の大きい授業だという認識があるかも知れないが、しっかりマスターすれば、英語+αとして、職場でもプライベートでもとても役に立つ内容になると思われる。
せっかく1年2年で中国語を選択したのであれば、もう一歩レベルアップを目指してがんばろう。

キーワード /Keywords

中国語

異文化間コミュニケーション概論【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
ビジネス・コミュニケーション科
目群

担当者名 /Instructor 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

異文化間コミュニケーション概論 MCC212M

授業の概要 /Course Description

日本と主にアメリカを例に取り、異文化接触に伴うコミュニケーション（非言語も含む）の衝突、摩擦の事例を考察し、そのメカニズムを言語的、社会的、文化的要因に分解しながら解明していく。その中で異文化コミュニケーションの関する実践的方法論などにも触れる。

教科書 /Textbooks

授業最初のコースワークの説明の時に知らせる。また必要な資料は授業において適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

チャールズ・プリブル『科学としての異文化コミュニケーション』ナカニシヤ出版
ヘレン・スペンサー＝オアティー編著『異文化理解の語用論』
古田暁（監修）『異文化コミュニケーション』有斐閣選書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースワークの説明
- 第2回 文化とは何か、コミュニケーションとは何か
- 第3回 異文化コミュニケーションの諸相
- 第4回 ことばと文化とコミュニケーション（言語相対性論仮説を含む）
- 第5回 日本語と英語の構造に起因するコミュニケーション・ギャップ
- 第6回 事例観察 各事例とその基となる日米文化の差異（直感的な観察）
- 第7回 ハイコンテキスト、ローコンテキストに基づく分析
- 第8回 日本人の謝罪文化
- 第9回 事例研究 『欧米人が沈黙するとき』聞き取り調査に基づく分析
『日米コミュニケーション・ギャップ』統計的処理の実例
- 第10回 事例研究 実践方法（バーランド）の手順（「私的自己、公的自己」「防御の方策」）
- 第11回 非言語コミュニケーション（Proxemics, Kinesics）
- 第12回 広告、翻訳に見る異文化コミュニケーション
- 第13回 異文化適応、カルチュラル・アシミレーター
- 第14回 研究領域、日韓行動の差異
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での活動40% 期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- （事前）「文化とコミュニケーション」に関する総括的な文献に目を通しておくこと。
- （事後）グローバル社会におけるコミュニケーションのあり方を各自確認すること。

履修上の注意 /Remarks

コミュニケーション論であり、スキルの問題を扱う訳ではない。中心課題は、日本語話者と英語話者との文化的要因に基づくコミュニケーション・ギャップを扱うが、それに付随する様々な現象を幅広く扱っていく。
授業では、取り上げた様々な事例に対して各自の意見を求める、また英語の文献も多用するのでその準備も必要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語概論 【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 真一郎 / Shinichiro Terada / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会の諸問題についての専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	物事をグローバルに考え、諸問題を探求することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	卒業後も、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス英語概論

ENG230M

授業の概要 /Course Description

本講義は、経営学 (Business Studies) の導入として、その主要分野を概観するものです。具体的には、経営組織、人材マネジメント、マーケティング、ファイナンス、イノベーションなどに関する話題を議論します。

講師は、Rochelle Kopp、Brooke Maeda、寺田真一郎の3名が担当します。

本講義と、“Introduction to Tourism Management”、“Introduction to Economics”等の受講により、英米学科 International Business Programへの橋渡しとなります。

教科書 /Textbooks

参考書と同じ。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

"Introduction to Business" (Openstax)
<https://openstax.org/details/books/introduction-business>

オンラインテキストブックです。(無料、pdfでダウンロード可能)
700ページ以上ありますが、講師が必要な部分を指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction - Kopp, Maeda, Terada
- Innovation - Terada
2. Technological Innovation
 3. Innovations Myths, Innovations Theory
 4. Type of Innovation
- Organization, Human Resources Management - Kopp
5. Organization design and staffing
 6. Employee motivation and retention
 7. Company mission, values and culture
 8. Goals and performance evaluation
- Competitive Strategy, Marketing - erada
9. Competition
 10. Competitive Strategy
 11. Marketing Strategy
- Finance - Maeda
12. Corporate Finance / Business Finance
 13. Introduction to Valuation
- Case Study - Kopp, Maeda, Terada
14. Group work, Discussion
- Quiz, Wrap up - Kopp, Maeda, Terada
15. Vocabulary Quiz, Wrap up, International Business Program

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 各講師の指定により、クラス参加、課題、小テスト等により評価します。
 - ・ 最終評価は、次のウエイトにより計算します。
- Innovation - 20%
- Organization, Human Resources Management - 20%
- Competitive Strategy, Marketing - 20%
- Finance - 20%
- Vocabulary Quiz - 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各講師の講義資料をもとに、事前の準備、事後の課題や復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

本講義を受講するための、特別な事前準備はありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Business Studies, Organization, Human Resources, Marketing, Finance, Innovation, Strategy

通訳基礎演習Ⅰ【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
ビジネス・コミュニケーション科
目群

担当者名 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	知識に基づき情報を正確に把握し、通訳として正しく訳出することができる。
	英語力	●	高度な英語運用能力により正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	グローバルな視野から社会の諸問題を学際的、複眼的に思考できる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたり英語や異文化への関心と学習意欲をもち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	広い視野から自分の見解を積極的に提案し、共同活動を推進することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

通訳基礎演習Ⅰ

ENG234M

授業の概要 /Course Description

もしあなたが明日、アメリカから日本にやってくるプロ野球選手の通訳をしなければならなくなったとしたら、今日何をしますか？英語の勉強でしょうか？それより緊急にやらなければならないことは、その選手について、その選手が属していた球団やリーグについて、さらにはアメリカの野球界と日本の野球界の違いについて調べ、記者会見でどんなことが聞かれるのかを想定して準備しておくことが必要となるのではないのでしょうか。そう考えてみると、通訳は、ことばを移し替えるだけではないことがよく分かります。自分が理解できない話題について通訳することはできないからです。その上で、英語力や日本語表現力といった力が必要になってくるわけです。

通訳基礎演習Ⅰでは、英語をきちんと正しく聞き取れるようになるための訓練を基本としながら、多様な話題の教材を用いることにより、知識も身につけてもらえるよう工夫したいと思います。また、毎回の授業に先だって、ウォーミングアップとして日本語と英語の発音（発声）練習を行ないます。なお、今回使用するテキストは英語のみで作られていますので、日本語→英語の練習もできるよう、オリジナル教材を作成したいと思います。

【この授業の到達目標として、以下の内容を考えています。】

①高度な英語運用に必要な専門的知識と、英米及び英語圏の文化・社会の諸問題についての専門的知識を身につけている。②英語の読み・書きが正確にでき、英米及び英語圏の人たちと正確にコミュニケーションを行なうことができる。③物事をグローバルな視野から多面的に考え、英語を通して得られる情報や知識を駆使し、現実社会の諸問題を学際的、複眼的に思考し、解決策を探索することができる。④卒業後も、英語や異文化への高い関心と、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲をもち続けることができる。⑤組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、かつ自らの見解を積極的に提案し、コミュニケーション力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進することができる。

教科書 /Textbooks

『CBS Newsbreak 4』（成美堂）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示することがあります。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 オリエンテーション：これからの授業展開について、通訳について、概説します。
第02回 Unit 1に基づく通訳練習
第03回 Unit 2に基づく通訳練習
第04回 Unit 3に基づく通訳練習
第05回 Unit 4に基づく通訳練習
第06回 Unit 5に基づく通訳練習
第07回 Unit 6に基づく通訳練習
第08回 Unit 7に基づく通訳練習
第09回 Unit 8に基づく通訳練習
第10回 Unit 9に基づく通訳練習
第11回 Unit 10に基づく通訳練習
第12回 Unit 11に基づく通訳練習
第13回 Unit 12に基づく通訳練習
第14回 Unit 13に基づく通訳練習
第15回 補充練習および発展練習・まとめ
※実際の授業では、若干の遅れや、皆さんの関心度に応じた副教材の導入等を行ないますので、必ずしもこの予定通りには進行しない可能性があります。ご了承ください。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的参加の度合い(=実技30%)と学期末試験の得点(70%)を総合して評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストを基に下調べをして臨んで下さい。動画ストーリーミングサービスにより、課程で映像を観ることができますので、あらかじめ映像・音声を確認しておいてください。従業の後は復習をしっかり行なって、スキルを自分のものにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

言うまでもないことですが、授業の時だけの練習では実力はつきません。平素から英語に触れる努力をし、例えばテレビを見ながら通訳練習をしてみる、というような心がけが大切だと思います。
また、毎時間、次週までに準備して欲しいことを確認しますので、予習も怠りのないようお願いします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく知られているように、You Tubeの中に、優れた英語の音声教材がたくさん入っています。こうしたものを使って、自宅で練習していただくのも良いと思います。時にはこうしたものを課題として指定することも考えたいと思います。

キーワード /Keywords

通訳、シャドーイング、

通訳基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor ノリス 志津代 / Shizuyo Norris / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1 Semester 授業形態 /Class Format 講義・実習 /Lecture・Practical クラス /Class 2 - 2 /2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	知識に基づき情報を正確に把握し、通訳として正しく訳出することができる。
	英語力	●	高度な英語運用能力により正確にコミュニケーションを行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	グローバルな視野から社会の諸問題を学際的、複眼的に思考できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたり英語や異文化への関心と学習意欲をもち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	広い視野から自分の見解を積極的に提案し、共同活動を推進することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

通訳基礎演習Ⅰ

ENG234M

授業の概要 /Course Description

本クラスは英日逐次通訳の基礎力構築のため、英語の音声的特徴である Stress-timed rhythmに着目し、どのような音が「聞き取りにくい音・聞き間違いやすい音」であるかを理解し、正しく補正して聞き取れるリスニング力を養成する。そのために(1)正しく聴こえない音への対策として「SVOスロット方式」を導入し、構文を補正しながらディクテーションをする方法を学ぶ。(2)リエゾン箇所など「耳」が捉えにくい音を「口」でリズムよく再現できるように訓練を重ね、英語のProsody(強弱、長短、高低、明瞭曖昧)に留意しながら、英語のリズムを身体化する練習を行う。

リスニングでは、聴覚情報を文字で捉えずに、視覚情報に転換する映像処理方法を学ぶ。映像化すると、情報を記憶に留めやすくなる。さらに映像化しながら、パラグラフ毎に展開を予測し、話の流れと核を捉えようとする聞き方を強化する。「その結果」「一方で」などの「つなぎ言葉」の挿入方法を学び、話のロジック展開を追う。

英語のアウトプット力に関しては、プロソディー再生練習(シャドーイング、暗唱)および英語戻し(英語を和訳し→英語に訳し戻す)練習、パラフレーズ(自分の言葉で言い換える)練習を行い発話力を強化する。今期の教材では暗唱速度を学期末に毎分180語台～200語台に上げることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて資料配布。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

小松達也『通訳の技術』(研究社、2005)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下授業の進捗状況に応じ適宜調整する。

- 第1回 授業説明。学習データ表の説明。ペア逐次通訳体験。
- 第2回 聞き間違いやすい音、聞き取りにくい音を確認。ディクテーション(以降継続)。
- 第3回 情報の映像処理。プロソディー練習(聞き取り難い=言い難い音の確認)。
- 第4回 パラフレーズ。ペア通訳(以降随時行う)。SVC、SVOCに着目。
- 第5回 導入部の予測、「つなぎ言葉」挿入練習。ディクテーションのスロット補正。
- 第6回 パラグラフの展開予測。ディクテーション名詞処理。SVM、SVOMに着目。
- 第7回 パラグラフ毎の「小見出し」作成。ディクテーションの聞き間違いを自己修正。
- 第8回 英語戻し。SVO、SVOOに着目。
- 第9回 プロソディー再生中間仕上げ。
- 第10回 ディクテーション自己修正版提出。
- 第11回 スロット処理：骨格部と修飾部の仕分け練習。
- 第12回 ペア逐次通訳総仕上げ。
- 第13回 学習データ表の提出。
- 第14回 復習。「プロソディー再生」の暗唱版完成。
- 第15回 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加 20%、総括レポートほか提出物 10%、期末テスト70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は事前課題をもとに展開するので、しっかりと指定された範囲の予習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

通訳は口頭作業であるため、自宅学習においても口頭練習の時間を十分に確保し、授業に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「言える英語」は「聞こえる英語」です。今期は英語の発話力を強化するために、口頭練習の回数をしっかり確保すること。課題が多く、少し難度の高い授業です。

キーワード /Keywords

リエゾン、SVOスロット方式、映像処理、展開予測、小見出し、つなぎ言葉、シャドーイング、英語戻し、自分の言葉化、ディクテーション意味修正

通訳基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor ノリス 志津代 / Shizuyo Norris / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義・実習 /Lecture・Practical クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	知識に基づき情報を正確に把握し、通訳として正しく訳出することができる。
	英語力	●	高度な英語運用能力により正確にコミュニケーションを行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	グローバルな視野から社会の諸問題を学際的、複眼的に思考できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたり英語や異文化への関心と学習意欲をもち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	広い視野から自分の見解を積極的に提案し、共同活動を推進することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

通訳基礎演習Ⅰ

ENG234M

授業の概要 /Course Description

本クラスは英日逐次通訳の基礎力構築のため、英語の音声的特徴である Stress-timed rhythmに着目し、どのような音が「聞き取りにくい音・聞き間違いやすい音」であるかを理解し、正しく補正して聞き取れるリスニング力を養成する。そのために(1)正しく聴こえない音への対策として「SVOスロット方式」を導入し、構文を補正しながらディクテーションをする方法を学ぶ。(2)リエゾン箇所など「耳」が捉えにくい音を「口」でリズムよく再現できるように訓練を重ね、英語のProsody(強弱、長短、高低、明瞭曖昧)に留意しながら、英語のリズムを身体化する練習を行う。

リスニングでは、聴覚情報を文字で捉えずに、視覚情報に転換する映像処理方法を学ぶ。映像化すると、情報を記憶に留めやすくなる。さらに映像化しながら、パラグラフ毎に展開を予測し、話の流れと核を捉えようとする聞き方を強化する。「その結果」「一方で」などの「つなぎ言葉」の挿入方法を学び、話のロジック展開を追う。

英語のアウトプット力に関しては、プロソディー再生練習(シャドーイング、暗唱)および英語戻し(英語を和訳し→英語に訳し戻す)練習、パラフレーズ(自分の言葉で言い換える)練習を行い発話力を強化する。今期の教材では暗唱速度を学期末に毎分180語台~200語台に上げることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて資料配布。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

小松達也『通訳の技術』(研究社、2005)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下授業の進捗状況に応じ適宜調整する。

- 第1回 授業説明。学習データ表の説明。ペア逐次通訳体験。
- 第2回 聞き間違いやすい音、聞き取りにくい音を確認。ディクテーション(以降継続)。
- 第3回 情報の映像処理。プロソディー練習(聞き取り難い=言い難い音の確認)。
- 第4回 パラフレーズ。ペア通訳(以降随時行う)。SVC、SVOCに着目。
- 第5回 導入部の予測、「つなぎ言葉」挿入練習。ディクテーションのスロット補正。
- 第6回 パラグラフの展開予測。ディクテーション名詞処理。SVM、SVOMに着目。
- 第7回 パラグラフ毎の「小見出し」作成。ディクテーションの聞き間違いを自己修正。
- 第8回 英語戻し。SVO、SVOOに着目。
- 第9回 プロソディー再生中間仕上げ。
- 第10回 ディクテーション自己修正版提出。
- 第11回 スロット処理：骨格部と修飾部の仕分け練習。
- 第12回 ペア逐次通訳総仕上げ。
- 第13回 学習データ表の提出。
- 第14回 復習。「プロソディー再生」の暗唱版完成。
- 第15回 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加 20%、総括レポートほか提出物 10%、期末テスト70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は事前課題をもとに展開するので、しっかりと指定された範囲の予習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

通訳は口頭作業であるため、自宅学習においても口頭練習の時間を十分に確保し、授業に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「言える英語」は「聞こえる英語」です。今期は英語の発話力を強化するために、口頭練習の回数をしっかり確保すること。課題が多く、少し難度の高い授業です。

キーワード /Keywords

リエゾン、SVOスロット方式、映像処理、展開予測、小見出し、つなぎ言葉、シャドーイング、英語戻し、自分の言葉化、ディクテーション意味修正

通訳基礎演習Ⅰ【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
ビジネス・コミュニケーション科
目群

担当者名 /Instructor ノリス 志津代 / Shizuyo Norris / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	知識に基づき情報を正確に把握し、通訳として正しく訳出することができる。
	英語力	●	高度な英語運用能力により正確にコミュニケーションを行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	グローバルな視野から社会の諸問題を学際的、複眼的に思考できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたり英語や異文化への関心と学習意欲を維持することができる。
	コミュニケーション力	●	広い視野から自分の見解を積極的に提案し、共同活動を推進することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

通訳基礎演習Ⅰ

ENG234M

授業の概要 /Course Description

本クラスは英日逐次通訳の基礎力構築のため、英語の音声的特徴である Stress-timed rhythmに着目し、どのような音が「聞き取りにくい音・聞き間違いやすい音」であるかを理解し、正しく補正して聞き取れるリスニング力を養成する。そのために(1)正しく聴こえない音への対策として「SVOスロット方式」を導入し、構文を補正しながらディクテーションをする方法を学ぶ。(2)リエゾン箇所など「耳」が捉えにくい音を「口」でリズムよく再現できるように訓練を重ね、英語のProsody(強弱、長短、高低、明瞭曖昧)に留意しながら、英語のリズムを身体化する練習を行う。

リスニングでは、聴覚情報を文字で捉えずに、視覚情報に転換する映像処理方法を学ぶ。映像化すると、情報を記憶に留めやすくなる。さらに映像化しながら、パラグラフ毎に展開を予測し、話の流れと核を捉えようとする聞き方を強化する。「その結果」「一方で」などの「つなぎ言葉」の挿入方法を学び、話のロジック展開を追う。

英語のアウトプット力に関しては、プロソディー再生練習(シャドーイング、暗唱)および英語戻し(英語を和訳し→英語に訳し戻す)練習、パラフレーズ(自分の言葉で言い換える)練習を行い発話力を強化する。今期の教材では暗唱速度を学期末に毎分180語台~200語台に上げることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小松達也『通訳の技術』(研究社、2005)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下授業の進捗状況に応じ適宜調整する。

- 第1回 授業説明。学習データ表の説明。ペア逐次通訳体験。
- 第2回 聞き間違いやすい音、聞き取りにくい音を確認。ディクテーション(以降継続)。
- 第3回 情報の映像処理。プロソディー練習(聞き取り難い=言い難い音の確認)。
- 第4回 パラフレーズ。ペア通訳(以降随時行う)。SVC、SVOCに着目。
- 第5回 導入部の予測、「つなぎ言葉」挿入練習。ディクテーションのスロット補正。
- 第6回 パラグラフの展開予測。ディクテーション名詞処理。SVM、SVOMに着目。
- 第7回 パラグラフ毎の「小見出し」作成。ディクテーションの聞き間違いを自己修正。
- 第8回 英語戻し。SVO、SVOOに着目。
- 第9回 プロソディー再生中間仕上げ。
- 第10回 ディクテーション自己修正版提出。
- 第11回 スロット処理：骨格部と修飾部の仕分け練習。
- 第12回 ペア逐次通訳総仕上げ。
- 第13回 学習データ表の提出。
- 第14回 復習。「プロソディー再生」の暗唱版完成。
- 第15回 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加 20%、総括レポートほか提出物 10%、期末テスト70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は事前課題をもとに展開するので、しっかりと指定された範囲の予習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

通訳は口頭作業であるため、自宅学習においても口頭練習の時間を十分に確保し、授業に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「言える英語」は「聞こえる英語」です。今期は英語の発話力を強化するために、口頭練習の回数をしっかり確保すること。課題が多く、少し難度の高い授業です。

キーワード /Keywords

リエゾン、SVOスロット方式、映像処理、展開予測、小見出し、つなぎ言葉、シャドーイング、英語戻し、自分の言葉化、ディクテーション意味修正

通訳基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	知識に基づき情報を正確に把握し、通訳として正しく訳出することができる。
	英語力	●	高度な英語運用能力により正確にコミュニケーションを行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	グローバルな視野から社会の諸問題を学際的、複眼的に思考できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたり英語や異文化への関心と学習意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

通訳基礎演習Ⅱ

ENG235M

授業の概要 /Course Description

もしあなたが明日、アメリカから日本にやってくるプロ野球選手の通訳をしなければならなくなったとしたら、今日何をしますか？英語の勉強でしょうか？それより緊急にやらなければならないことは、その選手について、その選手が属していた球団やリーグについて、さらにはアメリカの野球界と日本の野球界の違いについて調べ、記者会見でどんなことが聞かれるのかを想定して準備しておくことが必要となるのではないのでしょうか。そう考えてみると、通訳は、ことばを移し替えるだけではないことがよく分かります。自分が理解できない話題について通訳することはできないからです。その上で、英語力や日本語表現力といった力が必要になってくるわけです。

通訳基礎演習Ⅱでも、1から継続して、英語をきちんと正しく聞き取れるようになるための訓練を基本としながら、多様な話題の教材を用いることにより、知識も身につけてもらえるよう工夫したいと思います。毎回の授業に先だって、ウォーミングアップとして日本語と英語の発音（発声）練習を行ないます。今回の教材は日本を伝える内容になっているので、皆さんが現代の日本を英語で発信していくための訓練としても役に立つことと思います。なお、今回のテキストは英語のみで作られていますので、日本語→英語の練習もできるよう、オリジナル教材を作成したいと思っています。

【この授業の到達目標として、以下の内容を考えています。】

①高度な英語運用に必要な専門的知識と、英米及び英語圏の文化・社会の諸問題についての専門的知識を身につけている。②英語の読み・書きが正確にでき、英米及び英語圏の人たちと正確にコミュニケーションを行なうことができる。③物事をグローバルな視野から多面的に考え、英語を通して得られる情報や知識を駆使し、現実社会の諸問題を学際的、複眼的に思考し、解決策を採求することができる。④卒業後も、英語や異文化への高い関心と、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。⑤組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、かつ自らの見解を積極的に提案し、コミュニケーション力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進することができる。

教科書 /Textbooks

『NHK NEWSLINE 2 映像で学ぶNHK英語ニュースが伝える日本 2』（金星堂）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介することがあります。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 オリエンテーション：1学期の通訳基礎演習Iで身につけたスキルを復習します。
第02回 Unit 1に基づく通訳練習
第03回 Unit 2に基づく通訳練習
第04回 Unit 3に基づく通訳練習
第05回 Unit 4に基づく通訳練習
第06回 Unit 5に基づく通訳練習
第07回 Unit 6に基づく通訳練習
第08回 Unit 7に基づく通訳練習
第09回 Unit 8に基づく通訳練習
第10回 Unit 9に基づく通訳練習
第11回 Unit 10に基づく通訳練習
第12回 Unit 11に基づく通訳練習
第13回 Unit 12に基づく通訳練習
第14回 Unit 13に基づく通訳練習
第15回 まとめ練習、発展練習
※実際の授業では、若干の遅れや、皆さんの関心度に応じた副教材の導入等を行いますので、必ずしもこの予定通りには進行しない可能性があります。ご了承ください。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的参加の度合い(平常活動 = 30%)と学期末試験の得点(70%)を総合して評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストを基に下調べをして臨んで下さい。オンライン映像配信サービスにより、映像をあらかじめ観ることができます。授業の後は復習をしっかり行なって、スキルを自分のものにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

言うまでもないことですが、授業の時だけの練習では実力はつきません。平素から英語に触れる努力をし、例えばテレビを見ながら通訳練習をしてみる、というような心がけが大切だと思います。
また、毎時間、次週までに準備して欲しいことを確認しますので、予習も怠りのないようお願いします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく知られているように、You Tubeの中に、優れた英語の音声教材がたくさん入っています。こうしたものを使って、自宅で練習していただくのも良いと思います。時にはこうしたものを課題として指定することも考えたいと思います。

キーワード /Keywords

通訳、シャドーイング、日本文化の英語発信

通訳基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor ノリス 志津代 / Shizuyo Norris / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 2 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解			
技能	専門分野のスキル	●	知識に基づき情報を正確に把握し、通訳として正しく訳出することができる。	
	英語力	●	高度な英語運用能力により正確にコミュニケーションを行うことができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	グローバルな視野から社会の諸問題を学際的、複眼的に思考できる。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたり英語や異文化への関心と学習意欲を持ち続けることができる。	
	コミュニケーション力			

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

通訳基礎演習II

ENG235M

授業の概要 /Course Description

本クラスは英日逐次通訳の基礎力構築のため、英語の語順に着目し「英文を正確且つ迅速に捉える力」を養成する。そのために(1)英語の文構造を正しく捉え、次の品詞展開を予測するSyntax処理能力と、(2)話の展開や結論を予測し、話の要旨を捉える力を強化する。日本語への訳出力に関しては、前出し訳(first-in, first-out translation)に徹し、迅速にSyntax処理を行いながらも、聴衆に分かりやすい訳出を目指す。練習の最後には必ず聴衆を意識した「完成訳」を行い、日本語のアウトプット力を磨く。

リスニング練習では、「今聴いたばかりの内容」を訳出時に忘れてしまうという現象に対処するため、リテンション(記憶保持)力を強化する。そのために、文章間に「つなぎ言葉」を挿入し、これを「記憶マーカー」として活用する練習を行う。リーディングでは、初見でも前から順次テンポよく訳出できるようになるため、前出し訳の練習を行う。その際に「エー」など不要な言葉を挟まず、流暢な訳出を心がける。前出し訳の速度は、学期初めでは毎分80語台、学期末では毎分140語台を目指す。この訓練をもとに、オーバーラッピング訳(同通の基礎練習)を導入し、英語を聞きながら日本語に訳出する練習を行う。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小松達也『通訳の技術』(研究社、2005)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下授業の進捗状況に応じて適宜調整する。

- 第1回 授業説明。学習データ表の説明。ペア逐次通訳体験。
- 第2回 情報の映像処理。意味補正ディクテーション(以降継続)。
- 第3回 前出し訳。
- 第4回 前出し「エーなし訳」完成。ペア通訳。
- 第5回 オーバーラッピング訳。
- 第6回 Syntax処理。予測・要約練習。
- 第7回 つなぎ言葉。起承転結「ロジック線結び」練習。
- 第8回 パラフレージング。
- 第9回 前出し「エーなし、体言止めなし、言い直しなし訳」。オーバーラッピング訳中間仕上げ。
- 第10回 ディクテーション自己修正版提出。
- 第11回 ぶっつけ前出し訳。
- 第12回 ペア通訳総仕上げ。
- 第13回 学習データ表の提出。
- 第14回 復習。オーバーラッピング訳完成。ぶっつけ前出し訳。
- 第15回 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加 20%、提出物 10%、期末テスト70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は事前の課題をもとに展開するので、しっかりと指定された範囲の予習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

通訳は口頭作業であるため、自宅学習においても口頭練習の時間を十分に確保し、授業に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

単に和訳するのではなく「聴衆に分かりやすい日本語とは?」と絶えず自問し訳出方法を工夫すること。課題が多く、少し難度の高い授業です。

キーワード /Keywords

Syntax 処理 (英語の語順・品詞予測)、映像処理、つなぎ言葉、記憶のマーカー、自分の言葉化、前出し訳、オーバーラッピング訳、完成訳、ディクテーション意味修正

通訳基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor ノリス 志津代 / Shizuyo Norris / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 3 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	知識に基づき情報を正確に把握し、通訳として正しく訳出することができる。
	英語力	●	高度な英語運用能力により正確にコミュニケーションを行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	グローバルな視野から社会の諸問題を学際的、複眼的に思考できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたり英語や異文化への関心と学習意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

通訳基礎演習II

ENG235M

授業の概要 /Course Description

本クラスは英日逐次通訳の基礎力構築のため、英語の語順に着目し「英文を正確且つ迅速に捉える力」を養成する。そのために(1)英語の文構造を正しく捉え、次の品詞展開を予測するSyntax処理能力と、(2)話の展開や結論を予測し、話の要旨を捉える力を強化する。日本語への訳出力に関しては、前出し訳(first-in, first-out translation)に徹し、迅速にSyntax処理を行いながらも、聴衆に分かりやすい訳出を目指す。練習の最後には必ず聴衆を意識した「完成訳」を行い、日本語のアウトプット力を磨く。

リスニング練習では、「今聴いたばかりの内容」を訳出時に忘れてしまうという現象に対処するため、リテンション(記憶保持)力を強化する。そのために、文章間に「つなぎ言葉」を挿入し、これを「記憶マーカー」として活用する練習を行う。リーディングでは、初見でも前から順次テンポよく訳出できるようになるため、前出し訳の練習を行う。その際に「エー」など不要な言葉を挟まず、流暢な訳出を心がける。前出し訳の速度は、学期初めでは毎分80語台、学期末では毎分140語台を目指す。この訓練をもとに、オーバーラッピング訳(同通の基礎練習)を導入し、英語を聞きながら日本語に訳出する練習を行う。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小松達也『通訳の技術』(研究社、2005)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下授業の進捗状況に応じて適宜調整する。

- 第1回 授業説明。学習データ表の説明。ペア逐次通訳体験。
- 第2回 情報の映像処理。意味補正ディクテーション(以降継続)。
- 第3回 前出し訳。
- 第4回 前出し「エーなし訳」完成。ペア通訳。
- 第5回 オーバーラッピング訳。
- 第6回 Syntax処理。予測・要約練習。
- 第7回 つなぎ言葉。起承転結「ロジック線結び」練習。
- 第8回 パラフレージング。
- 第9回 前出し「エーなし、体言止めなし、言い直しなし訳」。オーバーラッピング訳中間仕上げ。
- 第10回 ディクテーション自己修正版提出。
- 第11回 ぶっつけ前出し訳。
- 第12回 ペア通訳総仕上げ。
- 第13回 学習データ表の提出。
- 第14回 復習。オーバーラッピング訳完成。ぶっつけ前出し訳。
- 第15回 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加 20%、提出物 10%、期末テスト70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は事前の課題をもとに展開するので、しっかりと指定された範囲の予習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

通訳は口頭作業であるため、自宅学習においても口頭練習の時間を十分に確保し、授業に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

単に和訳するのではなく「聴衆に分かりやすい日本語とは?」と絶えず自問し訳出方法を工夫すること。課題が多く、少し難度の高い授業です。

キーワード /Keywords

Syntax 処理 (英語の語順・品詞予測)、映像処理、つなぎ言葉、記憶のマーカー、自分の言葉化、前出し訳、オーバーラッピング訳、完成訳、ディクテーション意味修正

通訳基礎演習II 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
ビジネス・コミュニケーション科
目群

担当者名 /Instructor ノリス 志津代 / Shizuyo Norris / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 4 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	知識に基づき情報を正確に把握し、通訳として正しく訳出することができる。
	英語力	●	高度な英語運用能力により正確にコミュニケーションを行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	グローバルな視野から社会の諸問題を学際的、複眼的に思考できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたり英語や異文化への関心と学習意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

通訳基礎演習II

ENG235M

授業の概要 /Course Description

本クラスは英日逐次通訳の基礎力構築のため、英語の語順に着目し「英文を正確且つ迅速に捉える力」を養成する。そのために(1)英語の文構造を正しく捉え、次の品詞展開を予測するSyntax処理能力と、(2)話の展開や結論を予測し、話の要旨を捉える力を強化する。日本語への訳出力に関しては、前出し訳(first-in, first-out translation)に徹し、迅速にSyntax処理を行いながらも、聴衆に分かりやすい訳出を目指す。練習の最後には必ず聴衆を意識した「完成訳」を行い、日本語のアウトプット力を磨く。

リスニング練習では、「今聴いたばかりの内容」を訳出時に忘れてしまうという現象に対処するため、リテンション(記憶保持)力を強化する。そのために、文章間に「つなぎ言葉」を挿入し、これを「記憶マーカー」として活用する練習を行う。リーディングでは、初見でも前から順次テンポよく訳出できるようになるため、前出し訳の練習を行う。その際に「エー」など不要な言葉を挟まず、流暢な訳出を心がける。前出し訳の速度は、学期初めでは毎分80語台、学期末では毎分140語台を目指す。この訓練をもとに、オーバーラッピング訳(同通の基礎練習)を導入し、英語を聞きながら日本語に訳出する練習を行う。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小松達也『通訳の技術』(研究社、2005)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下授業の進捗状況に応じて適宜調整する。

- 第1回 授業説明。学習データ表の説明。ペア逐次通訳体験。
- 第2回 情報の映像処理。意味補正ディクテーション(以降継続)。
- 第3回 前出し訳。
- 第4回 前出し「エーなし訳」完成。ペア通訳。
- 第5回 オーバーラッピング訳。
- 第6回 Syntax処理。予測・要約練習。
- 第7回 つなぎ言葉。起承転結「ロジック線結び」練習。
- 第8回 パラフレージング。
- 第9回 前出し「エーなし、体言止めなし、言い直しなし訳」。オーバーラッピング訳中間仕上げ。
- 第10回 ディクテーション自己修正版提出。
- 第11回 ぶっつけ前出し訳。
- 第12回 ペア通訳総仕上げ。
- 第13回 学習データ表の提出。
- 第14回 復習。オーバーラッピング訳完成。ぶっつけ前出し訳。
- 第15回 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加 20%、提出物 10%、期末テスト70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は事前の課題をもとに展開するので、しっかりと指定された範囲の予習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

通訳は口頭作業であるため、自宅学習においても口頭練習の時間を十分に確保し、授業に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

単に和訳するのではなく「聴衆に分かりやすい日本語とは?」と絶えず自問し訳出方法を工夫すること。課題が多く、少し難度の高い授業です。

キーワード /Keywords

Syntax 処理 (英語の語順・品詞予測)、映像処理、つなぎ言葉、記憶のマーカー、自分の言葉化、前出し訳、オーバーラッピング訳、完成訳、ディクテーション意味修正

ビジネス英語演習【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
ビジネス・コミュニケーション科
目群

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・実習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	英語を通して得られる情報を駆使し、諸問題を探求することができる
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス英語演習

ENG231M

授業の概要 /Course Description

講義内容は「国際経営論基礎編」です。
国際経営論の学習を通じて、将来、国際的なビジネスに携わりたいと希望する学生諸君に必要な基礎知識を提供し、学習能力を育成します。
講義では適宜テーマに沿って英文テキストやケース（英文の事例研究）を輪読し、国際経営の専門用語を含んだ英語で討論できる実力を養成します。そのために、英文を日本語に訳す力の養成、英文法の再確認、専門用語を含んだリスニング訓練（英日、日英）を行います。ビジネスに関する専門的知識の獲得、英語プレゼンテーション技法、論理的思考能力、日本語力、コミュニケーション能力を高めることを目標とします。
英語力はスポーツや筋トレと同様に、毎日の絶え間ない訓練が重要であることを知り、勤勉な学生の参加を歓迎します。

教科書 /Textbooks

特定のテキストは使用しません。詳しくは開講時に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書は講義の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	グローバル化の本質	日本企業、海外企業動向
第2回	-上記テーマについてケース討論	
第3回	国際ビジネスの進化	英文資料輪読
第4回	-上記テーマについてケースの討論	
第5回	多国籍企業のエンタリー戦略	英文資料の輪読
第6回	-上記テーマについてケースの討論	
第7回	国際経営の管理	英文資料の輪読
第8回	-上記テーマについてケースの討論	
第9回	国際経営の組織論	英文資料の輪読
第10回	-上記テーマについてケースの討論	
第11回	異文化マネジメント	英文資料の輪読
第12回	-上記テーマについてケースの討論	
第13回	国際人事管理	英文資料の輪読
第14回	-上記テーマについてケースの討論	
第15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

プロジェクトへの参加、貢献度（20%）、中間試験（40%）、定期試験（40%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業はパワーポイントのスライドを用いた講義形式をとります。講義内容やディスカッショントピックは全て学習支援システム「moodle」に事前に配置しますので予習、復習に活用ください。講義中に適宜質問や意見を求めます。特に講義内容の要旨を事前に配置しますので予習してからクラスに参加するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

私自身企業出身者ですので、現実的で時事的な話題を各テーマに沿って講義にできるだけ盛り込むように努めております。学生には日ごろ時事問題に触れ関心を持つように心することを望みます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業時間には英文テキストを輪読することもあります。報告者が担当箇所の訳文や要約をつくり、その訳文の意味がただしいかをクラス全員で確認しながら、英文を理解します。国際語としての英語力も磨くよう指導します。

キーワード /Keywords

GDP, EC, emerging economies, international monetary system, MNC, sustainable development, M&A, strategic alliance, Hofstede, cross-cultural management, expatriates, performance appraisal, staffing policy

英日翻訳演習 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
ビジネス・コミュニケーション科
目群

担当者名 /Instructor 鮫島 千明 / Chiaki Sameshima / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Credits 単位 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス 2 - 1・ 2 - 2 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 高度な英語運用に必要な専門知識と、英米及び英語圏の文化・社会の諸問題についての専門的知識を身につけている。
	英語力	● 英語の読み・書きが正確にでき、英米及び英語圏の人たちと正確にコミュニケーションができる。
	その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 英文を正確に翻訳するために必要なものが何かを見つけ出し、正しく英文を分析し、訳文の様々な可能性の探求をすることができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を駆使して、日本と違った価値観や伝統、制度を持った異文化に積極的にかかわっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英日翻訳演習

MCC219M

授業の概要 /Course Description

本授業では、機械的翻訳のような「文法と意味」の置き換えではなく、「感情・印象」の翻訳を試み、創造的・文化的翻訳を目指す。これは、ただ文法通り英語を日本語に置き換える作業ではなく、英語でその場面を経験したときに生じる感情を、日本語に置き換えて表現するということである。つまり、直訳的な意味を伝えるのではなく、元の文章にある喜怒哀楽を伝えるということである。このため、韻律やリズムが重視される詩や歌を題材にしたり、字幕翻訳など、文字の制限が与えられた状況での翻訳も行う予定である。また、学生から翻訳の対象となる題材のリクエストがあった場合、予定を変更する可能性がある。

教科書 /Textbooks

特に定めない。適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※学生から翻訳の対象となる題材のリクエストがあった場合、予定を変更する可能性がある。

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回 翻訳演習【音楽】 Popular Music
- 3回 翻訳演習【音楽】 Rock Music
- 4回 翻訳演習【音楽】 Folk Music
- 5回 翻訳演習【民話】 Lafcadio Hearn, "Miminashi Hoichi"
- 6回 翻訳演習【民話】 Lafcadio Hearn, "Yukionna"
- 7回 翻訳演習【民話】 Changeling
- 8回 翻訳演習【童話】 Winnie the Pooh, "Pooh invents a New Game"
- 9回 翻訳演習【童話】 Winnie the Pooh, "In Which Eeyore Has A Birthday And Gets Two Presents"
- 10回 翻訳演習【映画字幕】 Love Romance
- 11回 翻訳演習【映画字幕】 Science Fiction
- 12回 翻訳演習【詩】 Rhythm
- 13回 翻訳演習【詩】 Rhyme
- 14回 翻訳演習【漫談】 Humour
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平素および課題...30%
レポート...70%

英日翻訳演習 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回指定された箇所を予習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英日翻訳演習 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
ビジネス・コミュニケーション科
目群

担当者名 /Instructor 鮫島 千明 / Chiaki Sameshima / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3・2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 高度な英語運用に必要な専門知識と、英米及び英語圏の文化・社会の諸問題についての専門的知識を身につけている。
	英語力	● 英語の読み・書きが正確にでき、英米及び英語圏の人たちと正確にコミュニケーションができる。
	その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 英文を正確に翻訳するために必要なものが何かを見つけ出し、正しく英文を分析し、訳文の様々な可能性の探求をすることができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を駆使して、日本と違った価値観や伝統、制度を持った異文化に積極的にかかわっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英日翻訳演習

MCC219M

授業の概要 /Course Description

本授業では、機械的翻訳のような「文法と意味」の置き換えではなく、「感情・印象」の翻訳を試み、創造的・文化的翻訳を目指す。これは、ただ文法通り英語を日本語に置き換える作業ではなく、英語でその場面を経験したときに生じる感情を、日本語に置き換えて表現するということである。つまり、直訳的な意味を伝えるのではなく、元の文章にある喜怒哀楽を伝えるということである。このため、韻律やリズムが重視される詩や歌を題材にしたり、字幕翻訳など、文字の制限が与えられた状況での翻訳も行う予定である。また、学生から翻訳の対象となる題材のリクエストがあった場合、予定を変更する可能性がある。

教科書 /Textbooks

特に定めない。適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※学生から翻訳の対象となる題材のリクエストがあった場合、予定を変更する可能性がある。

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回 翻訳演習【音楽】 Popular Music
- 3回 翻訳演習【音楽】 Rock Music
- 4回 翻訳演習【音楽】 Folk Music
- 5回 翻訳演習【民話】 Lafcadio Hearn, "Miminashi Hoichi"
- 6回 翻訳演習【民話】 Lafcadio Hearn, "Yukionna"
- 7回 翻訳演習【民話】 Changeling
- 8回 翻訳演習【童話】 Winnie the Pooh, "Pooh invents a New Game"
- 9回 翻訳演習【童話】 Winnie the Pooh, "In Which Eeyore Has A Birthday And Gets Two Presents"
- 10回 翻訳演習【映画字幕】 Love Romance
- 11回 翻訳演習【映画字幕】 Science Fiction
- 12回 翻訳演習【詩】 Rhythm
- 13回 翻訳演習【詩】 Rhyme
- 14回 翻訳演習【漫談】 Humour
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平素および課題...30%
レポート...70%

英日翻訳演習【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
ビジネス・コミュニケーション科
目群

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回指定された箇所を予習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーション演習【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
ビジネス・コミュニケーション科
目群

担当者名 /Instructor 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1・ 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

異文化間コミュニケーション演習

MCC213M

授業の概要 /Course Description

(1) 英語での授業

授業、また評価の対象となる課題、期末試験、すべて英語で行う。

(2) 授業の概要

日米話者のコミュニケーションギャップを考察するが、ギャップの基底にある文化的背景を探っていくために具体的事例を中心に考察していく。テキストの内容にもとづく学生相互の意見交換を通じて理解を深めていき、また、各自選んだテーマに基づくプレゼンテーションを行うことにより異文化コミュニケーションへの興味を深かめることをめざす。

授業は主に英語での説明、英文のテキストの解読、英語での意見(交換)、を行い、英語でのassignmentを課す。

教科書 /Textbooks

授業の際にプリント資料を適宜配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- (1) D. R. Levine & M. B. Adleman ; Beyond Language: Cross-Cultural Communication
- (2) Spencer-Oatey (ed.): Culturally Speaking
- (3) 八代京子、他、『異文化コミュニケーションワークブック』三修社

異文化間コミュニケーション演習【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースワークの説明
- 第2回 文化とは何か、コミュニケーションとは何か
- 第3回 Cross-cultural Communicationとは
- 第4回 価値観とコミュニケーション(上記テキストChapter 1)
- 第5回 価値観の研究 (Kluckhohn, Hofstede)とコミュニケーション・ギャップ
- 第6回 Verbal Communication (上記英文テキスト(1) Chapter 3)
- 第7回 High-context, Low-contextとコミュニケーション・ギャップ
- 第8回 Different Sense to apology between Japan and English (上記テキスト(2) Chapter 4)
- 第9回 Non-verbal Communication ① (空間学: 対人距離、など 上記テキスト(1) Chapter 4)
- 第10回 Non-verbal Communication ② (動作学: emblem, 表出度、アイ・コンタクトなど)
- 第11回 Cultural Adaptation :Culture Shock (上記テキスト(1) Chapter 2)
- 第12回 Cultural Assimilatorの作成
- 第13回 Apply Cultural Dimensions (Hofstede) to the global business
- 第14回 各自テーマによるpresentation
- 第15回 授業の概括、各自テーマ発表による意見集約

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での活動(課題、*プレゼンテーションを含む) 50% 期末試験 50%
課題、評価の対象とする議論参加、期末試験、すべての活動は英語でおこなう。
*プレゼンテーションに関しては受講者の数により変更することもある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (事前) 文化、コミュニケーションに関する英語で書かれた文献に目を通しておくこと。
- (事後) グローバル社会におけるコミュニケーションのあり方に関して英語で議論することを心がける。

履修上の注意 /Remarks

文化、コミュニケーションに関する事項において常に何故かを考えることが必要である。
授業では英文テキストの内容を踏まえた上でのDiscussion Questionsを基に進めていく、また、グループディスカッション(英語で)を要求する。これらの活動と英語での課題の提出が必須である。
。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語での教材の解説、課題が課せられるのでそれなりの準備が必要である。

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーション演習【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
ビジネス・コミュニケーション科
目群

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3・2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

異文化間コミュニケーション演習 MCC213M

授業の概要 /Course Description

異文化間コミュニケーション。この言葉は私たちが想像している以上に複雑かつ幅広いものです。本授業では、「個人、ペア、グループ」とさまざまなレベルで実際にコミュニケーションをとりながら、「異文化」とは何か、「コミュニケーション」とは何かという根本的な問いに対して答えを探求します。そして、「異なる文化」の中でどのように振舞えばよいのか、その態度、スキル、知識の習得を目指します。ペアワーク、グループワークを多用し、受講生が自ら考え、実践し、体験する授業になるようにデザインされていますので、積極的な参加を期待します。

教科書 /Textbooks

教科書は使いません。必要に応じて適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 鍋倉健悦『異文化間コミュニケーション入門』丸善ライブラリー

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション：授業方法：成績判定方法など
2. 文化とは、異文化とは：定義、モデル、文化的アイデンティティ
3. 異文化間コミュニケーションとは何か
4. 異文化コミュニケーション能力とは何か
5. 言語コミュニケーション：謝罪、断り、ポライトネス
6. 非言語コミュニケーション：時間、空間、ジェスチャーなど
7. 価値観の違いによる異文化衝突 (Hofstede)
8. ステレオタイプ：カテゴリー化、ステレオタイプの発生メカニズム
9. 異文化適応：異文化適応曲線
10. 異文化適応の実践：異文化適応シミュレーションゲーム
12. 異文化適応実践の振り返り：グループディスカッション
13. 異文化体験シミュレーション：合意形成
14. 異文化体験シミュレーション：異文化接触
15. 授業全体のまとめのディスカッション

* 授業内容は進み具合に応じて変更される場合があります

成績評価の方法 /Assessment Method

ミニレポート（授業中に執筆するもの）：30%
課題提出（異文化適応、異文化体験シミュレーション後の報告）：30%
期末試験：40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：次回分のキーワードを示すので、それについて調べてくること。次回分の資料を配布する場合がありますので、次回までに読んでくること。日英両方の文献を資料とする場合がある。

事後学習：当日分の内容を振り返るとともに、ミニレポートについては添削内容を読み直すこと。

履修上の注意 /Remarks

当日の授業内容を確認し、自分が授業やグループ内でどのように貢献しうるかを常に意識して授業に臨んで下さい。
基本的にペアワークやグループワーク（時に英語による）を通しての授業進行です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

違和感を感じる力、日常に潜む「異文化」発見力を養いましょう。

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーション、本質主義、相対主義、異文化体験シミュレーション

異文化フィールドワーク【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
ビジネス・コミュニケーション科
目群

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を通して異文化に積極的に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

異文化フィールドワーク

MCC214M

授業の概要 /Course Description

この科目は、学生の自主的な異文化体験を「生きた学習」として認め、それに対して一定の評価を与え、学生の積極的な異文化体験を促進する目的のために開講されている。受講開始時において、原則として1年以内に1ヶ月以上の海外滞在経験を持ち、撮ってきた写真を使って異文化体験を報告することができることが受講条件となる。

教科書 /Textbooks

特にテキストは定めない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指摘。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 学生による異文化体験プレゼンテーション1(タコマ)
- 第3回 ディスカッション1(タコマ)
- 第4回 学生による異文化体験プレゼンテーション2(カーディフ)
- 第5回 ディスカッション2(カーディフ)
- 第6回 学生による異文化体験プレゼンテーション3(オックスフォード・ブルックス)
- 第7回 ディスカッション3(オックスフォード・ブルックス)
- 第8回 学生による異文化体験プレゼンテーション4(ピッツバーグ)
- 第9回 ディスカッション4(ピッツバーグ)
- 第10回 学生による異文化体験プレゼンテーション5(フォート・ルイス)
- 第11回 ディスカッション5(フォート・ルイス)
- 第12回 学生による異文化体験プレゼンテーション6(モンレー・ベイ)
- 第13回 ディスカッション6(モンレー・ベイ)
- 第14回 学生による異文化体験プレゼンテーション7(クイーンズランド)
- 第15回 ディスカッション7(クイーンズランド)

※()内の渡航先は暫定的で、未定です。各学生の行った場所によって変わります。

成績評価の方法 /Assessment Method

海外滞在体験報告のプレゼンテーションと、それを簡単に文にまとめたレポートによって成績を出す。

レポート - 40% プレゼンテーション - 60%

異文化フィールドワーク【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前準備：海外滞在経験を示す写真等のマテリアルを用意すること。

復習：授業で行ったディスカッションと発表を参考にして、レポートとしてまとめること。

履修上の注意 /Remarks

All Instruction will be in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語研究【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
ビジネス・コミュニケーション科
目群

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会の諸問題についての専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	英語を通して得られる情報を駆使し、諸問題を探求することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	卒業後も、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス英語研究

ENG232M

授業の概要 /Course Description

講義内容は「国際経営論応用編」です。
国際経営論の学習を通じて、将来、国際的なビジネスに携わりたいと希望する学生諸君に必要な基礎知識を提供し、学習能力を育成します。
講義では適宜テーマに沿って英文テキストやケース（英文の事例研究）を輪読し、国際経営の専門用語を含んだ英語で討論できる実力を養成します。そのために、英文を日本語に訳す力の養成、英文法の再確認、専門用語を含んだリスニング訓練（英日、日英）を行います。ビジネスに関する専門的知識の獲得、英語プレゼンテーション技法、論理的思考能力、日本語力、コミュニケーション能力を高めることを目標とします。英語力はスポーツや筋トレと同様に、毎日の絶え間ない訓練が重要であることを知り、勤勉な学生の参加を歓迎します。

教科書 /Textbooks

[教科書]
テキストは指定しませんが、複数のテキストより引用します。詳しくは開講時に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

[参考書]
講義の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	グローバル化の本質	日本企業、海外企業動向
第2回	-上記テーマについてケース討論	
第3回	グローバルマーケティング	英文資料輪読
第4回	-上記テーマについてケースの討論	
第5回	グローバルサプライチェーン	英文資料の輪読
第6回	-上記テーマについてケースの討論	
第7回	地域経済統合	英文資料の輪読
第8回	-上記テーマについてケースの討論	
第9回	中間試験	
第10回	国際資金移動と外国為替	英文資料の輪読
第11回	-上記テーマについてケースの討論	
第12回	グローバルファイナンス	英文資料の輪読
第13回	-上記テーマについてケースの討論	
第14回	多国籍企業と会計・税制	英文資料の輪読
第15回	-上記テーマについてケースの討論	

成績評価の方法 /Assessment Method

プロジェクトへの参加、貢献度（20％）、中間試験（40％）、定期試験（40％）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業はパワーポイントのスライドを用いた講義形式をとります。講義内容やディスカッショントピックは全て学習支援システムmoodleに事前に配置しますので予習、復習に活用ください。講義中に適宜質問や意見等を求めます。特に講義内容の要旨を事前に配置しますので予習してからクラスに参加するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

学生には、「Introduction to Economics」「ビジネス英語演習/国際経営論基礎」の履修を強く勧めます。

授業時間には英文テキストを輪読することもあります。報告者が担当箇所の訳文や要約をつくり、その訳文の意味がただしいかをゼミ全員で確認しながら、英文を理解します。国際語としての英語力も磨くよう指導します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私自身企業出身者(丸紅)ですので、現実的で時事的な話題を各テーマに沿って講義にできるだけ盛り込むように努めております。

学生が将来グローバル企業に従事することを強く願い、私自身の国際ビジネスの実態経験を踏まえ熱心に講義しますので、勤勉に学習する学生の履修態度を求めます。

キーワード /Keywords

foreign direct investment (FDI), forward market, arbitrage, purchasing power parity (PPP), interest rate parity (IRP), call option, put option, Export-Import (Ex-Im) Bank, trade finance, Bank of International Cooperation (JBIC), net present value, country risk

担当者名 /Instructor 廣田 恵美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 高度な英語運用に必要な英文法に関して専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	● 英文法の論理体系を正しく理解し、分析・研究を行うことができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英文法I

LIN230M

授業の概要 /Course Description

英語の仕組みを平易な切り口で説明し、実践的な英文法の知識の習得を目標とする。この授業では、特に動詞句の用法について、具体例を多用しながら考察を進める。

教科書 /Textbooks

『Rediscover Grammar』（David Crystal著 Longman）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『英文法ビフォー&アフター』（豊永 彰著 南雲堂 1,400円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Types of sentences
- 3回 Clause types
- 4回 The verb element, The subject element
- 5回 The object element, The complement element
- 6回 The adverbial element
- 7回 Verb phrase structure
- 8回 Auxiliary verbs
- 9回 Modal meanings
- 10回 The moods of the verb phrase
- 11回 Verb tenses
- 12回 Future time
- 13回 Verb aspects
- 14回 Active and passive
- 15回 学習内容の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...80% 授業への取り組み...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指示された次回の学習予定項目を必ず読んでおき、授業後はテキストやノートを読み返しておくこと。(必要な学習時間の目安は予習60分、復習60分です。)

履修上の注意 /Remarks

授業時に辞書を使用するので、辞書（紙または電子）を必ず持ってくる。スマートフォンの辞書アプリの使用は認められない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

無届けの欠席や遅刻が多い場合には単位の取得が難しくなることがあるので、留意するように。

キーワード /Keywords

「使える英文法」文の仕組み 動詞句の用法

担当者名 /Instructor 廣田 恵美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 高度な英語運用に必要な英文法に関して専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	● 英文法の論理体系を正しく理解し、分析・研究を行うことができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
	実践力（チャレンジ力） 社会的責任・倫理観	
関心・意欲・態度	生涯学習力 コミュニケーション力	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英文法Ⅱ

LIN231M

授業の概要 /Course Description

この授業では、単なる知識に留まらず、英語を使いこなすための根幹となる項目の習得を図り、主に名詞句・冠詞・形容詞等、特に英語を書く際に重要な項目を学習する。

教科書 /Textbooks

『Rediscover Grammar』 David Crystal 著 Longman

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『英文法ビフォー&アフター』(豊永 彰著) 南雲堂 ￥1,400

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業内容と成績評価の仕方に関する説明 今後の概説
- 2回 The noun phrase: outline of NP
- 3回 The noun phrase: common and proper nouns
- 4回 The noun phrase: count and noncount nouns
- 5回 The noun phrase: variable and invariable nouns
- 6回 The noun phrase: gender and case
- 7回 Determiners
- 8回 The articles
- 9回 Predeterminers, premodification
- 10回 Relative clauses
- 11回 Pronouns
- 12回 Adjectives
- 13回 Adverbs
- 14回 Prepositions
- 15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...80%、日頃の授業への取り組み...20%で総合評価をする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指示された次回の学習予定項目を必ず読んでくること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

履修上の注意 /Remarks

専門基礎教育科目の「英文法Ⅰ」とあわせて受講すればわかりやすい。また授業時に辞書を使用するので、辞書（紙または電子）を必ず持参すること。スマートフォンの辞書アプリの使用は認められない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

無届けの欠席や遅刻が多い場合は単位の取得が難しくなることがあるので、留意すること。

キーワード /Keywords

名詞句の特徴、冠詞、形容詞・副詞、前置詞

英語学概論 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
英語学・英語教育科目群

担当者名 /Instructor 山口ウエイ グレゴリー キース / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 高度な英語運用に必要な専門的知識と、英米及び英語圏の文化・社会の諸問題についての専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	● 英語の論理構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行い、それを英語で発信することができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 英語に関する情報や知識を駆使し、英語学の諸問題を複眼的に思考することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語学概論

LIN232M

授業の概要 /Course Description

This course gives an overview of many different areas of linguistics including:

- ・Phonology
- ・Morphology
- ・Syntax
- ・Pragmatics
- ・Semantics
- ・Sociolinguistics
- ・First and second language acquisition
- ・Animal communication

It is meant to give students a taste of the many different areas of study that are contained within the umbrella term "linguistics".

英語の音声システム、英語の単語の形態の作り方、英語の文法の構文の3つの基本的な言語学の分野についての知識を習得する。このコースの目的は、英語の音声システム、英語の単語の形態の作り方、英語の文法の構文の3つの基本的な言語学の分野についての知識を習得することです。また、語用論や意味論、社会言語学、言語習得、動物のコミュニケーションなど、英語がどのように機能するかを理解するのに役立つ言語学の他の分野にも触れます。

教科書 /Textbooks

要求せず

There is no textbook for this class because I have not been able to find anything appropriate. Therefore, you will have to rely heavily on your notes for this class, making it even more important to come to class and to understand what we are doing. I will have readings available which may help you to understand better what I am saying in class, but the things covered in class may not always be exactly the same as the readings. Take a look at them and see if they are helpful for you for understanding each chapter.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『英語学基礎講義 英語学ってどんな学問?』 2011 高橋勝忠著 現代図書
- 『英語学へのファーストステップ』 2009 有村兼彬 (他) 英宝社
- 『新英語学概論』 2007 八木克正 単行本
- 『英語学入門』 2001 安藤貞雄 単行本

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション (国際共通語としての英語)
- 第2回 音韻学 (1) 【IPA 概論】
- 第3回 音韻学 (2) 【調音部位】
- 第4回 形態学 (1) 【接頭辞】
- 第5回 形態学 (1) 【言葉分析】
- 第6回 文法 (1) 【品詞】
- 第7回 文法 (1) 【語順】
- 第8回 中間テスト (音韻学、形態学、文法)
- 第9回 第一言語習得
- 第10回 第二言語習得
- 第11回 動物コミュニケーション
- 第12回 社会言語学
- 第13回 意味論
- 第14回 語用論
- 第15回 神経言語学

Week 1: Introduction
Week 2: International Phonetic Alphabet
Week 3: Sounds of the world
Week 4: Morphology: How words work
Week 5: Morphology: How to pull words apart
Week 6: Syntax and word order
Week 7: Syntax and structure
Week 8: Review for Midterm; First language acquisition
Week 9: Midterm exam
Week 10: Second language acquisition
Week 11: Review midterm
Week 12: Sociolinguistics
Week 13: Pragmatics
Week 14: Animal Communication
Week 15: Review

成績評価の方法 /Assessment Method

毎週のクイズ: 35%; 宿題: 45%; 中期テスト20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review your notes every week and rewrite them for best retention of the material. Do your homework every week and check answers in class or on the web in order to understand what we are doing.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

linguistics, introduction, phonetics, syntax, morphology, language acquisition, pragmatics, sociolinguistics

英語学研究I (音声学・音韻論) 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
英語学・英語教育科目群

担当者名 /Instructor ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	高度な英語運用に必要な音声学に関して専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	●	音声学の論理体系を正しく理解し、分析・研究を行うことができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

(英米) 英語学研究I (音声学・音韻論)	LIN233M
(比文) 英語音声学	LIN233M

授業の概要 /Course Description

This course will have both a theoretical component and a practical component. You will learn in this course what a 'phoneme' is, as compared to a 'phone' or 'allophone'. You will learn more about what kind of sounds are possible to create with the human body, and practice making sounds that you have probably never made before! You will also learn how to read and write a new alphabet (although many of the letters will be familiar to you), the International Phonetic Alphabet (IPA). This skill will help you to understand better the relationship between your tongue, lips and lungs, and the sounds that come out of your mouth. A practical application of this course is looking at the link between English spelling and pronunciation. Most Japanese speakers have never studied how spelling systematically relates to the phones of English, and having a good grasp of this knowledge will allow you to improve your own pronunciation of English.

Put in more compact form, the goals of this course are:

- 1) To understand how English spelling relates to English sounds (phonemes)
- 2) To describe sounds (phones) with a formal system (called the International Phonetic Alphabet)
- 3) Identify the phonemes (sounds) of English
- 4) To understand allophonic patterns within English, such as the aspiration of voiceless stop consonants in certain positions in a word and not in others

このコースの目標は次のとおりです。

- 1) 英語の綴りが英語の音（音素）にどのように関係するかを理解する
- 2) 正式な国際音韻のアルファベット（IPA）を学ぶ
- 3) 英語の音素（音）を特定する
- 4) 単語内の特定の位置での無声停止子音の抱き込みなど、英語内のアロフォニックパターンを理解する

このコースは、上記の到達目標を達成するために、音声学や音韻論について幅広く講義します。具体的には学生たちは新しいアルファベットを学んで(IPA)、そのアルファベット等してなんでも言語を写せることができます。英語の綴り字をIPAと繋がったら、英語の発音と綴り字が化するはずですよ。

教科書 /Textbooks

Peter Avery & Susan Ehrlich. Teaching American English Pronunciation. Oxford University Press. 1992.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ Catford, J. C., 竹林、滋, 等. (2006). 実践音声学入門. 大修館書店

竹林、滋 と 斎藤、弘子 (2008). 英語音声学入門. 大修館書店

Carr, Philip (2002). Japanese translation of “English Phonetics and Phonology” by Shigeru Takebayashi and Atsuko Shimizu. 英語音声学・音韻論入門. 研究社.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction, Vocal Tract
2. Manners of articulation for consonants
3. Manners of articulation for vowels
4. Review consonants and vowels
5. International Phonetic Alphabet
6. Spelling and pronunciation
7. Vowel pronunciations in American English
8. Midterm test
9. Review of IPA and vowels
10. Acoustic phonetics (how to read sound waves)
11. Acoustic phonetics (how to distinguish consonants)
12. Linking sounds
13. Accents
14. Intonation
15. Phonology & Review

授業計画

- 第1回 オリエンテーション (声道)
- 第2回 子音調音方法
- 第3回 母音調音方法
- 第4回 子音と母音の練習
- 第5回 国際的な表音アルファベット(IPA)の紹介
- 第6回 スペリングと発音の関係
- 第7回 アメリカ英語の母音発音
- 第8回 中間試験
- 第9回 IPAと母音の復習
- 第10回 音響音韻【音波の読み方】
- 第11回 音響音韻【子音の識別】
- 第12回 音のつながり
- 第13回 アクセントと訛り
- 第14回 イントネーション
- 第15回 復習

成績評価の方法 /Assessment Method

Weekly Quizzes: 35%; Problem Sets (Homework): 45%; Midterm exam & Review: 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Student should read the upcoming chapter of the text each week. Following each lesson students should complete the homework, which will help prepare them for the short quiz we will take every week in class. If a student is absent, they should bring their homework to class the next time they are present. It is the student's responsibility to hand in late homework, and homework later than 2 weeks after its assigned date will not be accepted.

履修上の注意 /Remarks

You will be able to write in the International Phonetic Alphabet and understand the link between pronunciation and spelling in English after you finish this course.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This linguistics course focuses on language analysis, in this case, of the English sound system. If you like math, you will probably enjoy this class very much. If you don't like math, you will still find the practical application of the course very helpful in your study of the English language.

キーワード /Keywords

Phonetics, Phonology, English, Linguistics, Spelling, Pronunciation

英語学研究II (英語教育) 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
英語学・英語教育科目群

担当者名 /Instructor 雪丸 尚美 / 英米学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 英語教育についての諸問題について、専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	● 英語教育の諸問題を正しく理解し、英語による情報の収集や分析を行うことができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● グローバルな視野から英語教育の諸問題を学際的、複眼的に思考できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語学研究II (英語教育)

LIN234M

授業の概要 /Course Description

本授業は第二言語習得や英語教育の諸問題に関する専門的な知識の涵養を目的とする。取り扱うテーマは、母語習得と第二言語習得、言語習得の年齢に関する問題と児童英語教育、学びのユニバーサルデザインと発達障害、外国語適性とパーソナリティ、動機づけ、外国語教授法の変遷などである。予習した内容に基づき、第二言語習得や英語教育に関するさらなる理解を目指して講義を行う。オンラインで課題の提出を課す場合もある。また、グループでの議論や発表も頻繁に行うため、授業への積極的な参加が求められる。

教員志望に限らず、第二言語習得や英語教育に関心のある学生を対象とする。教員免許取得を目指す学生は、本授業を受講することで3年次開講の「英語科教育法」での学びがより深まると思われる。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 白井恭弘 『英語教師のための第二言語習得論入門』（2012年、大修館書店）
- 白井恭弘 『外国語学習の科学-第二言語習得論とは何か（岩波新書）』（2008年、岩波書店）
- 新多了、馬場今日子 『はじめての第二言語習得論講義: 英語学習への複眼的アプローチ』（2016年、大修館書店）
- パトラー後藤裕子 『英語学習は早いほど良いのか（岩波新書）』（2015年、岩波書店）
- 廣森友人 『英語学習のメカニズム - 第二言語習得研究にもとづく効果的な勉強法』（2015年、大修館書店）

その他、必要に応じて授業で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画は以下のとおりであるが、履修者の理解や関心に応じて内容を調整する。

1. オリエンテーション
2. 第二言語習得研究とは
3. 母語習得の理論
4. 母語と第二言語との関係
5. インプットとアウトプット
6. 外国語教育における教授法の変遷①【文法中心の教授法】
7. 外国語教育における教授法の変遷②【コミュニケーション中心の教授法】
8. 小テスト(1回目)
9. 多様な学習者【学びのユニバーサルデザイン、発達障害と外国語教育】
10. 学習者の要因【外国語適性とパーソナリティ】
11. 動機づけ
12. 臨界期仮説と児童英語教育
13. 様々な英語【EAP, ESP, World Englishes】
14. アクティブラーニングと反転授業
15. 小テスト(2回目)及び総括

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は (1) 授業参加に対する積極性15% , (2) 課題の提出15% , (3) 小テスト (2回) 70% によって評価する。小テストは90分間の論述試験を予定している。(ただし、4 回以上欠席したものは成績評価の対象としない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

< 事前学習 > 授業内容に関する英語・日本語の資料を読む。資料の指定は授業中に行う。毎回1時間程度は必要。
< 事後学習 > 授業で扱った内容に関する文献を読み、理解を深める。

履修上の注意 /Remarks

原則として英米学科の学生を対象とするが、他学部・学科の学生も歓迎する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少々難易度の高い授業になるので、集中して受講すること。

キーワード /Keywords

英語史 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
英語学・英語教育科目群

担当者名 /Instructor: ホロウェイ グレゴリー キース / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次
単位 /Credits: 2単位
学期 /Semester: 2学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	高度な英語運用に必要な専門知識と、英米及び英語圏の文化・社会の諸問題についての専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	●	英語の理論構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行い、それを英語で発信することができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	英語に関する情報や知識を駆使し、英語史の諸問題を複眼的に思考することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語史

LIN330M

授業の概要 /Course Description

This class focuses on the history of English from the earliest times that we have writings about the language until the present day. It is an introduction to the topic of language change in general, but this topic is illustrated through the examination of specific changes in the English language from Old English to Middle English to contemporary English. In addition, we will discuss various other varieties of English spoken around the world, language change, and language death. Through this course you will understand how languages may change across time, geography, and culture.

このクラスは、英語の初期の時代から現代の英語への歴史に焦点を当てています。一般的な言語変化の話題を紹介しますが、このクラスでは特に古英語から中級英語、現代英語への英語の具体的な変化を説明します。このコースをとおして言語が時間、地理、文化にどのように変化するかを理解します。

教科書 /Textbooks

Schmitt, Norbert & Marsden, Richard. (2006). "Why is English like that?". Michigan Teacher Training.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 永野芳郎『英語学要説』英宝社。
Crystal, David and 西出, 公之. (2000). A History of the English Language [英語の歴史]. 単行本.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1Introduction: The World of Old English
Week 2The history of English; The sounds of Old English
Week 3Sound change: Major differences from Old to Early Modern
Week 4Sound change 2: The implementation problem
Week 5Sources of new vocabulary in Old and Middle English
Week 6Morphological Change
Week 7Syntactic Change
Week 8Loss of cases in English
Week 9Midterm Exam
Week 10How language change occurs
Week 11Language contact (Spanglish)
Week 12Dialects of English (Many Englishes)
Week 13Writing and written records
Week 14Language death
Week 15Review

授業計画

第1回 オリエンテーション（古英語の歴史）
第2回 古英語の音
第3回 音の変化：古英語から初期近代英語への主な違い
第4回 音の変化：偉大な母音のシフト
第5回 英語の語彙の起源
第6回 形態学的変化：古英語の名詞と言葉の変容
第7回 構文の変更
第8回 中間試験
第9回 言語関係
第10回 言語の変化の進化
第11回 言語の連絡先
第12回 世界中の英語の方言
第13回 ライティングとライティングの記録
第14回 言語の死
第15回 復習：最終試験準備

成績評価の方法 /Assessment Method

Homework 50%; Midterm exam 25%; Final exam 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Student should read the upcoming chapter of the text each week. Following each lesson students should complete the homework, which will help prepare them for the short quiz we will take every week in class. I

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Linguistics, English language, history of English, historical linguistics

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 社会言語学研究に必要な基礎的・専門的知識を身につける。
技能	専門分野のスキル	● 社会と言語の関係を正しく理解し、分析・研究を行うことができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 社会と言語の諸問題を学際的、複眼的に思考し解決策を探索できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

(英米) 社会言語学研究	LIN310M
(比文) 社会言語学	LIN310M

授業の概要 /Course Description

本講義は社会言語学の基礎知識を学び、日常における様々な言語現象を観察し理解する力を身につけることが目的です。ことばは様々な要因によって影響を受け、変化やバリエーションが生じます。どのような要因がどのような影響を与えるのか、また私たちはことばをどのように駆使しているのかを、社会言語学の視点から考えます。ことばと社会との関係、そこに生じる諸問題を理解することがこの授業の狙いです。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回社会言語学とは
- 2 回英語の地域変種
- 3 回標準英語と非標準英語
- 4 回ことばと社会階級
- 5 回ことばと性(1) コミュニケーションとジェンダー
- 6 回ことばと性(2) バリエーションとジェンダー
- 7 回ことばと年齢
- 8 回ことばと人種・民族
- 9 回ことばとソーシャルネットワーク
- 10 回ことばとスタイル
- 11 回ことばの変化
- 12 回方言接触
- 13 回言語接触
- 14 回特別講演会(未定)
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末テスト...100% (出席重視。欠席・遅刻は減点対象。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業後に講義内容を復習し、関連する言語現象を観察してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メディア英語演習【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
英米研究・メディア科目群

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 1・2 - 2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	グローバルな視野から社会の諸問題を学際的、複眼的に思考できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を通して異文化に積極的に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観	●	国際人らしい良識と倫理感を持ち、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	卒業後も、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持続することができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

メディア英語演習

MCC215M

授業の概要 /Course Description

This course will provide an English-language introduction to Media Studies. Classes will be built upon analysis of newspaper articles, websites, radio programmes, television programmes and films in the light of key elements of media theory.

Weekly homework assignments will be given to allow students to grow accustomed to the themes and language covered in class.

教科書 /Textbooks

Julian McDougall, Media Studies: The Basics (Oxford, Routledge: 2012)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Suitable secondary reading will be discussed during the first class.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.Introduction
- 2.Different approaches to studying media
- 3.The history of media and Media Studies
- 4.Theoretical concepts used by students of media
- 5.Reading media
- 6.Film analysis 1
- 7.Powerful media
- 8.Advertisement analysis
- 9.Global media
- 10.Film analysis 2
- 11.Changing media
- 12.Media now! Class discussion
- 13.Making media
- 14.Advertisement analysis 2
- 15.Review and final discussion

成績評価の方法 /Assessment Method

Successful completion of regular written assignments ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to do preparatory reading on a regular basis.

メディア英語演習【昼】

履修上の注意 /Remarks

Preparation tasks will be set by the class instructor at regular intervals during the course.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メディア英語演習【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
英米研究・メディア科目群

担当者名 /Instructor アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 / 2単位 /Credits 2単位 /Semester 1学期 / 授業形態 /Class Format 講義・実習 / クラス /Class 2 - 3・2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	グローバルな視野から社会の諸問題を学際的、複眼的に思考できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を通して異文化に積極的に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観	●	国際人らしい良識と倫理感を持ち、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	卒業後も、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

メディア英語演習

MCC215M

授業の概要 /Course Description

メディア英語演習 is a course designed so students can learn about and discuss a variety of aspects concerning media and a current world. We will study how media influences us—both positively and negatively—in order to better understand our everyday life and the greater world around us. With different approaches to looking at media, this course will help broaden student understanding concerning the importance of media in the following three areas: personal life, social environment, and the global world. Every class will approach a variety of media forms from a different topic in order to explore new ideas about media.

教科書 /Textbooks

Fish in Water: The Hidden Influences of Media in Our Lives; Joseph Shaules, et. al.; MacMillan: 2015, Second Edition.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The library website contains several useful resources, such as newspaper articles and magazines about media.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction to course and get to know your classmates
2. Chapter 1. Fish in Water & Chapter 2. Whose Media?
3. Chapter 3. The Social Media and Revolution
4. Chapter 5. Social Media and Creativity
5. Chapter 8. The Social Contract
6. Chapter 9. The Bottom Line
7. Chapter 10. Tricks of the Advertising Trade
8. Chapter 11. Gathering News
9. Chapter 12. News and the News Makers
10. Chapter 14. Gender in the Media
11. Chapter 15. Violence in the Media
12. Chapter 17. Where are our Role Models?
13. Chapter 18. Television
14. Chapter 19: Too Much Fun
15. Chapter 20. Cool Japan

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation and speaking only in English: 30%; 3 quizzes: 30%; 4 Media studies listening activities: 15%; Final project: 25%.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please do NOT miss the first class.

All students will be expected to purchase their own copy of the text; students will be expected to have the text for the second class.

メディア英語演習【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
英米研究・メディア科目群

履修上の注意 /Remarks

This class will be taught in English; students will be expected to speak English 100% of the class period.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Media
Culture
Global media
Social media

アメリカ劇文化研究 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
英米研究・メディア科目群

担当者名 /Instructor アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・実習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	グローバルな視野から社会の諸問題を学際的、複眼的に思考できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を通して異文化に積極的に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観	●	国際人らしい良識と倫理感を持ち、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	卒業後も、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を維持することができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカ劇文化研究

MCC216M

授業の概要 /Course Description

アメリカ劇文化研究 is a course designed to use American theater as a means by which we can analyse and discuss important social and cultural topics related to both personal and public life. We will be reading sections of, and watching parts of, famous American plays in order to introduce various topics for discussion.

This course is designed to encourage students to learn about and discuss a variety of aspects concerning American culture and social issues. We will study how the theater is used to depict certain social and cultural concerns—both positively and negatively—in order to better understand how these issues impact or represent current day United States. Through different approaches to looking at these theater plays, this course will help broaden student understanding concerning the importance of the theater in the following three areas: social issues (including gender, race, class and religion), political issues and cultural issues. Every class will include sections from Hollywood film versions of the three plays as well as reading sections of the play for analysis.

The objective is to have you broaden your understanding of how the theater is an important medium through which cultural and social issues can be represented. We will discuss the following questions: Is the theater a good way to examine these various issues? Does the theater help us understand the situation of other people? In every class, we will use the following content for our weekly topic: 1) Weekly theme; 2) language focus; and, 3) output. In all classes, you will be required to bring your homework to the class in order to participate with classmates. I am always interested in helping students further develop their critical thinking skills. Creativity is crucial to “thinking outside the box,” and through our examination of these plays, I hope that we will learn new ways of viewing different aspects of our global society.

教科書 /Textbooks

No text book required. You will be required to watch the DVD movie version in the library.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The library has DVD movie version of all three plays we will be discussing. You need to watch each movie in the library.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction to course and get to know your classmates
2. American Theatre: Play 1--The Crucible, Part 1
3. American Theatre: Play 1--The Crucible, Part 2
4. American Theatre: Play 1--The Crucible, Part 3
5. American Theatre: Play 1--The Crucible, Part 4
6. American Theatre: Quiz 1, A Streetcar Named Desire, Part 1
7. American Theatre: Play 2--A Streetcar Named Desire, Part 2
8. American Theatre: Play 2--A Streetcar Named Desire, Part 3
9. American Theatre: Play 2--A Streetcar Named Desire, Part 4
10. American Theatre: Quiz 2, Fences, Part 1
11. American Theatre: Play 3--Fences, Part 2
12. American Theatre: Play 3--Fences, Part 3
13. American Theatre: Play 3--Fences, Part 4
14. American Theatre: Play 3--Fences, Part 5
15. Quiz 3, Final projects due.

成績評価の方法 /Assessment Method

Class Participation: 15%; 3 major quizzes: 45%; 3 character analyses: 10%; 4 Listening activities: 10%; Final project: 20%.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please do NOT miss the first class.

Students will be expected to attend all classes.

履修上の注意 /Remarks

This class will be taught in English. Students will be expected to speak in English for 100% of the class period.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

During the semester, you must watch the film version of the play. The DVD of the film version is in the library.

キーワード /Keywords

Theatre
American culture
Social topics

イギリス研究 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
英米研究・メディア科目群

担当者名 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	高度な知識を得ることによってイギリス文化を理解することができる。
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	英語を通して得られる情報を駆使し、諸問題を探求することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	卒業後も、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

(英米) イギリス研究	MCC217M
(比文) イギリス文化論	ARE234M

授業の概要 /Course Description

This course will be taught in English.

This course will assess and analyse British Culture through a focus on film, literature and journalism. Both historical and modern perspectives will be maintained and embraced throughout this investigation into the key themes of class, media, ideology, economy, sexuality, science, technology, nationalism and religion.

教科書 /Textbooks

Handouts will be provided at the beginning of each class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Relevant material for further study will be introduced during each class.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

We will focus on 9 important era-defining figures from 18th century till today that shaped the times, some of which are listed not because they are important in British history but as significant keys to consider each period: William Shakespeare, John Bunyan, Oliver Cromwell, Daniel Defoe, Erasmus Darwin, Mary Shelley, Isambard Kingdom Brunel, Charles Darwin, William Morris, Conan Doyle, D. H. Lawrence, A. A. Milne and John Lennon.

Class 1: Introduction

Class 2: Erasmus Darwin's "Luna Society" and 18th Century Industrial Revolution (1) 【media, coffee house, luna society】

Class 3: Erasmus Darwin's "Luna Society" and 18th Century Industrial Revolution (2) 【industrial revolution, national roads, canal, network, Josiah Wedgewood】

Class 4: Mary Shelley's Frankenstein and Bioethics in 19th Century (1) 【exploration, science and religion】

Class 5: Mary Shelley's Frankenstein and Bioethics in 19th Century (2) 【romanticism, feminism】

Class 6: Isambard Kingdom Brunel and the Age of Iron: Civil Engineering and the Industrial Hero (1) 【George & Robert Stevenson, railway and media】

Class 7: Isambard Kingdom Brunel and the Age of Iron: Civil Engineering and the Industrial Hero (2) 【British Empire, globalization, colonialism】

Class 8: Charles Darwin and A. R. Wallace: When did the Idea of Evolution Become Scientific? (1) 【mechanism and organism, romanticism】

Class 9: Charles Darwin and A. R. Wallace: When did the Idea of Evolution Become Scientific? (2) 【leading spirit, survival of the fittest】

Class 10: William Morris and the British Style 【arts and crafts movement, socialism, romanticism】

Class 11: Conan Doyle's Sherlock Homes and the End of the Century: 19th Century Occultism and Science 【mystery and occultism, London, urbanism】

Class 12: D. H. Lawrence's Lady Chatterley's Lover and the Idea of Obscenity 【class, sex, violence, reason, instinct】

Class 13: A. A. Milne's Winnie the Pooh and the Age of Wars: What Exists Where There is Nothing? 【humour, comedy, the idea of nothingness, war】

Class 14: John Lennon and the Rock Music: Pop, Youth and Identity in the Postcolonial World 【subculture, counterculture, freedom, love and peace movement】

Class 15: General Overview

成績評価の方法 /Assessment Method

Examination 70%

Class Contribution 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Each student will read the given material before each class.

Each student will review the class.

履修上の注意 /Remarks

Students must prepare for the class by reading the suggested materials and doing some research in advance.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ研究 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
英米研究・メディア科目群

担当者名 /Instructor アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	高度な知識を得ることによってアメリカ文化を理解することができる。
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	アメリカと関連する問題を正しく分析し、解決することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	学生が興味をもつゆえ、生涯にわたりアメリカに対して関心を示すこと。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

(英米) アメリカ研究	MCC218M
(比文) アメリカ文化論	ARE223M

授業の概要 /Course Description

American Studies will look at American culture from various historical perspectives. The course is designed to follow trends in American history and how specific events helped shape and change American culture. We will start with the early settlers in the New Land and move through important periods. One of the goals of the course will be to make the events in America's past relevant to present day issues.

教科書 /Textbooks

S. Kathleen Kitao et al. Events and Trends in American History. Sanshusha, 1992.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Information regarding required reading will be provided during class.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Course Introduction
- 2回 The New World
- 3回 The Original Colonies
- 4回 British Influence
- 5回 Early Expansion to the Mississippi
- 6回 The Moving Frontier
- 7回 The Civil War and the Civil Rights Movement
- 8回 The US System of Government
- 9回 The Second World War
- 10回 The 1960's Counterculture
- 11回 Economic Values
- 12回 Lifestyle
- 13回 Popular Culture
- 14回 Continuing Immigration
- 15回 Course Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Three short quizzes: 45%; Final written report (3 pages): 15%; Homework assignments (including readings): 20%; English-only participation and being prepared for class: 20%.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Preview: Please familiarize yourself with the topics and vocabulary by reading through assigned textbook chapters before class and answering the questions assigned.

Review: Be careful to review English vocabulary relating to each chapter.

履修上の注意 /Remarks

This course will be taught in English. Students are also expected to participate using only English. Lecture notes will be provided to aid review for quizzes. The quizzes will be in English and will emphasize English language vocabulary and ideas relating to American culture. Students are expected to read before class the English-language textbook chapter and any additional homework readings relating to each week's topic to gain historical background understanding and to better participate in class discussions.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

American Dream; Democracy; Wild, wild West; Industry vs. Agriculture; Racial tensions.

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	英米及び英語圏の文化・社会の諸問題についての専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	グローバルな視野から社会の諸問題を学際的、複眼的に思考できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を通して異文化に積極的に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観	●	国際人らしい良識と倫理感を持ち、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	生涯にわたり英語や異文化への関心と学習意欲をもち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英米文化研究

MCC311M

授業の概要 /Course Description

英米学科の教育の柱として、「語学力の養成」、「英語のこころを学ぶ」、「英語の先にある世界を学ぶ」をあげることができます。この授業は、このうち「英語のこころを学ぶ」ために用意されたものです。まずは比較文化論の方法論を踏まえ、異文化を読み解くにはどのようなことに注意を払えばよいかを確認します。それに続いて、英語文化の背後にあるイギリス、アメリカの文化を見つめ、さらに英語が事実上国際共通語の地位にあることを踏まえ、英語の現状を理解し、さらに英米以外の英語圏やアジアの国々についても考察したいと考えています。最後にこれらの学習のまとめを兼ねて、それらとの対比によって明らかにされた日本文化のさまざまな特徴を英語で語る練習をしてみたいと思います。

【この授業の主な到達目標として、以下の内容を考えています。】

①高度な英語運用に必要な専門的知識と、英米および英語圏の文化・社会の諸問題についての専門的知識を身につけている。②ものごとをグローバルな視点から多面的に考え、英語を通して得られる情報や知識を駆使し、現実社会の諸問題を学際的、複眼的に思考し、解決策を探求することができる。③専門的知識を応用しながら、日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。④英語を駆使して、日本と違った価値観や伝統、制度を持った異文化に積極的に関わっていく態度を身につけている。⑤卒業後も、英語や異文化への高い関心と、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲をもち続けることができる。

教科書 /Textbooks

テキストは用いません。プリントを用意し、授業ごとに配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 オリエンテーション：文化を読み解くとは
- 第02回 イギリス・アメリカの素顔を知る
- 第03回 マザーグースと児童文学
- 第04回 推理小説の誕生と発達
- 第05回 英国中世演劇からシェイクスピアまで
- 第06回 キリスト教を学ぶ
- 第07回 イスラム教を知る
- 第08回 英米の音楽(1)：ジャズの歴史とロックの誕生
- 第09回 英米の音楽(2)：イギリスで発展したロックンロール
- 第10回 英米の音楽(3)：プロムスのラストナイトプログラム
- 第11回 20世紀をスピーチで辿る
- 第12回 聖地デイズ・ネーランド
- 第13回 イギリス英語・アメリカ英語・アジア諸国の英語事情
- 第14回 日本文化を英語で発信する
- 第15回 まとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験100% ただし、授業の出席(欠席)状況により、平常点として若干の加点および減点を行いません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この授業は予習を前提に考えてはいませんので、特に何か準備して臨んでいただく必要はありません。ただし、「日本文化を英語で発信する」の回においては、皆さんに事前に作成していただいた内容を授業時に順に発表していただきますので、よろしくお願ひします。他方、復習はしっかり行なっていただきたいと思ひます。プリントを読み直すとともに、気になることがあったら調べてみて下さい。最終試験は復習および皆さんの追加リサーチの成果が評価されることとなります。

履修上の注意 /Remarks

この科目は教職課程を履修している人にとっては必修科目となっています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語はもはやイギリスやアメリカだけのものではなくなっています。英語はわたしたちの言語でもあります。しかし、英語を育んできた英米両国の文化を学ぶことは、英語の背後にある考え方やものの見方を知るためには不可欠です。積極的な気持ちで学んでいただきたいと思ひます。

キーワード /Keywords

イギリス劇文化研究 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
英米研究・メディア科目群

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	グローバルな視野から社会の諸問題を学際的、複眼的に思考できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を通して異文化に積極的に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観	●	国際人らしい良識と倫理感を持ち、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	卒業後も、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲をもち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

イギリス劇文化研究

MCC310M

授業の概要 /Course Description

This course will offer interpretations and analyses of seven plays by Shakespeare alongside explanation of the historical and social contexts in which Shakespeare wrote. Key areas of investigation will be the Renaissance imagination, religion, pleasure, sex and Elizabethan/Jacobean understanding of theatre itself. Course materials will include performance texts, historical documents and extracts from movies and filmed stage performances.

Each class will consist of a teacher-focused lecture followed by student-focused discussion.

教科書 /Textbooks

Handouts will be provided at the beginning of each class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Relevant material for further study will be introduced during each class.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction: Who was Shakespeare? Are his plays really so important?
- 2回 Macbeth: The Renaissance Imagination
- 3回 Staging Macbeth: Ghost/No Ghost
- 4回 A Midsummer Night's Dream: The Anarchy Of Love
- 5回 Staging A Midsummer Night's Dream: Locating Bottom
- 6回 Hamlet: The Renaissance Self
- 7回 Staging Hamlet: Philosopher Prince v. Action Hero
- 8回 Twelfth Night: Puritan Blues
- 9回 Staging Twelfth Night: Boys Who Are Girls
- 10回 Othello: The Evil Director
- 11回 Staging Othello: Seeing Is Believing
- 12回 The Taming of the Shrew: Misogyny? Play?
- 13回 Staging The Taming of the Shrew: Positioning The Audience
- 14回 Henry V: Expanding The Stage
- 15回 Review: Shakespeare's World

成績評価の方法 /Assessment Method

Short Essay (700-1000 words) - 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

From Session 2 on, students will be assigned short, manageable texts as preparatory reading on a weekly basis.

イギリス劇文化研究 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
英米研究・メディア科目群

履修上の注意 /Remarks

Please note that this course will be conducted in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーションゼミA1【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミ A I

SEM411M

授業の概要 /Course Description

This seminar will enable students to examine their own interests and experiences in crossing cultures. We will explore, strengthen and deepen our skills in communication and collaboration. We will have weekly discussions based on readings by writers and scholars from a wide variety of countries and cultures. The improvement of analytical, comprehension, discussion, and writing skills in English are a major goal. The first semester of this seminar will focus on basic theories of communication and culture.

教科書 /Textbooks

Printed materials and handouts to be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Instructor-led discussions on differences in culture.
- 3 回 Workshop and discussion on differences in culture.
- 4 回 Instructor-led discussions on differences in communication.
- 5 回 Workshop and discussion on differences in communication.
- 6 回 Workshop on individual materials for analysis and presentation.
- 7 回 Student presentation A.
- 8 回 Student-led discussion and presentation A.
- 9 回 Student presentations B.
- 10 回 Student-led discussion and presentation B.
- 11 回 Student presentations C.
- 12 回 Student-led discussion and presentation C.
- 13 回 Student presentations D.
- 14 回 Student-led discussion and presentation D.
- 15 回 Final discussion and paper submission.

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation, & Presentations 50% Successful Completion of Paper 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should prepare for class by reading all assigned materials before class meetings.
After meetings, students should review discussed topics and apply this to their research topics. Students should continue to read materials and pursue research tasks in relation to their own topics.

履修上の注意 /Remarks

Our meetings will consist of presentations followed by group discussion. While students will be given the freedom to choose materials, they are expected to follow the basic parameters of this seminar. Students can translate materials from Japanese to English but presentations must be in English. All meetings and discussions will be conducted in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Students will be expected to submit their individual analysis of presented materials in essay format each semester. Each paper should be approximately 2000 words in English.

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーションゼミA1【昼】

担当者名 /Instructor フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミA1

SEM411M

授業の概要 /Course Description

This seminar focuses on the concept of gender. What does gender mean? Is gender confined to the binary idea of men and women or is it more fluid and flexible?

In this semester we will explore the fundamental key ideas of the meaning of gender through exploration of gender in our everyday lives. We will also look at how gender is influenced by the media, focusing on representations of gender in music and film.

Each topic will be covered over two or three weeks and students will be expected to actively participate in discussions about gender as well as read materials handed out in advance and write presentations and short essays as and when required.

教科書 /Textbooks

There is no specific textbook for this course. Materials will be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Specific references will be provided by the instructor but it is always a good idea to browse the library for gender related materials.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 An Introduction to the Seminar
- 2回 What is gender?
- 3回 What does gender fluid mean?
- 4回 Gender and Film I: Action Heroes (Ironman, Superman, Batman)
- 5回 Gender and Film II: Action Heroes (Wonder Woman, Cat Woman, Katniss Everdeen)
- 6回 Gender and Film III: The Romcom (Bridget Jones)
- 7回 Gender and Film IV: The Disney Princess
- 8回 Gender and Film V: The Disney Prince
- 9回 Gender and the Music Industry I: J-pop
- 10回 Gender and the Music Industry II: K-pop
- 11回 Gender and the Music Industry III: Europe
- 12回 Gender and the Music Industry IV: America
- 13回 Rethinking Gender
- 14回 Discussion and Review
- 15回 Presentations

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignment I: Gender and Film 25%
Assignment II: Gender and the Music Industry 25%
Assignment III: Rethinking Gender 25%
Presentations 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please come to class fully prepared by reading the relevant materials for each session.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーションゼミAII【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミAII

SEM412M

授業の概要 /Course Description

This seminar will enable students to examine their own interests and experiences in crossing cultures. We will explore, strengthen and deepen our skills in communication and collaboration. We will have weekly discussions based on readings by writers and scholars from a wide variety of countries and cultures. The improvement of analytical, comprehension, discussion, and writing skills in English are a major goal. A goal of the second semester will be to nurture cultural and communicative competence through fieldwork exercises with exchange students and members of the international community.

教科書 /Textbooks

Printed materials and handouts to be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction and return of papers.
- 2 回 Paper-related discussions: Organization
- 3 回 Paper-related discussions: Content.
- 4 回 Paper-related discussions: Research Skills.
- 5 回 Instructor-led discussion and workshop A.
- 6 回 Instructor-led discussion and workshop B.
- 7 回 Instructor-led discussion and workshop C.
- 8 回 Presentations and discussion for student A.
- 9 回 Presentations and discussion for student B.
- 10 回 Presentations and discussion for student C.
- 11 回 Presentations and discussion for student D.
- 12 回 Presentations and discussion for student E.
- 13 回 Presentations and discussion for student F.
- 14 回 Presentations and discussion for student G.
- 15 回 Final discussion and paper submission.

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation, & Presentations 50% Successful Completion of Paper 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should prepare for class by reading all assigned materials before class meetings.

After meetings, students should review discussed topics and apply this to their research topics. Students should continue to read materials and pursue research tasks in relation to their own topics.

履修上の注意 /Remarks

Our meetings will consist of presentations followed by group discussion. While students will be given the freedom to choose materials, they are expected to follow the basic parameters of this seminar. Students can translate materials from Japanese to English but presentations must be in English. All meetings and discussions will be conducted in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Students will be expected to submit their individual analysis of presented materials in essay format each semester. Each paper should be approximately 2000 words in English.

キーワード /Keywords

成績評価の方法 /Assessment Method

LGBT+ Assignment: 25%
Being 'Trans' Assignment: 25%
Gender Diversity Assignment: 25%
Poster Presentation: 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are expected to come fully prepared to class and to have read the relevant materials in preparation for each session.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Gender, LGBT

通訳ゼミA1【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミ A I

SEM411M

授業の概要 /Course Description

通訳ゼミは、通訳者になるために不可欠な語学面のトレーニングはもとより、通訳者に必要な教養や知識を得ることも目標としています。通訳をするために表現力を磨くことが大切なのは言うまでもありませんが、それだけでなく、相手の論理展開について行ける訓練も必要です。その意味では、表現力だけでなく思考力を磨くこともとても大切です。

また、通訳をするためには、そこで語られていることを理解できていなければなりません。野球のルールを知らない人が、野球の実況中継を相手に分かるように通訳できるでしょうか。

こうしたことを踏まえ、このゼミでは実践と理論をともに柱に据え、皆さんとともに高度な英語力を獲得し、同時に英語を通して幅広い知識を習得していけるゼミにしていきたいと思っています。

この「通訳ゼミA-1」では、リスニング力を磨くことを第一の課題として取り組み、あわせて総合的な英語力のブラッシュアップを図ります。もちろん通訳の練習もしっかり行ないますが、まずはその基礎となる英語力をブラッシュアップすることから始めたいと思います。授業計画には記されていませんが、日本語を英語に通訳する練習も時間をとって行ないます。

【この授業の到達目標として、以下の内容を考えています。】

①物事をグローバルな視野から多面的に考え、英語を通して得られる情報や知識を駆使し、現実社会の諸問題を学際的、複眼的に思考し、解決策を探求することができる。②専門的知識を応用しながら、日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。③広い視野を有する国際人として、市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。④卒業後も、英語や異文化への高い関心と、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。⑤組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、かつ自らの見解を積極的に提案し、コミュニケーション力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進することができる。

教科書 /Textbooks

「スティーブ・ジョブズ 伝説のスピーチ&プレゼン」（朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示します。

通訳ゼミAI 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ゼミ・オリエンテーション
- 第02回 CNNが振り返るジョブズの功績(1)
- 第03回 CNNが振り返るジョブズの功績(2)
- 第04回 CNNが振り返るジョブズの功績(3)
- 第05回 驚異のプレゼンでたどるジョブズの軌跡(1)
- 第06回 驚異のプレゼンでたどるジョブズの軌跡(2)
- 第07回 驚異のプレゼンでたどるジョブズの軌跡(3)
- 第08回 伝記本の著者が明かすカリスマの素顔(1)
- 第09回 伝記本の著者が明かすカリスマの素顔(2)
- 第10回 伝記本の著者が明かすカリスマの素顔(3)
- 第11回 通訳訓練法の実践と復習・発展練習
- 第12回 伝説のスタンフォード大学スピーチ(1)
- 第13回 伝説のスタンフォード大学スピーチ(2)
- 第14回 伝説のスタンフォード大学スピーチ(3)
- 第15回 通訳実践演習：1学期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習科目ですから、出席は当然です。その上で授業への積極的参加の度合いに実技を加味して総合的に評価します。
積極的参加の度合い50%+実技・プレゼンテーション50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前準備をして臨んでください。復習もしっかり行なってください。

履修上の注意 /Remarks

言うまでもないことですが、ゼミに出席するだけで実力がつくわけではありません。平素から英語に触れる努力をし、たとえばテレビを見ながら一人通訳練習をする、というような心がけが大切だと思います。
また、よく知られているように、You Tubeの中に、優れた英語の音声素材がたくさん入っています。こうしたものを使って、自宅で練習していただくのも良いと思います。時にはこうしたものを課題として指定することも考えたいと思っています。また、毎時間、次週までに準備して欲しいことを確認しますので、予習も怠りのないようお願いします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いよいよゼミが始まります。楽しいゼミになるよう努力します。皆さんも頑張ってください。

キーワード /Keywords

通訳ゼミAII【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持続することができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミAII

SEM412M

授業の概要 /Course Description

通訳ゼミは、通訳者になるために不可欠な語学面のトレーニングはもとより、通訳者に必要な教養や知識を得ることも目標としています。通訳をするために表現力を磨くことが大切なのは言うまでもありませんが、それだけでなく、相手の論理展開について行ける訓練も必要です。その意味では、表現力だけでなく思考力を磨くこともとても大切です。

また、通訳をするためには、そこで語られていることを理解できていなければなりません。野球のルールを知らない人が、野球の実況中継を相手に分かるように通訳できるでしょうか。

こうしたことを踏まえ、このゼミでは実践と理論をともに柱に据え、皆さんとともに高度な英語力を獲得し、同時に英語を通して幅広い知識を習得していけるゼミにしていきたいと思っています。

この「通訳ゼミA-2」でも、引き続きリスニング力を磨くことを第一の課題として取り組み、あわせて総合的な英語力のブラッシュアップを図ります。そのうえで背景知識を増やしていくことを目標に据えて取り組んでいきます。そのためにニュースを教材として用、少しずつ背景知識を増やしていただけるよう取り組みたいと思います。また、ウォーミングアップを兼ねて、ラジオ番組などを用いて日本語を英語に通訳する練習を行ないます。

【この授業の到達目標として、以下の内容を考えています。】

①物事をグローバルな視野から多面的に考え、英語を通して得られる情報や知識を駆使し、現実社会の諸問題を学際的、複眼的に思考し、解決策を探求することができる。②専門的知識を応用しながら、日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。③広い視野を有する国際人として、市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。④卒業後も、英語や異文化への高い関心と、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持続することができる。⑤組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、かつ自らの見解を積極的に提案し、コミュニケーション力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進することができる。

教科書 /Textbooks

「TEDTALKS Keynote 3」 (CENGAGE Learning)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示します。

通訳ゼミAII 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ゼミ・オリエンテーション
- 第02回 Unit 1に基づくトレーニング
- 第03回 Unit 2に基づくトレーニング
- 第04回 Unit 3に基づくトレーニング
- 第05回 Unit 4に基づくトレーニング
- 第06回 Unit 5に基づくトレーニング
- 第07回 Unit 6に基づくトレーニング
- 第08回 Unit 7に基づくトレーニング
- 第09回 Unit 8に基づくトレーニング
- 第10回 Unit 9に基づくトレーニング
- 第11回 Unit 10に基づくトレーニング
- 第12回 Unit 11に基づくトレーニング
- 第13回 Unit 12に基づくトレーニング
- 第14回 2学期の総まとめと実践演習
- 第15回 皆さんのトレーニングの成果実演発表

成績評価の方法 /Assessment Method

演習科目ですから、出席は当然です。その上で授業への積極的参加の度合いに実技を加味して総合的に評価します。
積極的参加の度合い50%+実技・プレゼンテーション50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前準備をして臨んで下さい。復習もしっかり行なって下さい。

履修上の注意 /Remarks

言うまでもないことですが、ゼミに出席するだけで実力がつくわけではありません。平素から英語に触れる努力をし、たとえばテレビを見ながら一人通訳練習をする、というような心がけが大切だと思います。
また、よく知られているように、You Tubeの中に、優れた英語の音声素材がたくさん入っています。こうしたものを使って、自宅で練習していただくのも良いと思います。時にはこうしたものを課題として指定することも考えたいと思っています。また、毎時間、次週までに準備して欲しいことを確認しますので、予習も怠りのないようお願いします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミの雰囲気にも慣れてこられた頃かと思います。楽しいゼミになるよう一緒にがんばりましょう。

キーワード /Keywords

通訳技術の修練、プレゼンテーション力の向上、背景知識の強化

翻訳ゼミ A I 【昼】

担当者名 鮫島 千明 / Chiaki Sameshima / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミ A I

SEM411M

授業の概要 /Course Description

当ゼミでは、英語から日本語への翻訳を行う。この授業の目的は、翻訳を通して英語力の向上を目指し、英文テキストが書かれた社会背景の十分な理解を得ることにある。翻訳対象となる作品は、英語で書かれた文学作品・映画の字幕等である。ゼミの進め方は、発表討論形式とする。始めに翻訳対象を決め、こちらで決めたペースで翻訳を進める。学期初日に決定したスケジュールにそって、それぞれ進捗状況、訳出難解箇所、訳註必要箇所を発表し、ゼミ生全員で検討する。担当の学生は発表の2日前までに資料を用意する。事前に他の学生に読んでもらいたい資料がある場合は、前の週末までに用意・指示しておく。

教科書 /Textbooks

特に定めない。適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

ゼミの時間では、各自課題の報告をする。毎回、決められた範囲の翻訳原稿を持ってくること。それを読んで、問題点を指摘したり、さらに読むべき文献を適宜指導する。

※ 翻訳対象は学生との話し合いによって最終的に決定するので、この計画は変更になることがある。

- 1回 インタロダクション
- 2回 選定した翻訳テキスト【音楽 1】
- 3回 選定した翻訳テキスト【音楽 2】
- 4回 選定した翻訳テキスト【映画 1】
- 5回 選定した翻訳テキスト【映画 2】
- 6回 ディスカッション 1
- 7回 選定した翻訳テキスト【劇 1】
- 8回 選定した翻訳テキスト【劇 2】
- 9回 選定した翻訳テキスト【小説 1】
- 10回 選定した翻訳テキスト【小説 2】
- 11回 ディスカッション 2
- 12回 選定した翻訳テキスト【詩 1】
- 13回 選定した翻訳テキスト【詩 2】
- 14回 ディスカッション 3
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 60%
ディスカッションへの積極的参加 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回指定された箇所を予習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

翻訳ゼミ A II 【昼】

担当者名 鮫島 千明 / Chiaki Sameshima / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミ A II

SEM412M

授業の概要 /Course Description

当ゼミでは、英語から日本語への翻訳を行う。この授業の目的は、翻訳を通して英語力の向上を目指し、英文テキストが書かれた社会背景の十分な理解を得ることにある。翻訳対象となる作品は、英語で書かれた文学作品・映画の字幕等である。ゼミの進め方は、発表討論形式とする。始めに翻訳対象を決め、こちらで決めたペースで翻訳を進める。学期初日に決定したスケジュールにそって、それぞれ進捗状況、訳出難解箇所、訳註必要箇所を発表し、ゼミ生全員で検討する。担当の学生は発表の2日前までに資料を用意する。事前に他の学生に読んでもらいたい資料がある場合は、前の週末までに用意・指示しておく。

教科書 /Textbooks

特に定めない。適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

ゼミの時間では、各自課題の報告をする。毎回、決められた範囲の翻訳原稿を持ってくること。それを読んで、問題点を指摘したり、さらに読むべき文献を適宜指導する。

※ 翻訳対象は学生との話し合いによって最終的に決定するので、この計画は変更になることがある。

- 1回 インタロダクション
- 2回 選定した翻訳テキスト【音楽1】
- 3回 選定した翻訳テキスト【音楽2】
- 4回 選定した翻訳テキスト【映画1】
- 5回 選定した翻訳テキスト【映画2】
- 6回 ディスカッション1
- 7回 選定した翻訳テキスト【劇1】
- 8回 選定した翻訳テキスト【劇2】
- 9回 選定した翻訳テキスト【小説1】
- 10回 選定した翻訳テキスト【小説2】
- 11回 ディスカッション2
- 12回 選定した翻訳テキスト【詩1】
- 13回 選定した翻訳テキスト【詩2】
- 14回 ディスカッション3
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 60%

ディスカッションへの積極的参加 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回指定された箇所を予習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語ゼミAⅠ【昼】

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミAⅠ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

このゼミナールでは、国際経営論の学習を通じて、将来、国際的なビジネスに携わりたいと希望する学生諸君に必要な基礎知識や学習能力を育成します。コミッター（ゼミ長）がリーダーとなりゼミOBGとの交流など様々なプロジェクトを推進します。このような活動を通じて単に学問だけでなく、組織をつくることのできる人間形成を目的とします。

ゼミナールでは英文テキストやケースを輪読し、国際経営の専門用語を含んだ英語で討論できる実力を養成します。そのために、英文を日本語に訳す力を養成、英文法の再確認、専門用語を含んだリスニング訓練（英日、日英）を行います。ゼミでの学習によってビジネスに関する専門的知識の獲得、英語プレゼンテーション技法、論理的思考能力、日本語力（マナー用語を含む）、コミュニケーション能力を高めることを目標とします。発言としての英語力はスポーツや筋トレと同様に、毎日の絶え間ない訓練が重要であることを知り、主として自主学習に委ね、ゼミではその発表の場とします。勤勉な学生の参加を歓迎します。

教科書 /Textbooks

複数のテキストより引用します。詳しくは開講時に指示します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	グローバル化の本質	日本企業、海外企業動向
第2回	マーケティング戦略1	swot分析：豊田通商
第3回	マーケティング戦略2	データ分析
第4回	会計part1	PL&BS
第5回	会計part2	練習問題
第6回	英文会計1	資産、負債
第7回	英文会計2	収益、キャッシュフロー
第8回	会計プレゼンテーション1	好きな企業を選択し発表（グループ1）
第9回	会計プレゼンテーション2	好きな企業を選択し発表（グループ2）
第10回	英文ケース輪読	コーヒーチェーン（ミャンマーでの起業）
第11回	上記ケース討論	
第12回	スピーチコンテスト1	時事問題について英語で発表（グループ1）
第13回	スピーチコンテスト2	時事問題について英語で発表（グループ2）
第14回	卒論書き方説明	文献検索の仕方等
第15回	卒論書き方説明	剽窃の説明、レファレンスの仕方等

ビジネス英語ゼミ A1【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

プロジェクトへの参加、貢献度(20%)、課題・レポートの提出(40%)、定期試験(40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義スライドや使用資料は全て本学学習支援システムmoodleに掲載しますので予習、復習に活用ねがいます。

履修上の注意 /Remarks

授業はパワーポイントのスライドを用いた講義形式をとります。講義中に適宜質問や意見等を求めます。事例研究やディスカッションも頻繁に行います。

学生には、「ビジネス英語演習/国際経営論基礎」「ビジネス英語研究/国際経営論応用」の履修を強く勧めます。これらの知識の上に当該ゼミで学習することで国際企業の理解に繋がります。

直接的な英会話の練習はこのゼミではやりませんので各自発話としての英語力はスポーツや筋トレと同様に、毎日の絶え間ない訓練が重要であることを認識し、主として自主学習に委ね、ゼミではその発表の場とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私自身企業出身者(大手商社丸紅、豪州産鉄鉱石輸入業務、インフラプロジェクト組成業務など)ですので、現実的で時事的な話題を各テーマに沿って講義にできるだけ盛り込むように努めております。授業時には英文テキストを輪読することもあります。報告者が担当箇所の訳文や要約をつくり、その訳文の意味が正しいかをゼミ全員で確認しながら、英文を理解します。国際語としての英語力も磨くよう指導します。4年生には卒業論文の提出を義務づけておりますので3年次後半よりその準備に取り掛かります。ゼミ歓送迎会やOBG会などで優れた社会人との「話し方」や「接し方」を学んでもらいたいと思います。それが学生諸君の就職活動にも役立つと思います。松田ゼミはゼミOBG、先輩、後輩、同期との繋がりを大切にしている特徴があり、学生から喜ばれています。松田ゼミの諸先輩達は有名・有力企業に多数、勤務されていますので自分たちの未来像について多くのことを学ぶことができるでしょう。松田ゼミに入れば優良企業を選択できるチャンスが広がるはずです。

キーワード /Keywords

Marketing, SWOT, segmentation, portfolio, MNC, political risk, accounting, global finance, entry mode, cross-cultural management

ビジネス英語ゼミAⅠ【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 真一郎 / Shinichiro Terada / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミAⅠ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

本授業は、2つのゼミに別れています。受講する教員（寺田真一郎またはRodolfo Delgado）部分を確認してください。

【寺田ゼミ】

本ゼミナールは、イノベーションを中心とした経営学を、日本語、英語の資料を元に理解を深めるものです。

本学期は、経営学やイノベーションに関する議論を進めます。導入の後、3回程度は講師による講義形式としますが、その後はゼミ生（グループあるいは個人）による発表をもとに進める予定です。

学期末には、ゼミでの発表内容を、ペーパーにまとめて提出していただきます。

【Delgadoゼミ】

The purpose of this seminar is to discuss about tourism business cases in domestic and international markets and the role that these organizations play for the marketing, sustainable development, environment, and participation of residents in the implementation of tourism services and products in local communities and cities of the tourists' destinations.

Students will be able to put into practice their analytical, and critical skills and learn to research about tourism businesses and the intercultural communication understanding that is required when interacting with competitive domestic and international travel markets.

This seminar will be conducted in English and students are expected to research, write essays and make weekly presentations about aspects of a tourism business of their interest. After individual presentations, a group discussion will take place. A final paper submission is required at the end of the semester.

Students are asked to select a Tourism Business, Company or Industry that they would like to study. Topics of study for the development of the final paper are:

Tourism Business; Organization, Corporate Culture; Branding; Marketing; Competition, Intercultural Communication for Tourism; Carrying Capacity; Human Carrying Capacity; Sustainable Development; Environment; Corporate Social Responsibility; Communities; Local Government's Role; and Competitive Advantage of Tourism Services and Products.

ビジネス英語ゼミ A1 【昼】

教科書 /Textbooks

受講する教員部分を確認してください。

【寺田ゼミ】

必要な場合、ゼミの中で紹介します。

【Delgadoゼミ】

Pre-Intermediate Coursebook
English for International Tourism
Authors: Iwonna Dubicka and Margaret O'Keeffe
Publisher: Pearson Education Limited 2018 New Edition
ISBN: 978-1-4479-2387-9

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講する教員部分を確認してください。

【寺田ゼミ】

ゼミの中で、資料を紹介します。

【Delgadoゼミ】

Students will be asked to check references in the library and online.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講する教員部分を確認してください。

【寺田ゼミ】

- 第1回 導入：ゼミの進め方
 - 第2回 講義：「経営学」または「イノベーション」(1)
 - 第3回 講義：「経営学」または「イノベーション」(2)
 - 第4回 講義：「経営学」または「イノベーション」(3)
 - 第5回 ゼミ生の発表をもとに議論(1)
 - 第6回 ゼミ生の発表をもとに議論(2)
 - 第7回 ゼミ生の発表をもとに議論(3)
 - 第8回 ゼミ生の発表をもとに議論(4)
 - 第9回 中間まとめ、講義(1)
 - 第10回 中間まとめ、講義(2)
 - 第11回 ゼミ生の発表をもとに議論(5)
 - 第12回 ゼミ生の発表をもとに議論(6)
 - 第13回 ゼミ生の発表をもとに議論(7)
 - 第14回 ゼミ生の発表をもとに議論(8)
 - 第15回 まとめ
- (必要に応じ、スケジュールを変更する場合があります)

【Delgadoゼミ】

- Week 1: Introduction and Brainstorming topics for the final paper and thesis.
 - Week 2: Intercultural Communication for Tourism
 - Week 3: World Tourism
 - Week 4: Jobs in tourism
 - Week 5: Visitor centers
 - Week 6: Package tours
 - Week 7: Hotels
 - Week 8: Food & beverage
 - Week 9: Nature tourism
 - Week 10: Air Travel
 - Week 11: Hotel Operations
 - Week 12: Marketing
 - Week 13: Tourism Business
 - Week 14: Final Paper presentation
 - Week 15: Final Paper presentation
-

成績評価の方法 /Assessment Method

受講する教員部分を確認してください。

ビジネス英語ゼミAⅠ【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

【寺田ゼミ】

次の割合で、総合的に評価します。
1) ゼミへの貢献（発言、作業）50%
2) 発表 25%
3) 期末ペーパー25%

【Delgadoゼミ】

Students will be evaluated on research, essays, weekly presentations and a final paper. Every weekly essay will contribute to their semester's final paper and thesis.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講する教員部分を確認してください。

【寺田ゼミ】

事前学習：発表前には、資料をもとに発表内容をまとめる必要があります。
事後学習：ゼミの内容などをもとに、各自の興味のある領域を検討します。

【Delgadoゼミ】

（特になし）

履修上の注意 /Remarks

受講する教員部分を確認してください。

【寺田ゼミ】

事前に経営学の知識が無くても問題ありません。

【Delgadoゼミ】

（特になし）

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講する教員部分を確認してください。

【寺田ゼミ】

一緒にゼミを形作っていきましょう。

【Delgadoゼミ】

（特になし）

キーワード /Keywords

受講する教員部分を確認してください。

【寺田ゼミ】

経営学、ビジネス、イノベーション、インターネット、リサーチ

【Delgadoゼミ】

（特になし）

ビジネス英語ゼミAII【昼】

担当者名 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミAII

SEM412M

授業の概要 /Course Description

このゼミナールでは、国際経営論の学習を通じて、将来、国際的なビジネスに携わりたいと希望する学生諸君に必要な基礎知識や学習能力を育成します。コミッター（ゼミ長）がリーダーとなりOBGとの交流など様々なプロジェクトを推進します。このような活動を通じて単に学問だけでなく、組織をつくることのできる人間形成を目的とします。

ゼミナールでは英文テキストやケースを輪読し、国際経営の専門用語を含んだ英語で討論できる実力を養成します。そのために、英文を日本語に訳す力を養成、英文法の再確認、専門用語を含んだリスニング訓練（英日、日英）を行います。ゼミでの学習によってビジネスに関する専門的知識の獲得、英語プレゼンテーション技法、論理的思考能力、日本語力、コミュニケーション能力を高めることを目標とします。発話としての英語力はスポーツや筋トレと同様に、毎日の絶え間ない訓練が重要であることを知り、主として自主学習に委ね、ゼミではその発表の場とします。勤勉な学生の参加を歓迎します。

教科書 /Textbooks

[教科書]
テキストは指定しませんが、複数のテキストより引用します。詳しくは開講時に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

[参考書]
講義の中で紹介します。

ビジネス英語ゼミAII【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	ポーター分析	five forces 分析、テキスト指定
第2回	上記関連英文輪読1	
第3回	上記関連英文輪読2	
第4回	上記ケース討議	
第5回	ポータープレゼン1	各自企業、業界を選び、分析を発表
第6回	ポータープレゼン2	各自企業、業界を選び、分析を発表
第7回	競争優位	
第8回	バーニー論文輪読	RSV (経営資源と競争優位)、VRIO (競争優位の源泉)
第9回	企業の多角化	シナジー、企業買収、
第10回	上記英文ケース輪読	2つのビジネスモデル
第11回	上記ケース討議	
第12回	ANAケース輪読1	LCC戦略
第13回	ANAケース輪読2	
第14回	上記ケース討論	
第15回	IMFリスニング	女性のキャリア

成績評価の方法 /Assessment Method

プロジェクトへの参加、貢献度 (20%)、課題・レポートの提出 (40%)、定期試験 (40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義スライドや使用資料は全て本学学習支援システムmoodleに掲載しますので予習、復習に活用ねがいます。

履修上の注意 /Remarks

授業はパワーポイントのスライドを用いた講義形式をとります。講義中に適宜質問や意見等を求めます。事例研究やディスカッションも頻繁に行います。

学生には、「Introduction to Economics」「ビジネス英語演習/国際経営論基礎」「ビジネス英語研究/国際経営論応用」の履修を強く勧めます。これらの知識の上に当該ゼミで学習することで国際企業の理解に繋がります。

事例研究で各自の研究成果を英語で適宜プレゼンしてもらいます。

直接的な英会話の練習はこのゼミではやりませんので各自発話としての英語力はスポーツや筋トレと同様に、毎日の絶え間ない訓練が重要であることを認識し、主として自主学習に委ね、ゼミではその発表の場とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私自身企業出身者 (大手商社丸紅、豪州産鉄鉱石輸入業務、インフラプロジェクト組成業務など) ですので、現実的で時事的な話題を各テーマに沿って講義にできるだけ盛り込むように努めております。授業時には英文テキストを輪読することもあります。報告者が担当箇所の訳文や要約をつくり、その訳文の意味が正しいかをゼミ全員で確認しながら、英文を理解します。国際語としての英語力も磨くよう指導します。4年生には卒業論文の提出を義務づけておりますので3年次後半よりその準備に取り掛かります。ゼミ歓迎会やOBG会などで優れた社会人との「話し方」や「接し方」を学んでもらいたいと思います。それが学生諸君の就職活動にも役立つと思います。松田ゼミはゼミOBG、先輩、後輩、同期との繋がりを大切にしている特徴があり、学生から喜ばれています。松田ゼミの諸先輩達は有名・有力企業に多数、勤務されていますので自分たちの未来像について多くのことを学ぶことができるでしょう。松田ゼミに入れば優良企業を選択できるチャンスが広がるはずです。

キーワード /Keywords

Five forces, competitive advantage, VRIO, synergy, diversification, double business strategies, NPV, strategic management

ビジネス英語ゼミAII【昼】

担当者名 寺田 真一郎 / Shinichiro Terada / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミAII

SEM412M

授業の概要 /Course Description

本授業は、2つのゼミに別れています。受講する教員（寺田真一郎またはRodolfo Delgado）部分を確認してください。

【寺田ゼミ】

本ゼミナールは、イノベーションを中心とした経営学を、日本語、英語の資料を元に理解を深めるものです。

本学期は、リサーチペーパーを書くための作業を行います。導入の後、2回程度は講師による講義形式としますが、その後はゼミ生（グループあるいは個人）による発表をもとに進める予定です。

学期末には、ゼミでの発表内容を、ペーパーにまとめて提出していただきます。

【Delgadoゼミ】

The purpose of this seminar is to discuss about tourism business cases in domestic and international markets and the role that these organizations play for the marketing, sustainable development, environment, and participation of residents in the implementation of tourism services and products in local communities and cities of the tourists' destinations.

Students will be able to put into practice their analytical, and critical skills and learn to research about tourism businesses and the intercultural communication understanding that is required when interacting with competitive domestic and international travel markets.

This seminar will be conducted in English and students are expected to research, write essays and make weekly presentations about aspects of a tourism business of their interest. After individual presentations, a group discussion will take place. A final paper submission is required at the end of the semester.

Students are asked to select a Tourism Business, Company or Industry that they would like to study. Topics of study for the development of the final paper are:

Tourism Business; Organization, Corporate Culture; Branding; Marketing; Competition, Intercultural Communication for Tourism; Carrying Capacity; Human Carrying Capacity; Sustainable Development; Environment; Corporate Social Responsibility; Communities; Local Government's Role; and Competitive Advantage of Tourism Services and Products.

ビジネス英語ゼミ AII 【昼】

教科書 /Textbooks

受講する教員部分を確認してください。

【寺田ゼミ】

必要な場合、ゼミの中で紹介します。

【Delgadoゼミ】

Upper-Intermediate Coursebook
English for International Tourism
Author: Peter Strutt
Publisher: Pearson Education Limited 2018 New Edition
ISBN: 9781447923916

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講する教員部分を確認してください。

【寺田ゼミ】

ゼミの中で、資料を紹介します。

【Delgadoゼミ】

Students will be asked to check references in the library and online.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講する教員部分を確認してください。

【寺田ゼミ】

第1回 導入：ゼミの進め方
第2回 講義：リサーチペーパー（1）
第3回 講義：リサーチペーパー（2）
第4回 ゼミ生発表および議論（1）
第5回 ゼミ生発表および議論（2）
第6回 ゼミ生発表および議論（3）
第7回 ゼミ生発表および議論（4）
第8回 ゼミ生発表および議論（5）
第9回 中間まとめ、講義
第10回 ゼミ生発表および議論（6）
第11回 ゼミ生発表および議論（7）
第12回 ゼミ生発表および議論（8）
第13回 ゼミ生発表および議論（9）
第14回 ゼミ生発表および議論（10）
第15回 まとめ
(必要に応じ、スケジュールを変更する場合があります)

【Delgadoゼミ】

Week 1: Introduction and follow-up on research and finding on the topics of interest.
Week 2: Intercultural Communication for Tourism
Week 3: Trends in tourism
Week 4: Get the message
Week 5: Hotel Branding
Week 6: Sustainability
Week 7: Come fly with me
Week 8: Heritage
Week 9: Managing events
Week 10: Careers
Week 11: Gastronomy
Week 12: Risk
Week 13: Tourism Business
Week 14: Final Presentation
Week 15: Final Presentation

成績評価の方法 /Assessment Method

受講する教員部分を確認してください。

ビジネス英語ゼミ AII 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

【寺田ゼミ】

次の割合で、総合的に評価します。

- 1) ゼミへの貢献 (発言、作業) 50%
- 2) 発表 25%
- 3) 期末ペーパー 25%

【Delgadoゼミ】

Students will be evaluated on research, essays, weekly presentations and a final paper. Every weekly essay will contribute to their semester's final paper and thesis.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講する教員部分を確認してください。

【寺田ゼミ】

事前学習：発表前には、準備をし発表内容をまとめる必要があります。

事後学習：ゼミの議論などをもとに、リサーチを進めレポートにペーパーにまとめます。

【Delgadoゼミ】

(特になし)

履修上の注意 /Remarks

受講する教員部分を確認してください。

【寺田ゼミ】

興味のある領域を、リサーチ (研究) 方向に持っていきましょう。

【Delgadoゼミ】

(特になし)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講する教員部分を確認してください。

【寺田ゼミ】

楽しく進めましょう。

【Delgadoゼミ】

(特になし)

キーワード /Keywords

受講する教員部分を確認してください。

【寺田ゼミ】

経営学、ビジネス、イノベーション、インターネット、リサーチ

【Delgadoゼミ】

(特になし)

メディア英語ゼミAI【昼】

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミ A I

SEM411M

授業の概要 /Course Description

British Studies: Media and Culture
メディア英語ゼミAI offers students the opportunity to analyse the media of Britain and assess their relationship with the nation's social, political and cultural activities. The course will embrace analyses of media and culture from the very beginnings of Britain through to the present day. Students will be required to lead English-language discussions and make presentations on topics to be chosen by themselves.

教科書 /Textbooks

Handouts/research materials will be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A reading list will be provided at the beginning of the course.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Identifying a Research Topic
- 3回 The Uses of Theory
- 4回 Example Presentation: Performing Hamlet
- 5回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Film: The Opening Sequence
- 6回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Film: Semiology
- 7回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Film: Presenting Gender
- 8回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Theatre: The Empty Space
- 9回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Theatre: Introducing Pleasure
- 10回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Theatre: Metatheatre
- 11回 Student-led class (presentation and discussion) + Essay Writing Skills: Logical Structuring
- 12回 Student-led class (presentation and discussion) + Essay Writing Skills: Referencing
- 13回 Student-led class (presentation and discussion) + Essay Writing Skills: Objectivity
- 14回 Student-led class (presentation and discussion) + Academic Presentation Skills
- 15回 Review and Final Discussion

成績評価の方法 /Assessment Method

Successful completion of 1500-word essay ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

From Session 5 to Session 14 students will be expected to prepare background knowledge, questions and comments to be used in post-presentation discussions.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メディア英語ゼミAII【昼】

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミ A II

SEM412M

授業の概要 /Course Description

British Studies: Media and Culture

メディア英語ゼミAII follows on from メディア英語ゼミAI. The course offers students the opportunity to analyse the media of Britain and assess their relationship with the nation's social, political and cultural activities. The course will embrace analyses of media and culture from the very beginnings of Britain through to the present day. Students will be required to lead English-language discussions and make presentations on topics to be chosen by themselves.

教科書 /Textbooks

Handouts/research materials will be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A reading list will be provided at the beginning of the course.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Developing a Research Topic
- 3回 Assessing The Use of Theory: New Historicism
- 4回 Example Presentation: Pleasure and the Shakespearean Playhouse
- 5回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Advertisements: Type and Theory
- 6回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Advertisements: Gender Depiction
- 7回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Advertisements: The Hidden Message
- 8回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Theatre: The Joy of Tragedy
- 9回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Theatre: The Joy of Comedy
- 10回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Theatre: The Theatrum Mundi Topos
- 11回 Student-led class (presentation and discussion) + Essay Writing Skills: Using a Thesaurus
- 12回 Student-led class (presentation and discussion) + Essay Writing Skills: Avoiding Plagiarism
- 13回 Student-led class (presentation and discussion) + Essay Writing Skills: Finding a Voice
- 14回 Student-led class (presentation and discussion) + Academic Presentation Skills: Using Powerpoint Effectively
- 15回 Review and Final Discussion

成績評価の方法 /Assessment Method

Successful completion of 1500-word essay ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

From Session 5 to Session 14 students will be expected to prepare background knowledge, questions and comments to be used in post-presentation discussions.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

成績評価の方法 /Assessment Method

One 8-page research essay: 30%
One Presentation on a specific topic: 10%
5 Reading summaries: 20%
In-class participation: 20%
Homework Assignments (TED Talks and Socratic seminar): 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please do NOT miss the first class.

You will be required to have the textbook for the second class.

履修上の注意 /Remarks

Consistent attendance and participation will be expected. Anyone who has more than 5 absences will not pass the class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

The course objectives will include some of the following elements:

- Note-taking.
- Absorb information from audio and be able to listen for key vocabulary.
- Participate in class discussions by asking and responding to questions.
- Give effective oral presentations.
- Express their own ideas about differing value systems around the world and how these differ from Japanese society.
- Increase and diversify vocabulary usage.
- Read a literary work for a thematic meaning.
- Read secondary sources and material and be able to incorporate the themes into research essays.
- Avoid plagiarism and use MLA documentation outlines.

キーワード /Keywords

New York City
Urbanism
Urban Culture

アメリカ研究ゼミA1【昼】

担当者名 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミA1

SEM411M

授業の概要 /Course Description

本ゼミは、アメリカ合衆国の多文化状況を垣間見ることができる文学作品や映像作品などを対象とした活動を中心に進めます。アメリカ社会に共存する様々な声に耳を傾け、民族、人種、性、言語、宗教、思想など多様な文化的背景を持つ個人や集団が共存する社会と、その社会における文化的アイデンティティの在り方について理解を深めることを目指します。文学作品や映像作品以外にも、着目したい文化現象があればゼミ生からの積極的な議題の提案を歓迎します。ゼミは発表討論形式で進めます。また、前半は「国境と越境」をテーマにゼミ担当者が提案する作品を中心に、後半はゼミ生が提案する作品を扱います。適宜、理論書を取り入れます。

教科書 /Textbooks

授業内で指示します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○ベネディクト・アンダーソン著『定本 想像の共同体-ナショナリズムの起源と流行』
その他、適宜、授業内で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション (授業の概要、成績評価方法などの説明)
- 第2回 Thomas King: "Borders"
- 第3回 Leslie Marmon Silko: "Private Property"
- 第4回 Leslie Marmon Silko: "The Man to Send Rain Clouds"
- 第5回 Smoke Signals (film)
- 第6回 Luis Valdez: "Los Vendidos"
- 第7回 Estela Portillo: "The Pilgrim"
- 第8回 Edwidge Danticat: "Children of the Sea"
- 第9回 プレゼンテーション (基礎 1)
- 第10回 プレゼンテーション (基礎 2)
- 第11回 プレゼンテーション (基礎 3)
- 第12回 プレゼンテーション (展開 1)
- 第13回 プレゼンテーション (展開 2)
- 第14回 プレゼンテーション (展開 3)
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業における議論への貢献 ... 40%
発表 ... 30%
レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに、予め各回に扱う内容について準備すること
また授業終了後には、授業の内容を反復し課題等に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

自分が議題を提案する際には、少なくとも2週間前の授業までに資料を用意し、他のメンバーに配布 / 周知しておくようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各回で扱う文献は必ず読んだ上で授業にのぞみ、議論に積極的に参加してください。

キーワード /Keywords

文化的多様性、移動、文化的アイデンティティ

アメリカ研究ゼミAII【昼】

担当者名 /Instructor アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミAII

SEM412M

授業の概要 /Course Description

We will be exploring the idea of the American Dream as it relates to life in New York City and American culture. There will be two parts to our course. The first will look at urban family struggles related to economics and the American Dream. The second part will look at urban family struggles specifically related to race and its part in economics and the American Dream. As with our prior course, we will be looking closely at identity and how urban life affects identity. While not always focusing on New York City, our topics will be directly related to urban living and therefore transferable to New York City and our own urban life in Japan. This course will include the reading of two famous plays: Death of a Salesman and A Raisin in the Sun. We will also watch the movie versions after we finish reading the text (please don't watch beforehand). Additionally, students will examine various cultural differences between New York City and major cities in Japan. The end goal of this class is to help broaden your world perspective and understanding of cosmopolitan life by strengthening your ability to discuss various topics. It is also intended to help you understand the term “the American Dream” and how this phrase affects the culture of America and New York City.

教科書 /Textbooks

MILLER Arthur, Death of a Salesman: Text and Study Aids, Klett Ernst /Schulbuch (January 1, 2009)
HANSBERRY Lorraine, A Raisin in the Sun, Modern Classics.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

N/A

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Class 1: Introduction to topic and course expectations
- Class 2: New York City: The American Dream
- Class 3: New York City: The Wild, Wild West
- Class 4: New York City: Wage and Class
- Class 5: New York City: Career Anxiety
- Class 6: New York City: Economic Inequality
- Class 7: New York City: Levels of Success
- Class 8: New York City: Film Day
- Class 9: New York City: Race and the Urban Environment
- Class 10: New York City: Poverty in NYC
- Class 12: New York City: Pruitt-Igoe Housing Project
- Class 13: New York City: White neighbourhoods
- Class 14: New York City: Film Day
- Class 15: Final paper presentations.

成績評価の方法 /Assessment Method

One 8-page research essay and final presentation: 30%
Special topic presentation: 10%
4 Reading summaries: 20%
In-class participation: 20%
5 Socratic seminar questions and answers: 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please do NOT miss the first class.

You will be required to have the reading material for the second class.

履修上の注意 /Remarks

Consistent attendance and participation will be expected. Anyone who misses more than 5 classes will fail the course.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

The course objectives will include some of the following elements:

- Note-taking.
- Absorb information from audio and be able to listen for key vocabulary.
- Participate in class discussions by asking and responding to questions.
- Give effective oral presentations.
- Express their own ideas about differing value systems around the world and how these differ from Japanese society.
- Increase and diversify vocabulary usage.
- Read a literary work for a thematic meaning.
- Read secondary sources and material and be able to incorporate the themes into research essays.
- Avoid plagiarism and use MLA documentation outlines.

キーワード /Keywords

American Dream;
Broadway;
New York City;
Race and America.

アメリカ研究ゼミAII【昼】

担当者名 /Instructor 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学びようとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミAII

SEM412M

授業の概要 /Course Description

本ゼミでは引き続き、アメリカ合衆国に共存する様々な声に耳を傾け、民族、人種、性、言語、宗教、思想など多様な文化的背景を持つ個人や集団が共存する社会と、その社会における文化的アイデンティティの在り方について理解を深めることを目指します。合わせて、国家概念や文化概念に関わる理論書を読み、理解をより一層深めることを試みます。ゼミは発表討論形式で進めます。前半は「民族と性の越境」をテーマにゼミ担当者が提案する作品を中心に、後半はゼミ生が提案する作品を扱います。

教科書 /Textbooks

授業内で指示します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○ベネディクト・アンダーソン著『定本 想像の共同体-ナショナリズムの起源と流行』
その他、適宜、授業内で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション(今学期の概要、担当決め)
- 第2回 Kate Chopin: "The Story of an Hour"
- 第3回 Kate Chopin: "Desirée's Baby"
- 第4回 "Boyz n the Hood" (film)
- 第5回 Alice Walker: "Elethia"
- 第6回 Milk (film)
- 第7回 Lesléa Newman: "A Letter to Harvey Milk"
- 第8回 Toshio Mori: "Japanese Hamlet"
- 第9回 プレゼンテーション(発展1)
- 第10回 プレゼンテーション(発展2)
- 第11回 プレゼンテーション(発展3)
- 第12回 プレゼンテーション(研究発表1)
- 第13回 プレゼンテーション(研究発表2)
- 第14回 プレゼンテーション(研究発表3)
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業における議論への貢献 ... 40%
発表 ... 30%
レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに、予め各回に扱う内容について準備すること
また授業終了後には、授業の内容を反復し課題等に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

自分が議題を提案する際には、少なくとも2週間前の授業までに資料を用意し、他のメンバーに配布 / 周知しておくようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各回で扱う文献は必ず読んで授業にのぞみ、議論に積極的に参加してください。

キーワード /Keywords

文化的多様性、移動、文化的アイデンティティ

イギリス研究ゼミAI【昼】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミ A I

SEM411M

授業の概要 /Course Description

当ゼミでは「文字で書かれたイギリス文化」を研究対象とする。つまりこのゼミで扱うイギリス研究とは文字で書かれたイギリス文化というくらの意味になる。というわけで、研究対象には当然ミルトン、ワーズワース、ディケンズ、イェイツ、ロレンスなど本格的なイギリス文学の作家も入るが、その他マザーグース（イギリス伝承童謡）、アイルランド民話、『ピーター・ラビット』や『くまのプーさん』のような児童文学も入る。また、イギリスではなくてもアイルランド、オーストラリアなどのアメリカを除く旧イギリス植民地も対象となることもある。ゼミは木原研究室(E1111)で行う。ゼミの進め方はすべて発表討論形式。すべて英語で行う。まず、自分の研究テーマを決め、各自インターネットの文献検索を利用したり図書館に足を運んだりして資料を集め研究を進める。およそ1ヶ月に一回くらの割合で自分の研究成果を発表する。前もって資料を用意し、ゼミの他のメンバーに読んでもらう。当日発表に続いてディスカッションをする。

教科書 /Textbooks

特に定めない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 プレゼンテーションとディスカッション (導入 1)
- 第2回 プレゼンテーションとディスカッション (導入 2)
- 第3回 プレゼンテーションとディスカッション (基礎 1)
- 第4回 プレゼンテーションとディスカッション (基礎 2)
- 第5回 プレゼンテーションとディスカッション (基礎 3)
- 第6回 プレゼンテーションとディスカッション (基礎 4)
- 第7回 プレゼンテーションとディスカッション (展開 1)
- 第8回 プレゼンテーションとディスカッション (展開 2)
- 第9回 プレゼンテーションとディスカッション (展開 3)
- 第10回 プレゼンテーションとディスカッション (展開 4)
- 第11回 プレゼンテーションとディスカッション (発展 1)
- 第12回 プレゼンテーションとディスカッション (発展 2)
- 第13回 プレゼンテーションとディスカッション (発展 3)
- 第14回 プレゼンテーションとディスカッション (発展 4)
- 第15回 プレゼンテーションとディスカッション (まとめ)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 30%、発表 40%、ディスカッションへの参加 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前

発表担当者は、これまでの研究をさらにすすめてプレゼンを準備する。その他の学生は、その日に読んでおくべき資料に目を通し、自分の見解を用意しておくこと。

事後

各回の演習のディスカッション内容、得られた結論をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

担当の学生は、他の学生に読んできて欲しい文献や資料を遅くとも前の週までに指示する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミでは受け身で学ぶのではなく、自分で考えたテーマを自分で掘り下げ、独自の考えを展開する能力を身につけて欲しい。

キーワード /Keywords

文化、文学、芸術、メディア、社会、経済、ジェンダー、セクシュアリティ、暴力、植民地主義、資本主義、大英帝国、階級、労働者、移民

イギリス研究ゼミAII【昼】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミ A II

SEM412M

授業の概要 /Course Description

当ゼミでは「文字で書かれたイギリス文化」を研究対象とする。つまりこのゼミで扱うイギリス研究とは文字で書かれたイギリス文化というくらの意味になる。というわけで、研究対象には当然ミルトン、ワーズワース、ディケンズ、イェイツ、ロレンスなど本格的なイギリス文学の作家も入るが、その他マザーグース（イギリス伝承童話）、アイルランド民話、『ピーター・ラビット』や『くまのプーさん』のような児童文学も入る。また、イギリスではなくてもアイルランド、オーストラリアなどのアメリカを除く旧イギリス植民地も対象となることもある。ゼミは木原研究室(E1111)で行う。ゼミの進め方はすべて発表討論形式。すべて英語で行う。まず、自分の研究テーマを決め、各自インターネットの文献検索を利用したり図書館に足を運んだりして資料を集め研究を進める。およそ1ヶ月に一回くらの割合で自分の研究成果を発表する。前もって資料を用意し、ゼミの他のメンバーに読んでもらう。当日発表に続いてディスカッションをする。

教科書 /Textbooks

特に定めない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 プレゼンテーションとディスカッション (導入 1)
- 第2回 プレゼンテーションとディスカッション (基礎 1)
- 第3回 プレゼンテーションとディスカッション (基礎 2)
- 第4回 プレゼンテーションとディスカッション (基礎 3)
- 第5回 プレゼンテーションとディスカッション (基礎 4)
- 第6回 プレゼンテーションとディスカッション (発展 1)
- 第7回 プレゼンテーションとディスカッション (発展 2)
- 第8回 プレゼンテーションとディスカッション (発展 3)
- 第9回 プレゼンテーションとディスカッション (発展 4)
- 第10回 プレゼンテーションとディスカッション (応用 1)
- 第11回 プレゼンテーションとディスカッション (応用 2)
- 第12回 プレゼンテーションとディスカッション (応用 3)
- 第13回 プレゼンテーションとディスカッション (応用 4)
- 第14回 プレゼンテーションとディスカッション (まとめ 1)
- 第15回 プレゼンテーションとディスカッション (まとめ 2)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート30%、発表40%、ディスカッションへの参加30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前

発表担当者は、これまでの研究をさらにすすめてプレゼンを準備する。その他の学生は、その日に読んでおくべき資料に目を通し、自分の見解を用意しておくこと。

事後

各回の演習のディスカッション内容、得られた結論をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

担当の学生は、他の学生に読んできて欲しい文献や資料を遅くとも前の週までに指示する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミでは受け身で学ぶのではなく、自分で考えたテーマを自分で掘り下げ、独自の考えを展開する能力を身につけて欲しい。

キーワード /Keywords

文化、文学、芸術、メディア、社会、経済、ジェンダー、セクシュアリティ、暴力、植民地主義、資本主義、大英帝国、階級、労働者、移民

英語学ゼミAⅠ【昼】

担当者名 /Instructor ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミAⅠ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

This course will introduce students to the main ideas of second language acquisition, with a focus on practical aspects of learning a new language. There are basic principles of language acquisition that have been discovered through years of research, and which can help both individuals learn languages in a better way and also help people who may be language teachers in the future.

教科書 /Textbooks

Brown, S. & Larson-Hall, J. (2012). Second Language Acquisition Myths. University of Michigan Press.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

So as to deepen and develop independent study skills, students will be expected to make full use of the research facilities at their disposal whenever possible.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1: Introduction & gathering of student questions
- Week 2: Identifying a research topic & diagnostic test
- Week 3: Language learning & age (1); Giving an effective academic presentation
- Week 4: Language learning & age, cont.; Finding trustworthy research sources
- Week 5: Student-led class (presentation & discussion); Topic: Bilingualism (2)
- Week 6: Student-led class (presentation & discussion); Topic: Input & interaction (3)
- Week 7: Student-led class (presentation & discussion); Topic: Output (3)
- Week 8: Student-led class (presentation & discussion); Topic: Attention & noticing (4)
- Week 9: Student-led class (presentation & discussion); Topic: Explicit & implicit learning (5)
- Week 10: Student-led class (presentation & discussion); Topic: Developmental sequences (5)
- Week 11: Student-led class (presentation & discussion); Topic: Correction (6)
- Week 12: Student-led class (presentation & discussion); Topic: Individual differences (7)
- Week 13: Student-led class (presentation & discussion); Topic: Pragmatics (8)
- Week 14: Student-led class (presentation & discussion); Topic: Social approaches (8)
- Week 15: Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Presentations (1 during the semester) 30%; Vocabulary tests 40%; Participation 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

No special preparation necessary for this course; You will understand the foundational ideas of Second Language Acquisition after this course.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SLA, language acquisition, zemi

英語学ゼミAII【昼】

担当者名 /Instructor ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミAII

SEM412M

授業の概要 /Course Description

This course will be taught in a way that will illustrate an approach to teaching that is learning through doing and learning through experiencing. Every week we will be learning English in a way that illustrates the concept we are learning. In the second half of the semester you will also be asked to lead an English class. We will also start working on a mini research project in order to prepare you for your senior thesis. You will be asked to gather data and write a 1500 word paper at the end of the semester.

教科書 /Textbooks

Handouts/reading materials will be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

So as to deepen and develop independent study skills, students will be expected to make full use of the research facilities at their disposal whenever possible.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1: Introduction; Teaching speaking
- Week 2: Introduction to reading research articles and our mini research project
- Week 3: Teaching listening; Plagiarism
- Week 4: Teaching reading; First research article for mini research project
- Week 5: Teaching writing
- Week 6: Teaching grammar; Second research article for mini research project
- Week 7: Teaching vocabulary
- Week 8: Teaching Speaking through games
- Week 9: Teaching Speaking: Student presentations
- Week 10: Teaching Listening: Student presentations
- Week 11: Research paper preparation
- Week 12: Teaching Vocabulary: Student presentations
- Week 13: Teaching reading: Student presentations
- Week 14: Teaching writing: Student presentations
- Week 15: Teaching grammar: Student presentations

成績評価の方法 /Assessment Method

Teaching observation reports (3), 30%; Research paper, 50%, In-class teaching demonstration, 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

You are expected to do the readings each week for class. You should be working throughout the semester on your research paper.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

teacher training, education, language teaching, language, zemi

英語教育ゼミ A1 【昼】

担当者名 雪丸 尚美 / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミ A I

SEM411M

授業の概要 /Course Description

本ゼミでは、言語学と言語教育の有機的な関係に着目して、外国語（英語）教育の基本的な課題について理解を深め、基礎的な知識を得ることを目標とする。具体的には、外国語習得論、外国語学習者論、外国語指導法、外国語学習評価について英文の教科書や研究論文を読み、それらの内容について理解を深めるとともに教育実践への示唆を考察する。また、今回の授業内容を中心に、毎週自習を行うことが必要である。自習内容については毎回授業中に指示するので、指示に従って授業の予習・復習を行うようにしたい。

教科書 /Textbooks

初回授業時に知らせる。第二言語習得に関する洋書を予定している。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画は以下のとおりであるが、履修者の理解や関心に応じて内容を調整する。

1. ガイダンス
2. 言語教育学の研究
3. 外国語習得論（概説）
4. 外国語習得論（発表）
5. 外国語習得論（発表及びまとめ）
6. 外国語学習者論（概説）
7. 外国語学習者論（発表）
8. 外国語学習者論（発表及びまとめ）
9. 外国語指導法（概説）
10. 外国語指導法（発表）
11. 外国語指導法（発表及びまとめ）
12. 外国語学習評価（概説）
13. 外国語学習評価（発表）
14. 外国語学習評価（発表及びまとめ）
15. 教育言語学の課題

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は（1）授業参加に対する積極性（発言や質問など）30%、（2）課題30%、（3）発表40%によって評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

<事前学習> 次回の授業で使用する教科書の範囲や論文を読み、発表や議論の準備をする。
<事後学習> 指定の関連文献を読む。

履修上の注意 /Remarks

発表担当者は発表前に自主練習を行っておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回の講義では、発表のみならず、発表内容に関する議論を行います。そのため、授業時間外での（相当の）準備が必要となります。卒業後に英語教育に関わる意欲のある学生をはじめ、英語教育に関心がある人の参加を期待します。また、やむを得ない場合を除き、無断欠席は受講放棄とみなします。

キーワード /Keywords

英語教育ゼミ AII 【昼】

担当者名 雪丸 尚美 / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミ A II

SEM412M

授業の概要 /Course Description

本ゼミでは、教室における外国語（主に英語）教育の実践と理論研究にかかわる諸問題を広く取り上げながら、受講生が自分の問題意識を鮮明に持つことが出来るようになることを期待して進められる。そのため受講生は、自分が興味関心を持つテーマやトピックについて、各自で関連論文を読む積極的な学習態度が必要である。各自の問題意識を教育言語学（英語教育学など）における研究テーマへと発展させ、先行文献等を中心としたリサーチを行い、論文を執筆する。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画は以下のとおりであるが、履修者の理解や関心に応じて内容を調整する。

1. ガイダンス
2. 言語教育学と研究方法
3. 言語教育学と教材研究（概説及び発表）
4. 教材研究（事例収集）
5. 教材研究（事例発表・議論）
6. 教育言語学と学習・指導法研究（概説）
7. 学習・指導法研究（事例収集）
8. 学習・指導法研究（事例発表・議論）
9. 教育言語学と言語活動研究（概説）
10. 言語活動研究（事例収集）
11. 言語活動研究（事例発表・議論）
12. 教育言語学と評価方法研究（概説）
13. 評価方法研究（事例収集）
14. 評価方法研究（事例発表・議論）
15. 教育言語学の研究課題

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は（1）授業参加に対する積極性20%、（2）発表30%、（3）論文50%によって評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

<事前学習> 次回の授業で使用する教科書の範囲や論文を読み、発表・議論の準備をする。発表担当者は発表前に自主練習を行う。
<事後学習> 指定の関連文献を読む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回の講義では、発表のみならず、発表内容に関する議論を行います。そのため、授業時間外での(相当の)準備が必要となります。卒業後に英語教育に関わる意欲のある学生をはじめ、英語教育に関心がある人の参加を期待します。また、やむを得ない場合を除き、無断欠席は受講放棄とみなします。

キーワード /Keywords

社会言語学ゼミ AI 【昼】

担当者名 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミ AI

SEM411M

授業の概要 /Course Description

本ゼミでは言語と社会の係わりを様々な視点から考え、社会言語学研究に必要な基本的概念や理論を理解することを目的とします。AIでは言葉の変化とバリエーションを扱う代表的な研究を紹介・解説し、変化や変異を引き起こす社会的要因や言語的要因を学びます。また言語調査を行うために必要な方法論の基礎知識を学びます。

教科書 /Textbooks

Meyerhoff, Erik Schlee○ Miriam f and Laurel MacKenzie. (2015). Doing Sociolinguistics: A practical guide to data collection and analysis. Routledge.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回 社会言語学とは
- 3回 言葉のバリエーション：階級
- 4回 インフォーマントの選定 / 自然談話録音
- 5回 言葉のバリエーション：年齢
- 6回 アンケート / 会話書き起こし
- 7回 言葉のバリエーション：コミュニティオブプラクティス
- 8回 データの整理・コーディング・集計
- 9回 言葉のバリエーション：スタイル
- 10回 フィールドワーク (1) 準備
- 11回 フィールドワーク (2) 実施
- 12回 フィールドワーク (3) データ分析
- 13回 ディスカッション
- 14回 データ分析結果発表
- 15回 ゼミレポートの書き方；まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表・平常の学習状況...50%、レポート...50%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲を予習・復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会言語学ゼミAII【昼】

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミAII

SEM412M

授業の概要 /Course Description

本ゼミでは言語と社会の係わりを様々な視点から考え、社会言語学研究に必要な基本的概念や理論を理解することを目的とします。AIIでは学生が各自テーマを決め言語調査を行います。授業時に先行研究、言語データの収集方法や分析方法、調査結果を発表し、その内容について全員で議論します。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 言語調査プロジェクトについて
- 2回 文献検索
- 3回 テーマ発表
- 4回 研究発表の仕方
- 5回 学生による第1回研究発表(先行研究:第1グループ)
- 6回 学生による第1回研究発表(先行研究:第2グループ)
- 7回 学術論文の構成
- 8回 文献検索・発表準備
- 9回 学生による第2回研究発表(方法論:第1グループ)
- 10回 学生による第2回研究発表(方法論:第2グループ)
- 11回 方法論についての議論
- 12回 レポートの書き方・発表準備
- 13回 学生による第3回研究発表(結果:第1グループ)
- 14回 学生による第3回研究発表(結果:第2グループ)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表・平常の学習状況...50%、レポート...50%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲を予習・復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are expected to come fully prepared to class and to have read the relevant materials in preparation for each session.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーションゼミBI【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミBI

SEM413M

授業の概要 /Course Description

Students will continue to examine their own interests and experiences in crossing cultures. We will continue our weekly discussions based on readings by writers and scholars from a wide variety of countries and cultures. Our goal during the second year will be a greater intercultural awareness through student driven activities and research. A greater improvement of analytical, comprehension, discussion, and writing skills in English will remain a primary goal.

教科書 /Textbooks

Printed materials and handouts to be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Instructor-led discussions A.
- 3回 Instructor-led discussions B.
- 4回 Instructor-led discussions C.
- 5回 Student-led discussion and outline presentations.
- 6回 Workshop on individual materials for analysis and presentation.
- 7回 Presentations and discussion for student A.
- 8回 Presentations and discussion for student B.
- 9回 Presentations and discussion for student C.
- 10回 Presentations and discussion for student D.
- 11回 Presentations and discussion for student E.
- 12回 Presentations and discussion for student F.
- 13回 Presentations and discussion for student G.
- 14回 Presentations and discussion for student H.
- 15回 Final discussion and paper submission.

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation, & Presentations 50% Successful Completion of Paper 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should prepare for class by reading all assigned materials before class meetings.
After meetings, students should review discussed topics and apply this to their research topics. Students should continue to read materials and pursue research tasks in relation to their own topics.

履修上の注意 /Remarks

Our meetings will consist of presentations followed by group discussion. While students will be given the freedom to choose materials, they are expected to follow the basic parameters of this seminar. Students can translate materials from Japanese to English but presentations must be in English. All meetings and discussions will be conducted in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Students will be expected to submit their individual analysis of presented materials in essay format each semester. Each paper should be approximately 2000 words in English.

キーワード /Keywords

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are expected to come fully prepared to class and to have read the relevant materials in preparation for each session.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーションゼミBII【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミBII

SEM414M

授業の概要 /Course Description

During the second semester of this seminar, students will not only continue to examine their own interests in crossing cultures but they will try to sum up their overall viewpoints based upon a culmination of their own research and presentations. We will continue our weekly discussions based on readings by writers and scholars from a wide variety of countries and cultures. Our goal during the second year will be a greater intercultural awareness through student driven activities and research. A greater improvement of analytical, comprehension, discussion, and writing skills in English will remain a primary goal.

教科書 /Textbooks

Printed materials and handouts to be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction and return of papers.
- 2 回 Instructor-led discussion and workshop A.
- 3 回 Instructor-led discussion and workshop B.
- 4 回 Instructor-led discussion and workshop C.
- 5 回 Instructor-led discussion and workshop D.
- 6 回 Presentations and discussion for student A.
- 7 回 Presentations and discussion for student B.
- 8 回 Presentations and discussion for student C.
- 9 回 Presentations and discussion for student D.
- 10 回 Presentations and discussion for student E.
- 11 回 Presentations and discussion for student F.
- 12 回 Presentations and discussion for student G.
- 13 回 Presentations and discussion for student H.
- 14 回 Instructor-led discussion and workshop for review.
- 15 回 Final discussion and paper submission.

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation, & Presentations 50% Successful Completion of Paper 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

For class preparation students should read all assigned materials before meetings.

For review students should apply the results of class discussions to their individual research topics. Students should pursue research tasks in relation to their own projects.

履修上の注意 /Remarks

Our meetings will consist of presentations followed by group discussion. While students will be given the freedom to choose materials, they are expected to follow the basic parameters of this seminar. Students can translate materials from Japanese to English but presentations must be in English. All meetings and discussions will be conducted in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Students will be expected to submit their individual analysis of presented materials in essay format each semester. Each paper should be approximately 2000 words in English.

キーワード /Keywords

通訳ゼミBI【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミBI

SEM413M

授業の概要 /Course Description

この通訳ゼミでは、通訳者になるために不可欠な語学面のトレーニングはもとより、通訳者に必要な教養や知識を得ることも目標としています。通訳をするために表現力を磨くことが大切なのは言うまでもありませんが、それだけでなく、相手の論理展開について行ける訓練も必要です。その意味では、表現力だけでなく思考力を磨くこともとても大切であると言えます。

また、通訳をするためには、そこで語られていることを理解できていなければなりません。野球のルールを知らない人が、野球の実況中継を相手に分かるように通訳できるでしょうか。

こうしたことを踏まえ、このゼミでは実践と理論をともに柱に据え、皆さんとともに高度な英語力を獲得し、同時に英語を通して幅広い知識を習得していけるゼミにしていきたいと思っています。

この「通訳ゼミB-1」では、さまざまなトピックの英語を聞き取り、通訳できる実力養成を目標に取り組みます。日本語を英語に通訳する練習も、意識的に増やして生きたいと思っています。その上で、卒業課題を視野に入れて、総仕上げをしていきましょう。

【この授業の到達目標として、以下の内容を考えています。】

①物事をグローバルな視野から多面的に考え、英語を通して得られる情報や知識を駆使し、現実社会の諸問題を学際的、複眼的に思考し、解決策を探求することができる。②専門的知識を応用しながら、日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。③広い視野を有する国際人として、市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。④卒業後も、英語や異文化への高い関心と、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。⑤組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、かつ自らの見解を積極的に提案し、コミュニケーション力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進することができる。

教科書 /Textbooks

「TEDTALKS Keynote 4」(CENGAGE Learning)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介することがあります。

通訳ゼミBI【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ゼミ・オリエンテーション
- 第02回 Unit 1に基づく通訳演習
- 第03回 Unit 2に基づく通訳演習
- 第04回 Unit 3に基づく通訳演習
- 第05回 Unit 4に基づく通訳演習
- 第06回 Unit 5に基づく通訳演習
- 第07回 Unit 6に基づく通訳演習
- 第08回 Unit 7に基づく通訳演習
- 第09回 Unit 8に基づく通訳演習
- 第10回 Unit 9に基づく通訳演習
- 第11回 Unit 10に基づく通訳演習
- 第12回 Unit 11に基づく通訳演習
- 第13回 Unit 12に基づく通訳演習
- 第14回 1学期の総まとめと実践演習
- 第15回 卒業課題のための準備演習

成績評価の方法 /Assessment Method

演習科目ですから、出席は当然です。その上で授業への積極的参加の度合いに実技を加味して総合的に評価します。
積極的参加の度合い50%+実技・プレゼンテーション50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前準備をして臨んで下さい。復習もしっかり行なって下さい。

履修上の注意 /Remarks

言うまでもないことですが、ゼミに出席するだけで実力がつくわけではありません。平素から英語に触れる努力をし、たとえばテレビを見ながら一人通訳練習をする、というような心がけが大切だと思います。
また、よく知られているように、You Tubeの中に、優れた英語の音声素材がたくさん入っています。こうしたものを使って、自宅で練習していただくのも良いと思います。時にはこうしたものを課題として指定することも考えたいと思っています。また、毎時間、次週までに準備して欲しいことを確認しますので、予習も怠りのないようお願いします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いよいよ最終学年のゼミですね。この1年間は、就活、教育実習等で勉学に集中しにくい1年になるかも知れません。しかし、皆さんにとって、ここでしっかり学んでおくことは、将来への投資になると思います。今年も一緒に楽しく学んでいきましょう。

キーワード /Keywords

通訳技術の修練、プレゼンテーション力の向上、背景知識の強化

通訳ゼミBII【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミB II

SEM414M

授業の概要 /Course Description

この通訳ゼミでは、通訳者になるために不可欠な語学面のトレーニングはもとより、通訳者に必要な教養や知識を得ることも目標としています。通訳をするために表現力を磨くことが大切なのは言うまでもありませんが、それだけでなく、相手の論理展開について行ける訓練も必要です。その意味では、表現力だけでなく思考力を磨くこともとても大切であると言えます。

また、通訳をするためには、そこで語られていることを理解できていなければなりません。野球のルールを知らない人が、野球の実況中継を相手に分かるように通訳できるでしょうか。

こうしたことを踏まえ、このゼミでは実践と理論をともに柱に据え、皆さんとともに高度な英語力を獲得し、同時に英語を通して幅広い知識を習得していけるゼミにしていきたいと思っています。

4年次2学期は、英語スピーチを教材に英語の論理展開に習熟し、予測しながら聞く、論理的に通訳する、といった課題に取り組みます。卒業課題に向けてラストスパートです。卒業課題のための実技録画会は12月を予定しています。また、本年度も10月ごろ北九州国際車椅子バスケットボール大会のボランティア通訳奉仕をお願いする予定です。良い経験としていただきたいと思います。

【この授業の到達目標として、以下の内容を考えています。】

①物事をグローバルな視野から多面的に考え、英語を通して得られる情報や知識を駆使し、現実社会の諸問題を学際的、複眼的に思考し、解決策を探求することができる。②専門的知識を応用しながら、日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。③広い視野を有する国際人として、市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。④卒業後も、英語や異文化への高い関心と、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。⑤組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、かつ自らの見解を積極的に提案し、コミュニケーション力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進することができる。

教科書 /Textbooks

『英語で聴く世界を変えた感動の名スピーチ』(KADOKAWA)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示することがあります。

通訳ゼミBII 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ゼミ・オリエンテーション
 第02回 「マララ・ユスフザイ国連演説」 Part 1
 第03回 「マララ・ユスフザイ国連演説」 Part 2
 第04回 「アウンサン・スーチー ノーベル平和賞受賞記念講演」 Part 1
 第05回 「アウンサン・スーチー ノーベル平和賞受賞記念講演」 Part 2
 第06回 「ネルソン・マンデラ釈放後発の演説」 Part 1
 第07回 「ネルソン・マンデラ釈放後発の演説」 Part 2
 第08回 「マーティン・ルーサー・キング牧師ワシントン大行進演説」
 第09回 卒業課題：通訳発表会（録画します）(1)
 第10回 卒業課題：通訳発表会（録画します）(2)
 第11回 「ウィンストン・チャーチル鉄のカーテン演説」
 第12回 「フランクリン・デラノ・ルーズベルト大統領就任演説」 Part 1
 第13回 「フランクリン・デラノ・ルーズベルト大統領就任演説」 Part 2
 第14回 2年間の総まとめと総復習
 第15回 通訳に求められる技術と訓練
 ※この予定は暫定的なもので、取り上げるスピーチ、また卒業課題となるスピーチの選定にあたっては、実際にゼミの中で相談して決めます。

成績評価の方法 /Assessment Method

演習科目ですから、出席は当然です。その上で授業への積極的参加の度合いに実技を加味して総合的に評価します。
 積極的参加の度合い50% + 実技・プレゼンテーション50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前準備をして臨んで下さい。復習もしっかり行なって下さい。

履修上の注意 /Remarks

言うまでもないことですが、ゼミに出席するだけで実力がつくわけではありません。平素から英語に触れる努力をし、たとえばテレビを見ながら一人通訳練習をする、というような心がけが大切だと思います。
 また、よく知られているように、You Tubeの中に、優れた英語の音声素材がたくさん入っています。こうしたものを使って、自宅で練習していただくのも良いと思います。時にはこうしたものを課題として指定することも考えたいと思っています。また毎時間、次週までに準備して欲しいことを確認しますので、予習も怠りがないようにお願いします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

最後の学期を迎えました。ここまでご苦労様でした。卒業課題のための発表会は、12月中旬を予定しています。2年間のゼミ、4年間の学びの集大成です。もう一頑張りですね。

キーワード /Keywords

通訳

翻訳ゼミBI【昼】

担当者名 鮫島 千明 / Chiaki Sameshima / 英米学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミBI

SEM413M

授業の概要 /Course Description

当ゼミでは、英語から日本語への翻訳を行う。この授業の目的は、翻訳を通して英語力の向上を目指し、英文テキストが書かれた社会背景の十分な理解を得ることにある。翻訳対象となる作品は、英語で書かれた文学作品・映画の字幕等である。ゼミの進め方は、発表討論形式とする。始めに翻訳対象を決め、こちらで決めたペースで翻訳を進める。学期初日に決定したスケジュールにそって、それぞれ進捗状況、訳出難解箇所、訳註必要箇所を発表し、ゼミ生全員で検討する。担当の学生は発表の2日前までに資料を用意する。事前に他の学生に読んでもらいたい資料がある場合は、前の週末までに用意・指示しておく。

教科書 /Textbooks

特に定めない。適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

ゼミの時間では、各自課題の報告をする。毎回、決められた範囲の翻訳原稿を持ってくること。それを読んで、問題点を指摘したり、さらに読むべき文献を適宜指導する。

※ 翻訳対象は学生との話し合いによって最終的に決定するので、この計画は変更になることがある。

- 1回 インタロダクション
- 2回 選定した翻訳テキスト【音楽1】
- 3回 選定した翻訳テキスト【音楽2】
- 4回 選定した翻訳テキスト【映画1】
- 5回 選定した翻訳テキスト【映画2】
- 6回 ディスカッション1
- 7回 選定した翻訳テキスト【劇1】
- 8回 選定した翻訳テキスト【劇2】
- 9回 選定した翻訳テキスト【小説1】
- 10回 選定した翻訳テキスト【小説2】
- 11回 ディスカッション2
- 12回 選定した翻訳テキスト【詩1】
- 13回 選定した翻訳テキスト【詩2】
- 14回 ディスカッション3
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 60%

ディスカッションへの積極的参加 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回指定された箇所を予習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

翻訳ゼミBII【昼】

担当者名 /Instructor 鮫島 千明 / Chiaki Sameshima / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミBII

SEM414M

授業の概要 /Course Description

当ゼミでは、英語から日本語への翻訳を行う。この授業の目的は、翻訳を通して英語力の向上を目指し、英文テキストが書かれた社会背景の十分な理解を得ることにある。翻訳対象となる作品は、英語で書かれた文学作品・映画の字幕等である。ゼミの進め方は、発表討論形式とする。始めに翻訳対象を決め、こちらで決めたペースで翻訳を進める。学期の初日に決定したスケジュールにそって、それぞれ進捗状況、訳出難解箇所、訳註必要箇所を発表し、ゼミ生全員で検討する。担当の学生は発表の2日前までに資料を用意する。事前に他の学生に読んでもらいたい資料がある場合は、前の週までに用意・指示しておく。
後期は卒業課題中心に指導を行う。

教科書 /Textbooks

特に定めない。適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

後期は卒業課題の指導を中心とする。ゼミの時間では、各自課題の報告をする。毎回、決められた範囲の翻訳原稿を持ってくること。それを読んで、問題点を指摘したり、さらに読むべき文献を適宜指導する。

※ 翻訳対象は学生との話し合いによって最終的に決定するので、この計画は変更になることがある。

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 翻訳 卒業課題1
- 3回 翻訳 卒業課題2
- 4回 翻訳 卒業課題3
- 5回 ディスカッション1
- 6回 翻訳 卒業課題4
- 7回 翻訳 卒業課題5
- 8回 翻訳 卒業課題6
- 9回 ディスカッション2
- 10回 翻訳 卒業課題7
- 11回 翻訳 卒業課題8
- 12回 翻訳 卒業課題9
- 13回 ディスカッション3
- 14回 ディスカッション4
- 15回 翻訳総仕上げ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 60%
ディスカッションへの積極的参加 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回指定された箇所を予習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語ゼミBI【昼】

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミBI

SEM413M

授業の概要 /Course Description

このゼミナールでは、国際経営論の学習を通じて、将来、国際的なビジネスに携わりたいと希望する学生諸君に必要な基礎知識や学習能力を育成します。コミッター（ゼミ長）がリーダーとなりOBGとの交流など様々なプロジェクトを推進します。このような活動を通じて単に学問だけでなく、組織をつくることのできる人間形成を目的とします。

ゼミナールでは英文テキストやケースを輪読し、国際経営の専門用語を含んだ英語で討論できる実力を養成します。そのために、英文を日本語に訳す力を養成、英文法の再確認、専門用語を含んだリスニング訓練（英日、日英）を行います。ゼミでの学習によってビジネスに関する専門的知識の獲得、英語プレゼンテーション技法、論理的思考能力、日本語力、コミュニケーション能力を高めることを目標とします。発話としての英語力はスポーツや筋トレと同様に、毎日の絶え間ない訓練が重要であることを知り、主として自主学習に委ね、ゼミではその発表の場とします。勤勉な学生の参加を歓迎します。

教科書 /Textbooks

[教科書]

テキストは指定しませんが、複数のテキストより引用します。詳しくは開講時に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

[参考書]

講義の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	ビックデータ英文輪読1	
第2回	上記関連英文輪読	
第3回	卒論テーマ概要発表	
第4回	お金の時間的価値	キャッシュフロー分析
第5回	企業価値分析	
第6回	上記ケース輪読	太陽光発電会社
第7回	企業の国際化	多国籍企業
第8回	上記関連ケース輪読1	デズニールランドの国際展開
第9回	上記ケース輪読2	
第10回	上記ケース討議	
第11回	事例研究1	Abenomics CNN report
第12回	事例研究2	Chinese Dragon
第13回	楽天三木谷氏講演訳出1	
第14回	楽天三木谷氏訳出2	
第15回	まとめ	

ビジネス英語ゼミBI【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

プロジェクトへの参加、貢献度(20%)、課題・レポートの提出(40%)、定期試験(40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義スライドや使用資料は全て本学学習支援システムmoodleに掲載しますので予習、復習に活用ねがいます。課題として割り当てられた資料のリーディングは必ずクラスに参加する前に実行するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

授業はパワーポイントのスライドを用いた講義形式をとります。講義中に適宜質問や意見等を求めます。事例研究やディスカッションも頻繁に行います。

学生には、「Introduction to Economics」「ビジネス英語演習/国際経営論基礎」「ビジネス英語研究/国際経営論応用」の履修を強く勧めます。これらの知識の上に当該ゼミで学習することで国際企業の理解に繋がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私自身企業出身者(大手商社丸紅、豪州産鉄鉱石輸入業務、インフラプロジェクト組成業務など)ですので、現実的で時事的な話題を各テーマに沿って講義にできるだけ盛り込むように努めております。授業時には英文テキストを輪読することもあります。報告者が担当箇所の訳文や要約をつくり、その訳文の意味が正しいかをゼミ全員で確認しながら、英文を理解します。国際語としての英語力も磨くよう指導します。4年生には卒業論文の提出を義務づけておりますので3年次後半よりその準備に取り掛かります。ゼミ歓迎会やOBG会などで優れた社会人との「話し方」や「接し方」を学んでもらいたいと思います。それが学生諸君の就職活動にも役立つと思います。松田ゼミはゼミOBG、先輩、後輩、同期との繋がりを大切にしている特徴があり、学生から喜ばれています。松田ゼミの諸先輩達は有名・有力企業に多数、勤務されていますので自分たちの未来像について多くのことを学ぶことができるでしょう。松田ゼミに入れば優良企業を選択できるチャンスが広がるはずです。

キーワード /Keywords

Big data, time value of money, compound interest rates, free cashflow, valuation, value chain, global operation, entry modes, hurdle rate, IRR

ビジネス英語ゼミBII【昼】

担当者名 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミBII

SEM414M

授業の概要 /Course Description

このゼミナールでは、国際経営論の学習を通じて、将来、国際的なビジネスに携わりたいと希望する学生諸君に必要な基礎知識や学習能力を育成します。コミッター（ゼミ長）がリーダーとなりOBGとの交流など様々なプロジェクトを推進します。このような活動を通じて単に学問だけでなく、組織をつくることのできる人間形成を目的とします。

ゼミナールでは英文テキストやケースを輪読し、国際経営の専門用語を含んだ英語で討論できる実力を養成します。そのために、英文を日本語に訳す力を養成、英文法の再確認、専門用語を含んだリスニング訓練（英日、日英）を行います。ゼミでの学習によってビジネスに関する専門的知識の獲得、英語プレゼンテーション技法、論理的思考能力、日本語力、コミュニケーション能力を高めることを目標とします。発話としての英語力はスポーツや筋トレと同様に、毎日の絶え間ない訓練が重要であることを知り、主として自主学習に委ね、ゼミではその発表の場とします。勤勉な学生の参加を歓迎します。

教科書 /Textbooks

[教科書]
テキストは指定しませんが、複数のテキストより引用します。詳しくは開講時に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

[参考書]
講義の中で紹介します。

ビジネス英語ゼミBII【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	卒論概要を発表	
第2回	事例研究	スターバックス
第3回	上記関連英文輪読	
第4回	上記関連英文輪読	
第5回	ケース討議	
第6回	事例研究	セブンイレブンジャパン
第7回	上記関連英文輪読	
第8回	上記関連英文輪読	英文和訳
第9回	上記ケース討議	
第10回	多国籍企業の政治リスク	英文資料配布
第11回	関連英文輪読	
第12回	関連英文輪読	
第13回	多国籍企業のまとめ	
第14回	理解度テスト	
第15回	総合まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

プロジェクトへの参加、貢献度(20%)、課題・レポートの提出(40%)、定期試験(40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義スライドや使用資料は全て本学学習支援システムmoodleに掲載しますので予習、復習に活用ねがいます。特に事前に読む必要のある資料を事前に掲載しますので必ず予習してからクラスに参加するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

授業はパワーポイントのスライドを用いた講義形式をとります。講義中に適宜質問や意見等を求めます。事例研究やディスカッションも頻繁に行います。

学生には、「Introduction to Economics」「ビジネス英語演習/国際経営論基礎」「ビジネス英語研究/国際経営論応用」の履修を強く勧めます。これらの知識の上に当該ゼミで学習することで国際企業の理解に繋がります。

直接的な英会話の練習はこのゼミではやりませんので各自発話としての英語力はスポーツや筋トレと同様に、毎日の絶え間ない訓練が重要であることを認識し、主として自主学習に委ね、ゼミではその発表の場とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私自身企業出身者(大手商社丸紅、豪州産鉄鉱石輸入業務、インフラプロジェクト組成業務など)ですので、現実的で時事的な話題を各テーマに沿って講義にできるだけ盛り込むように努めております。授業時には英文テキストを輪読することもあります。報告者が担当箇所の訳文や要約をつくり、その訳文の意味が正しいかをゼミ全員で確認しながら、英文を理解します。国際語としての英語力も磨くよう指導します。4年生には卒業論文の提出を義務づけておりますので3年次後半よりその準備に取り掛かります。ゼミ歓迎会やOBG会などで優れた社会人との「話し方」や「接し方」を学んでもらいたいと思います。それが学生諸君の就職活動にも役立つと思います。松田ゼミはゼミOBG、先輩、後輩、同期との繋がりを大切にする特徴があり、学生から喜ばれています。松田ゼミの諸先輩達は有名・有力企業に多数、勤務されていますので自分たちの未来像について多くのことを学ぶことができるでしょう。松田ゼミに入れば優良企業を選択できるチャンスが広がるはずです。

キーワード /Keywords

competencies, strategic alliance, project finance, risk package, political risk, IFC-B loan, cross-default clause

メディア英語ゼミB1【昼】

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミB I

SEM413M

授業の概要 /Course Description

British Studies: Media and Culture

メディア英語ゼミB I offers students the opportunity to analyse the media of Britain and assess their relationship with the nation's social, political and cultural activities. The course will embrace analyses of media and culture from the very beginnings of Britain through to the present day. Students will be required to lead English-language discussions and make presentations on topics to be chosen by themselves.

教科書 /Textbooks

Handouts/research materials will be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

So as to deepen understanding and develop independent study skills, students will be expected to make full use of the research facilities at their disposal whenever possible.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Instructor-led class 1: Theory and Logic
- 3回 Instructor-led class 2: Supporting Arguments
- 4回 Instructor-led class 3: Presentation Skills
- 5回 Student-led class A (presentation + discussion)
- 6回 Student-led class B (presentation + discussion)
- 7回 Student-led class C (presentation + discussion)
- 8回 Student-led class D (presentation + discussion)
- 9回 Student-led class E (presentation + discussion)
- 10回 Student-led class F (presentation + discussion)
- 11回 Student-led class G (presentation + discussion)
- 12回 Student-led class H (presentation + discussion)
- 13回 Student-led class I (presentation + discussion)
- 14回 Student-led class J (presentation + discussion)
- 15回 Final discussion

成績評価の方法 /Assessment Method

Successful completion of 1500-word essay ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

From Session 5 to Session 14 students will be expected to prepare background knowledge, questions and comments to be used in post-presentation discussions.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メディア英語ゼミBII 【昼】

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明確に表現することができる。
	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミB II

SEM414M

授業の概要 /Course Description

British Studies: Media and Culture

メディア英語ゼミB II offers students the opportunity to analyse the media of Britain and assess their relationship with the nation's social, political and cultural activities. The course will embrace analyses of media and culture from the very beginnings of Britain through to the present day. Students will be required to lead English-language discussions and make presentations on topics to be chosen by themselves.

教科書 /Textbooks

Handouts/research materials will be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

So as to deepen understanding and develop independent study skills, students will be expected to make full use of the research facilities at their disposal whenever possible.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Developing research skills
- 2回 Instructor-led class 1: Redefining 'Media & Culture'
- 3回 Instructor-led class 2: Source Material Selection
- 4回 Instructor-led class 3: The Uses of Theory
- 5回 Student-led class A (presentation + discussion)
- 6回 Student-led class B (presentation + discussion)
- 7回 Student-led class C (presentation + discussion)
- 8回 Student-led class D (presentation + discussion)
- 9回 Student-led class E (presentation + discussion)
- 10回 Student-led class F (presentation + discussion)
- 11回 Student-led class G (presentation + discussion)
- 12回 Student-led class H (presentation + discussion)
- 13回 Student-led class I (presentation + discussion)
- 14回 Student-led class J (presentation + discussion)
- 15回 Final discussion

成績評価の方法 /Assessment Method

Successful completion of 1500-word essay ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

From Session 5 to Session 14 students will be expected to prepare background knowledge, questions and comments to be used in post-presentation discussions.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ研究ゼミBI【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Course overview and thematic elements of the semester; Map drawing
2. Novel reading, Map drawing
3. novel reading, Topic: Walt Whitman
4. novel reading, Topic: Edith Wharton
5. novel reading, Topic: Langston Hughes
6. novel reading, Topic: Kenneth Fearing
7. novel reading, Topic: F. Scott Fitzgerald
8. novel reading, Topic: Henry Miller
9. novel reading, Topic: Jack Kerouac
10. novel reading, Topic: This is New York
11. novel reading, Topic: Don DeLillo
12. Finish the novel reading, Topic: Paul Auster
13. Topic: Politics in the Big Apple
14. Topic: Politics in the Big Apple
15. Final presentations, final essay due.

成績評価の方法 /Assessment Method

Research essays revisions and Introduction: 20%
Book review: 20%
Poster presentation: 10%
Reading summaries/Socratic seminar questions: 15%
In-class participation: 20%
NYC Map addresses: 15%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please do NOT miss the first class.

You are required to purchase the novel by the second class.

履修上の注意 /Remarks

Active participation and coming to class prepared will be expected.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Mapping
Famous writers
New York City

アメリカ研究ゼミBII【昼】

担当者名 /Instructor アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミBII

SEM414M

授業の概要 /Course Description

This final semester will focus on three important areas: revising, writing and analysis. You will be responsible for revising your two prior essays and the book review in order to prepare a solid senior thesis for The University of Kitakyushu graduation essay library. In addition to revising the prior essays, you will be required to write a six-page general introduction to your themes and topics. This introduction can include some of the themes that we discussed throughout the last three semesters. I recommend you look back at the prior syllabi to recall the themes we discussed in order to utilize specific topics that fit with your essays. Also, you should include in the introduction some reference to the texts that we read during the last three semesters. There are many ways in which those texts fit in with your essays. Finally, we will be watching several films this semester, all set within New York City. You may include any of these films in your introduction. For each film, you must write a one page, two-paragraph analysis of the film. If you miss one class, you will be responsible for locating the film and watching it on your own time.

教科書 /Textbooks

No textbooks required.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No references required.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Class overview, thematic content of the movies and course
2. Movie 1, part 1
3. Movie 1, part 2; Paper overview, review.
4. Movie #1 Summary due; Movie 2, part 1
5. Movie 2, part 2; paper review
6. Movie #2 Summary due; Movie 3, part 1
7. Movie 3, part 2; paper review
8. Movie #3 Summary due; Movie 4, part 1
9. Movie 4, part 2; paper review
10. Movie #4 Summary due; Movie 5, part 1
11. Movie 6, part 2; paper review
12. Movie #5 Summary due; Movie 6, part 1
13. Movie 6, part 2; paper review; Senior Thesis DUE
14. Movie #6 Summary due; Movie 7, part 1
15. Final Presentation; Movie 7, part 2

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation: (20%); 6 Movie Summaries Assignments: (20%); Two essay and book review revisions/Visit international student tutors: 25%; Final senior project report (35%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please do NOT miss any classes. If you miss a class, you are responsible for watching the film that you missed.

履修上の注意 /Remarks

If you miss a class, it will be your responsibility to finish watching the movie (start watching, if be the case) and complete the movie summary on-time.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス研究ゼミBI【昼】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミBI

SEM413M

授業の概要 /Course Description

当ゼミでは「文字で書かれたイギリス文化」を研究対象とする。つまりこのゼミで扱うイギリス研究とは文字で書かれたイギリス文化というくらの意味になる。というわけで、研究対象には当然ミルトン、ワーズワース、ディケンズ、イェイツ、ロレンスなど本格的なイギリス文学の作家も入るが、その他マザーグース（イギリス伝承童話）、アイルランド民話、『ピーター・ラビット』や『くまのプーさん』のような児童文学も入る。また、イギリスではなくてもアイルランド、オーストラリアなどのアメリカを除く旧イギリス植民地も対象となることもある。ゼミは木原研究室(E1111)で行う。ゼミの進め方はすべて発表討論形式。すべて英語で行う。まず、自分の研究テーマを決め、各自インターネットの文献検索を利用したり図書館に足を運んだりして資料を集め研究を進める。およそ1ヶ月に一回くらの割合で自分の研究成果を発表する。前もって資料を用意し、ゼミの他のメンバーに読んでもらう。当日発表に続いてディスカッションをする。

教科書 /Textbooks

特に定めない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 プレゼンテーションとディスカッション (導入 1)
- 第3回 プレゼンテーションとディスカッション (導入 2)
- 第4回 プレゼンテーションとディスカッション (基礎 1)
- 第5回 プレゼンテーションとディスカッション (基礎 2)
- 第6回 プレゼンテーションとディスカッション (基礎 3)
- 第7回 プレゼンテーションとディスカッション (基礎 4)
- 第8回 プレゼンテーションとディスカッション (展開 1)
- 第9回 プレゼンテーションとディスカッション (展開 2)
- 第10回 プレゼンテーションとディスカッション (展開 3)
- 第11回 プレゼンテーションとディスカッション (展開 4)
- 第12回 プレゼンテーションとディスカッション (発展 1)
- 第13回 プレゼンテーションとディスカッション (発展 2)
- 第14回 プレゼンテーションとディスカッション (発展 3)
- 第15回 プレゼンテーションとディスカッション (発展 4)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート30%、発表40%、ディスカッションへの参加 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前

発表担当者は、これまでの研究をさらにすすめてプレゼンを準備する。その他の学生は、その日に読んでおくべき資料に目を通し、自分の見解を用意しておくこと。

事後

各回の演習のディスカッション内容、得られた結論をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

担当の学生は、他の学生に読んできて欲しい文献や資料を遅くとも前の週までに指示する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受け身で学ぶのではなく、自分で考えたテーマを自分で掘り下げ、独自の考えを展開する能力を身につけて欲しい。

キーワード /Keywords

文化、文学、芸術、メディア、社会、経済、ジェンダー、セクシュアリティ、暴力、植民地主義、資本主義、大英帝国、階級、労働者、移民

イギリス研究ゼミBII 【昼】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミB II

SEM414M

授業の概要 /Course Description

後期は卒業論文指導を中心とする。ゼミの時間では、各自の卒論研究の報告をする。これとは別に、2週間に一度の個人面談を行う。一人1時間。毎回、進んだところまでの卒業論文原稿を持ってくること。それを読んで、問題点を指摘したり、さらに読むべき文献を指導したりする。

教科書 /Textbooks

特に定めない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導 (導入1)
- 第2回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導 (導入2)
- 第3回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導 (基礎1)
- 第4回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導 (基礎2)
- 第5回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導 (基礎3)
- 第6回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導 (基礎4)
- 第7回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導 (展開1)
- 第8回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導 (展開2)
- 第9回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導 (展開3)
- 第10回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導 (展開4)
- 第11回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導 (発展1)
- 第12回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導 (発展2)
- 第13回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導 (発展3)
- 第14回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導 (発展4)
- 第15回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導 (まとめ)

成績評価の方法 /Assessment Method

エッセイ40%、発表30%、ディスカッションへの参加30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前

発表担当者は、これまでの研究をさらにすすめてプレゼンを準備する。その他の学生は、その日に読んでおくべき資料に目を通し、自分の見解を用意しておくこと。

事後

各回の演習のディスカッション内容、得られた結論をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

毎回の面談に従い、卒論作成を進めてくること。進んでいない場合でも、必ず状況を報告すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受け身で学ぶのではなく、自分で考えたテーマを自分で掘り下げ、独自の考えを展開する能力を身につけて欲しい。

キーワード /Keywords

文化、文学、芸術、メディア、社会、経済、ジェンダー、セクシュアリティ、暴力、植民地主義、資本主義、大英帝国、階級、労働者、移民

英語学ゼミB I 【昼】

担当者名 /Instructor ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミB I

SEM413M

授業の概要 /Course Description

During the second year of this zemi, we will focus on your own research interests. Classes will consist of presentations about the research areas you are reading about to help you in writing your thesis. Some classes will focus explicitly on helping you write your thesis.

教科書 /Textbooks

No textbook necessary. Readings will be selected by the teacher and the students.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

So as to deepen and develop independent study skills, students will be expected to make full use of the research facilities at their disposal whenever possible.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1: Introduction; Vocabulary learning
- Week 2: Thesis-writing help I (literature review & acceptable sources)
- Week 3: Computer lab: Bibliographies
- Week 4: Computer-lab: Finding research articles
- Week 5: Dr. Larson-Hall's research presentation (Age and language learning)
- Week 6: Finding your research topic (replication)
- Week 9: Planning your methodology
- Week 10: Thesis-writing help (research questions)
- Week 11: Dr. Larson-Hall's research presentation (attrition)
- Week 12: Student-led research presentations (phonology)
- Week 13: Student-led research presentation (grammar)
- Week 14: Vocabulary
- Week 15: Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Successful completion of 1500 words of thesis (50%); Presentation on research (10%); Vocabulary tests (40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

You are expected to do the readings each week for class. You should be working throughout the semester on your thesis. You will be studying vocabulary throughout the semester.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SLA, language acquisition, teaching language, teacher training, zemi

英語学ゼミBII【昼】

担当者名 /Instructor ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 4年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミBII

SEM414M

授業の概要 /Course Description

/Course Description

During the second semester of the second year of this zemi, we will review language learning principles and teaching principles and use English by doing lots of games and activities in English. Some classes will focus explicitly on helping you write your thesis.

教科書 /Textbooks

No textbook necessary. Readings will be selected by the teacher and the students.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

So as to deepen and develop independent study skills, students will be expected to make full use of the research facilities at their disposal whenever possible.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1: Introduction
- Week 2: Review input
- Week 3: Review interaction
- Week 4: Review output
- Week 5: Review Attention
- Week 6: Individual conferences
- Week 7: Dr. Larson-Hall's research presentation (Age and language learning)
- Week 8: Review explicit learning
- Week 9: Review implicit learning
- Week 10: Review teaching speaking
- Week 11: Review developmental sequences
- Week 12: Review teaching listening
- Week 13: Review teaching reading and writing
- Week 14: Presentations of students research
- Week 15: Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Presentations of own research 50%; Participation 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

You are expected to do the readings each week for class. You should be working throughout the semester on your thesis.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SLA, language acquisition, teaching language, teacher training, zemi

英語教育ゼミBI【昼】

担当者名 雪丸 尚美 / 英米学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミBI

SEM413M

授業の概要 /Course Description

本ゼミでは、教育言語学の諸分野について基礎的な研究を実施するために必要な能力を養うことを目標とする。そのため、この授業では受講生が各自の研究関心に従い教育言語学の研究論文を収集し、収集した論文の研究内容について発表し理解を深めるとともに、卒業論文の執筆に向けた研究の進め方や研究成果の整理の仕方についても学習する。そのため、毎週自習を行うことが必要である。自習内容については毎回授業中に指示するので、指示に従って授業の予習・復習を行うようにしたい。

教科書 /Textbooks

初回授業時に指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画は以下のとおりであるが、履修者の理解や関心に依りて内容を調整する。

1. ガイダンス
2. 研究論文の構成
3. 教育言語学と理論研究
4. 教育言語学と理論研究の研究論文(理論研究・概要把握)
5. 教育言語学と理論研究の研究論文(理論研究・発表)
6. 教育言語学と理論研究の研究論文(理論研究・まとめ)
7. 教育言語学と実験・調査研究
8. 教育言語学と実験・調査研究の研究論文(実験調査研究・概要把握)
9. 教育言語学と実験・調査研究の研究論文(実験調査研究・発表)
10. 教育言語学と実験・調査研究の研究論文(実験調査研究・まとめ)
11. 教育言語学と実践研究
12. 教育言語学と実践研究の研究論文(実践研究・概要把握)
13. 教育言語学と実践研究の研究論文(実践研究・発表)
14. 教育言語学と実践研究の研究論文(実践研究・まとめ)
15. 課題整理

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は(1)授業参加への積極性、予習復習の状況等50%、(2)発表50%によって評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

<事前学習> 授業で扱う教科書の範囲または論文を読み、発表や討論の準備をする。発表担当者は発表前に自主練習を行っておく。
<事後学習> 指定された関連文献を読む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回の講義では、発表のみならず、発表内容に関する議論などを行います。そのため、授業時間外での(相当の)準備が必要となります。卒業後に英語教育に関わる意欲のある学生をはじめ、英語教育に関心がある人の参加を期待します。また、やむを得ない場合を除き、無断欠席は受講放棄とみなします。

キーワード /Keywords

英語教育ゼミBII【昼】

担当者名 /Instructor 雪丸 尚美 / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミB II

SEM414M

授業の概要 /Course Description

本ゼミでは、教育言語学の諸分野について基礎的な研究を実施するために必要な能力を養うことを目標とする。そのため、この授業では受講生が各自の研究課題を見出し、基礎的な研究を行い、研究方法について理解を深めるとともに、研究の進め方や研究成果の整理及び考察の仕方についても学習する。最後に、研究結果を整理し、卒業論文を執筆する。また、本ゼミでは毎週自習を行うことが必要である。自習内容については毎回授業中に指示するので、指示に従って授業の予習・復習を行うようにしたい。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画は以下のとおりであるが、履修者の理解や関心に依りてないようを調整する。

1. ガイダンス
2. 研究方法 (理論・実験・実践)
3. 研究課題 (関連文献の渉猟と整理)
4. 研究課題 (関連文献について口頭発表)
5. 研究課題 (関連文献について文章でのまとめ)
6. 研究内容 (卒業論文で扱う研究内容について整理)
7. 研究課題 (研究課題について口頭発表)
8. 研究課題 (研究課題について文章でのまとめ)
9. 研究報告書 (作成)
10. 研究報告書 (検討)
11. 研究報告書 (まとめ)
12. 研究発表 (準備)
13. 研究発表 (発表)
14. 研究発表 (まとめ)
15. 課題整理

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は (1) 発表, 日常の授業への取り組み状況等40%, (2) 論文60%によって評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

<事前学習> 授業で扱う教科書の範囲または論文を読み、発表・討論の準備をする。発表担当者は発表前に自主練習を行っておく。
<事後学習> 授業で議論された内容を各自の論文にどのように生かすことができるか検討する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回の講義では、発表のみならず発表内容に関する議論を行います。そのため、授業時間外での(相当の)準備が必要となります。卒業後に英語教育に関わる意欲のある学生をはじめ、英語教育に関心がある人の参加を期待します。また、やむを得ない場合を除き、無断欠席は受講放棄とみなします。

キーワード /Keywords

社会言語学ゼミBI【昼】

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミBI

SEM413M

授業の概要 /Course Description

本ゼミでは日常的な言語現象を社会言語学的視点で捉え、受講者自らが調査・分析・発表する力を身につけることを目的とします。社会言語学の領域から各自選択したテーマに沿って、文献調査・フィールドワークを行い、授業時に先行研究の発表、言語調査の経過報告、問題点の議論等を行います。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 卒業研究について
- 2回 研究テーマ発表
- 3回 文献収集講習
- 4回 学生による第1回研究発表(先行研究(1):第1グループ)
- 5回 学生による第1回研究発表(先行研究(1):第2グループ)
- 6回 Excel/PowerPoint講習
- 7回 ゼミ論文執筆について・発表準備
- 8回 学生による第2回研究発表(先行研究(2):第1グループ)
- 9回 学生による第2回研究発表(先行研究(2):第2グループ)
- 10回 方法論ディスカッション(1)・発表準備
- 11回 ゼミ論文注意点・発表準備
- 12回 学生による第3回研究発表(方法論:第1グループ)
- 13回 学生による第3回研究発表(方法論:第2グループ)
- 14回 方法論ディスカッション(2)・個別指導
- 15回 卒業論文執筆について・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表・平常の学習状況...50%、ゼミ論文...50%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲を予習・復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会言語学ゼミBII【昼】

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミBII

SEM414M

授業の概要 /Course Description

本ゼミでは日常的な言語現象を社会言語学的視点で捉え、受講者自らが調査・分析・発表する力を身につけることを目的とします。社会言語学の領域から各自選択したテーマに沿って、文献調査・フィールドワークを行い、授業時に先行研究の発表、言語調査の経過報告、問題点の議論等を行います。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 研究の進捗状況確認
- 2回 研究・論文指導(1)【方法論】
- 3回 学生による第4回研究発表(分析経過報告:第1グループ)
- 4回 学生による第4回研究発表(分析経過報告:第2グループ)
- 5回 ディスカッション(1)【分析】
- 6回 研究・論文指導(2)【分析】
- 7回 学生による第5回研究発表(結果:第1グループ)
- 8回 学生による第5回研究発表(結果:第2グループ)
- 9回 ディスカッション(2)【結果】
- 10回 研究・論文指導(3)【結果】
- 11回 ディスカッション(3)【全体】
- 12回 研究・論文指導(4)【全体】
- 13回 学生による第6回研究発表(考察:第1グループ)
- 14回 学生による第6回研究発表(考察:第2グループ)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表・平常の学習状況...50%、ゼミ論文...50%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲を予習・復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	正確に発音でき、英語圏の人たちと正確にコミュニケーションを行うことができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	組織や集団において伝達力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習 I

ENG100M

授業の概要 /Course Description

This course aims to improve students' English pronunciation including individual sounds (vowels and consonants), word stress, connected speech and intonation. It will also develop their listening and speaking skills by providing both receptive and productive practice.

教科書 /Textbooks

Mark Hancock (2012). 『English Pronunciation in Use: Intermediate』 2nd edition. Cambridge University Press.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Lessons 1, 2(/ei/, /æ)/, 27(introducing word stress) & 46
- 3回 Lessons 3(/b/, /p/), 4(/s/, /z/), 28(stress in two-syllable words) & 47
- 4回 Lessons 5(/d/, /t/), 6(/i:/, /e/), 29(stress in compound words) & 48
- 5回 Lessons 7(/ə/, /ɪ/), 8(/f/, /v/), 30(stress in longer words 1) & 49
- 6回 Lessons 9(/g/, /k/), 10(/h/, /w/, /j/), 31(stress in longer words 1) & 50
- 7回 Lessons 11(/aɪ/, /ɪ/), 12(/ʃ/, /dʒ/, /tʃ/), 32(introducing stress patterns) & 51
- 8回 Lessons 13(/l/, /r/), 14(/ɑ:(r)/, /eə(r)/), 33(pronouns in stress patterns) & 52
- 9回 Lessons 15(/m/, /n/, /ŋ/), 16(/əʊ/, /ɒ/), 34(the verb “to be” in stress patterns) & 53
- 10回 Lessons 17(/θ/, /ð/), 18(/ʌ/, /ʊ/, /u:/), 35(auxiliary verbs in stress patterns) & 54
- 11回 Lessons 19(/z:(r)/, /ɔ:(r)/), 20(/ɔɪ/, /aʊ/), 36(pronouncing short words) & 55
- 12回 Lessons 21(consonant groups), 22(consonant groups), 37(dividing messages into speech units) & 56
- 13回 Lessons 23(-s endings), 24(-ed endings), 38(speech units and grammar) & 57
- 14回 Lessons 25(consonant sounds at word boundaries), 26(vowel sounds at ward boundaries), 39(introduction to main stress) & 58
- 15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(必須)...80%、平常の学習状況...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲を予習・復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

発音練習の際自分の口元を見るための手鏡を持参して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基礎演習I【昼】

キーワード /Keywords

基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	正確に発音でき、英語圏の人たちと正確にコミュニケーションを行うことができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	組織や集団において伝達力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習 I

ENG100M

授業の概要 /Course Description

This course aims to improve students' English pronunciation including individual sounds (vowels and consonants), word stress, connected speech and intonation. It will also develop their listening and speaking skills by providing both receptive and productive practice.

教科書 /Textbooks

Mark Hancock (2012). 『English Pronunciation in Use: Intermediate』 2nd edition. Cambridge University Press.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Lessons 1, 2(/ei/, /æ/), 27(introducing word stress) & 46
- 3回 Lessons 3(/b/, /p/), 4(/s/, /z/), 28(stress in two-syllable words) & 47
- 4回 Lessons 5(/d/, /t/), 6(/i:/, /e/), 29(stress in compound words) & 48
- 5回 Lessons 7(/ə/, /ɪ/), 8(/f/, /v/), 30(stress in longer words 1) & 49
- 6回 Lessons 9(/g/, /k/), 10(/h/, /w/, /j/), 31(stress in longer words 1) & 50
- 7回 Lessons 11(/aɪ/, /ɪ/), 12(/ʃ/, /dʒ/, /tʃ/), 32(introducing stress patterns) & 51
- 8回 Lessons 13(/l/, /r/), 14(/ɑ:(r)/, /eə(r)/), 33(pronouns in stress patterns) & 52
- 9回 Lessons 15(/m/, /n/, /ŋ/), 16(/əʊ/, /ɒ/), 34(the verb “to be” in stress patterns) & 53
- 10回 Lessons 17(/θ/, /ð/), 18(/ʌ/, /u:/), 35(auxiliary verbs in stress patterns) & 54
- 11回 Lessons 19(/z:(r)/, /ɔ:(r)/), 20(/ɔɪ/, /aʊ/), 36(pronouncing short words) & 55
- 12回 Lessons 21(consonant groups), 22(consonant groups), 37(dividing messages into speech units) & 56
- 13回 Lessons 23(-s endings), 24(-ed endings), 38(speech units and grammar) & 57
- 14回 Lessons 25(consonant sounds at word boundaries), 26(vowel sounds at ward boundaries), 39(introduction to main stress) & 58
- 15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(必須)...80%、平常の学習状況...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲を予習・復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

発音練習の際自分の口元を見るための手鏡を持参して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基礎演習I【昼】

キーワード /Keywords

基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 鮫島 千明 / Chiaki Sameshima / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 演習 クラス 1 - 3 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 正確に発音でき、英語圏の人たちと正確にコミュニケーションを行うことができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 組織や集団において伝達力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習 I

ENG100M

授業の概要 /Course Description

This course aims to improve students' English pronunciation including individual sounds (vowels and consonants), word stress, connected speech and intonation. It will also develop their listening and speaking skills by providing both receptive and productive practice.

教科書 /Textbooks

Mark Hancock (2012). 『English Pronunciation in Use: Intermediate』 2nd edition. Cambridge University Press.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Lessons 1, 2(/ei/, /æ/), 27(introducing word stress) & 46
- 3回 Lessons 3(/b/, /p/), 4(/s/, /z/), 28(stress in two-syllable words) & 47
- 4回 Lessons 5(/d/, /t/), 6(/i:/, /e/), 29(stress in compound words) & 48
- 5回 Lessons 7(/ə/, /ɪ/), 8(/f/, /v/), 30(stress in longer words 1) & 49
- 6回 Lessons 9(/g/, /k/), 10(/h/, /w/, /j/), 31(stress in longer words 1) & 50
- 7回 Lessons 11(/a:/, /ɪ/), 12(/ʃ/, /dʒ/, /tʃ/), 32(introducing stress patterns) & 51
- 8回 Lessons 13(/l/, /r/), 14(/ɑ:(r)/, /eə(r)/), 33(pronouns in stress patterns) & 52
- 9回 Lessons 15(/m/, /n/, /ŋ/), 16(/əʊ/, /ɒ/), 34(the verb “to be” in stress patterns) & 53
- 10回 Lessons 17(/θ/, /ð/), 18(/ʌ/, /u:/), 35(auxiliary verbs in stress patterns) & 54
- 11回 Lessons 19(/z:(r)/, /ɔ:(r)/), 20(/ɔɪ/, /aʊ/), 36(pronouncing short words) & 55
- 12回 Lessons 21(consonant groups), 22(consonant groups), 37(dividing messages into speech units) & 56
- 13回 Lessons 23(-s endings), 24(-ed endings), 38(speech units and grammar) & 57
- 14回 Lessons 25(consonant sounds at word boundaries), 26(vowel sounds at ward boundaries), 39(introduction to main stress) & 58
- 15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(必須)...80%、平常の学習状況...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲を予習・復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

発音練習の際自分の口元を見るための手鏡を持参して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基礎演習I【昼】

キーワード /Keywords

基礎演習I【昼】

担当者名 鮫島 千明 / Chiaki Sameshima / 英米学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1 - 4
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 正確に発音でき、英語圏の人たちと正確にコミュニケーションを行うことができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 組織や集団において伝達力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習 I

ENG100M

授業の概要 /Course Description

This course aims to improve students' English pronunciation including individual sounds (vowels and consonants), word stress, connected speech and intonation. It will also develop their listening and speaking skills by providing both receptive and productive practice.

教科書 /Textbooks

Mark Hancock (2012). 『English Pronunciation in Use: Intermediate』 2nd edition. Cambridge University Press.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Lessons 1, 2(/ei/, /æ/), 27(introducing word stress) & 46
- 3回 Lessons 3(/b/, /p/), 4(/s/, /z/), 28(stress in two-syllable words) & 47
- 4回 Lessons 5(/d/, /t/), 6(/i:/, /e/), 29(stress in compound words) & 48
- 5回 Lessons 7(/ə/, /ɪ/), 8(/f/, /v/), 30(stress in longer words 1) & 49
- 6回 Lessons 9(/g/, /k/), 10(/h/, /w/, /j/), 31(stress in longer words 1) & 50
- 7回 Lessons 11(/aɪ/, /ɪ/), 12(/ʃ/, /dʒ/, /tʃ/), 32(introducing stress patterns) & 51
- 8回 Lessons 13(/l/, /r/), 14(/ɑ:(r)/, /eə(r)/), 33(pronouns in stress patterns) & 52
- 9回 Lessons 15(/m/, /n/, /ŋ/), 16(/əʊ/, /ɒ/), 34(the verb “to be” in stress patterns) & 53
- 10回 Lessons 17(/θ/, /ð/), 18(/ʌ/, /u:/), 35(auxiliary verbs in stress patterns) & 54
- 11回 Lessons 19(/z:(r)/, /ɔ:(r)/), 20(/ɔɪ/, /aʊ/), 36(pronouncing short words) & 55
- 12回 Lessons 21(consonant groups), 22(consonant groups), 37(dividing messages into speech units) & 56
- 13回 Lessons 23(-s endings), 24(-ed endings), 38(speech units and grammar) & 57
- 14回 Lessons 25(consonant sounds at word boundaries), 26(vowel sounds at ward boundaries), 39(introduction to main stress) & 58
- 15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(必須)...80%、平常の学習状況...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲を予習・復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

発音練習の際自分の口元を見るための手鏡を持参して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基礎演習I【昼】

キーワード /Keywords

基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語の論理構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行うこと。
	英語力	●	英語の読み・書きが正確にでき、英語圏の人たちとコミュニケーションを行うこと。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習Ⅱ

ENGL110M

授業の概要 /Course Description

This course is designed to allow students to improve their English writing skills and general English ability. Students will learn various writing strategies, culminating in the writing of an academic paper. Each class will introduce specific tasks by which students will gradually increase their knowledge of broad written communication objectives and genre-specific writing techniques. The final goal is the completion and submission of an academic paper in English.

教科書 /Textbooks

Daniel C. Strack & Fiona Creaser. Writing for Response. Okayama: University Education Press, 2015.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with instructor

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Lesson 1: Course Introduction
Lesson 2: Biographical Writing
Lesson 3: Journalistic Writing
Lesson 4: Opinion Essay
Lesson 5: Evaluating Texts
Lesson 6: Outlining and Summarizing
Lesson 7: Determining a Subject
Lesson 8: Organizing Paragraphs
Lesson 9: Citing Source Information
Lesson 10: Revising a Draft
Lesson 11: Writing Introductions and Conclusions
Lesson 12: Academic Paper Guidance A
Lesson 13: Academic Paper Guidance B
Lesson 14: Academic Paper Guidance C
Lesson 15: Submission

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments/Attitude/Class Participation/ ... 50% Academic Paper ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Weekly homework assignments will be given to allow students to practice and grow accustomed to the various writing-related skills covered in class.

基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

Speaking practice will also constitute part of the course and each class will include time for discussion of class content in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Students are encouraged to buy the textbook and familiarize themselves with it before the first class session because it will be used in the first session.

キーワード /Keywords

基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語の論理構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行うこと。
	英語力	●	英語の読み・書きが正確にでき、英語圏の人たちとコミュニケーションを行うこと。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習Ⅱ

ENG110M

授業の概要 /Course Description

This course is designed to allow students to improve their English writing skills and general English ability. Students will learn various writing strategies, culminating in the writing of an academic paper. Each class will introduce specific tasks by which students will gradually increase their knowledge of broad written communication objectives and genre-specific writing techniques. The final goal is the completion and submission of an academic paper in English.

教科書 /Textbooks

Daniel C. Strack & Fiona Creaser. Writing for Response. Okayama: University Education Press, 2015.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with instructor

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Lesson 1: Course Introduction
Lesson 2: Biographical Writing
Lesson 3: Journalistic Writing
Lesson 4: Opinion Essay
Lesson 5: Evaluating Texts
Lesson 6: Outlining and Summarizing
Lesson 7: Determining a Subject
Lesson 8: Organizing Paragraphs
Lesson 9: Citing Source Information
Lesson 10: Revising a Draft
Lesson 11: Writing Introductions and Conclusions
Lesson 12: Academic Paper Guidance A
Lesson 13: Academic Paper Guidance B
Lesson 14: Academic Paper Guidance C
Lesson 15: Submission

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments/Attitude/Class Participation/ ... 50% Academic Paper ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Weekly homework assignments will be given to allow students to practice and grow accustomed to the various writing-related skills covered in class.

基礎演習II【昼】

履修上の注意 /Remarks

Speaking practice will also constitute part of the course and each class will include time for discussion of class content in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Students are encouraged to buy the textbook and familiarize themselves with it before the first class session because it will be used in the first session.

キーワード /Keywords

基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 口ドルフォ デルガド / Rodolfo Delgado / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 1 - 3 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語の論理構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行うこと。
	英語力	●	英語の読み・書きが正確にでき、英語圏の人たちとコミュニケーションを行うこと。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習Ⅱ

ENGL10M

授業の概要 /Course Description

This course is designed to allow students to improve their English writing skills and general English ability. Students will learn various writing strategies, culminating in the composition of an academic paper. Each class will introduce specific tasks by which students will gradually increase their knowledge of broad written communication objectives and genre-specific writing techniques.

教科書 /Textbooks

Daniel C. Strack & Fiona Creaser. Writing for Response. Okayama: University Education Press, 2015.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Reference works will be suggested as necessary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Lesson 1: Biographical Writing
Lesson 2: Sentences and Paragraphs
Lesson 3: Storytelling
Lesson 4: Journalistic Writing
Lesson 5: Opinion Essays
Lesson 6: Outlining and Summarizing
Lesson 7: Organizing Information
Lesson 8: Determining a Subject
Lesson 9: Citing Source Information
Lesson 10: Revising a Draft
Lesson 11: Writing Poetry in English
Lesson 12: Term Paper Clinic
Lesson 13: Term Paper Submission
Lesson 14: Review
Lesson 15: Papers Returned / Course Wrap-up

成績評価の方法 /Assessment Method

Class Participation : 30%, Quizzes : 20%, Assignments : 30%, Attitude : 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Preview: Please check the appropriate text chapter ahead of time for difficult vocabulary.
Review: Please make sure you understand the main points of each chapter before moving on.

基礎演習II【昼】

履修上の注意 /Remarks

Weekly homework assignments will be given to allow students to practice various writing-related skills. Students are expected to familiarize themselves with the textbook before the first class session. After the final lesson, students should carefully review all English corrections in returned writing assignments.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

In a writing course, finishing weekly assignments on time and according to instructor specifications is the only way to gain full benefit from the class.

キーワード /Keywords

Sentences, Paragraphs, Essays, Academic, English, Writing.

基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 口ドルフォ デルガド / Rodolfo Delgado / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 1 - 4 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語の論理構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行うこと。
	英語力	●	英語の読み・書きが正確にでき、英語圏の人たちとコミュニケーションを行うこと。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習Ⅱ

ENG110M

授業の概要 /Course Description

This course is designed to allow students to improve their English writing skills and general English ability. Students will learn various writing strategies, culminating in the composition of an academic paper. Each class will introduce specific tasks by which students will gradually increase their knowledge of broad written communication objectives and genre-specific writing techniques.

教科書 /Textbooks

Daniel C. Strack & Fiona Creaser. Writing for Response. Okayama: University Education Press, 2015.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Reference works will be suggested as necessary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Lesson 1: Biographical Writing
Lesson 2: Sentences and Paragraphs
Lesson 3: Storytelling
Lesson 4: Journalistic Writing
Lesson 5: Opinion Essays
Lesson 6: Outlining and Summarizing
Lesson 7: Organizing Information
Lesson 8: Determining a Subject
Lesson 9: Citing Source Information
Lesson 10: Revising a Draft
Lesson 11: Writing Poetry in English
Lesson 12: Term Paper Clinic
Lesson 13: Term Paper Submission
Lesson 14: Review
Lesson 15: Papers Returned / Course Wrap-up

成績評価の方法 /Assessment Method

Class Participation : 30%, Quizzes : 20%, Assignments : 30%, Attitude : 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Preview: Please check the appropriate text chapter ahead of time for difficult vocabulary.
Review: Please make sure you understand the main points of each chapter before moving on.

基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

Weekly homework assignments will be given to allow students to practice various writing-related skills. Students are expected to familiarize themselves with the textbook before the first class session. After the final lesson, students should carefully review all English corrections in returned writing assignments.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

In a writing course, finishing weekly assignments on time and according to instructor specifications is the only way to gain full benefit from the class.

キーワード /Keywords

Sentences, Paragraphs, Essays, Academic, English, Writing.

英会話演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・ 実習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語の論理構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行う。
	英語力	●	英米及び英語圏の人たちと正確にコミュニケーションを行うこと。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、英語で自分の意見を明確に表現することができる。
	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、かつ自らの見解を積極的に提案し、コミュニケーション力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進できる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話演習 A

ENG251M

授業の概要 /Course Description

Using the compelling National Geographic stories, photos, videos and infographics students will have the opportunity to bring the world to the classroom. Students will have the opportunity to engage in authentic and relevant study which will equip them with the skills needed for academic success.

教科書 /Textbooks

Pathways Second edition 2A Chase and Lee; Cengage

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A good English/Japanese dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 Healthy lives-a conversation about allergies
- 2 Presenting healthy habits- expectations of frequency
- 3 Technology today and tomorrow-can robots learn to be like humans
- 4 Giving reason and eye contact
- 5 Presenting a new technology product
- 6 Culture and tradition-lecture about cowboys
- 7 Asking for and giving clarification
- 8 The role of past continuous and reduced function words
- 9 A thirsty world- Dam release rafting
- 10 Asking and giving opinions
- 11 Inside the brain- 3D brain scans
- 12 A discussion about food psychology
- 13 Using transitions
- 14 Wonders from the past- listening and giving examples
- 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Unit 1 Review test 25%, Unit 2 Review test 25% Unit 3 Review test 25% and final power point presentation 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

In preparation for each lesson, students should review the last lesson and preview the next lesson topic. Following each lesson you need to do any homework that has been given and review what you learned in class.

英会話演習 A 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リスニング演習 A 【昼】

担当者名 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語を正しく理解し、英語による情報の収集を行うことができる。
	英語力	●	英語を正確に聴き取り、英語でコミュニケーションを行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語リスニング演習 A

ENG255M

授業の概要 /Course Description

本授業は英語のリスニングスキルの上達を目的とします。オーディオ教材を利用して、語彙・表現・聴き取り等の練習をします。情報を正確に聴き取るために必要なリスニング力を強化することで、総合的なコミュニケーション能力を高めることを目標とします。

教科書 /Textbooks

Timothy Knowles, Charles Lowe, Mayumi Tamura, Minne Tanaka & Mihoko Nakamura. 『British News Update』金星堂 2019年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Unit 1 Repairing Big Ben
- 3 回 Unit 2 Learning to Walk Again
- 4 回 Unit 3 A Secret Garden in London
- 5 回 Unit 4 Unpaid Internships
- 6 回 Unit 5 The Wedding Gallery
- 7 回 復習 & 第1回小テスト
- 8 回 Unit 6 A modern Steam Train
- 9 回 Unit 7 A T-shier Exhibition
- 1 0 回 Unit 8 Generation Z
- 1 1 回 Unit 9 Veganuary
- 1 2 回 Unit 10 Wind Power in Britain
- 1 3 回 Unit 11 Preventing Transgender Bullying
- 1 4 回 復習 & 第2回小テスト
- 1 5 回 全体Review

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...40%、小テスト(2回)...50%、平常の学習状況...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

出席・参加を重視します。必ず辞書を持参して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話演習B 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ガラフ・ステイール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・実習
クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解			
技能	専門分野のスキル			
	英語力	●	正確に発音でき、英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	●	英語で自分の意見を明確に表現することができる。	
	実践力（チャレンジ力）			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	組織や集団において伝達力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進することができる。	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話演習B

ENG252M

授業の概要 /Course Description

This course uses high interest themes to integrate speaking, grammar, vocabulary, pronunciation, listening, reading and writing. There is a strong focus on both accuracy and fluency. The underlying philosophy of the course remains that language is best learned when it is used for meaningful communication.

教科書 /Textbooks

Pathways Listening, Speaking and Critical Thinking 3- Cengage Learning B. Traver, C Kirstin and L. Johannsen
Combo Spilt 3A with online workbook access cod

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A good Bilingual dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1st week- Orientation
2nd week- Gender and Society- giving a presentation about a name
3rd week- Indefinite pronouns and usage, talking about rules and expectations
4th week- Reproducing life- discussing species conservation
5th week- adjective clauses and making suggestions
6th week- Human migration; PowerPoint lecture and discussing case studies
7th week- Adjectives with too, enough and not enough and asking for reasons
8th week- Fascinating planet, listening to a documentary
9th week- Tuning out distractions, taking notes during a documentary
10th week-The simple past with the past continuous
11th week- Talking about historical events, causes and effects
12th week- Making a living and making a difference, understanding meaning from context
13th week- Using as.....as, Indirect questions
14th week- Review
15th week- Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

3 Unit tests (80%) and 1 presentation (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are expected to write a peer journal about what they have done over the last week. In the class they exchange their peer journal with a partner and respond to the partner's journal.

履修上の注意 /Remarks

英会話演習B 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話演習B 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・ 実習
クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	正確に発音でき、英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	●	英語で自分の意見を明確に表現することができる。
	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	組織や集団において伝達力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話演習B

ENG252M

授業の概要 /Course Description

This course uses high interest themes to integrate speaking, grammar, vocabulary, pronunciation, listening, reading and writing. There is a strong focus on both accuracy and fluency. The underlying philosophy of the course remains that language is best learned when it is used for meaningful communication.

教科書 /Textbooks

Pathways Listening, Speaking and Critical Thinking 3- Cengage Learning B. Traver, C Kirstin and L. Johannsen
Combo Spilt 3A with online workbook access cod

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A good Bilingual dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1st week- Orientation
2nd week- Gender and Society- giving a presentation about a name
3rd week- Indefinite pronouns and usage, talking about rules and expectations
4th week- Reproducing life- discussing species conservation
5th week- adjective clauses and making suggestions
6th week- Human migration; PowerPoint lecture and discussing case studies
7th week- Adjectives with too, enough and not enough and asking for reasons
8th week- Fascinating planet, listening to a documentary
9th week- Tuning out distractions, taking notes during a documentary
10th week-The simple past with the past continuous
11th week- Talking about historical events, causes and effects
12th week- Making a living and making a difference, understanding meaning from context
13th week- Using as.....as, Indirect questions
14th week- Review
15th week- Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

3 Unit tests (80%) and 1 presentation (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are expected to write a peer journal about what they have done over the last week. In the class they exchange their peer journal with a partner and respond to the partner's journal.

履修上の注意 /Remarks

英会話演習B 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話演習B 【昼】

担当者名 /Instructor ホロウェイ グレゴリー キース / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・実習
クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	正確に発音でき、英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	●	英語で自分の意見を明確に表現することができる。
	実践力（チャレンジ力）		
関心・意欲・態度	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	組織や集団において伝達力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話演習B

ENG252M

授業の概要 /Course Description

The purpose of this course is to help students to gain confidence with speaking in English. In this course, you will learn about using English by completing various guided activities, group speaking activities and practical exercises. In this course students will also practice other English skills such as listening, reading and writing. However, the focus will be to speaking and understanding practical, realistic styles of English.

教科書 /Textbooks

Keynote – Combo Split 3A with my Keynote Online (2017 Cengage Learning) ISBN 978-1-337-10896-6 Paul Dummett, Helen Stephenson, Lewis Lansford

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction Class: Course outline and Introductions.
2. Textbook Lessons 1A. "Making a Difference"
3. Textbook Lessons 1B. "Making a Difference"
4. Textbook Lessons 2A. "Trends"
5. Textbook Lessons 2B. "Trends"
6. Textbook Lessons 3A. "Improving Lives"
7. Textbook Lessons 3B. " Improving Lives "
8. Presentation (Talking about how you can make a difference)
9. Textbook Lessons 4A. "Designing the Web"
10. Textbook Lessons 4B. " Designing the Web "
11. Textbook Lessons 5A. "Community Builders"
12. Textbook Lessons 5B, "Community Builders"
13. Textbook Lessons 6A, "Clear Communication"
14. Textbook Lessons 6B, "Clear Communication"
15. Textbook Unit Test
16. Final Presentation (How to improve communication)

成績評価の方法 /Assessment Method

Presentation Grades 30%; Participation 15%; Homework 25% Textbook Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

In preparation for each lesson, students should review the last lesson and preview the next lesson topic. Following each lesson you need to do any homework that has been given and review what you learned in class.

At the end of the course, student should be confident with being able to accurately speak about different topics and give their opinion confidently.

英会話演習B 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Students are encouraged to bring a dictionary to class and access to a computer is needed.

キーワード /Keywords

Speaking, English, English speaking, discussion, debate

英会話演習B 【昼】

担当者名 /Instructor ホロウェイ グレゴリー キース / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	正確に発音でき、英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	●	英語で自分の意見を明確に表現することができる。
	実践力（チャレンジ力）		
関心・意欲・態度	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	組織や集団において伝達力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話演習B

ENG252M

授業の概要 /Course Description

The purpose of this course is to help students to gain confidence with speaking in English. In this course, you will learn about using English by completing various guided activities, group speaking activities and practical exercises. In this course students will also practice other English skills such as listening, reading and writing. However, the focus will be to speaking and understanding practical, realistic styles of English.

教科書 /Textbooks

Keynote – Combo Split 3A with my Keynote Online (2017 Cengage Learning) ISBN 978-1-337-10896-6 Paul Dummett, Helen Stephenson, Lewis Lansford

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction Class: Course outline and Introductions.
2. Textbook Lessons 1A. "Making a Difference"
3. Textbook Lessons 1B. "Making a Difference"
4. Textbook Lessons 2A. "Trends"
5. Textbook Lessons 2B. "Trends"
6. Textbook Lessons 3A. "Improving Lives"
7. Textbook Lessons 3B. " Improving Lives "
8. Presentation (Talking about how you can make a difference)
9. Textbook Lessons 4A. "Designing the Web"
10. Textbook Lessons 4B. " Designing the Web "
11. Textbook Lessons 5A. "Community Builders"
12. Textbook Lessons 5B, "Community Builders"
13. Textbook Lessons 6A, "Clear Communication"
14. Textbook Lessons 6B, "Clear Communication"
15. Textbook Unit Test
16. Final Presentation (How to improve communication)

成績評価の方法 /Assessment Method

Presentation Grades 30%; Participation 15%; Homework 25% Textbook Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

In preparation for each lesson, students should review the last lesson and preview the next lesson topic. Following each lesson you need to do any homework that has been given and review what you learned in class.

At the end of the course, student should be confident with being able to accurately speak about different topics and give their opinion confidently.

英会話演習B 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Students are encouraged to bring a dictionary to class and access to a computer is needed.

キーワード /Keywords

Speaking, English, English speaking, discussion, debate

英語リスニング演習B 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 英語を正しく理解し、英語による情報の収集を行うことができる。
	英語力	● 英語を正確に聴き取り、英語でコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力	
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	
	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語リスニング演習B	ENG256M
------------	---------

授業の概要 /Course Description

Students will explore topics related to contemporary social issues through a variety of listening and speaking activities. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at a high intermediate level of English. All students will complete weekly assignments to improve listening skills. Students will also improve their discussion, and critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

Skillful 2: Listening & Speaking (2nd ed.), Bohlke & Lockwood, MacMillan Education, ISBN 978-1-380-01058-2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus and Introductions
- 2回 Topic 1 – Listening & Discussion
- 3回 Topic 1 – Listening & Critical Thinking Exercises
- 4回 Topic 2 – Listening & Discussion
- 5回 Topic 2 – Listening & Critical Thinking Exercises
- 6回 Topic 3 – Listening & Discussion
- 7回 Topic 3 – Listening & Critical Thinking Exercises
- 8回 Topic 4 – Listening & Discussion
- 9回 Topic 4 – Listening & Critical Thinking Exercises
- 10回 Topic 5 – Listening & Discussion
- 11回 Topic 5 – Listening & Critical Thinking Exercises
- 12回 Topic 6 – Listening & Discussion
- 13回 Topic 6 – Listening & Critical Thinking Exercises
- 14回 Numbers Lesson
- 15回 Review and Final Exam Preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks 35%, Participation 30%, Homework 15%, Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will complete weekly listening assignments to improve listening skills. Some research will be required both inside and outside of class. Regular review of all class materials is highly encouraged in preparation for the final exam. Weekly preparation and review should take from 20 to 25 minutes.

履修上の注意 /Remarks

英語リスニング演習B 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リスニング演習B 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 2 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 英語を正しく理解し、英語による情報の収集を行うことができる。
	英語力	● 英語を正確に聴き取り、英語でコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力	
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	
	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語リスニング演習B	ENG256M
------------	---------

授業の概要 /Course Description

Students will explore topics related to contemporary social issues through a variety of listening and speaking activities. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at a high intermediate level of English. All students will complete weekly assignments to improve listening skills. Students will also improve their discussion, and critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

Skillful 2: Listening & Speaking (2nd ed.), Bohlke & Lockwood, MacMillan Education, ISBN 978-1-380-01058-2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus and Introductions
- 2回 Topic 1 – Listening & Discussion
- 3回 Topic 1 – Listening & Critical Thinking Exercises
- 4回 Topic 2 – Listening & Discussion
- 5回 Topic 2 – Listening & Critical Thinking Exercises
- 6回 Topic 3 – Listening & Discussion
- 7回 Topic 3 – Listening & Critical Thinking Exercises
- 8回 Topic 4 – Listening & Discussion
- 9回 Topic 4 – Listening & Critical Thinking Exercises
- 10回 Topic 5 – Listening & Discussion
- 11回 Topic 5 – Listening & Critical Thinking Exercises
- 12回 Topic 6 – Listening & Discussion
- 13回 Topic 6 – Listening & Critical Thinking Exercises
- 14回 Numbers Lesson
- 15回 Review and Final Exam Preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks 35%, Participation 30%, Homework 15%, Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will complete weekly listening assignments to improve listening skills. Some research will be required both inside and outside of class. Regular review of all class materials is highly encouraged in preparation for the final exam. Weekly preparation and review should take from 20 to 25 minutes.

履修上の注意 /Remarks

英語リスニング演習B 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リスニング演習B 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・ 実習
クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語を正しく理解し、英語による情報の収集を行うことができる。
	英語力	●	英語を正確に聴き取り、英語でコミュニケーションを行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語リスニング演習B	ENG256M
------------	---------

授業の概要 /Course Description

The key to improving your English listening ability is practise and exposure. This lecture course will have over 100 listening passages, both short and long in the form of statements, conversations and single person talks. Learners will improve their ability to listen for main ideas and for details. Learners will encounter discussion points, too, to encourage them to apply the materials to their own lives and situations.

教科書 /Textbooks

Listening Pro 3, Jenny Wilsen Cengage Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A good English/Japanese dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Duty free items- customs and on board shopping
- 2回 My luggage hasn't arrived- lost luggage and travel mishaps
- 3回 Here's your name tag- seminars and networking
- 4回 How may I help you- product complaints
- 5回 Any feedback about your product-customer feedback
- 6回 Do you want to invest in my company capital and investors
- 7回 That is the sales manager's responsibility- work assignments
- 8回 I don't think that is appropriate-unprofessional behaviour
- 9回 The presentation isn't finished yet-interruptions
- 10回 I'd like to deposit this into my account- profit and loss
- 11回 My credit card was declined-Identity theft
- 12回 How are we already over budget-actual expenditures
- 13回 We need to develop the brand- product features
- 14回 Is our price competitive in the market- in store promotions
- 15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Unit 1 Review test 20%, Unit 1 Review test 20%, Unit 3 Review Test 20% Final listening test 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Student should prepare for the class by preparing new vocabulary notes for the class.

履修上の注意 /Remarks

英語リスニング演習B 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リスニング演習B 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1 Semester 授業形態 /Class Format 講義・実習 /Lecture・Practice クラス /Class 2 - 4 /2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語を正しく理解し、英語による情報の収集を行うことができる。
	英語力	●	英語を正確に聴き取り、英語でコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語リスニング演習B	ENG256M
------------	---------

授業の概要 /Course Description

The key to improving your English listening ability is practice and exposure. This book offers both short and long listening passages in the form of statements, conversations, and single-person talks.

教科書 /Textbooks

Listening PRO 3, Jenny Wilsen, published by Cengage Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A Japanese-English dictionary will be helpful

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Course introduction, schedule, course requirements for the students, guidance for attendance, being late, absent, and end-of-term exam. Students will do a short self-introduction in pairs.
 Week 2: Travel - 'Can I interest you in our duty-free items. Listening focus includes: Duty-free shopping, on-board shopping, and customs.
 Week 3: Travel - 'My luggage hasn't arrived yet'. Listening focus includes: Packed luggage, lost baggage, and travel mishaps.
 Week 4: Travel - 'Here's your name tag'. Listening focus includes: Conventions, networking, and seminars.
 Week 5: Review of travel units (1-3). p28-30.
 Week 6: General business - 'How may I help you?'. Listening focus includes: Customer service, guarantees and warranties, and product complaints.
 Week 7: General business - 'Any feedback about our product?'. Listening focus includes: Market surveys, customer feedback, and product demonstrations.
 Week 8: 'Do you want to invest in my company?'. Listening focus includes: Business start-ups, capital and investors, and business advice.
 Week 9: Review of general business units (4-6). p49-50.
 Week 10: Offices - 'That's the sales manager's responsibilities'. Listening focus includes: Work assignments, job expectations, and project management.
 Week 11: Offices - 'I don't think she is appropriate'. Listening focus includes: Communication problems, language barriers, and unprofessional behavior.
 Week 12: Offices - 'The presentation isn't finished yet'. Listening focus includes: Visual aids, practice and rehearsal, and interruptions.
 Week 13: Review of offices units 7-9. p68-69.
 Week 14: Summary of the different units and what we found difficult at this time.
 Week 15; まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Final exam: 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

As always, reading the contents of the textbook before class will help with understanding and what you are being asked to do.

英語リスニング演習B 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Education is the key to a brighter future.

キーワード /Keywords

Reading and Discussion I 【昼】

担当者名 /Instructor 口ドルフォ デルガド / Rodolfo Delgado / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語を正しく理解し、英語による情報の収集を行うことができる。
	英語力	●	英語を正確に理解し、英語でコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を通して異文化に積極的に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Reading and Discussion I

ENG253M

授業の概要 /Course Description

The course objective is to give students the opportunity to develop Reading, Writing, Critical thinking and Discussion Skills. The course focuses on situational English communication skills, taking into consideration cultural and social values and analytical skills in an international context. Students will learn words and expressions to improve fluency and accuracy in their conversations, interactions and build strong social relationships. In class, students will work in pairs and small groups to complete the textbook's exercises, conversations and practice discussions.

教科書 /Textbooks

Pathways. Reading, Writing, and Critical Thinking 3.
Authors: Mari Vargo and Laurie Blass
Publisher: National Geographic Learning, Cengage Learning.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

References will be recommended.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.Social Relationships
- 2.Science and Investigation
- 3.City Solutions
- 4.Danger Zones
- 5.The Travel Business
6. The Travel Business
7. Pair Presentation
8. Pair Presentation
- 9.Information Design
- 10.Global Challenges
- 11.Medical Innovations
- 12.World Languages
- 13.Survival Instinct
14. Small Group Presentation
15. Small Group Presentation

成績評価の方法 /Assessment Method

Pair Presentation (1)	30%
Small Group Presentation (2)	30%
Textbook Assignments	20%
Class Participation	20%

Reading and Discussion I 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are asked to review the course material before and after class.

履修上の注意 /Remarks

Please be always on time and do not miss more than 5 classes to obtain the course's credits.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Welcome to Reading and Discussion I.

Enjoy the course writing tasks, exercises and discussions. See you in class!

キーワード /Keywords

Reading, Writing, Critical, Thinking, Discuss, Presentations.

Reading and Discussion I 【昼】

担当者名 /Instructor 口ドルフォ デルガド / Rodolfo Delgado / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義・実習 /Lecture・Practice クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語を正しく理解し、英語による情報の収集を行うことができる。
	英語力	●	英語を正確に理解し、英語でコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を通して異文化に積極的に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Reading and Discussion I

ENG253M

授業の概要 /Course Description

The course objective is to give students the opportunity to develop Reading, Writing, Critical thinking and Discussion Skills. The course focuses on situational English communication skills, taking into consideration cultural and social values and analytical skills in an international context. Students will learn words and expressions to improve fluency and accuracy in their conversations, interactions and build strong social relationships. In class, students will work in pairs and small groups to complete the textbook's exercises, conversations and practice discussions.

教科書 /Textbooks

Pathways. Reading, Writing, and Critical Thinking 3.
Authors: Mari Vargo and Laurie Blass
Publisher: National Geographic Learning, Cengage Learning.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

References will be recommended.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.Social Relationships
- 2.Science and Investigation
- 3.City Solutions
- 4.Danger Zones
- 5.The Travel Business
6. The Travel Business
7. Pair Presentation
8. Pair Presentation
- 9.Information Design
- 10.Global Challenges
- 11.Medical Innovations
- 12.World Languages
- 13.Survival Instinct
14. Small Group Presentation
15. Small Group Presentation

成績評価の方法 /Assessment Method

Pair Presentation (1)	30%
Small Group Presentation (2)	30%
Textbook Assignments	20%
Class Participation	20%

Reading and Discussion I 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are asked to review the course material before and after class.

履修上の注意 /Remarks

Please be always on time and do not miss more than 5 classes to obtain the course's credits.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Welcome to Reading and Discussion I.

Enjoy the course writing tasks, exercises and discussions. See you in class!

キーワード /Keywords

Reading, Writing, Critical, Thinking, Discuss, Presentations.

Reading and Discussion I 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 3 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語を正しく理解し、英語による情報の収集を行うことができる。
	英語力	●	英語を正確に理解し、英語でコミュニケーションを行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を通して異文化に積極的に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Reading and Discussion I

ENG253M

授業の概要 /Course Description

Students will research, summarize and discuss topics related to contemporary cultural and environmental issues. Students will be expected to present thoughts and opinions on a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their reading, discussion, and critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus lesson - course objectives and introductions
- 2回 Waste and Recycling – 3Rs
- 3回 Climate Change – Introduction and Causes
- 4回 Climate Change – Effects
- 5回 Climate Change – Jigsaw Share and Discussion
- 6回 Climate Change – Solutions
- 7回 Political Cartoon Analysis and Presentations
- 8回 Endangered Species – Introduction and Research
- 9回 Endangered Species – Information Consolidation
- 10回 Endangered Species – Case Studies: Rhinos and Gorillas
- 11回 Controversial Issue – Whaling
- 12回 Tragedy of the Commons / Responsible Tourism Introduction
- 13回 Responsible Tourism Data Analysis
- 14回 Responsible Tourism Code and Discussion
- 15回 Review and Prepare for Final Exam

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks 30%, Participation 30%, Homework 20%, Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will receive reading assignments to augment class topics and help prepare for weekly class discussions. Some research will be required both inside and outside of class. Regular review of all class materials is highly encouraged in preparation for the final exam. Weekly preparation and review should take from 20 to 30 minutes.

履修上の注意 /Remarks

Reading and Discussion I 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Reading and Discussion I 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語を正しく理解し、英語による情報の収集を行うことができる。
	英語力	●	英語を正確に理解し、英語でコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を通して異文化に積極的に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Reading and Discussion I

ENG253M

授業の概要 /Course Description

Students will research, summarize and discuss topics related to contemporary cultural and environmental issues. Students will be expected to present thoughts and opinions on a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their reading, discussion, and critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus lesson - course objectives and introductions
- 2回 Waste and Recycling – 3Rs
- 3回 Climate Change – Introduction and Causes
- 4回 Climate Change – Effects
- 5回 Climate Change – Jigsaw Share and Discussion
- 6回 Climate Change – Solutions
- 7回 Political Cartoon Analysis and Presentations
- 8回 Endangered Species – Introduction and Research
- 9回 Endangered Species – Information Consolidation
- 10回 Endangered Species – Case Studies: Rhinos and Gorillas
- 11回 Controversial Issue – Whaling
- 12回 Tragedy of the Commons / Responsible Tourism Introduction
- 13回 Responsible Tourism Data Analysis
- 14回 Responsible Tourism Code and Discussion
- 15回 Review and Prepare for Final Exam

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks 30%, Participation 30%, Homework 20%, Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will receive reading assignments to augment class topics and help prepare for weekly class discussions. Some research will be required both inside and outside of class. Regular review of all class materials is highly encouraged in preparation for the final exam. Weekly preparation and review should take from 20 to 30 minutes.

履修上の注意 /Remarks

Reading and Discussion I 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Reading and Discussion II 【昼】

担当者名 シェーン・ドイル / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語を正しく理解し、英語による情報の収集を行うことができる。
	英語力	●	英語を正確に理解し、英語でコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を通して異文化に積極的に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Reading and Discussion II

ENG254M

授業の概要 /Course Description

This course will give students the opportunity to read a variety of topics throughout the semester and actively participate in classroom discussions. Students will be able to increase their vocabulary and enhance their critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

Reading Explorer 3 by Nancy Douglas and David Bohle
ISBN: 9781305254480
National Geographic Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Extra reading material and dictionaries available in the library.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 : Introduction to course
Week 2 : Sport and Fitness I
week 3 : Sport and Fitness II
Week 4 : Skin Deep I
Week 5 : Skin Deep II
Week 6 : Animals in Danger I
Week 7 : Animals in Danger II
Week 8 : Violent Earth I
Week 9 : Violent Earth II
Week 10 : Islands and Beaches I
Week 11: Island and Beaches II
Week 12: Success and Failure I
Week 13 : Success and Failure II
Week 14 :Global Addictions I
Week 15 : Global Addictions II

成績評価の方法 /Assessment Method

In- class assessment 40%
Homework 20%
Discussion 20%
Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Pre-reading vocabulary exercises should be completed prior to coming to class.

Reading and Discussion II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Reading and Discussion II 【昼】

担当者名 シェーン・ドイル / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語を正しく理解し、英語による情報の収集を行うことができる。
	英語力	●	英語を正確に理解し、英語でコミュニケーションを行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を通して異文化に積極的に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Reading and Discussion II

ENG254M

授業の概要 /Course Description

This course will give students the opportunity to read a variety of topics throughout the semester and actively participate in classroom discussions. Students will be able to increase their vocabulary and enhance their critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

Reading Explorer 3 by Nancy Douglas and David Bohke
ISBN: 9781305254480
National Geographic Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Extra reading material and dictionaries available in the library.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 : Introduction to course
Week 2 : Sport and Fitness I
week 3 : Sport and Fitness II
Week 4 : Skin Deep I
Week 5 : Skin Deep II
Week 6 : Animals in Danger I
Week 7 : Animals in Danger II
Week 8 : Violent Earth I
Week 9 : Violent Earth II
Week 10 : Islands and Beaches I
Week 11: Island and Beaches II
Week 12: Success and Failure I
Week 13 : Success and Failure II
Week 14 :Global Addictions I
Week 15 : Global Addictions II

成績評価の方法 /Assessment Method

In- class assessment 40%
Homework 20%
Discussion 20%
Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Pre-reading vocabulary exercises should be completed prior to coming to class.

Reading and Discussion II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Reading and Discussion II 【昼】

担当者名 シェーン・ドイル / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語を正しく理解し、英語による情報の収集を行うことができる。
	英語力	●	英語を正確に理解し、英語でコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を通して異文化に積極的に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Reading and Discussion II

ENG254M

授業の概要 /Course Description

This course will give students the opportunity to read a variety of topics throughout the semester and actively participate in classroom discussions. Students will be able to increase their vocabulary and enhance their critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

Reading Explorer 3 by Nancy Douglas and David Bohke
ISBN: 9781305254480
National Geographic Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Extra reading material and dictionaries available in the library.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 : Introduction to course
Week 2 : Sport and Fitness I
week 3 : Sport and Fitness II
Week 4 : Skin Deep I
Week 5 : Skin Deep II
Week 6 : Animals in Danger I
Week 7 : Animals in Danger II
Week 8 : Violent Earth I
Week 9 : Violent Earth II
Week 10 : Islands and Beaches I
Week 11: Island and Beaches II
Week 12: Success and Failure I
Week 13 : Success and Failure II
Week 14 :Global Addictions I
Week 15 : Global Addictions II

成績評価の方法 /Assessment Method

In- class assessment 40%
Homework 20%
Discussion 20%
Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Pre-reading vocabulary exercises should be completed prior to coming to class.

Reading and Discussion II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Reading and Discussion II 【昼】

担当者名 シェーン・ドイル / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 4
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 英語を正しく理解し、英語による情報の収集を行うことができる。
	英語力	● 英語を正確に理解し、英語でコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を通して異文化に積極的に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Reading and Discussion II

ENG254M

授業の概要 /Course Description

This course will give students the opportunity to read a variety of topics throughout the semester and actively participate in classroom discussions. Students will be able to increase their vocabulary and enhance their critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

Reading Explorer 3 by Nancy Douglas and David Bohke
ISBN: 9781305254480
National Geographic Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Extra reading material and dictionaries available in the library.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 : Introduction to course
Week 2 : Sport and Fitness I
week 3 : Sport and Fitness II
Week 4 : Skin Deep I
Week 5 : Skin Deep II
Week 6 : Animals in Danger I
Week 7 : Animals in Danger II
Week 8 : Violent Earth I
Week 9 : Violent Earth II
Week 10 : Islands and Beaches I
Week 11: Island and Beaches II
Week 12: Success and Failure I
Week 13 : Success and Failure II
Week 14 :Global Addictions I
Week 15 : Global Addictions II

成績評価の方法 /Assessment Method

In- class assessment 40%
Homework 20%
Discussion 20%
Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Pre-reading vocabulary exercises should be completed prior to coming to class.

Reading and Discussion II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日英翻訳演習 【昼】

担当者名 /Instructor ブルック 前田 / Brooke Maeda / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	正当な翻訳方法を通して良質な英訳を執筆することができる。
	英語力	●	英語圏の人たちにとって理解されやすい翻訳を執筆することができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	●	翻訳作業に関して自分の見解を明確に発言することができる。
	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日英翻訳演習

ENG233M

授業の概要 /Course Description

日本の文学作品を英語に翻訳する。作品の引用箇所を徹底的に解釈したのちに、修辞学上の理解に基づいて翻訳することができれば幸いである。本授業は、英語の表現力及び英文文に関する知識を向上させると同時に、日本語及び日本文学への理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

Strack, Daniel C. Literature in the Crucible of Translation: A Cognitive Account, Revised 2nd Edition. (Okayama: University Education Press, 2016).

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適切な和英辞典または電子辞典は必要(辞典の選択は各自判断の上)。プリントは必要に応じて配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 当授業の翻訳に対するアプローチの紹介
- 第2回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【翻訳とは何か】
- 第3回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【名詞】
- 第4回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【方言】
- 第5回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【総理解】
- 第6回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【概念】
- 第7回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【詩学】
- 第8回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【背景的知识】
- 第9回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【読者間における差異】
- 第10回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【対話】
- 第11回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【敬語】
- 第12回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【類音異義語】
- 第13回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【タイトル】
- 第14回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【歴史的観点】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：30% 小テスト：0% 期末試験：35% 課題：22% 態度：13%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：教科書のリーディングに分からない語彙があれば、前もって調べて下さい。
事後学習：授業が終わってから教員が指摘したポイントを自分の訳と照らし合わせて確認して下さい。

日英翻訳演習【昼】

履修上の注意 /Remarks

学生は毎回その日のリーディング（英語）を読んで、授業の前に日本語の翻訳課題を英語に翻訳します。授業中では、リーディングに対する質問を解答してから、翻訳課題の例文を見ながら、その翻訳における特徴や難題を取り上げていきます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日英翻訳演習 【昼】

担当者名 /Instructor ロッシェル カップ / Rochelle Kopp / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	正当な翻訳方法を通して良質な英訳を執筆することができる。
	英語力	●	英語圏の人たちにとって理解されやすい翻訳を執筆することができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	●	翻訳作業に関して自分の見解を明確に発言することができる。
	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日英翻訳演習

ENG233M

授業の概要 /Course Description

日本の文学作品を英語に翻訳する。作品の引用箇所を徹底的に解釈したのちに、修辞学上の理解に基づいて翻訳することができれば幸いである。本授業は、英語の表現力及び英作文に関する知識を向上させると同時に、日本語及び日本文学への理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

Strack, Daniel C. Literature in the Crucible of Translation: A Cognitive Account, Revised 2nd Edition. (Okayama: University Education Press, 2016).

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適切な和英辞典または電子辞典は必要(辞典の選択は各自判断の上)。プリントは必要に応じて配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 当授業の翻訳に対するアプローチの紹介
- 第2回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【翻訳とは何か】
- 第3回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【名詞】
- 第4回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【方言】
- 第5回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【総理解】
- 第6回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【概念】
- 第7回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【詩学】
- 第8回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【背景的知识】
- 第9回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【読者間における差異】
- 第10回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【対話】
- 第11回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【敬語】
- 第12回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【類音異義語】
- 第13回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【タイトル】
- 第14回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【歴史的観点】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：30% 小テスト：0% 期末試験：35% 課題：22% 態度：13%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：教科書のリーディングに分からない語彙があれば、前もって調べて下さい。
事後学習：授業が終わってから教員が指摘したポイントを自分の訳と照らし合わせて確認して下さい。

日英翻訳演習【昼】

履修上の注意 /Remarks

学生は毎回その日のリーディング（英語）を読んで、授業の前に日本語の翻訳課題を英語に翻訳します。授業中では、リーディングに対する質問を解答してから、翻訳課題の例文を見ながら、その翻訳における特徴や難題を取り上げていきます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日英翻訳演習 【昼】

担当者名 /Instructor ブルック 前田 / Brooke Maeda / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 3 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	正当な翻訳方法を通して良質な英訳を執筆することができる。
	英語力	●	英語圏の人たちにとって理解されやすい翻訳を執筆することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	翻訳作業に関して自分の見解を明確に発言することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日英翻訳演習

ENG233M

授業の概要 /Course Description

日本の文学作品を英語に翻訳する。作品の引用箇所を徹底的に解釈したのちに、修辞学上の理解に基づいて翻訳することができれば幸いである。本授業は、英語の表現力及び英文文に関する知識を向上させると同時に、日本語及び日本文学への理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

Strack, Daniel C. Literature in the Crucible of Translation: A Cognitive Account, Revised 2nd Edition. (Okayama: University Education Press, 2016).

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適切な和英辞典または電子辞典は必要(辞典の選択は各自判断の上)。プリントは必要に応じて配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 当授業の翻訳に対するアプローチの紹介
- 第2回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【翻訳とは何か】
- 第3回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【名詞】
- 第4回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【方言】
- 第5回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【総理解】
- 第6回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【概念】
- 第7回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【詩学】
- 第8回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【背景的知识】
- 第9回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【読者間における差異】
- 第10回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【対話】
- 第11回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【敬語】
- 第12回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【類音異義語】
- 第13回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【タイトル】
- 第14回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【歴史的観点】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：30% 小テスト：0% 期末試験：35% 課題：22% 態度：13%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：教科書のリーディングに分からない語彙があれば、前もって調べて下さい。
事後学習：授業が終わってから教員が指摘したポイントを自分の訳と照らし合わせて確認して下さい。

日英翻訳演習【昼】

履修上の注意 /Remarks

学生は毎回その日のリーディング（英語）を読んで、授業の前に日本語の翻訳課題を英語に翻訳します。授業中では、リーディングに対する質問を解答してから、翻訳課題の例文を見ながら、その翻訳における特徴や難題を取り上げていきます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日英翻訳演習 【昼】

担当者名 /Instructor ロッシェル カップ / Rochelle Kopp / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	正当な翻訳方法を通して良質な英訳を執筆することができる。
	英語力	●	英語圏の人たちにとって理解されやすい翻訳を執筆することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	翻訳作業に関して自分の見解を明確に発言することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日英翻訳演習

ENG233M

授業の概要 /Course Description

日本の文学作品を英語に翻訳する。作品の引用箇所を徹底的に解釈したのちに、修辞学上の理解に基づいて翻訳することができれば幸いである。本授業は、英語の表現力及び英文文に関する知識を向上させると同時に、日本語及び日本文学への理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

Strack, Daniel C. Literature in the Crucible of Translation: A Cognitive Account, Revised 2nd Edition. (Okayama: University Education Press, 2016).

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適切な和英辞典または電子辞典は必要(辞典の選択は各自判断の上)。プリントは必要に応じて配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 当授業の翻訳に対するアプローチの紹介
- 第2回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【翻訳とは何か】
- 第3回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【名詞】
- 第4回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【方言】
- 第5回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【総理解】
- 第6回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【概念】
- 第7回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【詩学】
- 第8回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【背景的知识】
- 第9回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【読者間における差異】
- 第10回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【対話】
- 第11回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【敬語】
- 第12回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【類音異義語】
- 第13回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【タイトル】
- 第14回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【歴史的観点】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：30% 小テスト：0% 期末試験：35% 課題：22% 態度：13%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：教科書のリーディングに分からない語彙があれば、前もって調べて下さい。
事後学習：授業が終わってから教員が指摘したポイントを自分の訳と照らし合わせて確認して下さい。

日英翻訳演習【昼】

履修上の注意 /Remarks

学生は毎回その日のリーディング（英語）を読んで、授業の前に日本語の翻訳課題を英語に翻訳します。授業中では、リーディングに対する質問を解答してから、翻訳課題の例文を見ながら、その翻訳における特徴や難題を取り上げていきます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Presentation and Writing A 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語の論理構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行うこと。
	英語力	●	英語の読み・書きが正確にでき、英語圏の人たちとコミュニケーションを行うこと。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語のコミュニケーション力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進すること。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Presentation and Writing A

ENG250M

授業の概要 /Course Description

Students will research, discuss, and write about topics related to contemporary social and political issues. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at a high intermediate level of English. All students will make three presentations. Students will improve their writing, discussion, critical thinking and presentation skills.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus Explanation and Multiculturalism Introduction
- 2回 Multiculturalism Expansion
- 3回 Immigration – Advantages and Disadvantages
- 4回 Gender Equality and the Gender Gap
- 5回 Writing an Opinion Essay
- 6回 Gender Issues Jigsaw Sharing
- 7回 Peer-editing Presentation 1 / Presentation 1 Preparation / Sexual Harassment
- 8回 Presentation 1
- 9回 Gender Stereotypes
- 10回 Winter Holidays Cultural Comparison
- 11回 Visual Literacy: Gender Representations in Movie Posters
- 12回 Gender Representations in Movie Posters Group Presentations
- 13回 Peace & Conflict: Peacemakers
- 14回 Peace & Conflict: Resolving a Dispute
- 15回 Peer-editing Presentation 2 / Presentation 2 Preparation / Regional Territorial Disputes

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks 20%, Participation 20%, Homework 20%, Presentations 40%

Presentation and Writing A 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will receive writing assignments to demonstrate writing skills and contribute to group tasks. Some research will be required both inside and outside of class. Regular review of all class materials is highly encouraged in preparation for the final exam. Weekly preparation and review should take from 20 to 30 minutes.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Presentation and Writing A 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語の論理構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行うこと。
	英語力	●	英語の読み・書きが正確にでき、英語圏の人たちとコミュニケーションを行うこと。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語のコミュニケーション力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進すること。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Presentation and Writing A

ENG250M

授業の概要 /Course Description

Students will research, discuss, and write about topics related to contemporary social and political issues. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at a high intermediate level of English. All students will make three presentations. Students will improve their writing, discussion, critical thinking and presentation skills.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus Explanation and Multiculturalism Introduction
- 2回 Multiculturalism Expansion
- 3回 Immigration – Advantages and Disadvantages
- 4回 Gender Equality and the Gender Gap
- 5回 Writing an Opinion Essay
- 6回 Gender Issues Jigsaw Sharing
- 7回 Peer-editing Presentation 1 / Presentation 1 Preparation / Sexual Harassment
- 8回 Presentation 1
- 9回 Gender Stereotypes
- 10回 Winter Holidays Cultural Comparison
- 11回 Visual Literacy: Gender Representations in Movie Posters
- 12回 Gender Representations in Movie Posters Group Presentations
- 13回 Peace & Conflict: Peacemakers
- 14回 Peace & Conflict: Resolving a Dispute
- 15回 Peer-editing Presentation 2 / Presentation 2 Preparation / Regional Territorial Disputes

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks 20%, Participation 20%, Homework 20%, Presentations 40%

Presentation and Writing A 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will receive writing assignments to demonstrate writing skills and contribute to group tasks. Some research will be required both inside and outside of class. Regular review of all class materials is highly encouraged in preparation for the final exam. Weekly preparation and review should take from 20 to 30 minutes.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Presentation and Writing A 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語の論理構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行うこと。
	英語力	●	英語の読み・書きが正確にでき、英語圏の人たちとコミュニケーションを行うこと。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語のコミュニケーション力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進すること。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Presentation and Writing A

ENG250M

授業の概要 /Course Description

Students will research, discuss, and write about topics related to contemporary social and political issues. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at a high intermediate level of English. All students will make three presentations. Students will improve their writing, discussion, critical thinking and presentation skills.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus Explanation and Multiculturalism Introduction
- 2回 Multiculturalism Expansion
- 3回 Immigration – Advantages and Disadvantages
- 4回 Gender Equality and the Gender Gap
- 5回 Writing an Opinion Essay
- 6回 Gender Issues Jigsaw Sharing
- 7回 Peer-editing Presentation 1 / Presentation 1 Preparation / Sexual Harassment
- 8回 Presentation 1
- 9回 Gender Stereotypes
- 10回 Winter Holidays Cultural Comparison
- 11回 Visual Literacy: Gender Representations in Movie Posters
- 12回 Gender Representations in Movie Posters Group Presentations
- 13回 Peace & Conflict: Peacemakers
- 14回 Peace & Conflict: Resolving a Dispute
- 15回 Peer-editing Presentation 2 / Presentation 2 Preparation / Regional Territorial Disputes

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks 20%, Participation 20%, Homework 20%, Presentations 40%

Presentation and Writing A 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will receive writing assignments to demonstrate writing skills and contribute to group tasks. Some research will be required both inside and outside of class. Regular review of all class materials is highly encouraged in preparation for the final exam. Weekly preparation and review should take from 20 to 30 minutes.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Presentation and Writing A 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語の論理構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行うこと。
	英語力	●	英語の読み・書きが正確にでき、英語圏の人たちとコミュニケーションを行うこと。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語のコミュニケーション力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進すること。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Presentation and Writing A

ENG250M

授業の概要 /Course Description

Students will research, discuss, and write about topics related to contemporary social and political issues. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at a high intermediate level of English. All students will make three presentations. Students will improve their writing, discussion, critical thinking and presentation skills.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus Explanation and Multiculturalism Introduction
- 2回 Multiculturalism Expansion
- 3回 Immigration – Advantages and Disadvantages
- 4回 Gender Equality and the Gender Gap
- 5回 Writing an Opinion Essay
- 6回 Gender Issues Jigsaw Sharing
- 7回 Peer-editing Presentation 1 / Presentation 1 Preparation / Sexual Harassment
- 8回 Presentation 1
- 9回 Gender Stereotypes
- 10回 Winter Holidays Cultural Comparison
- 11回 Visual Literacy: Gender Representations in Movie Posters
- 12回 Gender Representations in Movie Posters Group Presentations
- 13回 Peace & Conflict: Peacemakers
- 14回 Peace & Conflict: Resolving a Dispute
- 15回 Peer-editing Presentation 2 / Presentation 2 Preparation / Regional Territorial Disputes

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks 20%, Participation 20%, Homework 20%, Presentations 40%

Presentation and Writing A 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will receive writing assignments to demonstrate writing skills and contribute to group tasks. Some research will be required both inside and outside of class. Regular review of all class materials is highly encouraged in preparation for the final exam. Weekly preparation and review should take from 20 to 30 minutes.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Presentation and Writing B 【昼】

担当者名 /Instructor 山口ウエイ グレゴリー キース / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語の論理構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行う。
	英語力	●	英語の読み・書きが正確にでき、英語圏の人たちとコミュニケーションを行うこと。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語のコミュニケーション力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進すること。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Presentation and Writing B	ENG350M
----------------------------	---------

授業の概要 /Course Description

The purpose of this class is to help students develop the necessary skills to become great presenters. The ability to give good presentations is a valuable skill useful for your future employment. During the class we will do several different kinds of presentations such as giving a presentation about a person you admire, a vacation you recommend, and a persuasive presentation about an issue. We will work on body language and connecting with an audience by making eye contact, using gestures and projecting your voice as well as work on the English language that you use for your presentations. We will use techniques from writing such as brainstorming and making outlines, and you will be required to write presentation outlines for your presentation but this class will focus on writing as a means to doing presentations and not on writing skills per se.

教科書 /Textbooks

Ready to Present – A Guide to Better Presentations (2019 Cengage Learning) ISBN 978-4-86312-351-9 Herman Bartelen, Malcom Kostiuik

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Unit 1 – Self Introduction: Writing an introduction, body, and conclusion
- Unit 1 – Self Introduction: Giving a self introduction presentation, describing family, school life, likes & dislikes, etc.
- Unit 2/3 Important Person/Places: Talking about people and things important to you.
- Unit 2/3 Important Person/Places: Planning a presentation and writing about something or someone important to you.
- Unit 2/3 Important Person/Places: Presentation to a small group about something or someone important to you
- Unit 4 – Opinions: Sharing opinions/ Supporting and giving examples / Giving evidence.
- Unit 4 – Opinions: Planning a presentation and writing about a topic important to you.
- Unit 4 – Opinions: Presentation to a small group about a topic important to you.
- Unit 5/6 – Biography/Stories: Describing life experiences and accomplishments/ Describing your past experiences.
- Unit 5/6 – Biography/Stories: Planning a presentation and writing about a persons life or your own life experiences.
- Unit 5/6 – Biography/Stories: Giving a presentation about a persons life or your own life experiences.
- Unit 7/8 - Solving Problems/Final Presentations: Expressing opinions about social and global issues/ Prepare a survey
- Unit 7/8 - Solving Problems/Final Presentations: Surveying classmates about their opinions on current issues
- Unit 7/8 - Solving Problems/Final Presentations: Planning and giving a persuasive presentation about an issue.
- Review – Units 1-4/ Units 5-8 / Course reflection.

成績評価の方法 /Assessment Method

Presentation planning and writing activities 35%; Presentation Grades 50%; Participation 15%

Presentation and Writing B 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

In preparation for each lesson, students should review the last lesson and preview the next lesson topic. Following each lesson you need to do any homework that has been given and review what you learned in class.

履修上の注意 /Remarks

You will be able to give an organized, interesting, and persuasive speech in English after this course.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Presentations, Brainstorming, Speeches, PowerPoint, English, Confidence

Presentation and Writing B 【昼】

担当者名 /Instructor 山口ウエイ グレゴリー キース / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語の論理構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行う。
	英語力	●	英語の読み・書きが正確にでき、英語圏の人たちとコミュニケーションを行うこと。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語のコミュニケーション力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進すること。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Presentation and Writing B	ENG350M
----------------------------	---------

授業の概要 /Course Description

The purpose of this class is to help students develop the necessary skills to become great presenters. The ability to give good presentations is a valuable skill useful for your future employment. During the class we will do several different kinds of presentations such as giving a presentation about a person you admire, a vacation you recommend, and a persuasive presentation about an issue. We will work on body language and connecting with an audience by making eye contact, using gestures and projecting your voice as well as work on the English language that you use for your presentations. We will use techniques from writing such as brainstorming and making outlines, and you will be required to write presentation outlines for your presentation but this class will focus on writing as a means to doing presentations and not on writing skills per se.

教科書 /Textbooks

Ready to Present – A Guide to Better Presentations (2019 Cengage Learning) ISBN 978-4-86312-351-9 Herman Bartelen, Malcom Kostiuik

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Unit 1 – Self Introduction: Writing an introduction, body, and conclusion
- Unit 1 – Self Introduction: Giving a self introduction presentation, describing family, school life, likes & dislikes, etc.
- Unit 2/3 Important Person/Places: Talking about people and things important to you.
- Unit 2/3 Important Person/Places: Planning a presentation and writing about something or someone important to you.
- Unit 2/3 Important Person/Places: Presentation to a small group about something or someone important to you
- Unit 4 – Opinions: Sharing opinions/ Supporting and giving examples / Giving evidence.
- Unit 4 – Opinions: Planning a presentation and writing about a topic important to you.
- Unit 4 – Opinions: Presentation to a small group about a topic important to you.
- Unit 5/6 – Biography/Stories: Describing life experiences and accomplishments/ Describing your past experiences.
- Unit 5/6 – Biography/Stories: Planning a presentation and writing about a persons life or your own life experiences.
- Unit 5/6 – Biography/Stories: Giving a presentation about a persons life or your own life experiences.
- Unit 7/8 - Solving Problems/Final Presentations: Expressing opinions about social and global issues/ Prepare a survey
- Unit 7/8 - Solving Problems/Final Presentations: Surveying classmates about their opinions on current issues
- Unit 7/8 - Solving Problems/Final Presentations: Planning and giving a persuasive presentation about an issue.
- Review – Units 1-4/ Units 5-8 / Course reflection.

成績評価の方法 /Assessment Method

Presentation planning and writing activities 35%; Presentation Grades 50%; Participation 15%

Presentation and Writing B 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

In preparation for each lesson, students should review the last lesson and preview the next lesson topic. Following each lesson you need to do any homework that has been given and review what you learned in class.

履修上の注意 /Remarks

You will be able to give an organized, interesting, and persuasive speech in English after this course.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Presentations, Brainstorming, Speeches, PowerPoint, English, Confidence

Presentation and Writing B 【昼】

担当者名 /Instructor ホロウェイ グレゴリー キース / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 クラス 3 - 3 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語の論理構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行う。
	英語力	●	英語の読み・書きが正確にでき、英語圏の人たちとコミュニケーションを行うこと。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語のコミュニケーション力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進すること。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Presentation and Writing B	ENG350M
----------------------------	---------

授業の概要 /Course Description

The purpose of this class is to help students develop the necessary skills to become great presenters. The ability to give good presentations is a valuable skill useful for your future employment. During the class we will do several different kinds of presentations such as giving a presentation about a person you admire, a vacation you recommend, and a persuasive presentation about an issue. We will work on body language and connecting with an audience by making eye contact, using gestures and projecting your voice as well as work on the English language that you use for your presentations. We will use techniques from writing such as brainstorming and making outlines, and you will be required to write presentation outlines for your presentation but this class will focus on writing as a means to doing presentations and not on writing skills per se.

教科書 /Textbooks

Ready to Present – A Guide to Better Presentations (2019 Cengage Learning) ISBN 978-4-86312-351-9 Herman Bartelen, Malcom Kostiuik

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Unit 1 – Self Introduction: Writing an introduction, body, and conclusion
- Unit 1 – Self Introduction: Giving a self introduction presentation, describing family, school life, likes & dislikes, etc.
- Unit 2/3 Important Person/Places: Talking about people and things important to you.
- Unit 2/3 Important Person/Places: Planning a presentation and writing about something or someone important to you.
- Unit 2/3 Important Person/Places: Presentation to a small group about something or someone important to you
- Unit 4 – Opinions: Sharing opinions/ Supporting and giving examples / Giving evidence.
- Unit 4 – Opinions: Planning a presentation and writing about a topic important to you.
- Unit 4 – Opinions: Presentation to a small group about a topic important to you.
- Unit 5/6 – Biography/Stories: Describing life experiences and accomplishments/ Describing your past experiences.
- Unit 5/6 – Biography/Stories: Planning a presentation and writing about a persons life or your own life experiences.
- Unit 5/6 – Biography/Stories: Giving a presentation about a persons life or your own life experiences.
- Unit 7/8 - Solving Problems/Final Presentations: Expressing opinions about social and global issues/ Prepare a survey
- Unit 7/8 - Solving Problems/Final Presentations: Surveying classmates about their opinions on current issues
- Unit 7/8 - Solving Problems/Final Presentations: Planning and giving a persuasive presentation about an issue.
- Review – Units 1-4/ Units 5-8 / Course reflection.

成績評価の方法 /Assessment Method

Presentation planning and writing activities 35%; Presentation Grades 50%; Participation 15%

Presentation and Writing B 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

In preparation for each lesson, students should review the last lesson and preview the next lesson topic. Following each lesson you need to do any homework that has been given and review what you learned in class.

履修上の注意 /Remarks

You will be able to give an organized, interesting, and persuasive speech in English after this course.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Presentations, Brainstorming, Speeches, PowerPoint, English, Confidence

Presentation and Writing B 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・ 実習
クラス /Class 3 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語の論理構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行う。
	英語力	●	英語の読み・書きが正確にでき、英語圏の人たちとコミュニケーションを行うこと。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語のコミュニケーション力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進すること。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Presentation and Writing B	ENG350M
----------------------------	---------

授業の概要 /Course Description

The purpose of this class is to help students develop the necessary skills to become great presenters. The ability to give good presentations is a valuable skill useful for your future employment. During the class we will do several different kinds of presentations such as giving a presentation about a person you admire, a vacation you recommend, and a persuasive presentation about an issue. We will work on body language and connecting with an audience by making eye contact, using gestures and projecting your voice as well as work on the English language that you use for your presentations. We will use techniques from writing such as brainstorming and making outlines, and you will be required to write presentation outlines for your presentation but this class will focus on writing as a means to doing presentations and not on writing skills per se.

教科書 /Textbooks

Ready to Present – A Guide to Better Presentations

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A good English/Japanese dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Unit 1 – Self Introduction: Writing an introduction, body, and conclusion
2. Unit 1 – Self Introduction: Giving a self introduction presentation, describing family, school life, likes & dislikes, etc.
3. Unit 2/3 Important Person/Places: Talking about people and things important to you.
4. Unit 2/3 Important Person/Places: Planning a presentation and writing about something or someone important to you.
5. Unit 2/3 Important Person/Places: Presentation to a small group about something or someone important to you
6. Unit 4 – Opinions: Sharing opinions/ Supporting and giving examples / Giving evidence.
7. Unit 4 – Opinions: Planning a presentation and writing about a topic important to you.
8. Unit 4 – Opinions: Presentation to a small group about a topic important to you.
9. Unit 5/6 – Biography/Stories: Describing life experiences and accomplishments/ Describing your past experiences.
10. Unit 5/6 – Biography/Stories: Planning a presentation and writing about a persons life or your own life experiences.
11. Unit 5/6 – Biography/Stories: Giving a presentation about a persons life or your own life experiences.
12. Unit 7/8 - Solving Problems/Final Presentations: Expressing opinions about social and global issues/ Prepare a survey
13. Unit 7/8 - Solving Problems/Final Presentations: Surveying classmates about their opinions on current issues
14. Unit 7/8 - Solving Problems/Final Presentations: Planning and giving a persuasive presentation about an issue.
15. Review – Units 1-4/ Units 5-8 / Course reflection.

成績評価の方法 /Assessment Method

Presentation planning and writing activities 35%; Presentation Grades 50%; Participation 15%

Presentation and Writing B 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

In preparation for each lesson, students should review the last lesson and preview the next lesson topic. Following each lesson you need to do any homework that has been given and review what you learned in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リーディング演習I【昼】

担当者名 /Instructor 木下 善貞 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 英語の文章構造を正しく理解し、正確に解釈できる。
	英語力	● 英語を正確に読めて、英米及び英語圏の文化的背景が理解できる。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語リーディング演習 I

ENG351M

授業の概要 /Course Description

時事英語や英文副読本を読んでテキストの意味を正しく理解する能力を身につける。授業では時事英語のテキストを読む副読本としてAnthony TrollopeのThe Way We Live Nowを読む

教科書 /Textbooks

テキストは“News Gallery 2019” (木下善貞・江口雅子・アダム・ヘイルズ著、開文社)
副読本はThe Way We Live Now の第69章から76章の英文コピーをプリントして配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

R. C. Terry: Oxford Reader's Companion to Trollope (Oxford)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 'We must become more diverse' and 'break down barriers': Kazuo Ishiguro
- 3回 Finance Ministry admits altering Moritomo land deal docs; Akie Abe's name erased
- 4回 N. Korea fires suspected ICBM capable of hitting US East Coast
- 5回 Japan-EU trade pact a guiding light to counter protectionism
- 6回 A-bomb survivor gives powerful speech after anti-nuke treaty adopted at UN
- 7回 String of scandals at Kobe Steel raises questions over its compliance
- 8回 China's plans for 'new Silk Road' boosting South Asian tensions
- 9回 Emperor Akihito to abdicate on April 30, 2019
- 10回 Trump flouts warnings, declares Jerusalem Israel's capital
- 11回 Shogi phenom Fujii expresses happiness, humility after record 29th straight win
- 12回 Hanyu defends men's figure skating title for Japan's 1st gold
- 13回 Japan-based name 'Chibanian' set to represent geologic age
- 14回 US, allies attacking Syria to stop chemical weapons
- 15回 Instagram users' quest for perfect snaps boosts economy, but will it last?

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度や受講態度20%。期末テスト結果80%

英語リーディング演習I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前にテキストの授業範囲を読んで、不明部分をチェックし、単語の意味を調べておくこと。授業後に必ず復習を行い知識の定着を図ること。副読本については1回の授業に4頁ずつ進むので、担当者は授業日の2日前までに当てられた頁の翻訳をワード・ファイルにしてメールで提出すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リーディング演習I【昼】

担当者名 /Instructor 木下 善貞 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語の文章構造を正しく理解し、正確に解釈できる。
	英語力	●	英語を正確に読めて、英米及び英語圏の文化的背景が理解できる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語リーディング演習 I

ENG351M

授業の概要 /Course Description

時事英語や英文副読本を読んでテキストの意味を正しく理解する能力を身につける。授業では時事英語のテキストを読む副読本としてAnthony TrollopeのThe Way We Live Nowを読む

教科書 /Textbooks

テキストは“News Gallery 2019” (木下善貞・江口雅子・アダム・ヘイルズ著、開文社)
副読本はThe Way We Live Now の第69章から76章の英文コピーをプリントして配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

R. C. Terry: Oxford Reader's Companion to Trollope (Oxford)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 'We must become more diverse' and 'break down barriers': Kazuo Ishiguro
- 3回 Finance Ministry admits altering Moritomo land deal docs; Akie Abe's name erased
- 4回 N. Korea fires suspected ICBM capable of hitting US East Coast
- 5回 Japan-EU trade pact a guiding light to counter protectionism
- 6回 A-bomb survivor gives powerful speech after anti-nuke treaty adopted at UN
- 7回 String of scandals at Kobe Steel raises questions over its compliance
- 8回 China's plans for 'new Silk Road' boosting South Asian tensions
- 9回 Emperor Akihito to abdicate on April 30, 2019
- 10回 Trump flouts warnings, declares Jerusalem Israel's capital
- 11回 Shogi phenom Fujii expresses happiness, humility after record 29th straight win
- 12回 Hanyu defends men's figure skating title for Japan's 1st gold
- 13回 Japan-based name 'Chibanian' set to represent geologic age
- 14回 US, allies attacking Syria to stop chemical weapons
- 15回 Instagram users' quest for perfect snaps boosts economy, but will it last?

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度や受講態度20%。期末テスト結果80%

英語リーディング演習I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前にテキストの授業範囲を読んで、不明部分をチェックし、単語の意味を調べておくこと。授業後に必ず復習を行い知識の定着を図ること。副読本については1回の授業に4頁ずつ進むので、担当者は授業日の2日前までに当てられた頁の翻訳をワード・ファイルにしてメールで提出すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リーディング演習I【昼】

担当者名 /Instructor 原田 昂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 英語の文章構造を正しく理解し、正確に解釈できる。
	英語力	● 英語を正確に読めて、英米及び英語圏の文化的背景が理解できる。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語リーディング演習 I

ENG351M

授業の概要 /Course Description

本科目では、2年次までに学ぶReading & Discussionの内容を発展させ、より難易度の高い英語で書かれた様々な分野の文章を読むことを通じて以下の力の育成に取り組む。

- (1)英語の文章構造を正しく理解し、正確に解釈できる読解力。
- (2)英語を正確に読み、英米および英語圏の文化背景を理解する力。
- (3)英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度。
(Discussionを通じて、与えられた話題について建設的に意見や情報発信を行う)

オンラインニュースに掲載された記事を英語で読み、自分の意見を英語で伝えられるようにする。
第11回目の授業から、学生が主体となってディスカッションをリードできるようにする。
また、授業中に配布するマテリアルを用いて、英語独特の表現を使った物語を読み解き、その文化背景を理解する。

教科書 /Textbooks

なし
ウェブ上に掲載される最新のニュース記事を利用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 The course introduction & icebreaker questions
- 第2回 News summary & planned discussion (1) 【lifestyle news】
- 第3回 News summary & planned discussion (2) 【national news】
- 第4回 News summary & planned discussion (3) 【world news】
- 第5回 News summary & planned discussion (4) 【science news】
- 第6回 News summary & planned discussion (5) 【political news】
- 第7回 News summary & preparation for a spontaneous discussion (1) 【responding to others】
- 第8回 News summary & preparation for a spontaneous discussion (2) 【asking questions】
- 第9回 News summary & preparation for a spontaneous discussion (3) 【supporting and disagreeing constructively】
- 第10回 News summary & preparation for a spontaneous discussion (4) 【leading a discussion】
- 第11回 News summary & spontaneous discussion (1) 【lifestyle news】
- 第12回 News summary & spontaneous discussion (2) 【national news】
- 第13回 News summary & spontaneous discussion (3) 【world news】
- 第14回 News summary & spontaneous discussion (4) 【science news】
- 第15回 News summary & spontaneous discussion (5) 【political news】

英語リーディング演習I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業態度およびDiscussionへの積極的な参加：50%
- ・ 期末試験：50%

授業への積極的参加が単位認定の大前提となるので、4回以上欠席すると期末試験の受験を認めない可能性がある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

[演習前]

指定された記事を読解し、Summaryを行う。また、必要に応じて関連する内容を調べてデータを持参する。

[演習後]

演習中に扱った内容について咀嚼し、他者の意見を踏まえた上で自分の意見を建設的に伝えられるようにする。

履修上の注意 /Remarks

Successful completion of each assignment specified by the instructor and active participation in class are required to pass this course.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This course is conducted in both Japanese and English.

Students are encouraged to be enthusiastic in class activities and to express their opinions with due manner.

キーワード /Keywords

Skimming, Scanning, Paraphrasing, Summary, Multicultural Communication, Current Japanese Affairs, International Affairs

英語リーディング演習I【昼】

担当者名 /Instructor 原田 昂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 クラス 3 - 4 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 英語の文章構造を正しく理解し、正確に解釈できる。
	英語力	● 英語を正確に読めて、英米及び英語圏の文化的背景が理解できる。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語リーディング演習 I

ENG351M

授業の概要 /Course Description

本科目では、2年次までに学ぶReading & Discussionの内容を発展させ、より難易度の高い英語で書かれた様々な分野の文章を読むことを通じて以下の力の育成に取り組む。

- (1)英語の文章構造を正しく理解し、正確に解釈できる読解力。
- (2)英語を正確に読み、英米および英語圏の文化背景を理解する力。
- (3)英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度。
(Discussionを通じて、与えられた話題について建設的に意見や情報発信を行う)

オンラインニュースに掲載された記事を英語で読み、自分の意見を英語で伝えられるようにする。
第11回目の授業から、学生が主体となってディスカッションをリードできるようにする。
また、授業中に配布するマテリアルを用いて、英語独特の表現を使った物語を読み解き、その文化背景を理解する。

教科書 /Textbooks

なし
ウェブ上に掲載される最新のニュース記事を利用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 The course introduction & icebreaker questions
- 第2回 News summary & planned discussion (1) 【lifestyle news】
- 第3回 News summary & planned discussion (2) 【national news】
- 第4回 News summary & planned discussion (3) 【world news】
- 第5回 News summary & planned discussion (4) 【science news】
- 第6回 News summary & planned discussion (5) 【political news】
- 第7回 News summary & preparation for a spontaneous discussion (1) 【responding to others】
- 第8回 News summary & preparation for a spontaneous discussion (2) 【asking questions】
- 第9回 News summary & preparation for a spontaneous discussion (3) 【supporting and disagreeing constructively】
- 第10回 News summary & preparation for a spontaneous discussion (4) 【leading a discussion】
- 第11回 News summary & spontaneous discussion (1) 【lifestyle news】
- 第12回 News summary & spontaneous discussion (2) 【national news】
- 第13回 News summary & spontaneous discussion (3) 【world news】
- 第14回 News summary & spontaneous discussion (4) 【science news】
- 第15回 News summary & spontaneous discussion (5) 【political news】

英語リーディング演習I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業態度およびDiscussionへの積極的な参加：50%
- ・ 期末試験：50%

授業への積極的参加が単位認定の大前提となるので、4回以上欠席すると期末試験の受験を認めない可能性がある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

[演習前]

指定された記事を読解し、Summaryを行う。また、必要に応じて関連する内容を調べてデータを持参する。

[演習後]

演習中に扱った内容について咀嚼し、他者の意見を踏まえた上で自分の意見を建設的に伝えられるようにする。

履修上の注意 /Remarks

Successful completion of each assignment specified by the instructor and active participation in class are required to pass this course.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This course is conducted in both Japanese and English.

Students are encouraged to be enthusiastic in class activities and to express their opinions with due manner.

キーワード /Keywords

Skimming, Scanning, Paraphrasing, Summary, Multicultural Communication, Current Japanese Affairs, International Affairs

英語リーディング演習II【昼】

担当者名 /Instructor 原田 昂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 英語の文章構造を正しく理解し、正確に解釈できる。
	英語力	● 英語を正確に読めて、英米及び英語圏の文化的背景が理解できる。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語リーディング演習II

ENG352M

授業の概要 /Course Description

本科目では、2年次までに学ぶReading & Discussionの内容を発展させ、より難易度の高い英語で書かれた様々な分野の文章を読むことを通じて以下の力の育成に取り組む。

- (1)英語の文章構造を正しく理解し、正確に解釈できる読解力。
- (2)英語を正確に読み、英米および英語圏の文化背景を理解する力。
- (3)英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度。
(Discussionを通じて、与えられた話題について建設的に意見や情報発信を行う)

オンラインニュースに掲載された記事を英語で読み、自分の意見を英語で伝えられるようにする。
第11回目の授業から、学生が主体となってディスカッションをリードできるようにする。
また、授業中に配布するマテリアルを用いて、英語独特の表現を使った物語を読み解き、その文化背景を理解する。

教科書 /Textbooks

なし
ウェブ上に掲載される最新のニュース記事を利用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 The course introduction & icebreaker questions
- 第2回 News summary & planned discussion (1) 【lifestyle news】
- 第3回 News summary & planned discussion (2) 【national news】
- 第4回 News summary & planned discussion (3) 【world news】
- 第5回 News summary & planned discussion (4) 【science news】
- 第6回 News summary & planned discussion (5) 【political news】
- 第7回 News summary & preparation for a spontaneous discussion (1) 【responding to others】
- 第8回 News summary & preparation for a spontaneous discussion (2) 【asking questions】
- 第9回 News summary & preparation for a spontaneous discussion (3) 【supporting and disagreeing constructively】
- 第10回 News summary & preparation for a spontaneous discussion (4) 【leading a discussion】
- 第11回 News summary & spontaneous discussion (1) 【lifestyle news】
- 第12回 News summary & spontaneous discussion (2) 【national news】
- 第13回 News summary & spontaneous discussion (3) 【world news】
- 第14回 News summary & spontaneous discussion (4) 【science news】
- 第15回 News summary & spontaneous discussion (5) 【political news】

英語リーディング演習II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業態度およびDiscussionへの積極的な参加 : 50%
- ・ 期末試験 : 50%

授業への積極的参加が単位認定の大前提となるので、4回以上欠席すると期末試験の受験を認めない可能性がある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

[演習前]

指定された記事を読解し、Summaryを行う。また、必要に応じて関連する内容を調べてデータを持参する。

[演習後]

演習中に扱った内容について咀嚼し、他者の意見を踏まえた上で自分の意見を建設的に伝えられるようにする。

履修上の注意 /Remarks

Successful completion of each assignment specified by the instructor and active participation in class are required to pass this course.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This course is conducted in both Japanese and English.

Students are encouraged to be enthusiastic in class activities and to express their opinions with due manner.

キーワード /Keywords

Skimming, Scanning, Paraphrasing, Summary, Multicultural Communication, Current Japanese Affairs, International Affairs

英語リーディング演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 原田 昂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 英語の文章構造を正しく理解し、正確に解釈できる。
	英語力	● 英語を正確に読めて、英米及び英語圏の文化的背景が理解できる。
	その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語リーディング演習Ⅱ

ENG352M

授業の概要 /Course Description

本科目では、2年次までに学ぶReading & Discussionの内容を発展させ、より難易度の高い英語で書かれた様々な分野の文章を読むことを通じて以下の力の育成に取り組む。

- (1)英語の文章構造を正しく理解し、正確に解釈できる読解力。
- (2)英語を正確に読み、英米および英語圏の文化背景を理解する力。
- (3)英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度。
(Discussionを通じて、与えられた話題について建設的に意見や情報発信を行う)

オンラインニュースに掲載された記事を英語で読み、自分の意見を英語で伝えられるようにする。

第11回目の授業から、学生が主体となってディスカッションをリードできるようにする。

また、授業中に配布するマテリアルを用いて、英語独特の表現を使った物語を読み解き、その文化背景を理解する。

教科書 /Textbooks

なし

ウェブ上に掲載される最新のニュース記事を利用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 The course introduction & icebreaker questions
- 第2回 News summary & planned discussion (1) 【lifestyle news】
- 第3回 News summary & planned discussion (2) 【national news】
- 第4回 News summary & planned discussion (3) 【world news】
- 第5回 News summary & planned discussion (4) 【science news】
- 第6回 News summary & planned discussion (5) 【political news】
- 第7回 News summary & preparation for a spontaneous discussion (1) 【responding to others】
- 第8回 News summary & preparation for a spontaneous discussion (2) 【asking questions】
- 第9回 News summary & preparation for a spontaneous discussion (3) 【supporting and disagreeing constructively】
- 第10回 News summary & preparation for a spontaneous discussion (4) 【leading a discussion】
- 第11回 News summary & spontaneous discussion (1) 【lifestyle news】
- 第12回 News summary & spontaneous discussion (2) 【national news】
- 第13回 News summary & spontaneous discussion (3) 【world news】
- 第14回 News summary & spontaneous discussion (4) 【science news】
- 第15回 News summary & spontaneous discussion (5) 【political news】

英語リーディング演習II【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業態度およびDiscussionへの積極的な参加：50%
- ・ 期末試験：50%

授業への積極的参加が単位認定の大前提となるので、4回以上欠席すると期末試験の受験を認めない可能性がある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

[演習前]

指定された記事を読解し、Summaryを行う。また、必要に応じて関連する内容を調べてデータを持参する。

[演習後]

演習中に扱った内容について咀嚼し、他者の意見を踏まえた上で自分の意見を建設的に伝えられるようにする。

履修上の注意 /Remarks

Successful completion of each assignment specified by the instructor and active participation in class are required to pass this course.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This course is conducted in both Japanese and English.

Students are encouraged to be enthusiastic in class activities and to express their opinions with due manner.

キーワード /Keywords

Skimming, Scanning, Paraphrasing, Summary, Multicultural Communication, Current Japanese Affairs, International Affairs

英語リーディング演習II【昼】

担当者名 /Instructor 木下 善貞 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 英語の文章構造を正しく理解し、正確に解釈できる。
	英語力	● 英語を正確に読めて、英米及び英語圏の文化的背景が理解できる。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語リーディング演習II

ENG352M

授業の概要 /Course Description

時事英語や英文副読本を読んでテキストの意味を正しく理解する能力を身につける。授業では時事英語のテキストを読む副読本としてAnthony TrollopeのThe Way We Live Nowを読む

教科書 /Textbooks

テキストは“Meet the World 2019”（若有保彦、成美堂）
読本はThe Way We Live Now の第77章から84章の英文コピーをプリントして配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

R. C. Terry: Oxford Reader's Companion to Trollope (Oxford)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 Study: Microwave ovens are cooking the environment
- 3回 Truck damages Peru's ancient Nazca Lines
- 4回 Firms struggle to secure IT workers
- 5回 Global automakers to speed up electrified vehicle rollout
- 6回 Pharmacists in Oita create guidebook for drinkable spa water
- 7回 SpaceX's rocket blasts off, puts sports car in space
- 8回 Single-person households expected to hit 40% in 2040
- 9回 Govt plans to implement 'EdTech' for schools
- 10回 Universities help run cafeterias for low-income kids
- 11回 Tunisian schoolgirls rebel against uniforms
- 12回 English added to more school entrance exams
- 13回 International body OK's Japanese names for undersea features
- 14回 Language schools eyed to prep Asian workers for Japan
- 15回 Shopping app tested to reduce food loss

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度や受講態度20%。期末テスト結果80%

英語リーディング演習II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前にテキストの授業範囲を読んで、不明部分をチェックし、単語の意味を調べておくこと。授業後に必ず復習を行い知識の定着を図ること。副読本については1回の授業に4頁ずつ進むので、担当者は授業日の2日前までに当てられた頁の翻訳をワード・ファイルにしてメールで提出すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リーディング演習II【昼】

担当者名 /Instructor 木下 善貞 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語の文章構造を正しく理解し、正確に解釈できる。
	英語力	●	英語を正確に読めて、英米及び英語圏の文化的背景が理解できる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語リーディング演習II

ENG352M

授業の概要 /Course Description

時事英語や英文副読本を読んでテキストの意味を正しく理解する能力を身につける。授業では時事英語のテキストを読む副読本としてAnthony TrollopeのThe Way We Live Nowを読む

教科書 /Textbooks

テキストは“Meet the World 2019”（若有保彦、成美堂）
読本はThe Way We Live Now の第77章から84章の英文コピーをプリントして配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

R. C. Terry: Oxford Reader's Companion to Trollope (Oxford)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 Study: Microwave ovens are cooking the environment
- 3回 Truck damages Peru's ancient Nazca Lines
- 4回 Firms struggle to secure IT workers
- 5回 Global automakers to speed up electrified vehicle rollout
- 6回 Pharmacists in Oita create guidebook for drinkable spa water
- 7回 SpaceX's rocket blasts off, puts sports car in space
- 8回 Single-person households expected to hit 40% in 2040
- 9回 Govt plans to implement 'EdTech' for schools
- 10回 Universities help run cafeterias for low-income kids
- 11回 Tunisian schoolgirls rebel against uniforms
- 12回 English added to more school entrance exams
- 13回 International body OK's Japanese names for undersea features
- 14回 Language schools eyed to prep Asian workers for Japan
- 15回 Shopping app tested to reduce food loss

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度や受講態度20%。期末テスト結果80%

英語リーディング演習II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前にテキストの授業範囲を読んで、不明部分をチェックし、単語の意味を調べておくこと。授業後に必ず復習を行い知識の定着を図ること。副読本については1回の授業に4頁ずつ進むので、担当者は授業日の2日前までに当てられた頁の翻訳をワード・ファイルにしてメールで提出すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネスコミュニケーション演習【昼】

担当者名 /Instructor アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・実習
クラス /Class 3 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 英語を正しく理解し、英語による情報の収集を行うことができる。
	英語力	● 英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	● 英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	● 組織や集団において伝達力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネスコミュニケーション演習

ENG330M

授業の概要 /Course Description

ビジネスコミュニケーション演習 aims to develop business speaking ability through active student participation in topic-focused conversation/discussions and presentations in an all-English environment. Emphasis will be on discovering English business language patterns and using them to generate accurate and efficient professional spoken expression. In the mid to latter stages of the course, students will be expected to prepare and give oral business presentations on selected topics covered in class.

教科書 /Textbooks

Business Advantage Intermediate, Marjorie Rosenberg, Cambridge, 2012

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Use the library website to find online business journals through ProQuest and JSTOR Business.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction to course and get to know your classmates
2. Unit 1. Culture and its impact
3. Unit 2. Technology and business
4. Unit 5. Organizations and their structures, part 1
5. Unit 5. Organizations and their structures, part 2
6. Unit 6. Managing Organizations, part 1
7. Unit 7. Supply Chain Management
8. Company Case Study Presentations
9. Unit 9. Project 2 Preparation
10. Unit 9. Marketing strategy
11. Unit 12. Finance, part 1
12. Unit 13. Finance, part 2
13. Unit 13. Decision-making
14. Final Project Preparation
15. Final: Kyushu Environmental Solutions Business Proposal Presentations.

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation: (15%); Various homework assignments: (15%); 3 Major writing assignments: (25%); 4 Case Study analysis reports: (30%); Final in-class business proposal presentation: (15%).

ビジネスコミュニケーション演習【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please DO NOT miss the first class!

You are REQUIRED to purchase YOUR OWN textbook and bring it to the second class. Do not share textbooks with other students.

履修上の注意 /Remarks

Participation is a major portion of your grade; you should attend all classes and actively participate. Anyone missing more than 5 courses will not be eligible to pass the course.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This is an English ONLY course. Students will be expected to speak only English during the entirety of every class.

キーワード /Keywords

Business communication;
Group projects;
Entrepreneur;
Marketing;
Company design.

ビジネスコミュニケーション演習【昼】

担当者名 /Instructor アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・実習
クラス /Class 3 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 英語を正しく理解し、英語による情報の収集を行うことができる。
	英語力	● 英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	● 英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	● 組織や集団において伝達力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネスコミュニケーション演習

ENG330M

授業の概要 /Course Description

ビジネスコミュニケーション演習 aims to develop business speaking ability through active student participation in topic-focused conversation/discussions and presentations in an all-English environment. Emphasis will be on discovering English business language patterns and using them to generate accurate and efficient professional spoken expression. In the mid to latter stages of the course, students will be expected to prepare and give oral business presentations on selected topics covered in class.

教科書 /Textbooks

Business Advantage Intermediate, Marjorie Rosenberg, Cambridge, 2012

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Use the library website to find online business journals through ProQuest and JSTOR Business.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction to course and get to know your classmates
2. Unit 1. Culture and its impact
3. Unit 2. Technology and business
4. Unit 5. Organizations and their structures, part 1
5. Unit 5. Organizations and their structures, part 2
6. Unit 6. Managing Organizations, part 1
7. Unit 7. Supply Chain Management
8. Company Case Study Presentations
9. Unit 9. Project 2 Preparation
10. Unit 9. Marketing strategy
11. Unit 12. Finance, part 1
12. Unit 13. Finance, part 2
13. Unit 13. Decision-making
14. Final Project Preparation
15. Final: Kyushu Environmental Solutions Business Proposal Presentations.

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation: (15%); Various homework assignments: (15%); 3 Major writing assignments: (25%); 4 Case Study analysis reports: (30%); Final in-class business proposal presentation: (15%).

ビジネスコミュニケーション演習【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please DO NOT miss the first class!

You are REQUIRED to purchase YOUR OWN textbook and bring it to the second class. Do not share textbooks with other students.

履修上の注意 /Remarks

Participation is a major portion of your grade; you should attend all classes and actively participate. Anyone missing more than 5 courses will not be eligible to pass the course.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This is an English ONLY course. Students will be expected to speak only English during the entirety of every class.

キーワード /Keywords

Business communication;
Group projects;
Entrepreneur;
Marketing;
Company design.

ビジネスコミュニケーション演習【昼】

担当者名 /Instructor アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・実習
クラス /Class 3 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 英語を正しく理解し、英語による情報の収集を行うことができる。
	英語力	● 英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	● 英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	● 組織や集団において伝達力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネスコミュニケーション演習

ENG330M

授業の概要 /Course Description

ビジネスコミュニケーション演習 aims to develop business speaking ability through active student participation in topic-focused conversation/discussions and presentations in an all-English environment. Emphasis will be on discovering English business language patterns and using them to generate accurate and efficient professional spoken expression. In the mid to latter stages of the course, students will be expected to prepare and give oral business presentations on selected topics covered in class.

教科書 /Textbooks

Business Advantage Intermediate, Marjorie Rosenberg, Cambridge, 2012

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Use the library website to find online business journals through ProQuest and JSTOR Business.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction to course and get to know your classmates
2. Unit 1. Culture and its impact
3. Unit 2. Technology and business
4. Unit 5. Organizations and their structures, part 1
5. Unit 5. Organizations and their structures, part 2
6. Unit 6. Managing Organizations, part 1
7. Unit 7. Supply Chain Management
8. Company Case Study Presentations
9. Unit 9. Project 2 Preparation
10. Unit 9. Marketing strategy
11. Unit 12. Finance, part 1
12. Unit 13. Finance, part 2
13. Unit 13. Decision-making
14. Final Project Preparation
15. Final: Kyushu Environmental Solutions Business Proposal Presentations.

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation: (15%); Various homework assignments: (15%); 3 Major writing assignments: (25%); 4 Case Study analysis reports: (30%); Final in-class business proposal presentation: (15%).

ビジネスコミュニケーション演習【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please DO NOT miss the first class!

You are REQUIRED to purchase YOUR OWN textbook and bring it to the second class. Do not share textbooks with other students.

履修上の注意 /Remarks

Participation is a major portion of your grade; you should attend all classes and actively participate. Anyone missing more than 5 courses will not be eligible to pass the course.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This is an English ONLY course. Students will be expected to speak only English during the entirety of every class.

キーワード /Keywords

Business communication;
Group projects;
Entrepreneur;
Marketing;
Company design.

ビジネスコミュニケーション演習【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ガラフ・ステイール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・実習
クラス /Class 3 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語を正しく理解し、英語による情報の収集を行うことができる。
	英語力	●	英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団において伝達力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネスコミュニケーション演習

ENG330M

授業の概要 /Course Description

This business English course is for students of business English. It consists of a variety of topics of great interest to everyone involved in international business. Students will learn important words and phrases which you can use when you carry out the tasks in each class. There will be authentic articles and interviews on a variety of topics. Case studies are linked to the business topics of each unit. They are based on realistic business problems and allow students to use the language and communication skills they have developed while working through each unit.

教科書 /Textbooks

Market leader- Intermediate 3rd edition Cotton, Falvey and Kent Pearson

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A good English Japanese dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 Brands- interview with brand manager and taking part in meetings
- 2 Talking about your experiences and job interviews
- 3 Attitudes to change in general and at work and international markets
- 4 Status within an organisation and ethics
- 5 Discussion of authentic advertisements and expressions used in them
- 6 Different attitudes to money and expressions to finance
- 7 Importance of cultural awareness in business
- 8 Women at work and getting information on the telephone
- 9 Trade tensions and discussions on negotiating
- 10 Resume writing and unethical behaviour
- 11 Qualities of good leadership and character description
- 12 How competitive are you? idioms from sport for competition
- 13 Case study of a successful business
- 14 Case study of struggling business
- 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Unit Review 1 Test 20%, Unit 2 Review Test 20% Unit 3 Review test 20% Final exam 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

In preparation for each lesson, students should review the last lesson and preview the next lesson topic. Following each lesson you need to do any homework that has been given and review what you learned in class.

ビジネスコミュニケーション演習【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Advanced English I 【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 4 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Advanced English I

ENG353M

授業の概要 /Course Description

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction whilst broadening each individual's active vocabulary bank and honing argumentation skills. The course is divided into topic-focused stages and a final group discussion. The first stage of each topic is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second stage, or argumentation and debate section, takes place. During these argumentation and debate classes (second-stage classes) students will be required to introduce relevant concepts, present logical and informed opinions, present data/evidence to support their opinions and react with logic-driven support or opposition to the arguments of their peers. The course will culminate in short English-language presentations on topics to be chosen by the students.

教科書 /Textbooks

Pros and Cons: A Debaters Handbook、Debbie Newman (編集), Trevor Sather (編集), Ben Woolgar (編集) Routledge; 19版 (2013/9/27)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Supplementary materials to be provided by instructor. Students should use library references and resources to prepare for class debates.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.Introduction
- 2.Philosophy/political theory (Textual/Source Study)
- 3.Philosophy/political theory (Argumentation) A
- 4.Philosophy/political theory (Discussion) B
- 5.Philosophy/political theory (Debate) C
- 6.International relations (Textual/Source Study)
- 7.International relations (Argumentation) A
- 8.International relations (Discussion) B
- 9.International relations (Debate) C
- 10.Social, moral, and religious (Textual/Source Study)
- 11.Social, moral, and religious (Argumentation) A
- 12.Social, moral, and religious (Discussion) B
- 13.Social, moral, and religious (Debate) C
- 14.Closing Discussion: Student-Selected Topic Presentations A
- 15.Closing Discussion: Student-Selected Topic Presentations B

成績評価の方法 /Assessment Method

Two 500-word written assignments (50%) Presentation and Participation (50%)

Advanced English I 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

For class preparation students should read all assigned materials before meetings.

For review students should apply the results of class discussions to their individual topics. Students should continue to pursue tasks in relation to their own topics for presentation.

履修上の注意 /Remarks

All instruction and student work will be in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Regular attendance is mandatory and active participation is expected.

キーワード /Keywords

Advanced English I 【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 4 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Advanced English I

ENG353M

授業の概要 /Course Description

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction whilst broadening each individual's active vocabulary bank and honing argumentation skills. The course is divided into topic-focused stages and a final group discussion. The first stage of each topic is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second stage, or argumentation and debate section, takes place. During these argumentation and debate classes (second-stage classes) students will be required to introduce relevant concepts, present logical and informed opinions, present data/evidence to support their opinions and react with logic-driven support or opposition to the arguments of their peers. The course will culminate in short English-language presentations on topics to be chosen by the students.

教科書 /Textbooks

Debbie Newman and Ben Woolgar, eds., Pros and Cons: A Debater's Handbook, 19th edition (Routledge, 2014)
Supplementary materials to be provided by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students will be expected to find and use appropriate library resources when preparing for argumentation and debate

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.Introduction
- 2.Philosophy/political theory: Assignment of topics
- 3.Philosophy/political theory: Textual/source study
- 4.Philosophy/political theory: Preparing points for discussion
- 5.Philosophy/political theory: Argumentation and Debate
- 6.International relations: Assignment of topics
- 7.International relations: Textual/source study
- 8.International relations: Preparing points for discussion
- 9.International relations: Argumentation and Debate
- 10.Social, moral, and religious issues: Assignment of topics
- 11.Social, moral, and religious issues: Textual/source study
- 12.Social, moral, and religious issues: Preparing points for discussion
- 13.Social, moral, and religious issues: Argumentation and Debate
- 14.Closing Discussion: Student-Selected Topic Presentations A
- 15.Closing Discussion: Student-Selected Topic Presentations B

Advanced English I 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

Two 500-word written assignments (50%) Presentation and Participation (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

For class preparation students should read all assigned materials before meetings. For review students should apply the results of class discussions to their individual topics.

履修上の注意 /Remarks

All instruction and student work will be in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Regular attendance is mandatory and active participation is expected.

キーワード /Keywords

Advanced English I 【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 4 - 3 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Advanced English I

ENG353M

授業の概要 /Course Description

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction whilst broadening each individual's active vocabulary bank and honing argumentation skills. The course is divided into topic-focused stages and a final group discussion. The first stage of each topic is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second stage, or argumentation and debate section, takes place. During these argumentation and debate classes (second-stage classes) students will be required to introduce relevant concepts, present logical and informed opinions, present data/evidence to support their opinions and react with logic-driven support or opposition to the arguments of their peers. The course will culminate in short English-language presentations on topics to be chosen by the students.

教科書 /Textbooks

Debbie Newman and Ben Woolgar, eds., Pros and Cons: A Debater's Handbook, 19th edition (Routledge, 2014)
Supplementary materials to be provided by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students will be expected to find and use appropriate library resources when preparing for argumentation and debate

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.Introduction
- 2.Philosophy/political theory: Assignment of topics
- 3.Philosophy/political theory: Textual/source study
- 4.Philosophy/political theory: Preparing points for discussion
- 5.Philosophy/political theory: Argumentation and Debate
- 6.International relations: Assignment of topics
- 7.International relations: Textual/source study
- 8.International relations: Preparing points for discussion
- 9.International relations: Argumentation and Debate
- 10.Social, moral, and religious issues: Assignment of topics
- 11.Social, moral, and religious issues: Textual/source study
- 12.Social, moral, and religious issues: Preparing points for discussion
- 13.Social, moral, and religious issues: Argumentation and Debate
- 14.Closing Discussion: Student-Selected Topic Presentations A
- 15.Closing Discussion: Student-Selected Topic Presentations B

Advanced English I 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

Two 500-word written assignments (50%) Presentation and Participation (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

For class preparation students should read all assigned materials before meetings. For review students should apply the results of class discussions to their individual topics.

履修上の注意 /Remarks

All instruction and student work will be in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Regular attendance is mandatory and active participation is expected.

キーワード /Keywords

Advanced English I 【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 4 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Advanced English I

ENG353M

授業の概要 /Course Description

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction whilst broadening each individual's active vocabulary bank and honing argumentation skills. The course is divided into topic-focused stages and a final group discussion. The first stage of each topic is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second stage, or argumentation and debate section, takes place. During these argumentation and debate classes (second-stage classes) students will be required to introduce relevant concepts, present logical and informed opinions, present data/evidence to support their opinions and react with logic-driven support or opposition to the arguments of their peers. The course will culminate in short English-language presentations on topics to be chosen by the students.

教科書 /Textbooks

Debbie Newman and Ben Woolgar, eds., Pros and Cons: A Debater's Handbook, 19th edition (Routledge, 2014)
Supplementary materials to be provided by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students will be expected to find and use appropriate library resources when preparing for argumentation and debate

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.Introduction
- 2.Philosophy/political theory: Assignment of topics
- 3.Philosophy/political theory: Textual/source study
- 4.Philosophy/political theory: Preparing points for discussion
- 5.Philosophy/political theory: Argumentation and Debate
- 6.International relations: Assignment of topics
- 7.International relations: Textual/source study
- 8.International relations: Preparing points for discussion
- 9.International relations: Argumentation and Debate
- 10.Social, moral, and religious issues: Assignment of topics
- 11.Social, moral, and religious issues: Textual/source study
- 12.Social, moral, and religious issues: Preparing points for discussion
- 13.Social, moral, and religious issues: Argumentation and Debate
- 14.Closing Discussion: Student-Selected Topic Presentations A
- 15.Closing Discussion: Student-Selected Topic Presentations B

Advanced English I 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

Two 500-word written assignments (50%) Presentation and Participation (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

For class preparation students should read all assigned materials before meetings. For review students should apply the results of class discussions to their individual topics.

履修上の注意 /Remarks

All instruction and student work will be in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Regular attendance is mandatory and active participation is expected.

キーワード /Keywords

Advanced English II 【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 4 - 1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Advanced English II

ENG354M

授業の概要 /Course Description

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction, whilst broadening each individual's active vocabulary bank and honing argumentation skills. The course is divided into seven topic focused two-class stages and a final group discussion. The first section of each of the two-part stages is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second section, or argumentation and debate section, takes place. During these argumentation and debate classes (second-section classes) students will be required to introduce relevant concepts, present logical and informed opinions, present data/evidence to support their opinions and react with logic-driven support or opposition to the arguments of their peers. The course will culminate in a 70-minute English-language class discussion on a topic to be chosen by the student body.

教科書 /Textbooks

Debbie Newman and Ben Woolgar, eds., Pros and Cons: A Debater's Handbook, 19th edition (Routledge, 2014)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students will be expected to find and use appropriate library resources when preparing for argumentation and debate classes.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction + The Banning of Boxing (Textual/Source Study)
2. The Banning of Boxing (Argumentation and Debate)
3. The Censorship of Music Lyrics (Textual/Source Study)
4. The Censorship of Music Lyrics (Argumentation and Debate)
5. The Banning of Size Zero Models (Textual/Source Study)
6. The Banning of Size Zero Models (Argumentation and Debate)
7. The Abolition of Zoos (Textual/Source Study)
8. The Abolition of Zoos (Argumentation and Debate)
9. Capital Punishment (Textual/Source Study)
10. Capital Punishment (Argumentation and Debate)
11. The Banning of Cosmetic Surgery (Textual/Source Study)
12. The Banning of Cosmetic Surgery (Argumentation and Debate)
13. The Arming of the Police (Textual/Source Study)
14. The Arming of the Police (Argumentation and Debate)
15. Closing Discussion: Student-Selected Topic

Advanced English II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

2 X 500-word written assignments (50% X 2: 100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to prepare vocabulary and ideas for debate/discussion on a regular basis.

履修上の注意 /Remarks

Short sections of the textbook, and supplementary material, will be assigned on a weekly basis as pre-class preparatory reading.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Advanced English II 【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 4 - 2 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Advanced English II

ENG354M

授業の概要 /Course Description

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction, whilst broadening each individual's active vocabulary bank and honing argumentation skills. The course is divided into seven topic focused two-class stages and a final group discussion. The first section of each of the two-part stages is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second section, or argumentation and debate section, takes place. During these argumentation and debate classes (second-section classes) students will be required to introduce relevant concepts, present logical and informed opinions, present data/evidence to support their opinions and react with logic-driven support or opposition to the arguments of their peers. The course will culminate in a 70-minute English-language class discussion on a topic to be chosen by the student body.

教科書 /Textbooks

Debbie Newman and Ben Woolgar, eds., Pros and Cons: A Debater's Handbook, 19th edition (Routledge, 2014)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students will be expected to find and use appropriate library resources when preparing for argumentation and debate classes.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.Introduction + The Banning of Boxing (Textual/Source Study)
- 2.The Banning of Boxing (Argumentation and Debate)
- 3.The Censorship of Music Lyrics (Textual/Source Study)
- 4.The Censorship of Music Lyrics (Argumentation and Debate)
- 5.The Banning of Size Zero Models (Textual/Source Study)
- 6.The Banning of Size Zero Models (Argumentation and Debate)
- 7.The Abolition of Zoos (Textual/Source Study)
- 8.The Abolition of Zoos (Argumentation and Debate)
- 9.Capital Punishment (Textual/Source Study)
- 10.Capital Punishment (Argumentation and Debate)
- 11.The Banning of Cosmetic Surgery (Textual/Source Study)
- 12.The Banning of Cosmetic Surgery (Argumentation and Debate)
- 13.The Arming of the Police (Textual/Source Study)
- 14.The Arming of the Police (Argumentation and Debate)
- 15.Closing Discussion: Student-Selected Topic

Advanced English II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

2 X 500-word written assignments (50% X 2: 100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to prepare vocabulary and ideas for debate/discussion on a regular basis.

履修上の注意 /Remarks

Short sections of the textbook, and supplementary material, will be assigned on a weekly basis as pre-class preparatory reading.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Advanced English II 【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 4 - 3 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Advanced English II

ENG354M

授業の概要 /Course Description

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction, whilst broadening each individual's active vocabulary bank and honing argumentation skills. The course is divided into seven topic focused two-class stages and a final group discussion. The first section of each of the two-part stages is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second section, or argumentation and debate section, takes place. During these argumentation and debate classes (second-section classes) students will be required to introduce relevant concepts, present logical and informed opinions, present data/evidence to support their opinions and react with logic-driven support or opposition to the arguments of their peers. The course will culminate in a 70-minute English-language class discussion on a topic to be chosen by the student body.

教科書 /Textbooks

Debbie Newman and Ben Woolgar, eds., Pros and Cons: A Debater's Handbook, 19th edition (Routledge, 2014)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students will be expected to find and use appropriate library resources when preparing for argumentation and debate classes.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction + The Banning of Boxing (Textual/Source Study)
2. The Banning of Boxing (Argumentation and Debate)
3. The Censorship of Music Lyrics (Textual/Source Study)
4. The Censorship of Music Lyrics (Argumentation and Debate)
5. The Banning of Size Zero Models (Textual/Source Study)
6. The Banning of Size Zero Models (Argumentation and Debate)
7. The Abolition of Zoos (Textual/Source Study)
8. The Abolition of Zoos (Argumentation and Debate)
9. Capital Punishment (Textual/Source Study)
10. Capital Punishment (Argumentation and Debate)
11. The Banning of Cosmetic Surgery (Textual/Source Study)
12. The Banning of Cosmetic Surgery (Argumentation and Debate)
13. The Arming of the Police (Textual/Source Study)
14. The Arming of the Police (Argumentation and Debate)
15. Closing Discussion: Student-Selected Topic

Advanced English II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

2 X 500-word written assignments (50% X 2: 100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to prepare vocabulary and ideas for debate/discussion on a regular basis.

履修上の注意 /Remarks

Short sections of the textbook, and supplementary material, will be assigned on a weekly basis as pre-class preparatory reading.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Advanced English II 【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 4 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Advanced English II

ENG354M

授業の概要 /Course Description

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction, whilst broadening each individual's active vocabulary bank and honing argumentation skills. The course is divided into seven topic focused two-class stages and a final group discussion. The first section of each of the two-part stages is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second section, or argumentation and debate section, takes place. During these argumentation and debate classes (second-section classes) students will be required to introduce relevant concepts, present logical and informed opinions, present data/evidence to support their opinions and react with logic-driven support or opposition to the arguments of their peers. The course will culminate in a 70-minute English-language class discussion on a topic to be chosen by the student body.

教科書 /Textbooks

Debbie Newman and Ben Woolgar, eds., Pros and Cons: A Debater's Handbook, 19th edition (Routledge, 2014)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students will be expected to find and use appropriate library resources when preparing for argumentation and debate classes.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction + The Banning of Boxing (Textual/Source Study)
2. The Banning of Boxing (Argumentation and Debate)
3. The Censorship of Music Lyrics (Textual/Source Study)
4. The Censorship of Music Lyrics (Argumentation and Debate)
5. The Banning of Size Zero Models (Textual/Source Study)
6. The Banning of Size Zero Models (Argumentation and Debate)
7. The Abolition of Zoos (Textual/Source Study)
8. The Abolition of Zoos (Argumentation and Debate)
9. Capital Punishment (Textual/Source Study)
10. Capital Punishment (Argumentation and Debate)
11. The Banning of Cosmetic Surgery (Textual/Source Study)
12. The Banning of Cosmetic Surgery (Argumentation and Debate)
13. The Arming of the Police (Textual/Source Study)
14. The Arming of the Police (Argumentation and Debate)
15. Closing Discussion: Student-Selected Topic

Advanced English II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

2 X 500-word written assignments (50% X 2: 100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to prepare vocabulary and ideas for debate/discussion on a regular basis.

履修上の注意 /Remarks

Short sections of the textbook, and supplementary material, will be assigned on a weekly basis as pre-class preparatory reading.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教職論【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

教職論は、教職課程への導入的性格を持つ科目である。
本授業では、教職という仕事の社会的意義と役割、また、教員に求められる資質や倫理の内容を理解するとともに、本学出身者の若手の教員の体験報告とその後の意見交流を通して、教員という仕事の喜びや困難さを理解し、自らの進路選択を検討するとともに、めざすべき教員像を探究する。
また、教員の職務内容の全体像と教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解するとともに、今日の学校が担うべき役割を実現していくために必要不可欠な教職員や多様な専門職種との連携の在り方について検討する。

なお、この科目は「教職に関する科目」のカリキュラムマップでは、1類 - 1 に該当する科目である。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回の授業で必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田康之・高野和子編 「教職論」 学文社
文科省 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション 本授業の目的と進め方、「教職課程を履修する目的」に関するアンケート
2. 現代社会における教職の意義について
3. 教員に求められる基礎的な資質・能力について(中教審の答申を踏まえて)
4. 今日の教員に求められる役割と職務内容について(外部講師)
5. 教員研修の意義と、教員に課せられる服務上及び身分上の義務と身分保障
6. 教科指導と授業づくり(本学出身の教員の実践報告と意見交流)
7. 生活指導と子ども集団づくり(本学出身の教員の実践報告と意見交流)
8. 現代社会における学校教育の課題 その1 セクシュアルマイノリティの子どもたちと学校教育
9. 現代社会における学校教育の課題 その2 部活動・体罰問題を考える。
10. 現代社会における学校教育の課題 その3 「道徳教育」をめぐる問題を考える。
11. チーム学校と専門職との連携 その1 「特別なニーズ」を持つ子どもへの支援
12. チーム学校と専門職との連携 その2 被虐待状況にある子どもへの支援
13. 若手教員からみた教員の仕事の生きがいと悩み (外部講師 本学出身者の報告と意見交流)
14. 子どもの人権を尊重し、自らのパワーを適切に行使できる教師であるために
15. 全体のまとめ

* 講師の都合などにより、計画が変更になることがある点、了解されたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業内で実施するミニレポート等) 30点、レポート試験70点
なお、欠席した場合には一回につき5点の減点になります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 新聞記事やテレビなどを通して日常的に生じている教育の問題に関心を持ち、自分自身の見解を持つ努力をすること
- ・ 授業での現職教員との出会いを通して、自分自身が理想とする教師像を育てていくこと
- ・ 学校現場でのボランティア体験などを通して、教師としての実践的指導力の獲得に向けての自己教育の課題に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業はすべての回に出席してもらうことを前提にして進めます。
公欠や体調不良などのやむを得ない事情で欠席した場合には授業のレジュメやビデオ補講を受けるなどして、できるだけその内容を補ってください。

教職論【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では多くの学校現場の先生に来ていただいて、教師という仕事の魅力と困難さを語っていただきます。
この半年の授業のなかで皆さん自身がめざすべき「教師像」を育んでもらえることを願っています。

キーワード /Keywords

教職の意義と役割、教員の仕事、理想の教師像

教育原理【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

課題

発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

目標

- ①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

(以下、平成26年度以降入学生)

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション：教育とは何か
- 2回 教育の関係：教育のモデル・家族・学校
- 3回 生涯にわたる発達と教育：生涯発達
- 4回 発達段階と発達課題：思春期・青年期
- 5回 教育思想①：諸外国の教育思想
- 6回 教育思想②：日本の教育思想
- 7回 教育史①：西洋の教育史
- 8回 教育史②：日本の教育史
- 9回 学ぶ意欲と教育指導
- 10回 学校教育の機能：基礎集団としての学級
- 11回 学校教育の課題：学校で生じる問題
- 12回 メディアと教育：メディアと子ども・教材・方法
- 13回 国際化と教育：言語・文化
- 14回 仕事と教育：進路形成
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である (Butterworth, 1994)。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著 『発達心理学 周りの世界とかかわりながら人はいかに育つか (いちばんはじめに読む心理学の本 3)』 ミネルヴァ書房 ¥2700

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文部科学省 (2011) 「生徒指導提要」 ¥298

その他、授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 乳児は世界をどのように感じるのか【知覚、認知、言語の発達】
- 第3回 ヒトの発達の特徴とは【発達のメカニズム】
- 第4回 ヒトは他者との関係をどのように築くのか【愛着、共同注意】
- 第5回 イメージと言葉の世界【知能の発達、表象能力】
- 第6回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【心の理論】
- 第7回 自己・他者を理解する【自己概念・自己意識】
- 第8回 学習の過程【学習理論、論理的思考】
- 第9回 友人とのかかわりと社会性の発達【ギャング・エイジ、道徳性】
- 第10回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第11回 他者を通して見る自己【友人関係、問題行動】
- 第12回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第13回 児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
- 第14回 発達障害をもつ児童生徒の心身の発達と学習の過程
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

今回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくる。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度論 【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。
なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本原則(1) 教育制度とは
- 2回 教育制度の基本原則(2) 日本の教育法制
- 3回 学校制度の基本的事項(1) 機会均等、義務教育
- 4回 学校制度の基本的事項(2) 中等教育、学校体系
- 5回 学校制度の基本的事項(3) 就学・懲戒
- 6回 教科書に関する制度
- 7回 教員制度の基本的事項(1) 教員免許法制
- 8回 教員制度の基本的事項(2) 教員の指導力、研修
- 9回 教員制度の基本的事項(3) 公務員としての教師、教員の待遇
- 10回 教育行財政の仕組み(1) 中央教育行政、地方教育行政
- 11回 教育行財政の仕組み(2) 教育委員会と学校
- 12回 学校関係者による協力支援の制度
- 13回 地域社会の変容と学校
- 14回 教育制度改革の動向
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育課程論 【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

概要

教育課程に関わる概念や学校における教育課程編成・方法、学習指導要領に関する基礎的な知識を習得し、今日の教育課程の課題について学ぶ。

目標

- ①教育課程に関わる基礎的な知識を習得する。
- ②教育課程の課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。

プリント（講義レジュメ及び資料）を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に配布するプリントに提示するものの他、必要に応じ適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 教育課程編成の基本原則
- 第2回 日本の教育課程の変遷
- 第3回 学習指導要領と教育課程編成
- 第4回 学力と教育課程
- 第5回 学校における教育課程編成
- 第6回 「カリキュラム・マネジメント」と学校改善
- 第7回 教育課程の評価
- 第8回 諸外国の教育課程・カリキュラム(1) 東アジアを中心に
- 第9回 諸外国の教育課程・カリキュラム(2) 英語文化圏を中心に
- 第10回 諸外国の教育課程・カリキュラム(3) 欧州を中心に
- 第11回 教育課程の開発
- 第12回 今日の課題と教育課程(1) アクティブラーニング
- 第13回 今日の課題と教育課程(2) 国際移動と教育
- 第14回 今日の課題と教育課程(3) ESD
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 森 千鶴 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業には、主に二つのねらいがある。まず英語科教育の基本となる理論を学び、知識を修得することを目的とする。次に、主として中学校の学習指導案の書き方を学び、モデル授業を実際に行って理論と実践を結びつけることにより、ある程度の実践力を身につけることを目的とする。中学校との関連において、小学校の外国語活動の理論と現状についてもふれる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

深澤清治（編著）『中等英語教育』協同出版 2014年、2500円
文部科学省 中学校学習指導要領 外国語編 開隆堂 2009年 72円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜プリントを配布する。

なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。

新里真男ほか著、SUNSHINE ENGLISH COURSE 1～3 開隆堂 2012年 310円

松本茂ほか著、ONE WORLD English Course 1～3 教育出版 2012年 310円

高橋貞雄ほか著、"NEW CROWN ENGLISH SERIES New Edition 1～3"三省堂 2012年 310円

笠島準一、関典明ほか著、NEW HORIZON English Course 1～3 東京書籍 2012年 310円

矢田裕士、吉田研作ほか著、TOTAL ENGLISH 1～3 教育出版 2012年 310円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション及び英語教育の目的
2. 英語教育の目的
3. 指導法へのアプローチ【行動主義と認知主義】
4. 指導法へのアプローチ【コミュニケーション能力】
5. Communicative Language Teaching の理念【インフォメーション・ギャップ】
6. Communicative Language Teaching の理念【タスク活動】
7. 中学校の英語科教育および小学校の外国語活動
8. 学習指導案(中学校)の立て方
9. 評価について
10. DVD (師範授業) の視聴【筑波大学附属中学校教諭】
11. モデル授業の準備
12. モデル授業 (中学校) 【1年生】
13. モデル授業 (中学校) 【2年生】
14. モデル授業 (中学校) 【3年生】
15. 復習と試験の準備

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末の定期試験 (70%程度) を中心として、提出物 (15%程度) 及び授業参加度 (15%程度) を考慮に入れ、総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には指定された教科書の範囲を読んでおく。事後には渡されたプリントなどを復習する。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 前もってプリントを配布したり、次回の授業内容に関連する教科書ページを予告をする場合は、予習しておくこと。
- ・ 出欠席は厳密にとる。無断欠席は厳に慎むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法B 【昼】

担当者名 /Instructor 森 千鶴 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業には主に二つのねらいがある。まず英語科教育における発展的な理論や学習指導案の書き方を学び、モデル授業を行うことによって、主として高等学校の英語科教員としての技能を身につける。次に英語科教育の学問的な側面に目を向け、英語で書かれた論文を講読することによって、英語科教育の今日的な課題を深く論考することができるようになることを目指す。
なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

深澤清治 (編著) 『中等英語教育』協同出版、2014年、2500円
文部科学省 高等学校学習指導要領 外国語編 英語編 開隆堂 2011年 158円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜プリントを配布する。なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。
松本世志子ほか著、ENGLISH NOW Revised Edition I・II開隆堂 2012年、630円
NEW WORLD ENGLISH COURSE I・II 三友社
南村俊夫著、Vivid Reading MEW EDITION第一学習社、2007年、765円
Onstage English Course I・II池田書店
EXCEED English Series New Edition I・II 三省堂
田辺正美ほか著、PROMINENCE English I・II東京書籍、2012年、630円
山本良一ほか著、"MAINSTREAM ENGLISH COURSE Second Edition I・II" 増進堂 2012年 570円
Minton, T.D. ほか著 Revised POLESTAR English Course I・II 数研出版 2012年 570円 "Revised Edition SUNSHINE English Course I・II"開隆堂
田中茂範、武田修一ほか著、"PRO-VISION New Edition ENGLISH COURSE I・II" 桐原書店 2013年、650円 卯城祐司ほか著、ELEMENT English Course I・II啓林館 2013年、650円
Voyager English Course NEW EDITION I・II第一学習社
市川泰男、高橋和久ほか著、"NEW EDITION UNICORN 2012年、630円 ENGLISH COURSE I・II"文英堂
Genius English Course Revised I・II大修館書店 霜崎寛ほか著、CROWN English Series New Edition I・II三省堂 2012年、630円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. コミュニケーション能力および英語科の評価論について
2. 学習指導要領および4技能の統合
3. リーディングの理論と実践 [理論編]
4. リーディングの理論と実践 [発展編]
5. 絶対評価について (高等学校編)
6. 学習指導案 (高等学校) の立て方
7. モデル授業の準備
8. モデル授業 (高等学校) [コミュニケーション英語I]
9. モデル授業 (高等学校) [コミュニケーション英語II]
10. モデル授業 (高等学校) 【コミュニケーション英語II】
11. モデル授業 (高等学校) 【英語表現I】
12. モデル授業 (高等学校) 【英語表現II】
13. モデル授業 (高等学校) 【英語表現III】
14. 日本の英語教育 (小・中・高連携) について
15. 復習と試験の準備

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末の定期試験 (70%程度) を中心として、提出物 (15%程度) 及び授業参加度 (15%程度) を考慮に入れ、総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には指定された教科書のページを読んでおく。事後には渡されたプリント等を用いて復習する。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 前もってプリントを配布したり、次回の授業内容に関連する教科書ページを予告する場合は、予習しておくこと。
- ・ 出欠席は厳密にとる。無断欠席は厳に慎むこと。
- ・ モデル授業の日程は学生と相談した上で決定することになるので、シラバス内容に関しては柔軟に考えていただきたい。

英語科教育法B 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育指導論【昼】

担当者名 田中 友佳子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本授業では、道徳・道徳教育とは何かを問う作業から始め、現在の学校教育における道徳教育の目的と内容について学ぶ。また、いくつかの現代的課題について取り上げ、道徳教育に必要な思考力を鍛える。さらに、「道徳の授業」に関する教材研究を行うとともに、実際に指導する場面を想定して学習指導案の作成などを行うことにより、道徳教育の実践的な指導力の育成をはかる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。適宜、資料を配布しながら授業を進める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション 授業のねらいや計画、注意点の説明
- 第2回：道徳とは何か、なぜ必要か 倫理、哲学、法と道徳との関係性
- 第3回：道徳教育の変遷① 近代学校成立以前、明治期から第二次世界大戦期
- 第4回：道徳教育の変遷② 戦後から「改正教育基本法」まで
- 第5回：「道徳」の特別教科化をめぐる諸問題
- 第6回：道徳教育の目標と各教科・特別活動等における指導内容
- 第7回：道徳教育の現代的課題① 生命倫理をめぐる問題について考える(グループ討論)
- 第8回：道徳教育の現代的課題② 性の多様性について知る(グループ討論)
- 第9回：道徳教育の現代的課題③ 住み良い社会とは何かを考える(グループ討論)
- 第10回：道徳教育の現代的課題④ 「世代間の平等」の問題を考える(グループ討論)
- 第11回：「道徳の時間」の年間指導計画と学習指導案の作成方法
- 第12回：「道徳の時間」の教材研究① 読み物教材に対する批判的検討
- 第13回：「道徳の時間」の教材研究② 問題解決的な学習に対する批判的検討
- 第14回：学習指導案の発表とコメント
- 第15回：全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習指導案40%
コメントシート20%
期末レポート(又は期末試験)40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に適宜説明を行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業では、グループ討論や教材研究などに積極的に取り組むことが求められます。様々な立場や意見があることを子どもたちに問いかけ共に考える授業ができるように、思考力や指導力を磨いていきましょう。

キーワード /Keywords

特別活動論 【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

1. 文科省の中学校及び高等学校学習指導要領・特別活動の目標と内容、及び指導計画の作成と内容の取扱いの留意点について理解する。
 2. 学級活動や学校行事を進めていく上で求められる基本的な指導計画、指導案の作成方法を理解する。
 3. 子どものコミュニケーション能力や自治の力を育む学級活動の進め方や指導方法について学習する。
 4. 生徒集団の自治の力を育む学校行事、生徒会活動の進め方について、具体的な実践報告を手がかりにしながら学習する。
- なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

中学校学習指導要領解説 「特別活動編」(平成20年9月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

折出健二編 2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
高旗正人他編 「新しい特別活動指導論」 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 特別活動の教育的意義
- 2回 学級活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章第1節他) 学級活動の実際 中学校
- 3回 学級活動の実際 その2 高等学校
- 4回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その1 対立解決プログラムについて
- 5回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その2 傾聴のスキル、アサーティブネス
- 6回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その3 ウィン・ウィン型の問題解決
- 7回 生徒のコミュニケーションと問題解決能力を育てる学級活動 その4 対立の仲介のロールプレイ発表
- 8回 生徒会活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章2節他)
- 9回 学校行事の目標・内容と指導計画(テキスト第3章3節他) 学校行事の実際 中学校
- 10回 学校行事の実際 - 高等学校
- 11回 学級の荒れを克服し、お互いを大切に作る人間関係を築く学級活動の取り組み
- 12回 困難な課題を抱える生徒の居場所づくりと学級活動の取り組み
- 13回 特別活動の学習指導案の作成方法と模擬授業について
- 14回 指導計画の作成と内容の取扱い(テキスト第4章)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点20点(課題レポートなど) 期末試験 80点
なお、出席回数が全体の2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業の欠席については、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指定するテキストの箇所は事前に予習しておくこと。
実践報告から学んだ点について、自分なりの整理をしておくこと

履修上の注意 /Remarks

受身的な授業への参加では実践的な指導力は養われません。
グループワークなども含めて、積極的な授業参加を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、教師としての実践的指導力の基礎を培うことを目的とした授業です。
そのためにグループワークも多く取り込んでいます。
学級づくり、子ども集団づくりの基本的な課題と方法について、しっかりと学んでもらえたら幸いです。

特別活動論 【昼】

キーワード /Keywords

特別活動の目標・内容、指導計画、指導案の作成、学級づくり、子ども集団づくりの課題と方法

教育方法学【昼】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

近年、課題解決型授業やアクティブラーニングといった確かな学力を求めるための、教育のあり方が議論されている。この授業では、授業の構成要素である「教材・教師・生徒」の視点からそれぞれのあり方を捉えながら、授業を構成するための理論やICT教育の求められる背景を講義し、そのなかで相互の関心を交わし、よりよい教育に関する理解を深めることを目的とする。また実践において子どもに寄り添う教育とは何か、どのように行うべきかを検討する。

そのために、講義形式以外にもグループ活動やペアワークなど実際に作業することで教育方法の理論の一部を体験しながら、教材開発や教材研究を行っていく。

教科書 /Textbooks

新しい時代の教育方法(有斐閣) 2019 田中 耕治(著), 鶴田 清司(著), 橋本 美保(著), 藤村 宣之(著)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で随時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：教育と学習・理論と方法・実践
- 第3回：授業の歴史(欧米)
- 第4回：授業の歴史(日本)
- 第5回：学習の理論・協同的な学び
- 第6回：授業のデザイン・学校・家庭・社会
- 第7回：授業のデザイン・教師・生徒・教材
- 第8回：授業の過程・デザイン-実践-評価
- 第9回：情報機器・メディア活用の授業：ICTについて考える
- 第10回：「学力」について考える
- 第11回：授業の研究1・学習指導案
- 第12回：授業の研究2・授業記録を読む
- 第13回：教師の専門性・専門職性
- 第14回：教材研究・教材開発
- 第15回：まとめ

定期試験

(2~4回は、教育方法学を支える基礎理論や社会背景を扱い、5~10回まではICT教育や学び、学力について論じる。11~14回は実践の中でどのように授業を捉えたらよいか、教材や教師の役割などを議論していく。)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度(グループワークや質疑などへの参加)・・・30%
発表・レジュメ作成・・・20%
最終試験・課題レポート・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

人数によって課題の方法は変化するが、テキストについてまとめた資料(レジュメ)を作成してもらう。
また担当でない者も、内容について疑問点や感想などを報告してもらいたいので、事前にテキストを読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育方法学がどのような学問かは、簡単には説明ができません。体験を通して、教育方法学がやってきたことやできることを共に捉えていけたらよいと思います。
一緒にがんばりましょう。

キーワード /Keywords

生徒・進路指導論【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと
- ② 教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導における家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること
- ③ 養育環境や発達障害等の何らかの要因による困難を抱える子どもの自立を支援する生徒指導のあり方を学習すること。
- ④ 実際の生徒指導の場面や事例を想定しながら、その場面での対応のあり方を考える力を養うこと。
- ⑤ 思春期・青年期の進路指導、キャリア教育の意義と課題について、今日の若者の就労をめぐる問題状況も含めつつ検討していくこと。また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

文部科学省編 「生徒指導提要」 教育図書
楠凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研 第I部

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
嶋崎政男 「法規+教育で考える 生徒指導ケース100」 ぎょうせい
○文部科学省 中学校キャリア教育の手引き
○見美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店
○キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション + 課題レポートの説明
- 2回 生徒指導の意義と原理(生徒指導提要ト第1章他)、生徒指導と生活指導
- 3回 教育課程と生徒指導(生徒指導提要第2章他) その1 教科教育、「特設道徳の時間」と生徒指導
- 4回 教育課程と生徒指導 その2 学級活動・学校行事と生徒指導
- 5回 生徒指導に関する法制度等(第7章他) その1
- 6回 生徒指導と校則・体罰問題を考える。
- 7回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路指導・キャリア教育
- 8回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取組み
- 9回 今日の若者の労働実態から高校進路指導の課題を考える
- 10回 進路相談のロールプレイ実習
- 11回 ケータイ・インターネット問題と生徒指導
- 12回 性の多様性、セクシュアルマイノリティへの理解と生徒指導
- 13回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その1 少年期
- 14回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その2 思春期
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%
なお、授業の出席が2/3に満たない場合には単位の修得は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点の減点とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

生徒指導提要の該当箇所については事前に読み込んでおくこと

生徒・進路指導論【昼】

履修上の注意 /Remarks

受け身の受講では実践的な指導力を身につけることはできません。能動的な授業参加を期待します。
できるだけ、テキストの、その授業で取り上げるテーマに関するところを読んでおいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は教職課程を履修する学生の必修科目ですが、人間関係学科の学生でスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの援助専門職につきたいと考えている学生にも役立つ授業だと思います。積極的に受講してください。

キーワード /Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、様々な問題を表出する生徒への指導、進路指導

教育相談【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

1. 学校での教育相談の意義と課題、教育相談の領域(予防的・開発的教育相談、問題解決的教育相談)、他の専門職や関係諸機関との連携のあり方等についての基本的な理解を持つこと。
2. 教育相談の基本的な理念と技法(傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など)を修得すること。
3. 不登校やいじめなど、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて、検討していくこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

- 文科省編 「生徒指導提要」
- 楠 凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研 第II部

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 広木克行 「教育相談」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
- 吉田圭吾 教師のための教育相談の技術 金子書房
- 日本学校教育相談学会 学校教育相談学ハンドブック ほんの森出版
- 一丸藤太郎・菅野信夫編著 学校教育相談 ミネルヴァ書房
- 楠 凡之 「いじめと児童虐待の臨床教育学」 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 課題レポートの説明
- 2回 子どもたちの行動の背後にある「声なき声」を聴きとる。
- 3回 子どもの発達課題と教育相談
- 4回 教育相談の基本的な理念について - 受容、共感的理解、感情の明確化、開かれた質問
- 5回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - 直面化
- 7回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ体験
- 8回 子どもの「問題行動」と教育相談 その1 不登校問題
- 9回 子どもの「問題行動」と教育相談 その2 発達障害の問題
- 10回 子どもの「問題行動」と教育相談 その3 薬物問題(外部講師 北九州ダルク施設長)
- 11回 保護者理解と教育相談
- 12回 教育相談における関係諸機関との連携
- 13回 今日のいじめ問題への理解と指導 - 少年期
- 14回 今日のいじめ問題への理解と指導 - 思春期 全体のまとめ
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%

なお、授業の出席が2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- テキストの該当箇所については授業の前に読んで予習しておくこと
- 課題として出されたレポートについては必ず提出すること
- 学習した教育相談のスキルを実際に使用できるように、友人関係その他の中で練習しておくこと

教育相談【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業の遅刻、授業中の私語や内職に対しては厳しく指導し、眠っている学生も必ず起こします。
十分な自覚をもって履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業での最も中心的なテーマは、子どもの"view"の理解です。それなしの教育相談、さらに言えば教育実践は成立しないと考えています。この授業を通して、子どもの、さらには保護者の"view"を理解する力を培ってもらえたら幸いです。

キーワード /Keywords

教育相談の理念と技法、 子どもの発達課題と教育相談、 関係諸機関との連携

教育心理学【昼】

担当者名 山下 智也 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

教育心理学とは、教育活動を効果的に推進するために役立つ心理学的な知見や技術を提供する学問である。

この授業では、まず【学習】分野として、幼児、児童及び生徒の教育場面に関連する学習理論を学ぶことを通して、より効果的な教育活動を展開するための教育心理学の基礎的事項について理解する。次に【発達】分野として、子どもの発達段階について学んだ上で、教育現場での個々人に応じた教育及び発達支援について理解を深める。さらに、知的障害・発達障害のある幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についても学ぶ。また、教育心理学の知見を生かした多様な【教授法】について学ぶとともに、学級集団や子どものパーソナリティ理解、教育評価等の理解を深め、教育現場へと【応用】する術を学ぶ。

授業形態は講義とする。授業内で出される課題についてのグループディスカッション、心理学実験、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを部分的に取り入れる。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

やさしい教育心理学 第4版 鎌原 雅彦(著), 竹網 誠一郎(著) 有斐閣

教育心理学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：教育心理学が心理学の分野においてどのように発展してきたのか、また教育心理学とは何を目的とした学問なのかについて学ぶ。
- 第2回：【学習①】古典的条件づけやオペラント条件づけ等の基本的な学習理論（経験説）について教育との関係から学ぶ。
- 第3回：【学習②】洞察説やサイン・ゲシュタルト説等の基本的な学習理論（認知説）について教育との関係から学ぶ。
- 第4回：【学習③】学習における動機づけや原因帰属理論について学ぶ。また動機づけを高め、維持するための働きかけ方についても学ぶ。
- 第5回：【学習④】記憶に関する基礎理論（長期記憶、短期記憶、忘却等）を学ぶ。また、学習活動における記憶の役割や記憶の定着を促す学習方法について学ぶ。
- 第6回：【発達①】発達に及ぼす遺伝要因と環境要因の相互作用の影響に焦点を当てる。特に発達における環境要因としての教育が果たす役割について理解する。
- 第7回：【発達②】発達初期における養育者との愛着形成と初期経験の重要性について理解する。また、生涯発達の視点からピアジェの認知発達理論についても学ぶ。
- 第8回：【発達③】生涯発達の視点からエリクソンのライフサイクル論を理解し、特に思春期・青年期に関して、発達段階を踏まえた適切な学習方法について理解を深める。
- 第9回：【発達④】発達障害（自閉症スペクトラムや学習障害、注意欠陥多動性障害等）の特徴について学ぶとともに、発達障害児との関わりについて理解を深める。
- 第10回：【教授法①】発見学習や有意味受容学習等の学習指導法について、その特徴と提唱された理論的背景について学ぶ。
- 第11回：【教授法②】プログラム学習やバズ学習、ジグソー学習等の学習指導法について、その長所と短所を理解し、実践場面での使い分け方について学ぶ。
- 第12回：【応用①】学級集団の諸相を仲間集団の発達の変容や測定方法など仲間関係の側面から学ぶ。また教師のリーダーシップや教師期待効果などの教師の役割についても学ぶ。
- 第13回：【応用②】教育場面での評価の形態（絶対評価、相対評価、個人内評価等）について学び、その特徴を理解する。また子どものパーソナリティ理解についても学びを深める。
- 第14回：【応用③】知能の定義や考え方の歴史的変遷や諸理論について学ぶ。また、知能の測定と知的障害の定義及び特徴について理解する。
- 第15回：【応用④】特別な支援を必要とする子ども（知的障害・発達障害等）への対応・支援や、子どもの不適応問題（いじめ・不登校等）への対応・支援について、教育心理学的観点から学ぶ。

定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

講義でのミニレポート・・・ 30%
最終試験・・・ 70%

（出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回回の予告を行い、次回までの課題を提示する。
事後学習：学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努めることとする。授業の冒頭で、前回の授業内容についての説明を求められることがある。
（事前・事後学習として週4時間以上行うこと。）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

子どもの発達、子どもの学習、子どもへの関わり方

障害児の心理と指導【昼】

担当者名 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えて考える。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：障害児の心理と指導について
- 第2回 障害の概念とノーマライゼーション
- 第3回 人々の障害者観：障害をどう捉えるか
- 第4回 障害の重積・深化の過程と発達援助
- 第5回 視覚障害について
- 第6回 聴覚障害について
- 第7回 姿勢・運動の障害について
- 第8回 知的障害について
- 第9回 障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
- 第10回 自閉スペクトラム症について
- 第11回 注意欠如多動症について
- 第12回 限局性学習症について
- 第13回 家族支援について
- 第14回 障害児・者への地域支援の在り方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、各自予習してくる。また、授業終了後には配布プリント等を用いて各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育社会学【昼】

担当者名 /Instructor 作田 誠一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 集中
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

社会学的な視点から教育に関わる諸現象を多角的に考察することで、教育制度や教育問題（いじめや非行等）を客観的に検討し、理解することが本講のテーマである。

- ・教育社会学および社会学の理論の基礎的な知見を学び、社会や教育の常識を問い直す。
- ・教育に関わる諸問題を多角的に考察することで、新たな知見を得る。
- ・教育に関わる諸制度の変遷や社会的な変動等を踏まえて、学校社会について理解する。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「1類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。資料等については、授業中に適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- I.イリッチ,東洋・小沢周三訳,1977,『脱学校の社会』東京創元社
 P.ブルデュー・J.-C,パスロン,宮島喬訳,1991,『再生産』藤原書店
 P.ウィリス,山田潤・熊沢誠訳,1996,『ハマータウンの野郎ども』筑摩書房
 E.デュルケム,麻生誠・山村健訳,2010,『道徳教育論』講談社
 広田照幸・伊藤茂樹,2010,『教育問題はなぜまちがって語られるのか?』日本図書センター
 酒井朗・多賀太・中村高康編著,2012,『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
 第2回：教育社会学の対象と方法
 第3回：子どもの社会化と家族・学校
 第4回：学校という組織
 第5回：学校社会と生徒文化
 第6回：学校社会と教師文化
 第7回：文化的再生産論にみる学校社会
 第8回：少年非行と逸脱理論(1) -アノミー論と文化的接触理論
 第9回：少年非行と逸脱理論(2) -コンフリクト理論とラベリング論
 第10回：日本における少年非行の歴史とその特徴
 第11回：いじめ現象の構造とその特徴
 第12回：近代化とメリトクラシーの諸問題
 第13回：グローバリゼーションと教育
 第14回：情報化社会と教育
 第15回：再帰的近代化における生徒の意識とその特徴
 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験50%、日常の授業への取り組み30%、小レポート20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習に関しては、教育に関わる新聞記事や参考図書等の文献に目を通して置くこと。復習においては、授業内容についてもう一度まとめてその内容の習得に努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会化 近代教育制度 学校文化 文化的再生産 教育改革

人権教育論【昼】

担当者名 /Instructor 石嶋 静代 / カワシマシズヨ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

受講生が自らの人権感覚を養い、人権の主体として、人権を守り行動することを通じて、一人ひとりの尊厳と多様性が認められる差別のない社会づくりを目指す。自己や他者の人権を尊重する児童・生徒を育成するための人権教育実践ができるよう、指導方法について学ぶ。

①文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」を指針として、学校における人権教育の指導方法について学ぶ。②普遍的な人権課題や、「体罰」「いじめ」など、教室の中の人権課題や個別の人権課題について学ぶ。③人権教育の指導計画などプログラムの作成や発表、ロールプレイなど参加型の学習を取り入れる。

教科書 /Textbooks

特になし、資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『わたしたちの人権と責任』福岡県人権啓発情報センター
人権教育教材集『新版いのち』北九州市教育委員会
『人権教育ハンドブック』北九州市教育委員会
『教職員のためのLGBT(Q)支援ハンドブック』北九州市教育委員会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 なぜ、教師にとって人権教育は必要か - 人権とは何か、命の尊重、個性の尊重 【世界人権宣言】
- 2回 学校や社会で何が起きているか - 体罰、いじめ、児童虐待、SNS・インターネットによる人権侵害
- 3回 学校における人権教育の目的と方法 - 文部科学省の「人権教育の指導法の在り方」
- 4回 人権教育の枠組み - 教科を通した人権教育、学級運営、生徒指導、(実践例など)
- 5回 部落差別と人権 【部落差別解消推進法】
- 6回 子どもの人権 【子どもの権利条約】【児童虐待防止法】
- 7回 障がい児・者の人権 【障害者権利条約】【障害者差別解消法】【障害者虐待防止法】
- 8回 「性の多様性」と人権 【SOGI】【性自認】【性的指向】
- 9回 外国人の人権 【ヘイトスピーチ解消法】
- 10回 男性と女性の人権 【デートDV】【セクシュアル・ハラスメント】【ストーカー規制法】
- 11回 高齢者の人権 【高齢者虐待防止法】
- 12回 ホームレスの人々の人権 【ホームレス自立支援法】【社会的排除・社会的包摂】
- 13回 「私の人権教育のプログラム」(発表)
- 14回 「私の人権教育のプログラム」(発表)
- 15回 「私の人権教育のプログラム」(発表)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度、課題、テストなど、総合的に評価する。評価の割合は「テスト」(60%)、授業への参加度(10%)、課題(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示をされた文献や資料について読んでおくこと。
「私の人権教育のプログラム」発表のためにパワーポイントを作成する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生涯学習学【昼】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義では、学校教育以外の社会教育（家庭教育を含む）、それを踏まえた学校教育を含む生涯学習の基礎的内容について説明します。その意義や歴史的背景、法制度、国内外の動向について理解を深め、社会教育施設（公民館、図書館、博物館等）の役割・状況についても考えます。

「学習権宣言」で述べられた、成り行き任せの客体から、自らの歴史つくる主体へ、という意味と、それを支援する専門性という視点から、生活課題や地域課題の解決に向けた教育・学習について理解を深めます。

そのことを通して、社会教育、学習活動の支援についての基礎的能力を養います。

授業に含まれる事項は以下の通りです。生涯学習の意義、学習者の特性と学習の継続発展、生涯学習と家庭教育、生涯学習と学校教育、生涯学習と社会教育、生涯学習社会における各教育機能相互の連携と体系化、生涯学習社会の学習システム、生涯学習関連施策の動向、社会教育の意義、社会教育と社会教育行政、社会教育の内容、社会教育の方法・形態、社会教育指導者、社会教育施設の概要、学習情報提供と学習相談の意義等

なお、この科目は、社会教育主事や学芸員資格の必修、教職課程の選択であり、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所
- 雑誌『月刊 社会教育』国土社
- 雑誌『社会教育』全日本社会教育連合会
- 雑誌『月刊 公民館』全国公民館連合会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 生涯学習・社会教育の意義
- 第 2回 生涯学習ボランティア -学習への支援と学習成果の活用-
- 第 3回 社会教育の内容・方法・形態-学級・講座の企画
- 第 4回 成人教育の国際的動向 -日本の特質と学習権-
- 第 5回 社会教育と生涯学習関連の法制度
- 第 6回 社会教育の歴史と発展-生涯学習関連施策の動向
- 第 7回 社会教育行政と事業 -学習相談、サービス、学習情報の提供
- 第 8回 社会教育施設 -地域公民館
- 第 9回 公民館の実践 -社会教育と地域づくり
- 第10回 社会教育指導者と事業の連携・発展
- 第11回 社会教育施設-博物館
- 第12回 社会教育施設と生涯学習施設
- 第13回 社会教育施設-図書館
- 第14回 図書館、博物館における学習・グループ活動
- 第15回 住民の力量形成と地域づくり -家庭教育・学校教育・社会教育の連携-

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート...70% 課題レポート...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に、これまでや次回、今後の講義テーマ・内容について案内するので、その指示に従い準備してのぞむこと

履修上の注意 /Remarks

学芸員資格や社会教育主事資格として受講する場合、必修科目の基本科目としてこの授業を先に受講するか、他の関連科目とあわせて受講すると、資格科目の理解が深まります。教職に関する科目として受講する場合、学校との連携、学校教育以外の教育活動を意識して受講すると視野が広がります。専門科目として受講する場合、権利としての社会教育・生涯学習という視点で考えると、理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生涯学習学 【昼】

キーワード /Keywords

歴史と政治【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と歴史との関係性を政治学的視点から総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史について政治学的視点から総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史と政治に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史と政治
			PLS110F

授業の概要 /Course Description

明治維新（1868年）から敗戦（1945年）までの日本近代史を概説します。明治憲法の下でなぜ、政党政治が発展できたのか。それにもかかわらず、なぜ、昭和期に入ると軍部が台頭したのか。この二つの問題を中心に講義を進めていきます。日本のことを知らなくて、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『見玉源太郎』（ミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』（中央公論新社）など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 「文明国」をめざして - 憲法制定・自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第3回 明治憲法体制の成立【伊藤博文】【山県有朋】【見玉源太郎】【統帥権】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 憲法改革の頓挫【伊藤博文】【見玉源太郎】【韓国併合】
- 第8回 大正政変【桂太郎】【尾崎行雄】【21カ条要求】
- 第9回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【加藤高明】
- 第10回 二大政党の時代【浜口雄幸】【田中義一】【統帥権干犯問題】
- 第11回 軍部の台頭【満州事変】【皇道派】【統制派】
- 第12回 2・26事件【高橋是清】【永田鉄山】【「満州国」】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】【西園寺公望】【近衛新体制】
- 第14回 太平洋戦争 - 明治憲法体制の崩壊【昭和天皇】【日独伊三国軍事同盟】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。授業終了後はノートを読み直し、授業中に紹介した参考文献を読んでおくこと。各自積極的に受講して下さい。

歴史と政治【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義では歴史的事項の暗記は重視しません。歴史の流れを史料に即して論理的に理解することが大切です。

キーワード /Keywords

異文化理解の基礎【夜】

担当者名 /Instructor 杉原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			異文化理解の基礎
			ANT110F

授業の概要 /Course Description

本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。（おそらく大部分が）北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。文化に関する日常的な知識は、応用的なものばかりなので、基礎をしっかり学び、総合的な理解力、思索力を身につけることをめざす。

講義中に何回か指定するトピック（次回のテーマに関するもの）についての記述を求め、次回の講義の冒頭で、提出された内容から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進める。本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既存概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身につける手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。なお、講義に関する映画を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書を用いた課題などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

異文化理解の基礎【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 伝統的家族の多様性

第3回 近代以降の家族・親族関係の変容

第4回 親族という認識

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと伝統文化

第7回 文化相対主義の考え方

第8回 伝統文化について：構築主義と本質主義

第9回 中間テスト

第II部 文化と世界観

第10回 儀礼と世界観

第11回 宗教と近代化

第12回 さまざまな信仰心

第13回 不幸への対処としての呪術

第14回 政教分離と世俗化

第15回 中間テストの解説

※出張などの理由で休講が入った場合、内容を変更することがある。具体的なスケジュールについては初回の講義で説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト+課題など 40%、期末テスト 60% を基本に、各自の授業貢献を適宜加点する。

※中間テストを予定しているが、受講者の数によってはレポートにすることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。

・ Moodleで適宜身に課題を出します。締め切りまでに提出してください。

・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。

履修上の注意 /Remarks

・ 評価方法やテキストとなる電子ブックや講義資料の閲覧方法など重要事項は第一回の講義で説明しますので、第一回目の講義は必ず出席してください。

・ 中間テストの無断欠席者や、授業態度が目に見えて余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

・ 講義に出席していても、テストやレポートの評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義中に指示した関連文献を読むなど、復習にも真剣に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

〇〇人に××を贈るのはタブーである、といった個別具体的な異文化理解のマニュアルは、全く役に立たないわけではないですが、そのような情報は必要な時にちょっとお金を払えば入手できます。この授業では、そのような小手先の異文化理解でなく、文化が異なるとはそもそもどういうことについて、もっと根本に戻って考えたいと思います。あなたは、人間関係をマニュアルで対応しようとする人と、あなたの考えを知りたいと思う人と、どちらを友人として信頼しますか？

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係

ことばの科学 【夜】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語の様々な側面についての基本的知識を身につけ、言語学の課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語学に関する課題を発見し、言語学の手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語に関心を持ち、言語および言語学の課題についての意識を高める。
	コミュニケーション力		
			ことばの科学 LIN110F

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータをもとに、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

漆原 朗子（編著）『形態論』（朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻）。朝倉書店、2016年。
配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大津 由紀雄（編著）『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
- スティーヴン・ピンカー（著）椋田 直子（訳）『言語を生まだす本能（上）・（下）』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ことばの不思議
- 第2回 ことばの要素
- 第3回 ことばの習得
- 第4回 普遍文法と個別文法
- 第5回 ことばの単位(1)：音韻
- 第6回 連濁
- 第7回 鼻濁音
- 第8回 ことばの単位(2)：語
- 第9回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第10回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第11回 ことばの単位(3)：文
- 第12回 動詞の自他
- 第13回 日本語と英語の受動態
- 第14回 数量詞
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度・参加度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業時に指示した文献の講読
事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【夜】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会で生じる様々な問題について、総合的に理解する能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会で生じる様々な問題について、地域研究的視点からの理解を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際問題に関して、地域研究的視点から見直す能力を獲得する。
	コミュニケーション力		
			国際学入門 IRL100F

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	哲学の知識に基づいて人間と生活世界との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生活世界に関する課題を哲学的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生活世界に関する問題を哲学的に解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生活世界の哲学
			PHR110F

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、フッサール現象学からフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明しつつ、生活世界の変容とその問題点を確認したあと、21世紀の今日でもなお哲学的思索の糧となりうる「古代」の分析に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- フッサール『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』（細谷恒夫・木田元訳）、中公文庫、1995年。
 - ハイデガー『存在と時間（一～四）』（熊野純彦訳）、岩波文庫、2013年。
 - ホルクハイマー/アドルノ『啓蒙の弁証法—哲学的断想』（徳永恂訳）、岩波文庫、2007年。
 - ハンナ・アーレント『イェルサレムのアイヒマン』（大久保和郎訳）、みすず書房、1969年。
 - ハンナ・アーレント『人間の条件』（志水速雄訳）、ちくま学芸文庫、1994年。
- その他は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 近代とは何か【概説】
- 2回 近代の勃興【ガリレイと科学革命】
- 3回 生活世界の概念（1）【フッサールの科学批判】
- 4回 生活世界の概念（2）【ハイデガーの世界論】
- 5回 生活世界の変容（1）【工場労働】
- 6回 生活世界の変容（2）【近代産業社会】
- 7回 確認テスト
- 8回 生活世界の変容（3）【戦争の美学】
- 9回 生活世界の変容（4）【政治の美学】
- 10回 生活世界の変容（5）【ホロコースト】
- 11回 生活世界の変容（6）【全体主義と思考能力】
- 12回 生活世界の二元性【アーレントの近代批判】
- 13回 古代世界の公共空間（1）【古代文明と戦争】
- 14回 古代世界の公共空間（2）【アテナイ民主政】
- 15回 古代世界の公共空間（3）【古代ギリシャの公と私】

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...40% 学期末試験...60%
(第7回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。)

生活世界の哲学【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。スライドの内容はもちろんのこと、担当者が口頭で述べた内容についても、こまめにノートを取る習慣を身につけてほしい。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。

キーワード /Keywords

科学技術 生活世界 活動 ポリス

日本の防衛【夜】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	安全保障や防衛と国民との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	わが国の防衛上の諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	わが国の防衛上の課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本の防衛
			PLS111F

授業の概要 /Course Description

わが国の防衛に関する概説を通じて、その必要性や意義について理解し、防衛一般についての知識や理解に基づいて、広く安全保障一般に対する思考を促すことを目的とする。具体的には、安全保障とは何か、防衛とは何か、といった基礎概念の提示を行い、防衛の必要性や意義を論ずることになるが、これらを理解するためには、前提として、わが国が置かれた環境および目下の脅威を把握する作業（状況認識）が欠かせない。一方で、わが国は憲法9条のもと「平和主義」を標榜していることから、その防衛も様々な制約を受けることになる。従って、わが国の防衛を考えるには、そうした「制度」面での知識も欠かせない。以上を踏まえ、本講義では、日本の防衛について、現実的な視点と制度的な視点の双方を重視し、総論、各論を通じて、現状と課題の理解と思考を促す。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、『防衛ハンドブック』、その他は適宜指示する。

日本の防衛【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 安全保障(1)
安全保障を学ぶことの重要性、
- 第3回 安全保障(2)
安全保障とは何か、安全保障の目標、安全保障のスペクトラム
- 第4回 安全保障(3)
脅威とは何か、脅威の定義、安全保障の非軍事的側面と総合安全保障、国土安全保障
- 第5回 日本の安全保障(1)
安全保障の非軍事的側面 (エネルギー、資源、食糧、備蓄をめぐる安全保障)
- 第6回 日本の安全保障(2)
安全保障の軍事的側面 (国防、日米同盟、国際貢献)
- 第7回 日本の防衛(1)
防衛出動、個別的自衛権と集団的自衛権
- 第8回 日本の防衛(2)
海上警備、対領空侵犯措置、BMD対処、機雷除去、対外邦人輸送等
- 第9回 日本の防衛(3)
平和安全法制の概要
- 第10回 日本の防衛(4)
平和安全法制の論点
- 第11回 日本の脅威(1)
北朝鮮の脅威① 兵力の特徴、特殊部隊、江陵事案、わが国の防衛に対する意味、島嶼防衛とゲリコマ対処
- 第12回 日本の脅威(2)
北朝鮮の脅威② 弾道ミサイル及び大量破壊兵器
- 第13回 日本の脅威(3)
中国海空軍の脅威① 中国軍の不透明性、軍事態勢、海軍の動向
- 第14回 日本の脅威(4)
中国海空軍の脅威② 中国軍の戦略と行動
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読み、安全保障・防衛関連の記事をチェックする習慣を身に着けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

安全保障や防衛問題に関心があれば、誰でも履修してみてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

併せて特講 (テロリズム論) を履修すると、より体系的に理解できる。

キーワード /Keywords

生命と環境【夜】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	多様な生命とそれを生み出した環境についての基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命およびそれを生み出した環境について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生命と環境
			BI0100F

授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。そもそも生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、(1)宇宙と生命がどのような物質からできているか、(2)生物の多様性と影響を与えてきた環境とはどのようなものか、(3)進化の原動力となった突然変異とは何かなどについて広く学び、生命と環境に関する身近な課題を自ら発見・解決するための基礎的な力を身につける。また、(4)生命や宇宙がこれまでどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方の大切さについて理解することを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2015年(羊土社)3024円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- 宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)903円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|----------------------------|-----------------|
| 1回 | ガイダンス(日高・中尾) | |
| 2回 | 自然科学の基礎(1)ミクロとマクロ(日高・中尾) | 【物質の単位】【自然科学】 |
| 3回 | 自然科学の基礎(2)宇宙で生まれた物質(中尾) | 【元素】【原子】【超新星爆発】 |
| 4回 | 自然科学の基礎(3)生命と分子(日高) | 【DNA】【タンパク質】 |
| 5回 | 生物の多様性(1)生物の分類と系統(日高) | 【種】【学名】【系統樹】 |
| 6回 | 生物の多様性(2)単細胞生物と多細胞生物(日高) | 【細胞膜】【共生説】 |
| 7回 | 生物の多様性(3)生態系と進化(日高) | 【食物連鎖】【絶滅】【進化】 |
| 8回 | 遺伝子の多様性(1)遺伝子の名前(日高) | 【突然変異】【遺伝学】 |
| 9回 | 遺伝子の多様性(2)多様性を生む生殖(日高) | 【有性生殖】【減数分裂】 |
| 10回 | 遺伝子の多様性(3)多様な生命の紹介(外部講師) | |
| 11回 | 科学的な方法とは(1)科学と疑似科学(日高・中尾) | 【血液型】【星座】 |
| 12回 | 科学的な方法とは(2)太陽と地球の環境(中尾) | 【太陽活動】【地球温暖化問題】 |
| 13回 | 科学的な方法とは(3)人類の起源を調べるには(日高) | 【ミトコンドリア】 |
| 14回 | 関連ビデオ鑑賞(日高) | |
| 15回 | 質疑応答とまとめ(日高) | |

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加(課題提出を含む)100%

生命と環境 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中の課題に沿って学習し、Moodle (e-learningシステム) で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

・ 高校で生物を履修していない者は教科書または参考書入手し、授業に備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高（生物担当）および中尾（物理担当）による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード /Keywords

情報社会への招待【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			情報社会への招待
			INF100F

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、情報社会を総合的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎として、変化し続ける情報技術と正しくつき合って適応できる能力を身につけることを目指します。

また、この授業で学ぶICT（情報通信技術）の基礎は、国連が定めた「SDGs」（持続可能な開発目標）のうち、「4．質の高い教育をみんなに」「8．働きがいも経済成長も」「9．産業と技術革新の基盤をつくろう」「10．人や国の不平等をなくそう」「17．パートナーシップで目標を達成しよう」に関連していると考えています。授業を通じて、これらの目標についても考えを深めてみてください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』（浅羽 修丈他著）FOM出版

情報社会への招待【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル, 炎上, 個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光, 音, 匂い, 味, 触覚, 電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数, ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置, 出力装置, 解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU, メモリ, 記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS, 拡張子とアプリケーション, 文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換, パケット交換, LAN, IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名, DNS, サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン, 位置情報, GPS, GIS, プライバシ】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス, スパイウェア, 不正アクセス, 詐欺, なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信, ファイアウォール, クッキー, セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア, 防犯カメラ, ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン, Wikipedia, フリーミアム, クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権, コンテンツのデジタル化, クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に随時提示する課題 ... 75%
 日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」を使って、授業の資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、授業中に配布した課題プリントを持ち帰って、次回の授業時に提出したり、Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます（必要な学習時間の目安は予習60分、復習60分）。その他、ICTに関するニュースなどの世の中の動きを注視して情報収集することをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会, ネットワーク, セキュリティ

環境問題概論 【夜】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と「自然・環境」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題の根本的な省察、総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	各自が所属する社会が抱える環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
		環境問題概論 ENV100F	

授業の概要 /Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。本授業で基本的な環境に対する見方・考え方を身に付ける事によって、その後、環境問題に対し自立的に課題を発見し分析、解決することができる知識の充足を目指す。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション -環境問題を見る視点について-
- 第2回 資源の在り方を問う
- 第3回 日本の捕鯨の行方
- 第4回 日本人の自然観
- 第5回 環境と経済の関係性
- 第6回 山を管理するとは？
- 第7回 環境問題の原因と焼畑農業
- 第8回 里山の開発① -なぜ里山の宅地開発問題が生じるのか？-
- 第9回 里山の開発② -映画監督 高畑勲氏からのメッセージ-
- 第10回 里山の開発③ -動物視点で見る真の共生の形-
- 第11回 「農業」と SATOYAMA イニシアティブ① -農業の多面的機能-
- 第12回 「農業」と SATOYAMA イニシアティブ② -「共生」社会の在り方-
- 第13回 復習
- 第14回 レポート試験の実施 (※レポート試験は日程が前後する可能性があります)
- 第15回 総括 -おわりに-

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発言の回数やその内容 : 50%
レポート試験 : 50%

環境問題概論 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本授業は、最終試験での成績評価をするウエイトが高くなっている。そのため、各自で毎回の授業後に最終試験に向けた復習をすることが求められる。また、授業で使用するスライド資料は、学習支援フォルダに掲載しているため、事前の予習も試みてもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

本授業は、夜間授業のため少人数授業となる可能性が高い。そのため、一方的な講義型の授業形態ではなく、双方向の対話型授業にて実施する。授業中に発言を求める機会が多く存在することを理解して臨んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学(食物連鎖等)的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

キーワード /Keywords

現代人のこころ【夜】

担当者名 /Instructor 福田 恭介 / Kyosuke Fuikuda / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	心理学についての教養的基礎知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	心理学的観点から課題の発見、解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の諸問題を心理学的観点から解決するために学習を続けることができる。
	コミュニケーション力		
			現代人のこころ
			PSY003F

授業の概要 /Course Description

現代を生きるわれわれの「こころ」について考えていきます。「こころ」というと、通常は、笑ったり、悲しんだり、怒ったりといったことを引き起こしているものと思いがちです。「こころ」はそれだけではありません。目の前のリンゴを見て指さすこと、これも「こころ」が引き起こしているものです。なぜなら、目の網膜に映ったリンゴを目の中ではなく外にあるものと判断しているからです。さらに、リンゴは真っ赤で、噛むと口中に果汁が染みわたり、美味しそうだと思うこと、これも「こころ」の一部です。心理学の研究者は、さまざまな側面から「こころ」についてアプローチを行っています。その上で、「こころ」の問題で苦しさを抱えている人たちを支えていこうとするのです。この授業では、さまざまな側面から見た「こころ」がこんなにも違って見えるのかについて考えていきます。

教科書 /Textbooks

印刷物は配布しません。学習支援フォルダにアップしますので、講義前にダウンロードしておいてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.心理学とは：さまざまな「こころ」の側面
- 2.知覚1：目の前に見えることも「こころ」の一部である
- 3.知覚2：色はなぜ見える？
- 4.知覚3：形はなぜ見える？
- 5.知覚4：どうやって奥行きや動きを判断している？
- 6.目の動きから「こころ」を探る。
- 7.まばたきから「こころ」を探る。
- 8.注意1：どうしてわれわれは騒がしい中でも会話ができるのか？
- 9.注意2：意外と見落としやすい注意の機能
- 10.記憶1：数秒間の記憶によってストーリーは作られる
- 11.記憶2：昔の記憶は忘れることはない
- 12.発達1：「こころ」はどのようにして芽生えてくる？
- 13.発達2：「こころ」はどのようにして人とやりとりできる？
- 14.発達3：発達の問題に苦手さを抱えるのはなぜ？
- 15.まとめ：いろいろな「こころ」の側面

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中のコメント：25点 レポート：25点 期末試験：50点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示します。

現代人のこころ【夜】

履修上の注意 /Remarks

授業中に近くの人と話し合ったり，近くの人同士で観察し合ったり，ということを行います。
授業中にコメント（認識を新たにした点，疑問点，コメント）を書いてもらいます。
指定した図書についての要約をレポートとして提出してもらいます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に積極的に参加できるようにいろいろな仕掛けを用意したいと思います。

キーワード /Keywords

心理学，色知覚，奥行き知覚，形の知覚，眼球運動，瞳孔運動，まばたき，選択的注意，注意の見落とし，ワーキングメモリ，長期記憶，微笑，指さし，共同注意，心の理論，発達障害

思想と現代【夜】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の人間と思想との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の思想について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の思想に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		思想と現代	PHR004F

授業の概要 /Course Description

サブタイトルを「教養としてのユダヤ思想」と題し、主に19世紀末から20世紀にかけて登場したエポックメイキングなユダヤ文化と思想との関わりを紹介する。まずは「ユダヤ人」という存在に対する、フェアで中立的な考え方を身に付けてもらうべく、その来歴と特徴について詳しく解説した後、心理療法・文学・倫理・映画などのジャンルで革新的な業績を残した現代ユダヤ人について、若干の作品分析を通しながらユダヤ性の広がりと豊かさを確認する。以上の考察をヒントにしつつ、最終的には現代の人間と思想との関係について複眼的な思索を可能にすることが、本授業の狙いである。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 沼野充義編『ユダヤ学のすべて』、新書館、2009年。
 - 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』、講談社現代新書、2002年。
 - 合田正人『入門 ユダヤ思想』、ちくま新書、2017年。
- その他の基本文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 ユダヤ人の原点【概説】
- 3回 ユダヤ人の歴史(1)【民族の起源】
- 4回 ユダヤ人の歴史(2)【古代から中世へ】
- 5回 ユダヤ人の歴史(3)【中世から近代へ】
- 6回 ユダヤ人の歴史(4)【近代から現代へ】
- 7回 補足回【紛争と現代】
- 8回 精神分析の思想(1)【概説】
- 9回 精神分析の思想(2)【一神教の精神】
- 10回 文学の思想【カフカ】
- 11回 音楽の思想【シェーンベルク】
- 12回 心理療法の思想【フロイト】
- 13回 倫理の思想【ヨナス】
- 14回 映画の思想【ハリウッドとユダヤ人・前半】
- 15回 映画の思想【ハリウッドとユダヤ人・後半】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

思想と現代【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

履修上の注意 /Remarks

昼間に実施される同名授業（「思想と現代」）とは評価法がまったく異なるので、登録の際に混同しないよう注意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民主主義とは何か【夜】

担当者名 /Instructor 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と民主主義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	民主主義について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			民主主義とは何か
			PLS002F

授業の概要 /Course Description

民主主義 / デモクラシー / 民主制とは何か。まずそれは単に選挙で物事を決めるだけの事ではない。選挙は独裁国家でも実施されている。またそれは善なる無謬のイズムでもない。近現代において多くの抑圧や圧政は「民意」や「国民の意思」の美名のもとに執行されてきた（そして「みんなのためだから」「多数決だから」の名のもとに行われる他者への抑圧は我々の日常でも見られる行為である）。民主主義とは強いていえば決定を権威づける一つのメカニズムに過ぎず、社会的実体の一類型でなければ道徳的目的でもない。

では近代的な自由民主主義はいかにして民主主義の害悪を最小化しつつ実際の決定メカニズムとして運用してきたのか。本講義では、理念とデータの両面から検討する。様々な民主制がある中で、どのような状況においてその決定の品質が保たれたり、そもそも政治的安定性を維持できるのか、様々な先行研究に基づいて講義・検討する。近年の研究は、理念的には優れた制度とされていたものが実際には劣った現実をもたらしていた（理念とデータにギャップがあった）事なども示している。また、民主主義が何かを知るためには民主主義ではないものが何なのかも知らなければならない。本講義の射程は非民主主義体制にも及ぶ。これらを知ることを通じてこそ、我々は多様な人々の間において適切な集会的決定を下すことが可能となるはずだ。

教科書 /Textbooks

指定教科書はない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マクファーソン, C.B. (田口訳 1978) 『自由民主主義は生き残れるか』岩波新書
- 待鳥聡史 (2015) 『代議制民主主義-「民意」と「政治家」を問い直す』中公新書
- 坂井豊貴 (2015) 『多数決を疑う-社会的選択理論とは何か』岩波新書
- シュンペーター, J (大野訳 2016) 『資本主義, 社会主義, 民主主義』日経BP
- ダール, R. (高島・前田訳) 『ポリアーキー』岩波文庫
- 杉田敦 (2001) 『デモクラシーの論じ方-論争の政治』筑摩書房
- 久保慶一, 末近浩太, 高橋百合子 (2016) 『比較政治学の考え方』有斐閣

民主主義とは何か【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション
2. 基礎的概念整理【民主制】【独裁制】【共和制】【君主制】
3. 近代的分類法【防禦民主主義】【均衡民主主義】【人民民主主義】
4. 民主主義の暴走【立憲主義】【司法独立】【指揮権】
5. 実証的民主体制論【ポリアーキー】【ダール】
6. デモクラシーの指標化【PolityIV】【Freedom House】
7. 民主制の多様性とその生存・品質 1：制度【議会制】【大統領制】
8. 民主制の多様性とその生存・品質 2：選挙【SMD】【PR】
9. 民主制の多様性とその生存・品質 3：運用【ウエストミンスター型】【コンセンサス型】
10. 民主制の多様性とその生存・品質 4：社会【コンソリドーション・モラリティー】【民族問題】
11. 公正な意思決定の不可能性【社会的選択】【選挙制度】【サイクル】
12. 民主制と独裁制の間で【経済成長】【社会厚生】
13. 権威主義体制とその分類【軍事独裁】【政党独裁】【個人・君主独裁】
14. 権威主義体制と選挙・政党【選挙の独裁強化機能】
15. 民主制⇄独裁制の体制変動【民主化】【独裁化】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験:100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回において参考文献を授業スライドに提示する。復習やさらなる学習のためにそれを用いる事。また、各回の最後に次回授業のキーワードや前提知識となる単語を示すので、それらについては事前予習してくる事。

履修上の注意 /Remarks

【重要】2019年度より本科目の担当者が代わっております。履修に際しては本シラバスの情報のみを参考にしてください。また、本シラバスをご覧になった学生諸君は、本科目の履修を検討している学友とも本情報の共有に努めてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教養科目ですので込み入った法学・政治学の知識は必要ありません（それがない人を想定して授業を行います）。ただし、高校卒業程度の英語・世界史、中学程度の数学の知見は必要です。これらについては授業において逐一補足しませんので、各自で能力を維持してください。

キーワード /Keywords

社会調査【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解するため、社会調査の知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル	●	社会的事象に関する量的・質的調査の基本的な考え方を身につける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会的な課題の発見、データに基づく解読、解決策の提示を可能とするための方法を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が所属する社会における課題を自ら発見し、解決策を提示するための調査方法を継続して考える。
	コミュニケーション力		
			社会調査
			SOC003F

授業の概要 /Course Description

社会調査（量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。
社会調査の目的は、さまざまな社会現象の中から、社会にとって「意味がある」と思われる現象を見つけ出し、「どうなっているのか」「なぜそうなるのか」を、データに基づいて解釈することにある。この授業では、
(1) 意味のある「問い」をたてること
(2) その「問い」への「答え」を導くための手順（論証戦略）をたてること
(3) 論証戦略に基づいて適切な調査票を作成すること
(4) データを統計的に処理すること
(5) データを解釈すること
について学ぶ。

教科書 /Textbooks

使用しない。（適宜、資料・プリントを配布する。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004、¥2592
入門・社会調査法（第3版）：2ステップで基礎から学ぶ、有斐閣、2017、¥2700
- 『ガイドブック社会調査（第2版）』、森岡清志編著、日本評論社、2007、¥3132

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
 - 第2回 社会調査の種類と倫理
 - 第3回 調査と研究の進め方
 - 第4回 社会調査を企画する
 - 第5回 ワーディング1【質問文を作る】
 - 第6回 ワーディング2【選択肢を作る】
 - 第7回 調査票の構成
 - 第8回 サンプリングの考え方と方法
 - 第9回 実査とデータファイルの作成
 - 第10回 度数分布、代表値、分散と標準偏差
 - 第11回 検定の考え方
 - 第12回 平均値の差の検定
 - 第13回 変数間の関連1【クロス表】
 - 第14回 変数間の関連2【相関係数】
- まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 30% 日常の授業への取り組み... 10% レポート... 60%
(総合的に判断する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自主的な学習を行い、授業の内容を反復すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。)
課題がある場合、指定された期限までに提出すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通して「実証研究の考え方」を学んで欲しいと思います。

キーワード /Keywords

量的調査、質的調査、解釈、論証戦略、記述、説明、基本仮説、作業仮説、ワーディング、ランダムサンプリング、度数分布、検定、推定、クロス表、相関係数

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業と社会【夜】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	企業と社会に関する諸問題を歴史、思想・文化との関連で理解するための基本的な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史、思想・文化等の総合的理解を通して、企業と社会に関する諸問題を発見し、主体的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自の生活世界から企業と社会に関する諸問題に常に興味を持ち、直面する課題を発見し、解決する力を継続的に涵養することができる。
	コミュニケーション力		
			企業と社会
			BUS001F

授業の概要 /Course Description

企業は、現代社会においてそれなしでは成り立たない存在です。諸個人は一生を通じて何らかの形で企業と関わっていかざるをえません。企業を経営するとは、企業の経営者だけの問題ではなく、企業に関わるすべての人間にとっての問題です。この授業の狙いは、社会の中で企業がどのような原理で存在し、これまで歴史的にどのような側面を有してきたのか、また、逆に、そのような企業が社会に対してどのような影響を与えているか、現代社会においてこれからの企業はどのように経営されていくべきかを考えることにあります。

教科書 /Textbooks

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論 第4版』有斐閣アルマ、2018年、2268円（税込）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三戸公『会社ってなんだ』文真堂、1991年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス 【企業観の変遷】【6つの企業観】
- 第2回企業と「豊かな社会」【現代における財・サービスの豊かさ】
- 第3回「株式会社」の仕組み① 【株式会社の歴史】【株式会社の機能と構造】
- 第4回「株式会社」の仕組み② 【株式会社の機能と構造】【上場と非上場】
- 第5回社会における「大企業」の意味① 【大企業とは何か】【所有と支配】
- 第6回社会における「大企業」の意味② 【商業社会と産業社会】【企業の性格の変化】
- 第7回社会における「大企業」の意味③ 【官僚制】【科学的管理の展開】
- 第8回社会における「大企業」の意味④ 【環境問題】【随伴の結果】
- 第9回社会における「大企業」の意味⑤ 【コーポレート・ガバナンス】【企業倫理】
- 第10回「家」としての日本企業① 人事における日本企業特有の現象【日本企業と従業員】【契約型と所属型】
- 第11回「家」としての日本企業② 日本企業特有の組織原理【階級制】【能力主義】【企業別組合】
- 第12回「家」としての日本企業③ 日本企業の行動様式【日米の株式会社の違い】【企業結合様式の独自性】
- 第13回「家」としての日本企業④ 「家」の概念 【日本企業の独自性】【家の論理】
- 第14回「家」としての日本企業⑤ 今後の日本の経営 【原理と構造】【家社会】
- 第15回総括

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・70% レポート・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を読んでおいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習しておいてください。また、適宜、レポート課題を出します。

履修上の注意 /Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

財・サービス 株式会社 大企業 家の論理 社会的器官

現代の国際情勢【夜】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科, 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
大平 剛 / 国際関係学科, 白石 麻保 / 中国学科
松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科, 寺田 真一郎 / Shinichiro Terada / 英米学科
アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際情勢について理解を深める。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会における問題を認識した上で、分析を行い、解決方法を考察する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の国際情勢に対して、継続的な関心を持ち、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代の国際情勢 IRL003F

授業の概要 /Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解きます。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進めます。

教科書 /Textbooks

使用しない。必要に応じてレジュメと資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 下野 日中台関係：ボーダーエリア
- 第3回 下野 日中台関係：国家の枠組みと社会
- 第4回 ウェイン The Rle of Public Spaces in Cities
- 第5回 大平 変容するアジア情勢（1）中国とインドの台頭
- 第6回 大平 変容するアジア情勢（2）日本の防衛力強化
- 第7回 大平 変容するアジア情勢（3）開発協力における熾烈な争い
- 第8回 金 日本の「戦後」の終わり
- 第9回 金 日本の対外関係の諸問題
- 第10回 金 戦後の国体、永続敗戦
- 第11回 白石 中国の持続的発展の可能性：経済成長・SNA・投資
- 第12回 寺田 インターネットを巡る国際情勢
- 第13回 松田 日本総合商社と海外インフラプロジェクト【世銀保証、IFC、Bローン、商社】
- 第14回 下野 台湾：歴史
- 第15回 下野 台湾：社会

※都合により変更もあり得る。変更がある場合は授業で指示する。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト（7～14回）100% ※小テストは原則として各回実施しますが、詳細は各担当者が指示します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の担当者の指示に従ってください。授業終了後には復習を行ってください。

現代の国際情勢【夜】

履修上の注意 /Remarks

この授業は、複数の教員が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業です。授業テーマと担当者については初回授業で紹介しします。
授業の最後に小テストを受けます。授業中は集中して聞き、質問があればその回のうちに出してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では今の国際情勢を様々な角度から取り上げていきます。授業を通じて自分の視野を広げていくきっかけにしてください。

キーワード /Keywords

開発と統治【夜】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	海外及び国内地域社会のガバナンス（協治）について総合的理解が可能となる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国内外のガバナンス（協治）の在り方を通しての課題を発見でき、その課題を解決するための方策が学習できる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	大学卒業後、地域社会で生活するにあたって積極的に社会作りに関わり、生涯学習としてその実践活動に携わることが可能となる。
	コミュニケーション力		
			開発と統治
			IRL002F

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス（協治）」の意味を世界各国(ミャンマー、韓国、米国と日本が対象国)や日本の地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループワークを通じて解答してもらいます。

以上の概要を通して、開発とは何か、そこにおけるガバナンス概念の知識を吸収すると同時に理解し、地域においては課題を発見・理解し、自らもガバナンスの一翼を担えるような能力を付けてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

その都度、資料を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

*『○○を知るための○章』シリーズ(明石書店)、特にミャンマー、韓国を参照のこと。

*大原悦子『フードバンクという挑戦～貧困と飽食のあいだで』現代岩波文庫、2016年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	「開発と統治」をはじめめるにあたって		担当：三宅
第2回	民主化問題を考える視座(1)	【民主化問題】	担当：伊野
第3回	民主化問題を考える視座(2)		担当：伊野
第4回	理論と現実～ミャンマーの民主化をめぐる	【ミャンマー】	担当：伊野
第5回	韓国の民主化とガバナンスの形成過程	【韓国】	担当：申
第6回	米国におけるガバナンスと環境～オバマ政権とトランプ政権に焦点をあて	【米国】	担当：申
第7回	エネルギー問題を通してのガバナンス形成	【エネルギー問題】	担当：申
第8回	世界と日本のフードバンク	【フードバンク】	担当：原田正樹・三宅
第9回	NPOフードバンク北九州ライフアゲインとは？	【ライフアゲイン】	担当：原田・三宅
第10回	子ども食堂「もがるか」の運営と人々	【子ども食堂】	担当：原田・三宅
第11回	フードバンク運動に関わる学生の取組みと討論	【大学生】	担当：原田・三宅
第12回	グループワーク(アクティビティ作り)を通じたガバナンス概念の把握	【グループワーク】	担当：三宅
第13回	日本の子ども会を取り巻く環境	【子ども会】	担当：三宅
第14回	教員の「開発と統治」の概念提示を考える		担当三宅・伊野・申
第15回	まとめ(グループ・ディスカッション)		

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度...30% 小課題の提出...20% 試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習はガバナンスに関する情報を収集し、日ごろから自らのガバナンスの概念を考えておいてください。事後学習はその都度授業で習ったガバナンスの事例をノートに整理しておいてください。最後の授業のグループワークで使います。

開発と統治【夜】

履修上の注意 /Remarks

各授業に際して、日頃から世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報を得ていること。また、時々、小課題を出すので、授業で習ったこと以外に日頃からの情報を書き込み、提出すること。試験の結果が良くても、出席をあまりしなかった受講生はD判定になる可能性が大きいと思ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。担当教員は様々な国々を知り尽くしています。できるだけ、海外に出かけ、また、本をどんどん読んでください。

キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー フードバンク 貧困 韓国 米国 地域社会 子ども会 グループワーク

国際紛争と国連【夜】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際紛争に対する国連の役割を考察することにより、人間と国際社会の関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際紛争と国連に関する諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	国際紛争と国連に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
			国際紛争と国連
			IRL005F

授業の概要 /Course Description

国際紛争に対し国連がどのような対応を取ってきているのかについて、法的・制度的枠組みや実際の活動の紹介・分析を通じ、学習することで、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題についての認識を深めてもらうことを目指します。

まずは国際紛争とは何か、時間経過軸による紛争の分類（Phase化）の議論を紹介し、紛争の各段階における国連の対応の必要性を認識してもらいます。次に、その分析軸を基に、総論として、国連における国際の平和と安全のための活動の基本的枠組みと、そこでの加盟国が果たすべき役割を認識してもらった上で、各論として、①平和的解決の手法を駆使し平和を創出する段階、②停戦合意後の暫定的な平和を維持する段階、③政治的意思の欠如から平和を強制せざるを得ない段階、④紛争後の平和を持続・定着させる段階についてそれぞれ取り上げ、事例の紹介も交えながら、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題について、学んでもらいます。

教科書 /Textbooks

テキストは設定しません。
講義の理解に必要な参考資料を、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 財団法人日本国際連合協会『わかりやすい国連の活動と世界（改訂版）』（三修社・2007）○
その他の参考文献は、適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 国連情報へのアクセス方法 【ODS】【UNBISnet】【UN Journal】
- 第3回 国連を知る①【国連 1945-1970's】【国連の目的】【国連の組織構造】
- 第4回 国連を知る②【国連 1980's-】【冷戦後の国連】
- 第5回 紛争を知る 【難民】【発生国】【受入国】
- 第6回 国際紛争を見る分析軸 【DisputeとConflict】【国際紛争の定義】【紛争のPhase】
- 第7回 国連による平和の創出①：紛争処理のメカニズム 【国連憲章第6章】【総会】【安全保障理事会】
- 第8回 国連による平和の創出②：平和創造 【事務総長による周旋】【The Team】
- 第9回 国連による平和の維持①：国連平和維持活動（PKO）の創設と展開 【6章半の活動】【PKO原則】
- 第10回 国連による平和の維持②：国連平和維持活動（PKO）の深化 【多機能化】【キャップストーン報告】
- 第11回 国連による平和の強制①：決定プロセス 【平和に対する脅威等の認定】【強制措置】
- 第12回 国連による平和の強制②：実施上の課題 【経済制裁】【多国籍軍】【地域的機関】
- 第13回 国連による持続的平和の定着 【平和構築】【平和構築委員会】
- 第14回 国連による国際の平和と安全のための活動と加盟国 【財政的貢献】【人的貢献】
- 第15回 まとめ

国際紛争と国連【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題等への対応および学期末試験で評価します。
課題等への対応...30% 学期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意 /Remarks

毎回、予習を前提とした講義を展開します。
指示された課題に誠実に取り組んでから、授業に臨むようにしてください。
詳細は、北方ムードルの情報で確認してください。
成績評価において、授業を通じ提出を求められる課題への対応の比率が高く設定されています。
そのため単位取得のためには、提出を求められた課題に対し、誠実に取り組むことが必要となりますので、受講の決定の際には、この点に注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。国連の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際問題は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際紛争】 【国連】 【平和創出】 【平和維持】 【平和強制】 【平和構築】

メンタル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルス I
			PSY001F

授業の概要 /Course Description

授業のねらい、テーマ

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルなタフさがなければ生活人としての活動は難しい世相である。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされ、ストレスに関連した多くの疾病に見舞われる危険も多くなっている。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。

本講義では一般的な心理学やアドラー心理学や森田療法を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を多角的かつ発達的な視点からとらえ日々の生活と人生を充実させるためのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。またメンタルに関連するソーシャルヘルス（社会的健康）にも触れる。

教科書 /Textbooks

テキスト 「こころと人生」中島俊介 編著 ナカニシヤ出版 2017

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「森田療法」 岩井 寛 著 講談社現代新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール

- 第1回 メンタルヘルスとは……メンタルヘルスの歴史・最近の推移・受講上の注意
- 第2回 心の健康と人生……人間の発達・社会と心理学・生涯発達の理論
- 第3回 胎児・乳幼児のこころの健康……胎児の能力・誕生の危機・乳児の課題
- 第4回 幼児期・学童期の心の健康……自律と積極性・しつけ・勤勉性と劣等感
- 第5回 思春期の心理学……思春期の特徴とその対応。適応の困難さと向き合う
- 第6回 青年期……同一性(アイデンティティ)の心理……青年期のこころの病
- 第7回 若い成人期……親密性の発達。働く上でのメンタルヘルス
- 第8回 ライフスタイル診断とこころの健康……うつ病・神経症など
- 第9回 発達障害についての理解 1…ADHD・LD・アスペルガーなどの基本的知識
- 第10回 発達障害についての理解 2…実際の対応の仕方、留意点
- 第11回 成人期の心の健康……生きがい・職場の心理学
- 第12回 老年期の心の健康……高齢者と認知症の心理
- 第13回 平和と暴力 1……社会的健康を阻害する暴力
- 第14回 平和と暴力 2……人権と対話の文化を
- 第15回 講義のまとめ……講義のまとめ・ふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

①毎回の授業への参加熱意と態度(40%)②定期試験(60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

心理学一般に関する様々な知識があれば理解は深まりやすい。日頃の生活の中で心理学や社会学、また科学的手法に関わるテーマについて自分の興味を深めていくような態度を習慣にすることが大切だと考える。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に対する質問や感想を小片紙に書いてもらうので積極的な姿勢で毎回の授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルス I	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

そこで、本授業では、自分自身の健康について身体的・精神的・社会的側面から考え（講義）、年齢、性別、障がいの有無にかかわらず、誰でもできる運動を取り入れ（実習）、生涯にわたる健康の自己管理能力や社会で生きる自律的行動力を養うことを目指していく。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 (講義) 運動と身体の健康
- 3回 (実習) 仲間づくりを意図したウォーミングアップ
- 4回 (実習) 運動強度測定
- 5回 (講義) 運動の効果(精神的側面)
- 6回 (実習) ウェイトトレーニングのやり方
- 7回 (実習) 体脂肪を減らすトレーニング
- 8回 (講義) 運動の効果(身体的側面)
- 9回 (実習) レクリエーションスポーツ①(車椅子ソフトボール)
- 10回 (実習) レクリエーションスポーツ②(ベタンク)
- 11回 (実習) レクリエーションスポーツ③(キンボール)
- 12回 (実習) レクリエーションスポーツ④(アルティメット)
- 13回 (講義) 運動の効果(社会的側面)
- 14回 これからのスポーツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

運動ができる（得意）、できない（不得意）などは一切関係ありません。楽しく気軽に受講できると思います。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

担当者名 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト②

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

データ処理【夜】

担当者名 佐藤 貴之 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		データ処理	INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

阿部香織「情報活用 表計算 Excel 2016対応」日経BP社、2016年、1200円（税抜）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】【北方Moodle】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

データ処理【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 50%、
積極的な授業参加 (タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の内容を読んでおくこと。また、北方Moodleからアクセスできる表計算ソフトの使い方に関する動画教材は、パソコンはもちろんのこと、スマートフォン等の携帯端末からも視聴できる。積極的に視聴し、事前学習を行っておくこと。
授業終了後にはパソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。また、北方Moodleの動画教材も活用すること。
タイピングは、普段から自主練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作 (キーボードでの文字入力、マウス操作など) ができるようになっておくと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

情報表現【夜】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 /Credits 2単位 /Semester 1学期 / 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。
		情報表現	INF230F

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける。

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

情報表現【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題... 90%、積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後には、必要に応じてパソコン自習室や自宅のパソコン等を用いて授業内容を反復すること。授業で提示された課題や演習に取り組む際は、授業時間外を積極的に活用し、特に、グループ活動においては、グループメンバーとよく議論を重ねること。

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。

情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによるアクティブ・ラーニングを導入している。グループのメンバーで互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

国際金融論I 【夜】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際金融の経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	国際金融に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際金融に関する諸問題を発見することができる。
	生涯学習力	●	身の回りの国際金融に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際金融論 I

ECN363M

授業の概要 /Course Description

現代の国際金融システムの概要を知ることが目的とする。新聞・ニュースの国際金融関係の報道内容を理解できるとともに、解説書やテキストや研究書を理解できるレベルを目標とする。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川本明人 (2012) 『外国為替・国際金融入門』中央経済社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【】はキーワード。
- 1回 円高・円安とは 【クロスレート】
 - 2回 為替レートによる換算 【経常収支】 【資本収支】
 - 3回 国際収支表 【フロー統計】
 - 4回 国際収支表における複式簿記の原理 【貸借対照表】
 - 5回 貿易取引と国際決済 【並為替と逆為替】
 - 6回 貿易取引と国際決済 【信用状】 【荷為替信用制度】
 - 7回 グローバル化と直接投資 【直接投資】
 - 8回 国際証券投資と外貨準備 【証券投資】 【外貨準備】
 - 9回 為替レートの変動 【購買力平価】 【アセットアプローチ】
 - 10回 為替レートの変動 【為替リスク】 【マーシャル・ラーナー条件】
 - 11回 国際収支を左右するもの 【ISバランス】
 - 12回 国際収支を左右するもの 【キャリートレード】
 - 13回 実質為替レートと実効為替レート 【幾何平均】
 - 14回 パラッサ=サミュエルソン効果 【中所得国の罫】
 - 15回 まとめと総復習 【24時間ディーリング】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プリントの中の各授業内容に該当する箇所を授業の前後に各自講読すること。さらに、専門用語が多く出てくるので、インターネットなどで用語検索すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者の個人ホームページから、授業のプリントをダウンロードすること (URLなどは最初の授業で説明する)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際金融論II 【夜】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際金融の経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	国際金融に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際金融の諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの国際金融の諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際金融論II

ECN364M

授業の概要 /Course Description

現代の国際金融システムの概要を知ることが目的とする。新聞・ニュースの国際金融関係の報道内容を理解できるとともに、解説書やテキストや専門書を理解できるレベルを目標とする。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川本明人 (2012) 『外国為替・国際金融入門』中央経済社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【】はキーワード。
- 1回 基軸通貨と国際通貨体制 【為替媒介通貨】
 - 2回 各種の国際通貨体制 【固定相場制】 【変動相場制】
 - 3回 為替リスクと為替持高・資金調整 【スクエア】 【カバー取引】
 - 4回 デリバティブ取引 【先渡し】 【先物】 【オプション】 【スワップ】
 - 5回 国際金融市場と国際資本移動 【オフショア市場】 【キャリー取引】
 - 6回 欧州通貨統合の目的と経緯 【ユーロ】 【ERM】
 - 7回 欧州通貨統合の構造的問題 【安定成長協定】
 - 8回 途上国の発展と国際資金フロー 【G20】
 - 9回 国際的な金融危機の種類 【資本収支型の危機】
 - 10回 頻発する通貨危機・国際金融危機 【サブプライムローン危機】
 - 11回 頻発する通貨危機・国際金融危機 【世界金融危機】
 - 12回 デフォルトか救済か 【IMFコンディショナリティー】
 - 13回 国際金融危機の予防 【自己資本比率規制】 【ブルーデンス政策】
 - 14回 国際金融危機の予防 【流動性規制】 【ボルカールール】
 - 15回 まとめと総復習-望ましい国際金融システムとは

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プリントの中の各授業内容に該当する箇所を授業の前後に講読すること。また、専門用語が多く出てくるので、日ごろからインターネットなどで用語を検索すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者の個人ホームページから、授業のプリントをダウンロードすること (URLなどは最初の授業で説明する) 。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教職論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

教職論は、教職課程への導入的性格を持つ科目である。
本授業では、教職という仕事の社会的意義と役割、また、教員に求められる資質や倫理の内容を理解するとともに、本学出身者の若手の教員の体験報告とその後の意見交流を通して、教員という仕事の喜びや困難さを理解し、自らの進路選択を検討するとともに、めざすべき教員像を探究する。
また、教員の職務内容の全体像と教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解するとともに、今日の学校が担うべき役割を実現していくために必要不可欠な教職員や多様な専門職種との連携の在り方について検討する。

なお、この科目は「教職に関する科目」のカリキュラムマップでは、1類 - 1 に該当する科目である。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回の授業で必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田康之・高野和子編 「教職論」 学文社
文科省 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション 本授業の目的と進め方、「教職課程を履修する目的」に関するアンケート
2. 現代社会における教職の意義について
3. 教員に求められる基礎的な資質・能力について(中教審の答申を踏まえて)
4. 今日の教員に求められる役割と職務内容について(外部講師)
5. 教員研修の意義と、教員に課せられる服務上及び身分上の義務と身分保障
6. 教科指導と授業づくり(本学出身の教員の実践報告と意見交流)
7. 生活指導と子ども集団づくり(本学出身の教員の実践報告と意見交流)
8. 現代社会における学校教育の課題 その1 セクシュアルマイノリティの子どもたちと学校教育
9. 現代社会における学校教育の課題 その2 部活動・体罰問題を考える。
10. 現代社会における学校教育の課題 その3 「道徳教育」をめぐる問題を考える。
11. チーム学校と専門職との連携 その1 「特別なニーズ」を持つ子どもへの支援
12. チーム学校と専門職との連携 その2 被虐待状況にある子どもへの支援
13. 若手教員からみた教員の仕事の生きがいと悩み (外部講師 本学出身者の報告と意見交流)
14. 子どもの人権を尊重し、自らのパワーを適切に行使できる教師であるために
15. 全体のまとめ

* 講師の都合などにより、計画が変更になることがある点、了解されたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業内で実施するミニレポート等) 30点、レポート試験70点
なお、欠席した場合には一回につき5点の減点になります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 新聞記事やテレビなどを通して日常的に生じている教育の問題に関心を持ち、自分自身の見解を持つ努力をすること
- ・ 授業での現職教員との出会いを通して、自分自身が理想とする教師像を育てていくこと
- ・ 学校現場でのボランティア体験などを通して、教師としての実践的指導力の獲得に向けての自己教育の課題に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業はすべての回に出席してもらうことを前提にして進めます。
公欠や体調不良などのやむを得ない事情で欠席した場合には授業のレジュメやビデオ補講を受けるなどして、できるだけその内容を補ってください。

教職論【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では多くの学校現場の先生に来ていただいて、教師という仕事の魅力と困難さを語っていただきます。
この半年の授業のなかで皆さん自身がめざすべき「教師像」を育んでもらえることを願っています。

キーワード /Keywords

教職の意義と役割、教員の仕事、理想の教師像

教育原理【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

課題

発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

目標

- ①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

(以下、平成26年度以降入学生)

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODククション：教育とは何か
- 2回 教育の関係：教育のモデル・家族・学校
- 3回 生涯にわたる発達と教育：生涯発達
- 4回 発達段階と発達課題：思春期・青年期
- 5回 教育思想①：諸外国の教育思想
- 6回 教育思想②：日本の教育思想
- 7回 教育史①：西洋の教育史
- 8回 教育史②：日本の教育史
- 9回 学ぶ意欲と教育指導
- 10回 学校教育の機能：基礎集団としての学級
- 11回 学校教育の課題：学校で生じる問題
- 12回 メディアと教育：メディアと子ども・教材・方法
- 13回 国際化と教育：言語・文化
- 14回 仕事と教育：進路形成
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である (Butterworth, 1994)。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著 『発達心理学 周りの世界とかがわりながら人はいかに育つか (いちばんはじめに読む心理学の本 3)』 ミネルヴァ書房 ¥2700

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文部科学省 (2011) 「生徒指導提要」 ¥298

その他、授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 乳児は世界をどのように感じるのか【知覚、認知、言語の発達】
- 第3回 ヒトの発達の特徴とは【発達のメカニズム】
- 第4回 ヒトは他者との関係をどのように築くのか【愛着、共同注意】
- 第5回 イメージと言葉の世界【知能の発達、表象能力】
- 第6回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【心の理論】
- 第7回 自己・他者を理解する【自己概念・自己意識】
- 第8回 学習の過程【学習理論、論理的思考】
- 第9回 友人とのかかわりと社会性の発達【ギャング・エイジ、道徳性】
- 第10回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第11回 他者を通して見る自己【友人関係、問題行動】
- 第12回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第13回 児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
- 第14回 発達障害をもつ児童生徒の心身の発達と学習の過程
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

今回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくる。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度論 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。
なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本原則(1) 教育制度とは
- 2回 教育制度の基本原則(2) 日本の教育法制
- 3回 学校制度の基本的事項(1) 機会均等、義務教育
- 4回 学校制度の基本的事項(2) 中等教育、学校体系
- 5回 学校制度の基本的事項(3) 就学・懲戒
- 6回 教科書に関する制度
- 7回 教員制度の基本的事項(1) 教員免許法制
- 8回 教員制度の基本的事項(2) 教員の指導力、研修
- 9回 教員制度の基本的事項(3) 公務員としての教師、教員の待遇
- 10回 教育行財政の仕組み(1) 中央教育行政、地方教育行政
- 11回 教育行財政の仕組み(2) 教育委員会と学校
- 12回 学校関係者による協力支援の制度
- 13回 地域社会の変容と学校
- 14回 教育制度改革の動向
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育課程論【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

概要

教育課程に関わる概念や学校における教育課程編成・方法、学習指導要領に関する基礎的な知識を習得し、今日の教育課程の課題について学ぶ。

目標

- ①教育課程に関わる基礎的な知識を習得する。
- ②教育課程の課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。

プリント（講義レジュメ及び資料）を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に配布するプリントに提示するものの他、必要に応じ適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 教育課程編成の基本原則
- 第2回 日本の教育課程の変遷
- 第3回 学習指導要領と教育課程編成
- 第4回 学力と教育課程
- 第5回 学校における教育課程編成
- 第6回 「カリキュラム・マネジメント」と学校改善
- 第7回 教育課程の評価
- 第8回 諸外国の教育課程・カリキュラム(1) 東アジアを中心に
- 第9回 諸外国の教育課程・カリキュラム(2) 英語文化圏を中心に
- 第10回 諸外国の教育課程・カリキュラム(3) 欧州を中心に
- 第11回 教育課程の開発
- 第12回 今日の課題と教育課程(1) アクティブラーニング
- 第13回 今日の課題と教育課程(2) 国際移動と教育
- 第14回 今日の課題と教育課程(3) ESD
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法 A 【夜】

担当者名 /Instructor 森 千鶴 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業には、主に二つのねらいがある。まず英語科教育の基本となる理論を学び、知識を修得することを目的とする。次に、主として中学校の学習指導案の書き方を学び、モデル授業を実際に行って理論と実践を結びつけることにより、ある程度の実践力を身につけることを目的とする。中学校との関連において、小学校の外国語活動の理論と現状についてもふれる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

深澤清治（編著）『中等英語教育』協同出版 2014年、2500円
文部科学省 中学校学習指導要領 外国語編 開隆堂 2009年 72円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜プリントを配布する。

なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。

新里真男ほか著、SUNSHINE ENGLISH COURSE 1～3 開隆堂 2012年 310円

松本茂ほか著、ONE WORLD English Course 1～3 教育出版 2012年 310円

高橋貞雄ほか著、"NEW CROWN ENGLISH SERIES New Edition 1～3"三省堂 2012年 310円

笠島準一、関典明ほか著、NEW HORIZON English Course 1～3 東京書籍 2012年 310円

矢田裕士、吉田研作ほか著、TOTAL ENGLISH 1～3 教育出版 2012年 310円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション及び英語教育の目的
2. 英語教育の目的
3. 指導法へのアプローチ【行動主義と認知主義】
4. 指導法へのアプローチ【コミュニケーション能力】
5. Communicative Language Teaching の理念【インフォメーション・ギャップ】
6. Communicative Language Teaching の理念【タスク活動】
7. 中学校の英語科教育および小学校の外国語活動
8. 学習指導案(中学校)の立て方
9. 評価について
10. DVD (師範授業) の視聴【筑波大学附属中学校教諭】
11. モデル授業の準備
12. モデル授業 (中学校) 【1年生】
13. モデル授業 (中学校) 【2年生】
14. モデル授業 (中学校) 【3年生】
15. 復習と試験の準備

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末の定期試験 (70%程度) を中心として、提出物 (15%程度) 及び授業参加度 (15%程度) を考慮に入れ、総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には指定された教科書の範囲を読んでおく。事後には渡されたプリントなどを復習する。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 前もってプリントを配布したり、次回の授業内容に関連する教科書ページを予告をする場合は、予習しておくこと。
- ・ 出欠席は厳密にとる。無断欠席は厳に慎むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法B 【夜】

担当者名 /Instructor 森 千鶴 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業には主に二つのねらいがある。まず英語科教育における発展的な理論や学習指導案の書き方を学び、モデル授業を行うことによって、主として高等学校の英語科教員としての技能を身につける。次に英語科教育の学問的な側面に目を向け、英語で書かれた論文を講読することによって、英語科教育の今日的な課題を深く論考することができるようになることを目指す。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

深澤清治（編著）『中等英語教育』協同出版、2014年、2500円
文部科学省 高等学校学習指導要領 外国語編 英語編 開隆堂 2011年 158円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜プリントを配布する。なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。
松本世子子ほか著、ENGLISH NOW Revised Edition I・ II開隆堂 2012年、630円
NEW WORLD ENGLISH COURSE I・ II 三友社
南村俊夫著、Vivid Reading MEW EDITION第一学習社、2007年、765円
Onstage English Course I・ II池田書店
EXCEED English Series New Edition I・ II 三省堂
田辺正美ほか著、PROMINENCE English I・ II東京書籍、2012年、630円
山本良一ほか著、"MAINSTREAM ENGLISH COURSE Second Edition I・ II" 増進堂 2012年 570円
Minton, T.D. ほか著 Revised POLESTAR English Course I・ II 数研出版 2012年 570円 "Revised Edition SUNSHINE English Course I・ II"開隆堂
田中茂範、武田修一ほか著、"PRO-VISION New Edition ENGLISH COURSE I・ II" 桐原書店 2013年、650円 卯城祐司ほか著、ELEMENT English Course I・ II啓林館 2013年、650円
Voyager English Course NEW EDITION I・ II第一学習社
市川泰男、高橋和久ほか著、"NEW EDITION UNICORN 2012年、630円 ENGLISH COURSE I・ II"文英堂
Genius English Course Revised I・ II大修館書店 霜崎寛ほか著、CROWN English Series New Edition I・ II三省堂 2012年、630円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. コミュニケーション能力および英語科の評価論について
2. 学習指導要領および4技能の統合
3. リーディングの理論と実践 [理論編]
4. リーディングの理論と実践 [発展編]
5. 絶対評価について (高等学校編)
6. 学習指導案 (高等学校) の立て方
7. モデル授業の準備
8. モデル授業 (高等学校) [コミュニケーション英語I]
9. モデル授業 (高等学校) [コミュニケーション英語II]
10. モデル授業 (高等学校) 【コミュニケーション英語II】
11. モデル授業 (高等学校) 【英語表現I】
12. モデル授業 (高等学校) 【英語表現II】
13. モデル授業 (高等学校) 【英語表現II】
14. 日本の英語教育 (小・中・高連携) について
15. 復習と試験の準備

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末の定期試験 (70 %程度) を中心として、提出物 (15 %程度) 及び授業参加度 (15 %程度) を考慮に入れ、総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には指定された教科書のページを読んでおく。事後には渡されたプリント等を用いて復習する。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 前もってプリントを配布したり、次回の授業内容に関連する教科書ページを予告する場合は、予習しておくこと。
- ・ 出欠席は厳密にとる。無断欠席は厳に慎むこと。
- ・ モデル授業の日程は学生と相談した上で決定することになるので、シラバス内容に関しては柔軟に考えていただきたい。

英語科教育法B 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育指導論【夜】

担当者名 /Instructor 田中 友佳子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本授業では、道徳・道徳教育とは何かを問う作業から始め、現在の学校教育における道徳教育の目的と内容について学ぶ。また、いくつかの現代的課題について取り上げ、道徳教育に必要な思考力を鍛える。さらに、「道徳の授業」に関する教材研究を行うとともに、実際に指導する場面を想定して学習指導案の作成などを行うことにより、道徳教育の実践的な指導力の育成をはかる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。適宜、資料を配布しながら授業を進める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション 授業のねらいや計画、注意点の説明
- 第2回：道徳とは何か、なぜ必要か 倫理、哲学、法と道徳との関係性
- 第3回：道徳教育の変遷① 近代学校成立以前、明治期から第二次世界大戦期
- 第4回：道徳教育の変遷② 戦後から「改正教育基本法」まで
- 第5回：「道徳」の特別教科化をめぐる諸問題
- 第6回：道徳教育の目標と各教科・特別活動等における指導内容
- 第7回：道徳教育の現代的課題① 生命倫理をめぐる問題について考える(グループ討論)
- 第8回：道徳教育の現代的課題② 性の多様性について知る(グループ討論)
- 第9回：道徳教育の現代的課題③ 住み良い社会とは何かを考える(グループ討論)
- 第10回：道徳教育の現代的課題④ 「世代間の平等」の問題を考える(グループ討論)
- 第11回：「道徳の時間」の年間指導計画と学習指導案の作成方法
- 第12回：「道徳の時間」の教材研究① 読み物教材に対する批判的検討
- 第13回：「道徳の時間」の教材研究② 問題解決的な学習に対する批判的検討
- 第14回：学習指導案の発表とコメント
- 第15回：全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習指導案40%
コメントシート20%
期末レポート(又は期末試験)40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中、適宜説明を行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業では、グループ討論や教材研究などに積極的に取り組むことが求められます。様々な立場や意見があることを子どもたちに問いかけ共に考える授業ができるように、思考力や指導力を磨いていきましょう。

キーワード /Keywords

特別活動論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

1. 文科省の中学校及び高等学校学習指導要領・特別活動の目標と内容、及び指導計画の作成と内容の取扱いの留意点について理解する。
 2. 学級活動や学校行事を進めていく上で求められる基本的な指導計画、指導案の作成方法を理解する。
 3. 子どものコミュニケーション能力や自治の力を育む学級活動の進め方や指導方法について学習する。
 4. 生徒集団の自治の力を育む学校行事、生徒会活動の進め方について、具体的な実践報告を手がかりにしながら学習する。
- なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

中学校学習指導要領解説 「特別活動編」(平成20年9月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

折出健二編 2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
高旗正人他編 「新しい特別活動指導論」 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 特別活動の教育的意義
- 2回 学級活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章第1節他) 学級活動の実際 中学校
- 3回 学級活動の実際 その2 高等学校
- 4回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その1 対立解決プログラムについて
- 5回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その2 傾聴のスキル、アサーティブネス
- 6回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その3 ウィン・ウィン型の問題解決
- 7回 生徒のコミュニケーションと問題解決能力を育てる学級活動 その4 対立の仲介のロールプレイ発表
- 8回 生徒会活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章2節他)
- 9回 学校行事の目標・内容と指導計画(テキスト第3章3節他) 学校行事の実際 中学校
- 10回 学校行事の実際 - 高等学校
- 11回 学級の荒れを克服し、お互いを大切に作る人間関係を築く学級活動の取り組み
- 12回 困難な課題を抱える生徒の居場所づくりと学級活動の取り組み
- 13回 特別活動の学習指導案の作成方法と模擬授業について
- 14回 指導計画の作成と内容の取扱い(テキスト第4章)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点20点(課題レポートなど) 期末試験 80点
なお、出席回数が全体の2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業の欠席については、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指定するテキストの箇所は事前に予習しておくこと。
実践報告から学んだ点について、自分なりの整理をしておくこと

履修上の注意 /Remarks

受身的な授業への参加では実践的な指導力は養われません。
グループワークなども含めて、積極的な授業参加を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、教師としての実践的指導力の基礎を培うことを目的とした授業です。
そのためにグループワークも多く取り込んでいます。
学級づくり、子ども集団づくりの基本的な課題と方法について、しっかりと学んでもらえたら幸いです。

特別活動論 【夜】

キーワード /Keywords

特別活動の目標・内容、指導計画、指導案の作成、学級づくり、子ども集団づくりの課題と方法

教育方法学【夜】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

近年、課題解決型授業やアクティブラーニングといった確かな学力を求めるための、教育のあり方が議論されている。この授業では、授業の構成要素である「教材・教師・生徒」の視点からそれぞれのあり方を捉えながら、授業理論やICT教育の求められる背景を講義する。そのために、講義形式以外にもグループ活動やペアワークなど実際に作業することで教育方法の理論の一部を体験しながら、教材開発や教材研究を行っていく。

教科書 /Textbooks

新しい時代の教育方法(有斐閣) 2019 田中 耕治(著), 鶴田 清司(著), 橋本 美保(著), 藤村 宣之(著)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で随時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：教育と学習・理論と方法・実践
- 第3回：授業の歴史(欧米)
- 第4回：授業の歴史(日本)
- 第5回：学習の理論・協同的な学び
- 第6回：授業のデザイン・学校・家庭・社会
- 第7回：授業のデザイン・教師・生徒・教材
- 第8回：授業の過程・デザイン-実践-評価
- 第9回：情報機器・メディア活用の授業
- 第10回：「学力」について考える
- 第11回：授業の研究1・学習指導案
- 第12回：授業の研究2・授業記録を読む
- 第13回：教師の専門性・専門職性
- 第14回：教材研究・教材開発
- 第15回：まとめ

定期試験

(2~4回は、教育方法学を支える基礎理論や社会背景を扱い、5~10回まではICT教育や学び、学力について論じる。11~14回は、実践の中でどのように授業を捉えたらよいか、教材や教師の役割などを議論していく。)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度(グループワークや質疑などへの参加)・・・30%
発表・レジュメ作成・・・20%
最終試験・課題レポート・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

人数によって課題の方法は変化するが、テキストについてまとめた資料(レジュメ)を作成してもらう。
また担当でない者も、内容について疑問点や感想などを報告してもらいたいので、事前にテキストを読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育方法学がどのような学問かは、簡単には説明ができません。体験を通して、教育方法学がやってきたことやできることを共に捉えていきましょう

キーワード /Keywords

生徒・進路指導論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと
- ② 教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導における家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること
- ③ 養育環境や発達障害等の何らかの要因による困難を抱える子どもの自立を支援する生徒指導のあり方を学習すること。
- ④ 実際の生徒指導の場面や事例を想定しながら、その場面での対応のあり方を考える力を養うこと。
- ⑤ 思春期・青年期の進路指導、キャリア教育の意義と課題について、今日の若者の就労をめぐる問題状況も含めつつ検討していくこと。また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

文部科学省編 「生徒指導提要」 教育図書
楠凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研 第I部

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
嶋崎政男 「法規+教育で考える 生徒指導ケース100」 ぎょうせい
○文部科学省 中学校キャリア教育の手引き
○見美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店
○キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション + 課題レポートの説明
- 2回 生徒指導の意義と原理(生徒指導提要ト第1章他)、生徒指導と生活指導
- 3回 教育課程と生徒指導(生徒指導提要第2章他) その1 教科教育、「特設道徳の時間」と生徒指導
- 4回 教育課程と生徒指導 その2 学級活動・学校行事と生徒指導
- 5回 生徒指導に関する法制度等(第7章他) その1
- 6回 生徒指導と校則・体罰問題を考える。
- 7回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路指導・キャリア教育
- 8回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取組み
- 9回 今日の若者の労働実態から高校進路指導の課題を考える
- 10回 進路相談のロールプレイ実習
- 11回 ケータイ・インターネット問題と生徒指導
- 12回 性の多様性、セクシュアルマイノリティへの理解と生徒指導
- 13回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その1 少年期
- 14回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その2 思春期
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%
なお、授業の出席が2/3に満たない場合には単位の修得は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点の減点とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

生徒指導提要の該当箇所については事前に読み込んでおくこと

生徒・進路指導論【夜】

履修上の注意 /Remarks

受け身の受講では実践的な指導力を身につけることはできません。能動的な授業参加を期待します。
できるだけ、テキストの、その授業で取り上げるテーマに関するところを読んでおいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は教職課程を履修する学生の必修科目ですが、人間関係学科の学生でスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの援助専門職につきたいと考えている学生にも役立つ授業だと思います。積極的に受講してください。

キーワード /Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、様々な問題を表出する生徒への指導、進路指導

教育相談【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

1. 学校での教育相談の意義と課題、教育相談の領域(予防的・開発的教育相談、問題解決的教育相談)、他の専門職や関係諸機関との連携のあり方等についての基本的な理解を持つこと。
2. 教育相談の基本的な理念と技法(傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など)を修得すること。
3. 不登校やいじめなど、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて、検討していくこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

- 文科省編 「生徒指導提要」
- 楠 凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研 第II部

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 広木克行 「教育相談」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
- 吉田圭吾 教師のための教育相談の技術 金子書房
- 日本学校教育相談学会 学校教育相談学ハンドブック ほんの森出版
- 一丸藤太郎・菅野信夫編著 学校教育相談 ミネルヴァ書房
- 楠 凡之 「いじめと児童虐待の臨床教育学」 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 課題レポートの説明
- 2回 子どもたちの行動の背後にある「声なき声」を聴きとる。
- 3回 子どもの発達課題と教育相談
- 4回 教育相談の基本的な理念について - 受容、共感的理解、感情の明確化、開かれた質問
- 5回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - 直面化
- 7回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ体験
- 8回 子どもの「問題行動」と教育相談 その1 不登校問題
- 9回 子どもの「問題行動」と教育相談 その2 発達障害の問題
- 10回 子どもの「問題行動」と教育相談 その3 薬物問題(外部講師 北九州ダルク施設長)
- 11回 保護者理解と教育相談
- 12回 教育相談における関係諸機関との連携
- 13回 今日のいじめ問題への理解と指導 - 少年期
- 14回 今日のいじめ問題への理解と指導 - 思春期 全体のまとめ
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%

なお、授業の出席が2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- テキストの該当箇所については授業の前に読んで予習しておくこと
- 課題として出されたレポートについては必ず提出すること
- 学習した教育相談のスキルを実際に使用できるように、友人関係その他の中で練習しておくこと

教育相談【夜】

履修上の注意 /Remarks

授業の遅刻、授業中の私語や内職に対しては厳しく指導し、眠っている学生も必ず起こします。
十分な自覚をもって履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業での最も中心的なテーマは、子どもの"view"の理解です。それなしの教育相談、さらに言えば教育実践は成立しないと考えています。この授業を通して、子どもの、さらには保護者の"view"を理解する力を培ってもらえたら幸いです。

キーワード /Keywords

教育相談の理念と技法、 子どもの発達課題と教育相談、 関係諸機関との連携

教育実習 1 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」(実習校実習)に向けての事前指導として、実習校実習に求められる指導能力の獲得に取り組む。
その課題は以下の通りである。

1. 教育実習生としての基本的な心構え、社会的責任の自覚
2. 学習指導に求められる基本的な理論・知識・技術など
3. 生徒指導・学級経営に求められる基本的な理論・知識・技術など

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「III類-3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』(756円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高野和子・岩田康之共編 『教育実習』 学文社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
教育実習及び教員採用に向けての力量形成の課題
- 2回 教育実習生の1日
- 3回 教育実習の体験から学ぶ(中学)
- 4回 教育実習の体験から学ぶ(高校)
- 5回 子どもの問題行動と生徒指導(外部講師の出前講演)
- 6回 特別活動の学習指導案と模擬授業について
- 7回 授業観察の方法と模擬授業の指導案について
- 8回 特別活動の模擬授業 その1
- 9回 特別活動の模擬授業 その2
- 10回 教科の模擬授業 その1
- 11回 教科の模擬授業 その2
- 12回 学級づくりと学級経営案
- 13回 教育相談のロールプレイ
- 14回 学級経営・学級づくりの実際(外部講師の出前講演)
- 15回 全体のまとめと教育実習に向けての課題

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(60%) 学習指導案(特活、教科)などの提出物の評価(40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業での学習内容については必ず教育実習ノートに清書をおこなうこと。
(授業中に実習ノートに記入することは決してしないこと)

模擬授業の前には必ず指導案を作成し、十分な準備をしてから模擬授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業は全出席が原則です。万一、やむを得ない事情で欠席した場合にはすみやかに教職資料室で補講を受け、学習内容を実習ノートに記載すること。

一回でも欠席し、補講を受けてその内容の学習を行っていない場合には、授業の単位が出ないこともあるので十分に留意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は実習校実習の約半年前に行われる授業であり、これまでの教職課程の授業科目や学校現場体験、指導体験を基盤にして、実習校実習に必要な不可欠な実践的指導力の修得をめざす科目です。

皆さんには半年後に迫っている実習校実習に向けて、真摯な態度で授業に臨むことを期待します。

教育実習 1 【夜】

キーワード /Keywords

模擬授業、実践的指導力

教育実習 2 【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード
- 1回 オリエンテーション 【勤務】 【連絡】
 - 2回 中学校における教育実習に関する諸注意(外部講師による講演)
 - 3回 高等学校における教育実習に関する諸注意(外部講師による講演)
 - 4回 教育実習に向けての課題の整理(教科の授業、生徒指導、特別支援教育)
 - 5回 実習校実習② 【教育実習指導】
 - 6回 実習校実習③ 【教育実習指導】
 - 7回 実習校実習④ 【教育実習指導】
 - 8回 実習校実習⑤ 【教育実習指導】
 - 9回 実習校実習⑥ 【教育実習指導】
 - 10回 実習校実習⑦ 【教育実習指導】
 - 11回 実習校実習⑧ 【教育実習指導】
 - 12回 実習校実習⑨ 【教育実習指導】
 - 13回 実習校実習⑩ 【教育実習指導】
 - 14回 実習校実習⑪ 【教育実習指導】
 - 15回 教育実習反省会と教職総合演習に向けての課題

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、教育実習1などの復習と、前回までの指導内容・確認事項をチェックしておく。
事後は、教育実習の反省点と自己教育の課題(学習指導、生徒指導)を教育実習ノートに記載すること。

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 3 【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード
- 1回 オリエンテーション 【勤務】 【連絡】
 - 2回 中学校における教育実習に向けての諸注意(外部講師の講演)
 - 3回 高等学校における教育実習に向けての諸注意(外部講師の講演)
 - 4回 教育実習に向けての課題の整理(学習指導、生徒指導、特別支援教育)
 - 5回 実習校実習② 【教育実習指導】
 - 6回 実習校実習③ 【教育実習指導】
 - 7回 実習校実習④ 【教育実習指導】
 - 8回 実習校実習⑤ 【教育実習指導】
 - 9回 実習校実習⑥ 【教育実習指導】
 - 10回 実習校実習⑦ 【教育実習指導】
 - 11回 実習校実習⑧ 【教育実習指導】
 - 12回 実習校実習⑨ 【教育実習指導】
 - 13回 実習校実習⑩ 【教育実習指導】
 - 14回 実習校実習⑪ 【教育実習指導】
 - 15回 教育実習反省会(実習校実習の反省点の整理と教職実践演習の課題)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、教育実習1や前回までに内容の復習
事後は、扱った内容を教育実習ノートに記載する

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと
教育実習2と同様です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育実習2と同時履修(教育実習の時間数の単位換算のため)。
教育実習3のみ受講の場合は教育実習2で指示が行われることがあるので、教職掲示板や教育実習2の内容を確認するようにしてください。

キーワード /Keywords

教職実践演習 (中・高) 【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

授業のねらい

本授業では、在学中に学んだ教職に関する総合的な知見と教育実習で得られた教科指導等の基礎的指導力をもとに、教職課程履修のプロセスで見えてきた自己の資質能力の現段階の達成度と課題をそれぞれ把握させ、実践的指導力を発揮する教員としての最低限の資質能力についての確認と定着を図る。

授業内容としては、主に、①教員としての使命感、責任感、教育的愛情 ②教師に求められる社会性と対人関係能力、③生徒理解と学級経営、④教科指導、の4つの領域において、自分自身の自己教育の課題を踏まえた学習を進めるとともに、「教員としての最低限の資質」の獲得に向けての各個人で自己教育の課題を設定し、その成果について発表する取り組みを進める。

なお、本授業は「教職に関するカリキュラムマップ」で、Ⅲ類の4 に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

適宜、ワークシート、レジュメ、資料などを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーションとプレゼンテーション方法の説明
- 2回 教師の使命感、責任、教育的愛情に関するグループワーク
- 3回 生徒とのコミュニケーション能力を高めるためのグループワーク
- 4回 教員に求められる対人関係能力に関するグループワーク
- 5回 地域・保護者との連携に関するグループワーク
- 6回 教科の模擬授業 その1 中学校の模擬授業とグループワーク
- 7回 教科の模擬授業 その2 高等学校の模擬授業とグループワーク
- 8回 教科の模擬授業 その3 3つの教科に分かれての模擬授業と講師からのコメント
- 9回 教科の模擬授業 その4 3つの教科に分かれての模擬授業と講師からのコメント
- 10回 学級経営案の報告と検討
- 11回 生徒指導に関するケーススタディ(グループ討論)
- 12回 保護者理解に関するグループワーク
- 13回 学校現場でのフィールドワークの報告 その1(教科教育を中心に)
- 14回 学校現場でのフィールドワークの報告 その2(教科外教育、生徒指導を中心に)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

提出物(教育実践演習ワークシート、学級経営案) 20% 平常点30% 期末レポート 50% で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業内容についてはきっちりとノートにまとめて一冊に綴じ合わせておくこと。
模擬授業やフィールドワークの報告には十分な準備をして臨むこと

履修上の注意 /Remarks

本授業が始まるまでに、自己評価シートを記入し、教員としての最低限の資質を獲得していくうえでの自己教育の課題を明確化しておくこと。
毎回の授業内容については必ず教職実践演習ノートにまとめておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この科目はこれまでの教職課程のすべての学習の総決算と言える科目です。
卒業後に教員への道を歩む人だけでなく、他の進路を選択した人も、教員免許状を取得する社会的責任を自覚して、最後まで真摯な態度で授業に臨んでもらえることを願っています。

教職実践演習 (中・高) 【夜】

キーワード /Keywords

教員としての最低限の資質、自己教育力

教育心理学【夜】

担当者名 山下 智也 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

教育心理学とは、教育活動を効果的に推進するために役立つ心理学的な知見や技術を提供する学問である。

この授業では、まず【学習】分野として、幼児、児童及び生徒の教育場面に関連する学習理論を学ぶことを通して、より効果的な教育活動を展開するための教育心理学の基礎的事項について理解する。次に【発達】分野として、子どもの発達段階について学んだ上で、教育現場での個々人に応じた教育及び発達支援について理解を深める。さらに、知的障害・発達障害のある幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についても学ぶ。また、教育心理学の知見を生かした多様な【教授法】について学ぶとともに、学級集団や子どものパーソナリティ理解、教育評価等の理解を深め、教育現場へと【応用】する術を学ぶ。

授業形態は講義とする。授業内で出される課題についてのグループディスカッション、心理学実験、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを部分的に取り入れる。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

やさしい教育心理学 第4版 鎌原 雅彦(著), 竹網 誠一郎(著) 有斐閣

教育心理学【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：教育心理学が心理学の分野においてどのように発展してきたのか、また教育心理学とは何を目的とした学問なのかについて学ぶ。
- 第2回：【学習①】古典的条件づけやオペラント条件づけ等の基本的な学習理論（経験説）について教育との関係から学ぶ。
- 第3回：【学習②】洞察説やサイン・ゲシュタルト説等の基本的な学習理論（認知説）について教育との関係から学ぶ。
- 第4回：【学習③】学習における動機づけや原因帰属理論について学ぶ。また動機づけを高め、維持するための働きかけ方についても学ぶ。
- 第5回：【学習④】記憶に関する基礎理論（長期記憶、短期記憶、忘却等）を学ぶ。また、学習活動における記憶の役割や記憶の定着を促す学習方法について学ぶ。
- 第6回：【発達①】発達に及ぼす遺伝要因と環境要因の相互作用の影響に焦点を当てる。特に発達における環境要因としての教育が果たす役割について理解する。
- 第7回：【発達②】発達初期における養育者との愛着形成と初期経験の重要性について理解する。また、生涯発達の視点からピアジェの認知発達理論についても学ぶ。
- 第8回：【発達③】生涯発達の視点からエリクソンのライフサイクル論を理解し、特に思春期・青年期に関して、発達段階を踏まえた適切な学習方法について理解を深める。
- 第9回：【発達④】発達障害（自閉症スペクトラムや学習障害、注意欠陥多動性障害等）の特徴について学ぶとともに、発達障害児との関わりについて理解を深める。
- 第10回：【教授法①】発見学習や有意味受容学習等の学習指導法について、その特徴と提唱された理論的背景について学ぶ。
- 第11回：【教授法②】プログラム学習やバズ学習、ジグソー学習等の学習指導法について、その長所と短所を理解し、実践場面での使い分け方について学ぶ。
- 第12回：【応用①】学級集団の諸相を仲間集団の発達の変容や測定方法など仲間関係の側面から学ぶ。また教師のリーダーシップや教師期待効果などの教師の役割についても学ぶ。
- 第13回：【応用②】教育場面での評価の形態（絶対評価、相対評価、個人内評価等）について学び、その特徴を理解する。また子どものパーソナリティ理解についても学びを深める。
- 第14回：【応用③】知能の定義や考え方の歴史の変遷や諸理論について学ぶ。また、知能の測定と知的障害の定義及び特徴について理解する。
- 第15回：【応用④】特別な支援を必要とする子ども（知的障害・発達障害等）への対応・支援や、子どもの不適応問題（いじめ・不登校等）への対応・支援について、教育心理学的観点から学ぶ。

定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

講義でのミニレポート・・・ 30%
最終試験・・・ 70%

（出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回次回の予告を行い、次回までの課題を提示する。
事後学習：学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努めることとする。授業の冒頭で、前回の授業内容についての説明を求められることがある。
（事前・事後学習として週4時間以上行うこと。）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

子どもの発達、子どもの学習、子どもへの関わり方

教育工学【夜】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義は、教員免許を取得するにあたって必要な教育方法・技術、教材と教具、指導方法を学び、授業の実践的指導力の基礎を養うことを目標とする。また近年の著しいICT(情報通信技術)の進展を踏まえ、PCやWebを活用した教材作成の方法・技術の修得の基礎についても概観する。さらに、模擬授業の実施及び評価等を通して、教育の方法と技術の実践的活用能力の基礎を育成し、各教科等の指導に最小限必要な資質について学ぶことを主なねらいとする。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

指定しない。必要な資料を適宜授業で配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校学習指導要領 平成20年3月告示 東山書房 244円
 高等学校学習指導要領 平成21年3月告示 東山書房 588円
 平沢茂編著 教育の方法と技術 図書文化2000円
 小川哲生他著 教育方法の理論と実践 明星大学出版部 1500円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
1. オリエンテーション【本授業の内容・進行・評価方法】
 2. 授業と教育方法【教育方法】
 3. 授業と教育技術【教育技術】
 4. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順【授業設計】
 5. 授業過程の分析と改善【授業過程】
 6. 授業実施の技術【授業技術】
 7. 授業の評価【授業評価】
 8. 教育における情報化社会の影響【情報化社会】
 9. 教育におけるICT(情報通信技術)の活用【ICT】
 10. 学習指導案の作成【学習指導案】
 11. 教材研究【教育メディアとその活用】
 12. 模擬授業【模擬授業】
 13. テストと学習内容の評価【テスト】
 14. 授業実践能力の改善と向上【教育の方法と技術の実践能力】
 15. 現代の教育課題と講義のまとめ【現代の教育課題】

成績評価の方法 /Assessment Method

教材研究課題(20%)、模擬授業(30%)、試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては配付資料の確認が必要である。
 事後学習としては、課題の作成が必要である。

履修上の注意 /Remarks

教材研究、模擬授業等に関する課題の提出は必須の課題となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords